

# 主要地方道成田松尾線XV

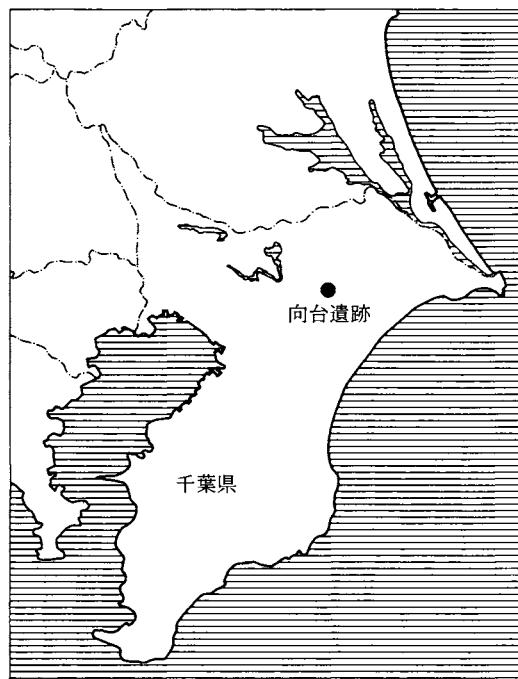
－芝山町向台遺跡－

平成14年3月

千葉県土木部  
財団法人 千葉県文化財センター

# 主要地方道成田松尾線XV

—芝山町向台遺跡—



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告書427集として、千葉県土木部の主要地方道成田松尾線改良事業に伴って実施した山武郡芝山町向台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代の後期から奈良・平安時代にかけての集落や中世の建物跡など当時の人々の生活に関連した遺構遺物が得られるなどこの地域の古墳時代以降の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行にあたり、この報告書が学術資料として、また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成14年3月31日

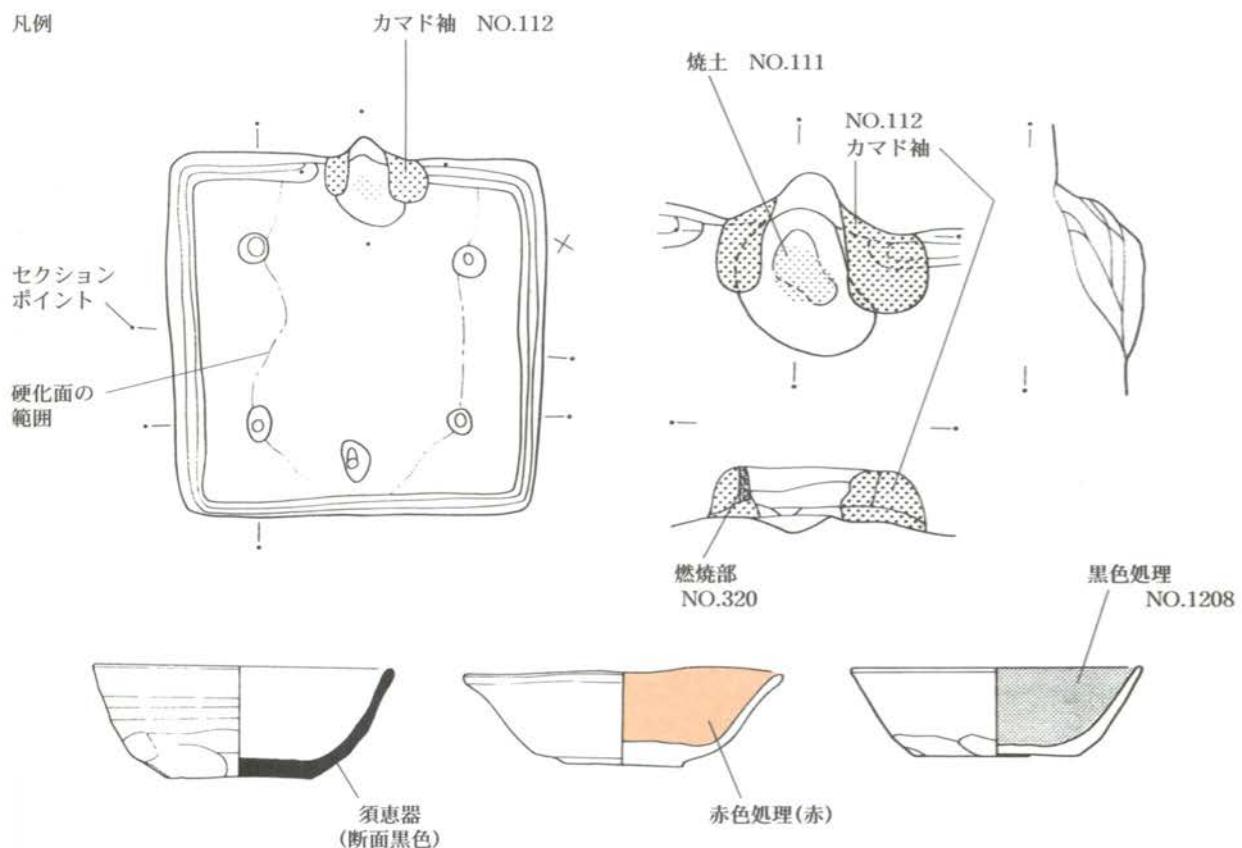
財団法人千葉県文化財センター

理 事 長 清 水 新 次

## 凡　例

- 1 本書は、主要地方道成田松尾線道路改良事業(芝山地区)に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。  
向台遺跡　山武郡芝山町朝倉字向台113-1ほか（遺跡コード 409-032）
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆及び編集については成田調査室長 西口徹が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県土木部ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。  
第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「多古 (NI-54-19-10-2)」  
第2図 芝山町役所発行 1/2,500都市計画図「芝山13」
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による平成12年撮影 (1/10,000) のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 10 挿図に使用したスクリーントーン及び記号は、以下のとおりである。

凡例



# 本文目次

第1章 はじめに	1	(2) 遺構(住居跡)	49
第1節 調査の経過	1	SI-002号	49
第2節 遺跡の位置	2	SI-003号	50
第2章 向台遺跡	6	SI-004号	53
第1節 調査の概要	6	SI-005号	62
第2節 遺構と遺物	7	SI-006号	64
1 旧石器時代	7	SI-007号	66
(1) 概要	7	SI-008号	66
(2) 遺構と遺物	7	SI-009号	68
第1地点	7	SI-010号	71
第2地点	12	SI-011号	74
ブロック外の石器について	22	SI-012号	76
2 繩文時代	29	SI-013号	78
(1) 概要	29	SI-014号	79
(2) 遺構(陥し穴)	29	SI-016号	79
SK-011号	29	SI-017号	81
SK-012号	29	SI-018号	84
SK-020号	29	SI-019号	86
SK-021号	29	SI-020号	88
SK-027号	29	SI-021号	89
(3) 遺物	29	SI-022号	91
縄文土器	29	SI-024号	92
石器	32	SI-025号	93
3 古墳時代	33	SI-026号	95
(1) 概要	33	SI-027号	97
(2) 遺構(住居跡)	33	SI-028号	98
SI-001号	33	SI-029号	100
SI-015号	36	SI-030号	109
SI-023号	37	SI-031号	110
SI-037号	41	SI-032号	114
SI-057号	43	SI-033号	118
4 奈良・平安時代	49	SI-034号	120
(1) 概要	49	SI-035号	125

SI- 036号	127	SX-001号-2(掘立柱建物跡)	200
SI- 038号	127	SX-001号-ピット群	201
SI- 039号	129	SX-002号	202
SI-040号	130	SX-002号-P1(土壙墓)	203
SI-041号	131	SX-002号-P2(土壙墓)	203
SI-042号	132	SX-002号-P3(火葬墓)	203
SI-043号	133	SX-002号-P4(火葬墓)	205
SI-044号	133	SX-002号-P5(竪穴状遺構)	205
SI-045号	137	SX-002号-P6(土壙墓)	205
SI-046号	139	SX-002号-P7(土壙)	205
SI-047号	143	SX-002号-P8(土壙墓)	205
SI-048号	146	SX-002号-P9(土壙)	207
SI-049号	146	SX-002号-P10(土壙)	207
SI-050(a)号	150	SX-002号-P11(竪穴状遺構)	207
SI-050(b)号	152	SX-002号-P12(土壙墓)	207
SI-051号	153	SX-002号-P13(土壙)	207
SI-052号	153	SX-003号	209
SI-053(a)号	157	SX-003号-P1(土壙墓)	209
SI-053(b)号	160	SX-003号-P2(土壙墓)	209
SI-054号	162	SX-004号(地下式壙)	209
SI-055号	164	(4) 遺構(溝状遺構、道路状遺構)	211
SI-056号	165	SD-001号	211
SI-058号	168	SD-002号	211
SI-063号	168	SD-003号	211
(3) 遺構(掘立柱建物跡)	170	SD-004号	211
SI-062(a)号	170	SD-005号	211
SI-062(b)号	170	SD-006号	211
SI-064号	171	SD-007号	213
5 中近世	199	SD-008号	213
(1) 概要	199	SD-009号	213
(2) 遺構(竪穴状遺構)	200	SD-010号	213
SI-059号	200	SD-011号	213
SI-060号	200	SD-012号	213
SI-061号	200	SD-013号	214
(3) 遺構(台地整形区画)	200	SD-014号	214
SX-001号	200	SD-015号	214
SX-001号-1(掘立柱建物跡)	200	SD-016号	214

SD-017号	214	SK-018号	226
SD-018号	218	SK-022号	226
(5) 遺構（井戸状遺構）	218	SK-024号	226
SE-001号	218	SK-013号	226
SE-002号	219	SK-010号（粘土採掘坑）	226
SE-003号	219	SK-014号	226
SK-019号	219	SK-025号	227
(6) 遺構（地下式壙）	219	SK-026号	228
SK-001号	219	6 遺物（遺構出土土器を除く古墳～中近世）	228
SK-008号	219	(1) 金属器（1～24）	228
(7) 遺構（炭窯）	221	(2) 石器、石製品（1～18）	230
SK-003号	221	(3) 錢貨（1～18）	234
SK-004号	221	(4) 土器、陶磁器、土製品	234
SK-005号	221	(5) 墨書き土器、線刻土器	239
SK-006号	222	第3章まとめ	240
(8) 遺構（土壙その他）	222	第1節 旧石器時代	240
SK-009号（馬骨埋葬土壙）	222	第2節 繩文時代	240
SK-015(a)号（再葬人骨を伴う土壙）	222	第3節 古墳時代	240
SK-015(b)号	222	第4節 奈良・平安時代	241
SK-016号	222	第5節 中近世	241
SK-017号	224	抄録	卷末

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図	3	出土状況図	14
第2図 周辺地形図	4	第10図 旧石器時代第2地点出土遺物	
第3図 下層確認グリッド及び本調査範囲図	5	実測図(1)	15
旧石器時代		第11図 旧石器時代第2地点出土遺物	
第4図 旧石器時代第1地点遺物出土状況図	8	実測図(2)	16
第5図 旧石器時代第1地点遺物石材別 出土状況図	9	第12図 旧石器時代第2地点出土遺物	
第6図 旧石器時代第1地点出土遺物 実測図(1)	10	実測図(3)	17
第7図 旧石器時代第1地点出土遺物 実測図(2)	11	第13図 旧石器時代第2地点出土遺物	
第8図 旧石器時代第2地点遺物出土状況図	13	実測図(4)	18
第9図 旧石器時代第2地点遺物石材別		第14図 旧石器時代第2地点出土遺物	
		実測図(5)	19
		第15図 旧石器時代第2地点出土遺物	
		実測図(6)	20

第16図 旧石器時代確認グリッド等出土遺物 実測図	20	第38図 SI-023号出土遺物実測図 2	39
第17図 9D-47~48グリッド出土状況図	21	第39図 SI-037号平面図、セクション図及び エレベーション図	42
第18図 11D-55グリッド出土状況図	21	第40図 SI-037号カマド平面図及び セクション図	42
第19図 10E-94グリッド出土状況図	21	第41図 SI-037号出土遺物実測図	43
第20図 11D-50グリッド出土状況図	21	第42図 SI-057号平面図、セクション図及び エレベーション図	44
第21図 上層遺構配置図	28	第43図 SI-057号カマド平面図及び セクション図	44
縄文時代(遺構-陥し穴)			
第22図 縄文時代SK-011号平面図、セクション図 及び、エレベーション図	30	第44図 SI-057号出土遺物実測図 1	44
第23図 縄文時代SK-012号平面図、セクション図 及び、エレベーション図	30	第45図 SI-057号出土遺物実測図 2	45
第24図 縄文時代SK-020号平面図、セクション図 及び、エレベーション図	30	第46図 SI-057号出土遺物実測図 3	47
第25図 縄文時代SK-021号平面図、セクション図 及び、エレベーション図	30	奈良・平安時代(遺構-住居跡)	
第26図 縄文時代SK-027号平面図、セクション図 及び、エレベーション図	30	第47図 SI-002号平面図(遺物分布含む)及び エレベーション図	49
第27図 縄文時代土器実測図	31	第48図 SI-002号出土遺物実測図	49
第28図 縄文時代石器実測図	31	第49図 SI-003号平面図(遺物分布含む)及び エレベーション図	51
古墳時代(遺構-住居跡)			
第29図 SI-001号平面図(遺物分布含む)、 セクション図及びエレベーション図	34	第50図 SI-003号出土遺物実測図	51
第30図 SI-001号出土遺物実測図	34	第51図 SI-004号平面図及びセクション図	52
第31図 SI-015号平面図(遺物分布含む)、 セクション図及びエレベーション図	35	第52図 SI-004号遺物出土状況図	52
第32図 SI-015号カマド平面図及び セクション図	35	第53図 SI-004号カマド平面図及び セクション図	54
第33図 SI-015号出土遺物実測図 1	35	第54図 SI-004号カマド内遺物出土状況図	54
第34図 SI-015号出土遺物実測図 2	36	第55図 SI-004号出土遺物実測図 1	54
第35図 SI-023号平面図、セクション図及び エレベーション図	38	第56図 SI-004号出土遺物実測図 2	55
第36図 SI-023号カマド平面図及び セクション図	38	第57図 SI-004号出土遺物実測図 3	57
第37図 SI-023号出土遺物実測図 1	38	第58図 SI-004号出土遺物実測図 4	59
		第59図 SI-004号出土遺物実測図 5	61
		第60図 SI-005号平面図(遺物分布含む)及び エレベーション図	63
		第61図 SI-005号出土遺物実測図	63
		第62図 SI-006号平面図及びエレベーション図	64
		第63図 SI-007号平面図及びエレベーション図	64
		第64図 SI-007号カマド平面図及び セクション図	64

第65図 SI-007号出土遺物実測図	65	第94図 SI-021号平面図及びセクション図	90
第66図 SI-008号平面図(遺物分布含む)及び エレベーション図	67	第95図 SI-021号カマド平面図及び セクション図	90
第67図 SI-008号出土遺物実測図	67	第96図 SI-021号出土遺物実測図	90
第68図 SI-009号平面図(遺物分布含む)及び エレベーション図	69	第97図 SI-022号平面図及びセクション図	91
第69図 SI-009号出土遺物実測図 1	69	第98図 SI-022号カマド平面図及び セクション図	91
第70図 SI-009号出土遺物実測図 2	70	第99図 SI-022号出土遺物実測図	91
第71図 SI-010号平面図(遺物分布含む)、 セクション図及びエレベーション図	72	第100図 SI-024号平面図、セクション図及び エレベーション図	92
第72図 SI-010号出土遺物実測図 1	72	第101図 SI-024号出土遺物実測図	92
第73図 SI-010号出土遺物実測図 2	73	第102図 SI-025号平面図及びエレベーション図	93
第74図 SI-011号平面図(遺物分布含む)及び エレベーション図	75	第103図 SI-025号カマド平面図及び セクション図	93
第75図 SI-011号出土遺物実測図	75	第104図 SI-025号出土遺物実測図	93
第76図 SI-012号平面図(遺物分布含む)及び エレベーション図	77	第105図 SI-026号平面図、セクション図及び エレベーション図	94
第77図 SI-012号出土遺物実測図	77	第106図 SI-026号カマド平面図及び セクション図	94
第78図 SI-013号平面図及びエレベーション図	78	第107図 SI-026号出土遺物実測図 1	94
第79図 SI-013号出土遺物実測図	78	第108図 SI-026号出土遺物実測図 2	96
第80図 SI-014号平面図及びエレベーション図	78	第109図 SI-027号平面図、セクション図及び エレベーション図	97
第81図 SI-014号出土遺物実測図	78	第110図 SI-027号出土遺物実測図	97
第82図 SI-016号平面図(炭化物・焼土分布)、 セクション図及びエレベーション図	80	第111図 SI-028号平面図、セクション図及び エレベーション図	99
第83図 SI-016号出土遺物実測図	80	第112図 SI-028号カマド平面図及び セクション図	99
第84図 SI-017号平面図(遺物分布含む)及び セクション図	82	第113図 SI-028号出土遺物実測図 1	99
第85図 SI-017号出土遺物実測図	82	第114図 SI-028号出土遺物実測図 2	100
第86図 SI-018号平面図及びエレベーション図	83	第115図 SI-029号平面図及びセクション図	101
第87図 SI-018号出土遺物実測図 1	83	第116図 SI-029号カマド平面図及び セクション図	101
第88図 SI-018号出土遺物実測図 2	85	第117図 SI-029号出土遺物実測図 1	102
第89図 SI-019号平面図及びエレベーション図	87	第118図 SI-029号出土遺物実測図 2	105
第90図 SI-019号出土遺物実測図 1	87	第119図 SI-029号出土遺物実測図 3	106
第91図 SI-019号出土遺物実測図 2	88	第120図 SI-029号出土遺物実測図 4	107
第92図 SI-020号平面図、セクション図及び エレベーション図	89		
第93図 SI-020号出土遺物実測図	89		

第121図 SI-029号出土遺物実測図5	108	第146図 SI-040号平面図、セクション図及び エレベーション図	130
第122図 SI-030号平面図及びセクション図	110	第147図 SI-040号出土遺物実測図	130
第123図 SI-030号出土遺物実測図	110	第148図 SI-041号平面図、セクション図及び エレベーション図	131
第124図 SI-031号平面図、セクション図及び エレベーション図	112	第149図 SI-041号出土遺物実測図	131
第125図 SI-031号カマド平面図及び セクション図	112	第150図 SI-042号平面図及び エレベーション図	132
第126図 SI-031号出土遺物実測図	113	第151図 SI-043号平面図及び エレベーション図	134
第127図 SI-032号平面図、セクション図及び エレベーション図	115	第152図 SI-043号カマド平面図及び セクション図	134
第128図 SI-032号カマド平面図及び セクション図	115	第153図 SI-043号出土遺物実測図	134
第129図 SI-032号出土遺物実測図1	116	第154図 SI-044号平面図、セクション図及び エレベーション図	135
第130図 SI-032号出土遺物実測図2	117	第155図 SI-044号カマド平面図及び セクション図	135
第131図 SI-033号平面図、セクション図及び エレベーション図	118	第156図 SI-044号出土遺物実測図	136
第132図 SI-033号カマド平面図及び セクション図	118	第157図 SI-045号平面図、セクション図及び エレベーション図	138
第133図 SI-033号出土遺物実測図	119	第158図 SI-045号カマド平面図及び セクション図	138
第134図 SI-034号平面図、セクション図及び エレベーション図	121	第159図 SI-045号出土遺物実測図	138
第135図 SI-034号カマド平面図及び セクション図	121	第160図 SI-046号平面図、セクション図及び エレベーション図	140
第136図 SI-034号出土遺物実測図1	122	第161図 SI-046号カマド平面図及び セクション図	140
第137図 SI-034号出土遺物実測図2	124	第162図 SI-046号出土遺物実測図1	141
第138図 SI-035号平面図及び エレベーション図	126	第163図 SI-046号出土遺物実測図2	142
第139図 SI-035号出土遺物実測図	126	第164図 SI-047号平面図、セクション図及び エレベーション図	144
第140図 SI-036号平面図及び エレベーション図	127	第165図 SI-047号出土遺物実測図	144
第141図 SI-038号平面図及びセクション図	128	第166図 SI-047号カマド平面図及び セクション図	144
第142図 SI-038号カマド平面図及び セクション図	128	第167図 SI-048号平面図、セクション図及び エレベーション図	145
第143図 SI-038号出土遺物実測図	128	第168図 SI-048号カマド平面図及び	
第144図 SI-039号平面図及び エレベーション図	129		
第145図 SI-039号出土遺物実測図	129		

セクション図	145	第191図 SI-054号平面図及びセクション図	161
第169図 SI-048号出土遺物実測図1	145	第192図 SI-054号カマド平面図及び	
第170図 SI-048号出土遺物実測図2	147	セクション図	161
第171図 SI-049号平面図、セクション図及び エレベーション図	148	第193図 SI-054号出土遺物実測図1	161
第172図 SI-049号カマド平面図及び セクション図	148	第194図 SI-054号出土遺物実測図2	162
第173図 SI-049号出土遺物実測図	148	第195図 SI-055号平面図及びセクション図	163
第174図 SI-050(a)号平面図、セクション図及び エレベーション図	149	第196図 SI-055号出土遺物実測図1	163
第175図 SI-050(a)号カマド平面図及び セクション図	149	第197図 SI-055号出土遺物実測図2	164
第176図 SI-050(b)号平面図及び セクション図	149	第198図 SI-056号平面図及びセクション図	166
第177図 SI-050号出土遺物実測図	151	第199図 SI-056号カマド平面図及び セクション図	166
第178図 SI-051号平面図、セクション図及び エレベーション図	154	第200図 SI-056号出土遺物実測図	166
第179図 SI-051号カマド平面図及び セクション図	154	第201図 SI-058号平面図及びセクション図	167
第180図 SI-051号出土遺物実測図	154	第202図 SI-058号カマド平面図及び セクション図	167
第181図 SI-052号平面図、セクション図及び エレベーション図	155	第203図 SI-058号出土遺物実測図	167
第182図 SI-052号カマド平面図及び セクション図	155	第204図 SI-063号平面図、セクション図及び エレベーション図	169
第183図 SI-052号出土遺物実測図1	155	第205図 SI-063号カマド平面図及び セクション図	169
第184図 SI-052号出土遺物実測図2	156	奈良・平安時代(遺構-掘立柱建物跡)	
第185図 SI-053(a)号平面図及び セクション図	157	第206図 SI-062(a)号平面図及び セクション図	170
第186図 SI-053(a)号カマド平面図及び セクション図	157	第207図 SI-062(b)号平面図及び セクション図	170
第187図 SI-053号出土遺物実測図1	158	第208図 SI-064号平面図、セクション図及び エレベーション図	170
第188図 SI-053号出土遺物実測図2	159	中近世(遺構-竪穴状遺構)	
第189図 SI-053(b)号平面図及びセクション図及び SK-023号(SI-053(b)号内貯蔵穴セクション図)	160	第209図 SI-059号平面図及びセクション図	199
第190図 SI-053(b)号カマド平面図及び セクション図	160	第210図 SI-060号平面図、セクション図及び エレベーション図	199
		第211図 SI-060号出土遺物実測図	199
		第212図 SI-061号平面図、セクション図及び エレベーション図	199

中近世(遺構-台地整形区画)	中近世(遺構-井戸状遺構)
第213図 SX-001号(1号建物跡、2号建物跡、 ピット群)平面図 ..... 201	第232図 SE-001号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 217
第214図 SX-001号(1号建物跡、2号建物跡、 ピット群)エレベーション図 ..... 202	第233図 SE-002号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 217
第215図 SX-002号(台地整形区画)内 遺構全景図及びセクション図 ..... 204	第234図 SE-003号平面図及びセクション図 ..... 217
第216図 SX-002号-P 1 平面図、 セクション図及びエレベーション図 ..... 206	第235図 SK-019号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 218
第217図 SX-002号-P 2 平面図、 セクション図及びエレベーション図 ..... 206	中近世(遺構-地下式壙)
第218図 SX-002号-P 3 平面図、 セクション図及びエレベーション図 ..... 206	第236図 SK-001号平面図及びセクション図 ..... 220
第219図 SX-002号-P 4 平面図及び エレベーション図 ..... 206	第237図 SK-008号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 220
第220図 SX-003号(ピット群、墓壙) 平面分布図 ..... 208	中近世(遺構-炭窯)
第221図 SX-003号-P 1 平面図及び エレベーション図 ..... 208	第238図 SK-003号平面図及び エレベーション図 ..... 221
第222図 SX-003号-P 2 平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 208	第239図 SK-004号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 221
第223図 SX-004号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 210	第240図 SK-005号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 221
中近世(遺構-溝状遺構)	第241図 SK-006号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 221
第224図 SD-001、002、004、005、006、010、011号 平面図及びセクション図 ..... 212	中近世(遺構-土坑その他)
第225図 SD-003号平面図 ..... 215	第242図 SK-009号平面図、馬骨出土状況図及び エレベーション図 ..... 223
第226図 SD-003号セクション図 ..... 215	第243図 SK-015号(a)平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 223
第227図 SD-013号平面図 ..... 215	第244図 SK-015号(b)平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 224
第228図 SD-008号平面図及びセクション図 ..... 216	第245図 SK-016号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 224
第229図 SD-014、015、017号平面図及びSD-014、 015号セクション図 ..... 216	第246図 SK-017号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 224
第230図 SD-009号平面図及びセクション図 ..... 216	第247図 SK-018号平面図、セクション図及び エレベーション図 ..... 225
第231図 SD-016号(a) (b) (c)平面図及び セクション図 ..... 216	

第248図 SK-022号平面図、セクション図及び エレベーション図	225	遺物(住居跡出土土器を除く 古墳～中近世)	
第249図 SK-024号平面図、セクション図及び エレベーション図	225	第255図 金属器実測図	229
第250図 SK-013号平面図、セクション図及び エレベーション図	225	第256図 石器・石製品実測図 1	231
第251図 SK-010号平面図及び エレベーション図	225	第257図 石器・石製品実測図 2	232
第252図 SK-014号平面図、セクション図及び エレベーション図	227	第258図 錢貨拓影図	233
第253図 SK-025号平面図、セクション図及び エレベーション図	227	第259図 土器実測図 1	235
第254図 SK-026号平面図、セクション図及び エレベーション図	227	第260図 土器実測図 2	236
		第261図 土製品実測図	236
		第262図 中近世陶磁器等	237
		第263図 墨書き土器(線刻土器含む)	238

## 表 目 次

第1表 旧石器時代第1地点石器観察表	23	第20表 SI-015号出土土器観察表	180
第2表-1 旧石器時代第2地点石器観察表	24	第21表 SI-016号出土土器観察表	180
第2表-2 旧石器時代第2地点石器観察表	26	第22表 SI-017号出土土器観察表	181
第3表 旧石器時代その他石器観察表	27	第23表 SI-018号出土土器観察表 1	181
第4表 SI-001号出土土器観察表	172	第24表 SI-018号出土土器観察表 2	182
第5表 SI-002号出土土器観察表	172	第25表 SI-019号出土土器観察表	182
第6表 SI-003号出土土器観察表	172	第26表 SI-020号出土土器観察表	182
第7表 SI-004号出土土器観察表 1	173	第27表 SI-021号出土土器観察表 1	182
第8表 SI-004号出土土器観察表 2	174	第28表 SI-021号出土土器観察表 2	183
第9表 SI-004号出土土器観察表 3	175	第29表 SI-022号出土土器観察表	183
第10表 SI-004号出土土器観察表 4	176	第30表 SI-023号出土土器観察表	183
第11表 SI-005号出土土器観察表	176	第31表 SI-024号出土土器観察表	184
第12表 SI-007号出土土器観察表	176	第32表 SI-025号出土土器観察表	184
第13表 SI-008号出土土器観察表	177	第33表 SI-026号出土土器観察表	184
第14表 SI-009号出土土器観察表	177	第34表 SI-027号出土土器観察表	185
第15表 SI-010号出土土器観察表	178	第35表 SI-028号出土土器観察表	185
第16表 SI-011号出土土器観察表	179	第36表 SI-029号出土土器観察表 1	185
第17表 SI-012号出土土器観察表	179	第37表 SI-029号出土土器観察表 2	186
第18表 SI-013号出土土器観察表	179	第38表 SI-029号出土土器観察表 3	187
第19表 SI-014号出土土器観察表	179	第39表 SI-030号出土土器観察表	187

第40表	SI-031号出土土器観察表 1	187	第57表	SI-046号出土土器観察表 2	193
第41表	SI-031号出土土器観察表 2	188	第58表	SI-047号出土土器観察表	193
第42表	SI-032号出土土器観察表	188	第59表	SI-048号出土土器観察表	193
第43表	SI-033号出土土器観察表	189	第60表	SI-049号出土土器観察表	194
第44表	SI-034号出土土器観察表 1	189	第61表	SI-050号出土土器観察表 1	194
第45表	SI-034号出土土器観察表 2	190	第62表	SI-050号出土土器観察表 2	195
第46表	SI-035号出土土器観察表	190	第63表	SI-051号出土土器観察表	195
第47表	SI-037号出土土器観察表	190	第64表	SI-052号出土土器観察表	195
第48表	SI-038号出土土器観察表	191	第65表	SI-053号出土土器観察表	196
第49表	SI-039号出土土器観察表	191	第66表	SI-054号出土土器観察表 1	196
第50表	SI-040号出土土器観察表	191	第67表	SI-054号出土土器観察表 2	197
第51表	SI-041号出土土器観察表	191	第68表	SI-055号出土土器観察表	197
第52表	SI-043号出土土器観察表	191	第69表	SI-056号出土土器観察表	197
第53表	SI-044号出土土器観察表 1	191	第70表	SI-057号出土土器観察表 1	197
第54表	SI-044号出土土器観察表 2	192	第71表	SI-057号出土土器観察表 2	198
第55表	SI-045号出土土器観察表	192	第72表	SI-058号出土土器観察表	198
第56表	SI-046号出土土器観察表 1	192			

## 図 版 目 次

- |      |   |  |
|------|---|--|
| 図版 1 | 向台遺跡と周辺の地形  | 景(右中)、SI-013号、SI-019号全景(左下)、<br>SI-020号全景(右下)  |
| 図版 2 | 向台遺跡(南から)-上、向台遺跡(北から)   |  |
| 図版 3 | 10E-94グリッド土層-左上、旧石器時代第<br>1地点(西から)-右上、旧石器時代第2地点<br>(東 から)-左下、旧石器時代第2地点(北<br>から)                         | SI-021号全景(左上)、SI-021号カマド全景<br>(右上)、SI-022号全景(左中)、SI-022号カ<br>マド全景(右中)、SI-023号全景(左下)、SI-<br>023号カマド全景(右下)       |
| 図版 4 | SI-001号全景(左上)、SI-002号全景(右上)、<br>SI-003号全景(左中)、SI-004号全景(右中)、<br>SI-007号全景(左下)、SI-007号カマド全景<br>(右下)      | SI-023号、SI-058号全景(左上)、SI-023号<br>遺物出土状況(右上)、SI-024号全景(左中)、<br>SI-027号全景(右中)、SI-025号全景(左下)、<br>SI-025号カマド全景(右下) |
| 図版 5 | SI-005号全景(左上)、SI-010号全景(右上)、<br>SI-012号全景(左中)、SI-013号全景(右中)、<br>SI-013号全掘(左下)、SI-011号、SI-014号<br>全景(右下) | SI-026号全景(左上)、SI-026号カマド全景<br>(右上)、SI-027号、SI-029号全景(左中)、<br>SI-029号全景(右中)、SI-031号全景(左下)、<br>SI-031号カマド全景(右下)  |
| 図版 6 | SI-015号全景(左上)、SI-015号カマド全景<br>(右上)、SI-016号全景(左中)、SI-017号全   | SI-030号全景(左上)、SI-033号カマド全景<br>(右上)、SI-033号、SI-034号全景(左中)、  |

	SI-034号カマド全景(右中)、SI-032号全景(左下)、SI-032号カマド全景(右下)	図版20	況(左下)、SK-022号全景(右下)
図版11	SI-035号全景(左上)、SI-035号、SI-036号全景(右上)、SI-037号全景(左中)、SI-037号カマド全景(右中)、SI-038号全景(左下)、SI-038号カマド全景(右下)	図版21	SX-001号全景(左上)、SD-003号、SI-004号全景(右上)、SX-003号全景(左中)、SX-003号全景(右中)、SX-002号全景(左下)、SX-004号全景(右下)
図版12	SI-040号全景(左上)、SI-040号全掘(右上)、SI-041号全景(左中)、SI-042号全景(右中)、SI-043号全景(左下)、SI-043号カマド全景(右下)	図版22	旧石器時代第1地点出土遺物
図版13	SI-044号全景(左上)、SI-044号カマド全景(右上)、SI-045号全景(左中)、SI-046号全景(右中)、SI-046号全景(左下)、SI-047号カマド全景(右下)	図版23	旧石器時代第2地点出土遺物1
図版14	SI-049号全景(左上)、SI-049号カマド全景(右上)、SI-050号全景(左中)、SI-050号カマド全景(右中)、SI-050号(b)全景(左下)、SI-055号、SI-010号全景(右下)	図版24	旧石器時代第2地点出土遺物2
図版15	SI-051号全景(左上)、SI-051号カマド全景(右上)、SI-053号全景(左中)、SI-053号カマド内出土遺物(右中)、SI-053号全景(左下)、SI-054号カマド付近出土遺物(右下)	図版25	旧石器時代確認グリッド等出土遺物(中)、縄文時代石器(左下)、縄文時代土器(右下)
図版16	SI-056号全景(左上)、SI-057号遺物出土状況(右上)、SI-057号全景(左中)、SI-057号カマド全景(右中)、SI-058号カマド内出土遺物(左下)、SI-023号、SI-058号カマド全景(右下)	図版26	SI-001号出土遺物
図版17	SI-062号全景(左上)、SI-064号全景(右上)、SI-063号全景(左中)、SI-063号カマド景(右中)、SK-001号全景(左下)、SK-008号全景(右下)	図版27	SI-002号、SI-003号出土遺物
図版18	SK-011号全景(左上)、SK-012号全景(右上)、SK-020号全景(左中)、SK-021号全景(右中)、SK-024号全景(左下)、SK-025号全景(右下)	図版28	SI-004号出土遺物
図版19	SK-009号全景(左上)、SK-009号馬骨出土状況(右上)、SK-053号、SK-014号全景(左中)、SK-019号全景(右中)、SK-022号遺物出土状	図版29	SI-005号出土遺物
		図版30	SI-004号出土遺物
		図版31	SI-004号出土遺物
		図版32	SI-004号出土遺物
		図版33	SI-004号出土遺物
		図版34	SI-004号出土遺物
		図版35	SI-004号、SI-005号出土遺物
		図版36	SI-007号出土遺物
		図版37	SI-008号、SI-009号出土遺物
		図版38	SI-009号出土遺物
		図版39	SI-009号、SI-010号出土遺物
		図版40	SI-010号出土遺物
		図版41	SI-011号出土遺物
		図版42	SI-012号～SI-014号出土遺物
		図版43	SI-015号出土遺物
		図版44	SI-015号、SI-016号出土遺物
		図版45	SI-017号出土遺物
		図版46	SI-017号、SI-018号出土遺物
		図版47	SI-018号出土遺物
		図版48	SI-019号出土遺物
		図版49	SI-020号～SI-022号出土遺物
		図版50	SI-023号出土遺物

- 図版51 SI-023号、SI-024号出土遺物  
図版52 SI-025号、SI-026号出土遺物  
図版53 SI-026号出土遺物  
図版54 SI-027号、SI-028号出土遺物  
図版55 SI-029号出土遺物  
図版56 SI-029号出土遺物  
図版57 SI-029号出土遺物  
図版58 SI-029号、SI-030号出土遺物  
図版59 SI-030、SI-031号出土遺物  
図版60 SI-031号出土遺物  
図版61 SI-032号出土遺物  
図版62 SI-032号出土遺物  
図版63 SI-033号、SI-034号出土遺物  
図版64 SI-034号出土遺物  
図版65 SI-034号出土遺物  
図版66 SI-037、SI-038号出土遺物  
図版67 SI-035号出土遺物  
図版68 SI-039～SI-041号、SI-043号出土遺物  
図版69 SI-044号出土遺物  
図版70 SI-045号、SI-046号出土遺物  
図版71 SI-046号出土遺物  
図版72 SI-046号出土遺物  
図版73 SI-047号、SI-048号出土遺物  
図版74 SI-049号出土遺物  
図版75 SI-050号出土遺物  
図版76 SI-050号出土遺物  
図版77 SI-052号出土遺物  
図版78 SI-053号出土遺物  
図版79 SI-053号出土遺物  
図版80 SI-054号、SI-055号出土遺物  
図版81 SI-055号、SI-056号出土遺物  
図版82 SI-057号出土遺物  
図版83 SI-057号出土遺物  
図版84 SI-057号、SI-058号出土遺物  
図版85 金属器 1  
図版86 金属器 2  
図版87 石器・石製品  
図版88 土器（住居跡以外）  
図版89 中近世陶磁器等  
図版90 墨書き土器 1  
図版91 墨書き土器 2  
図版92 墨書き土器 3

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の経過

主要地方道成田松尾線は、新東京新国際空港開設に伴う交通量の増大に対処するため、空港南側の山武郡芝山町大里と九十九里浜沿岸とを結ぶ道路改良事業である。工事にあたり事業区域内に所在する埋蔵文化財の有無と取り扱いについて、千葉県教育委員会に照会した結果、当該事業地内には埋蔵文化財が所在することが判明した。その取扱いについて関係諸機関と協議した結果、事業計画の変更は困難なため記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが昭和52年12月より、発掘調査を実施し、報告書を刊行している。<sup>1)</sup>

本書で報告する遺跡は、芝山町向台遺跡である。谷を隔てて北側の台地上に洞谷台遺跡、南側に沖ノ台I、II遺跡などが存在する。

平成8年度

発掘調査 向台遺跡（6月17日～12月26日まで）上下層確認本調査

東部調査事務所長 石田廣美 主任技師 荒木清一 技師 大内千年

平成9年度

整理作業 向台遺跡（9月1日～9月30日／1月1日～3月31日まで）水洗・注記、記録整理、分類・選別

東部調査事務所長 石田廣美 主任技師 荒木清一 技師 渡邊昭宏

平成10年度

整理作業 向台遺跡（4月1日～6月30日／8月1日～8月15日まで）実測の一部

東部調査事務所長 三浦和信 成田調査室長 香取正彦 主任技師 石塚 浩

平成12年度

整理作業 向台遺跡（10月1日～3月31日まで）実測の一部、挿図・図面作成、原稿執筆・編集の一部  
まで

東部調査事務所長 折原 繁 成田調査室長 西口 徹 研究員 豊田秀治

平成13年度

整理作業 向台遺跡（7月1日～8月31日まで）編集の一部～報告書刊行まで

東部調査事務所長 折原 繁 成田調査室長 西口 徹

## 第2節 遺跡の位置（第1図）

向台遺跡は、山武郡芝山町朝倉字向台113-1ほかに所在する（第1、2図）。その立地は、現在新東京国際空港が建設されている、成田市と芝山町の市境周辺を水源として南流する高谷川と、成田市の三里塚周辺を水源として南流する木戸川に挟まれた、南北に細長い台地上に位置する。台地内に刻まれた支谷は東流して高谷川に注ぐことが多く、西側の木戸川に至ることは少ない。本遺跡も木戸川との直線距離は700m程であるが、その水系は、台地を長々と刻み込んで約2.5km離れた高谷川に属している。この高谷川と横芝町栗山橋で合流する栗山川の周辺は、縄文時代の丸木舟出土例が多いことで知られており、古くから九十九里の太平洋岸と盛んに交通が行われていた様子が伺える。

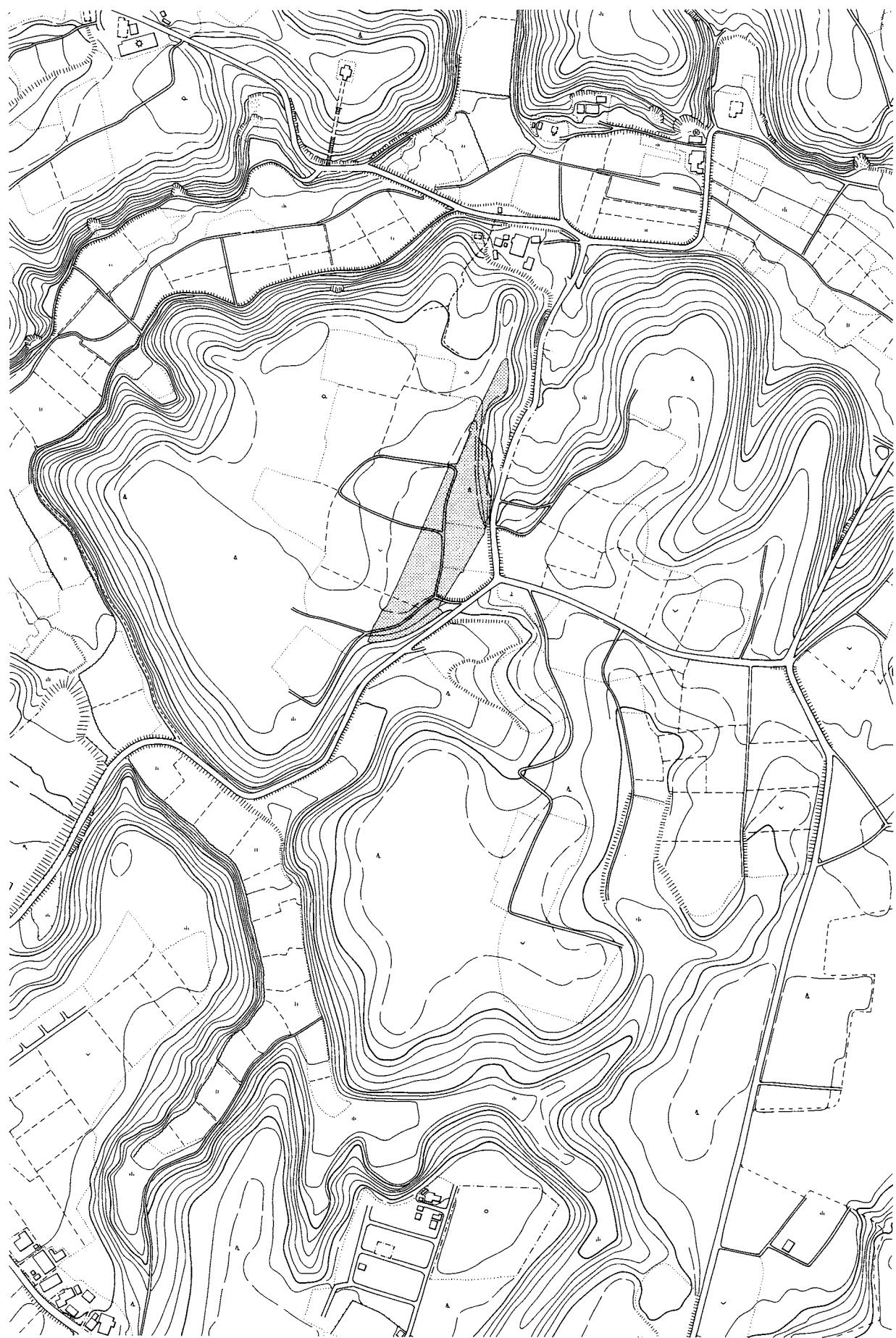
注1 以下の14冊の報告書が刊行されている。

- 萬崎博昭ほか 昭和58年 『主要地方道成田松尾線I 小池麻生遺跡 小池向台遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 高橋賢一ほか 昭和60年 『主要地方道成田松尾線II 小池新林遺跡 小池地蔵遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 萬崎博昭ほか 昭和61年 『主要地方道成田松尾線III 鯉ヶ窪遺跡 中台柿谷遺跡 遠山天之作遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 伊藤 智樹ほか 昭和61年 『主要地方道成田松尾線IV 小池元高田遺跡 柳谷遺跡 上宿遺跡 井森戸遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 宮 重行ほか 昭和62年 『主要地方道成田松尾線V 中台貝塚・松尾東雲遺跡・八田太田台遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 渡邊高弘ほか 平成3年 『主要地方道成田松尾線VI 芝山町小池地蔵II遺跡 宮門遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 渡邊高弘ほか 平成4年 『主要地方道松尾線VII 芝山町御田台 小池新林遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 石塚 浩 平成10年 『主要地方道成田松尾線VIII 松尾町名城遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 香取正彦ほか 平成10年 『主要地方道成田松尾線IX 大台西藤ヶ作遺跡 大堀切遺跡 洞谷台遺跡深田台遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 石倉亮治ほか 平成11年 『主要地方道成田松尾線X 芝山町浅間台遺跡』 勝千葉県文化財センター
- 石倉亮治ほか 平成11年 『主要地方道成田松尾線XI 芝山町山田宝馬古墳群』 勝千葉県文化財センター
- 西口 徹 平成12年度 『主要地方道成田松尾線XII 芝山町新山遺跡43-9地点・宝馬遺跡1709-37地点』 勝千葉県文化財センター
- 遠藤治雄 平成13年度 『主要地方道成田松尾線XIII 芝山町新山遺跡43-10地点・宝馬遺跡93-204地点・出口 向遺跡210地点』 勝千葉県文化財センター
- 西口 徹ほか 平成13年度 『主要地方道成田松尾線XIV 芝山町沖ノ台I遺跡・沖ノ台II遺跡』 勝千葉県文化財センター

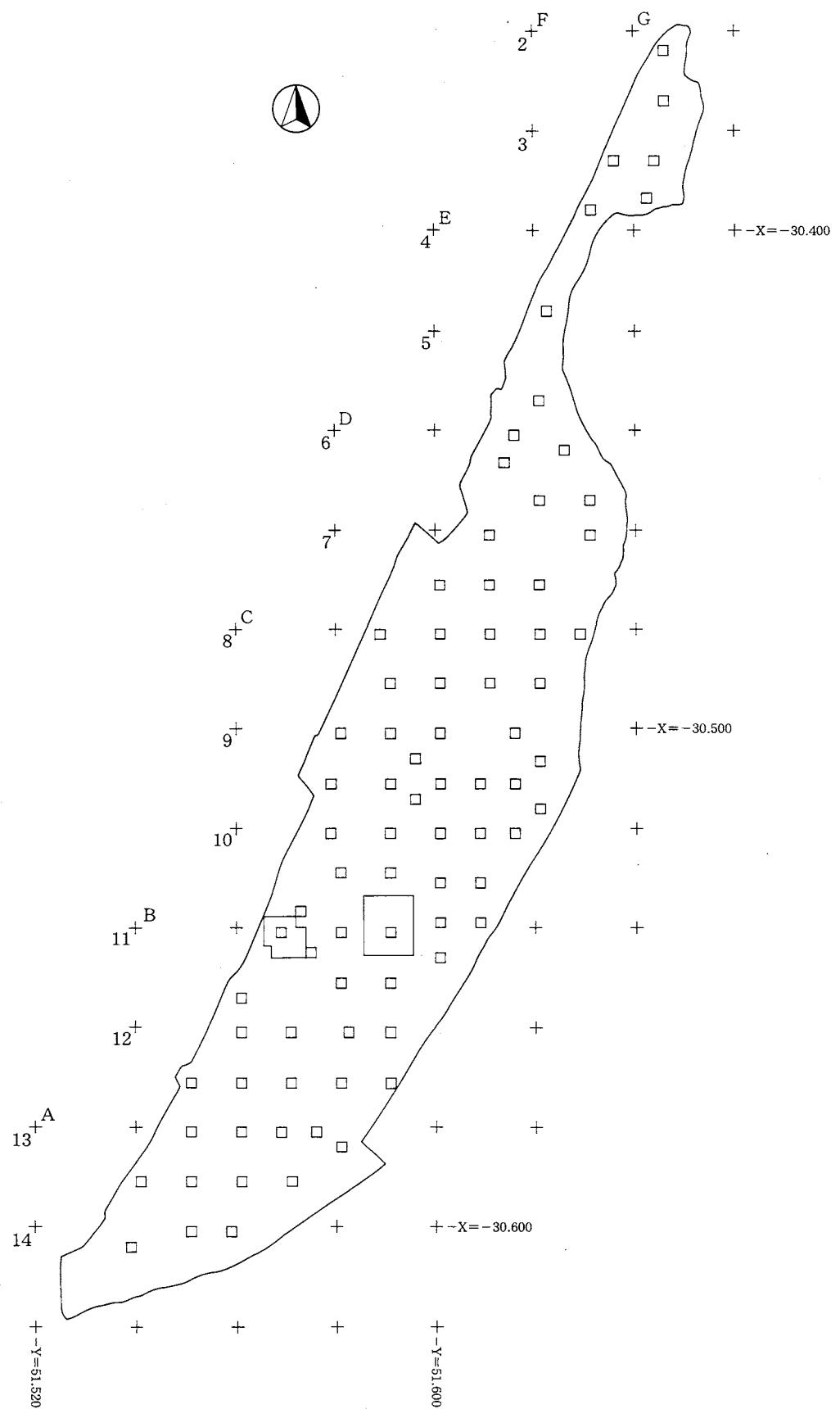


第1図 遺跡位置図

1:25,000 多古



第2図 周辺地形図



第3図 下層確認グリット及び本調査範囲図 (Scale 1/1,200)

## 第2章 向台遺跡

### 第1節 調査の概要

向台遺跡は山武郡芝山町朝倉字向台133-1ほかに所在し、栗山川の支流高谷川の支谷によって開析された標高40mの台地上に位置する。隣接した遺跡の調査例として、桐谷台遺跡、深田台遺跡がある。また少し離れて南側の台地上には沖ノ台Ⅰ遺跡、沖ノ台Ⅱ遺跡がある。

桐谷台遺跡では縄文時代、古墳時代後期及び中近世の遺構、遺物が検出されている。特に古墳時代後期では竪穴住居跡が4軒検出され集落が形成されている。また、中近世の掘立柱建物跡や地下式壙、土坑などは向台遺跡でも検出されており関連性が注目される。

沖ノ台Ⅰ遺跡や沖ノ台Ⅱ遺跡では古墳時代後期以降の製鉄関連の遺構が検出されており、向台遺跡の古墳時代後期～奈良・平安時代にかけての集落との関わりがうかがわれる。

今回の発掘調査は道路建設に伴う調査で、調査区は、遺跡の東端部やや支谷の最深部分に近い斜面部分と接している。対象面積は8,800m<sup>2</sup>で、調査を始めるに当たり、調査区の全体を含むように公共座標に合わせて、20m×20mの大グリッドを設定した。さらにその大グリッド内を2m×2mに分割し、100個の小グリッドとした。大グリッドは、西から東へA、B、C・・・、北から南へ1、2、3、・・・と記号を付け、小グリッドについては北西隅を起点に00～99と番号を付け、これらを組み合わせて呼称している。

調査は平成8年6月17日から同年12月26日まで実施した。調査は対象面積の10%の上層確認調査の結果、本調査8,300m<sup>2</sup>を行うこととなった。本調査の結果、縄文時代の陥し穴5基、古墳時代住居跡5軒、奈良平安時代住居跡54軒、掘立柱建物跡2棟、中世竪穴状遺構5軒、火葬墓2基、井戸状遺構4基、地下式壙3基、掘立柱建物跡2棟、台地整形区画1カ所、中近世以降の炭窯4基、溝17条、土坑23基等が検出された。

また引き続いて対象面積の4%の下層確認調査が行われ、それに基づき2ヶ所183m<sup>2</sup>の下層本調査が行われた。その結果、立川ロームIV層～V層に相当する文化層から合計164点のナイフ形石器を含む石器群が出土した。

## 第2節 遺構と遺物

### 1 旧石器時代

#### (1) 概要（第3図）

旧石器時代は2地点で本調査が行われ、合計164点の石器類が検出された。また、確認調査時にはこの他に数ヶ所での単独出土の礫片等が検出されている。遺物集中地点は、台地縁辺部に位置し、調査区の中程から、2ヶ所検出された。

両者には接合関係はみられず、約20mもの距離の隔たりもあるが、石器群の内容から同一時期の所産と考えられる。帰属時期はIV下～VI層段階であろう。個体別分類の結果石器は、珪質凝灰岩1種類、安山岩A2種類、安山岩B1種類、メノウ1種類、ホルンフェルス1種類、石英1種類に分類された。また礫についても接合関係等から可能な限り分類をし、個体識別をおこなった。

珪質凝灰岩(1)は、黄色味がかった乳白色の風化面を持つものを基本として、灰色を帯びるガラス質の強いものまで様々なものを含む。当初珪質頁岩として分類したものもあったが、接合関係等から判断して同一母岩として分類することにした。安山岩(A1)は風化面が濃緑色で、断面が黒色不透明なものでいわゆるガラス質黒色安山岩である。安山岩(A2)はガラス質黒色安山岩のうち風化面が全体に白っぽく変化した一群が見られたので区別した。また、安山岩(B1)はいわゆる通称トロトロ石と呼ばれるもので、風化面は黄色味が強く、断面は灰色を帯びるものを見られた。メノウは黄色味が強くガラス質に富み、割れ方が貝殻状断口を示すものが見られる。ホルンフェルスは風化面が淡灰色で、断面は濃灰色を示すものが見られる。石英は白色で不透明なものが見られる。礫については石質及び焼けているもの等で区別し、○番号を石質の後に付した。焼けたものについては焼けと表記した。

#### (2) 遺構・遺物

第1地点（第4～5図、第6図1～12、写真図版3、22、第1表）

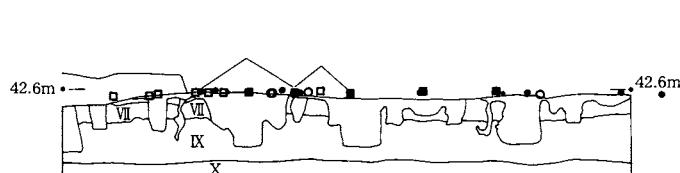
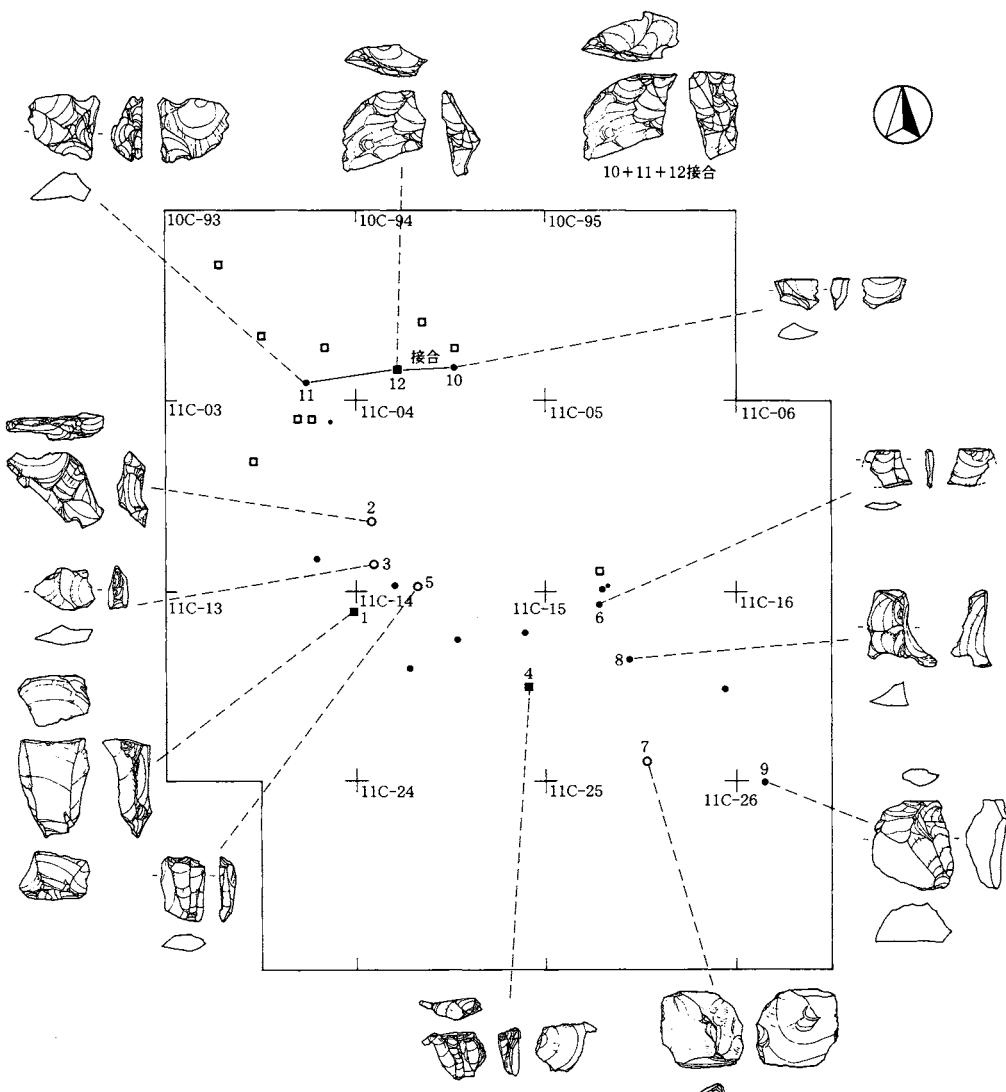
**分 布** 石器は、10C-93～11C-04にかけての北側の一群及び11C-14～11C-15にかけての南側の一群に緩やかにまとまる。垂直分布は、ほとんどの遺物は攪乱土層から出土と記載されているため定かではないが、平面的には原位置よりそれほど移動はないものと思われる。石材等も第2地点のものと似たもので構成されるため、IV層～V層を主体とする石器群である可能性は高い。平面分布は、東西約6m、南北約6mの範囲で南北方向に分布している。

**石 材** 石器については、珪質凝灰岩(1)15点、安山岩(A1)4点、安山岩(A2)4点、安山岩(B1)1点で、礫については珪質頁岩2点、チャート2点、砂岩4点、メノウ2点、頁岩1点で構成されている。なお礫、礫片については個体別に識別した結果、同一個体はなかった。また、石材分布では北側の集中部分には礫及び礫片がやや偏って分布している。南側は、まばらに分布してまとまりはないが、3種類の石材が混在する。

**器 種** R・剥片（いわゆる加工された剝片）4点、石核2点、剥片14点、碎片4点、礫11点の合計35点出土している。

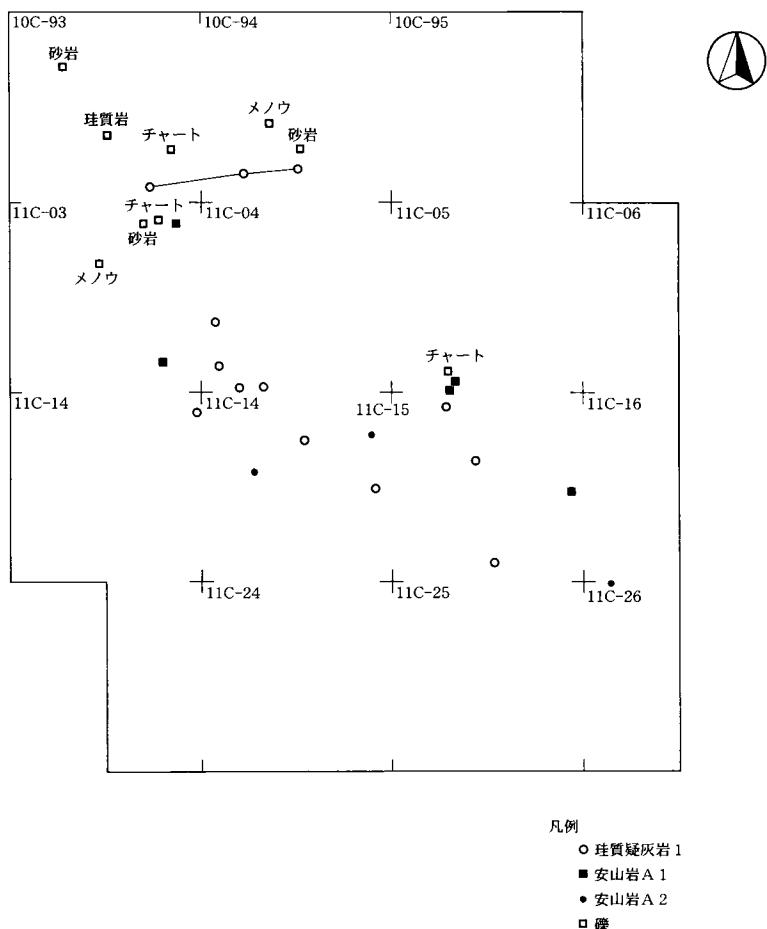
石核（第6図1）1は珪質凝灰岩(1)（風化面が乳白色から黄土色を呈するもの）の石核で、上下両端に打撃面を形成した後、上下両方より縦長剥片を剥離していたものと思われる。なお、右側側縁部分には調整のための小剥離が残されている。

R・剥片（第6、7図2、3、7、11）2は珪質凝灰岩(1)のR・剥片である。厚みのある珪質凝灰岩の



第4図 旧石器時代第1地点遺物出土状況図 (Scale 1/80)

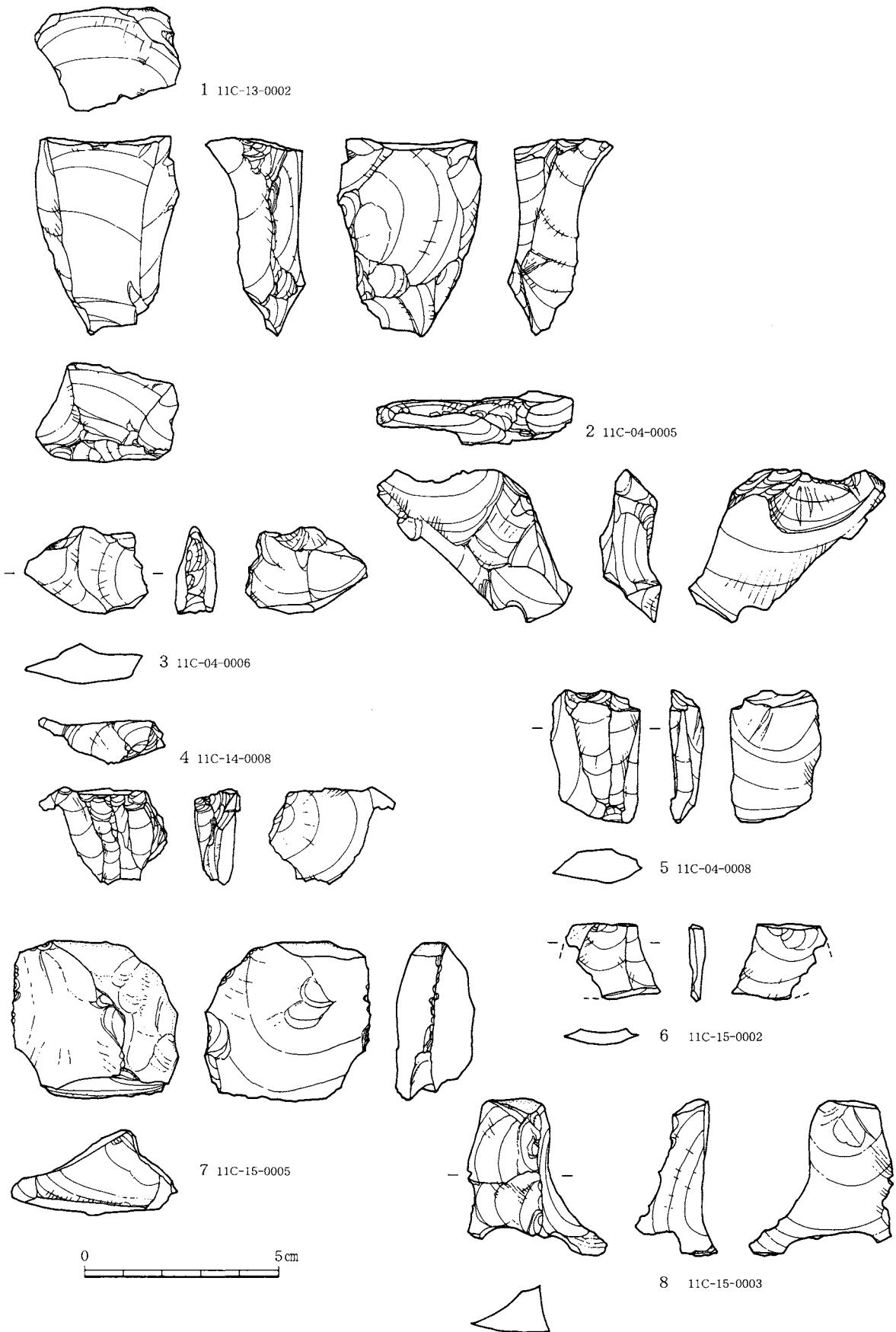
縦長剥片の頭部に細かな調整を施している。左側縁部分は節理面を有する。3は珪質凝灰岩(1)のR・剥片である。2と比較してやや凝灰岩質の強い石材である。右側面から頭部にかけて比較的大きな剥離で調整されている。7は珪質凝灰岩(1)のR・剥片である。非常に厚みのある剥片で背面は右半分が礫面で覆われている。左側側縁部分に比較的細かな調整が見られる。先端部分は折れている可能性が考えられる。11は安山岩(A1)のR・剥片である。背面はかなり礫面を残す。数回の小剥離痕が認められるため直前まで剥片剥離を行っていたものであろう。先端部分に調整痕が認められる。



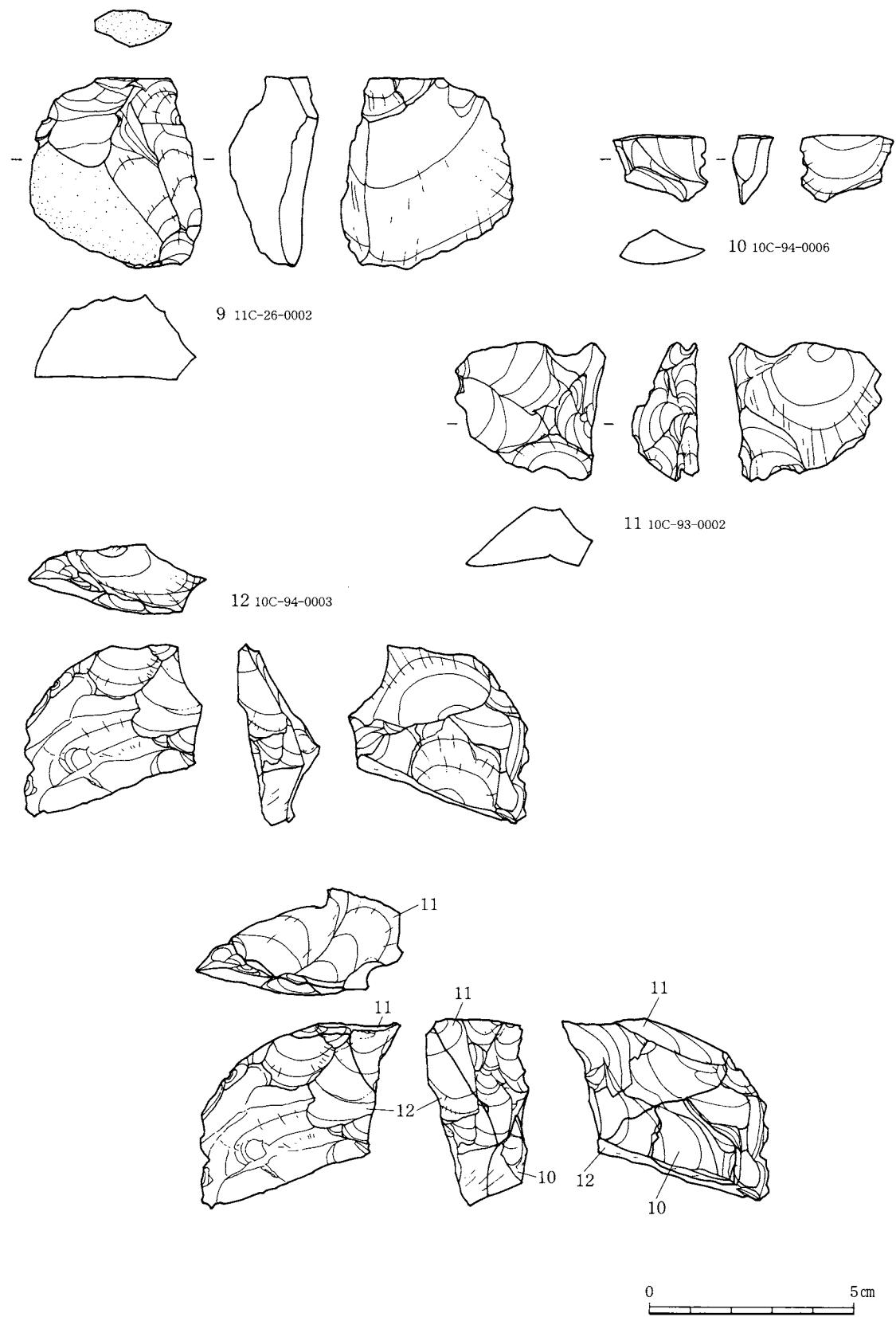
第5図 旧石器時代第1地点遺物石材別出土状況図 (Scale 1/80)

剥片（第6、7図4～6、8、9）4は珪質凝灰岩(1)の剥片である。この石材の中ではややガラス質の強い灰色がかった部分である。背面には右方向から数条の細長い剥離痕が残っており、小石刃状の剥片を剥離していたと思われる。5は珪質凝灰岩(1)の剥片である。4と比較するとやや凝灰岩質の強い石材である。背面には主剥離面と同方向からの剥離が4面残っている。大きさは比較的小振りではあるが、刃器状の剥片と思われる。6は珪質凝灰岩(1)の剥片で片側が欠損している。縁辺は鋭くそのままでも刃器として使用可能と思われるが、石器の素材剥片とも考えられる。8は珪質凝灰岩(1)の剥片である。背部に右方向からの2面の剥離を持つ縦長の剥片である。打面は礫面である。9は安山岩(A1)の剥片である。打面は礫面である。背面は多方向からの剥離面と礫面とで構成されている。やや厚みのある剥片で剥片よりやや大きめの楕円礫から剥離された剥片であろうと思われる。

接合資料（第7図10～12）10～12は珪質凝灰岩(1)の接合資料である。10は小剥片、11は先端部分に細かな調整のあるR・剥片である。12は大形の剥片を再利用した石核である。節理面の残る剥片で一部珪化が進んでいるものの全体に質はよくない。発掘区の北側部分で接合する。



第6図 旧石器時代第1地点出土遺物実測図（1）



第7図 旧石器時代第1地点出土遺物実測図（2）

## 第2地点（第8、9図、第10～15図1～38、写真図版23～25、第2表）

**分 布** 石器は、10D-94～10D-95にかけて集中する北側部分と11D-15を中心とする南側部分にまとまって分布する。ほとんどの遺物はIV層～V層にかけて出土している。VII層まで及ぶものも数点あるものの、ほぼ第1地点と同様にIV下層～V層を主体とする石器群であると思われる。各々4m程の範囲で北と南の2群に集中範囲が分かれる。

**石 材** 珪質凝灰岩(1)33点、安山岩(A1)40点、安山岩(A2)8点、安山岩(B1)3点、メノウ(1)6点、ホルンフェルス(1)8点、石英(1)1点で石器類99点の石材で構成されている。礫については安山岩①15点、安山岩（焼け）5点、流紋岩①2点、凝灰岩1点、チャート3点、珪質頁岩3点、砂岩1点、以上30点で構成される。石材分布では北側の集中部分には礫及び礫片がやや偏って分布しており、いわゆる、礫群を伴っていた石器ブロックを形成していた可能性がある。また、南側のまとまりについても一部礫が混ざっており、同様の可能性がある。どちらも第1地点と同様に珪質凝灰岩(1)、安山岩(A1)、安山岩(A2)の石材を主体的に含んでいる。他に碎片のみであるが、ホルンフェルス(1)を数点含む。

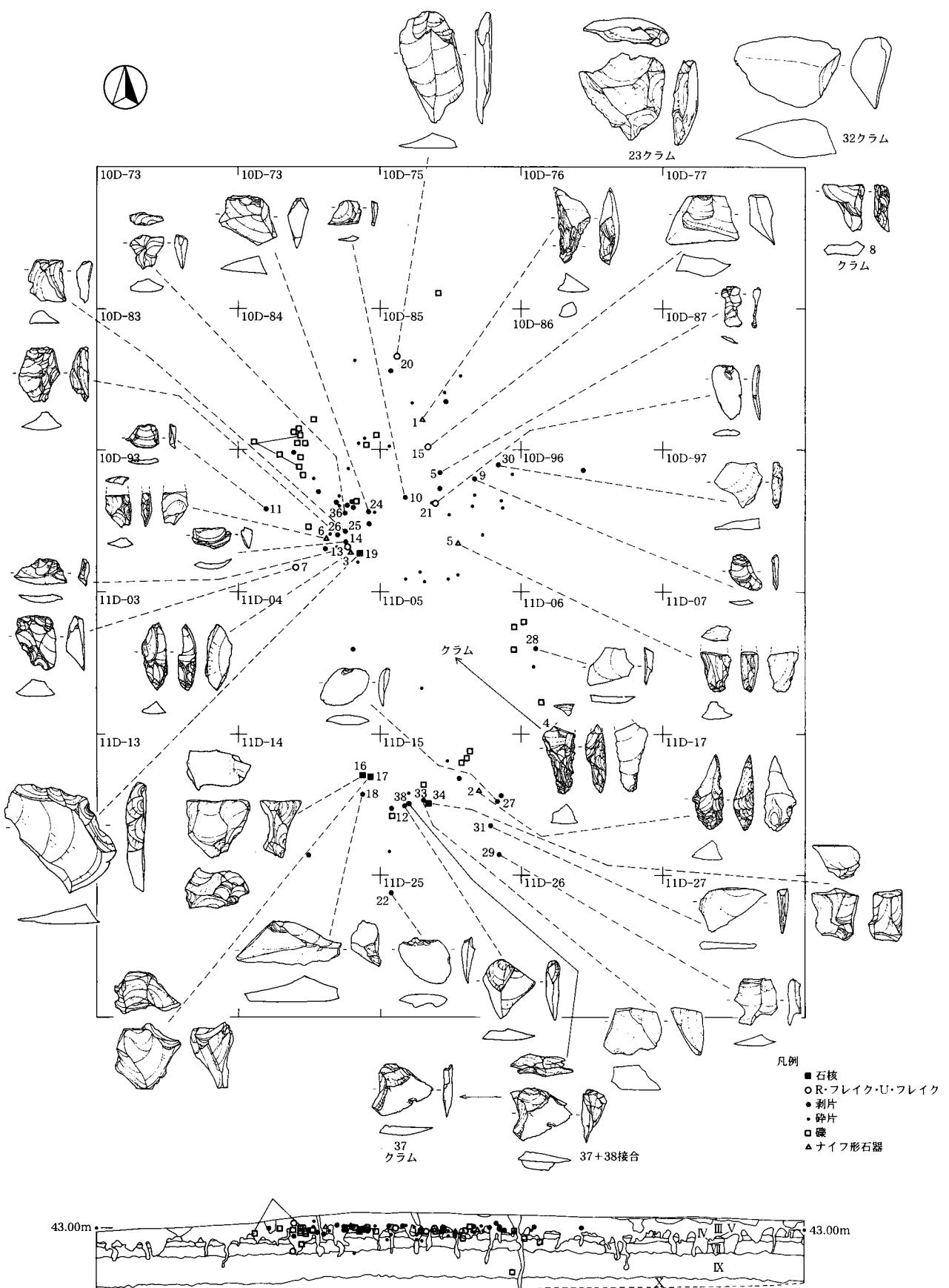
**器 種** ナイフ形石器5点、台形石器1点、R・剥片4点、U・剥片（いわゆる使用痕のある剥片）1点、石核5点、剥片46点、碎片37点、礫30点の合計129点出土している。

ナイフ形石器（第10図1～5）1は珪質凝灰岩(1)のナイフ形石器である。主剥離面から背部方向に向かって右側刃部以外は丁寧に調整されている。素材としては、横長の剥片を使用している。先端部分がやや欠損している。2は珪質凝灰岩(1)の石核で、上下両端に打撃面を形成した後、上下両方より縦長剥片を剥離していたものと思われる。なお、右側側縁部分には調整のための小剥離が残されている。3は珪質凝灰岩(1)のナイフ形石器である。横長の剥片を素材にしている。基部を中心に細かな調整が施されている。素材の形をそれほど変化させない形で作られている。4は珪質凝灰岩(1)のナイフ形石器である。縦長剥片を素材にして基部を中心に比較的大きめの剥離で調整が施されている。なお、先端部分は欠損している。クラムシェルにより出土したため、正確な位置関係は不明である。5は珪質凝灰岩(1)のナイフ形石器である。横長の剥片を素材としている。基部調整された部分のみ残っており、刃部の形態は不明である。基部調整については比較的丁寧に仕上げてある。

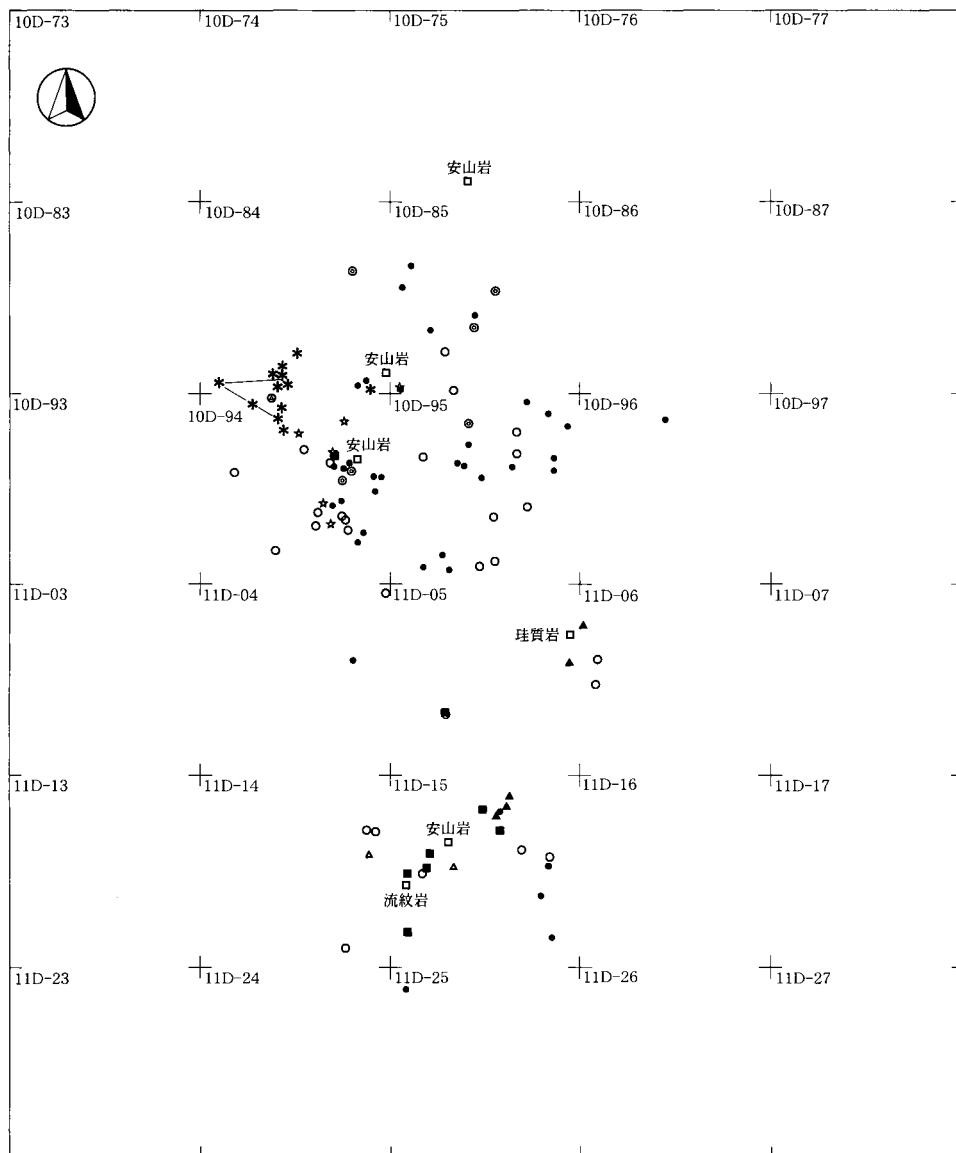
台形石器（第10図6）6は珪質凝灰岩(1)の台形石器である。縦長の小剥片を素材としている。両側縁に細かな調整が施されている。先端部分にかけて欠損している。

R・剥片（第10図7、8）7は珪質凝灰岩(1)のR・剥片である。縦長剥片の先端部分から左側縁部下端にかけて比較的大きな剥離で調整が施されている。厚みのある縦長の剥片を素材としている。8は珪質凝灰岩(1)のR・剥片である。逆三角形の剥片を素材としている。右側縁部分に背面から主剥離面に向かって調整が施されている。

石核（第11図～第14図16、17、19、23、34）16、17ともに珪質凝灰岩(1)の石核である。16は礫面を打面にして剥離した後、左右から小さな剥片を剥がしている様子が窺われる。17は剥離面を打面にして打面転移をしながら数回小さな剥片を剥離している。19は安山岩(A1)の石核である。大形の縦長の剥片を石核に転用しており、打面から右側縁部分にかけて小さな剥片を剥離している。先端部分は礫面を残している。23は安山岩(1)の石核である。背面を礫面で覆われている大形の剥片を素材として周辺部より剥片を剥ぎ取っている。34は安山岩(B1)の石核である。剥離面を打面として多方位の剥離を行っている。



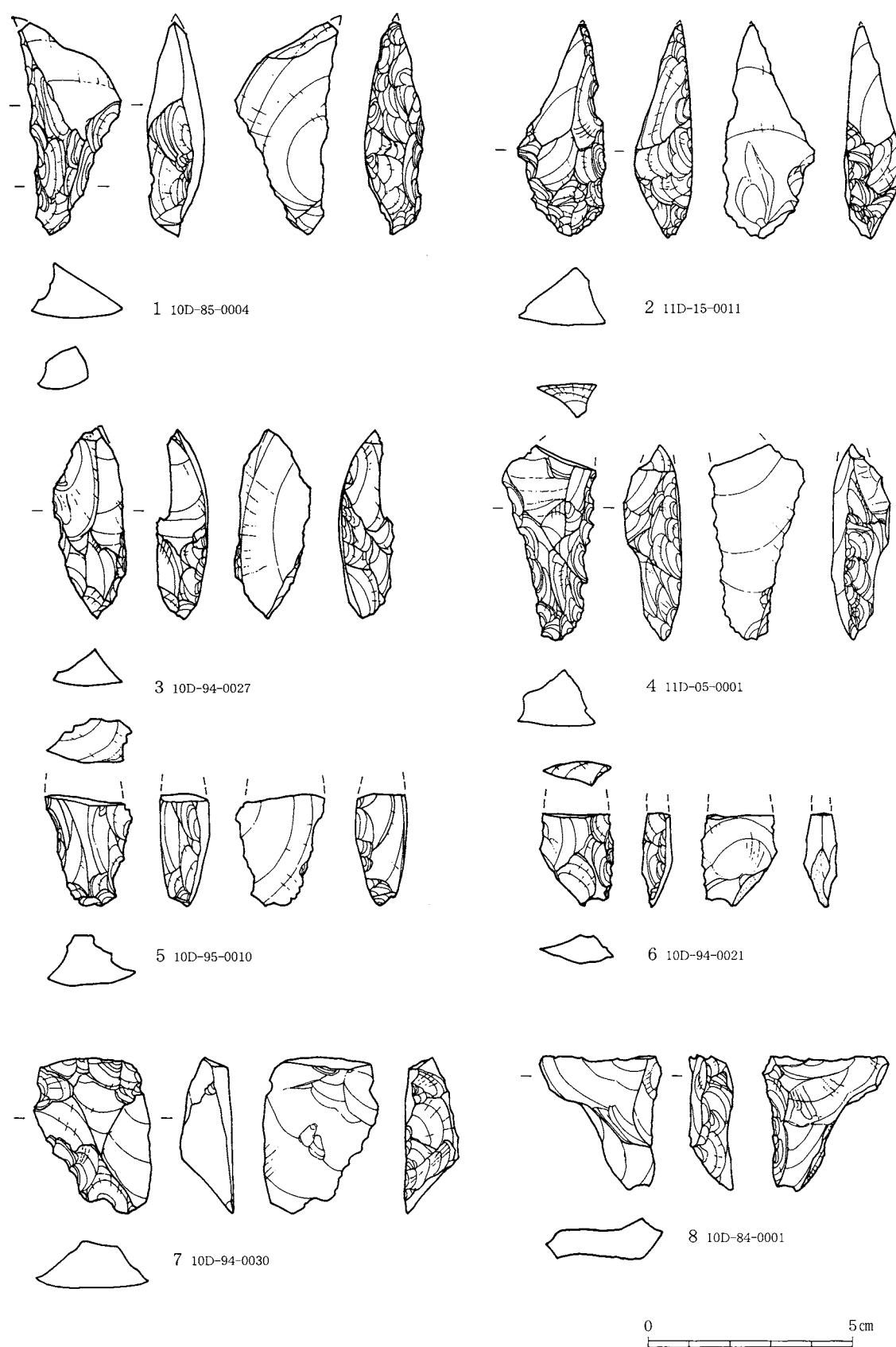
第8図 旧石器時代第2地点遺物出土状況図 (Scale 1/80)



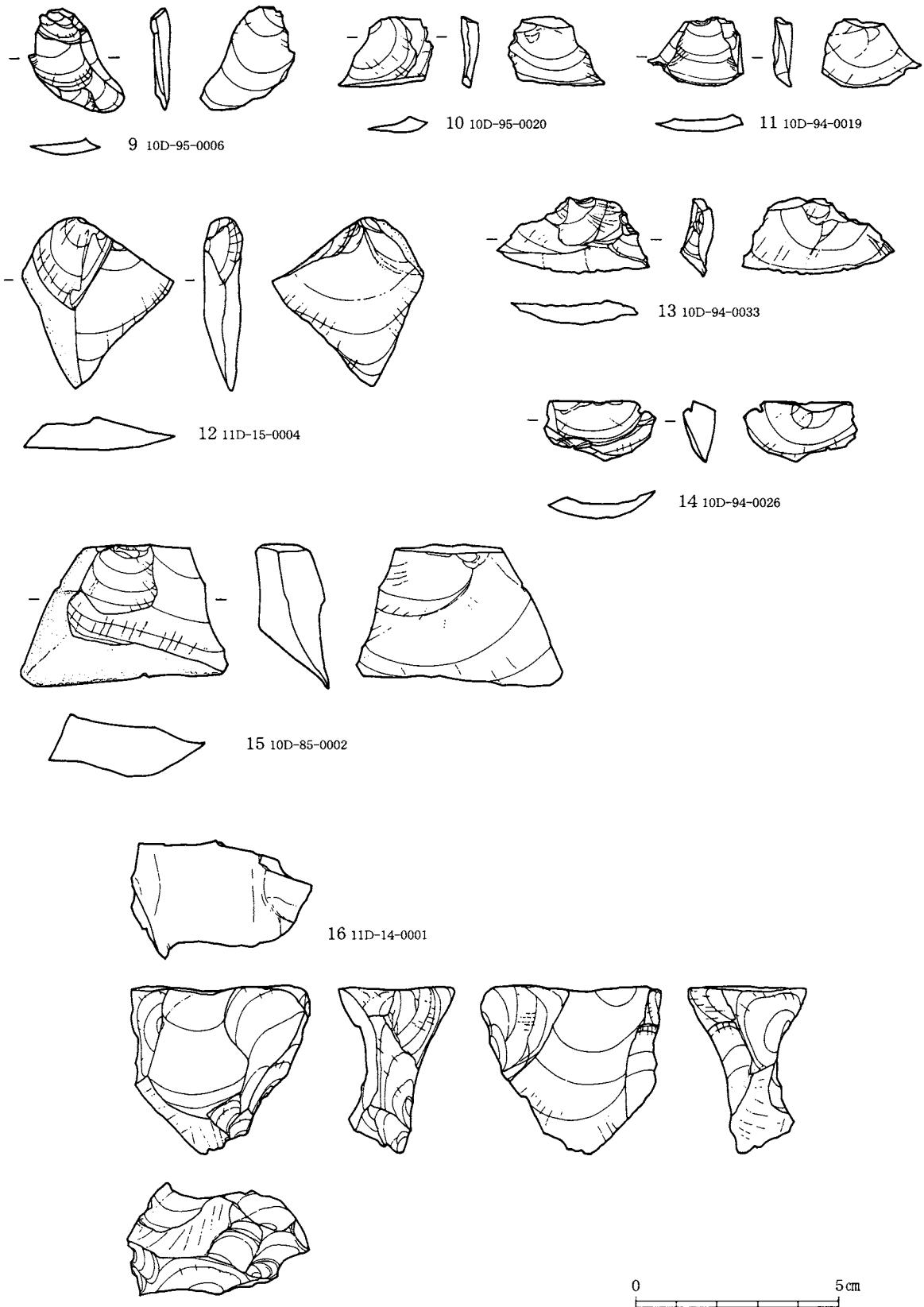
凡例	
○ 珪質凝灰岩 1	◎ 石英 1
■ 安山岩 A 1	★ ホルンフェルス 1
● 安山岩 A 2	* 磬 (安山岩 1)
△ 安山岩 B 1	▲ 磬 (砂岩 1)
◎ メノウ 1	□ 磬 (その他)

第9図 旧石器時代第2地点遺物石材別出土状況図 (Scale 1/80)

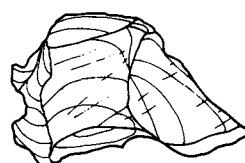
剥片 (第10~14図 9~15、18、20~22、24~33、35、36) 9~11、13、14は珪質凝灰岩(1)の剥片である。細かな調整が施されているものではないが、台形石器等の素材となりうる小形の剥片である。12、15は珪質凝灰岩(1)の剥片で比較的大形のものである。背面には礫面が一部見られ、比較的初期の段階で剥離されたものである可能性が高い。18は大形で比較的厚みのある横剥ぎの剥片である。石質は珪質凝灰岩(1)ではあるが、ややガラス質が強く灰色がかった色調が強いものである。20は安山岩(A1)の大形の縦長剥片である。刃器にもなりうる鋭い縁辺部分をもつ。背面は複数の頭部方向からの剥離面を持つ。21は安山岩(A1)の剥片である。細長い縦長の剥片で背面は礫面で覆われている。22は安山岩(A1)の剥片である。打面側にはやや調整された面が見られる。背面は礫面で覆われている。24は安山岩 (A1) の剥片である。



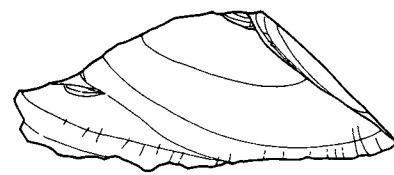
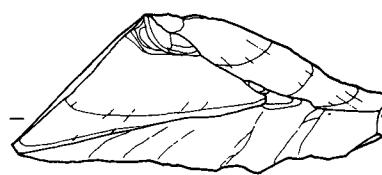
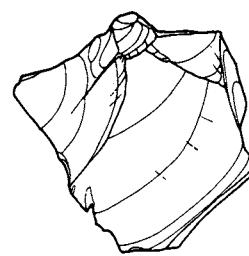
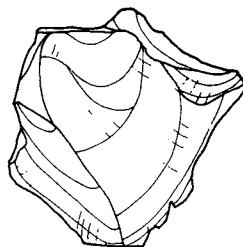
第10図 旧石器時代第2地点出土遺物実測図（1）



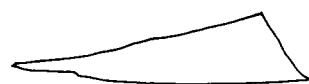
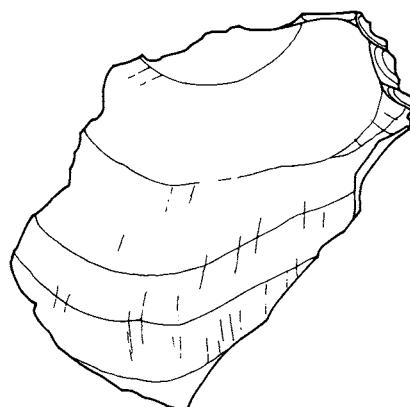
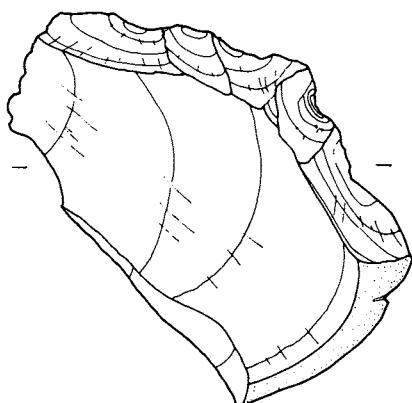
第11図 旧石器時代第2地点出土遺物実測図（2）



17 11D-14-0002



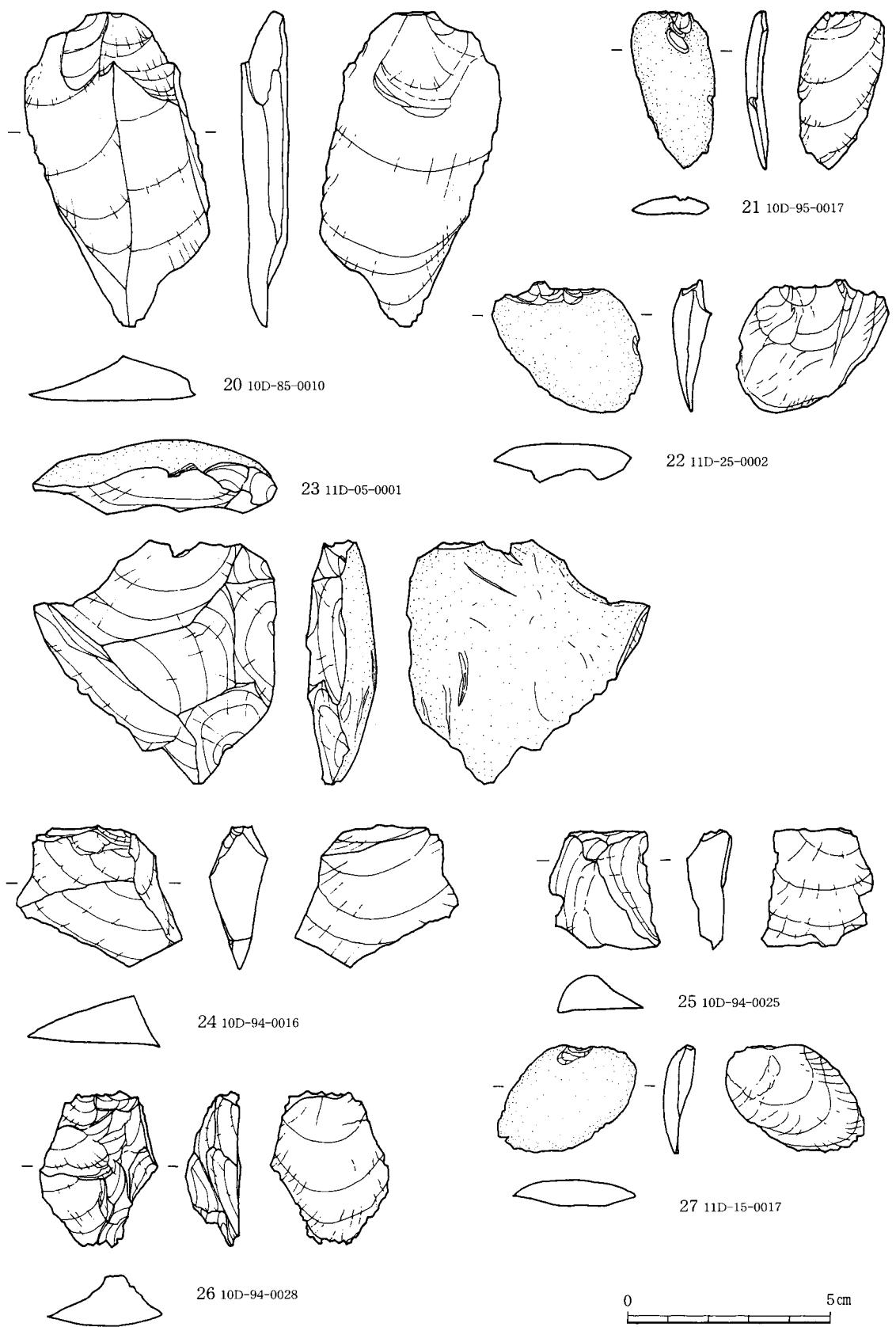
18 11D-14-0004



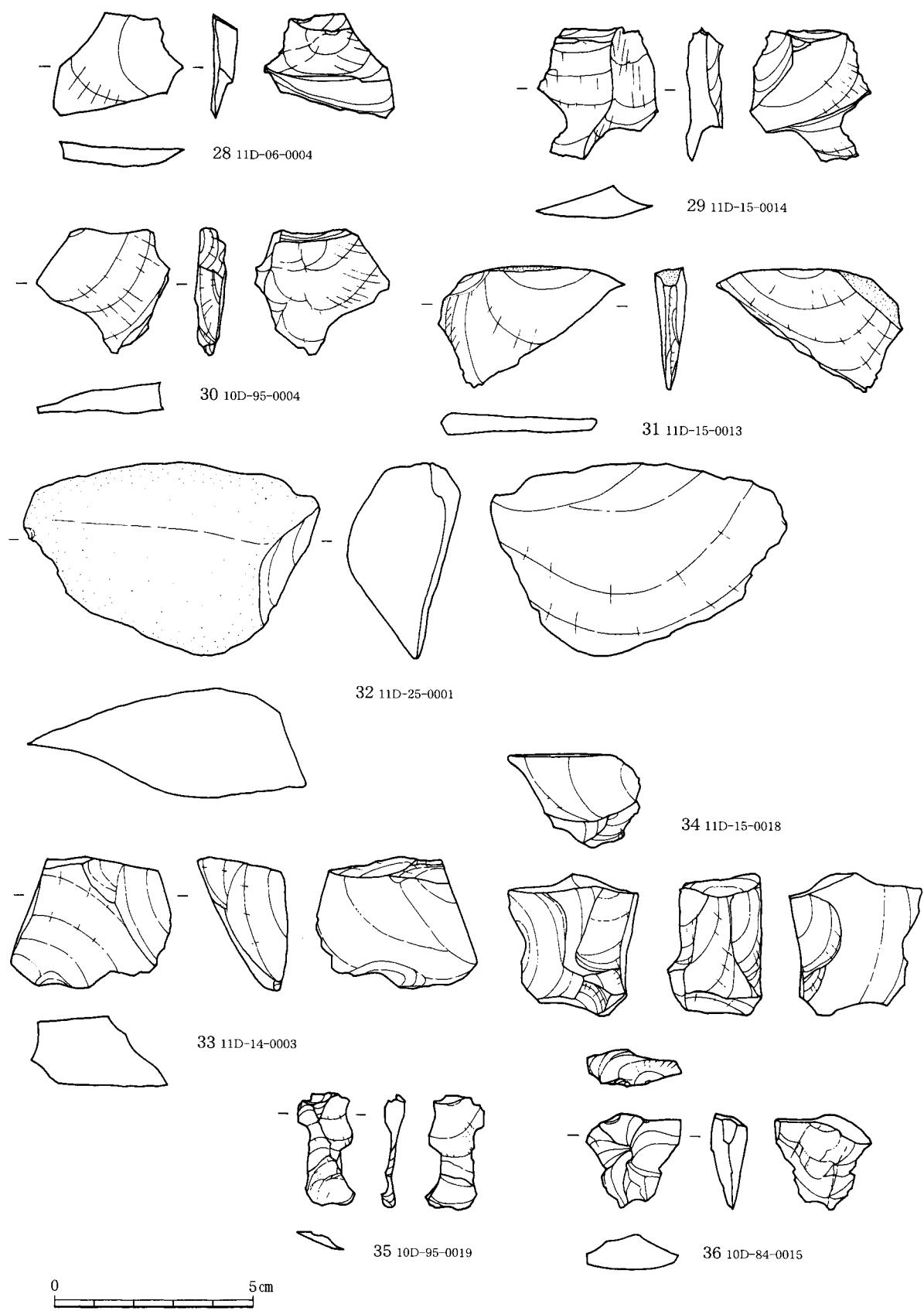
19 10D-94-0028



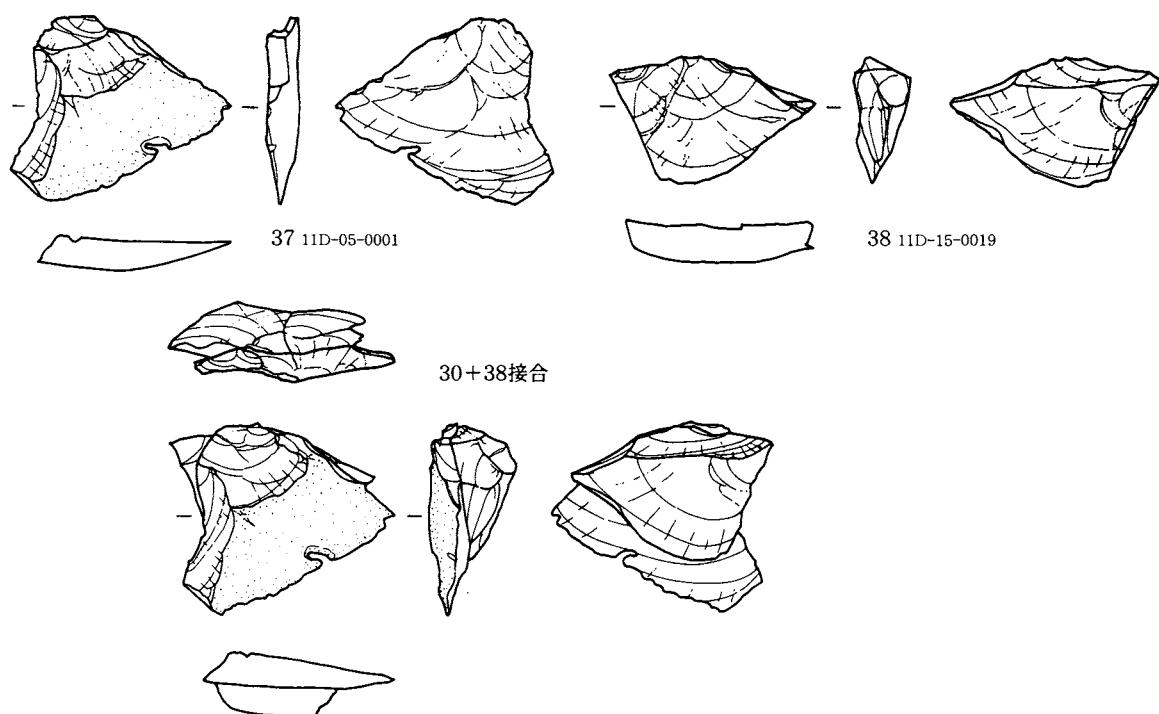
第12図 旧石器時代第2地点出土遺物実測図（3）



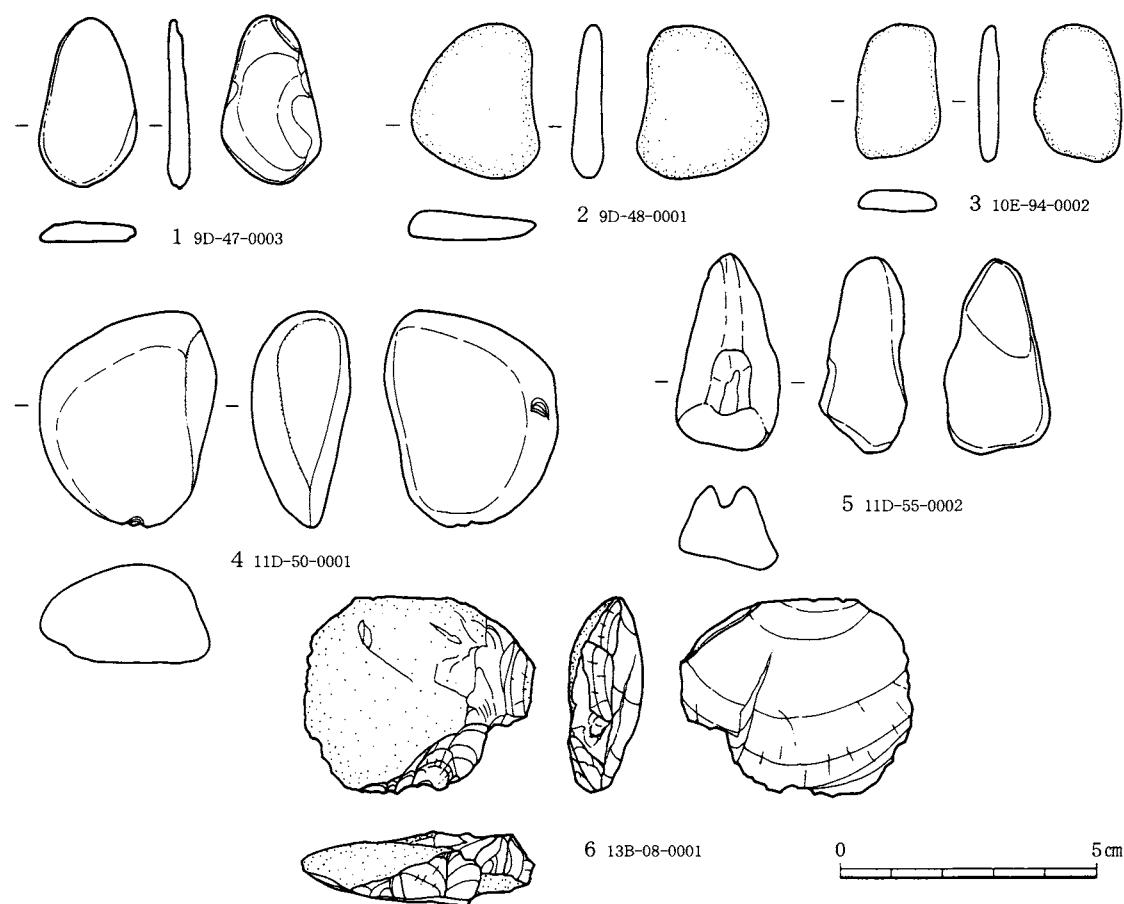
第13図 旧石器時代第2地点出土遺物実測図（4）



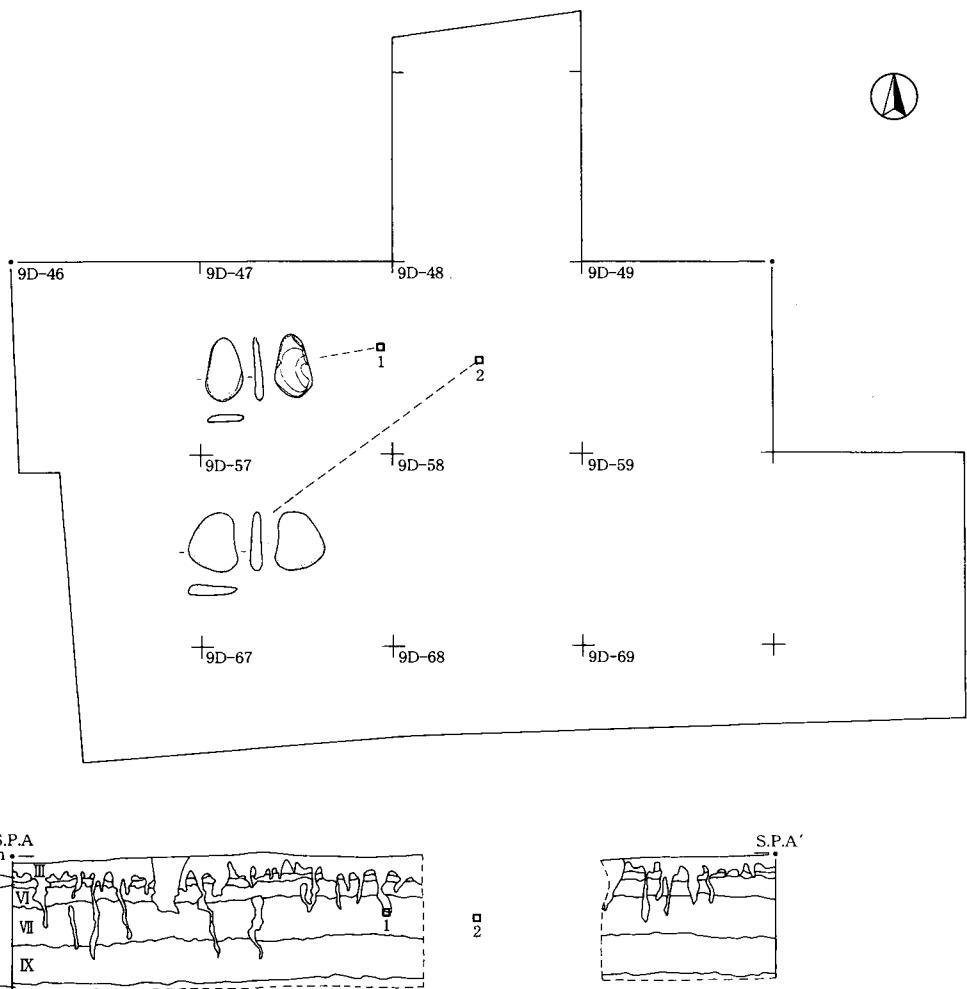
第14図 旧石器時代第2地点出土遺物実測図（5）



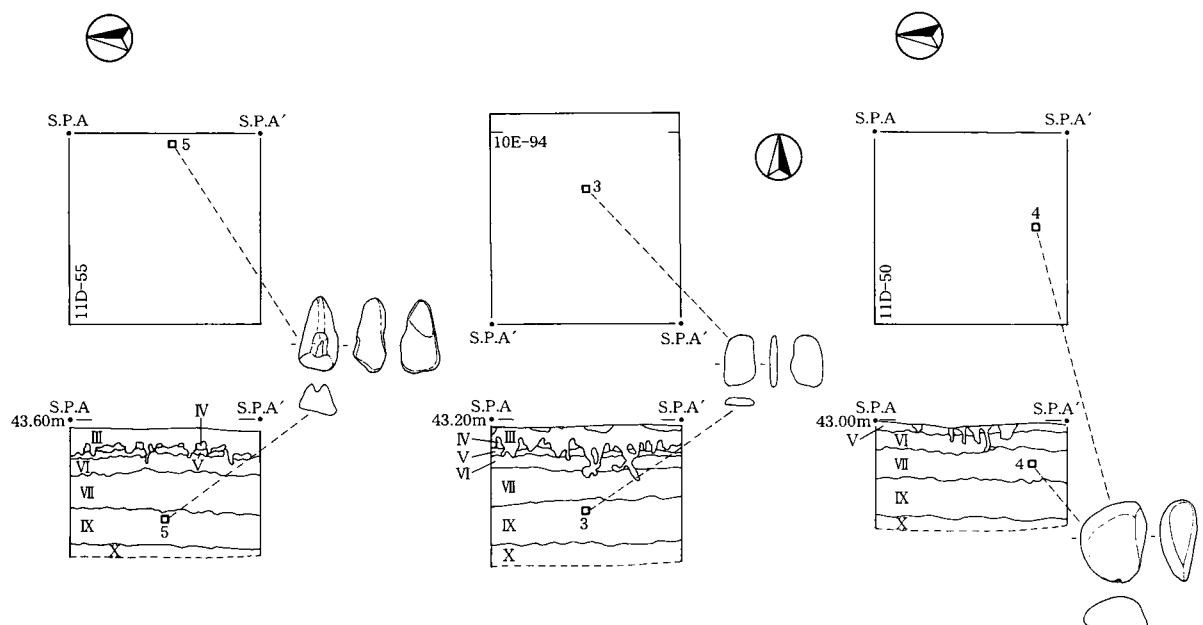
第15図 旧石器時代第2地点出土遺物実測図（6）



第16図 旧石器時代確認グリッド等出土遺物実測図



第17図 9D-47~48グリッド出土状況図 (Scale 1/80)



第18図 11D-55グリッド出土状況図 (Scale 1/80) 第19図 10E-94グリッド出土状況図 (Scale 1/80) 第20図 11D-50グリッド出土状況図 (Scale 1/80)

やや厚みのある台形に近い形をしている。背面は主剥離面と同方向の複数の剥離面から構成されている。25は安山岩(A1)の剥片である。背面は主剥離面に対して右方向からの剥離2面で構成されている。26は安山岩(1)の剥片である。背面の打面側と右側縁部分は調整のための剥離面が見られる。27は安山岩(A1)の剥片である。背面が礫面で覆われている。28、29ともに安山岩(A1)の剥片である。どちらも先端部分が折れ曲がるよう剥離されている。打面も剥離面を転移して剥離していたことがうかがわれる。30は安山岩(A1)の剥片である。右側側縁部分は打面調整による剥離面を残している。31は安山岩(A1)の剥片である。打面は礫面で構成されている。32は安山岩(B1)の大形の剥片である。厚みがあり、背面はほぼ礫面で覆われている。33は安山岩(B1)の剥片である。厚みのある台形の剥片である。35、36はメノウの剥片である。いずれも縁辺部分が鋭い剥片である。

接合資料(第15図37、38) 37及び38は安山岩(A2)の接合資料である。37は背面がかなり礫面で覆われている段階で剥がされた剥片で、接合状態で見ると、同じ剥離面を打面として剥がされたことがわかる接合資料である。安山岩(A2)については同じ石材の石核が見当たらないため、第1、2地点以外の場所へ持ち出されたことが考えられる。

#### ブロック外の石器について(第17~19図、第16図1~6、第3表)

1~2は9D-47~48区より出土した礫である。1は砂岩の礫である。2は珪質頁岩の礫である。X層から出土したもので周辺部分を拡張した際に検出した。自然礫にしてはやや大きめのものではあるが、石器等の共伴は見られなかった。3は10E-94区より出土した礫3点のうち1点である。凝灰岩の扁平な橢円礫である。IX層から出土している。周辺部分を拡張したが、他に何も検出されなかった。4は11D-50区より出土した礫である。砂岩の礫で先端部分に打撃痕のようなものが見られる。IX層から出土している。人為的なものかどうかは定かではない。5は11D-55区より出土した礫である。チャートの礫である。X層から出土している。6は13B-08区から出土した安山岩(A1)の剥片である。背面はほぼ礫面で覆われている。正確な出土層位、地点とも不明であるが、第1地点、第2地点とも関連のある石器と思われる。

#### 観察表について

1. 挿図番号 実測図として掲載した遺物の通し番号。この番号は遺物の出土平面図と写真図版の番号に一致する。実測図として報告できなかったものについては、取り上げ番号順に、以下に掲載した。
2. グリッド・遺物番号 出土したグリッドと遺物の取り上げ番号(注記番号)。
3. 打面形状 Cは自然面、Sは節理面、Pは点状打面、Lは線状打面、1は平坦打面、2以上は複剥離打面、空欄は欠損等による打面なし・計測不可を示す。
4. 背面構成 主要剥離面の剥離方向を基準として、背面を構成する剥離面の種類と数を示した。素材を大きく変形したものは書かないが、素材の背面構成が窺われるものに関しては、観察される範囲で書く。Cは自然面、Sは節理面、Hは頭部側、Tは尾部側、Rは背面を正面にして右方、Lは左方、Dは背面側、Vは腹面側(両者は作業面調整剥片、角柱状の剥片など90°に近い剥離角をもつ剥離面の場合)からの剥離面数を示す。
5. 調整部位・折面部位 主要剥離面の剥離方向を基準として、調整部位と折断部位の位置を示した。Hは頭部側、Tは尾部側、Rは背面を正面にしてRは右側、Lは左側を示す。

6. 末端形状 Fは通常の末端(フェザーエンド)、Hはちょうどつがい状(ヒンジフラクチャー)、Oはアーチ状(ウートラパッセ)を示す。

7. 母岩番号 石材の種類と、母岩別資料の分類を示す。石材の中で安山岩A(風化面が濃緑色で黒く光沢のある破断面が認められるもの)と安山岩B(表面が淡灰色、いわゆるトロトロ石と呼ばれるもの)についてはおおまかに分類した。それ以外のものは接合資料に番号に付加し、肉眼による観察を行い、可能な限り進め、こうした事例を観察表に列挙するにとどめた。

第1図 旧石器時代 第1地点石器観察表

挿図	グリッド	遺物	器種	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打面 形状	頭部	背面構成				調整 部位	折面 部位	末端	母岩番号	接合 資料	備考	層位	標高m
										C	S	H	T	R	L	D	V				
第7図11	10C-93	1	礫	24.6	13.1	7.0	2.50											珪質頁岩	接合10+12	搅乱層	42.481
	10C-93	2	R・フレイク	36.0	32.7	16.5	14.17														搅乱層
	10C-93	3	礫	15.4	9.5	8.6	1.75												チャート	IX層	42.324
	10C-93	4	小礫	13.1	8.9	4.4	0.74												砂岩		IX層
第7図12	10C-94	2	礫	18.9	17.0	7.1	3.62	S										メノウ	接合10+11	搅乱層	42.376
	10C-94	3	石核	37.1	48.7	18.0	23.15											珪質凝灰岩1	搅乱層		42.189
	10C-94	5	礫	18.6	24.2	8.8	5.60											頁岩	IX層	42.051	
	10C-94	6	剥片	17.3	23.1	8.6	2.80											珪質凝灰岩1		搅乱層	42.162
第7図10	11C-03	2	碎片	16.3	14.8	4.4	1.19	C										安山岩A2	IX層	42.358	
	11C-03	3	礫	15.2	9.2	6.6	1.23											珪質頁岩	IX層	42.304	
	11C-03	4	礫	14.8	7.1	6.0	0.67											砂岩	IX層	42.380	
	11C-03	5	礫	10.6	6.5	4.1	0.44											メノウ	IX層	42.076	
	11C-03	6	剥片	17.2	37.6	4.2	2.33											安山岩A2		搅乱土層	42.416
	11C-04	2	碎片	7.7	14.0	2.2	0.21											珪質凝灰岩1	IX層	42.450	
第6図2	11C-04	5	R・剥片	49.8	44.4	11.5	18.85	S										珪質凝灰岩1	搅乱土層	42.494	
	11C-04	6	R・剥片	22.0	33.2	10.2	6.10											珪質凝灰岩1	IX層	42.528	
第6図5	11C-04	7	剥片	13.1	20.3	3.2	0.77	C										珪質凝灰岩1	搅乱土層	42.474	
	11C-04	8	剥片	33.6	23.5	8.4	7.04											砂岩	IX層	42.404	
第6図1	11C-04	9	礫	22.5	18.0	8.8	4.02	S										珪質凝灰岩1	搅乱土層	42.444	
	11C-05	5	碎片	13.9	9.7	4.7	0.44											珪質凝灰岩1	IX層	42.275	
	11C-05	7	剥片	18.5	27.5	6.0	2.23											安山岩A2		搅乱土層	42.444
	11C-05	8	碎片	20.0	15.5	4.9	1.14											安山岩A2		搅乱土層	42.275
	11C-13	2	石核	54.0	36.9	23.0	40.17											珪質凝灰岩1	IX層一括	42.404	
	11C-13	3	礫	21.8	11.8	11.4	3.66											砂岩		搅乱土層	42.442
第6図4	11C-14	1	剥片	26.6	16.9	7.6	2.52	C										安山岩B1	搅乱土層	42.474	
	11C-14	2	剥片	30.4	11.8	10.0	4.84											安山岩A1	IX層	42.304	
	11C-14	4	剥片	39.9	7.9	4.9	1.42											珪質凝灰岩1		搅乱土層	42.418
	11C-14	6	剥片	20.7	29.1	10.5	5.16											珪質凝灰岩1	IX層	42.460	
	11C-14	8	剥片	30.3	29.9	10.5	6.80											砂岩		搅乱土層	42.492
	11C-15	2	剥片	19.5	24.4	4.2	1.46											珪質凝灰岩1	IX層	42.420	
第6図8	11C-15	3	剥片	41.3	34.9	17.4	10.68	S										珪質凝灰岩1	搅乱土層	42.442	
	11C-15	4	剥片	40.4	35.9	15.1	10.67											安山岩A1	IX層	42.420	
第6図7	11C-15	5	R・剥片	41.1	43.9	20.0	31.53	C										珪質凝灰岩1	搅乱土層	42.420	
	11C-15	6	礫	10.2	6.9	6.2	0.52											チャート	IX層一括	42.442	
第7図9	11C-26	2	剥片	47.4	41.0	18.3	43.88	S		O	1		2						安山岩A1	搅乱土層	42.496

第2-1表 旧石器時代 第2地点石器観察表1

挿図	グリッド	遺物	器種	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打面 形状	頭部	背面構成						調整 部位	折面 部位	末端	母岩番号	接合 資料	備考	層位	標高m		
										C	S	H	T	R	L	D	V								
	10D-75	1	礫	31.4	17.9	9.5	4.52														凝灰岩		IV～V層	42.971	
	10D-76	1	礫	32.6	15.7	9.5	4.56														チャート		X層		
	10D-77	2	礫	26.0	6.5	6.3	1.30														砂岩		X層		
第10図8	10D-84	1	R・剥片	35.7	30.7	9.8	7.26														珪質凝灰岩1	クラムシェル	IV～V層		
	10D-84	2	礫	13.6	9.4	8.4	1.09														安山岩①		IV～V層	42.924	
	10D-84	3	礫	52.8	33.1	21.1	33.65														安山岩①		IV～V層	42.968	
	10D-84	4	礫	41.1	38.8	20.6	28.91														安山岩①		IV～V層	42.957	
	10D-84	5	礫	14.6	25.3	15.7	5.18														安山岩①		IV～V層	43.031	
	10D-84	6	礫	22.2	11.6	7.9	2.28														安山岩①		IV～V層	42.984	
	10D-84	7	礫	39.7	21.4	15.1	9.03														安山岩①		IV～V層	42.978	
	10D-84	8	碎片	14.7	12.1	2.6	0.52														安山岩A1		III～IV層	43.067	
第14図36	10D-84	9	礫	31.7	33.5	16.6	19.13														安山岩焼け		IV～V層	42.955	
	10D-84	10	碎片	10.2	9.5	3.4	0.25														安山岩A1		III～IV層	43.050	
	10D-84	12	礫	22.1	18.8	13.7	4.98														安山岩①		V層	42.904	
	10D-84	13	碎片	11.1	10.4	4.1	0.39														安山岩A1		IV～V層	42.976	
	10D-84	14	礫	21.5	21.2	7.9	3.41														安山岩①		IV～V層	43.007	
	10D-84	15a	剥片	26.6	24.9	9.6	3.80	2	○									1	1		F	メノウ1	VII層	42.632	
	10D-84	15b	碎片	9.7	19.2	2.8	0.56															メノウ1		VII層	42.632
	10D-85	1	剥片	23.4	17.4	3.3	1.35	1	○												安山岩A1		IV～V層		
	10D-85	1	碎片	24.9	16.1	3.5	3.50														安山岩A1		IV～V層		
	10D-85	2	剥片	36.4	48.9	12.7	22.57	1	○	○										O	珪質凝灰岩1		IV～V層	42.976	
	10D-85	3	碎片	5.0	7.2	0.5	0.01														ホルンフェルス1		V層	42.910	
第10図1	10D-85	4	ナイフ形石器	51.6	23.9	12.8	10.41														珪質凝灰岩1		III～IV層	43.036	
	10D-85	5	碎片	10.2	6.8	1.8	0.16														ホルンフェルス1		III～IV層	43.013	
	10D-85	6	剥片	29.3	14.1	10.6	3.05	1													メノウ1		III～IV層	43.036	
	10D-85	7	碎片	10.1	10.3	2.4	0.16														安山岩A1		III～IV層	43.023	
	10D-85	8	碎片	12.9	17.0	6.7	1.70														メノウ1		IV～V層	42.945	
	10D-85	9	剥片	35.3	17.5	7.6	4.13	P													安山岩A1		III～IV層	43.068	
	10D-85	10	剥片	77.3	39.6	12.3	32.86	1	○												安山岩A1		IV～V層	42.995	
	10D-85	11	剥片	16.5	20.6	3.6	1.37	P	○									1			安山岩A1				
	10D-94	1	礫	26.6	23.2	18.1	12.28														安山岩①		III～IV層	43.007	
	10D-94	2	剥片	16.5	21.9	5.2	1.78	L	○												石英1		V層	42.876	
	10D-94	3	礫	17.2	11.1	6.1	1.46														珪質頁岩		IV～V層	42.947	
	10D-94	3	礫	16.8	16.1	7.8	2.09														安山岩①		IV～V層	42.947	
	10D-94	4	礫	41.3	30.6	12.0	14.83														安山岩①		IV～V層		
	10D-94	5	礫	30.3	33.2	22.7	21.03														安山岩焼け		IV～V層	42.960	
	10D-94	6	礫	30.3	21.1	21.0	15.25														安山岩焼け		IV～V層	42.988	
	10D-94	7	剥片	26.5	12.7	4.1	1.38														ホルンフェルス1		III～IV層	43.059	
	10D-94	8	剥片	36.0	10.6	5.2	18.2	1										2			珪質凝灰岩1		IV～V層	42.943	
	10D-94	9	碎片	11.5	9.4	2.9	0.4														ホルンフェルス1		III～IV層	43.037	
	10D-94	10	剥片	19.2	22.8	3.2	1.04										1	1			ホルンフェルス1		III層	43.129	
	10D-94	11	碎片	10.6	12.2	7.6	0.72														安山岩A1		III層	43.085	
	10D-94	12	剥片	31.0	28.0	6.3	4.42	1													安山岩A1		IV～V層	43.000	
	10D-94	13	礫	76.3	45.0	31.3	79.01														安山岩焼け		IV～V層	42.999	
	10D-94	14	剥片	18.9	19.4	10.4	3.52	P	○									1			メノウ1		IV～V層	43.015	
	10D-94	15	礫	29.7	15.6	14.5	6.16														安山岩焼け		IV～V層	42.968	
第13図24	10D-94	16	剥片	37.6	39.6	11.2	12.89	S										2	1		安山岩A1		IV～V層	43.011	
	10D-94	17	碎片	17.7	14.7	5.3	0.95														安山岩A1		IV～V層	43.018	

第2-1表 旧石器時代 第2地点石器観察表1

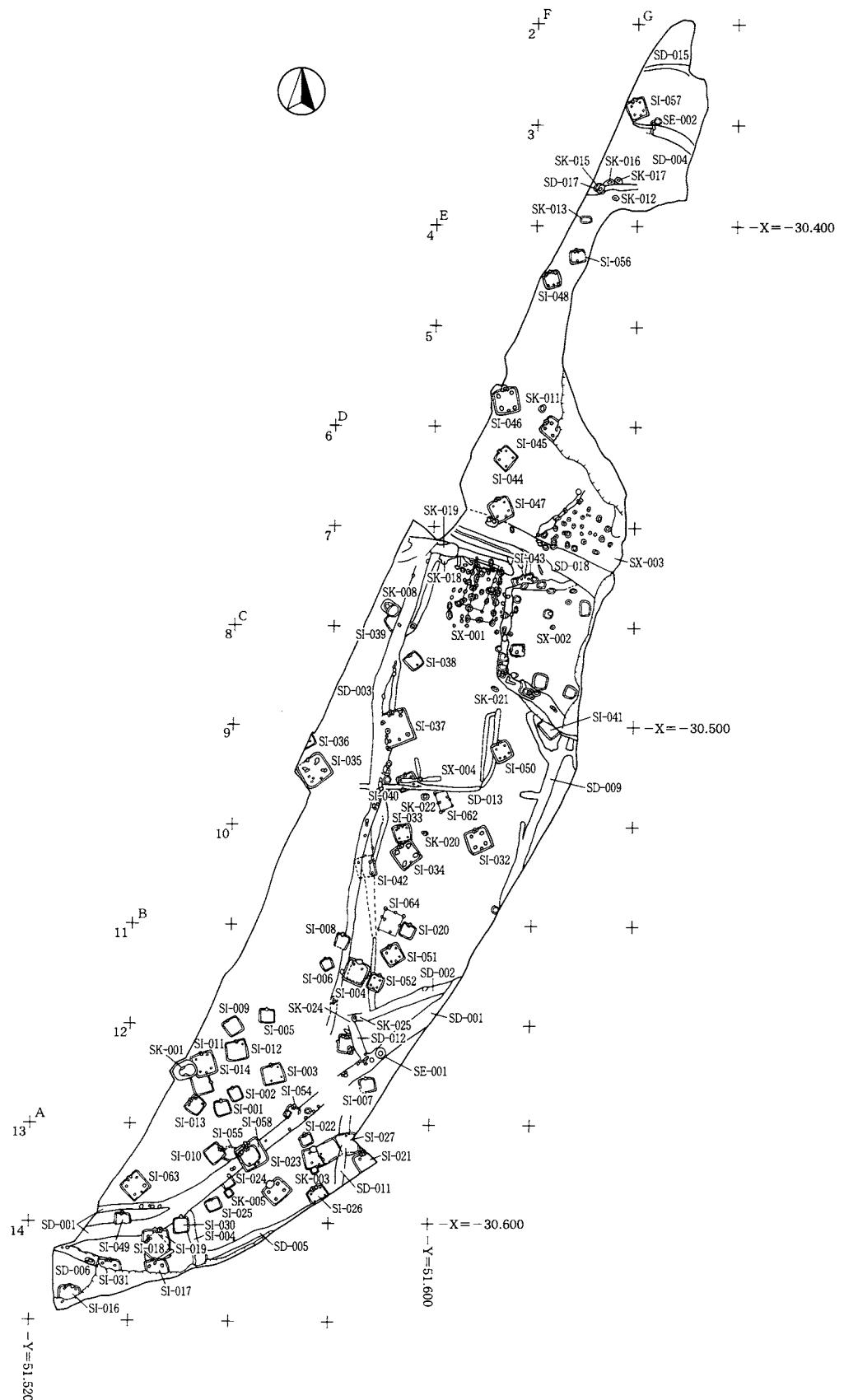
挿図	グリッド	遺物	器種	最大長		最大幅		最大厚		重量g	打面形状	頭部	背面構成						調整部位	折面部位	末端	母岩番号	接合資料	備考	層位	標高m
				mm	mm	mm	mm	C	S	H	T	R	L	D	V											
第11図11	10D-94	18	剥片	17.6	24.2	4.1	1.56	1	3	1									T	安山岩A1	珪質凝灰岩1	クラムシェル	IV～V層	42.971		
	10D-94	19	U・剥片	16.2	23.3	3.7	1.34																			
第10図9	10D-94	20	礫	10.7	11.5	6.9	1.04																			
	10D-94	21	台形石器	24.5	18.9	7.6	3.08																			
第13図26	10D-94	22	剥片	13.4	24.9	4.0	1.23																			
	10D-94	23	剥片	39.5	28.2	11.5	11.64																			
第13図25	10D-94	23	碎片	12.1	8.9	5.6	0.43																			
	10D-94	24	碎片	13.0	9.2	5.0	0.42																			
第13図25	10D-94	25	剥片	29.7	28.1	9.4	7.71																			
	10D-94	26	剥片	16.4	27.4	4.8	1.77																			
第10図7	10D-94	27	ナイフ形石器	45.8	17.6	11.4	7.19																			
	10D-94	28	石核	69.7	82.4	11.6	60.65																			
第10図7	10D-94	29	碎片	8.5	17.3	3.6	0.51																			
	10D-94	30	R・剥片	40.5	27.9	12.3	10.56																			
第11図13	10D-94	31	剥片	23.0	22.3	3.2	1.37																			
	10D-94	32	剥片	19.6	33.4	5.7	3.46																			
第11図13	10D-94	33	R・剥片	40.5	27.9	12.3	10.56																			
	10D-94	34	碎片	10.0	10.0	2.0	0.16																			
第14図30	10D-95	2	碎片	10.6	15.0	2.4	0.38																			
	10D-95	4	剥片	32.7	32.9	6.5	6.43																			
第11図9	10D-95	5	碎片	9.4	19.3	5.0	0.89																			
	10D-95	6	剥片	26.6	25.3	4.2	1.53																			
第10図5	10D-95	7	碎片	5.8	6.4	1.9	0.08																			
	10D-95	8	碎片	7.3	8.6	2.0	0.10																			
第10図5	10D-95	9	碎片	13.1	13.1	4.9	0.59																			
	10D-95	10	ナイフ形石器	27.6	22.1	11.1	5.62																			
第13図21	10D-95	11	碎片	9.0	10.8	2.6	0.22																			
	10D-95	12	碎片	19.3	7.7	2.5	0.28																			
第14図33	10D-95	13	碎片	19.7	14.2	3.9	0.96																			
	10D-95	14	碎片	14.7	24.7	4.8	16.2																			
第13図21	10D-95	15	剥片	33.1	17.5	3.4	2.11																			
	10D-95	16	碎片	7.0	12.6	1.4	0.14																			
第13図21	10D-95	17	剥片	39.3	20.2	4.5	4.10																			
	10D-95	18	剥片	20.5	25.9	8.1	3.85																			
第14図33	10D-95	19	剥片	28.5	15.0	2.8	1.05																			
	10D-95	20	剥片	17.7	20.5	3.2	1.32																			
第11図10	10D-95	21	碎片	6.7	7.3	2.3	0.8																			
	10D-95	22	碎片	16.4	11.8	2.9	0.59																			
第11図10	10D-95	23	碎片	6.0	13.4	3.0	0.22																			
	10D-96	2	剥片	28.1	17.8	11.8	5.25																			
第11D-04	11D-04	1	剥片	21.3	21.8	10.1	5.03																			
	11D-04	2	碎片	9.6	13.8	2.9	0.22																			
第11D-04	11D-04	2	碎片	11.1	16.1	2.9	0.50																			
	11D-04	3	碎片	12.0	23.4	5.9	1.35																			
第10図4	11D-05	1	ナイフ形石器	48.2	22.7	13.6	10.95																			
	11D-05	1	石核	57.9	59.9	15.5	61.16																			
第15図37	11D-05	1	剥片	36.1	39.8	6.6	7.96																			
	11D-05	2	礫	42.1	41.7	19.2	31.90																			
第15図37	11D-05	3	碎片	13.9	19.1	4.3	0.83																			

第2-2表 旧石器時代 第2地点石器観察表2

挿図	グリッド	遺物	器種	最大長		最大幅		最大厚		重量g	打面 形状	頭部	背面構成						調整 部位	折面 部位	末端	母岩番号	接合 資料	備考	層位	標高m			
				mm	mm	mm	mm	C	S	H	T	R	L	D	V														
第14図28	11D-05	4	剥片	10.9	21.4	3.1	0.59																						
	11D-05	5	礫	18.1	14.2	9.0	3.21																			IX層	42.355		
	11D-06	2	礫	12.8	13.6	10.1	1.42																			V層	42.849		
	11D-06	3	碎片	5.6	14.1	2.2	0.09																			III～IV層	42.980		
	11D-06	4	剥片	22.9	34.3	6.2	4.70																			III～IV層	43.044		
	11D-06	5	礫	15.9	19.0	16.2	4.66																			VI層	42.670		
第11図16	11D-14	1	石核	38.8	44.6	27.9	39.11																			IV～V層	42.962		
第12図17	11D-14	2	石核	45.9	46.4	32.3	38.15																			IV～V層	49.970		
第14図33	11D-14	3	剥片	39.6	42.4	18.7	25.53																			安山岩B1	42.732		
第12図18	11D-14	4	剥片	32.0	72.4	20.5	31.15																			珪質凝灰岩1	42.784		
第11図12	11D-15	1	碎片	13.8	11.4	2.3	0.32																			安山岩A2	V層	42.841	
	11D-15	2	礫	19.1	21.2	12.5	5.04																			流紋岩①	III層	43.038	
	11D-15	3	剥片	18.0	22.1	3.5	0.95																			安山岩A2	III層	43.038	
	11D-15	3	剥片	39.7	37.9	17.3	10.69																			珪質凝灰岩1	III層	43.036	
	11D-15	4	剥片	42.2	38.1	8.6	8.03																			珪質凝灰岩1	IV～V層	42.975	
	11D-15	5	碎片	12.7	10.2	2.8	0.32																			安山岩A2	IV～V層	42.856	
	11D-15	6	礫	28.9	31.4	14.4	14.73																			流紋岩①	III～IV層	42.968	
	11D-15	8	碎片	13.9	7.7	2.2	0.23																			安山岩A2	IV～V層	42.914	
	11D-15	9	礫	45.1	33.2	19.3	32.02																			安山岩①	III層	43.025	
	11D-15	10	剥片	32.0	10.5	8.4	1.91																			安山岩A2	IV～V層	42.923	
第10図2	11D-15	11	ナイフ形石器	52.6	21.4	12.3	9.45																			珪質凝灰岩1	III～IV層	42.984	
第14図31	11D-15	12	剥片	12.0	20.7	7.0	1.08																			珪質凝灰岩1	III～IV層	43.029	
	11D-15	13	剥片	26.5	46.2	8.80	9.84																			安山岩A1	III～IV層	43.015	
	11D-15	14	剥片	34.4	30.8	8.2	7.20																			安山岩A1	III～IV層	42.962	
	11D-15	15	礫	24.6	20.3	22.0	12.22																			安山岩①	V層	42.811	
	11D-15	16	礫	20.0	12.2	20.3	8.58																			安山岩①	III～IV層	42.973	
第13図27	11D-15	17	剥片	25.8	33.7	6.4	5.26																			安山岩A1	III～IV層	42.995	
第14図34	11D-15	18	石核	37.1	35.6	20.4	29.19																			安山岩B1	III～IV層	42.989	
第16図38	11D-15	19	剥片	23.4	39.5	7.7	8.10																			安山岩A2	接合37	III～IV層	42.953
第14図32	11D-25	1	剥片	76.0	48.5	20.0	69.43																			安山岩B1			
第13図22	11D-25	2	剥片	32.9	38.5	7.4	7.89																			安山岩A1	III層	43.036	

第3表 旧石器時代 その他石器観察表

挿図	グリッド	遺物	器種	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打面 形状	頭部	背面構成						調整 部位	折面 部位	末端	母岩番号	接合 資料	備考	層位	標高m		
										C	S	H	T	R	L	D	V								
第16図1	9D-47	1	礫	28.2	38.3	7.6	6.31														凝灰岩		クラムシェル		
	9D-47	2	礫	16.0	10.4	8.9	2.40														砂岩		X層	41.934	
	9D-47	2	礫	25.5	15.2	9.6	4.22														珪質頁岩		X層	41.934	
	9D-47	3	礫	33.7	19.6	4.0	3.90														砂岩		X層一括		
	9D-47	3	礫	13.0	10.7	11.7	2.58														珪質頁岩		X層一括		
第16図2	9D-48	1	礫	30.4	26.6	6.2	7.03														珪質頁岩		X層	41.732	
	9D-49	2	礫	23.5	16.9	11.6	3.91														砂岩		クラムシェル	X層	
	9D-49	2	礫	15.7	14.6	8.6	2.92														チャート		クラムシェル	X層	
	9D-49	2	礫	33.8	17.9	11.5	9.35														凝灰岩		クラムシェル	X層	
	9D-49	3	礫	27.5	17.3	9.4	5.38														珪質頁岩		IX層～X層		
第16図3	10E-94	1	礫	24.2	13.3	4.4	1.99														頁岩			IX層	42.357
	10E-94	2	礫	27.1	16.7	4.3	3.61														凝灰岩			IX層	42.234
	10E-94	3	礫	17.6	10.2	5.9	1.46														珪質頁岩			IX層	42.296
第16図4	11D-50	1	礫	43.8	33.5	20.4	40.36														砂岩			IX層	40.737
	11D-55	2	礫	37.4	21.4	14.0	13.66														チャート			IX層	41.842
第16図5	13B-08	1	剥片	39.1	46.5	13.4	26.99														安山岩A				
	13C-04	2	礫	30.6	22.7	8.9	9.14														チャート			IX層	40.783



第21図 上層遺構配置図 (Scale 1/1,200)

## 第2節 遺構と遺物

### 2 縄文時代

#### (1) 概要（第21図）

縄文時代の遺構は調査区全体で5基の陥し穴を検出したにとどまった。また、遺物についても中期を中心とする土器片が少量と石器が少量検出されるにとどまった。

#### (2) 遺構（陥し穴）

##### SK-011号（第22図）

調査区の北側の5F-80付近で検出された。開口部の平面形はやや不正な橢円形で、長軸1.6m、短軸1.4m、深さ0.95mである。床面は隅丸長方形に近く長軸1.2m、短軸0.7mである。また床面には径0.2m深さ0.35m程の2個のピットが検出されている。遺物等は伴わないが、形態等より判断して縄文時代の陥し穴と思われる。

##### SK-012号（第23図）

調査区の北側の3F-77付近で検出された。開口部の平面形はやや不正な円形で、径1.1m、深さ0.65mである。床面はほぼ平らで中程に径0.24m、深さ0.38m程のピットが検出されている。遺物等は伴わないが、形態等より判断して縄文時代の陥し穴と思われる。

##### SK-020号（第24図）

調査区の南側の10D-19付近で検出された。開口部の平面形は長方形に近い橢円形で、長軸1.25m、短軸0.98m、深さ0.8mである。床面はやや長方形に近く、長辺0.96m、短辺0.54mである。床面はほぼ平らで、中程に平面形が橢円形の長軸0.32m、短軸0.18m、深さ0.4mのピットが検出されている。遺物等は伴わないが、形態等より判断して縄文時代の陥し穴と思われる。

##### SK-021号（第25図）

調査区のほぼ中程の8E-66付近で検出された。開口部の平面形は長方形に近い橢円形で長軸1.4m、短軸0.78m、深さ0.65mである。床面はほぼ平らで長軸方向で壁際より0.15mよりの位置にピットが2個検出されている。両者とも径0.1mのほぼ円形で深さは0.2m前後ある。遺物等は伴わないが、形態等より判断して縄文時代の陥し穴と思われる。

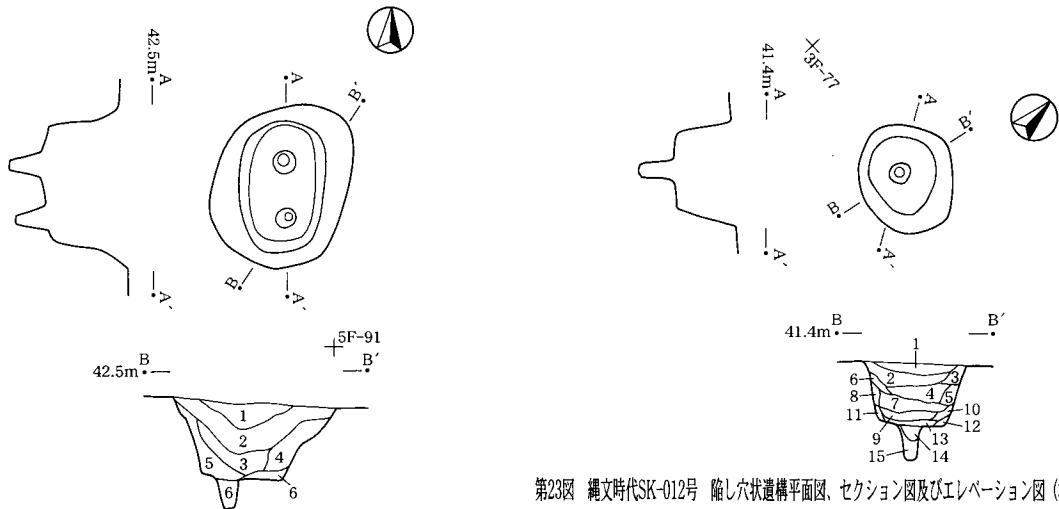
##### SK-027号（第26図）

調査区のほぼ中程の7E-07付近で検出された。開口部の平面形は長方形に近い橢円形で、長軸1.13m、短軸0.66m、深さ0.46mである。床面はやや中央部分が低く傾斜している。長軸方向の壁際に近い部分に径0.2m、深さ0.16~0.2mの円形のピットが2個検出されている。遺物等は伴わないが、形態等より判断して縄文時代の陥し穴と思われる。当初、SD-018号の下で確認された時点で、陥し穴とは思われなかつたためセクション図はとられなかった。

#### (3) 遺物

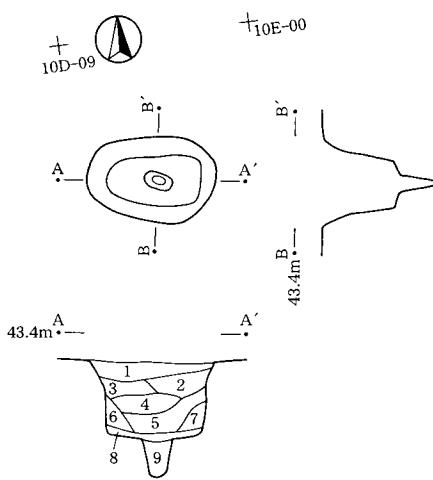
遺構（陥し穴）に伴う遺物は全く検出されなかった。包含層の遺物についても縄文時代中期を中心に土器片が若干検出されている。また、当該時期の石器も数点出土している。

縄文土器（第27図1~18）1~18までは中期の土器群である。1、2は阿玉台式土器である。1は口縁部の把手部分で隆帯の内側に角押文と円形刺突文が施されている。2は口縁部直下に刺突文が施されてい



第23図 繩文時代SK-012号 陥し穴状遺構平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

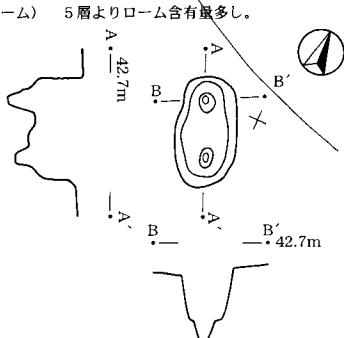
第22図 繩文時代SK-011号 陥し穴状遺構平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第24図 繩文時代SK-020号 陥し穴状遺構平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

SK-011号 土層セクション

- 1層（暗褐色土） ローム粒を多く含む。
- 2層（黒褐色土） ローム粒・ローム塊（c 5～10mm）、暗褐色土を含む。
- 3層（暗褐色土） ローム粒・ローム・明褐色土を含む。
- 4層（暗褐色土） ローム粒・ローム塊（c 10～20mm） ロームを多く含む。
- 5層（黄褐色ローム） ローム粒・ローム塊（c 20～30mm） ローム主体・暗褐色土を含む。
- 6層（黄褐色ローム） 5層よりローム含有量多し。



第25図 繩文時代SK-021号 陥し穴状遺構平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

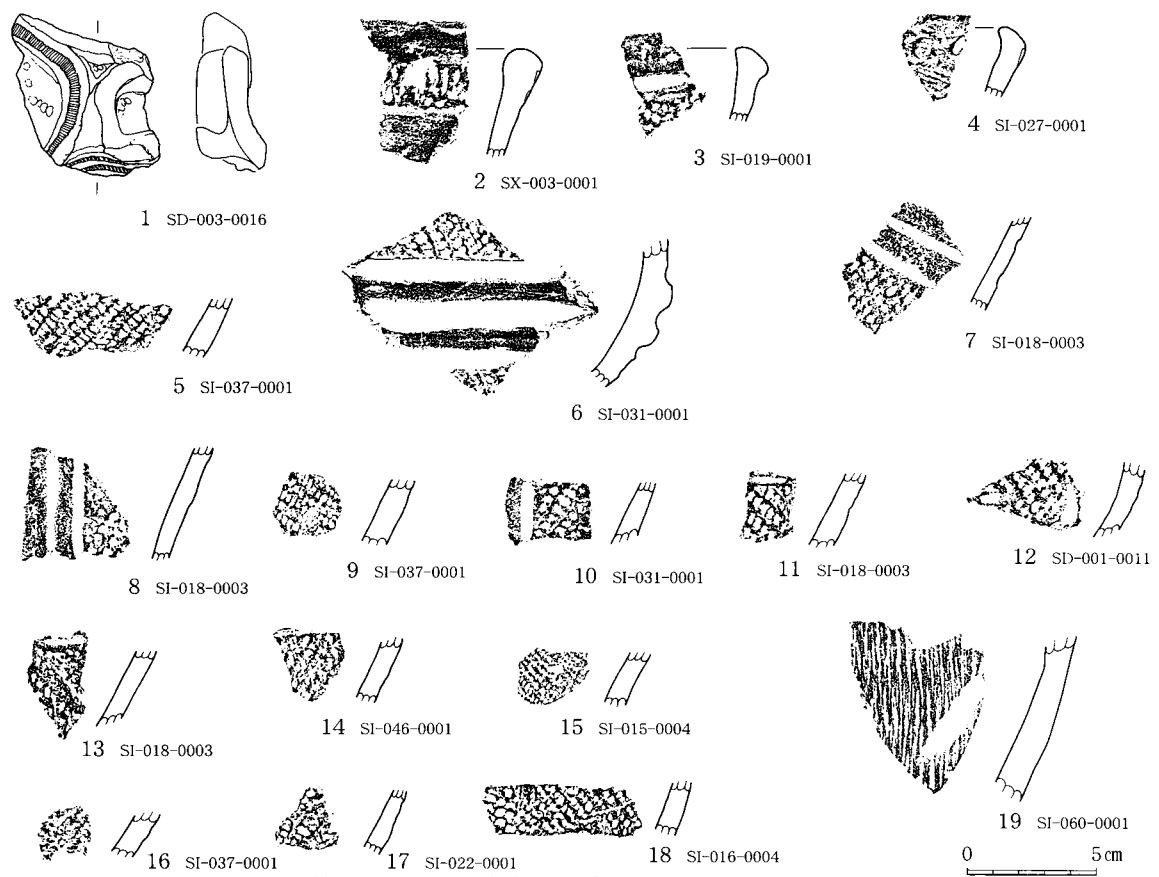
SK-020号 土層セクション

- 1層（暗褐色土） ローム粒少量含む。明るい暗褐色土をブロック状に含む。埋土。
- 2層（暗褐色土） 1層より暗い。ローム粒少量含む。明るい暗褐色土をブロック状に含む。埋土。
- 3層（黒～暗褐色土） 明るい暗褐色土をブロック状に含む。埋土。
- 4層（黒褐色土） ローム粒少量含む。明るい暗褐色土をブロック状に含む。埋土。
- 5層（暗褐色土） 明るい暗褐色土をブロック状に含む。埋土。
- 6層（黒褐色土） 4層より暗い。明るい暗褐色土をブロック状に含む。埋土。
- 7層（黒褐色土） 6層より暗い。明るい暗褐色土をブロック状に含む。埋土。
- 8層（黒褐色土） 6層より暗い。ローム粒少量含む。明るい暗褐色土をブロック状に含む。埋土。
- 9層（黒色土） ローム粒少量含む。やや軟質。
- 10層（褐色土） ローム主体でやや締まりを欠く。

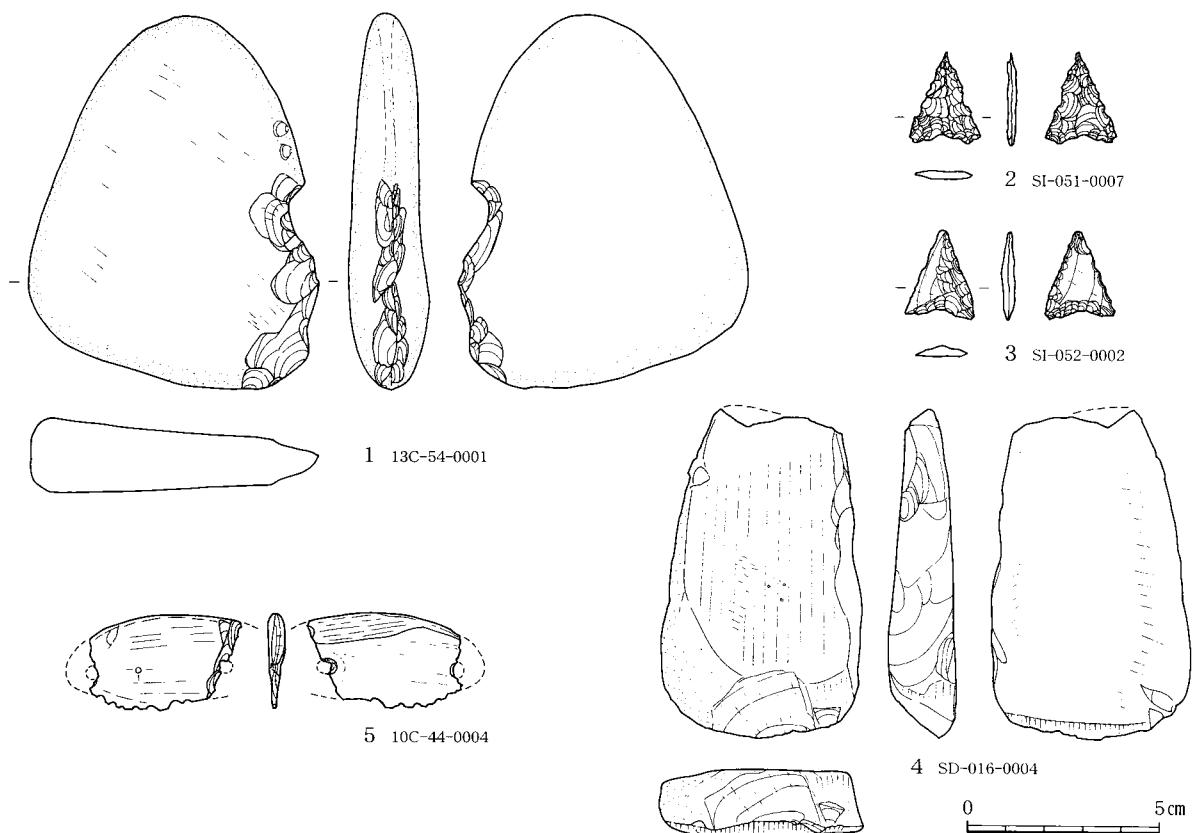
SK-021号 土層セクション

- 1層（暗褐色土） ローム粒少量含む。
- 2層（暗褐色土） 1層より暗色。全体に締まり硬い。埋土。
- 3層（黒～暗褐色土） ローム粒少量含む。炭化物少量含む。全体に締まり硬い。埋土。
- 4層（黒～暗褐色土） ローム粒少量含む。全体に締まり硬い。埋土。
- 5層（褐色土） ローム主体。締まりを欠く。埋土。
- 6層（黒褐色土） ローム粒・ブロック少量含む。全体に締まり硬い。埋土。
- 7層（暗褐色土） ロームを多く含む。全体に締まり硬い。埋土。

第26図 繩文時代SK-027号 陥し穴状遺構平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第27図 繩文時代土器実測図 (Scale 1/3)



第28図 繩文時代石器実測図 (Scale 1/2)

る。3～18は加曾利E式土器である。沈線で区画された文様帶に縄文を施文している破片が多い。これらを含めても遺跡全体から縄文時代の土器片は十数点しかでていない。

石器（第28図1～5）1は凝灰岩製の礫器である。扁平のやや三角形に近い橢円礫の片側側辺部分を加工している。あるいは打製石斧の未製品というべきものかもしれない。2は黒曜石製の石鏸で完形品である。両側とも細かな剥離で調整されている。やや凹基気味の石鏸である。3は安山岩B（トロトロ石）製の石鏸で完形品である。小剥片の縁辺部に沿って細かな剥離で形態を整えている。2と同様に凹基気味の石鏸である。4はやや縁がかった頁岩の礫の片側を折り取ったような素材をもとに刃部側を剥離して形態を整えた後、片側を磨くことで刃部を作り出している。側面も裏側部分の周辺部を若干磨くことで形を整えているようである。5は旧石器時代の第1地点内より出土した石器の混入していた石器である。当初穿孔された痕がみられ、該期の装飾品の類とも思われたが、黒色土の付着等も著しく同質の石材も見られないため、縄文時代以降の遺物として処理した。粘板岩製の鋸歯状の刃部をもった石包丁のような石器ではないだろうか。もしそうであれば弥生時代にかかるものかもしれない。

## 第2節 遺構と遺物

### 3 古墳時代

#### (1) 概要 (第21図)

調査区は南北に細長くのびており、南北に散在する形で古墳時代後期の住居跡が5軒検出されている。遺物についても遺構に伴うものを中心に比較的多く検出されている。

#### (2) 遺構 (住居跡)

##### SI-001号 (第29図、第30図1~7)

(遺構) 調査区の南側の12B-88付近で検出された。平面形状はほぼ正方形である。規模は北西壁が3.04m、南東壁が3.24m、北東壁が3.08m、南西壁3.16mである。主軸方位はN-16°-Wである。覆土は、暗褐色土を主体とし、床面上位にローム粒を多く含む暗黄褐色土が堆積している。ただし、住居跡を斜め方向に走るトレンチャー等による耕作のための攪乱が激しいため、覆土の状況は必ずしも良くない。床面は東西壁付近を除いて、中央部分の一点鎖線で囲んだ部分は硬化している。カマドの遺存状況は悪く火床部のみ検出された。袖部分の痕跡は一部検出されたのみである。南壁際で検出されたピットは梯子ピットと考えられ、最大径0.2m、深さ0.2mである。なお、柱穴等のピットは検出されなかった。

(遺物) 遺物は覆土下層からやまとまって検出されている。覆土がかなり耕作により攪乱されているため正確な廃棄の状態とは思えないが、カマド付近及び住居の中央カマドよりの部分、南西壁際からやまとまって検出されている。図示したのは、土師器杯2点、土師器椀1点、高壺1点、甕2点、瓶1点である。

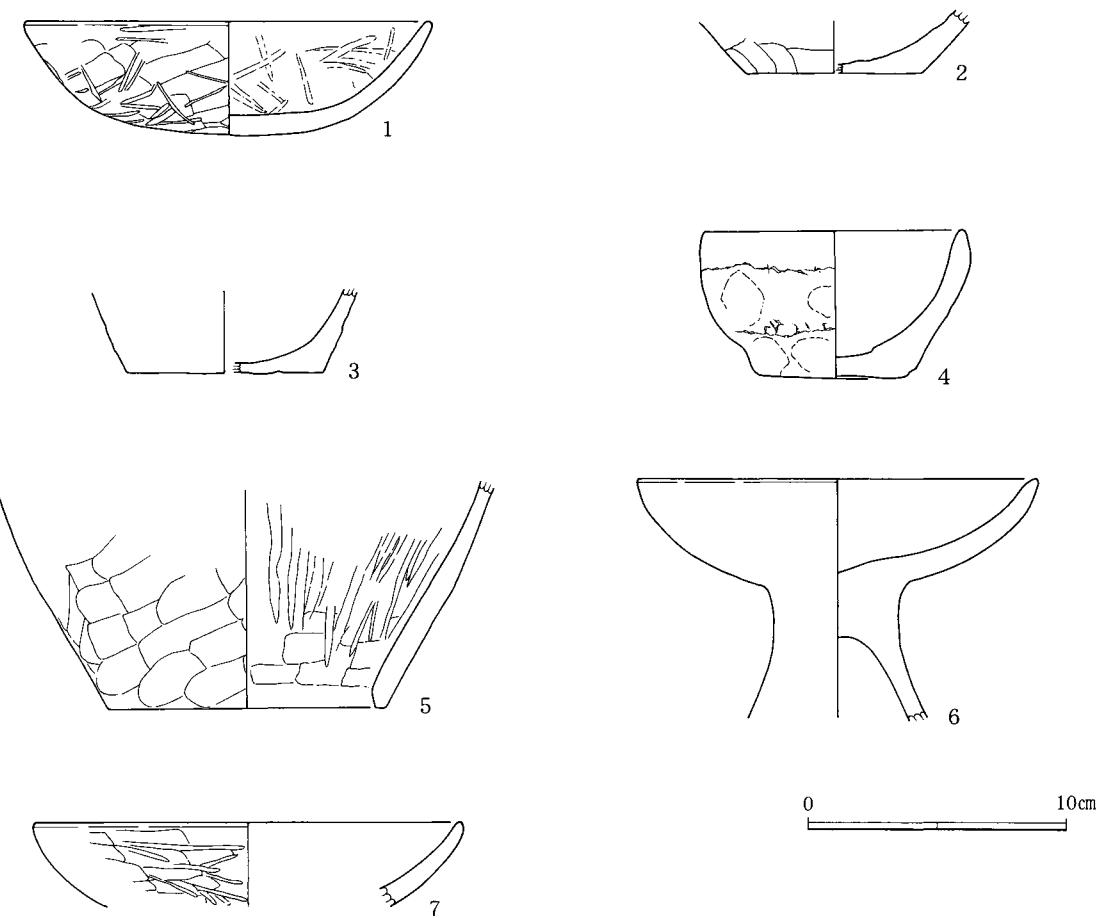
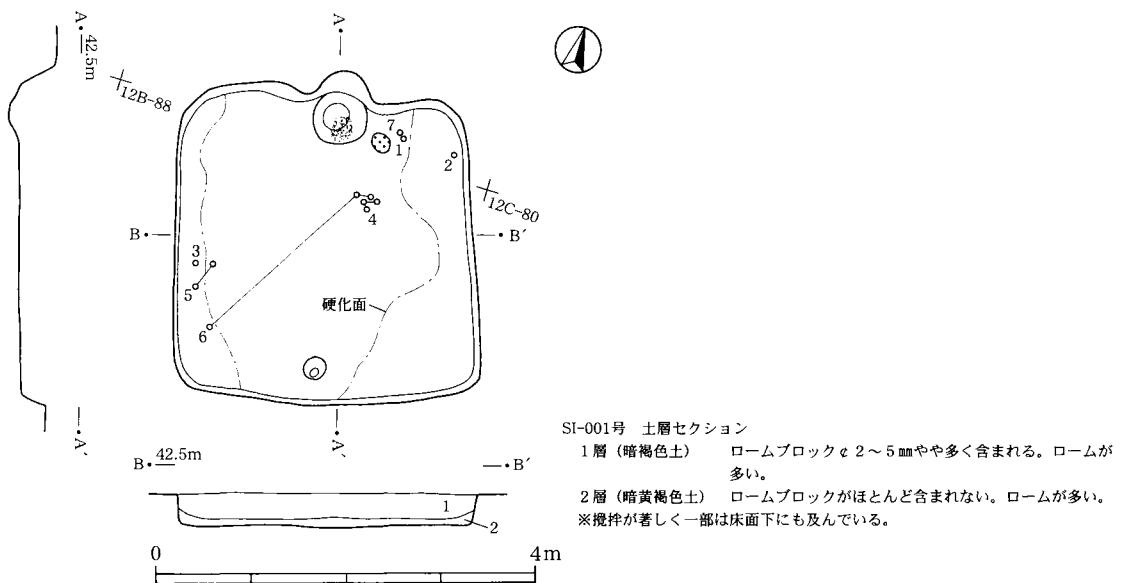
1と7は土師器の杯である。1は口径15.8cm、器高4.4cmである。底部は丸みを残す。外面底部から受部まではヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。口縁部は一部ミガキが施されている。内面はナデ後縦方向から斜め方向のミガキで仕上げられている。7は土師器の杯で破片実測である。推定口径16.75cm、器高は3.5~4.0cmである。外面はヘラケズリ後横方向のミガキで仕上げられている。口縁部はヨコナデ後ヘラケズリされている。内面は斜め方向のミガキで仕上げられている。

2と3は土師器の甕である。2は土師器の甕の底部破片である。推定底部径6.8cmである。器高等は不明である。外面底面及び底部はヘラケズリされている。内面は全体に剥落して調整は不明である。3は土師器の甕の底部破片である。推定底部径7.6cmである。器高等は不明である。外面剥落で調整は不明である。内面はナデによる仕上げであろう。

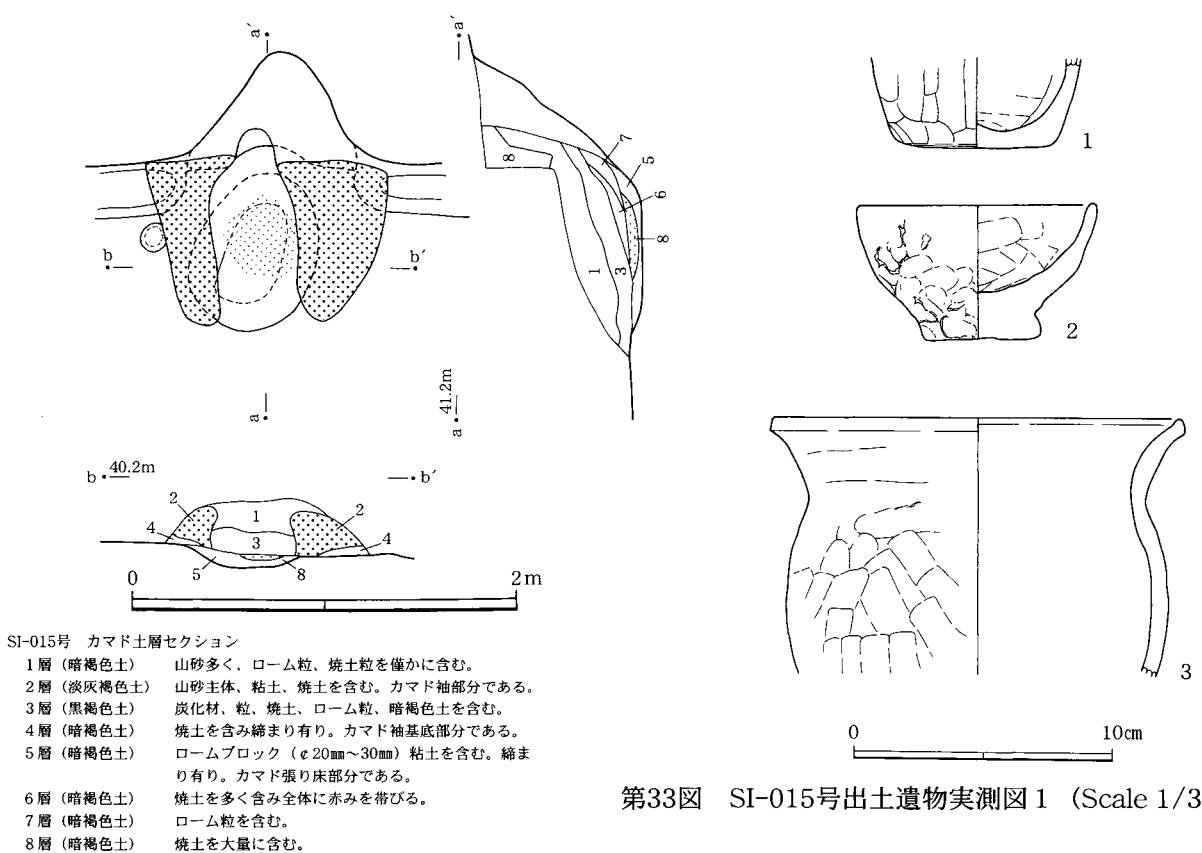
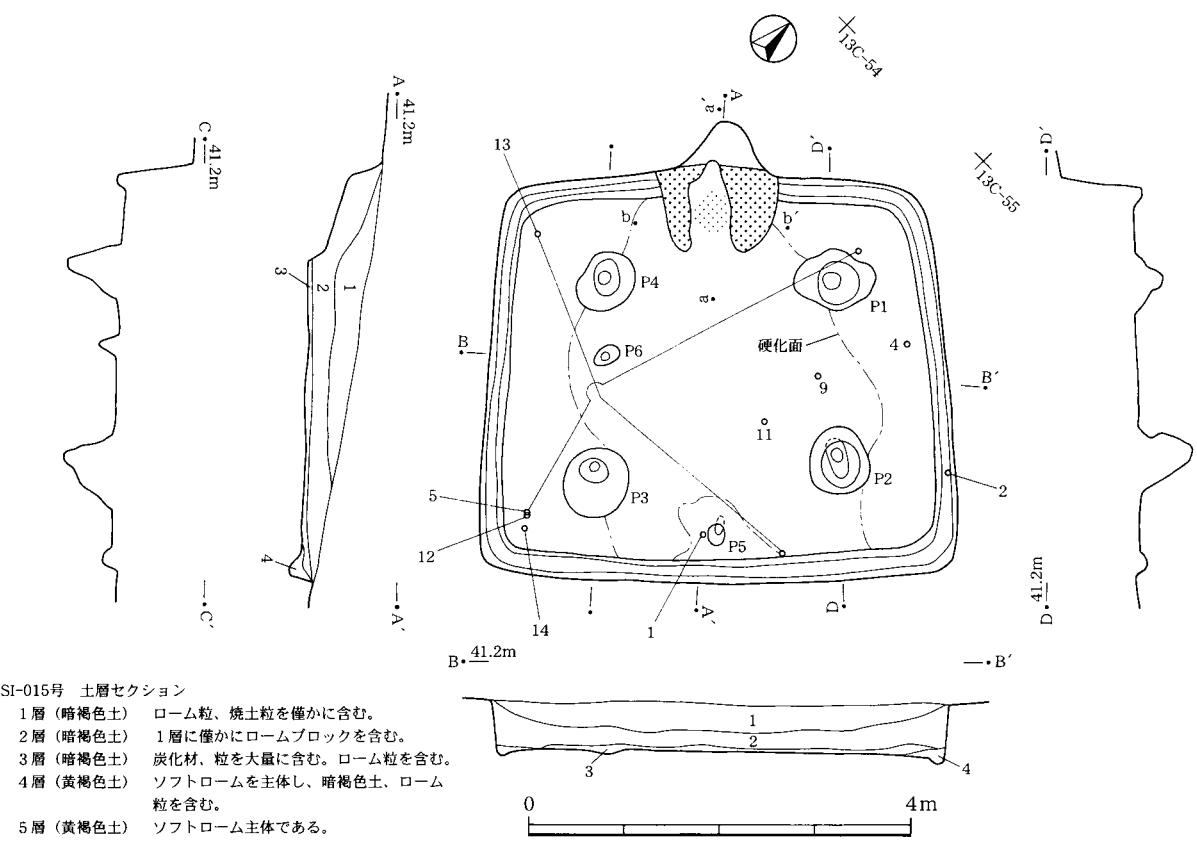
4は土師器の椀である。口径10.05cm、胴部径10.06cm、底部径5.6cm、器高5.6cmである。外面底部は木葉痕がある。底部から胴部は縦方向の軽いナデで輪積み痕が残っている。外面口縁部はヨコナデで仕上げてある。内面はナデで仕上げられている。

5は土師器の瓶である。底部から胴部下半部分の破片実測である。推定底部径10.85cmである。器高等は不明である。外面底部は斜め横方向のヘラケズリである。内面はヘラケズリ後縦方向のミガキで仕上げてある。

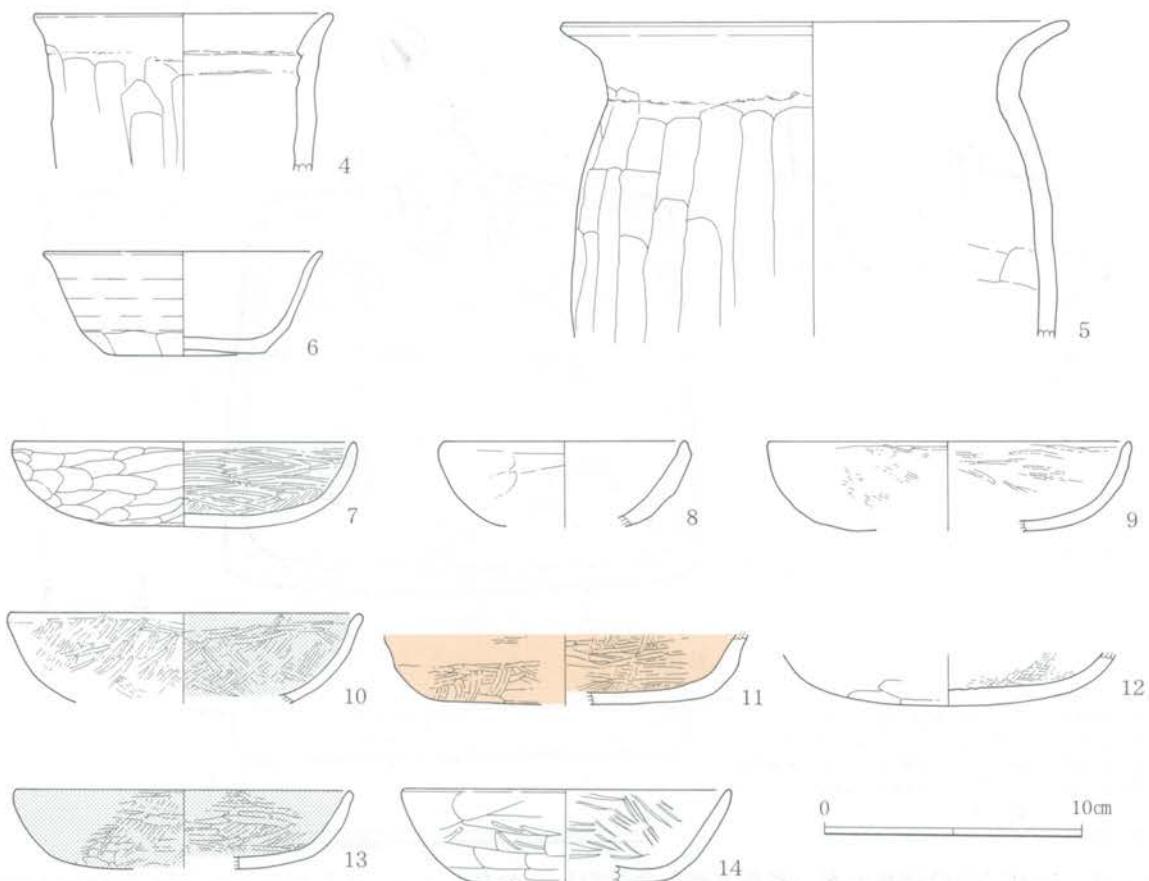
6は高杯である。口径15.6cm、器高は脚部分が欠損のため不明である。脚部はヘラケズリ後ヘミガキ、内面はヨコナデ後ミガキで仕上げてある。



第30図 SI-001号 住居跡出土遺物実測図 (Scale 1/3)



第32図 SI-015号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第34図 SI-015号 住居跡出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

#### SI-015号 (第31図～第32図、第33図～第34図 1～14)

(遺構) 調査区の最も南側の13C-54付近で検出された。平面形状はやや南東壁側が長く、やや台形に近い方形になるものと思われる。規模は北西壁4.35m、北東壁4.08m、南東壁5.0m、南西壁4.12mである。主軸方位はN-45°-Wである。他の住居と比較すると攪乱を受けておらず、遺存状況は極めて良好である。覆土の基本層序は暗褐色土が主体で、1層～3層に自然堆積で分層されている。なお、壁際に黄褐色土の堆積土が見られる。

カマドは北西壁中央部に位置している。一部は攪乱を受けているものの火床部、袖部分については殆ど検出できた。焼成状況の残り状態も良好である。住居の主柱穴はP1～P4まで検出された。P1は20cmと浅いがP2～P4については50～55cmと比較的深い。P5は梯子ピットと思われる。P6は深さ10cm足らずの小ピットで柱穴と考えられる。主柱穴の検出状況から建て替えられた可能性も考えられる。床面の硬化部分が主柱穴を取り囲む内側部分で確認されており、床面全体の遺存状況も極めて良好である。

(遺物) 遺物は住居全体よりまんべんなく出土している。図示したのは、土師器杯9点、土師器碗1点、土師器甕4点である。

6～14は土師器の杯である。6は土師器の杯で1/3程遺存している。口径10.8cm、底径6.4cm、器高4.0cmである。外面はナデ、底部は手持ちヘラケズリで調整されている。底面については回転糸切り後、周辺部をヘラケズリで仕上げている。内面は全体にナデで仕上げられている。6については住居の構築された時期より新しい時期のものと思われる。7は土師器の杯の口縁部の破片ではほぼ2/3遺存している。口

径13.3cm、底径は丸いので不明である。6.0cm、器高3.8cmである。外面は口縁部ナデ、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面についてはナデで仕上げられている。8は土師器の杯の口縁～底部破片である。およそ1/2遺存している。口径9.6cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ後胴部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。9は土師器の杯でほぼ1/3程度遺存している。口径14.0cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。内外面ともかなり荒れて剥落している。10は土師器の杯の破片でほぼ1/5程度遺存している。口径13.8cmで他は不明である。外面はヘラケズリ後ミガキで調整されている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。内面は黒色処理されている可能性がある。11は土師器の杯の底部～底面の破片である。底面のおおよそ1/4遺存している。底面は丸底で計測は不能で、他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、底部底面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面はナデ後密にミガキで仕上げられている。また、内外面とも赤彩されている。12は土師器の杯の底面破片である。底面のほぼ1/2遺存している。底面は丸底で計測は不能で、他は不明である。外面はヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられているが、剥落が著しい。13は土師器の杯の破片でおおよそ1/10遺存している。他にも接合しない同一固体と思われる破片が数点出土している。口径13.1cmで他は不明である。外面はヘラケズリ後ミガキで調整されている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。内外面とも黒色処理されている可能性が高い。14は土師器の杯の破片で1/4程度遺存している。口径13.0cmで他は不明である。外面はヘラケズリ後ミガキで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。

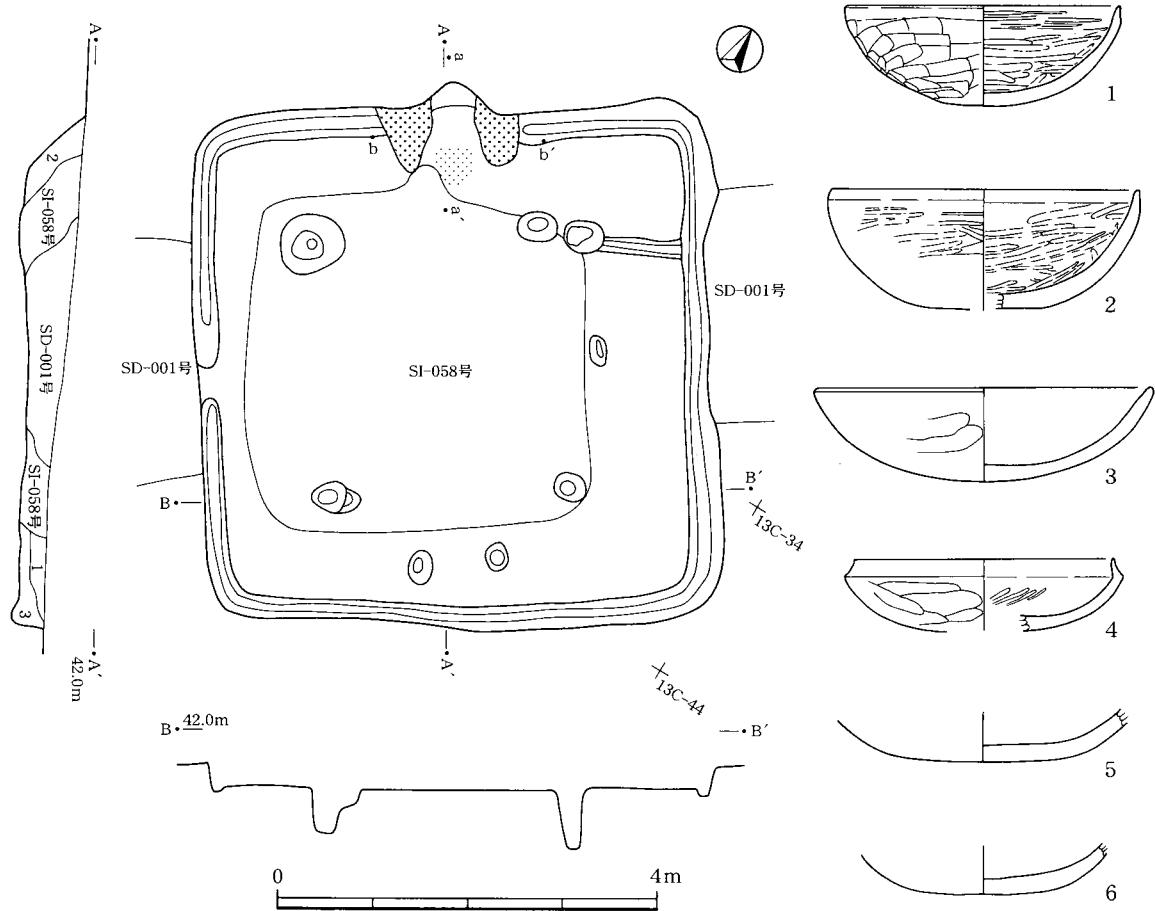
1、3～5は土師器の甕である。1は土師器の甕の底部破片である。底径6.0cmで他は不明である。外面は底部、底面ヘラケズリで調整されている。内面はヨコナデで仕上げられている。3は土師器の甕の口縁部～胴部にかけての破片である。口径15.8cmで他は不明である。外面は口縁部ナデ、胴部はヘラケズリで調整されている。内面はヨコナデで仕上げられている。4は土師器の甕の口縁部～胴部の破片である。口径11.7cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられているが、成形時の輪積み痕が明瞭に見られ、装飾的である。5は土師器の甕の口縁部～胴部にかけての破片である。1/3程度遺存していると思われる。口径19.7cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリ後ナデで仕上げられている。頸部に輪積み痕が見られる。内面は口縁部ヨコナデ、胴部はナデで仕上げられている。なお、内面は二次焼成時に剥落している。

2は土師器の椀である。ほぼ1/2遺存している。口径9.1cm、底径4.4cm、器高5.3cmである。内外面ともナデで調整されており手捏ね風の土器である。

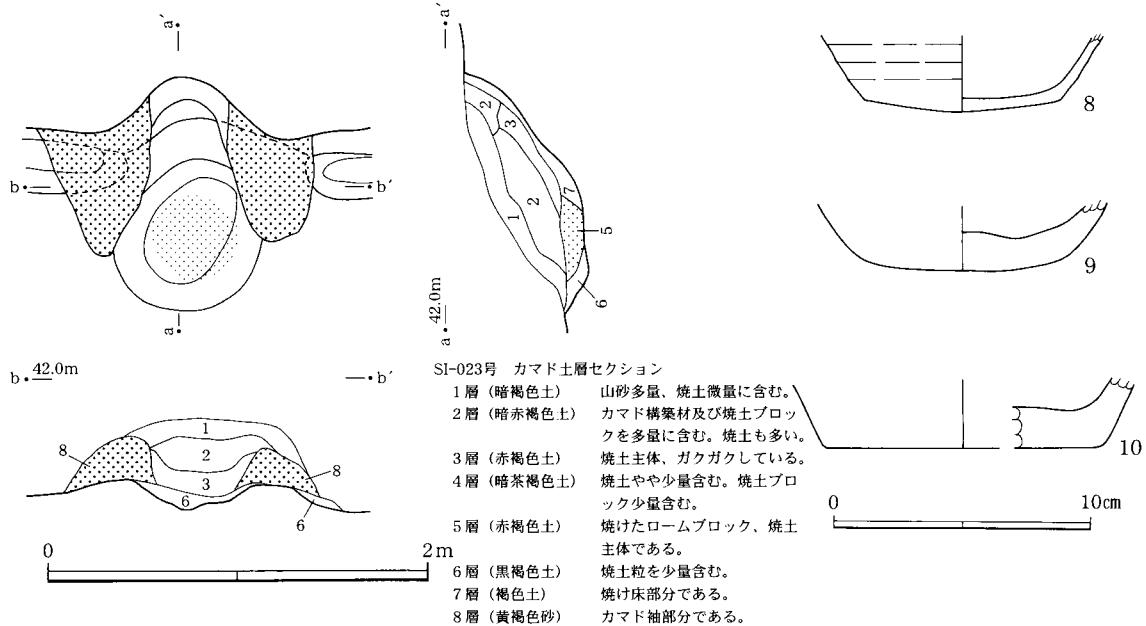
#### SI-023号（第35図～第36図、第37図～第38図1～17）

（遺構）調査区の南側の13C-21付近で検出された。平面形状はほぼ正方形である。規模は北西壁5.40m、北東壁5.42m、南東壁5.38m、南西壁5.33mである。主軸方位はN-31°-Wである。覆土は暗褐色土を主体として3層に分かれ。なおSI-023号の住居の中央部分をSI-058号の住居及びSD-001号の溝状遺構によって切られている。

カマドは北西壁中央部に構築されており、遺存状況は比較的良好である。火床部や袖部分の残存状況も良く、カマドの構築状況もよくわかるものである。住居の主柱穴はP1～P4まで確認された。P5について

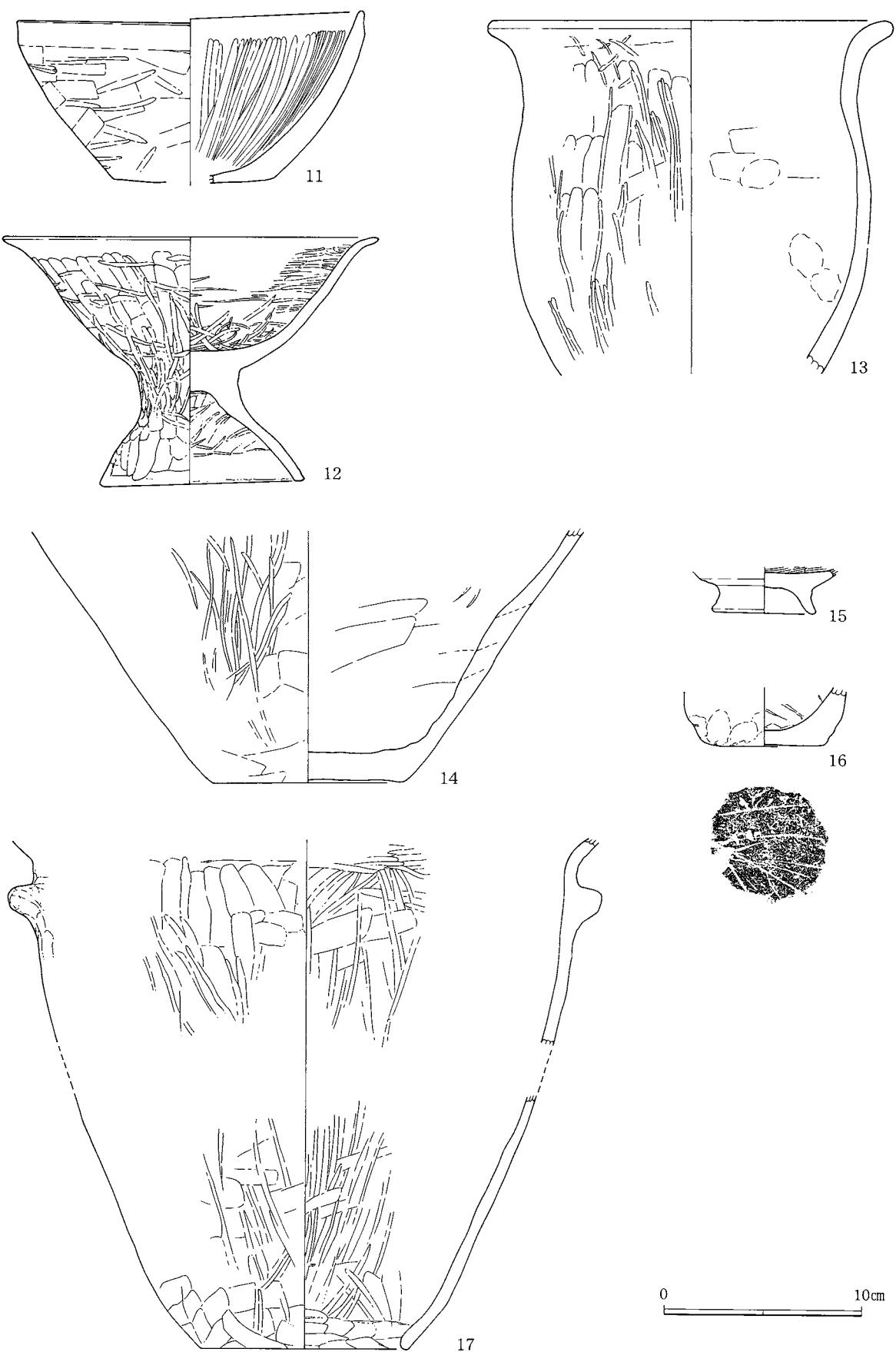


第35図 SI-023号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第36図 SI-023号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

第37図 SI-023号 出土遺物実測図1 (Scale 1/3)



第38図 SI-023号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

もP4の横への移動を含め、建て替えの可能性も考えられるため主柱穴に含めて良いかもしれない。なお、P1、P4については、SI-058号住居で使用された可能性があることが指摘されている。床面からの深さはP1が40cm、P2が28cm、P3が58cm、P4が48cm、P5が42cmである。P7、P8については梯子ピット等の住居の付属施設に伴うピットと思われる。P7は床面からの深さが46cm、P8は26cmある。また住居の壁周溝も南西壁中央部分で一部見られなくなるもののほぼ全周する。またP5と北東壁を結ぶように間仕切り溝も検出されている。床面はほぼ中央部分をSI-058号住居に切られているため硬化面などは不明である。ただセクションなどで判断する限り床面はSI-058号やSD-001号などと同レベルにあったためそれほど壊されていないことが解る。

(遺物) 遺物は床面が他の遺構に切られていない北西壁の東側及び西側コーナーに近い部分でややまとまって出土した。図示したのは、土師器杯7点、須恵器杯1点、土師器甕4点、土師器鉢1点、土師器高杯1点、土師器瓶1点である。

1～6、8、15、16は土師器の杯である。1は土師器の杯で4/5程度遺存している。口径10.5cm、器高3.9cmである。底径は丸底であるため計測不能である。外面は口縁部ヨコナデで、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面は口縁部ヨコナデ後底部から底面にかけてミガキで仕上げられている。2は土師器の杯でほぼ1/2遺存している。口縁部がやや内曲し、底面はかすかに稜が見られる。口径11.95cm、器高4.7cmである。外面は口縁部ヨコナデ、胴部～底部ミガキで調整されている。やや摩滅気味である。内面はミガキで仕上げられている。3は土師器の杯で1/5程度遺存している。丸底で浅くやや外側に開く器形である。口径13.2cm、器高3.7cmである。外面は口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上がれている。4は土師器の杯で1/4程度遺存している。丸底で口縁部を内側に折り曲げるような器形をしている。口径10.1cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデで、底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。5は土師器杯の底部破片である。丸底の器形で3と似た形状になると思われる。外面はナデで調整されている。内面はナデ後軽いミガキが見られるようである。6は土師器の杯の底部破片である。丸底の器形で3と似た形状になると思われる。外面はナデで一部ヘラケズリも認められる。内面はナデで仕上げられている。8は土師器の杯の底部破片である。底面がやや弧状になる。底径7.6cmで他は不明である。外面はロクロナデ、底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。15は土師器の高台付きの杯の底面と高台部分の破片である。高台部分の底径5.0cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリで調整されている。内面は底面部分ミガキ後黒色処理が施されている。高台部分の外面はヨコナデ、内面はヨコナデで仕上げられている。16は杯で手捏ね風である。口縁部は欠けている。底径6.0cmで他は不明である。外面は指頭による圧痕が見られる。底面は木葉痕が残っている。内面は一部ヘラナデが見られる。

7は須恵器の杯で底部底面破片である。底面部分は約1/4程度遺存している。底径8.2cmで他は不明である。外面は底部ロクロナデ、底面は回転ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

9、10、13、14は土師器の甕である。9は土師器の甕の底面破片である。内外面ともナデで仕上げられている。底径8.0cmで他は不明である。底面はやや丸みのある器形をしている。10は土師器の甕の底部底面破片である。底面の1/5程度遺存している。底径10.8cmで他は不明である。外面は底部底面ともヘラケズリで調整されている。内面はやや粗いナデで仕上げられている。13は土師器の甕の口縁部～底部にかけての破片である。口径20.0cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、頸部～底部にかけてヘラケズリ

後ナデ、所々にミガキが見られる。内面は口縁部ヨコナデ、胴部以下には指頭痕が見られる。全体に剥落気味である。14は土師器の甕の底部である。底径9.8cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリ後ナデで一部ミガキが見られる。内面はヘラナデで調整されている。底面にかけては剥落が著しい。

11は土師器の鉢である。底部から広がりながら立ち上がり、口縁部にかけて緩やかに内曲している。やや厚みのあるものである。底面の中程が破損してないものの全体の遺存状況は極めて良好である。口径17.4cm、底径8.2cm、器高8.7cmである。外面は口縁部ヨコナデ、胴部から底部にかけてヘラケズリ後ナデ及びミガキで仕上げられている。内面については明瞭なミガキで仕上げられている。

12は土師器の高杯である。口縁部にかけて外反する器形である。口径18.8cm、底径10.4cm、器高12.7cmである。口縁部が1/3程度破損しているもののその他の部分はほぼ遺存している。外面は口縁部ヨコナデ、胴部～底部にかけてはヘラケズリ後粗くミガキをかけて仕上げられている。内面は口縁部付近が密にミガキ、底部にかけては粗くミガキで仕上げられている。脚部の内面はヘラナデが主体で所々ミガキで仕上げられている。内面口縁部付近に薄くススが付着している。

17は土師器の甕である。口縁部と胴部の一部がない。底径10.6cmで他は不明である。外面はヘラケズリ後ナデ、所々にミガキが見られる。内面はヘラナデ後ミガキで仕上げられている。

#### SI-037号（第39図～第40図、第41図1～6）

（遺構）調査区のやや南側の8D-95付近で検出された。平面形状は柱穴等より判断するとほぼ正方形に近い形になると思われる。西側の壁際全体をSD-003号の溝に一部は床まで達するほど切られているため正確な規模は不明であるが、主軸方向から判断すると一辺6.85m前後になるかと思われる。主軸方位はN-20°-Wである。覆土は暗褐色土を主体とする。比較的覆土の残りはよい。

カマドは北西壁中央部分に構築されていたと思われる。カマドは比較的左袖側の残りがよい。火床部の残りもよく掘り方レベルでの検出状況も良好である。床面からは主柱穴と思われるP1～P4のピットが検出されている。また、南西壁際中央部分より梯子ピットと思われるピットP5が検出されている。またカマド右側の東側の壁際より貯蔵穴のピットが検出されている。また壁周溝は溝で切られている部分を除いてほぼ全周する。

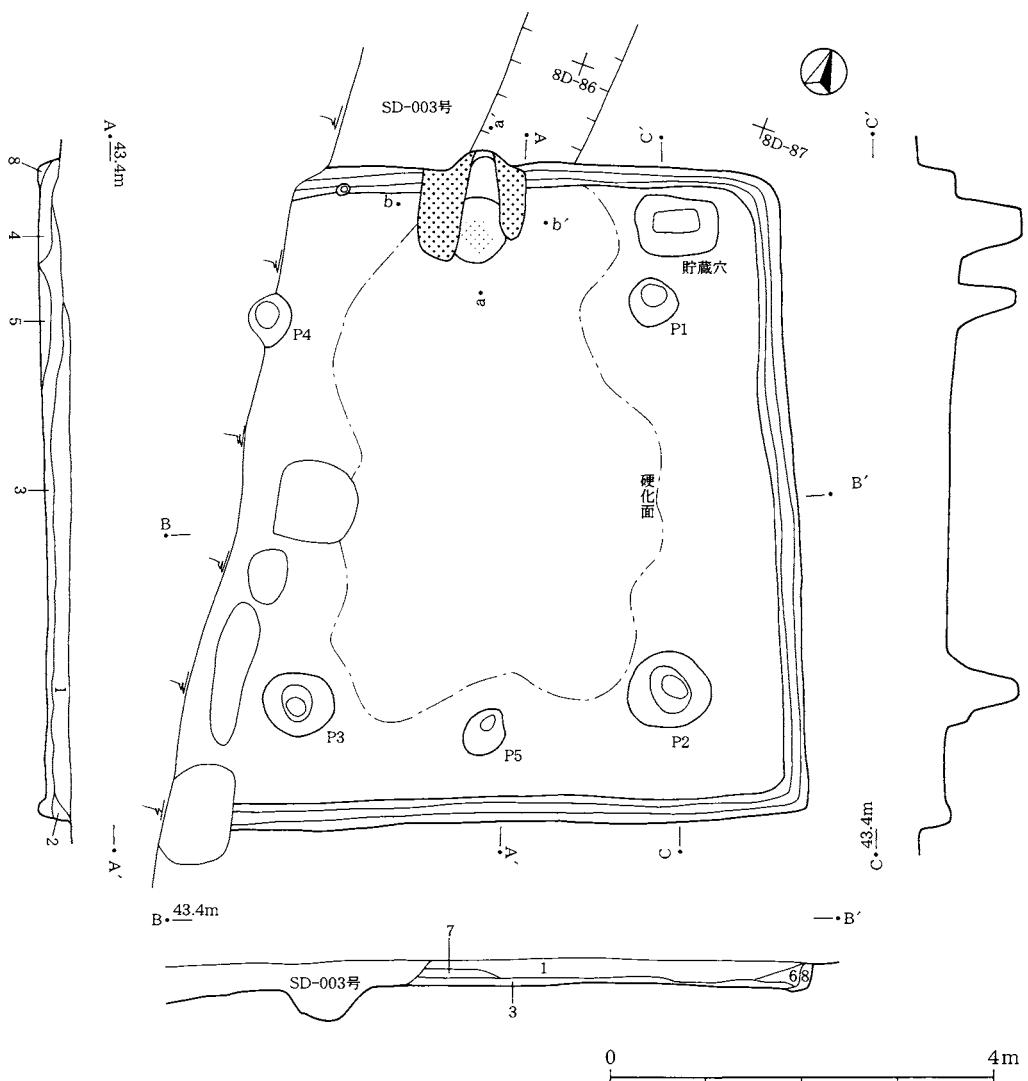
（遺物）遺物については住居跡の覆土の残りがよい東側の覆土中より比較的多く出土している。図示したものは、土師器甕1点、土師器高杯2点、土師器甕2点、土師器杯1点である。

1は土師器の甕である。口縁部と胴部に一部欠損部分はあるものの比較的遺存状況は良好である。口径15.2cm、底径6.8cm、器高25.8cmである。胴長でやや下半部に最大径がくる器形になる。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下は縦方向のヘラケズリ、底部以下は斜め方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられているが、やや器面が荒れており詳細は不明である。

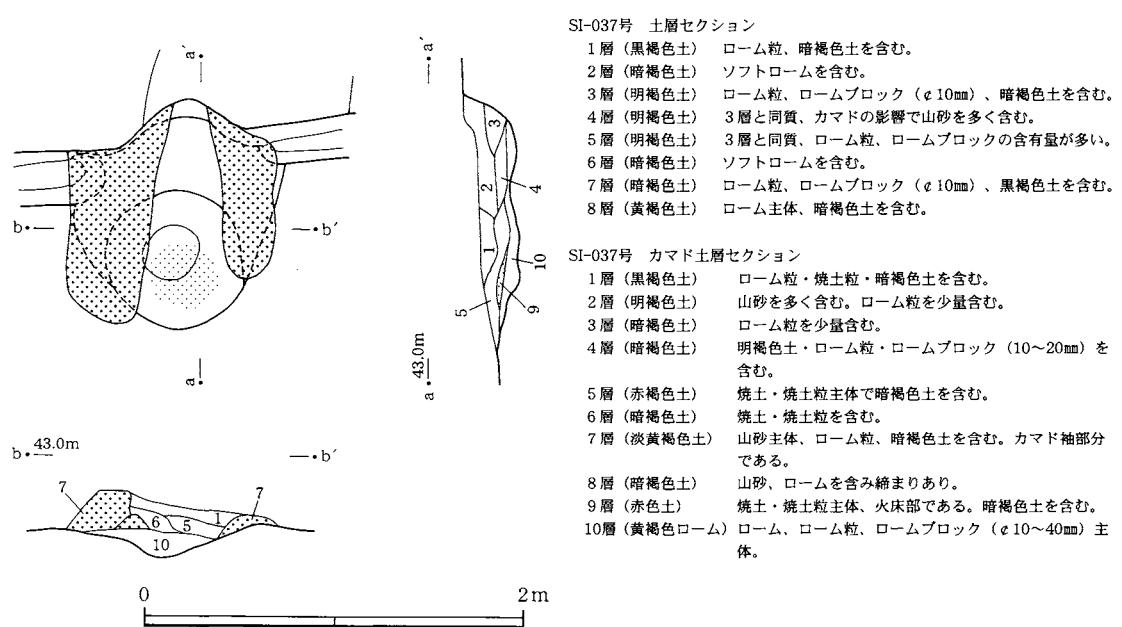
2、3は土師器の高杯である。何れも高杯の脚部のみ残存している。2については本体部分が一部残存している。脚部外面はヘラケズリで調整されている。3についても同様である。

4は土師器の杯である。口縁部が一部欠損するものの全体では遺存状況は良好である。口径13.8cm、底径は丸底、器高3.9cmである。外面口縁部ヨコナデ、底部底面は手持ちヘラケズリで調整されている。内面はやや荒れているものの回転させてミガキを行っているようである。

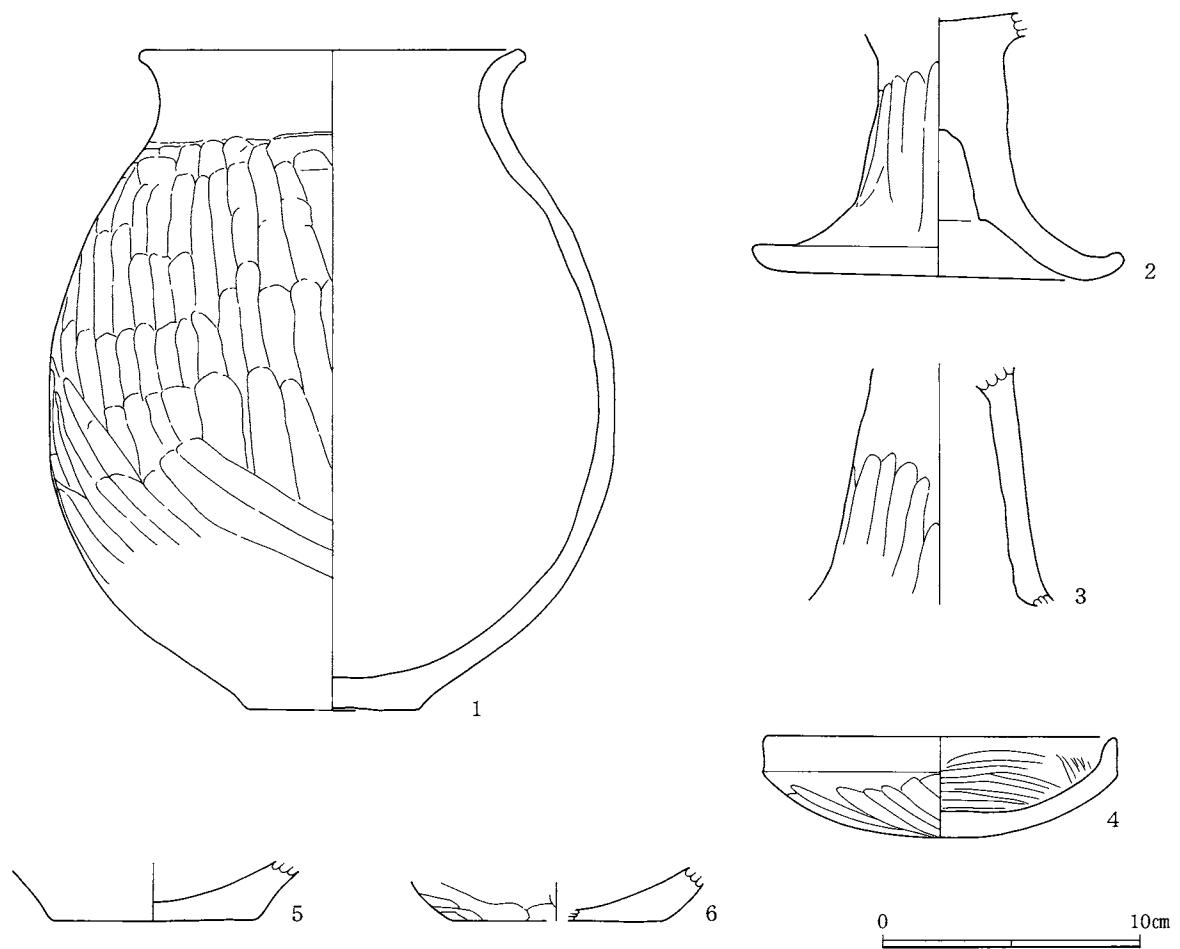
5、6は土師器の甕の底部破片である。5は底径8.0cmで他は不明である。6は底径8.2cmで他は不明で



第39図 SI-037号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第40図 SI-037号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第41図 SI-037号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

ある。何れも1と同様な器形になると思われる。外面はヘラケズリ、内面はナデで仕上げられている。

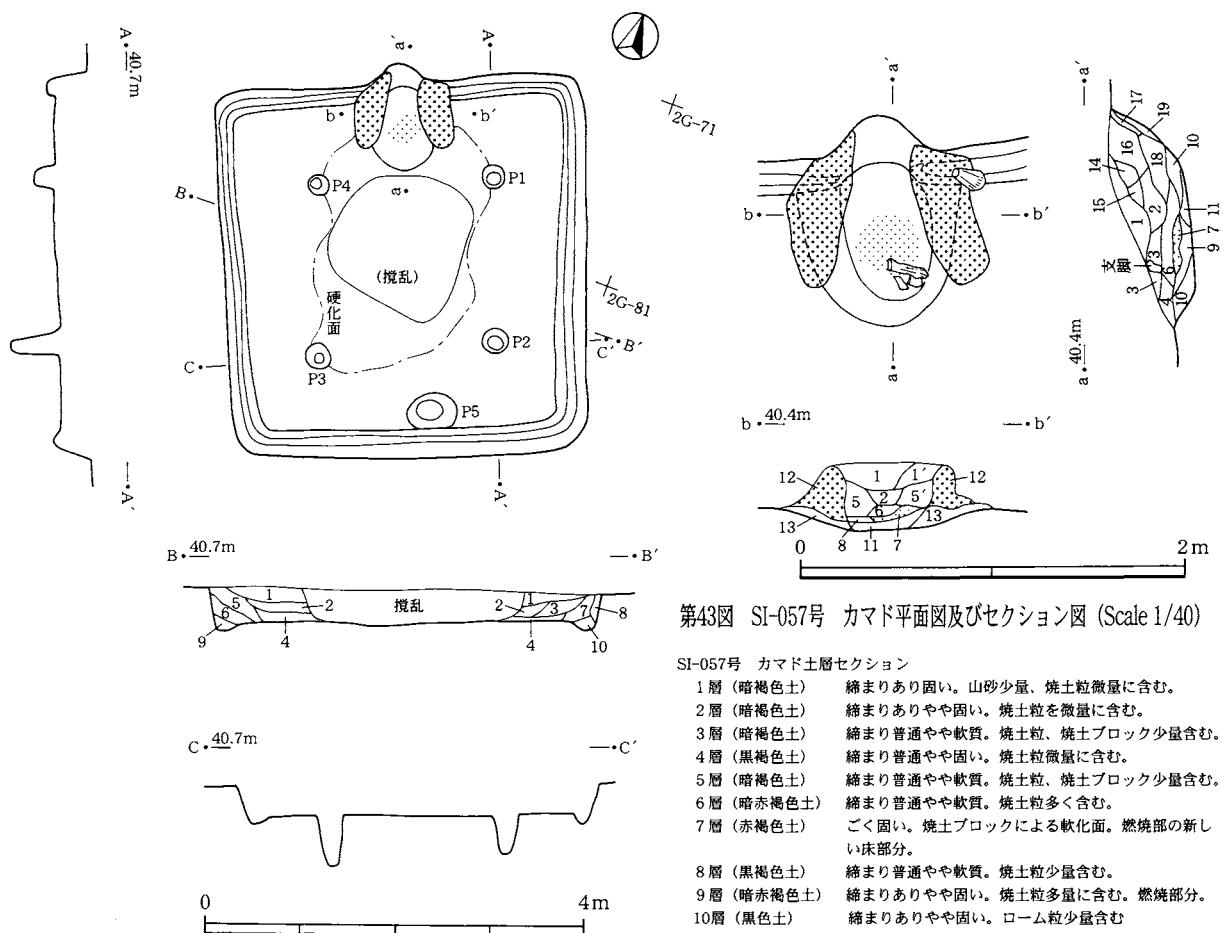
#### SI-057号 (第42図～第43図、第44図～第46図 1～21)

(遺構) 調査区の北側の2F-79付近で検出された。住居の中央床面下に達する深さまで近世以降の炭窯により攪乱をうけているが、平面形状はほぼ4m程度の正方形に近い形になると思われる。北西壁3.90m、北東壁3.98m、南東壁3.78m、南西壁3.84mである。主軸方位はN-20°-Wである。覆土は黒～暗褐色土を主体とする。中央部分の炭窯で壊された部分を除き、比較的覆土の残りはよい。

カマドは北西壁中央部分に構築されていた。カマドは袖部分、火床部の残りもよく掘り方レベルでの検出状況も良好である。支脚等の遺物も残されている。床面からは主柱穴と思われるP1～P4のピットが検出されている。また、南西壁際中央部分より梯子ピットと思われるピットP5が検出されている。また壁周溝はカマド部分を除いて全周する。

(遺物) 遺物についてはカマド及びその周辺部より多量の土器片等が出土している。図示したものは、土師器杯6点、土師器甕5点、土師器瓶3点、土師器鉢5点、土師器高杯1点、須恵器甕2点である。

1～6は土師器の杯である。1は土師器の完形の杯である。口縁部から体部にかけて内曲する器形であ



第42図 SI-057号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

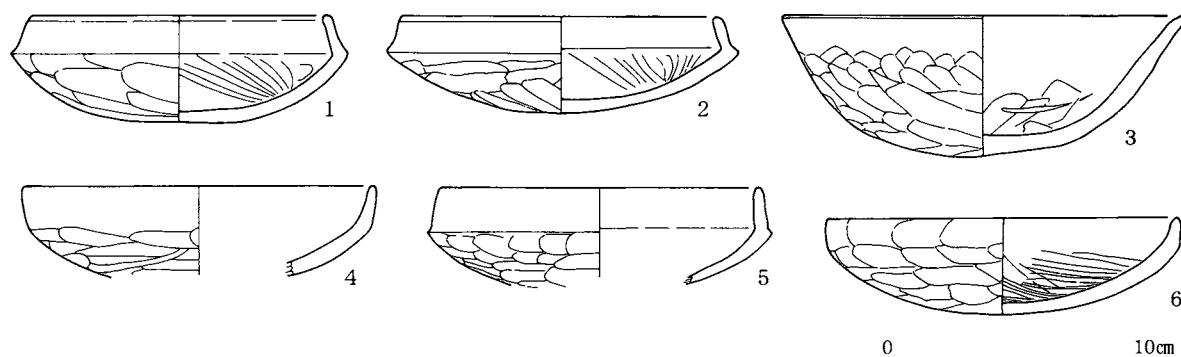
SI-057号 カマド土層セクション

- 1層（暗褐色土） 繊まりあり固い。山砂少量、焼土粒微量に含む。
- 2層（暗褐色土） 繊まりありやや固い。焼土粒を微量に含む。
- 3層（暗褐色土） 繊まり普通やや軟質。焼土粒、焼土ブロック少量含む。
- 4層（黒褐色土） 繊まり普通やや固い。焼土粒微量に含む。
- 5層（暗褐色土） 繊まり普通やや軟質。焼土粒、焼土ブロック少量含む。
- 6層（暗赤褐色土） 繊まり普通やや軟質。焼土粒多く含む。
- 7層（赤褐色土） ごく固い。焼土ブロックによる軟化面。燃焼部の新しい床部分。
- 8層（黒褐色土） 繊まり普通やや軟質。焼土粒少量含む。
- 9層（暗赤褐色土） 繊まりありやや固い。焼土粒多量に含む。燃焼部分。
- 10層（黒色土） 繊まりありやや固い。ローム粒少量含む
- 11層（暗赤褐色土） 繊まりありやや固い。焼けたロームブロックを含む。焼土粒やや多く含む。燃料部分。
- 12層（灰褐色土） しまりありごく固い。山砂主体、袖部分。

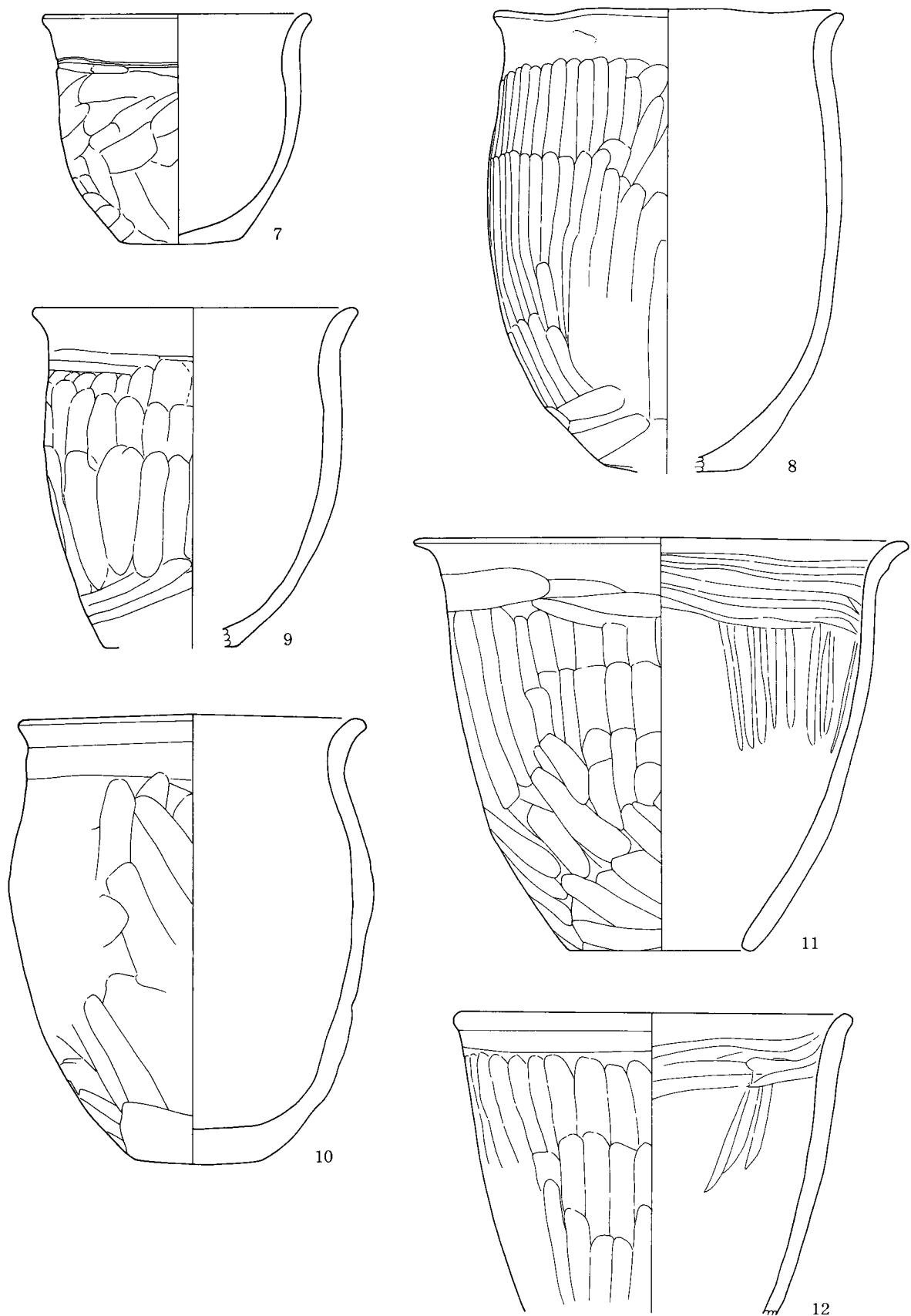
第43図 SI-057号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

SI-057号 カマド土層セクション

1層（暗褐色土）	繊まりあり固い。山砂少量、焼土粒微量に含む。
2層（暗褐色土）	繊まりありやや固い。焼土粒を微量に含む。
3層（暗褐色土）	繊まり普通やや軟質。焼土粒、焼土ブロック少量含む。
4層（黒褐色土）	繊まり普通やや固い。焼土粒微量に含む。
5層（暗褐色土）	繊まり普通やや軟質。焼土粒、焼土ブロック少量含む。
6層（暗赤褐色土）	繊まり普通やや軟質。焼土粒多く含む。
7層（赤褐色土）	ごく固い。焼土ブロックによる軟化面。燃焼部の新しい床部分。
8層（黒褐色土）	繊まり普通やや軟質。焼土粒少量含む。
9層（暗赤褐色土）	繊まりありやや固い。焼土粒多量に含む。燃焼部分。
10層（黒色土）	繊まりありやや固い。ローム粒少量含む
11層（暗赤褐色土）	繊まりありやや固い。焼けたロームブロックを含む。焼土粒やや多く含む。燃料部分。
12層（灰褐色土）	しまりありごく固い。山砂主体、袖部分。
13層（暗褐色土）	しまりありごく固い。ロームを多く含む。袖部分。
14層（灰褐色土）	繊まりあり固い。山砂主体。
15層（灰暗褐色土）	繊まり普通やや軟質。山砂をやや多く含む。
16層（黒～暗褐色土）	繊まり普通やや軟質。炭化物少量含む。
17層（灰褐色土）	繊まりあり固い。山砂主体。
18層（暗褐色土）	繊まりありやや軟質。炭化物、焼土粒微量に含む。
19層（暗褐色土）	繊まりありやや固い。ローム粒少量含む。
20層（暗褐色土）	やや灰色がかる。繊まりありやや固い。山砂、ローム少量含む。



第44図 SI-057号 出土遺物実測図 1 (Scale 1/3)

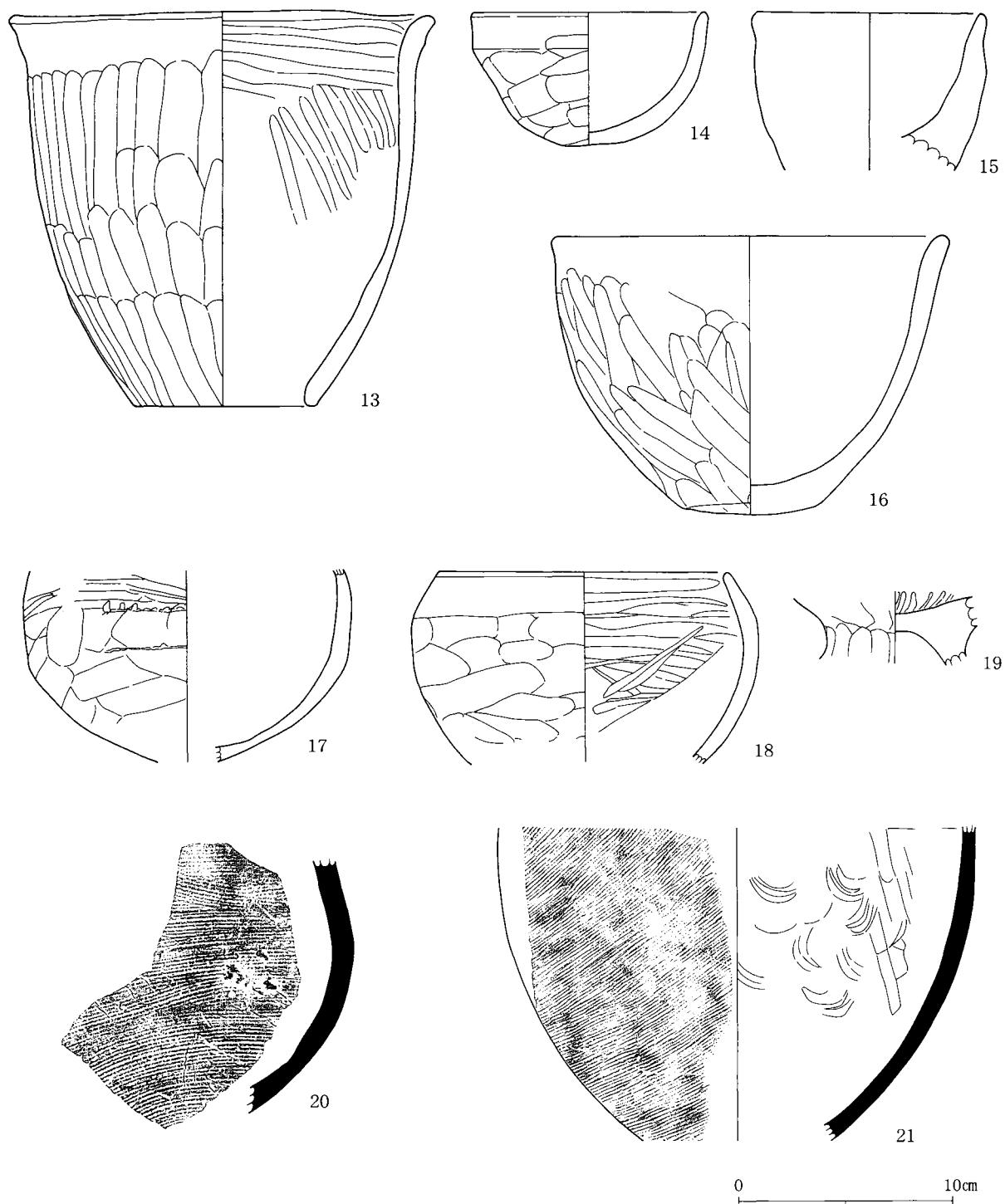


第45図 SI-057号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

る。底面は丸底である。口径11.6cm、器高4.2cmである。外面口縁部はナデ、体部から底部にかけては横方向のヘラケズリで調整されている。内面は同心円状にミガキを入れてある。2は土師器の完形の杯である。1と比べて底部から体部への立ち上がりが直線的である。口径12.5cm、器高3.8cmである。底面は丸底である。外面口縁部はナデ、体部から底部にかけては横方向のヘラケズリで調整されている。内面は1と同様に同心円状にミガキを入れてある。3は土師器の完形の杯である。底面は丸底で丸みを持ちやや口縁部にかけて外反する器形である。口径15.7cm、器高5.5cmである。外面口縁部はナデ、底部にかけては斜め方向を主体とする丁寧なヘラケズリで調整されている。内面はヘラケズリ後ナデで仕上げてある。4は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。底面は丸底で底部は緩やかに立ち上がり口縁部は急激に立ち上がる。口径13.8cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、底部ヘラケズリで調整してある。内面はナデで仕上げられている。5は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。1、2と同じ器形で口縁部が内曲する。口径12.6cmで丸底になると思われる。外面口縁部はナデ、底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデ後、軽くミガキで仕上げられている。6は土師器の杯で口縁部の一部を除き、残存している。4と同じような器形である。口径13.6cm、底径丸底、器高3.8cmである。外面横方向のヘラケズリ、内面ミガキで仕上げられている。

7～10は土師器の甕である。7は土師器の小形の甕で、ほぼ完形である。口径13.2cm、底径6.3cm、器高11.6cmである。外面口縁部はナデ、胴部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデ後、ミガキで仕上げられていたと思われるが剥落が著しい。外面は二次焼成のため赤く変色、内面は黒色化、所々しみ状に淡黄色化してある部位が見られる。製塩土器である可能性が高い。8は土師器の甕で全体に所々欠損はしているものの底面の一部を除き、残存している。器形は胴部の張り出しのあまりない細長い器形である。口径17.6cm、底径6.8cm、器高23.4cmである。外面口縁部はナデ、胴部縦方向のヘラケズリ、底部横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられているが、二次焼成のため剥落が著しい。9は土師器の甕で底面を除きほぼ完形である。胴部がそれほど張り出しがなく底部にかけてかなりすぼまる器形である。口径16.6cm、底径8.8cm、器高17.2cmである。外面口縁部ナデ後一部ヘラによるヨコナデ、胴部縦方向のヘラケズリ、底部横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。10は土師器の甕で胴部のほぼ2/3程度遺存している。非常に二次焼成を強く受けしており、特に胴部の上半分の外面部は表面がただれています。口径17.6cm、底径6.3cm、器高22.7cmである。外面口縁部横方向のナデ、胴部縦方向ヘラケズリ、底部横方向ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられているが、内外面ともに二次焼成のため剥落が著しい。

11～13は土師器の甕である。11は土師器の甕でほぼ完形品である。底面の残り状況からは甕の底面を二次的に加工した可能性が考えられる。口径25.0cm、底径9.2cm、器高20.9cmである。外面口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけては縦方向のヘラケズリで調整されている。内面は胴部から底部にかけて縦方向のミガキ、口縁部は横方向のミガキで仕上げられている。12は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。当該部位の1/2程度遺存している。口径22.0cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデ、部分的にミガキで仕上げられている。13は土師器の甕である。口径20.1cm、底径8.5cm、器高18.6cmである。外面口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけては縦方向ヘラケズリで調整されている。内面は胴部から底部縦方向ミガキ、口縁部横方向のミガキで仕上げられている。



第46図 SI-057号 出土遺物実測図3 (Scale 1/3)

14~18は土師器の鉢である。14は土師器の鉢である。ポール状の形状である。口径11.0cm、底径丸底、器高6.2cmである。外面口縁部ナデ、底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面は器面が荒れているため不明である。7の土器と同様に内面が黒味をおび、所々白く縞状になる状態が観察される。そのため製塩土器である可能性が高い。15は土師器の鉢か、高台付杯になると思われる破片である。断面を観察すると粘土を上から張り付けたような感じも見られるところから高台付杯の体部の可能性もある。全体に作りは雑な感じである。口径10.6cmで他は不明である。内外面ともナデ仕上げで、外面の一部には輪積

み痕を残す。16は土師器の鉢でほぼ完形品である。口径18.3cm、底径6.4cm、器高13.1cmである。外面口縁部はナデ、体部から底部にかけては縦方向のヘラケズリで調整されている。17は鉢の破片でやや丸底になるものと思われる。外面は輪積み痕を顕著に残す。全体はヘラケズリで調整されている。内面は剥落が著しく調整等は不明である。18は土師器の鉢の口縁部から底部にかけてほぼ2/3程度遺存している。口縁部にかけてやや内曲する形状を呈する。口径13.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、体部以下は横方向のヘラケズリで調整されている。内面は横方向のミガキで仕上げられている。他の鉢形土器が所謂、二次焼成が見られるのと違い、器面が製作された状態である。そのため用途が違うものである可能性が高い。外面体部に一部赤彩痕が見られる。

19は土師器の高杯の脚部破片である。体部の内面はミガキ、脚部外面ヘラケズリ、内面はナデで仕上げれている。

20、21は須恵器の甕である。20は須恵器の甕の胴部の破片である。外面はタタキ目で、内面にはそれに伴う当て具痕を残す。やや固く焼けており、肌目が粗い。21は同様に須恵器の大形の甕の破片である。焼きは20と比べてやや悪い感じである。外面はタタキ目で、内面は当て具痕を顕著に残す。

## 4. 奈良・平安時代

### (1) 概要 (第21図)

調査区は南北の細長くのびているが、発掘区の全域から奈良・平安時代の住居跡54軒、掘立柱建物跡2棟が検出された。遺物も遺構に伴うものを中心として大量に検出された。

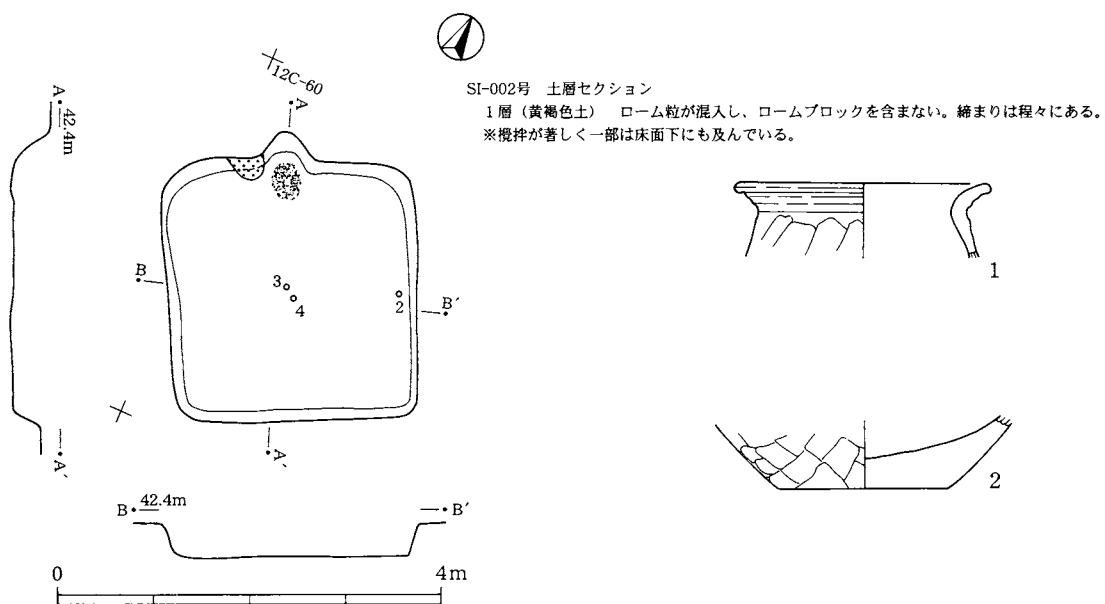
### (2) 遺構 (住居跡)

#### SI-002号 (第47図、第48図 1～4)

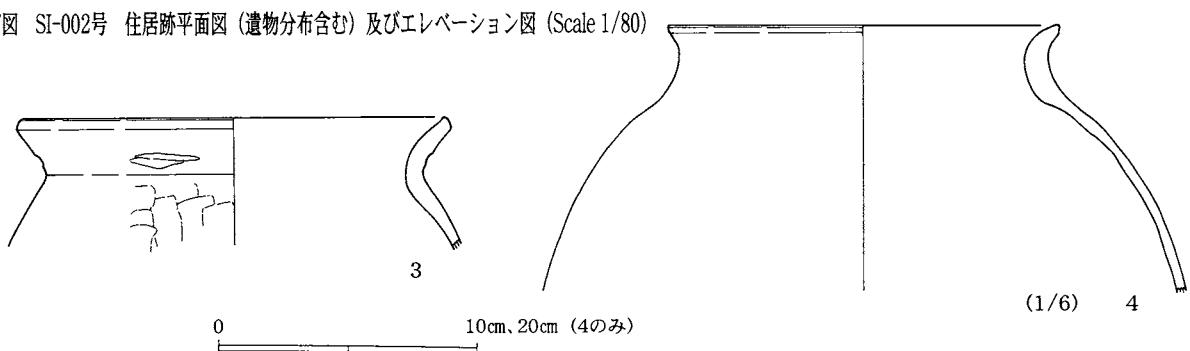
(遺構) 調査区の南側の12C-60付近で検出された。平面形状はほぼ正方形である。規模は北西壁が2.69m、南東壁が2.52m、北東壁が2.62m、南西壁2.64mである。主軸方位はN-23°-Wである。覆土は、黄褐色土を主体としている。ただし、住居跡を斜め十文字にトレッチャ等による耕作のための攪乱が激しいため、覆土の状況は必ずしも良くない。カマドの遺存状況は非常に悪く左側の袖の一部分と火床部のみ検出された。また、住居床面も同様に攪乱が激しく硬化面、ピット等は検出されなかった。

(遺物) 遺物は覆土下層から多少検出されている。主に住居跡の中程にまとまって検出されている。図示したのは、土師器甕4点である。

1は口縁部分の破片実測である。推定口径9.45cm、器高等は胴部以下がないため不明である。外面はヨコナデ、胴部上半は縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデによる仕上げである。2は底部の破片実測である。推定底部径16.6cm、口径及び器高は不明である。外面は斜め方向のヘラケズリで調整さ



第47図 SI-002号 住居跡平面図(遺物分布含む) 及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第48図 SI-002号 住居跡出土遺物実測図 (Scale 1/3, 1/6)

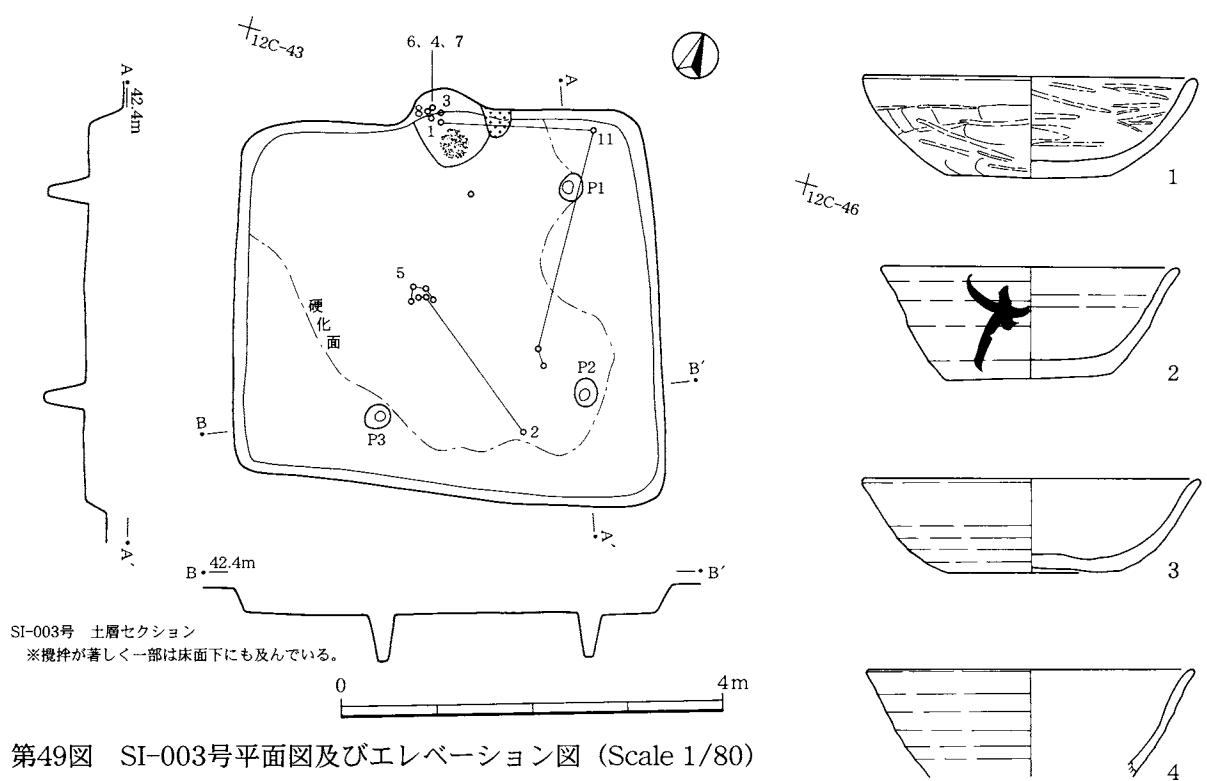
れている。内面は剥落していて不明である。3は口縁部分の破片実測である。推定口径16.45cm、器高等は胴部以下がないため不明である。外面はヨコナデ、頸部以下胴部上半にかけては縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデによる仕上げである。4は口縁部分から胴部上半部分にかけての大形の破片である。推定口径30.35cmで大きな甕である。内外面とも剥落が激しいため細かな調整は不明である。口縁部分の内外面及び胴部の一部に赤彩と思われる部分が見られる。

#### SI-003号（第49図、第50図1～12）

（遺構）調査区の南側の12C-44付近で検出された。平面形状はやや南東コーナーが膨らむやや台形に近い方形である。規模は北西壁4.22m、南東壁4.41m、北東壁4.12m、南西壁3.68mである。主軸方位はN-16°-Wである。覆土は、黄褐色土を主体としている。ただし、住居跡を斜め十文字にトレントチャ等による耕作のための攪乱が激しいため覆土の状況は必ずしも良くない。カマドの遺存状況は非常に悪く左側の袖の一部分と火床部のみ検出された。床面からは北西コーナー側の柱穴と思われるピットは確認できなかったが、残りのコーナーでは径25cm、深さ50cm程のものが確認できた。また、床面は東、南壁際を除く住居跡の中央部分から北側カマド部分までの一点鎖線で囲んだ部分で硬化している。

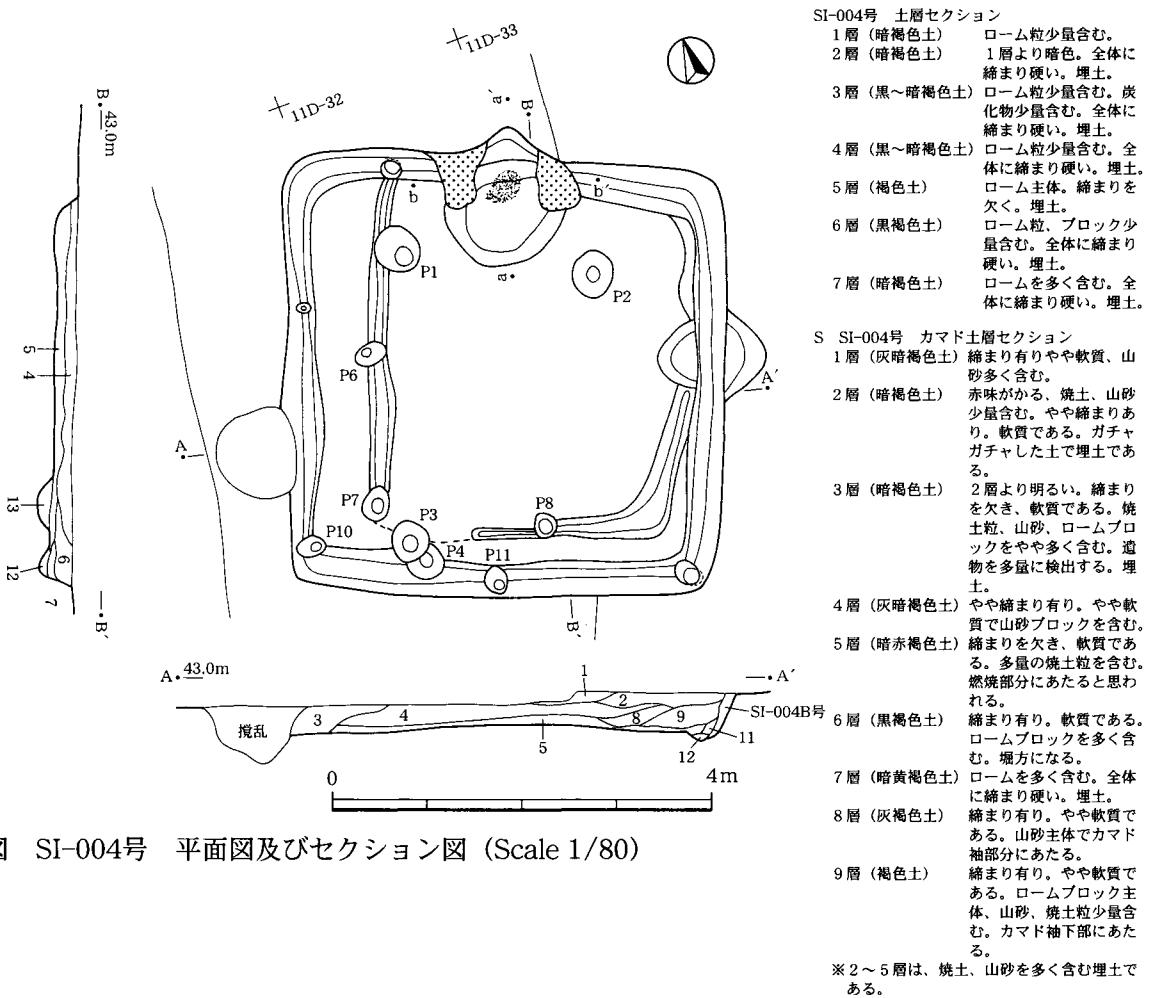
（遺物）遺物はカマド付近と中央部分の覆土下層よりやまとまって検出されている。図示したのは、土師器杯5点、須恵器甕1点、土師器甕6点である。

1～4及び12が土師器杯である。1は約1/3遺存している。口径12.8cm、底径6.3cm、器高3.9cmである。外面は口縁部分はヨコナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリ後ヘラミガキによる仕上げをおこなっている。内面はヘラミガキによる調整をおこなっている。2は1/2遺存している。口径11.3cm、底径6.45cm、器高4.3cmである。外面はロクロ使用によるヨコナデ後底面を手持ちヘラケズリで調整されている。胴部に『大』という墨書が書かれている。3は約1/2遺存している。口径12.9cm、底径6.6cm、器高3.6cmである。外面はロクロ使用によるヨコナデ、底面は回転糸切り後ヘラケズリで調整されている。4は口縁部から胴部にかけての破片実測である。推定口径12.65cmである。底径等は不明である。内外面ともにロクロ使用によるヨコナデ調整である。12は底部の破片である。推定底径5.65cmである。口径等は不明である。外面の底部は底面回転糸切り後ヘラケズリで調整されている。5～10は土師器甕である。5は口縁部から胴部にかけて1/3遺存している。口径30.4cmである。底径等は不明である。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部上半部は縦方向のヘラケズリ、胴部下半部は斜め方向のヘラケズリで調整されている。6は口縁部から胴部上半部にかけて1/3程遺存している。推定口径11.6cmである。底径等は不明である。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部は縦方向のヘラケズリで調整がおこなわれている。内面はナデによる調整で仕上げられている。7は底部の破片実測である。推定底径5.7cmである。口径等は不明である。外面はヘラケズリで調整されている。内面は剥落していて不明である。8は口縁部から頸部まで2/5程遺存している。口径16.0cmである。底径等は不明である。外面の口縁部はヨコナデ、頸部以下はヘラケズリで調整されている。内面はヨコナデで調整されている。9は底部の1/3程遺存している。推定底径7.8cmである。口径等は不明である。外面の底部はヘラケズリによる調整がおこなわれている。内面は剥落が激しく不明である。10は底部の1/4程遺存している。推定底径7.0cmである。口径等は不明である。外面の底部はヘラケズリによる調整がおこなわれている。内面は剥落は激しく不明である。11は須恵器甕である。底部から胴部下半部分にかけて1/6程遺存している。推定底径15.6cmである。焼成そのものが悪

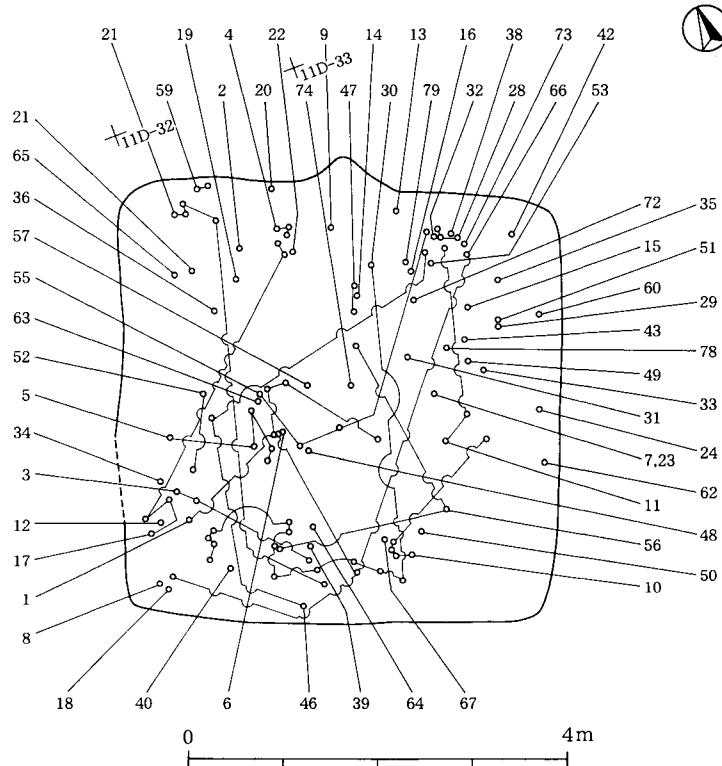


第49図 SI-003号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)





第51図 SI-004号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



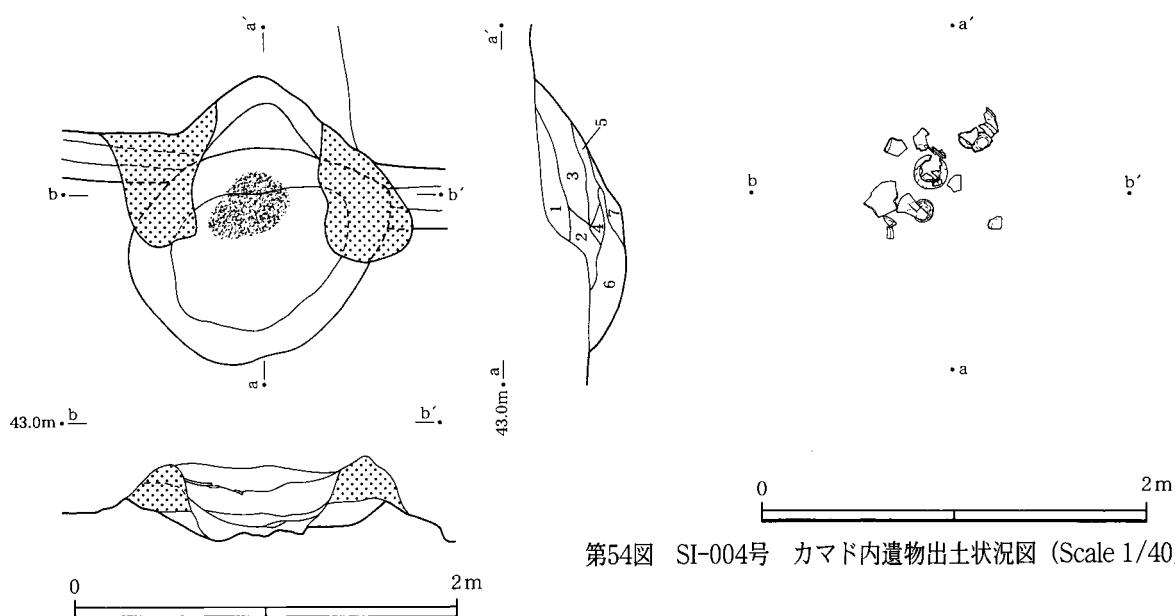
第52図 SI-004号 遺物出土状況図 (Scale 1/80)

く赤黒い印象である。外面の底部は横方向のヘラケズリ、胴部下半部分にかけては縦方向のヘラケズリ後ミガキが一部見られる。内面は剥落が激しく不明である。

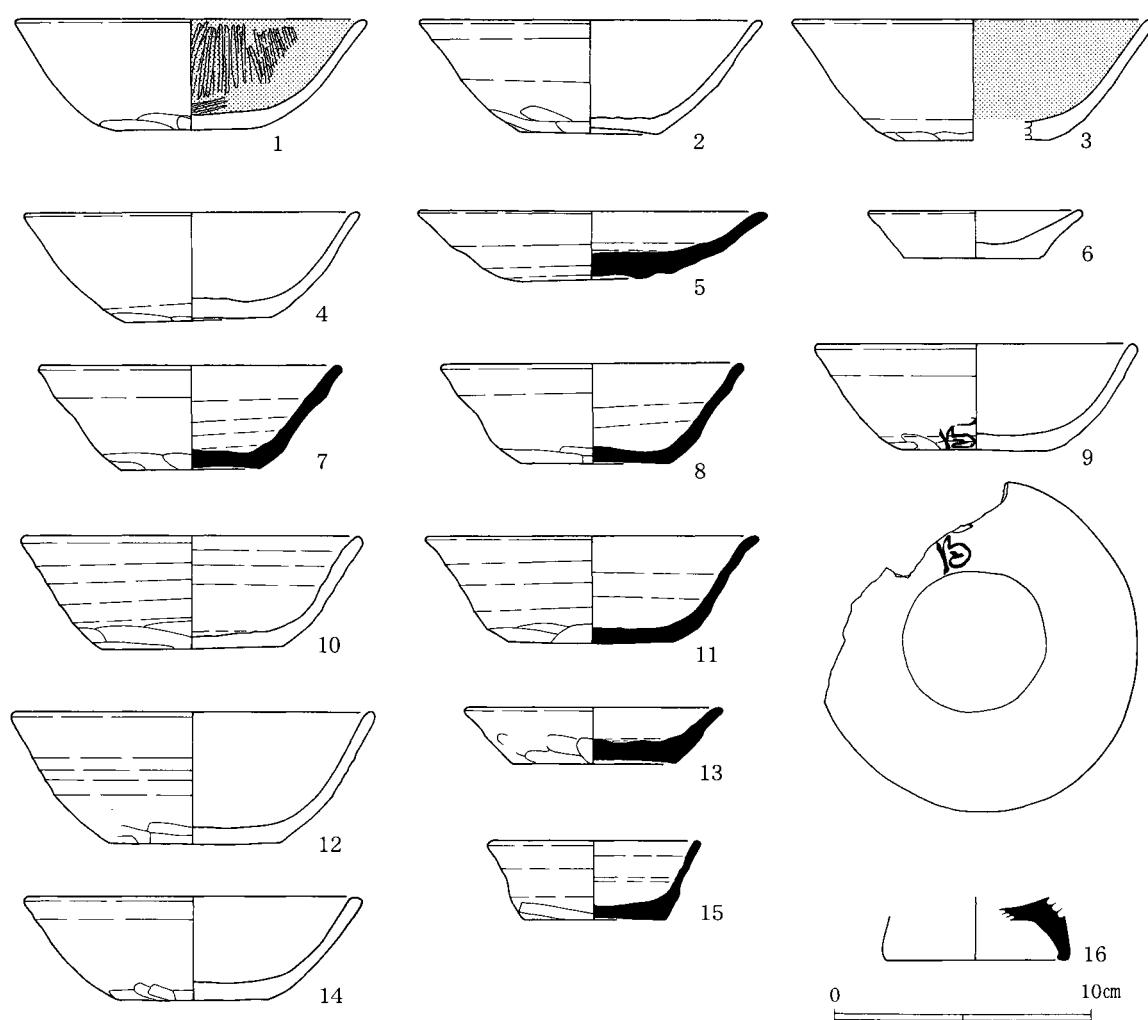
#### SI-004号（第51図～第54図、第55図～第59図 1～86）

（遺構）調査区の南側の11D-32付近で検出された。平面形状はほぼ正方形である。A（新しい住居跡）の内側にB（古い住居跡）の壁周溝と壁柱穴が見られる。また、Bは東壁にカマドの痕跡を残す。規模は北西壁4.50m、南東壁4.50m、北東壁4.70m、南西壁4.45mである。主軸方位はN-20°-Wである。覆土は、覆土上層が暗褐色土、覆土下層～床面直上がロームブロック混じりの黒褐色土を主体としている。柱穴はAのものがP1～P2、壁柱穴についてはAのものがP9～P12、BのものがP5～P8と検出されている。P3についてはどちらのものは不明である。BのカマドについてはAを構築する際、東壁側に一部残されている堀方のみ検出された。Aのカマドはほぼ暗褐色土を主体とした埋土と山砂混じりの灰暗褐色土の袖部分で構成される。燃焼部、袖部分とも残存状況は非常に良い。また、カマド中央部分に甕を逆位に置き、その周辺に杯を3点及び甕の大形破片をおいた状況で山砂、焼土混じりの土で埋めてある。カマド信仰に関連したものであろうか。Aのカマドは北側壁に位置する。

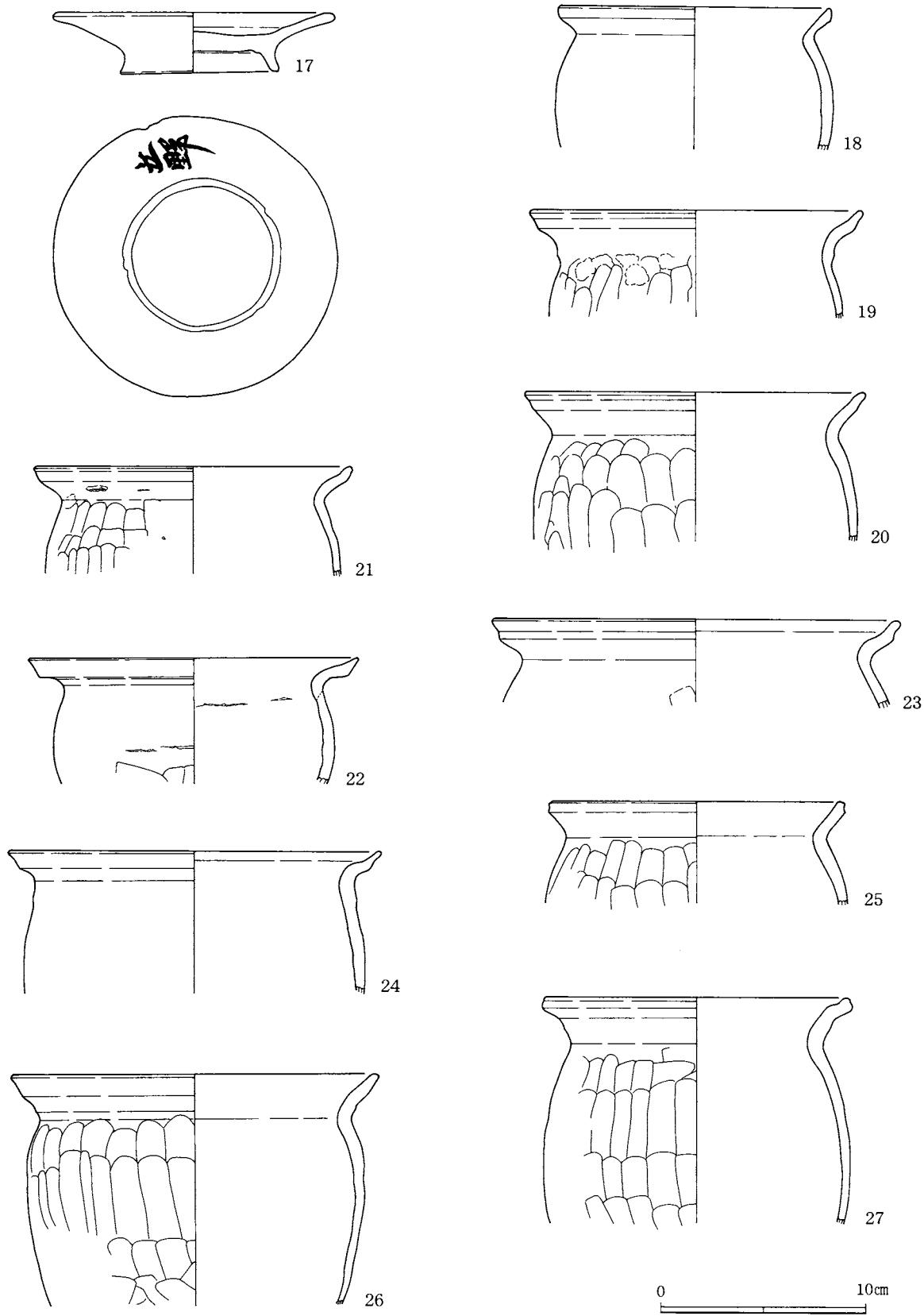
（遺物）遺物は住居跡全体から検出されている。図示したのは、土師器杯33点、須恵器杯4点、土師器皿3点、須恵器皿3点、土師器甕18点、須恵器甕21点である。1～4、9、10、14、17、52～65、70～80、82～86は土師器杯である。1は約1/4遺存している。口径13.4cm、底径5.4cm、器高4.3cmである。外面はロクロナデ後、底部底面にヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はナデ後ミガキによる調整をおこなっている。また、内面は黒色処理が施されている。2は約2/3遺存している。口径13.2cm、底径5.3cm、器高4.4cmである。外面はロクロナデ後、底部底面にヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデのみによる調整をおこなっている。3は約1/3遺存している。口径13.85cm、底径5.9cm、器高4.7cmである。外面はロクロナデ後、底部ヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデ後、若干のミガキによる調整をおこなっている。また、内面は黒色処理が施されている。4は2/3遺存している。口径12.9cm、底径5.7cm、器高4.2cmである。外面はロクロナデ後、底部ヘラケズリ、底面は回転糸切り後、ヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデのみによる調整をおこなっている。9は4/5遺存している。口径12.2cm、底径5.6cm、器高4.1cmである。外面はロクロナデ後底部底面ヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデのみによる調整をおこなっている。10は4/5遺存している。口径13.05cm、底径7.05cm、器高4.35cmである。外面はロクロナデ後、底部底面にヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデのみによる調整をおこなっている。14は約1/5遺存している。口径13.9cm、底径6.2cm、器高5.2cmである。外面はロクロナデ後、底部底面にヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデによる調整をおこなっている。17は約3/5遺存している。口径12.85cm、底径5.8cm、器高4.1cmである。外面はロクロナデ後、底部底面にヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデ後、底部にミガキをおこなっている。52は底面が2/3遺存している。底径5.65cmで他は不明である。外面底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。53は約2/5遺存している。口径12.5cm、底径5.8cm、器高3.8cmである。外面はナデで、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。色調は灰色がかったおり一見須恵器のようである。54は口



第53図 SI-004号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



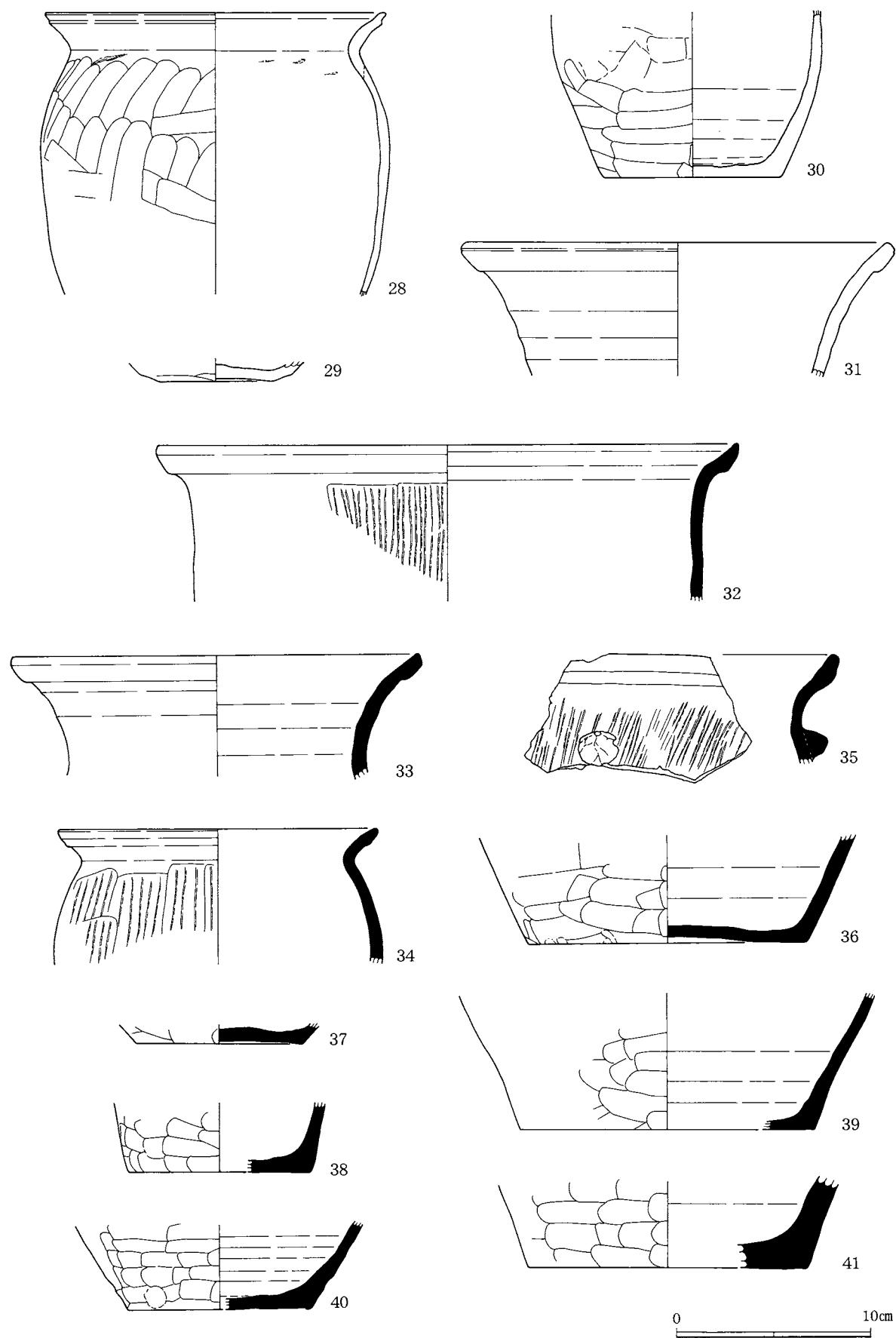
第55図 SI-004号 出土遺物実測図1 (Scale 1/3)



第56図 SI-004号 出土遺物実測図 2 (Scale 1/3)

縁部分を中心に1/4程度遺存している。口径11.5cmで他は不明である。外面内面ともナデで仕上げられている。55は1/3程度遺存している。口径12.0cm、底径6.9cm、器高4.2cmである。外面ナデ後、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。56は1/2程度遺存している。口径14.9cm、底径7.8cm、器高4.4cmである。外面ナデ後底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデ後黒色処理をおこなっている。57はほぼ1/4遺存している。口径11.2cm、底径6.0cm、器高4.1cmである。外面ナデ後底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。色調はやや黄色味がかった灰色で一見須恵器のようである。58はほぼ1/5遺存している。口径12.7cm、底径7.0cm、器高4.1cmである。外面ナデ後底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。59は底面を除いてほぼ1/2遺存している。口径11.8cmで他は不明である。外面、内面ともナデで仕上げられている。60は底部から底面にかけて遺存している。底面については1/2程遺存している。底径8.0cmで他は不明である。外面ナデ後底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げてある。61はほぼ1/4遺存している。口径7.8cm、底径4.8cm、器高1.9cmである。外面、内面ともナデで仕上げられている。62は口縁部～底部にかけてほぼ1/3遺存している。口径13.8cmで他は不明である。外面、内面ともナデで仕上げられている。63はほぼ1/4遺存している。口径8.7cm、底径5.8cm、器高2.8cmである。外面ナデ後底部にかけてヘラケズリで調整をおこなっている。内面はナデで仕上げられている。64は底面を除きほぼ1/5遺存している。口径13.8cm、底径8.6cm、器高4.6cmである。外面ナデ後底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。70はほぼ1/6遺存している。口径12.4cm、底径7.0cm、器高3.8cmである。外面ナデ後底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。外面の色調は灰色がつけて一見して須恵器のようである。71は底部底面の破片である。底径6.8cmで他は不明である。外面はナデ後底部ヘラケズリで調整されている。内面はナデ後黒色処理されている。72は底部底面の破片である。底径6.4cmで他は不明である。外面はナデ後ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。73は底部底面の破片である。底径5.6cmで他は不明である。外面はナデ後底部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げてある。74は底部底面破片である。底径5.6cmで他は不明である。外面はナデ後底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。75はほぼ1/4程度遺存している。口径11.2cm、底径6.2cm、器高4.2cmである。外面はナデ後底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。76は底部底面破片である。底面部分は2/3程遺存している。底径6.4cmで他は不明である。外面はナデ後底部底面ヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はナデで仕上げられている。77は底部底面の破片である。底面部分は1/4程遺存している。底径6.6cmで他は不明である。外面はナデ後底部底面ヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はナデで仕上げられている。78は底部底面破片である。底面部分は2/3遺存している。底径5.6cmで他は不明である。外面はナデ後底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。79は底部底面破片である。底面部分は1/3遺存している。底径6.4cmで他は不明である。外面はナデ後底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。80は底部底面破片で底径6.4cmで他は不明である。内面はロクロナデ、外面ナデ後底部から底面にかけてはヘラケズリで仕上げられている。82～86は杯の破片で何れも墨書きが描かれている。82、84は『口?』、86は『万』、83と85は不明であるがもしかしたら『千』である可能性もあるが、文字の一部であるため詳細は不明である。

7～8、11、15は須恵器杯である。7は完形である。口径11.5cm、底径5.4cm、器高3.95cmである。外



第57図 SI-004号 出土遺物実測図3 (Scale 1/3)

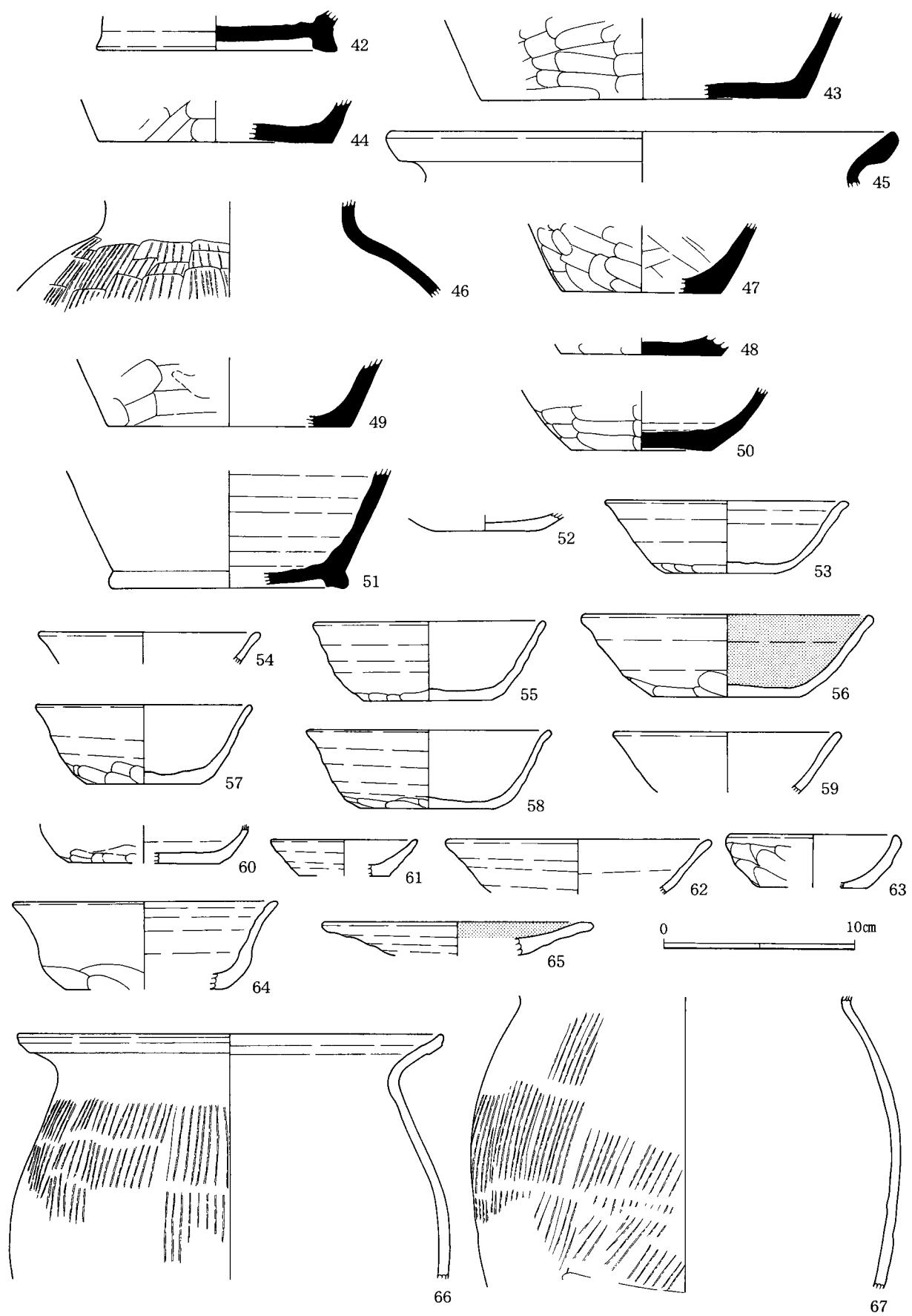
0 10cm

面はロクロナデ後底部底面ヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデによる調整をおこなっている。8は2/3遺存している。口径11.6cm、底径5.9cm、器高3.9cmである。外面はロクロナデ後、底部底面ヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデのみによる調整をおこなっている。11は約1/2遺存している。口径12.85cm、底径6.6cm、器高4.2cmである。外面はロクロナデ後、底部底面ヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデによる調整をおこなっている。15は1/2遺存している。口径8.0cm、底径5.6cm、器高3.1cmである。外面はロクロナデ後底部底面ヘラケズリによる調整をおこなっている。内面はロクロナデによる調整をおこなっている。また、内面底部は赤彩処理が施されている。

6、12、65は土師器皿である。6は小皿で3/5遺存している。口径8.1cm、底径5.45cm、器高1.8cmである。外面内面ともロクロナデによる調整をおこなっている。12は皿ではほぼ完形である。口径13.25cm、底径7.6cm、器高3.0cmである。高台付きの皿である。外面内面ともロクロナデによる調整をおこなっている。外面体部に墨書『立野』と書かれている。65は皿ではほぼ1/5遺存している。接合しない他の破片も見られる。口径14.2cmで他は不明である。外面はナデ、内面はナデ後黒色処理をおこなっている。

5、13、16は須恵器皿である。5は高台部分は剥がれて欠損している。本体部分は9/10以上遺存している。口径13.45cm、底部4.8cm、残器高2.7cmである。外面内面ともロクロナデによる調整をおこなっている。13は須恵器の小皿で1/3遺存している。口径9.85cm、底径6.4cm、器高2.2cmである。外面はロクロ整形後、ヘラケズリで調整をおこなっている。内面はロクロナデによる調整をおこなっている。16は皿と思われる台部分のみの実測である。器全体の大きさ等は不明である。内面の底部はミガキによる調整をおこなっている。外面の底面には回転糸切りの痕跡が少し見られる。

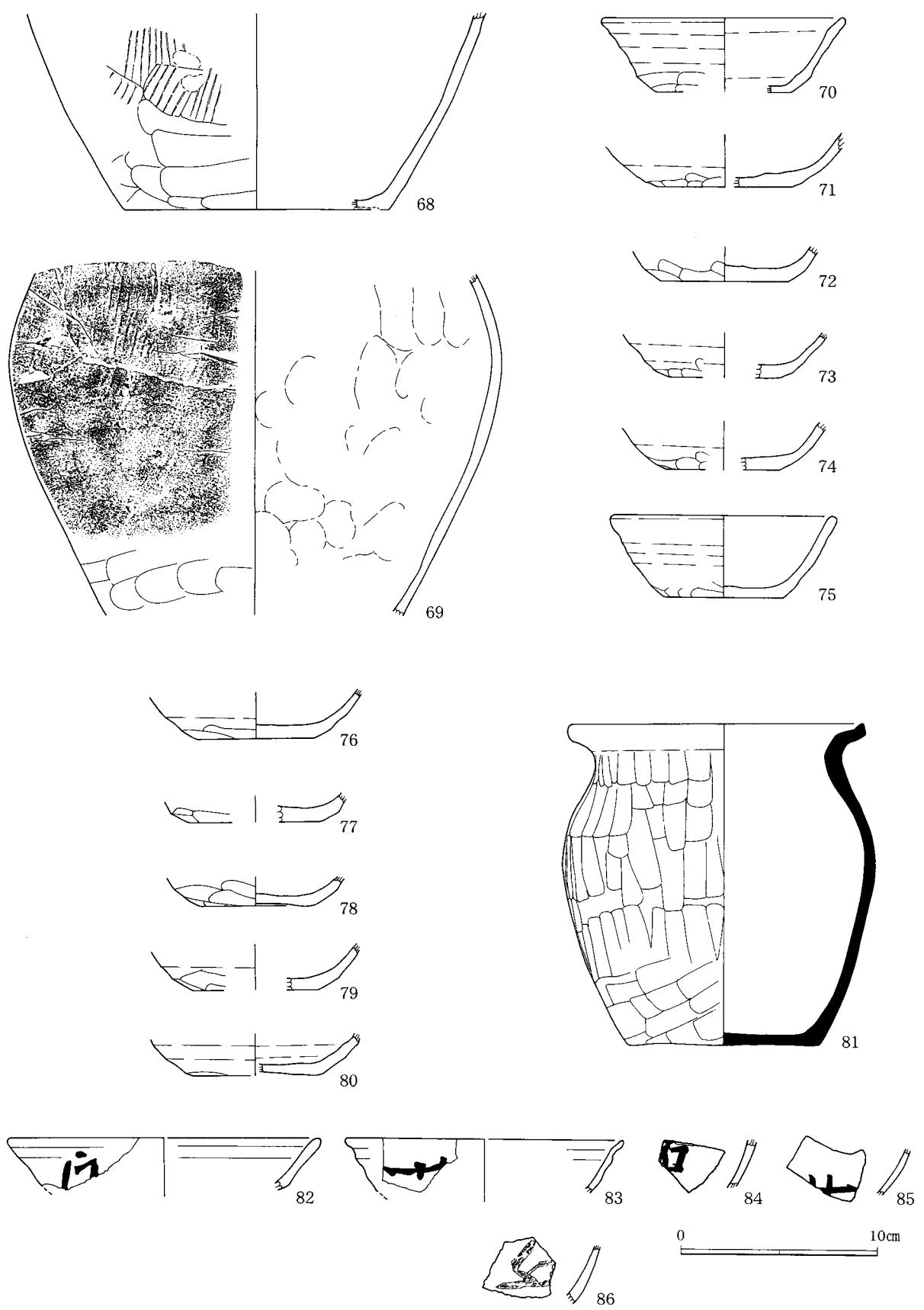
18~31、66~69は土師器甕である。18は口縁部分の破片である。口縁部分から胴部上半部分にかけて約1/6遺存している。口径13.2cmでその他は不明である。外面、内面ともナデ、ヨコナデで丁寧に仕上げられている。19は口縁部分の破片である。口縁部分から胴部上半部分にかけて約1/5遺存している。口径16.0cmでその他は不明である。外面は口縁部ナデ後頸部～胴部上半部分にかけてヘラケズリで調整をおこなっている。内面は胴部上半部分ナデ後口縁部分ヨコナデによる調整をおこなっている。20は口縁部～胴部にかけて約1/4遺存している。口径16.4cm、胴部径16.0cmその他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦方向のヘラケズリで調整をおこなっている。内面はナデで仕上げられている。21は口縁部破片である。口縁部～胴部上半部分にかけて約1/6遺存している。口径15.4cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ後、胴部上半部縦方向のヘラケズリで調整をおこなっている。内面はナデで仕上げられている。22は口縁部破片である。口縁部分から胴部にかけて約1/6遺存している。口径16.1cm、胴部径13.8cmでその他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後ヘラケズリで調整をおこなっている。内面はナデで仕上げられている。23は口縁部破片である。ほぼ口縁部が1/8遺存している。口径19.75cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデで、頸部にかけてはケズリも見られる。内面はナデで仕上げられている。24は口縁部～胴部上半部分にかけて1/6遺存している。口径18.2cmでその他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、頸部ナデである。なお、胴部以下について摩耗のため不明である。内面はナデで仕上げてあると思われるが、剥落しているため不明である。25は口縁部～胴部上半部にかけて1/5遺存している。口径14.1cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦方向のヘラケズリで調整をおこなっている。内面はナデで仕上げられている。26は口縁部～胴部にかけて1/4遺存している。口径17.8cm、胴部径



第58図 SI-004号 出土遺物実測図4 (Scale 1/3)

16.8cmで、その他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。27は口縁部～胴部にかけて1/6遺存している。口径14.8cm、胴部径15.0cmで、その他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、頸部ナデ後胴部にかけてはヘラケズリをおこなっている。内面はナデで仕上げてある。28は口縁部～胴部にかけて2/5程遺存している。口径17.4cm、その他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部にかけてはヘラケズリをおこなっている。内面はナデで仕上げられている。29は甕の底部破片である。底部底面の約1/2遺存している。底径5.7cmでその他は不明である。外面底部、底面はヘラケズリ、内面はナデで調整をおこなっている。30は甕の胴部～底部にかけて9/10遺存している。底径9.2cmでその他は不明である。外面胴部ケズリ後ナデ、底面から底部はヘラケズリをおこなっている。内面はナデで仕上げられている。31は甕の口縁部の破片でほぼ1/6遺存している。口径21.6cm、その他は不明である。外面はヨコナデ、内面はナデで仕上げられている。66は口縁部～胴部までの破片でほぼ1/3遺存している。口径22.2cmで他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、胴部はタタキ目で仕上げられている。内面はやや緩いナデで仕上げられている。67は甕の胴部の破片でほぼ1/5遺存している。外面胴部はほぼタタキ目で仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。胴部下半分は横方向のヘラケズリで調整されている。68は甕の底部である。底部の1/6程度遺存している。底径13.45cmで他は不明である。外面胴部下半はタタキ目、底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上がられている。底面は継ぎ目の部分から剥脱している。69は甕の胴部～底部にかけての破片である。外面胴部はタタキ目が見られる。胴部下半部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面は当て具痕が見られる。

32～51、81は須恵器甕である。32は甕の口縁部の破片でおおよそ1/6遺存している。口径31.0cm、その他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、胴部にかけてタタキ目がある。33は甕の口縁部の破片でおおよそ1/6遺存している。口径21.4cm、その他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、内面はナデで仕上げられている。34は甕の口縁部分～胴部にかけての破片である。口径16.35cm、その他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、胴部にかけてはタタキ目が見られる。内面はナデで仕上げられている。35は甕の口縁部の破片である。大きい個体の一部である。外面口縁部分ヨコナデ、頸部はタタキ目で仕上げてある。36は甕の底部破片である。底面が約1/2遺存している。底径14.4cmでその他は不明である。外面横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。37は甕の底面部分の破片である。ほぼ2/3遺存している。底径8.6cmで他は不明である。外面ヘラケズリ、内面ナデで仕上げられている。38は甕の底部底面の破片である。ほぼ1/4遺存している。底径9.4cmで他は不明である。外面横方向のヘラケズリ、内面ナデで仕上げられている。39は甕の底部破片である。器形はやや外反気味に広がりながら立ち上がる。底径15.75cmで他は不明である。外面底部横方向主体のヘラケズリ、内面ナデで仕上げられている。40は甕の底部底面破片である。底部が1/4程度遺存する。底径9.45cmで他は不明である。外面底部横方向のヘラケズリで調整されている。内面はややあまいナデで仕上げてある。41は甕の底部破片である。底径14.4cmで他は不明である。非常に厚めの破片で大きな個体であろうことが想像される。外面底部横方向のヘラケズリで調整されている。42は甕の底面破片である。高台付きの破片でほぼ2/3遺存している。底径12.4cmで他は不明である。外面はヨコナデ、ナデで仕上げられている。内側部分に自然釉がかかる。43は甕の底部破片である。ほぼ1/3遺存している。底径17.05cmで他は不明である。外面底部横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。44は甕の底部破片である。底面がほぼ1/4遺存



第59図 SI-004号 出土遺物実測図5 (Scale 1/3)

している。底径12.25cmで他は不明である。外面底部は横方向主体のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。45は甕の口縁部破片である。口径26.5cmで他は不明である。外面口縁部分はヨコナデで調整されている。内面はナデで仕上げてある。46は甕の頸部～胴部上半部分の破片である。ほぼ1/4遺存している。外面は肩の部分以下はタタキ目で仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。47は甕の底部破片である。ほぼ1/4遺存している。底径8.4cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げている。48は甕の底部底面破片である。底面の4/5遺存している。底径8.4cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。49は甕の底部破片である。底径12.8cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。50は甕の底部である。底径7.3cmで他は不明である。外面底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。51は甕の底部である。高台付きである。約1/3遺存している。底径12.3cmで、その他は不明である。外面底部はヨコナデで調整されている。内面はナデで仕上げられている。81は須恵器甕である。ほぼ完形である。口径14.8cm、底径9.85cm、器高16.4cmである。外面口縁部ヨコナデ、頸部～胴部にかけては縦方向のヘラケズリ、底部にかけては斜め横方向のヘラケズリで調整されている。内面は全体にナデで仕上げられている。底面については無調整である。

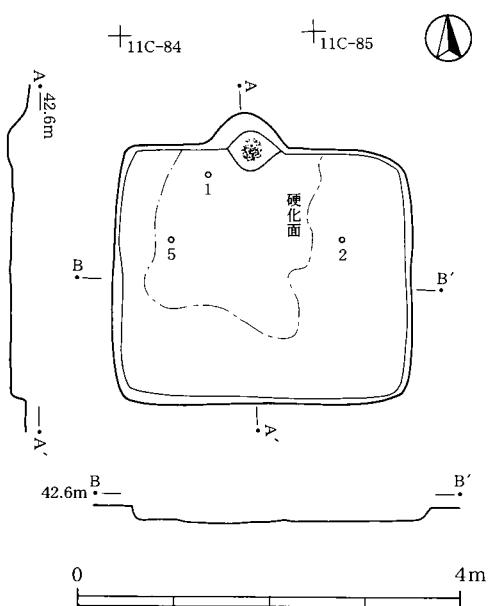
#### SI-005号（第60図、第61図1～5）

（遺構）調査区の南側の11D-84付近で検出された。平面形状はやや南側で広がるもののはば正方形である。規模は北壁2.70m、南壁2.95m、東壁2.55m、西壁2.65mである。主軸方位はN-2°-Eである。覆土については耕作が著しく詳細は不明である。カマドについても火床部分の範囲が検出されたのみで遺存状況は非常に悪い。床面からは柱穴等は検出されなかった。床面の硬化部分がカマドを中心に南側に検出されている。

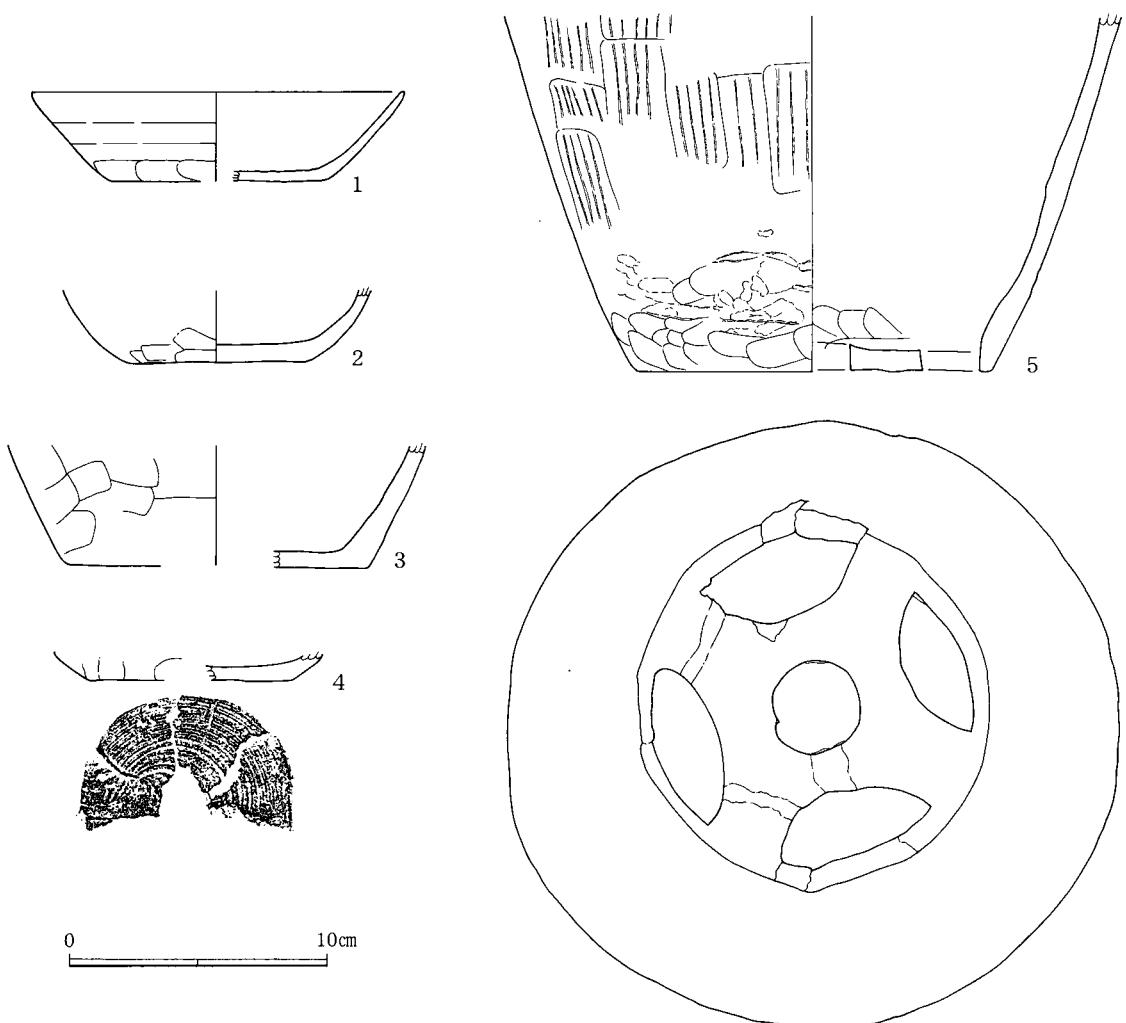
（遺物）遺物は少量覆土下層より検出された。図示したのは、土師器杯3点、土師器甕1点、土師器瓶1点である。1、2、4は土師器杯である。1はほぼ1/3遺存している。口径14.55cm、底径8.5cm、器高3.5cmである。外面は口縁部ナデ、底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。2は胴部から底部にかけてほぼ1/3遺存している。底径7.0cmで他は不明である。外面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。4はほぼ1/2底面が遺存している。底径8.1cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、底面は回転糸切りで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

3は土師器甕の底部破片である。底部のはば1/5遺存している。底径11.8cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。

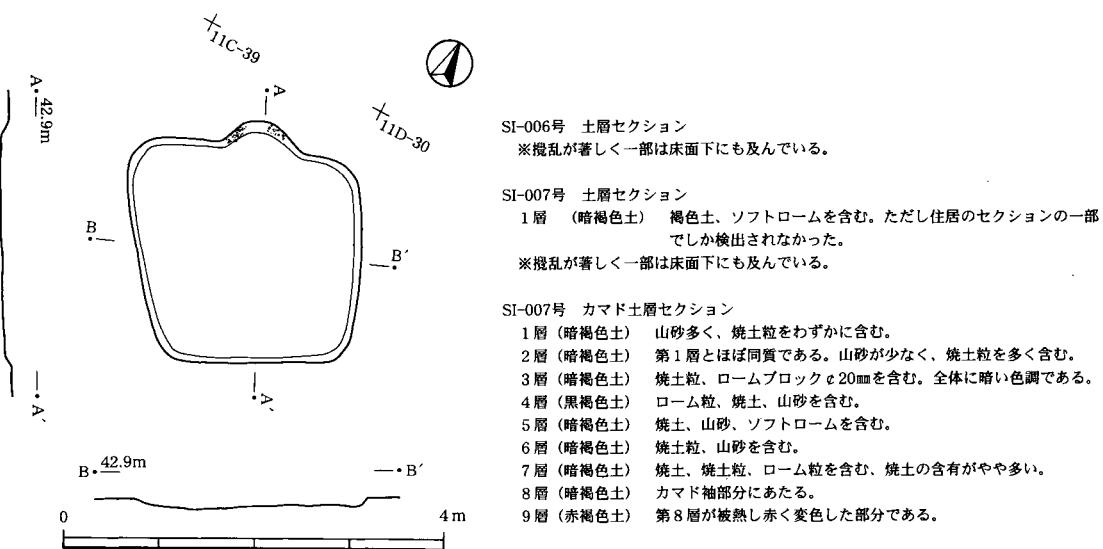
5は土師器瓶の底部である。ほぼ底部の1/3遺存している。底径13.8cmで他は不明である。外面胴部～底部はタタキ目、底部の下半部分は横方向のヘラケズリで調整されている。底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。



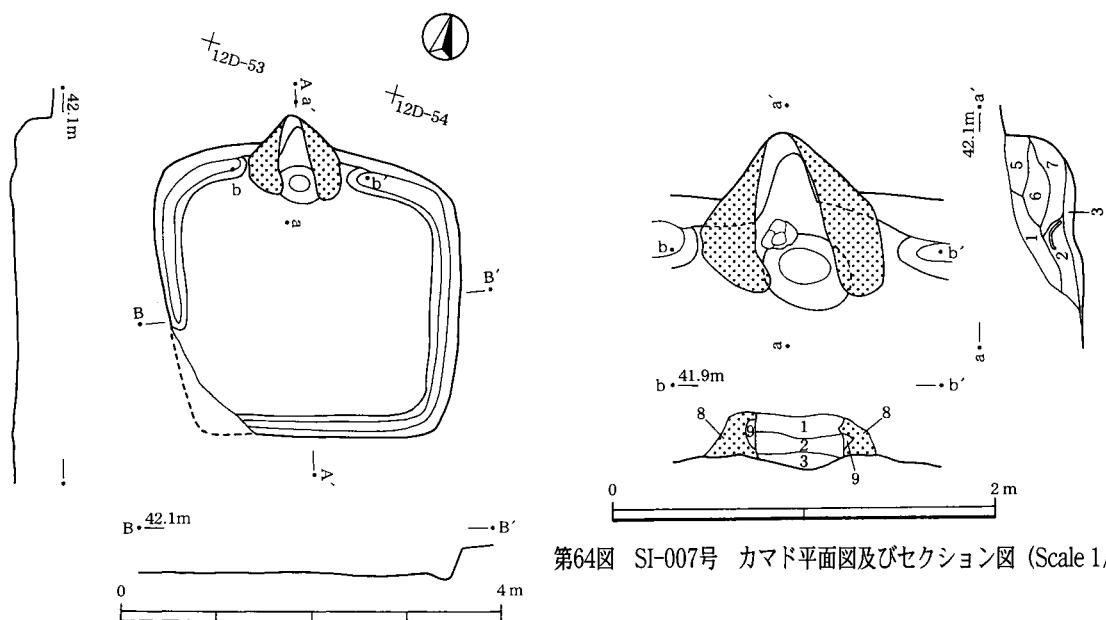
第60図 SI-005号平面図及びセクション図、エレベーション図 (Scale 1/80)



第61図 SI-005号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)



第62図 SI-006号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第63図 SI-007号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

### SI-006号 (第62図)

(遺物) 調査区の南側の11D-39付近で検出された。平面形状は北側がやや膨らむ逆台形状の方形である。規模は北西壁2.4m、北東壁2.05m、南西壁2.0m、南東壁2.3mである。主軸方位はN-28°-Wである。覆土については耕作が著しく詳細は不明である。カマドについても壁際の袖基底部一部が検出されたのみで遺存状況は非常に悪い。床面からは柱穴等は検出されなかった。

(遺物) 遺物についても土師器破片が少量出土したが図示可能なものは皆無であった。



第65図 SI-007号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

### SI-007号（第63図～第64図、第65図1～10）

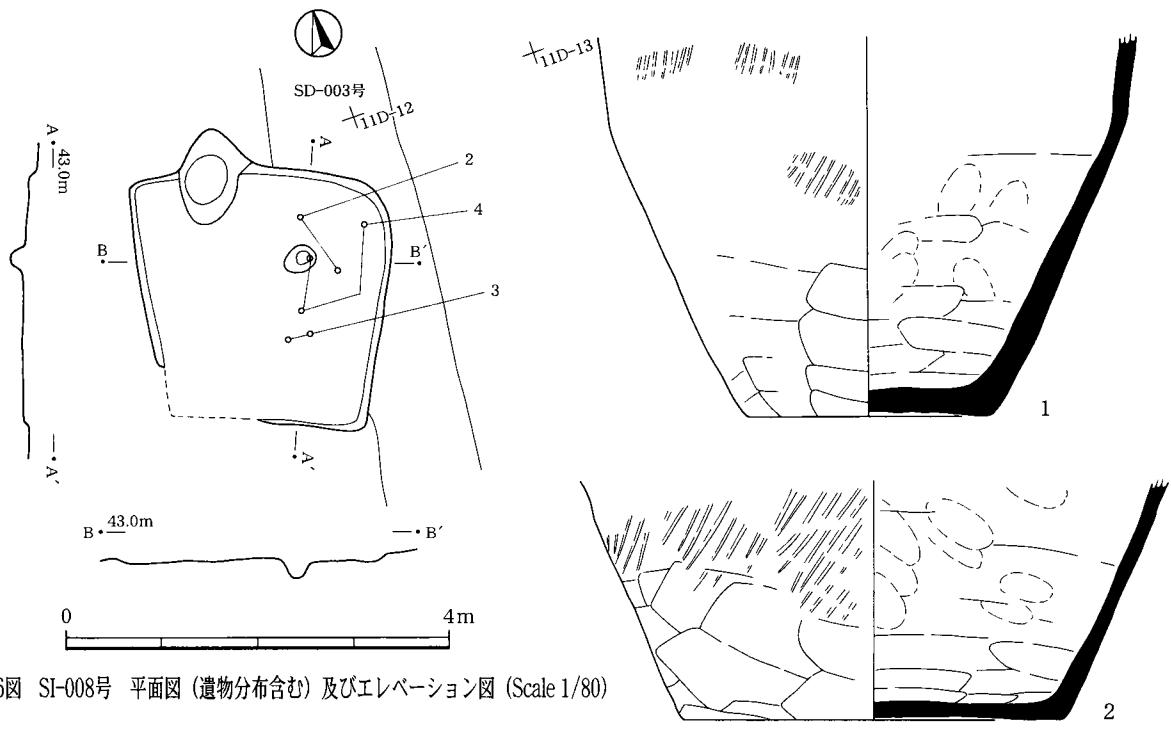
（遺構）調査区の南側の12D-53付近で検出された。平面形状は北側がやや膨らみを持つものほぼ正方形に近い形をしている。規模は北西壁3.15m、北東壁2.65m、南西壁2.75m、南東壁2.95mである。南西隅は調査区外に続いている。主軸方位はN-17°-Wである。暗褐色土を主体とする覆土が一部見られるものの耕作が著しく遺存状況は非常に悪い。カマドについては比較的遺存状況も良くカマド袖部分、火床部分とも検出された。床面からは柱穴等は検出されなかった。

（遺物）遺物についてはカマド部分を中心に出土している。図示したものは土師器杯5点、須恵器甕5点である。4、5、8～10は土師器の杯である。4は杯の口縁部～胴部にかけての破片である。口径13.0cmで他は不明である。外面はロクロヨコナデで調整されている。内面は同じくヨコナデで仕上げられている。胴部に墨書『夫』が書かれている。5は杯の底部～底面破片である。1/4程度遺存している。外面は底部ヘラケズリ、底面手持ちヘラケズリで調整されている。内面はヨコナデで仕上げられている。8は杯で口縁の1/3遺存している。口径18.1cm、底径7.4cm、器高6.3cmある。外面はナデ後、底部縦方向のヘラケズリで調整されている。また、底面はヘラケズリで調整されている。内面はミガキによって仕上げられている。9は杯で9/10遺存している。口径13.2cm、底径6.0cm、器高4.4cmである。外面はナデ後底部ヘラケズリで調整されている。また底面は糸切り後ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。10は杯でほぼ1/2遺存している。口径13.2cm、底径5.6cm、器高4.8cmである。外面はナデ後底部ヘラケズリで調整されている。また、底面は回転ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。器面は被熱のため底面を中心に剥落し、荒れている。器面の一部にススの付着が認められる。

1～3、6、7は須恵器の甕である。1は須恵器の甕の底部～底面にかけての破片である。底部の1/3程遺存している。底径8.4cmで他は不明である。外面は胴部～底部にかけてナデ、底部ヘラケズリで調整されている。また、底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。2は須恵器の甕の口縁部～胴部上半部分の破片である。口径24.0cmで他は不明である。口縁部の1/3ほど遺存している。外面はヨコナデで調整されている。内面はナデで仕上げられている。3は須恵器の甕の口縁部～胴部下端にかけて1/4ほど遺存している。口径21.0cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目で調整されている。内面は当て具痕が見られる。6は須恵器の甕の口縁部～胴部上半部にかけて1/4ほど遺存している。口径18.0cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目後ナデで仕上げられている。内面は口縁部分ヨコナデ、胴部以下はナデで仕上げられている。7は須恵器の甕の口縁部～底部にかけて1/5ほど遺存している。口径21.2cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目後ナデで調整されている。内面は口縁部ヨコナデ、頸部工具痕、胴部ナデで仕上げられている。

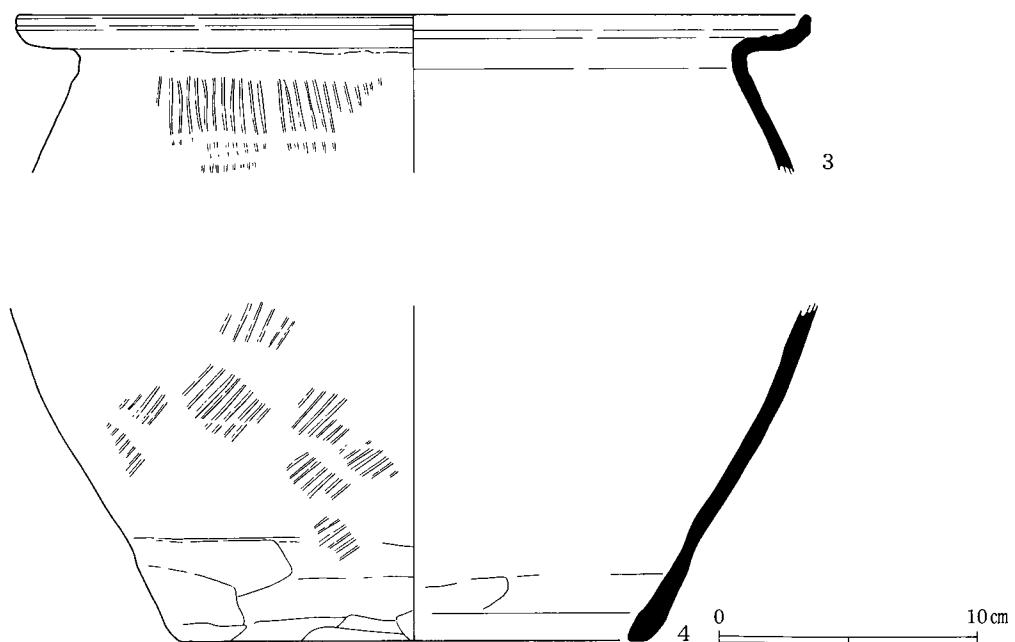
### SI-008号（第66図、第67図1～4）

（遺構）調査区の南側の11D-11付近で検出された。平面形状は北側が膨らみを持つもの逆台形に近い形をしている。規模は北東壁2.70m、北西壁2.57m、南東壁2.08m、南西壁2.50mである。南西隅は非常に攪乱が著しいため推定ラインである。主軸方位はN-20°-Eである。縦横に攪乱が入り、遺構の遺存状況は極めて悪い。カマドは北東壁中央部分にある。位置が判明しただけで袖部分や火床部の中心部はほとんど残っていない。確認面からの深さもそれほどない状態で床面が検出できた部分でも凹凸が著しく、全体に攪乱を受けているようである。床面からは柱穴等は検出されなかった。



第66図 SI-008号 平面図(遺物分布含む) 及びエレベーション図 (Scale 1/80)

SI-008号 土層セクション  
※擾乱が著しく一部は床面下にも及んでいる。



第67図 SI-008号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

(遺物) 東側の溝と切り合う部分から集中的に遺物が出土している。図示したのは、須恵器甕3点、須恵器瓶1点である。1～3は須恵器の甕である。1は須恵器の甕の底部である。1/3程度遺存している。底径9.6cmで他は不明である。外面は胴部下半部タタキ目後ナデで調整されている。底部から底面にかけてはヘラケズリ後ナデで調整されている。内面はナデ調整で仕上げられている。その際の指頭圧痕が見ら

れる。また胴部下端内面には継ぎ足し部分が認められる。2は須恵器の甕の底部である。1/3程度遺存している。底径15.0cmで他は不明である。外面は胴部下半部タタキ目後ナデで調整されている。底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。その際の指頭圧痕が見られる。3は須恵器の甕の口縁部破片である。口縁部分のほぼ1/10遺存している。口径30.8cmで他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、頸部はタタキ目後ナデで調整されている。内面は口縁部ヨコナデ、頸部はナデで仕上げられている。

4は須恵器の甕である。底部の破片で1/5程遺存している。底径18.6cmで他は不明である。外面胴部下半部はタタキ目後ナデ、底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。内外面とも被熱のためか器面が荒れている。

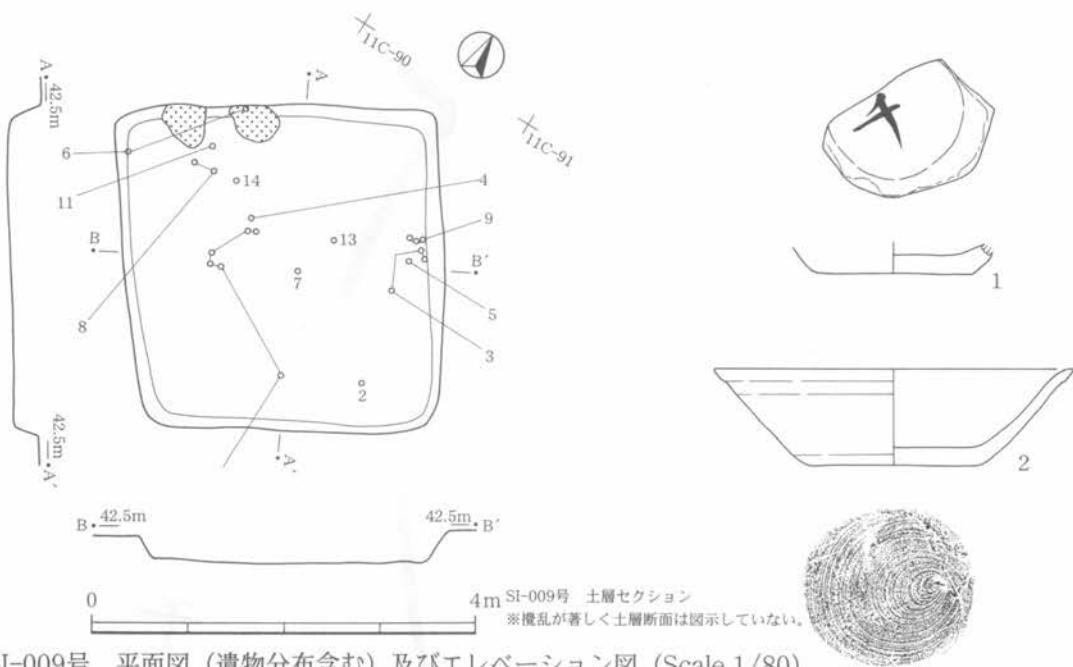
#### SI-009号（第68図、第69図～第70図1～17）

（遺構）調査区の南側の11C-90付近で検出された。平面形状は南西隅がやや短い形ではあるが、ほぼ正方形に近い形をしている。規模は北東壁3.35m、北西壁3.35m、南東壁3.33m、南西壁3.08mである。主軸方位はN-32°-Wである。縦横に攪乱が入り、遺構の遺存状況は極めて悪い。覆土は上層が黒色土、下層が黄褐色土である。カマドは北西壁のやや西によった部分にある。袖部分が基底部を中心に残っており、火床部の中心部はほとんど残っていない。確認面からの深さもそれほどない状態で床面が検出できた部分でも凹凸が著しく、全体に攪乱を受けているようである。床面からは柱穴等は検出されなかった。

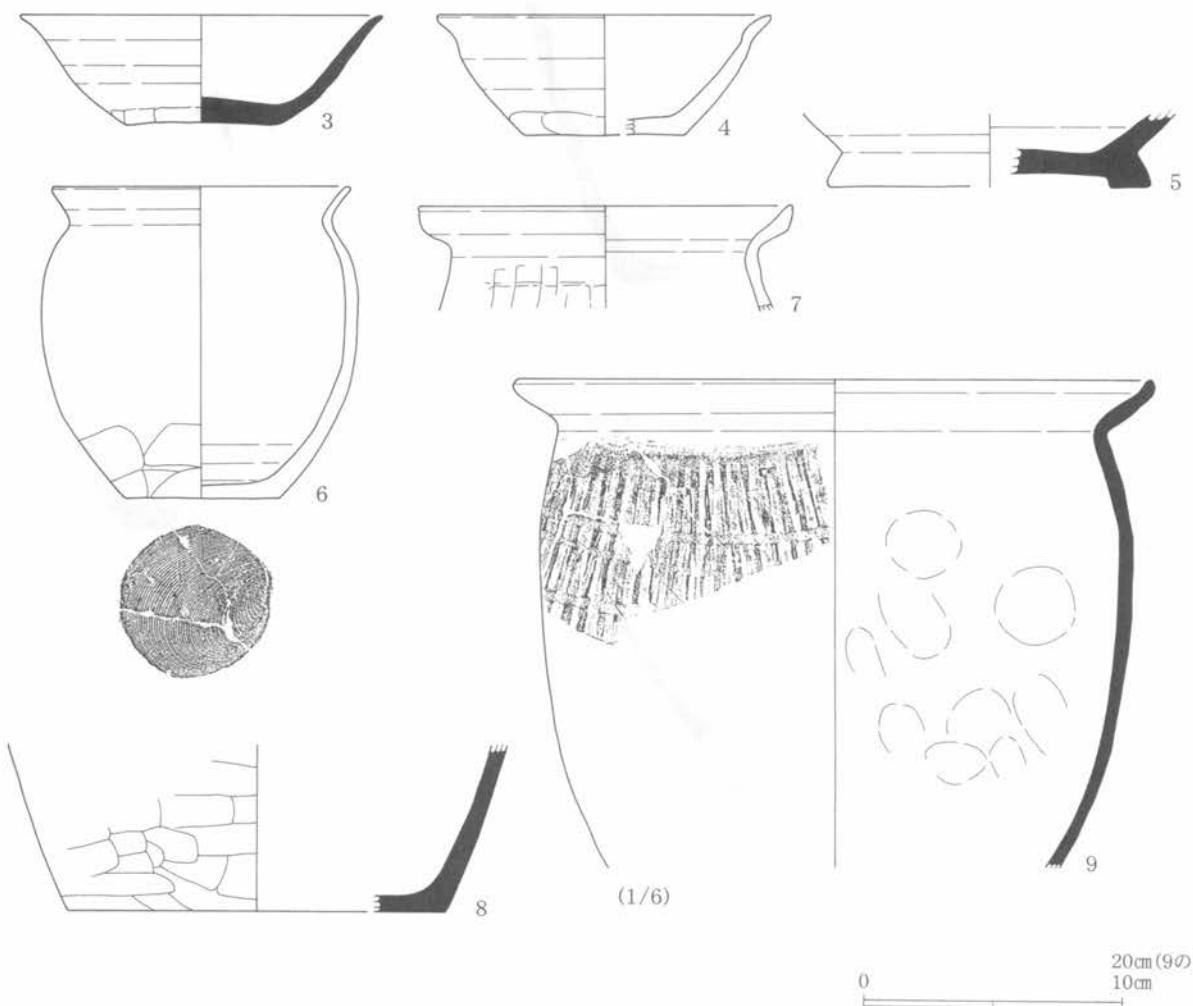
（遺物）遺構内よりほぼまんべんなく検出されている。図示したのは、土師器杯7点、須恵器杯1点、土師器甕2点、須恵器甕7点である。1、2、4、12～15は土師器の杯である。1は杯の底部破片である。底面の1/2程遺存している。底径6.1cmで他は不明である。底面内側に『千』という墨書が描かれている。外面底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。2は杯のほぼ1/2遺存している。内外面にはタールの付着が見られる。口径14.0cm、底径6.6cm、器高3.8cmである。外面はヨコナデ、底部はヘラケズリで調整されている。底面は回転糸切りの跡が残っている。内面はナデで仕上げられている。4は杯のほぼ1/3遺存している。口径13.0cm、底径6.4cm、器高4.7cmである。外面はヨコナデ、底部、底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。12は杯の口縁部を一部除きほぼ完形品である。口径12.0cm、底径6.2cm、器高3.8cmである。外面はナデ後、底部回転ヘラケズリで調整されている。また、底面は直行する二方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。13は杯でほぼ1/2遺存している。口径14.2cm、底径6.2cm、器高4.6cmである。外面はナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。底面はヘラケズリで仕上げられている。14は4/5程度遺存している。口径12.7cm、底径7.2cm、器高4.4cmである。外面はナデ後底部ヘラケズリで調整されている。また、底面はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

3は須恵器の杯である。ほぼ1/2遺存している。口径14.1cm、底径5.8cm、器高4.3cmである。外面はヨコナデ、底部はヘラケズリで調整されている。底面は糸切り後ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。15はほぼ2/3遺存している。口径13.0cm、底径7.0cm、器高4.0cmである。内面中央部及び外面の底部の2ヶ所に『千』という墨書が描かれている。外面はナデ後底部ヘラケズリ、底面は回転糸切り後、ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

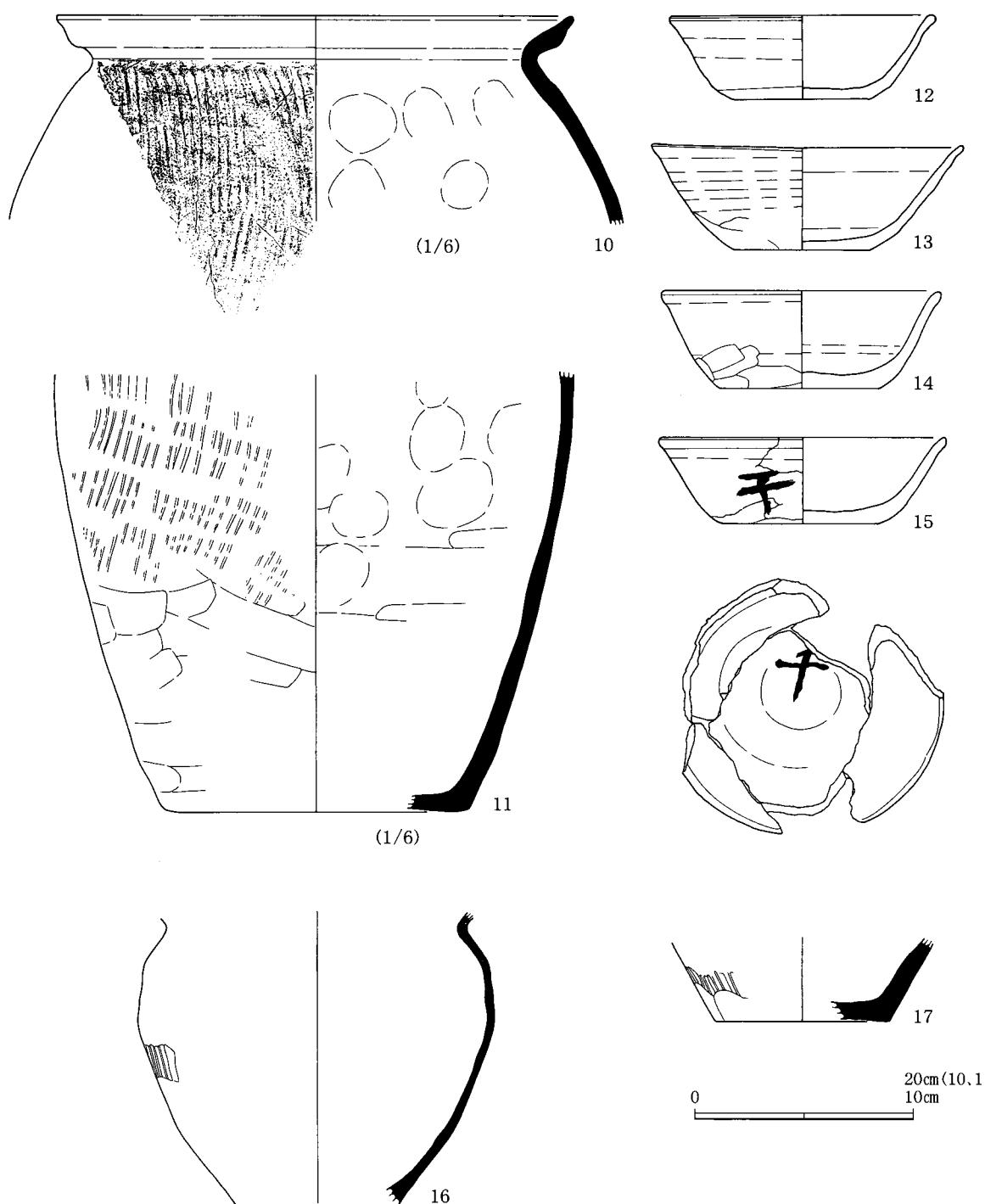
6、7は土師器の甕である。ほぼ1/3遺存している。口径11.5cm、底径6.0cm、器高12.2cmである。外面



第68図 SI-009号 平面図（遺物分布含む）及びエレベーション図（Scale 1/80）



第69図 SI-009号 出土遺物実測図1 (Scale 1/3、Scale 1/6 (9のみ) )



第70図 SI-009号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3、Scale 1/6 (10、11) )

はヨコナデ後底部ヘラケズリで調整されている。また、底面は回転糸切りで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。7は甕の口縁部分の破片である。口径14.8cmで他は不明である。外面はヨコナデ、頸部以下はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

5、8～11、16、17は須恵器の甕である。5は底部底面の破片で底面のほぼ1/3遺存している。高台付きの器形で底径12.55cmある。他は不明である。外面はヨコナデ、台部分は無調整、底面は回転ヘラケズ

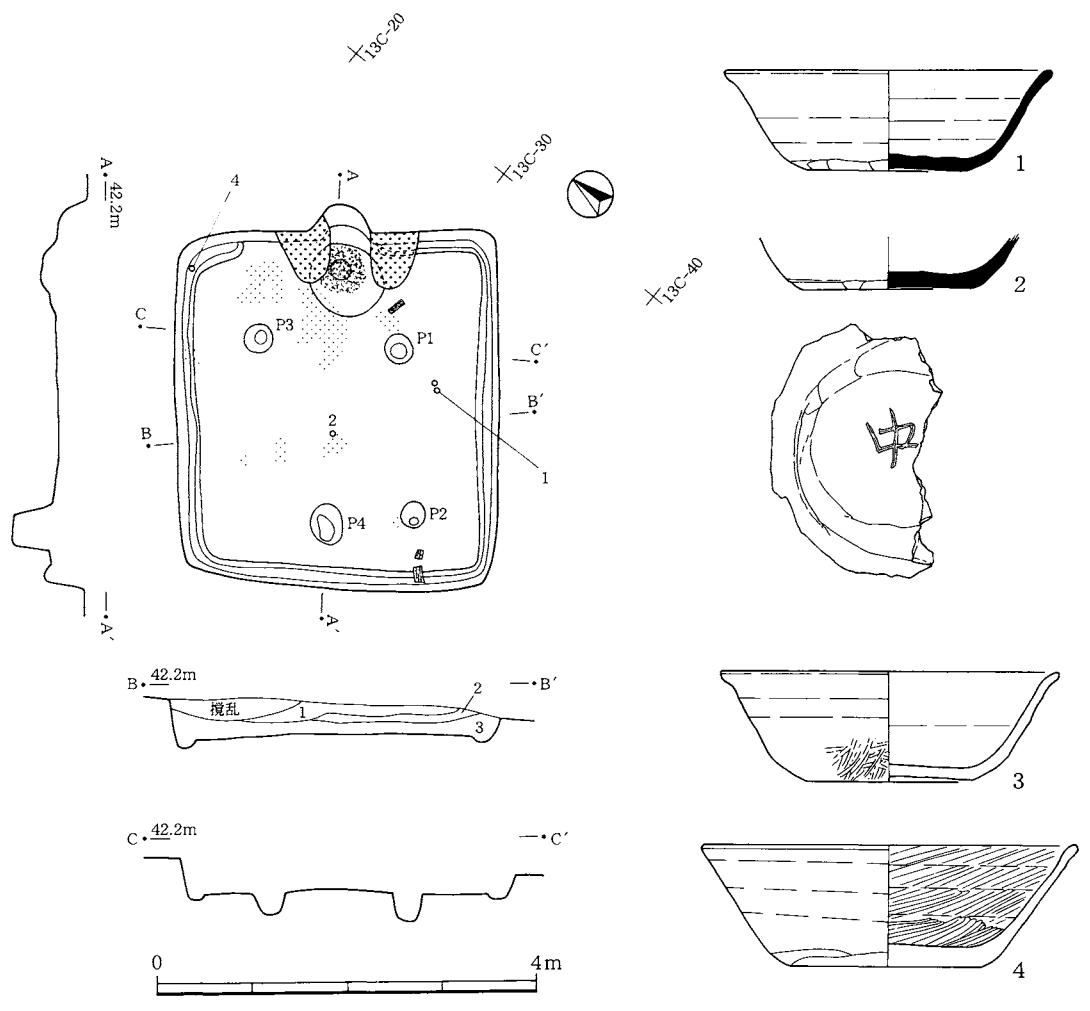
りで調整されている。内面はナデで仕上げられている。底面内側の一部には自然釉が見られる。8は底部底面の破片である。ほぼ1/5遺存している。底径14.8cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリで、底面無調整で仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。9は底部を除きほぼ2/5遺存している。口径24.7cmで他は不明である。外面口縁部分はヨコナデ、胴部以下はタタキ目で仕上げられている。内面は口縁部分がナデで仕上げられている。胴部以下は当て具痕が見られる。10は口縁部～胴部上半部の破片で口縁部については1/2程度遺存している。口径24.0cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はタタキ目で調整されている。内面は口縁部分がヨコナデ、胴部は当て具痕で仕上げられている。11は胴部～底部の破片である。底面を除いてほぼ1/4遺存している。底径14.0cmで他は不明である。外面は胴部タタキ目後ナデ、底部についてはヘラケズリで仕上げられている。内面は当て具痕が見られるが、ナデで仕上げられている。全体に器面は荒れている。16は甕の胴部の1/5程度遺存している。口縁部及び底部がないので大きさ等は不明である。外面は胴部の一部にタタキ目痕が見られるところからタタキ目後ナデで仕上げられたものと思われる。内面はナデで仕上げられている。17は甕の底部破片である。ほぼ1/5遺存している。底径8.0cmで他は不明である。外面は底部タタキ目後ヘラケズリで調整されている。底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。

#### SI-010号（第71図、第72図～第73図 1～21）

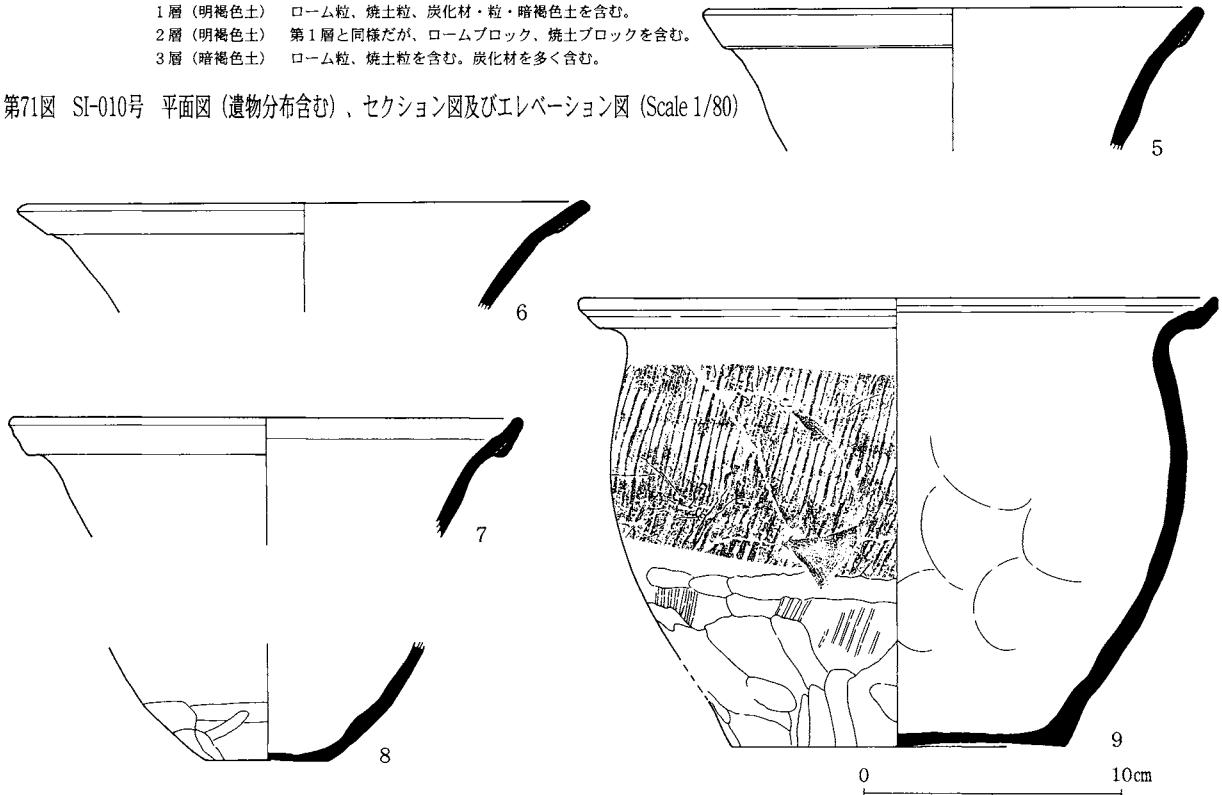
（遺構）調査区のもっとも南側の13B-29付近で検出された。平面形状は南西隅がやや長い形ではあるが、ほぼ正方形に近い形をしている。規模は北東壁3.35m、北西壁3.30m、南東壁3.70m、南西壁3.55mである。主軸方位はN-50°-Eである。SI-055号の住居を壊して建てられている。横方向に攪乱が入り、遺構の遺存状況はあまり良くはない。覆土は1層～2層が明褐色土、下層の3層が暗褐色土である。住居のカマドよりの壁際から中央部分にかけて焼土ブロックや炭化材がまとまって検出されている。遺物等も同じような範囲から出土しており、火災にあって廃棄されたものと思われる。カマドは北東壁の中央部分に位置する。袖部分が基底部を中心に残っており、火床部の中心部も明瞭に検出された。住居の柱穴はP1～P3まで検出された。また梯子ピットのP4も検出された。ただし床面の状態は所々で攪乱にあっており、南西側の柱穴はそのため検出できなかつたようである。

（遺物）遺物はカマド及びその周辺の炭化材の出土している範囲からやや多めに検出されている。図示したのは、土師器杯9点、須恵器杯4点、須恵器甕6点、須恵器瓶1点である。

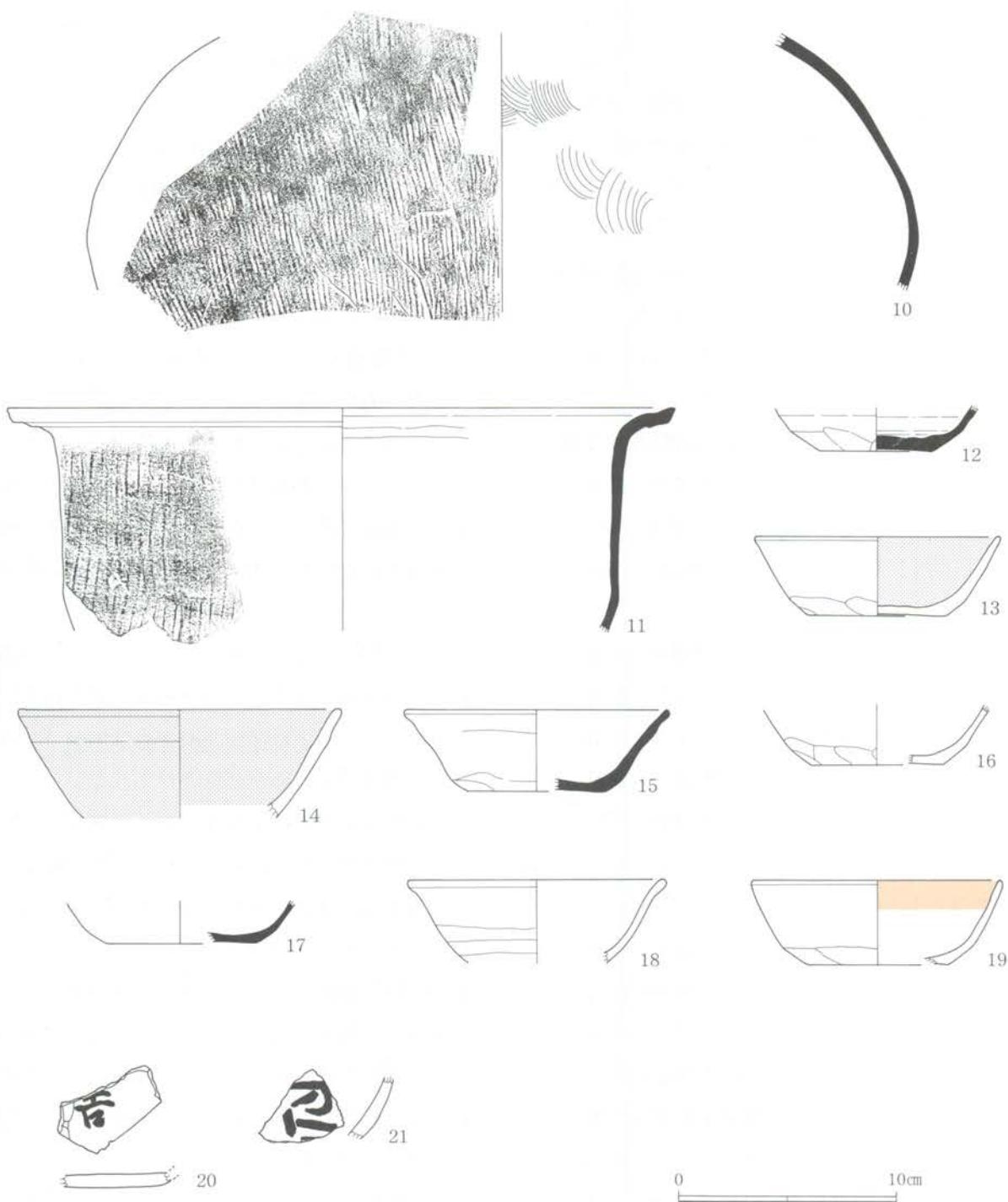
3、4、13、14、16、18、19～21は土師器の杯である。3はほぼ2/3遺存している。口径13.2cm、底径6.4cm、器高4.3cmである。外面はナデ後底部の一部にミガキ、底面は回転糸切り後、無調整である。内面はナデで仕上げてある。外面底部の一部が黒色化（意図的とは思われない）している。4はほぼ2/3遺存している。なお、口縁部については1/2程度遺存している。口径14.5cm、底径7.4cm、器高4.7cmである。外面はナデ後底部ヘラケズリで調整されている。底面は回転ヘラケズリで仕上げられている。内面はミガキで仕上げられている。13は杯の1/4程度遺存している。口径11.4cm、底径6.4cm、器高3.6cmである。外面は口縁部～底部ヨコナデ、底部ヘラケズリで調整されている。底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデ後、一部ミガキで仕上げられている。14は杯の口縁部～底部の破片である。1/3程度遺存している。口径14.0cmで他は不明である。内外面は黒色処理されている。また内面にはタール状の付着物が見られる。外面は口縁部ヨコナデ、底部は回転ヘラケズリで調整されている。内面はヨコナデで仕上げられて



第71図 SI-010号 平面図(遺物分布含む)、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第72図 SI-010号 出土遺物実測図1 (Scale 1/3)



第73図 SI-010号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

いる。16は杯の底部、底面の破片である。底部～底面のはば1/4遺存している。底径6.2cmで他は不明である。外面はナデで、底部～底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。18は杯の口縁部～底部にかけてほぼ1/4遺存している。口径12.2cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、底部は回転ヘラケズリで調整されている。内面はヨコナデで仕上げられている。19は杯の1/5程度遺存している。内面口縁部分に赤彩の跡が見られる。口径11.6cm、底径6.5cm、器高3.9cmである。外面はヨコナデで、底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

20、21は墨書の書かれた土師器の杯である。20は底面破片で底面の内側に『吉』と書かれている。外面は回転糸切り痕が見られる。内面はナデで仕上げられている。21は胴部破片である。外面に『万』という一字と不明な文字がもう一字見られる。外面はナデで調整されている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。黒色処理を施されている土器である。

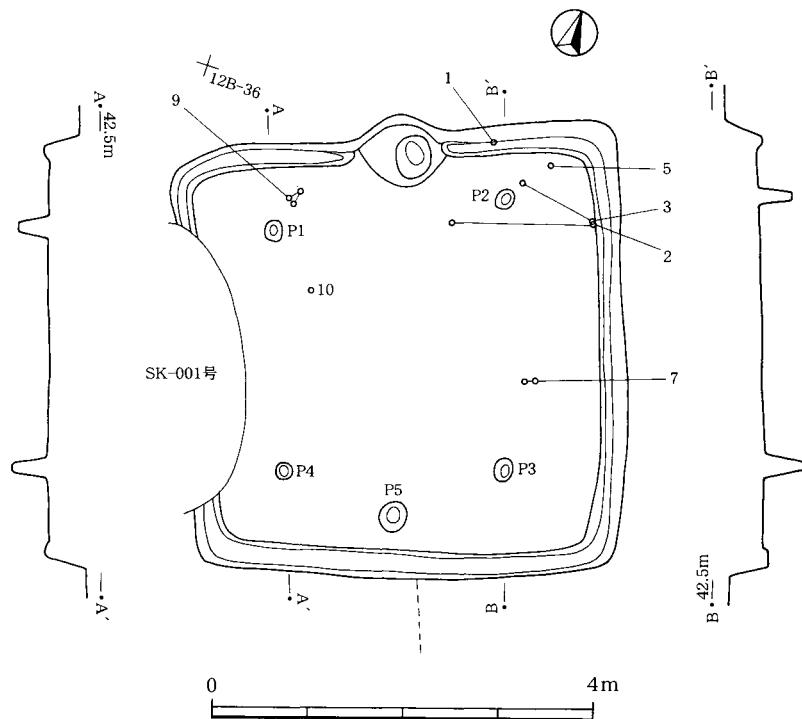
1、2、12、15、17は須恵器の杯である。1は杯でほぼ1/3遺存している。口径12.8cm、底径6.4cm、器高3.9cmである。外面はロクロヨコナデ後、底面回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリで調整されている。なお、底部も手持ちヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ仕上げである。2は杯の底面3/5と若干の底部が遺存している。また、外底面に線刻『中』が描かれている。底径6.8cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリ後ミガキで調整されている。内面はナデで仕上げられている。12は杯の底部から底面にかけての破片である。底面については1/3程度遺存している。底径5.2cmで他は不明である。外面は底部ナデ後ヘラケズリ、底面はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。15は杯の口縁部1/4と底部1/2程度遺存している。口径12.4cm、底径6.4cm、器高3.8cmである。外面はロクロナデで、底部ヘラケズリ、底面片側方向へのヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。17は杯で底部～底面の破片である。底部～底面にかけて1/5程度遺存している。底径7.0cmで他は不明である。外面は底部、底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

5～10は須恵器甕である。5は甕の口縁部破片である。口縁部のほぼ1/5遺存している。口径19.6cmで他は不明である。口縁部がやや外反する器形である。外面はヨコナデで調整、内面はヨコナデで仕上げられている。6は甕の口縁部破片である。口縁部のほぼ1/4遺存している。口径22.6cmで他は不明である。5より口縁部が外反する器形である。外面はヨコナデで調整、内面はヨコナデで仕上げられている。7は甕の口縁部破片である。口縁部のほぼ1/3遺存している。口径20.3cmで他は不明である。口縁部がやや外反する器形である。外面はヨコナデで調整、内面はヨコナデで仕上げられている。8は甕の底部破片である。底部のおおよそ1/3遺存している。底径6.0cmで他は不明である。外面は底部上面ナデ、底部は横方向のヘラケズリで調整されている。底面もヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。9は甕でほぼ1/2遺存している。口径26.0cm、底径13.0cm、器高17.55cmである。外面は口縁部ナデで、胴部はタタキ目で調整されている。底部はタタキ目後、ヘラケズリで仕上げられている。底面は無調整である。内面は口縁部ナデ、胴部は工具痕が見られる。底部はナデで仕上げられている。底面部分は剥落が著しく不明である。10は甕の胴部上半部分の破片である。最大胴部径は37.4cm程度で他は不明である。外面は胴部全体をタタキ目で調整している。また、内面には工具痕が観察される。

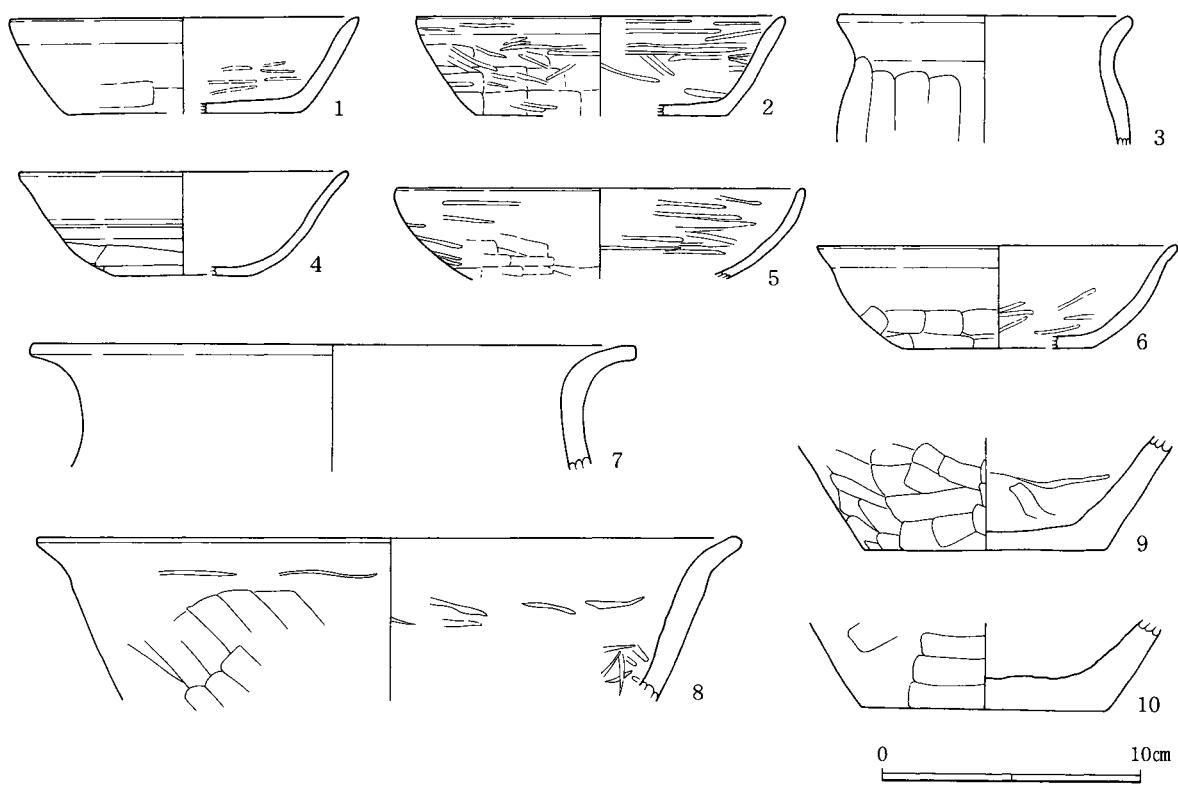
11は須恵器の瓶である。口縁部～胴部下半部にかけて1/5程度遺存している。口径31.0cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部にかけてはタタキ目で仕上げられている。

#### SI-011号（第74図、第75図1～10）

（遺構）調査区の南側の12B-36付近で検出された。平面形状は南東隅がやや長い形ではあるが、ほぼ正方形に近い形をしている。規模は北西壁4.70m、北東壁4.68m、南西壁4.33m、南東壁4.40mである。主軸方位はN-18°-Wである。SK-001号の土坑によって南西壁を壊されている。縦横に攪乱が入り、遺構の遺存状況はあまり良くはない。覆土は市松模様に攪乱を受けており非常に遺存状況が悪く、残され



第74図 SI-011号 平面図（遺物分布含む）及びエレベーション図（Scale 1/80）



第75図 SI-011号 出土遺物実測図（Scale 1/3）

でなかった。またカマドについても基底部のみ検出されてが、袖部分や火床部については殆ど検出できなかった。カマドは北西壁の中央部分に位置していたものと思われる。住居の柱穴はP1～P4まで検出された。また梯子ピットのP5も検出された。

（遺物） 遺物はカマドの周辺から比較的多く出土している。図示したのは、土師器杯5点、土師器甕4

点、土師器甌1点である。

1、2、4～6は土師器の杯である。1はほぼ1/4遺存している。口径13.6cm、底径9.0cm、器高3.8cmである。外面はヨコナデ後、底部、底面ヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。2はほぼ1/3遺存している。口径14.4cm、底径10.0cm、器高3.9cmである。外面は口縁部ナデ後ミガキ、底部底面にかけてはヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面は一部剥落はしているもののミガキで仕上げられている。4はほぼ1/5遺存している。口径12.8cm、底径5.6cm、器高4.0cmである。外面はナデ後、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。5は口縁部～底部にかけての破片である。口径16.0cmで他は不明である。外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面はミガキで仕上げられている。丸みの強い器形である。6はほぼ1/5遺存している。口径13.6cm、底径7.6cm、器高4.0cmである。外面は口縁部ナデ後、底部底面ヘラケズリで調整されている。内面は口縁部ヨコナデ後、底部底面ナデ後所々ミガキで仕上げられている。

3、7、9、10は土師器の甌である。3は口縁部～胴部上半部分が1/2ほど遺存している破片である。口径11.4cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。7は口縁部～頸部にかけての破片である。口縁部の1/5ほど遺存している。口径13.6cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデで仕上げられている。内面口縁部はヨコナデで仕上げられている。9は底部底面破片である。ほぼ1/3遺存している。底径9.3cmで他は不明である。外面は底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。10は底部底面の破片である。底面はほぼ遺存、底部については1/5遺存している。底径9.5cmで他は不明である。底部、底面はヘラケズリで調整されている。内面は著しく剥落しており調整は不明である。

8は土師器の甌である。口縁部の1/4遺存している。口径27.4cmで他は不明である。外面は口唇部ヨコナデ後頸部以下はヘラケズリで調整されている。内面はヨコナデ後ミガキで仕上げられている。

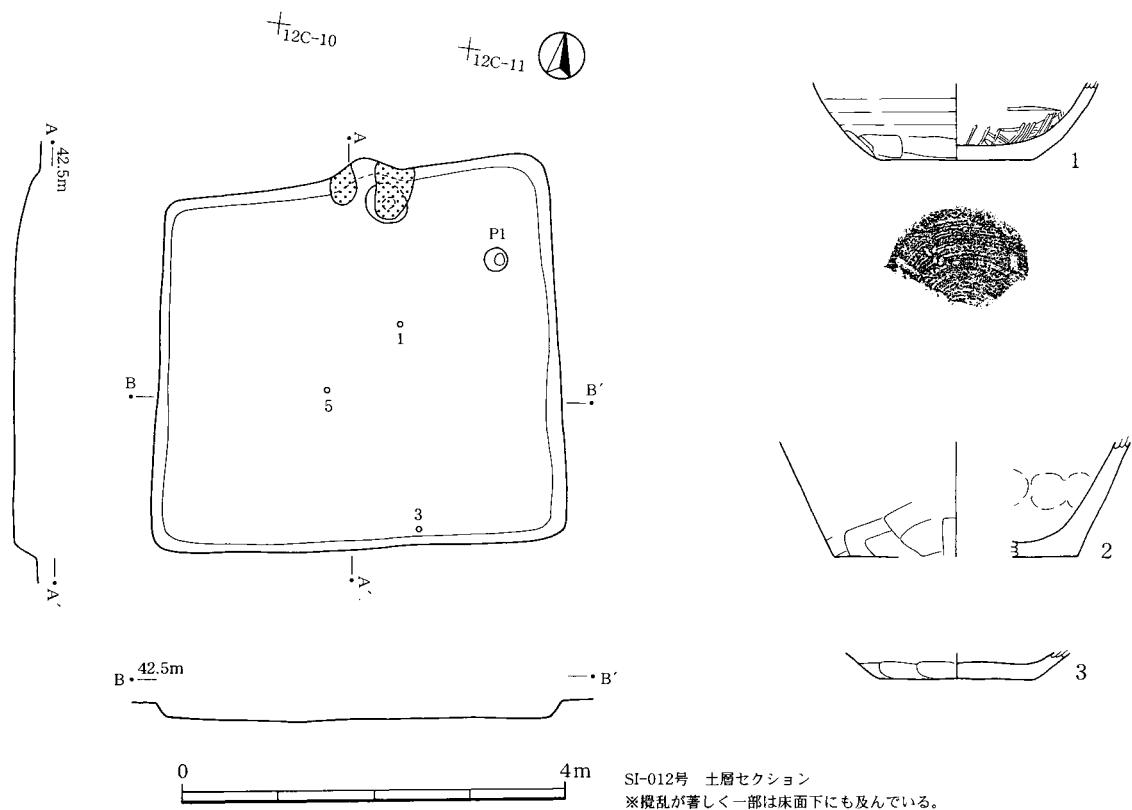
#### SI-012号（第76図、第77図1～5）

（遺構）調査区の南側の12C-20付近で検出された。平面形状は北東隅がやや長い形ではあるが、ほぼ正方形に近い形をしている。規模は北西壁4.02m、北東壁4.07m、南西壁4.32m、南東壁4.40mである。主軸方位はN-8°-Wである。縦横に攪乱が入り、遺構の遺存状況はあまり良くはない。覆土についても攪乱が激しく、ごく僅かしか残存していない。僅かな土層からこの住居が埋め戻されていたと思われる。

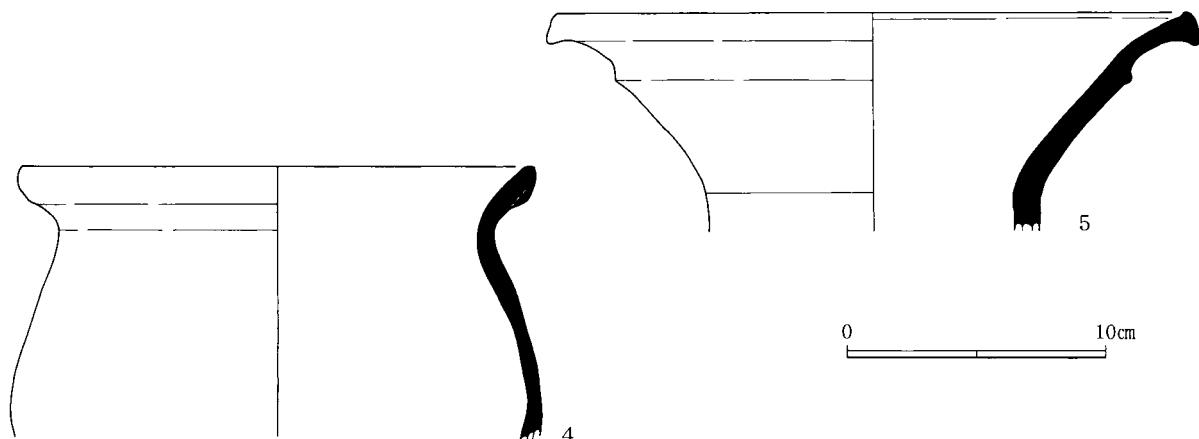
カマドは袖の一部及び基底部については検出された。火床部については殆ど検出できなかったようである。カマドは北西壁の中央部分に位置していたものと思われる。住居の柱穴はP1が検出された。その他の柱穴等のピットは床面の状態も悪く検出できなかった。なお、P1の床面からの深さは62cmある。

（遺物）遺物はカマド内及び住居の中央覆土中より出土している。図示したのは、土師器杯2点、土師器甌1点、須恵器甌2点である。

1、3は土師器の杯である。口縁部が欠損しており、全体の1/4程度遺存している。底径5.8cmで他は不明である。外面は胴部ヨコナデ後底部ヘラケズリで調整されている。また、底面は糸切り痕が見られる。内面はミガキで仕上げられている。また黒色処理が施されている。3は土師器の杯である。底面を中心とした破片で底面のほぼ2/3遺存している。底径6.0cmで他は不明である。外面は底部の立ち上がり部分がヘラケズリで底面は糸切り後ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。



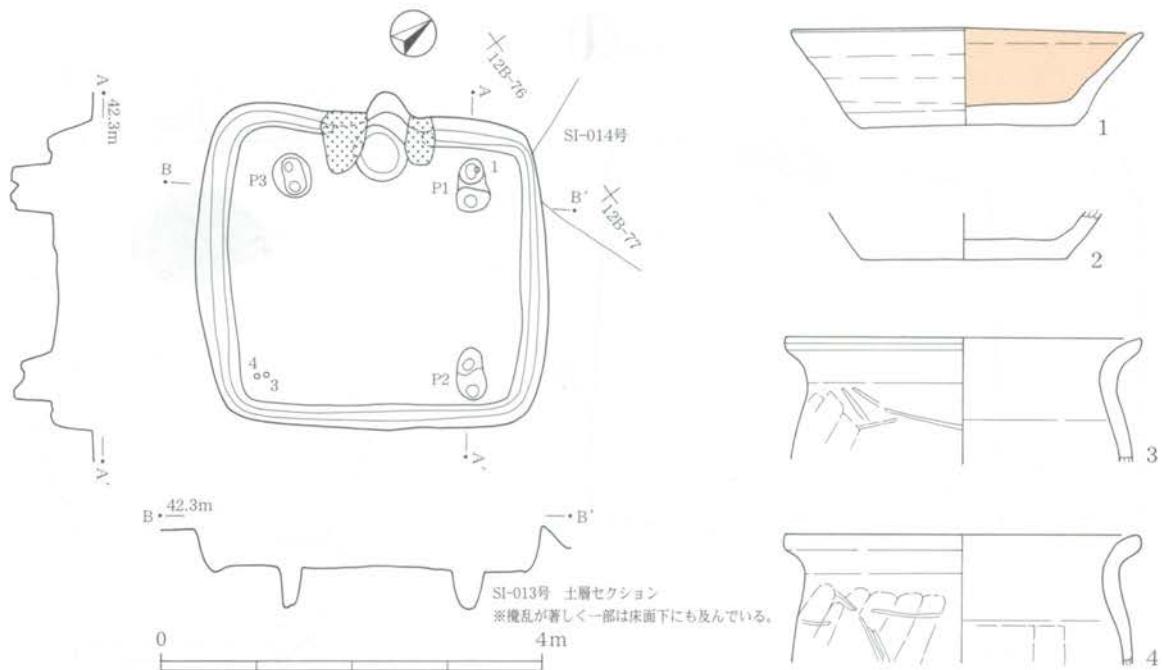
第76図 SI-012号 平面図（遺物分布含む）及びエレベーション図



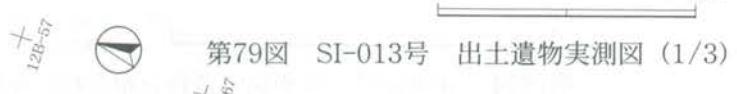
第77図 SI-012号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

2は土師器の甕である。底部底面の破片である。なお、底面はほぼ1/3、底部は1/5遺存している。底径9.5cmで他は不明である。外面は底部上半部ナデ、底部下端部、底面ヘラケズリで調整されている。内面は当て具痕が見られる。

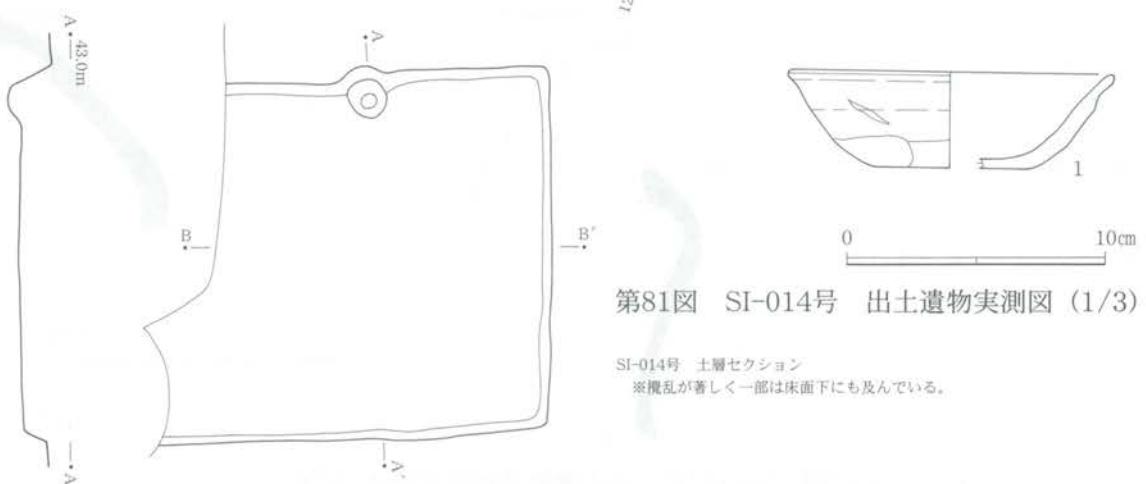
4、5は須恵器の甕である。4は口縁部～胴部にかけて1/3程度遺存している。口径20.0cmで他は不明である。外面はナデで仕上げられている。表面に付着物が見られる。内面はナデで仕上げられている。外面同様に付着物が見られる。また、剥落も著しい。5は須恵器の甕の口縁部の破片である。ほぼ1/6遺存している。口径24.6cmで他は不明である。口縁部で外反する器形のものである。外面、内面ともナデで仕上げられている。



第78図 SI-013号 平面図及びエレベーション図 (1/80)

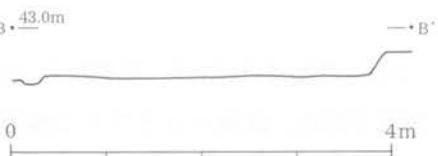


第79図 SI-013号 出土遺物実測図 (1/3)



第81図 SI-014号 出土遺物実測図 (1/3)

SI-014号 土層セクション  
※擾乱が著しく一部は床面下にも及んでいる。



第80図 SI-014号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

#### SI-013号 (第78図、第79図 1～4)

(遺構) 調査区の南側の12B-76付近で検出された。平面形状は南西壁がやや膨らむ形ではあるが、ほぼ正方形に近い形をしている。規模は北東壁3.08m、北西壁3.38m、南東壁3.31m、南西壁3.28mである。主軸方位はN-52°-Wである。縦横に擾乱があり、遺構の遺存状況はあまり良くはない。覆土につ

いても攪乱が激しく、ごく僅かしか残存していない。南側でSI-014号と切り合うが、新旧関係は定かではない。カマドは袖の一部及び基底部については検出された。火床部については殆ど検出できなかったようである。カマドは北西壁の中央部分に位置していたものと思われる。住居の柱穴はP1～P3が検出された。攪乱の掘り込みが深いためもう一ヶ所の柱穴は破壊されたものと思われる。なお、柱穴の形態から建て替えが行われたものと推測される。その他の柱穴等のピットは床面の状態も悪く検出できなかった。床面そのものの状況も攪乱等の影響を受けて凸凹が大きい。

(遺物) 遺物は住居南東隅に近い部分で数点出土している。図示したのは、土師器杯2点、土師器甕2点である。

1、2は土師器の杯である。1はいわゆる赤彩土器である。口縁部については1/3以上遺存している。口径13.5cm、底径8.2cm、器高3.8cmである。外面は口縁部～底部にかけてはナデで調整、底部は回転ヘラケズリで仕上げられている。底面は糸切り後周辺部をヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。内面は全体が赤彩、外面は部分的に赤彩が残っている。2は杯の底面底部破片である。底径8.0cmで他は不明である。外面底部ナデ、底面はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

3、4は土師器の甕である。3は口縁部～胴部にかけての破片である。口径13.8cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後所々ミガキが見られる。内面は口縁部ヨコナデ、胴部はナデで仕上げられている。4は口縁部～胴部にかけての破片である。口径13.8cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、胴部はナデで仕上げられている。

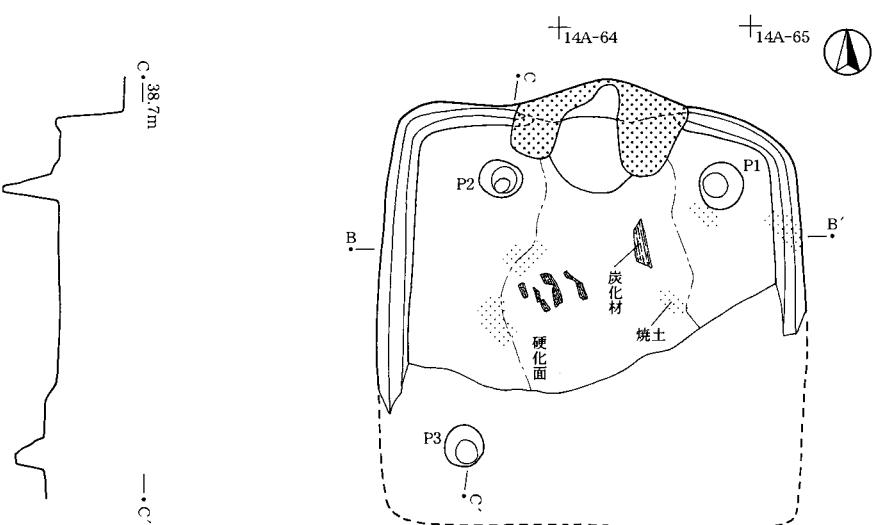
#### SI-014号（第80図、第81図1）

(遺構) 調査区の南側の12B-56付近で検出された。SI-011号及びSK-001号と一部切り合う。平面形状ほぼ正方形に近い形をしていると思われる。規模は一辺3.9m程になると思われる。残っている南西壁は3.82mである。主軸方位はN-72°-Eである。縦横に攪乱が入り、遺構の遺存状況はあまり良くはない。覆土についても攪乱が激しく、記録に留められていない。北側でSI-011号と切り合うが、新旧関係は定かではない。カマド基底部については検出されたが、火床部、袖部分については殆ど検出できなかったようである。カマドは北東壁の中央部分に位置していたものと思われる。住居の柱穴等は全く検出されなかった。床面の遺存状況も極めて悪い。

(遺物) 遺物は住居北西隅に近い部分で若干出土している。図示したのは、土師器杯1点である。1は土師器の杯である。口縁部のほぼ1/3遺存している。口径12.4cm、底径6.0cm、器高3.8cmである。外面は口縁部ナデ、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面についてはナデで仕上げられている。

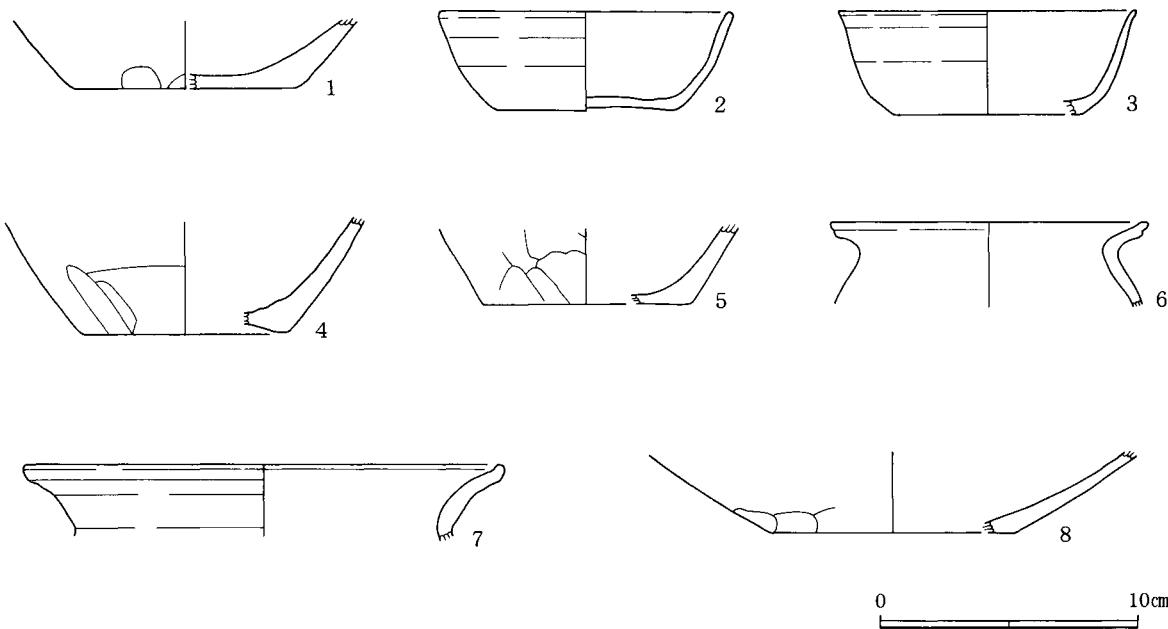
#### SI-016号（第82図、第83図1～8）

(遺構) 調査区の最も南側の14A-63付近で検出された。平面形状は北側3m部分までしか検出されていないが、柱穴等の位置から推定してほぼ正方形になるものと思われる。規模は北壁4.25m、東壁4.28m、南壁4.36m、西壁4.40mである。主軸方位はほぼ北向きである。遺構の南側は削平されてほぼ消滅してはいるが、北側の半分は比較的良好な検出状況である。覆土の基本層序は上層から1～4層で区分され



SI-016号 土層セクション  
 1層（暗褐色土） ローム粒、焼土粒をやや含み暗い色調である。  
 2層（暗褐色土） ローム粒、焼土粒、明褐色土をやや多めに含み、明るい色調である。  
 3層（暗褐色土） ローム粒、焼土粒を含む。  
 4層（暗褐色土） ローム粒、焼土粒、炭化材、炭化粒、山砂を含む。

第82図 SI-016号 平面図（炭化物・焼土分布）、セクション図及びエレベーション図（Scale 1/80）



第83図 SI-016号 出土遺物実測図（Scale 1/3）

る。暗褐色土が主体でローム粒、焼土粒、粘土などを含む。

カマドは北壁中央部に位置している。カマドの詳細な図面は取られていないので詳しいことは不明であ

るが、カマドの袖の部分と本体の位置だけは確認された。土層等も記載のないため不明である。住居の主柱穴はP1～P3まで検出された。柱穴は床面からおおむね40cm前後の深さとなる。床面はカマドから南側の部分で硬化部分が認められる。また、覆土中からは焼土や炭化材が少量の遺物とともに検出されている。

(遺物) 遺物は住居より少量出土している。図示したのは、土師器杯2点、土師器甕6点である。

2、3は土師器の杯である。2は土師器の杯でほぼ2/3遺存している。底部から胴部にかけてやや丸みのある器形をしている。口径11.6cm、底径7.0cm、器高3.8cmである。外面は口縁部ロクロナデ、底底部、底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上がられていると思われるが、器面が荒れており不明瞭である。3は土師器の杯で口縁部～底部にかけては1/2程度遺存している。口径11.6cm、底径7.4cm、器高4.0cmである。外面はロクロナデ、底部～底面にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

1、4～8は土師器の甕である。1は土師器の甕の底部～底面破片である。底径8.6cmで他は不明である。外面は底部ナデ後ヘラケズリで、底面はヘラケズリで調整されている。内面は剥落が著しいため不明である。4は土師器の甕の底部破片である。底部の1/4程度遺存している。底径8.0cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリで、底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。5は土師器の甕の底部破片である。底部のほぼ1/3程度遺存している。底径8.2cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリで、底面は1方向へのヘラケズリで調整されている。内面は剥落していて不明である。6は土師器の甕の口縁部破片である。口縁部の1/3程度遺存している。口径12.4cmで他は不明である。外面は口唇部ナデ、胴部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。7は土師器の甕の口縁部破片である。口縁部のほぼ1/5程度遺存している。口径18.9cmで他は不明である。内外面ともナデで仕上げられている。8は土師器の甕の底部破片である。底面に近い底部の1/6程度遺存している。外面は底部、底面ともヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

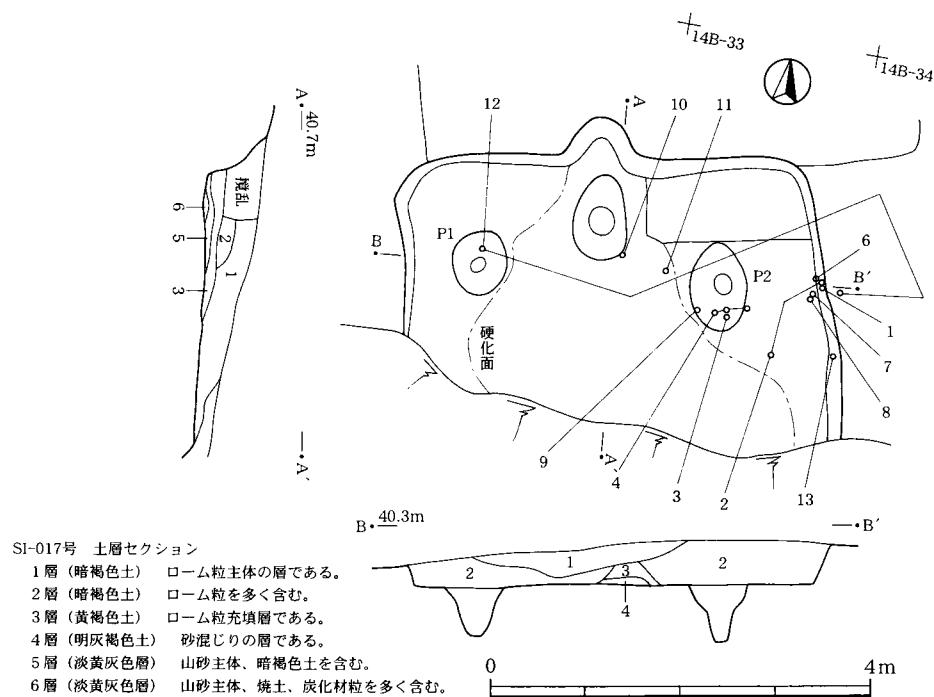
#### SI-017号（第84図、第85図1～12）

(遺構) 調査区の最も南側の14B-33付近で検出された。平面形状は南側が崖により崩落しているため、北側2～3m部分までしか検出されていない。カマドのある北西壁の規模は4.35mである。その他の壁の規模についても同様と思われる。主軸方位はN-10°-Wである。覆土の基本層序は上層から1～8層まで区分される。一部ローム粒が充填された埋め戻しと思われる層が存在する。全体にローム粒の多い暗褐色土～暗黄褐色土が主体でローム粒が主体の土層である。

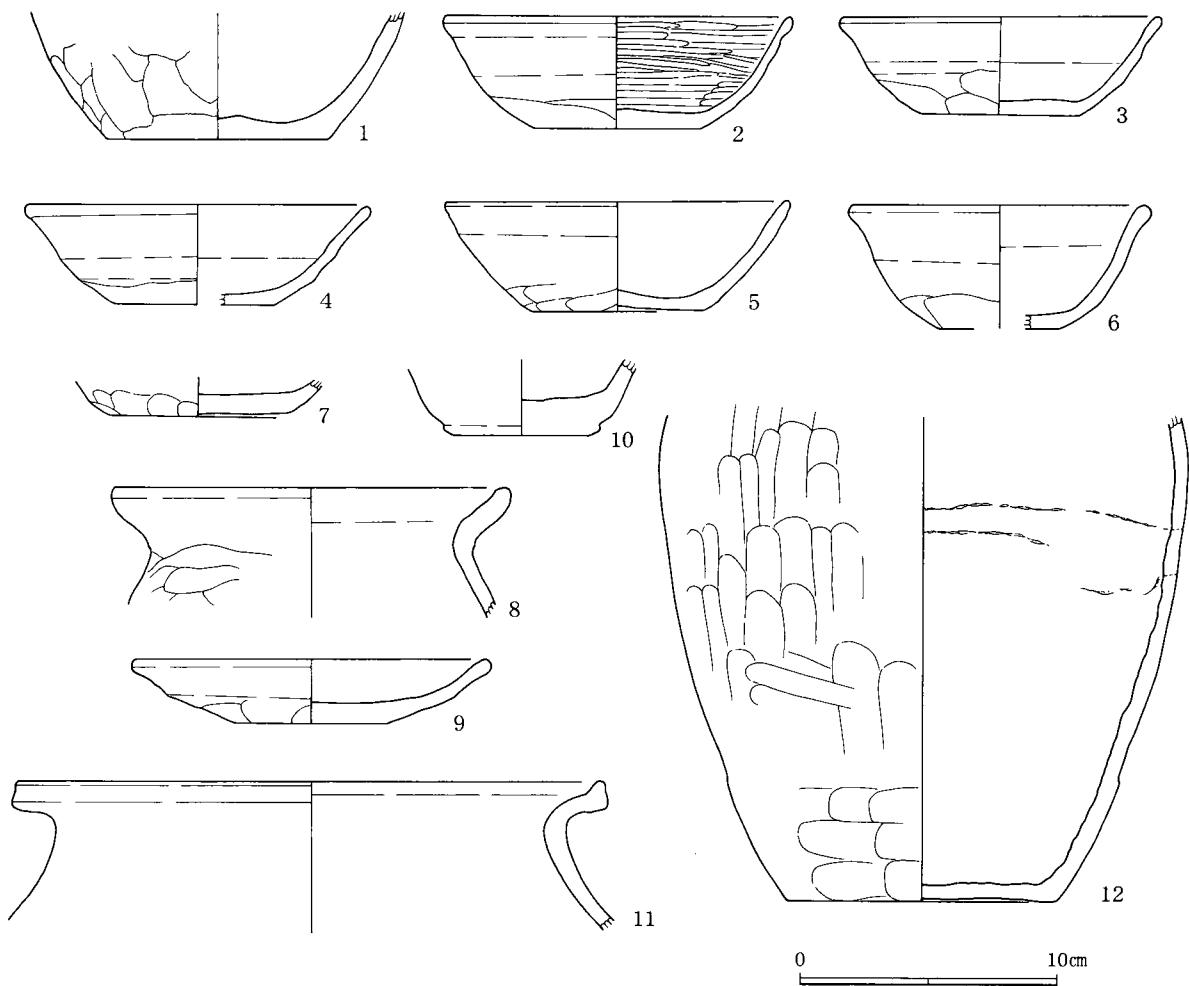
カマドは北西壁中央部に位置している。火床部の落ち込みのみ確認できる。袖部分の基底部すら検出されていない。住居の主柱穴はP1～P2まで検出された。P1は50cm、P2については60cmである。床面はカマドから南側の部分で硬化部分が認められる。

(遺物) 遺物は住居のカマド東より多く出土している。図示したのは、土師器杯7点、土師器皿1点、土師器甕4点である。

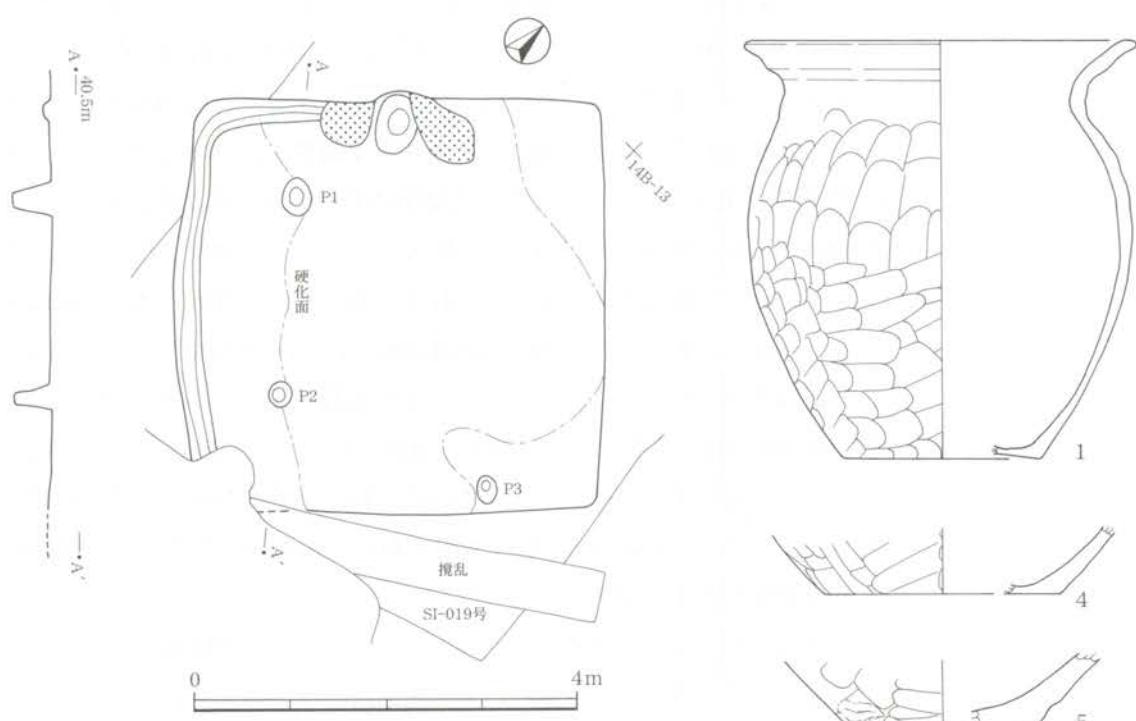
2～7、10は土師器の杯である。2は土師器の杯で口縁部のほぼ1/4が遺存している。口径13.6cm、底径6.7cm、器高4.4cmである。外面は口縁部ナデ、底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。3は土師器の杯の口縁部のほぼ1/2遺存している。口径12.4cm、底径6.2cm、器高



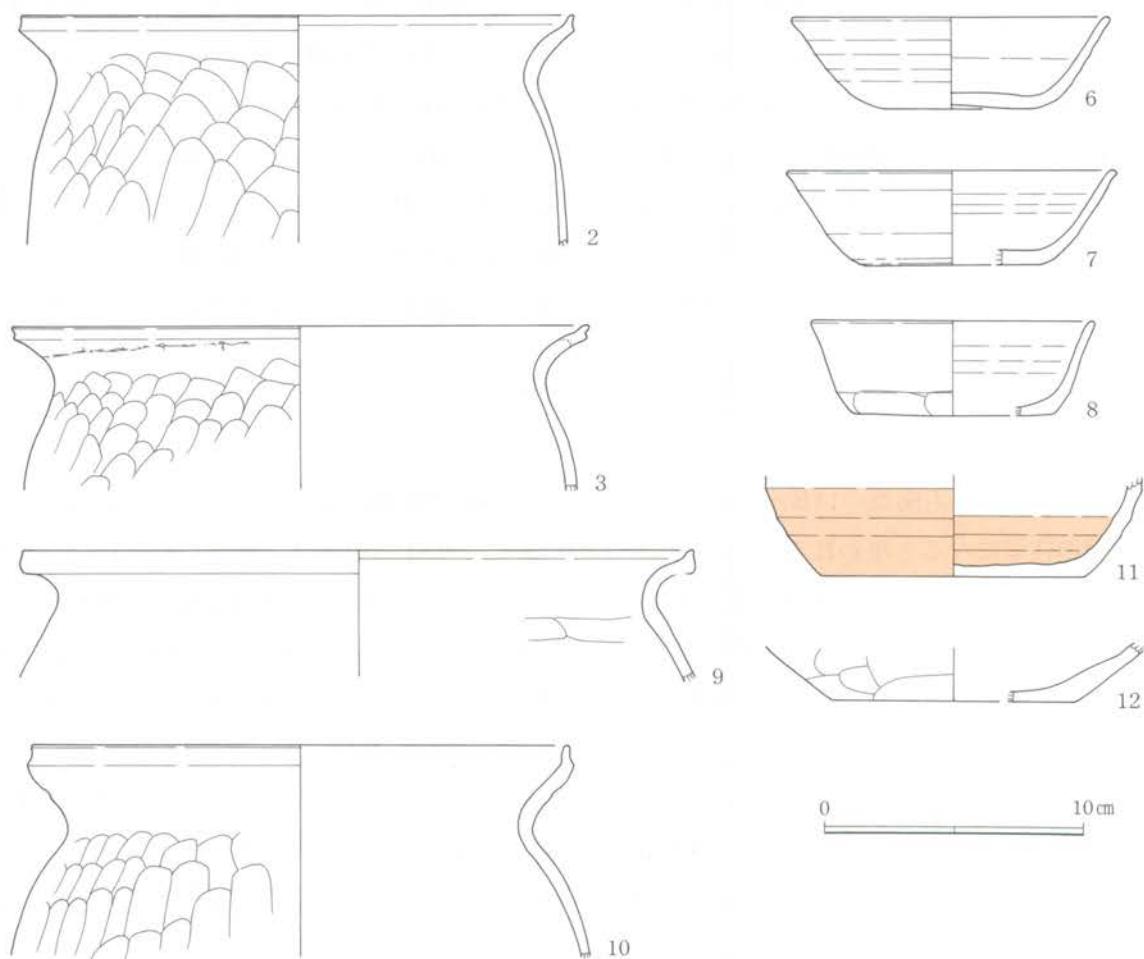
第84図 SI-017号 平面図（遺物分布含む）及びセクション図（Scale 1/80）



第85図 SI-017号 出土遺物実測図（Scale 1/3）



第86図 SI-018号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第87図 SI-018号 出土遺物実測図1 (Scale 1/3)

3.8cmである。外面は口縁部ナデ、底部はヘラケズリで調整されている。なお、底面は縦横方向にヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。4は土師器の杯のほぼ1/2遺存している。胎土が粗くナデによる整形の際大きく稜ができている。口径13.3cm、底径6.3cm、器高3.9cmである。外面は口縁部ナデ、底部はヘラケズリで調整されている。底面はヘラケズリで調整されているが、その際大きく削り落とされている。内面はナデで仕上げられている。5は土師器の杯の口縁部の1/4遺存している。口径13.2cm、底径6.6cm、器高4.2cmである。外面は口縁部ナデ、底部ヘラケズリで調整されている。底面は糸切り後ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。6は土師器の杯の口縁部～底部にかけて1/5程度遺存している。口径11.4cm、底径4.6cm、器高4.8cmである。外面はナデ、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。7は土師器の杯の底部底面の破片である。底部はほぼ遺存している。底径6.8cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、底面については片方向へのヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。10は土師器の杯の底部底面破片である。底面は厚みが有り、手捏ね風である。底径5.4cmで他は不明である。内外面ともナデで調整されている。外面底面にはヘラ状の工具で調整したような跡が見られる。

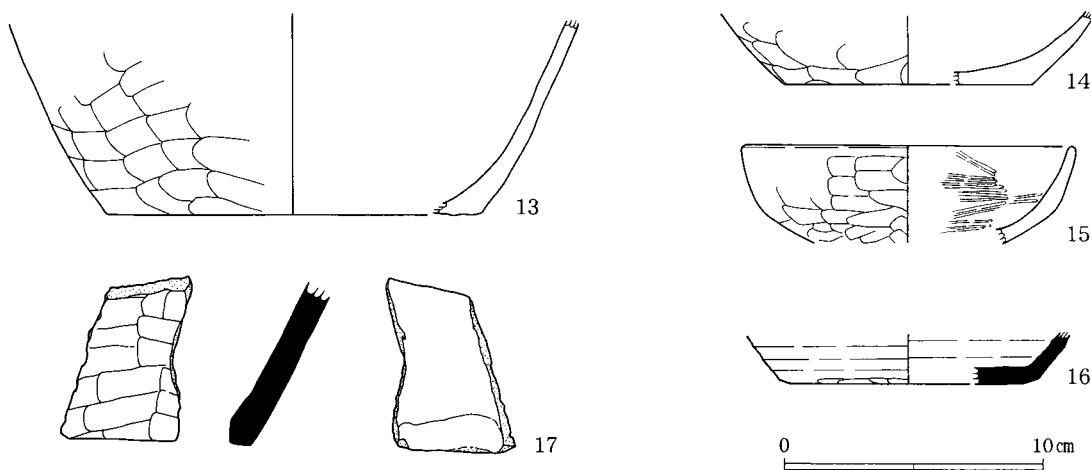
9は土師器の皿である。口縁部は1/10程度しか遺存していないが、全体では1/3程度遺存している。口径13.6cm、底径6.0cm、器高2.5cmである。外面は口縁部がナデ、底部はヘラケズリで調整されている。底面については、片方向からのヘラケズリで調整されている。内面がナデで仕上げられている。

1、8、11、12は土師器の甕である。1は土師器の甕の底部破片である。底面～底部下半部分の破片である。底径8.7cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリで、底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。8は土師器の甕の口縁部の破片である。口径15.4cmで他は不明である。外面は口縁部ナデで、胴部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。11は土師器の甕の口縁部の破片である。口径23.0cmで他は不明である。口縁部の内外面はナデで仕上げられている。12は土師器の甕の胴部以下である。およそ1/3遺存している。底径10.5cmで他は不明である。外面は胴部以下ヘラケズリである。特に底部以下は剥落が著しい。内面はナデで仕上げられている。胴部中央部分には輪積み痕が残っている。

#### SI-018号（第86図、第87図1～17）

（遺構）調査区の最も南側の14B-12付近で検出された。SI-017号には切られており、SI-017号よりは古い時期の住居になると思われる。また、カマドの所在によりSI-019号より新しい時期に作られたものと考えられる。平面形状は南西隅がSI-017号で切られているもののほぼ正方形になると思われる。規模は北西壁4.26m、北東壁4.23m、南東壁推定4.15m、南西壁推定4.28mである。主軸方位はN-45°-Wである。調査時においてSI-018号及び019号の区別が明瞭でないため土層図は載せなかった。覆土は暗褐色土が主体の土層である。

カマドは北西壁中央部に位置している。カマドの基底部及び袖の一部分が確認できる。住居の主柱穴はP1～P2まで検出された。床面からの深さはP1、P2いずれも40cm余りである。なお、P3は主柱穴ではないものの柱穴等になるかと思われる。床面からの深さは48cmある。床面はカマドから主軸方向に硬化部分の広がりが認められる。



第88図 SI-018号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

(遺物) 遺物は住居全体の覆土より比較的多く出土している。図示したのは、土師器杯5点、土師器甕10点である。須恵器杯1点、須恵器甕1点である。

6～8、11、15は土師器杯である。6は土師器の杯でほぼ3/5程度遺存している。口径12.15cm、底径5.9cm、器高3.6cmである。外面は口縁部～底部にかけてロクロナデで、底面は糸切り後ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。7は土師器の杯のほぼ1/4程度遺存している。口径12.4cm、底径6.7cm、器高3.65cmである。外面は口縁部～底部にかけてロクロナデで、底面はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。8は土師器の杯で1/10程度遺存している。口径10.8cm、底径7.85cm、器高3.6cmである。外面はナデで、底部～底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。11は土師器の杯の口縁部を除く部分の破片で、1/5程度遺存している。底径10.2cmで他は不明である。外面はロクロナデで、底面についてはヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。なお、内外面とも赤彩されている。15は土師器の丸底の杯である。ほぼ1/3程度遺存している。口径12.7cmで他は不明である。外面はヘラケズリで調整されている。内面はナデ後、一部ミガキで仕上げられている。

1～5、9～10、12～14は土師器の甕10点である。1は土師器の甕でおおよそ1/2遺存している。口径14.8cm、底径7.6cm、器高16.8cmである。外面は口縁部ヨコナデ、胴部～底面にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。2は土師器の甕の口縁部～胴部上半部の破片である。口縁部分はおおよそ1/2遺存している。口径21.45cmで他は不明である。3は土師器の甕の口縁部～胴部上半部の破片である。口縁部は1/5程度遺存している。口径22.3cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリで調整されている。また、頸部には輪積み痕が残されている。内面はナデで仕上げられている。4は土師器の甕の底部の破片である。底部の1/3程度遺存している。底径9.15cmで他は不明である。外面は底部、底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。5は土師器の甕の底部の破片である。おおよそ底部の1/5遺存している。底径7.1cmで他は不明である。外面は底部、底面ヘラケズリで調整されている。底部の一部に指紋痕が認められる。内面はナデで仕上げられている。9は土師器の甕の口縁部～胴部上半部の破片である。口縁部のおおよそ1/5遺存している。口径26.3cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半部はナデで調整されている。内面は口縁部ナデ、頸部

ヘラケズリ、胴部にかけてはナデで仕上げられている。10は土師器の甕の口縁部～胴部上半部の破片である。胴部上半部分については、おおよそ1/4遺存している。口径は20.9cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。12は土師器の甕の底部～底面の破片である。底径9.45cmで他は不明である。外面は底部、底面ともヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。13は土師器の甕の底部破片である。底径14.6cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。14は土師器の甕の底部～底面の破片である。ほぼ1/5遺存している。底径9.65cmで他は不明である。外面は底部、底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

16は須恵器の杯である。底部～底面にかけての破片である。底径9.1cmで他は不明である。外面はロクロナデ後底部ヘラケズリで調整されている。底面についてもヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。

17は須恵器の甕である。底部の破片である。大きさは不明である。外面は底部ヘラケズリで調整されている。内面は軽いナデで仕上げられている。

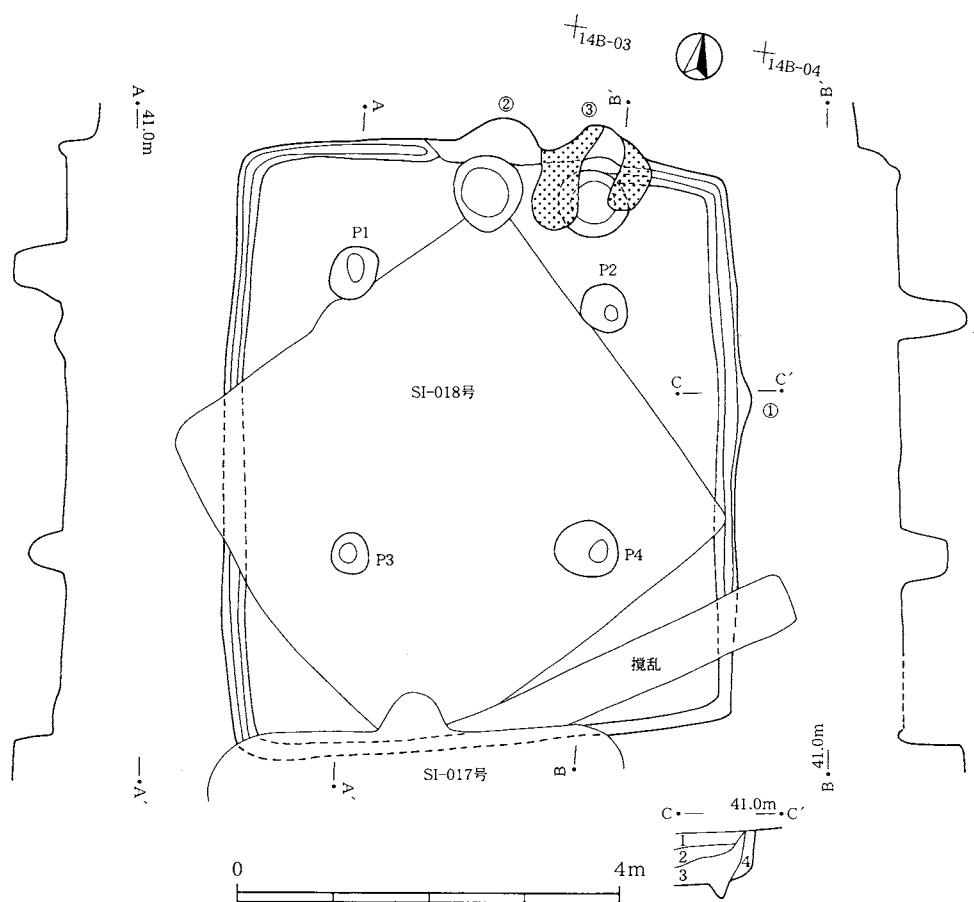
#### SI-019号（第89図、第90図～第91図1～10）

（遺構）調査区の最も南側の14B-01付近で検出された。SI-018号に切られており、018号より古い時期の住居になると思われる。平面形状は南北方向のやや長い長方形に近い形になると思われる。規模は北西壁5.13m、北東壁5.74m、南東壁5.25m、南西壁6.45mである。主軸方位はN-8°-Wである。調査時においてSI-018号及び019号の区別が明瞭でないため土層図は載せなかった。覆土は暗褐色土が主体の土層である。

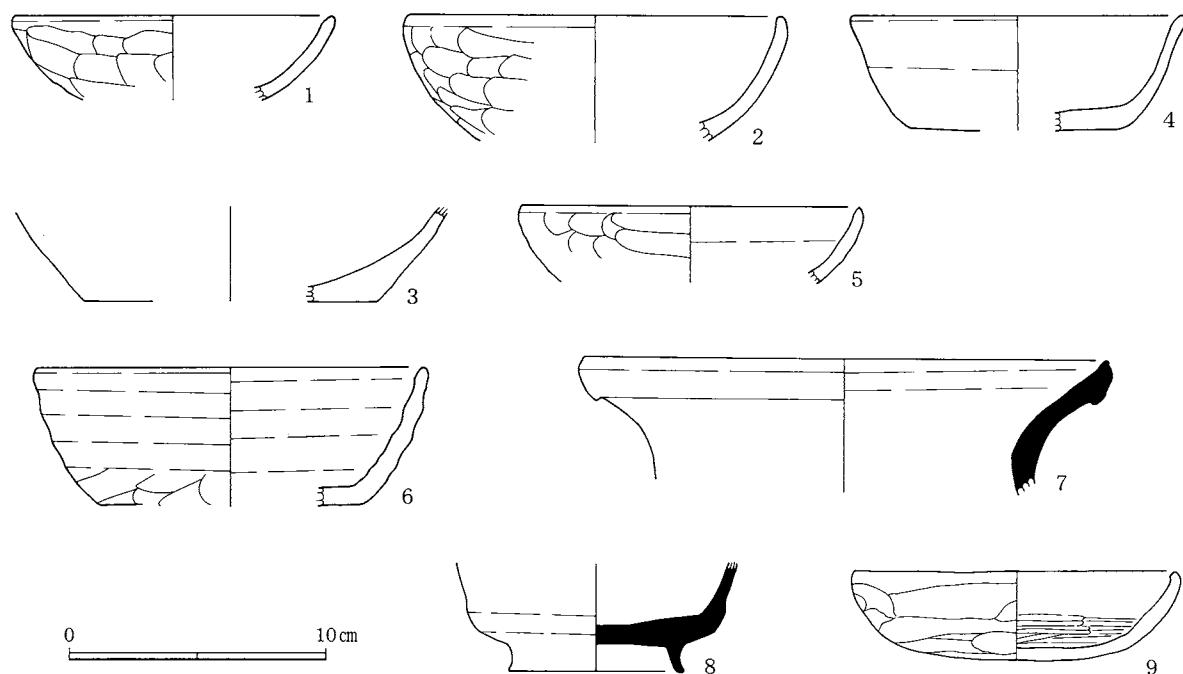
カマドは①、②、③の順序で3度作り替えられたものと考えられる。当初は北東壁中央部に位置していて壁際を埋め戻ししている。2度目は北西壁中央部に構築され、最後にそのすぐ東側に構築されている。③のカマドについては袖及び火床部が確認できる。住居の主柱穴はP1～P4まで検出された。床面からの深さは35cm～50cm余りである。床の中央部分はほぼSI-018号に切られており、硬化面は形成されていたと思われるが、検出はできなかった。

（遺物）遺物は住居の壁際の覆土より出土している。図示したのは、土師器杯6点、土師器甕1点である。須恵器甕1点、須恵器高台付き杯1点、瓦1点である。

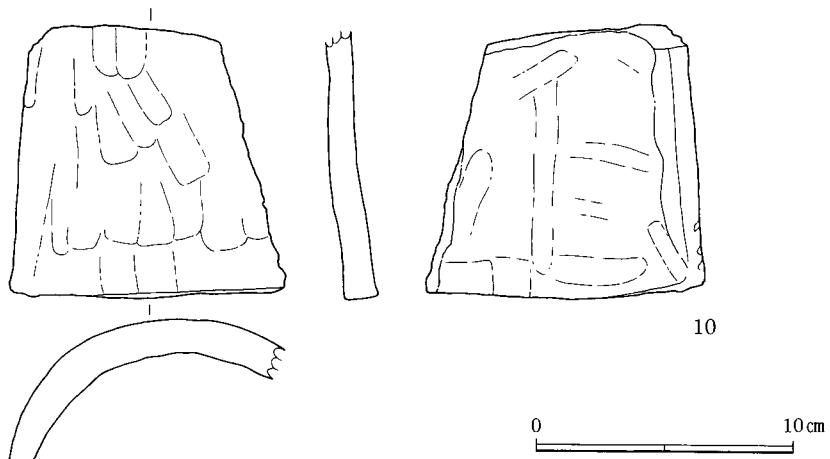
1、2、4～6、9は土師器の杯である。1は土師器の杯の口縁部～底部にかけての破片である。口縁部は1/4程度遺存している。口径は12.4cmで他は不明である。外面は口縁部ナデ、底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられていると思われるが、器面が荒れているため不明である。2は土師器の杯の口縁部～底部にかけての破片である。口径14.6cmで他は不明である。外面は口縁部ナデ、底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデ後一部ミガキで仕上げられている。4は土師器の杯で1/4程度遺存している。口径12.8cm、底径8.2cm、器高4.5cmである。外面は口縁部～底部ナデで、底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。5は土師器の杯の口縁部～底部にかけての破片である。口縁部の1/5程度遺存している。口径13.2cmで他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、胴部～底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。6は土師器の杯で1/4程度遺存している。口径15.0cm、底径10.0cm、器高5.3cmである。外面はナデ後底部、底



第89図 SI-019号 平面図及びセクション図、エレベーション図 (Scale 1/80)



第90図 SI-019号 出土遺物実測図 1 (Scale 1/3)



第91図 SI-019号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

面へラケズリで調整されている。内面はナデで仕上がられている。9は土師器の杯ではぼ2/3遺存している。口径12.5cm、器高3.6cmである。底径は丸底で計測不能である。外面はヘラケズリで調整されている。内面は口縁部ナデ後底部底面にかけてミガキで仕上げられている。

3は土師器の甕である。3は甕の底部底面の破片である。底部の1/4程度遺存している。底径11.2cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ後ナデで調整されている。底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

7は須恵器の甕の口縁部である。口径20.4cmで他は不明である。内外面ともナデで仕上げられている。

8は須恵器の高台付きの杯である。口縁部以外は遺存状況は良い。底径6.8cmで他は不明である。外面はナデで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

10は土師質の瓦である。内外面ともヘラケズリで調整されている。他に破片は見あたらなかった。

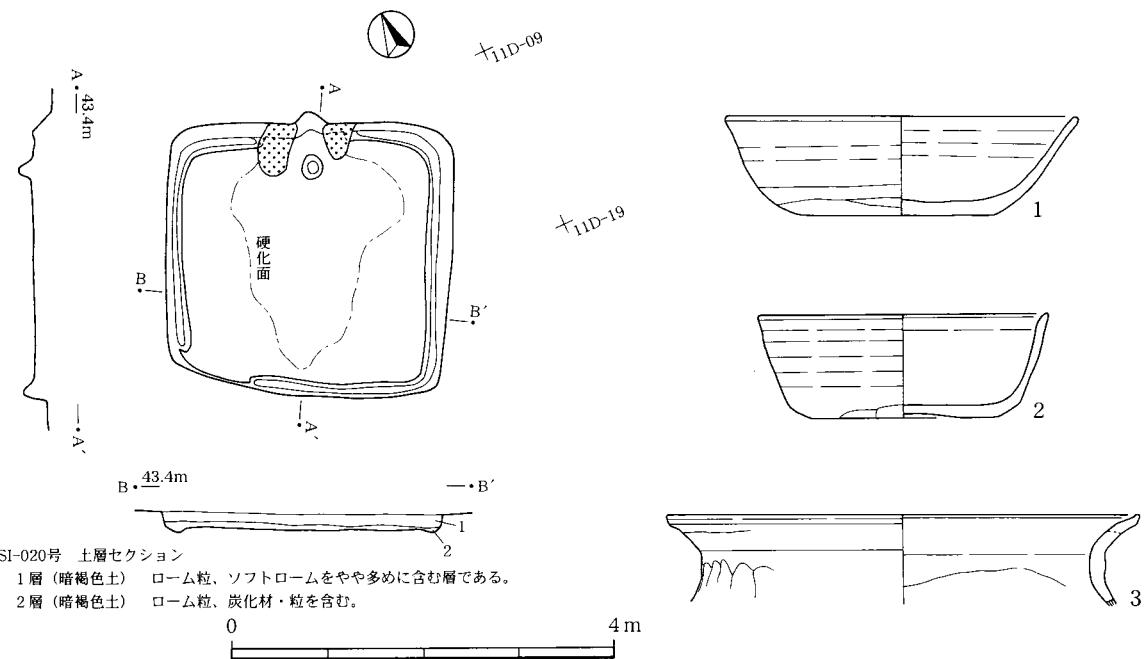
#### SI-020号 (第92図、第93図1～4)

(遺構) 調査区のやや南側の11D-07付近で検出された。平面形状は南西隅がやや不整なもののはぼ正方形に近い形になると思われる。規模は北東壁2.95m、北西壁2.60m、南東壁2.82m、南西壁2.86mである。主軸方位はN-25°-Eである。覆土は暗褐色土が主体の土層である。

カマドは北東壁の中央部分に位置する。袖及び煙道部分は確認されたが、遺存状況は余り良くない。主柱穴は検出されなかった。硬化面は住居の中央部分形成されていたと思われる。

(遺物) 遺物は住居の壁際の覆土より出土している。図示したのは、土師器杯2点、土師器甕2点である。

1、2は土師器の杯である。杯の口縁部のほぼ1/4遺存している。底面についてはほぼ遺存している。口径13.6cm、底径7.6cm、器高3.9cmである。外面は口縁部ナデ、底部ナデ後ヘラケズリで調整されている。底面は糸切り後、縁辺をヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。2は土師器の杯である。杯の口縁部のほぼ1/6遺存している。底面はほぼ1/3遺存している。口径11.2cm、底径7.2cm、器高4.0cmである。外面は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリで調整されている。底面は回転糸切り後周辺部ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。



第92図 SI-020号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



3、4は土師器の甕である。3は土師器の甕の口縁部の破片である。口径18.4cmで他は不明である。外面は口唇部ナデ、頸部にかけてはヘラケズリで調整されている。口唇部直下には輪積み痕が一部見られる。内面はナデで仕上げられている。4は土師器の甕の口縁部～胴部にかけての破片である。口縁部～胴部にかけて1/4程度遺存している。口径22.4cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部にかけてはナデで調整されている。内面はナデで仕上げられている。外面胴部以下は剥落が著しい。

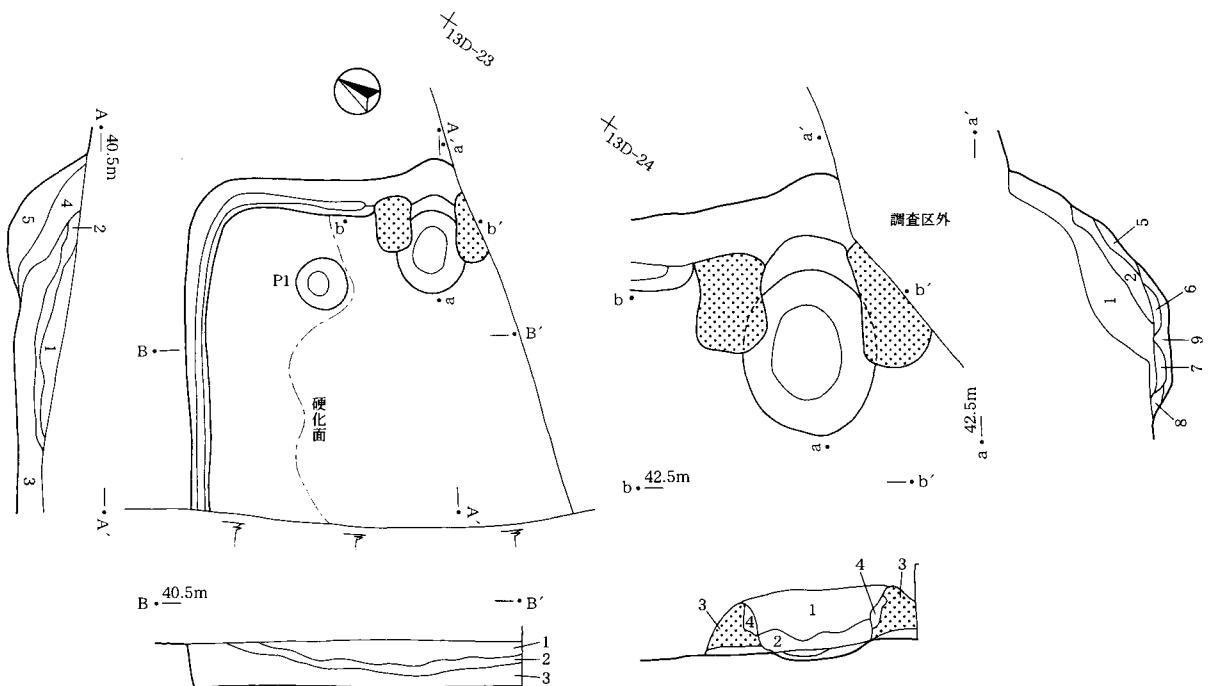
#### SI-021号 (第94図～第95図、第96図1～5)

(遺構) 調査区の南側の13D-32付近で検出された。平面形状は北東壁側が調査区域外にかかり、南東壁、南西壁側が斜面の崩落部分にかかっており、カマド側より主軸方向へ3.6m程しか確認しえなかった。主軸方位はN-57°-Eである。覆土は暗褐色土が主体ので住居の部分は3層に分層される。

カマドは北東壁の中央部分に位置する。右側の袖部分は一部区域外にのびており不明であるが、袖や煙道部分の立ち上がり部分までしっかりと残存している。また火床部等もしっかりと検出されており、カマド自体の残りは非常に良い。主柱穴はP1が検出されている。深さは床面より53cmある。硬化面は住居の中央部分に形成されていたと思われる。

(遺物) 遺物は住居の覆土より出土している。図示したのは、須恵器杯4点、土師器甕1点である。

2～5は須恵器の杯である。2は土師器の杯で1/5程度遺存している。口径12.8cm、底径8.0cm、器高

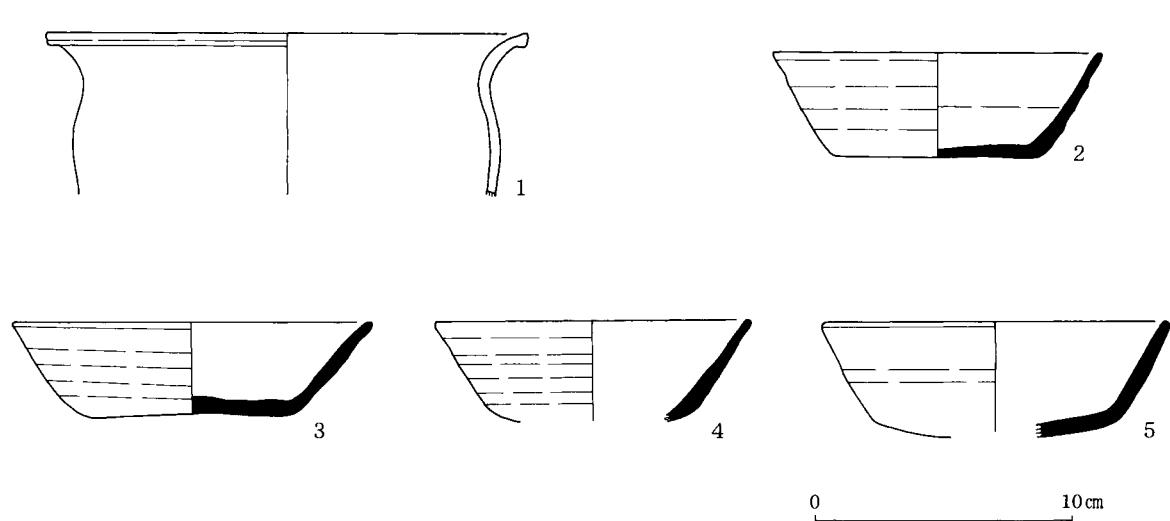


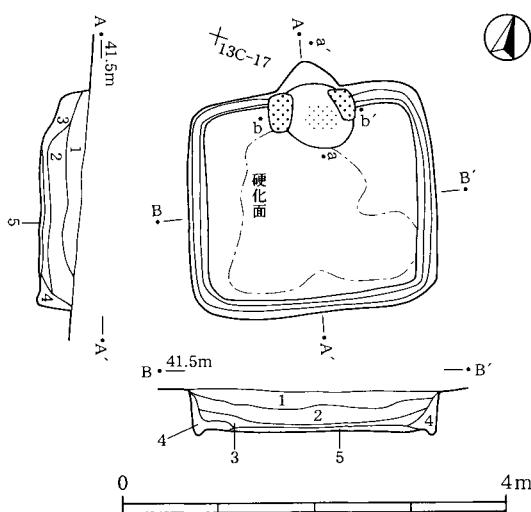
SI-021号 土層セクション

- 1層（暗褐色土） ローム粒、焼土粒、黒褐色土を含む。
- 2層（暗褐色土） ローム粒を少量含む、黒褐色土を多く含み全体的に暗い色調である。
- 3層（暗褐色土） ローム粒、焼土粒、黒褐色土を少量含む。
- 4層（暗褐色土） 山砂を多く含む層である。
- 5層（淡黄褐色砂） 山砂主体、粘土、暗褐色土を含む。かまど構築材崩落部分。

SI-021号 カマド土層セクション

- 1層（淡黄褐色砂） 山砂を主体とし、粘土・暗褐色土を含む。カマド構築部分。
- 2層（暗褐色土） 黒色土、焼土を大量に含む。
- 3層（淡黄褐色砂） 山砂を主体、暗褐色土、粘土、焼土を含む。カマド袖部分である。
- 4層（赤色砂質土） 第3層が熱を帯び、赤く変色している。
- 5層（暗褐色土） 粘土を含み、やや締まりあり。
- 6層（暗褐色土） 焼土を多量に含む。火床部ではない。
- 7層（暗褐色土） 炭化材・粒を大量に含み、焼土を僅かに含む。
- 8層（暗褐色土） 山砂、焼土粒を含む。
- 9層（暗褐色土） 粘土を含み、締まり有り。

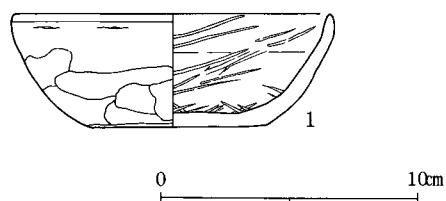




第97図 SI-022号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

SI-022号 土層セクション

- 1 層 (暗褐色土) ローム粒、ソフトロームを含む。
- 2 層 (暗褐色土) ローム粒、ロームブロックを含む。
- 3 層 (暗褐色土) 第2層と同質であるが、焼土粒をわずかに含み明るい色調である。
- 4 層 (暗褐色土) ソフトロームを多く含む。
- 5 层 (暗褐色土) ローム粒、炭化粒、焼土粒を含む。



第99図 SI-022号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

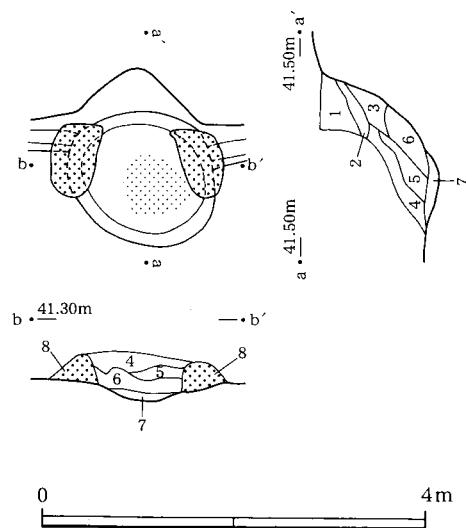
4.1cmである。外面はロクロナデで調整されている。底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。3は土師器の杯で4/5程度遺存している。口径14.1cm、底径8.0cm、器高3.6cmである。外面はロクロナデで調整されている。底面は回転ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。4は土師器の杯の口縁部～底部にかけての破片である。底面を除きおおよそ1/5遺存している。口径12.4cmで他は不明である。外面はロクロナデで調整されている。内面はナデで仕上げられている。5は土師器の杯で口縁部～底部にかけて1/2程度遺存している。口径13.2cm、底径10.0cmで器高は不明である。外面はロクロナデで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

1は土師器の甕である。口縁部～胴部の一部にかけての破片である。口縁部の1/6程度遺存している。口径19.0cmである。内外面ともナデで調整されている。やや口縁部が外反する器形である。

SI-022号 (第97図～第98図、第99図 1～2)

(遺構) 調査区の南側の13C-07付近で検出された。平面形状はほぼ正方形である。規模は北西壁2.43m、北東壁2.25m、南東壁2.50m、南西壁2.25mである。主軸方位はN-30°-Eである。覆土は暗褐色土が主体なので住居の部分は5層に分層される。

カマドは北西壁の中央部分に位置する。カマドは袖や煙道部分の立ち上がり部分までしっかりと残存し

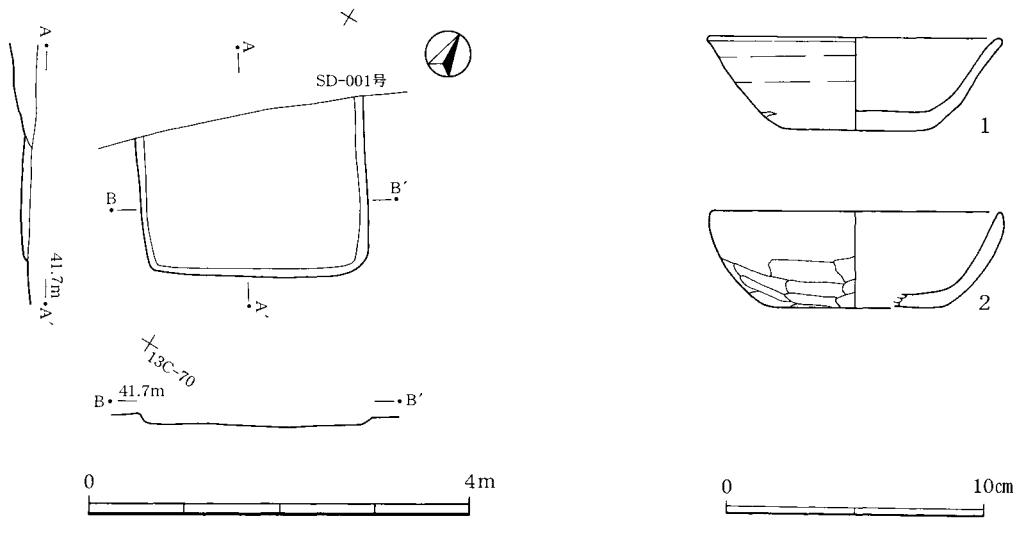


第98図 SI-022号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

SI-022号 カマド土層セクション

- 1 層 (暗褐色土) 山砂、焼土を含む。
- 2 層 (暗赤褐色土) 山砂の焼けたもの、天井の奥壁の崩落土である。
- 3 層 (暗褐色土) 第1層と同質である。
- 4 層 (暗褐色土) 山砂を多く含む。
- 5 層 (暗褐色土) 焼土粒、炭化材粒、山砂を含む。
- 6 層 (暗褐色土) 焼土を大量に含む。
- 7 層 (暗褐色土) ローム粒、焼土粒を含む。
- 8 層 (黄褐色砂) 山砂主体、暗褐色土、ローム粒、ロームを含む。カマド袖である。
- 9 層 (黒褐色土) 焼土ブロックを多量に含む。





第100図 SI-024号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

第101図 SI-024号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

ている。また火床部等もしっかりと検出されており、カマド自体の残りは非常に良い。柱穴等は検出されなかった。硬化面はカマドの両脇を除く住居の中央部分に広く形成されていたと思われる。

(遺物) 遺物は住居の覆土より出土している。図示したのは、土師器杯2点である。

1、2は土師器の杯である。1はほぼ完形で、口縁部がやや内側に傾斜する器形である。口径12.2cm、底径6.8cm、器高4.4cmである。外面はナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデ後、ミガキで仕上げられている。2は杯の体部の破片である。外面の一部に墨書の一部が見られるが、詳細は不明である。内面はミガキで仕上げられている。

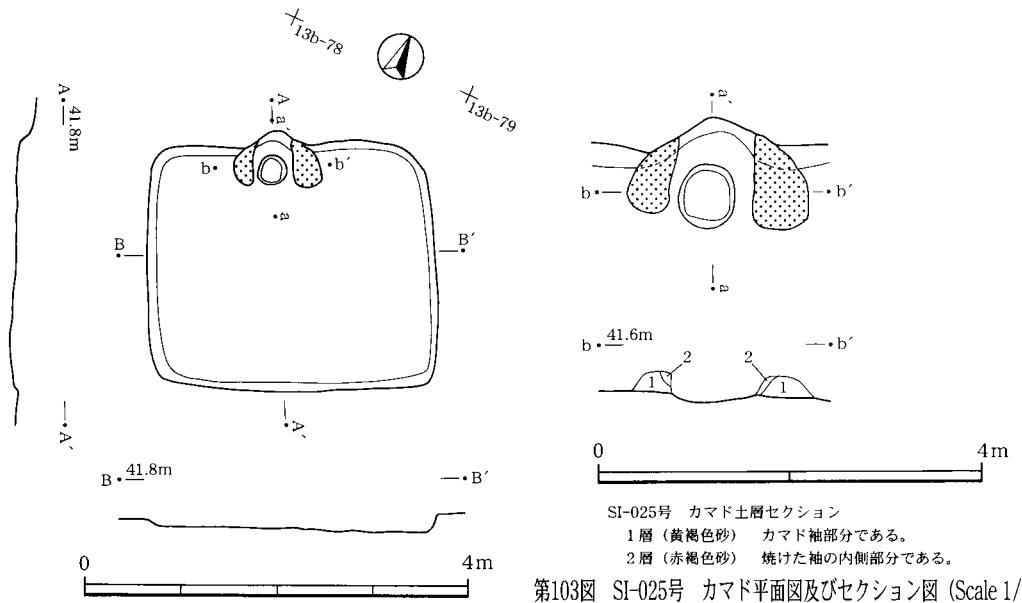
#### SI-024号 (第100図、第101図 1～2)

(遺構) 調査区の南側の13C-60付近で検出された。平面形状はSD-001号に北側を切られており全容は不明である。残りの部分から推測すると一辺2.4m程の正方形になると考えられる。主軸方位はSD-001号側にカマドがあったと仮定するとN-30°-Wになる。覆土は褐色土を主体としている。

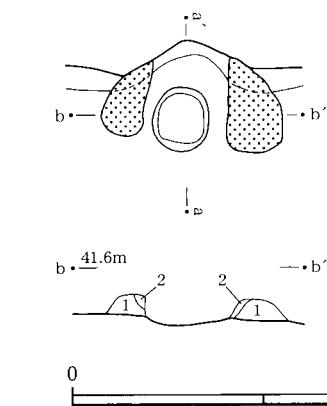
検出された床面からはピット等は見つかっていない。また硬化面等も認められなかった。

(遺物) 遺物は南東側床面付近より数点検出されている。図示したのは土師器杯2点である。

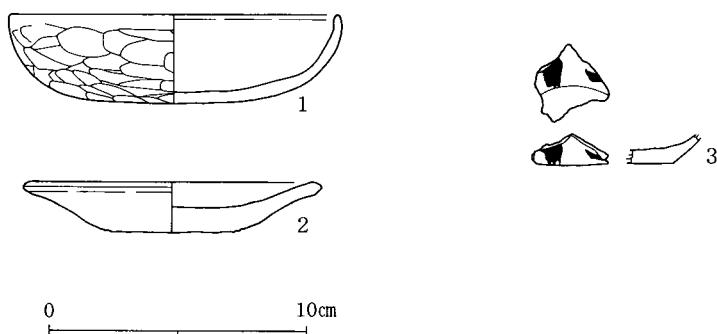
1は土師器の杯で口縁部は1/2程度遺存している。底部から口縁部にかけてはやや開き気味に立ち上がる。口径11.2cm、底径5.6cm、器高3.7cmである。外面は口縁部から底部にかけてロクロナデ、底部はナデ後ヘラケズリで調整されている。底面はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。2は土師器の杯である。1/3程度遺存している。口縁部にかけてやや内側に丸く湾曲している器形である。口径11.2cm、底径7.1cm、器高3.8cmである。外面は口縁部ナデ、底部、底面についてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。



第102図 SI-025号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



SI-025号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)  
1層（黄褐色砂） カマド袖部分である。  
2層（赤褐色砂） 焼けた袖の内側部分である。



第104図 SI-025号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

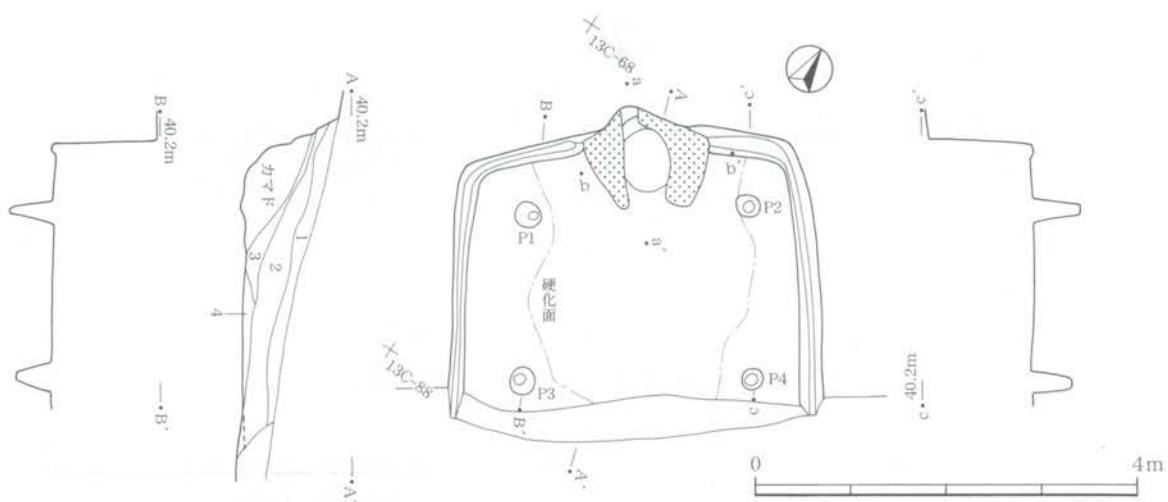
### SI-025号 (第102図～第103図、第104図 1～3)

(遺構) 調査区の南側の13B-88付近で検出された。平面形状は横方向にやや長い長方形に近い形である。北西壁2.88m、北東壁2.45m、南東壁2.95m、南西壁2.47mである。主軸方位はN-25°-Wである。覆土は確認面から住居跡の床面まで非常に浅く記録が残されていないため不明である。

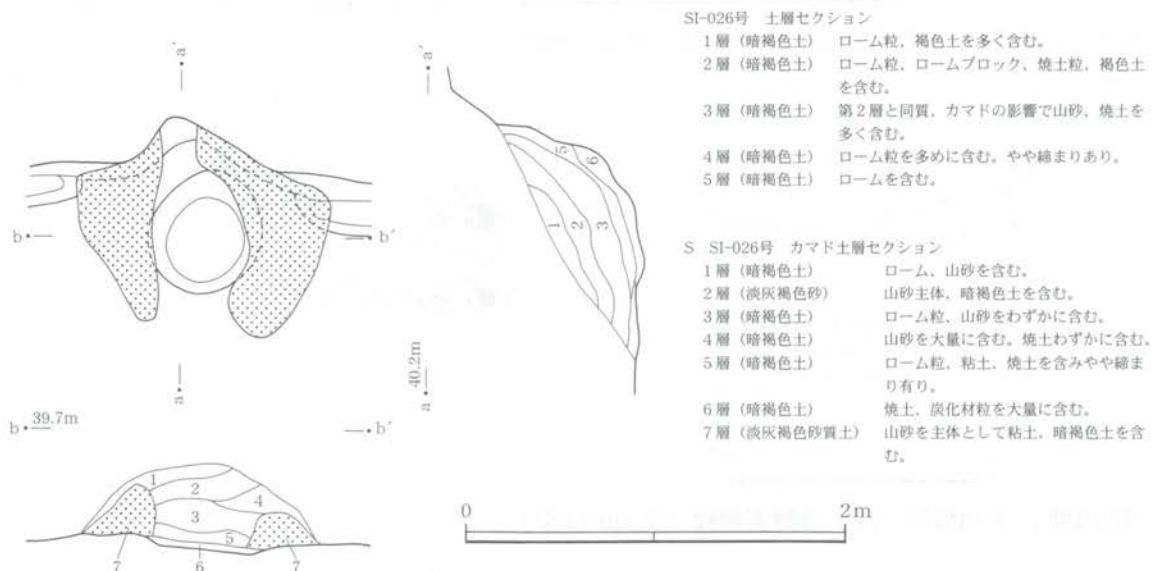
カマドは北西壁中央部分に構築されている。カマドの袖等は検出されているが、残りはそれほどいい方ではない。袖部分の切断面のセクションは記載されている。山砂主体の層とその焼けた層の2枚に分けられている。床面から柱穴及び硬化した面は検出されなかった。

(遺物) 遺物は北西壁カマド付近とその南側で若干の遺物が出土している。図示したのは土師器杯2点(うち1点は墨書き土器)、土師器皿1点である。

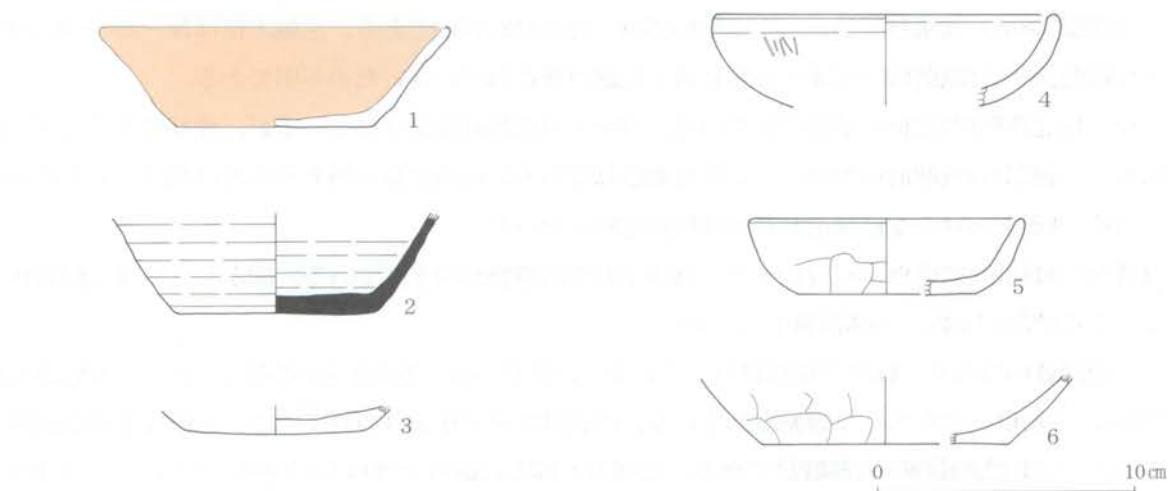
1は土師器杯である。ほぼ2/3程度遺存している。口径12.8cm、器高3.4cmである。底径は丸底のため不明である。外面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。全体に器面が剥落し荒れている。3は土師器杯の底部破片である。底部の一部と底面の一部のみしか残っていない。底径8.6cmで他は不明である。墨書きが見られるが一部のため判読は不明である。



第105図 SI-026号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第106図 SI-026号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第107図 SI-026号 出土遺物実測図 1 (Scale 1/3)

2は土師器皿である。ほぼ1/3程度遺存している。口径11.6cm、底径5.0cm、器高2.0cmである。外面はナデで、底面については回転ヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

#### SI-026号（第105図～第106図、第107図～第108図1～16）

（遺構）調査区の南側の13C-68付近で検出された。平面形状は南東壁側がSD-005号により消失しているため不明であるが、北西壁が3.65mあり他の3辺も同規模程度の正方形に近い形状になると思われる。主軸方位はN-32°-Wである。覆土は暗褐色土が主体で1層～5層まで5枚に分けられている。

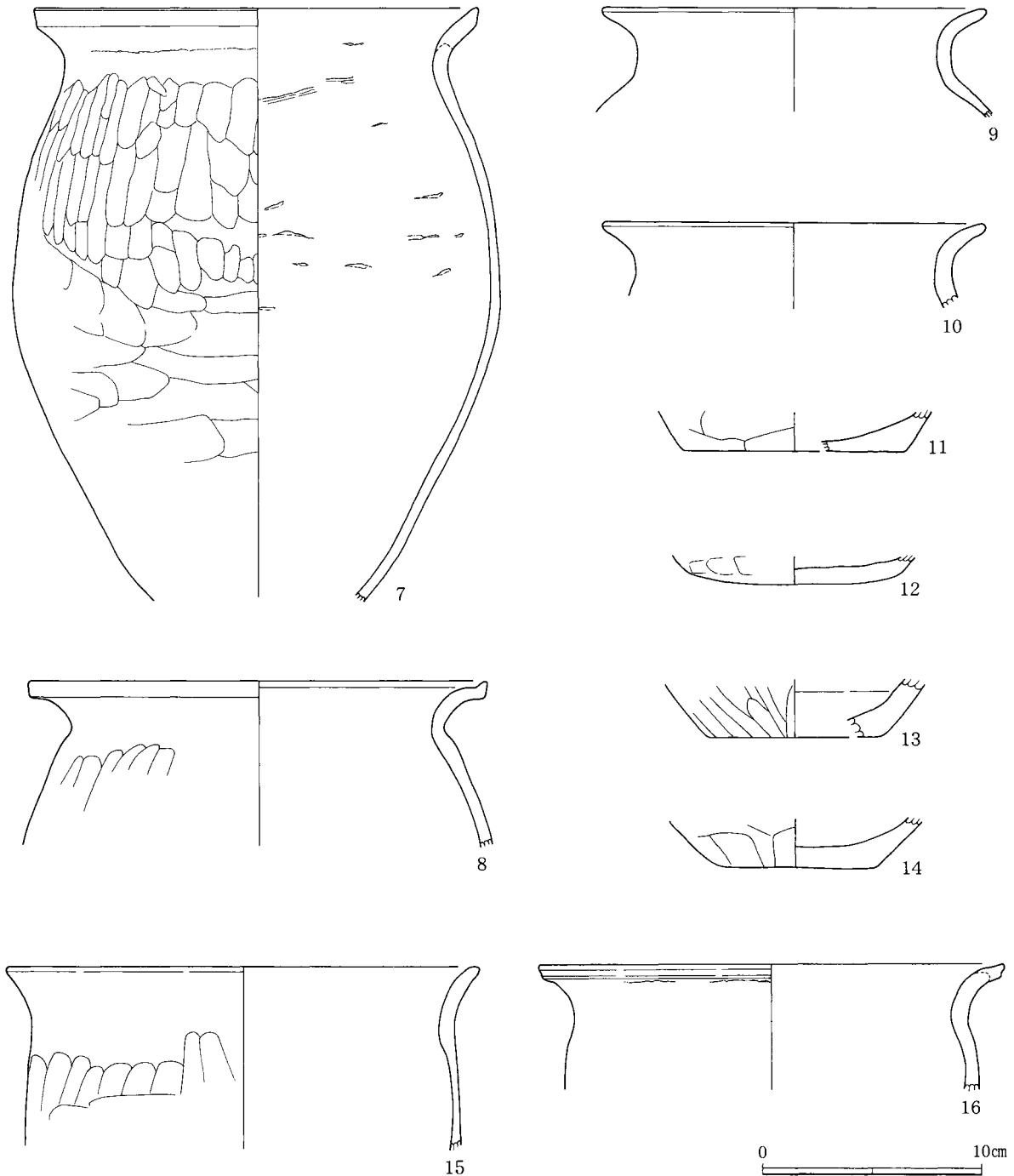
カマドは北西壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分の内側の焼け面は顕著には検出されていない。また火床部分も検出されていない。カマド本体袖部分は山砂を主体として粘土、暗褐色土を含み残りは良い。床面から主柱穴はP1～P4まで検出された。床面からの深さはP1は43cm、P2は33cm、P3は33cm、P4は41cmである。床面の硬化部分はカマドから柱穴で囲まれた中心部分で検出されている。

（遺物）遺物はカマドの両袖付近から比較的多く出土している。図示したのは土師器杯4点、須恵器杯1点、土師器甕9点、土師器瓶2点である。

1、3～5は土師器の杯である。1は杯でほぼ1/5程度遺存している。底部から口縁部にかけて斜め直線的に立ち上がる器形である。口径13.4cm、底径7.5cm、器高3.9cmである。外面はロクロナデ後底面はヘラケズリにより仕上げられている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。なお、内外面とも赤彩されている。3は杯の底部、底面の破片である。底面部分はほぼ完形である。底径7.2cmで他は不明である。外面底面は回転ヘラケズリで調整されている。内面についてはナデ後ミガキで仕上げられている。また、内面は赤彩が施されている。4は杯で口縁部～底部にかけての破片でほぼ1/5程度遺存している。底部から口縁部にかけて丸みを持ち立ち上がる器形である。口径13.6cmで他は不明である。外面はナデ後一部ミガキで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。5は杯でほぼ1/5程度遺存している。底部から口縁部にかけて丸みを持ち立ち上がる器形である。口径10.4cm、底径6.8cm、器高2.95cmである。外面は口縁部ヨコナデ、底部から底面にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

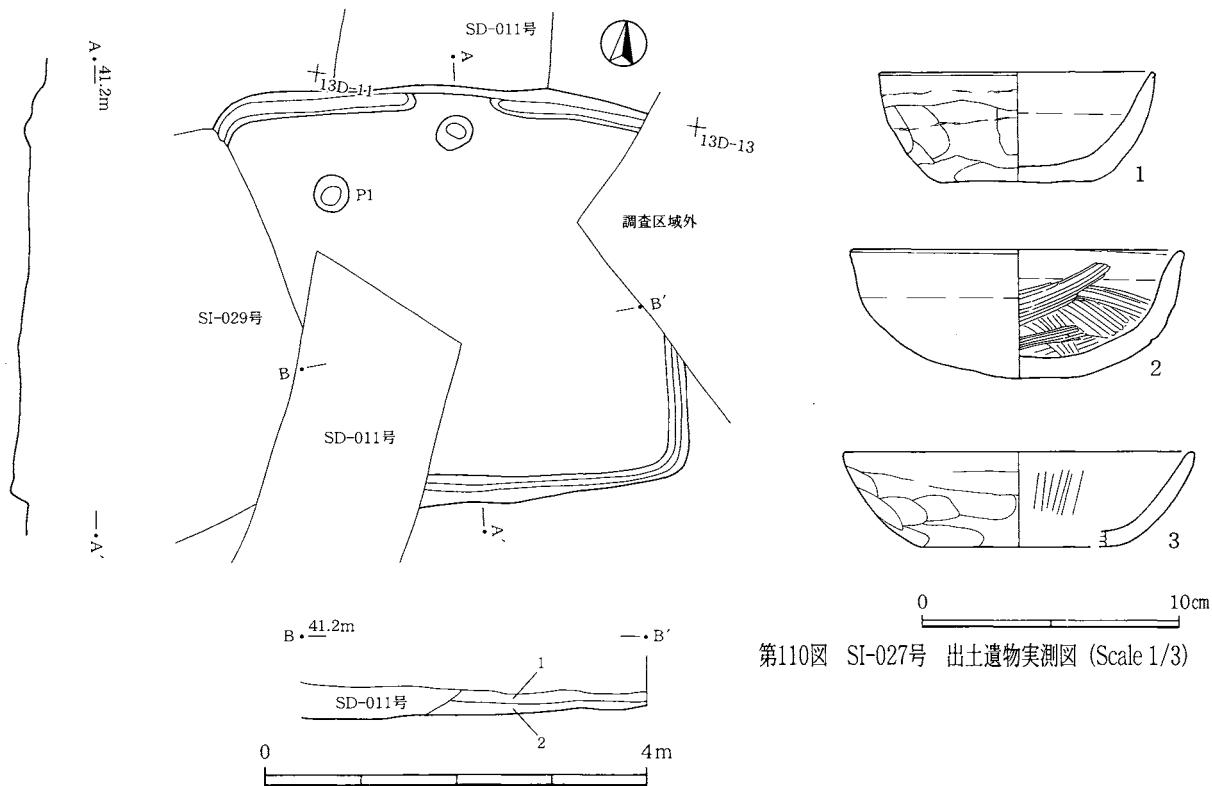
2は須恵器の杯である。唇部を除き1/2程度遺存している。底部から口縁部にかけて斜め直線的に立ち上がる器形である。底径8.0cmで他は不明である。外面はロクロナデ、底部はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

6～14は土師器の甕である。6は底部の破片である。底部よりやや緩やかに立ち上がる。底径9.6cmで他は不明である。外面は底部底面ともヘラケズリで調整されている。内面はやや粗いナデで仕上げられている。7は甕の底面部分を除きほぼ1/3程度遺存している。胴部はやや張り出すものの全体に長めの器形である。口径20.6cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、頸部から胴部上半部分は縦方向のヘラケズリ、胴部下半部は横方向のヘラケズリ、底部は横方向のヘラケズリ後ナデで調整されている。口縁部直下に輪積み痕を残している。内面はナデを主体の調整で所々に輪積み痕を残している。8は甕の口縁部破片である。およそ1/3程度遺存している。胴部にかけてやや膨らむと思われる器形をしている。口径21.1cmで他は不明である。外面は口縁部ナデ、胴部上半部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。9は甕の口縁部破片である。口径17.4cmで他は不明である。外面は口縁部ナデ、胴部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。10は甕の口縁部破片である。口径17.4cm



第108図 SI-026号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

で他は不明である。外面はナデ、胴部以下は不明である。内面はナデで仕上げられている。11は甕の底部破片である。底面のほぼ1/4程度遺存している。底径10.2cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリで調整されている。内面はヘラケズリで粗く仕上げられている。12は甕の底部破片である。底面のほぼ1/2程度遺存している。底径9.6cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。13は甕の底部破片である。底面の1/3程度遺存



第110図 SI-027号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

第109図 SI-027号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

している。底径9.1cmで他は不明である。外面は底部ヘラミガキで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。14は甕の底部破片である。底面は完全に遺存している。底径7.2cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、底面もヘラケズリで調整されている。なお底面には粒殻痕が見られる。内面はヘラナデのような状態が観察される。

15、16は土師器の甕である。15は甕の口縁部～胴部上半部の破片である。頸部にかけてやや器厚が増す。口径21.8cmで他は不明である。外面は口縁部ナデ、胴部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。16は甕の口縁部～胴部上半部の破片である。口径21.4cmで他は不明である。外面はナデで、頸部に輪積み痕が残る。内面はナデで仕上げられている。

#### SI-027号 (第109図、第110図 1～3)

(遺構) 調査区の南側の13D-12付近で検出された。平面形状は一辺4.20m～4.50m程度の正方形に近い形になると思われるが、西壁側をS I -029号、南北方向をS D -011号によって切られており、消失している。また、東壁側は一部調査区外にかかっており、完掘されていない。主軸方位はN-8°-Wである。覆土はローム粒、ブロックを多く含む暗褐色土が主体で2枚に分けられている。

カマドは北壁中央部分に構築されていたと思われるが、S D -011号によって壊されており、堀方のみ残る。カマドの袖部分及び火床部分も検出されていない。床面から主柱穴と思われるP1のみ検出された。床面からの深さはP1は33cmである。床面の硬化部分は検出されていない。

(遺物) 遺物は住居の北東壁付近、南東壁付近で若干出土している。図示したのは土師器杯3点である。

1～3は土師器の杯である。1は杯で口縁部の一部を除きほぼ完形である。底部から口縁部にかけて丸みを持ちながら立ち上がる器形である。口径10.6cm、底径5.8cm、器高4.25cmである。外面は口縁部ナデで、一部輪積み痕を残している。胴部から底部にかけては横方向を主体としたヘラケズリで調整されている。底面については多方向からのヘラケズリで調整されている。内面口縁部はナデ、底部以下はミガキで仕上げられている。2は杯で口縁部の一部を除きほぼ完形である。底面は丸底で口縁部にかけて丸みを持ち立ち上がるが、口縁部直下ではほんの少し外側に折れ曲がる器形である。口径12.7cm、器高5.0cmで底径は丸底で不明である。外面は口縁部ナデで、底部から底面にかけてはヘラケズリで調整されていると思われるが、被熱して器表面が荒れている。内面はナデ後底部以下粗くミガキで仕上げられている。3は杯で口縁部から底部にかけて1/4程度遺存している。底部から口縁部にかけて斜めにやや弧を描きながら立ち上がる器形である。口径13.8cm、底径8.0cm、器高3.7cmである。外面はヘラケズリで調整されている。口縁部付近に一部輪積み痕を残している。内面はナデ後比較的丁寧なミガキで仕上げられている。

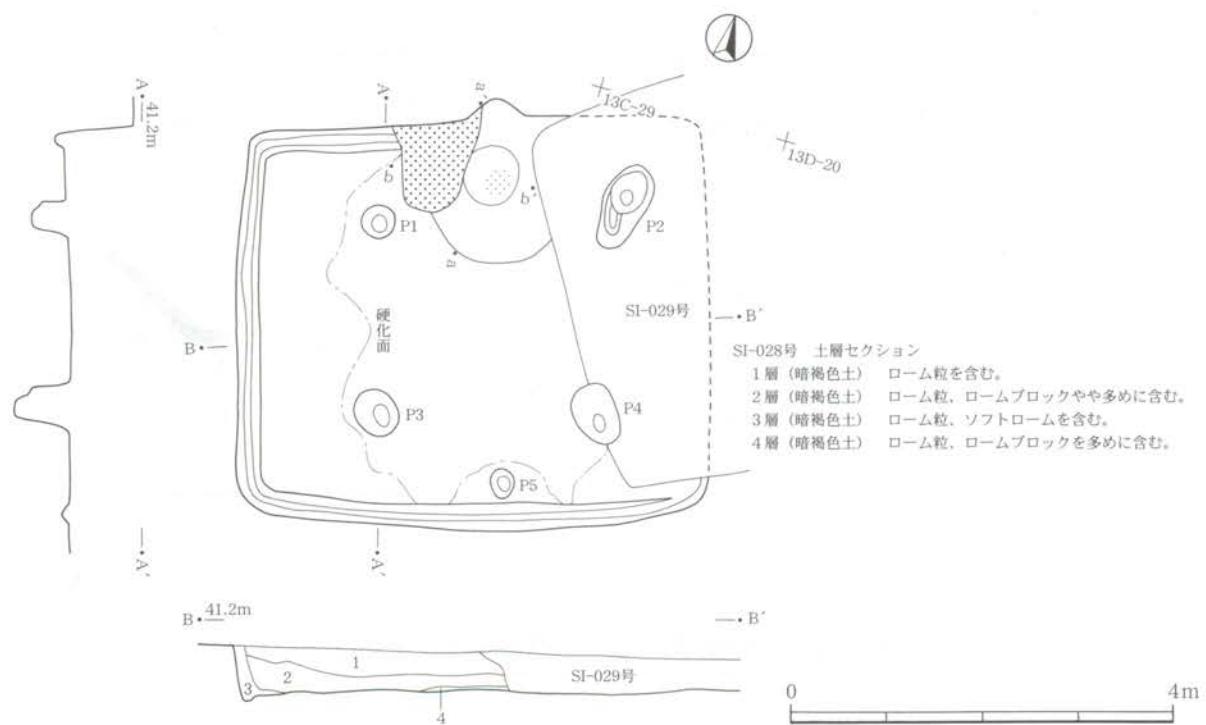
#### SI-028号（第111図～第112図、第113図～第114図1～7）

（遺構）調査区の南側の13C-28付近で検出された。平面形状は一辺4.30m～4.90m程度のやや横長の長方形に近い形になると思われるが、北東壁側をS I -029号によって切られており、床面については消失している。主軸方位はN-17°-Wである。覆土はローム粒、ブロックを多く含む暗褐色土が主体で4枚に分けられている。

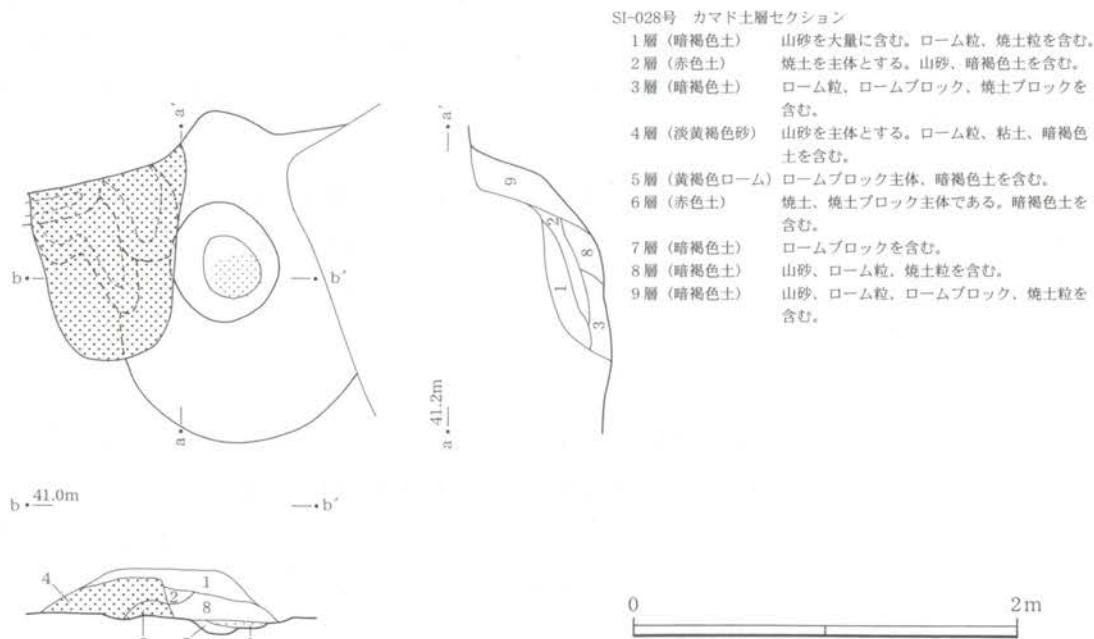
カマドは北西壁中央部分に構築されている。S I -029号によって右袖部分が壊されて左袖部分とカマドの火床部分が残存している。床面から主柱穴と思われるP1～P4が検出された。床面からの深さはP1は40cm、P2は55cm、P3は57cm、P4は46cmである。またカマドの反対側の壁際で梯子ピットと思われるP5が検出されている。床面からの深さは19cmである。床面の硬化部分はカマドから中央部の柱穴で囲まれた範囲で検出された。

（遺物）遺物については住居跡全体から比較的多量の土器片が出土している。図示したのは土師器杯5点、須恵器杯1点、土師器碗1点である。

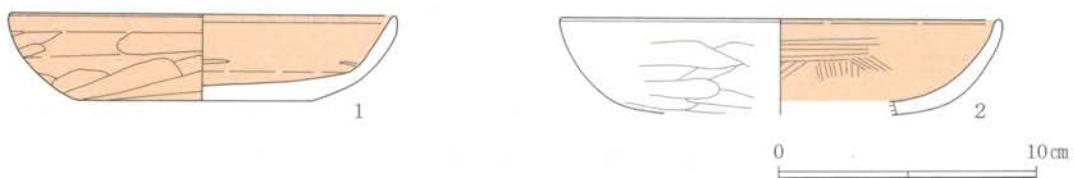
1～5は土師器の杯である。1は土師器の杯である。口縁部は2/3程度、そのほかはほぼ遺存している。底部から口縁部にかけて緩やかに内曲して立ち上がる器形である。口径15.1cm、底径9.1cm、器高3.5cmである。外面口縁部はナデ、胴部～底部にかけてはナデ後ヘラケズリで調整されている。底面についてはヘラケズリで一方に向いて調整されている。内面はナデ後部分的にミガキが見られる。内外面とも赤彩されている。2は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片でほぼ1/6程度遺存している。丸底で底部から口縁部にかけて緩やかに内曲して立ち上がる器形である。口径17.0cmで他は不明である。外面口縁部ナデ、胴部から底部にかけてはナデ後ヘラケズリで調整されている。内面は非常に丁寧なミガキで仕上げられている。内面は赤彩されている。3は土師器の杯で口縁部から底部にかけてほぼ1/3程度遺存している。底面は丸底で口縁部にかけては緩やかに内曲して立ち上がる器形である。口径14.8cmで他は不明である。外面はヘラケズリで調整されている。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。4は土師器の杯で口縁部から底部にかけての破片である。ほぼ1/6程度遺存している。口径12.2cmで他は不明である。外面はヘラケズリ、内面は比較的丁寧なミガキで仕上げられている。5は土師器の杯である。厚手の手捏ね風の土器である。口縁部から底部にかけて1/4程度遺存している。口径10.2cmで他は不明である。内外面ともにナデで

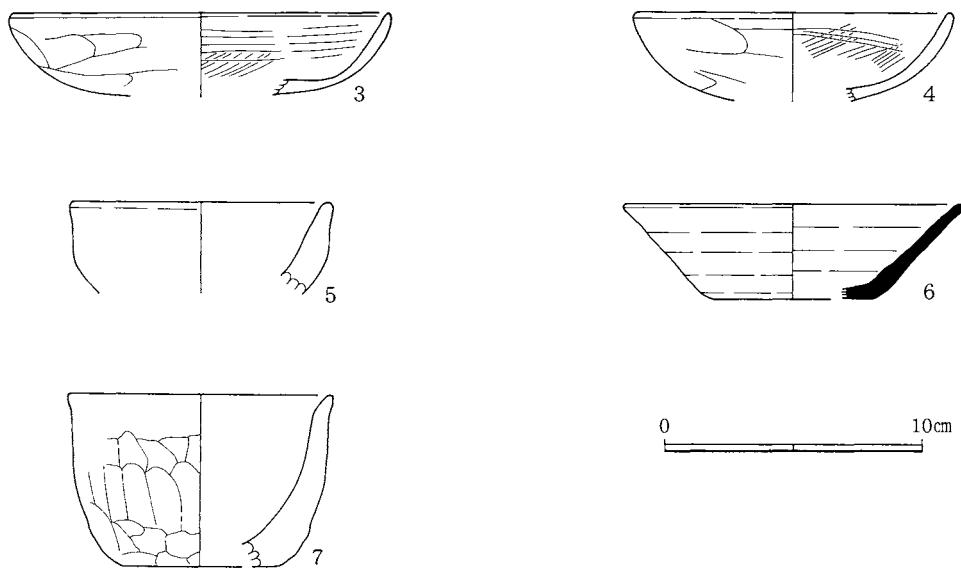


第111図 SI-028号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第112図 SI-028号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)





第114図 SI-028号 出土遺物実測図 2 (Scale 1/3)

調整されている。

6は須恵器の杯である。底部から口縁部にかけて斜め直線的に立ち上がる器形である。外面は口縁部から底部にかけてロクロナデ後底部底面はヘラケズリによる調整が行われている。口径13.2cm、底径6.2cm、器高3.7cmである。外面はロクロナデ後、底部底面にかけてヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

7は土師器の椀の破片である。厚手の手捏ね風の土器で口縁部を中心にはほぼ1/4程度遺存している。口径10.4cm、底径6.7cm、器高6.2cmである。外面は口縁部ナデ後胴部から底部にかけてはヘラケズリで調整されている。底面についてもヘラケズリで調整されている。内面についてはナデで調整されている。

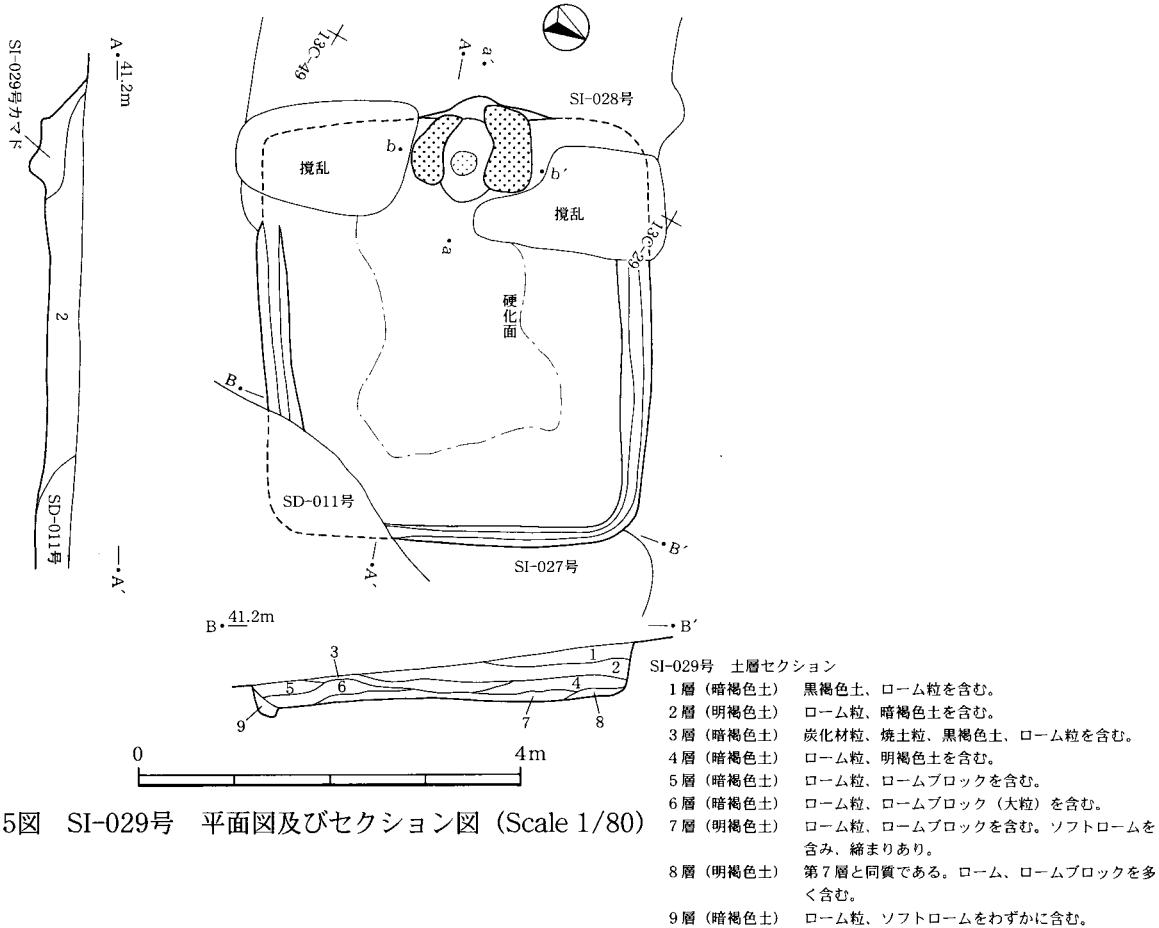
#### SI-029号 (第115図～第116図、第117図～第121図 1～45)

(遺構) 調査区の南側の13C-29付近で検出された。平面形状は一辺4.10m～4.50m程度のやや縦長の長方形に近い形になると思われるが、南西壁側でS I -028号を切り、北東コーナーをS D-011号で切られている。また、北東壁でS I -027号を切っており、3軒の住居の中では一番新しく建てられた住居であることが確認されている。主軸方位はN-120°-Wである。覆土はローム粒、ブロックを多く含む暗褐色土が主体で細かく分層されている。

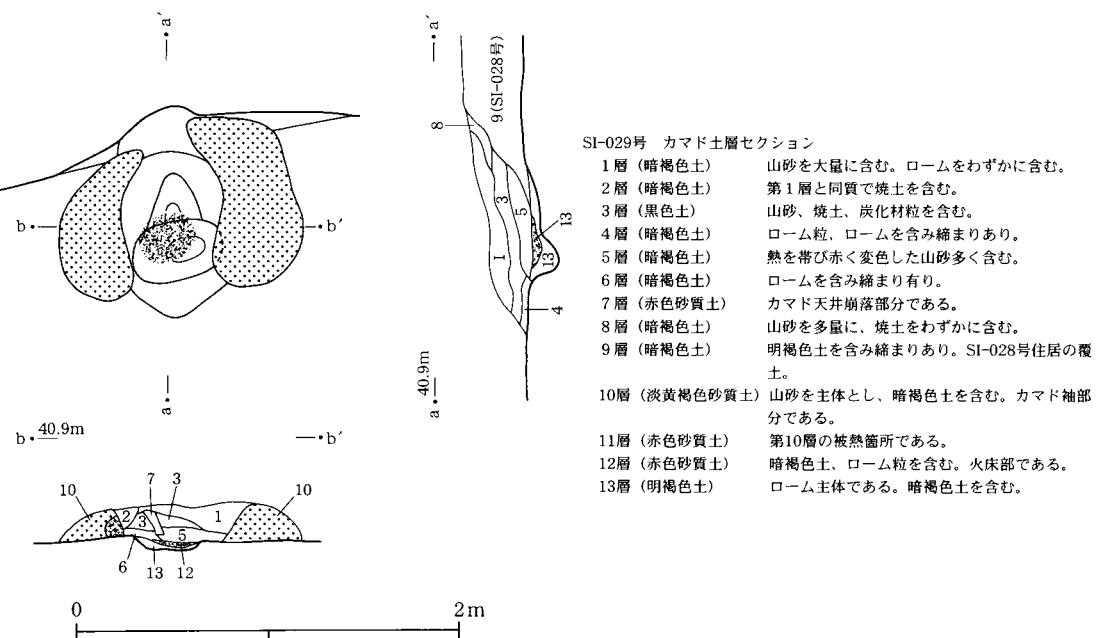
カマドは南西壁中央部分に構築されている。S I -028号の覆土を切り込んでカマドを構築している。南西壁のカマド構築部分以外が新しい搅乱で壊されているもののカマドの両袖及び火床部分は非常に残りが良い。床面からは柱穴と思われるピットは検出されていない。床面の硬化部分はカマドから住居の中央部分で検出された。

(遺物) 遺物については住居跡全体から多量の土器片が出土している。図示したのは土師器杯20点、須恵器杯4点、土師器台付き皿6点、土師器甕3点、須恵器甕12点、須恵器瓶1点である。

1～7、10～22は土師器の杯である。1は土師器の杯である。口縁部は1/2程度遺存している。底部か

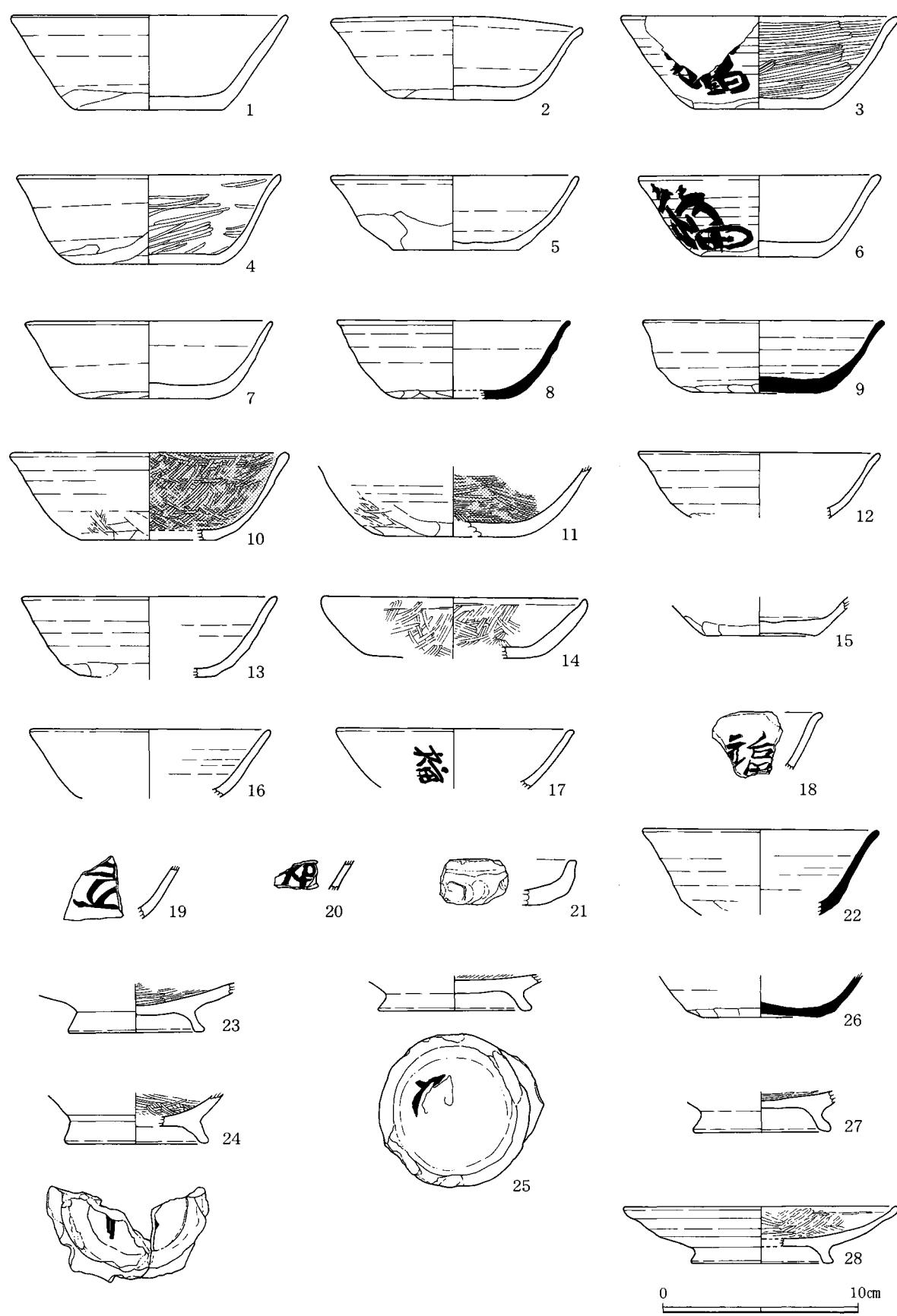


第115図 SI-029号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



第116図 SI-029号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

ら口縁部にかけては斜めにほぼ直線的に立ち上がる器形である。口径14.1cm、底径7.6cm、器高4.9cmである。外面はナデで、底部はナデ後ヘラケズリで調整されている。底面は糸切り後縦横2方向にヘラケズリで調整されている。なお、外面の一部に赤彩された痕跡が見られる。内面はナデで調整されている。2は土師器の杯で口縁部は4/5程度遺存している。底部から口縁部にかけて一端やや内曲し、再びやや外反す



第117図 SI-029号 出土遺物実測図1 (Scale 1/3)

る器形である。口径12.9cm、底径6.2cm、器高4.3cmである。外面はナデで、底部はヘラケズリで調整されている。底面は縦横2方向にヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。外面口縁部と内面底面付近に一部スス状の付着物が見られる。3は土師器の杯である。口縁部は1/2程度遺存している。底部から口縁部にかけて一端やや内曲し、再びやや外反する器形である。口径13.9cm、底径6.6cm、器高4.8cmである。外面ロクロナデ、底部はヘラケズリで調整されている。底面はヘラケズリで調整されている。内面は底部はミガキで調整されている。底面の縁辺から体部に斜め方向のミガキで調整されている。なお、外面体部に墨書『福』と描かれている。4は土師器の杯である。口縁部は1/2程度遺存している。底部から口縁部にかけて一端緩やかに内曲し、再びやや外反する器形である。口径13.4cm、底径7.6cm、器高4.5cmである。外面はナデで、底部はナデ後ヘラケズリで調整されている。底面は回転ヘラケズリ後、周辺部よりヘラケズリで調整されている。内面は斜め方向からのミガキで調整されている。5は土師器の杯である。口縁部は1/4程度遺存している。ヘラケズリの影響でやや外反気味立ち上がり、底部の途中で緩やかな傾斜で立ち上がる。外面はナデで、底部から底面にかけては横方向のヘラケズリで調整されている。底面については一方向からのヘラケズリで調整後、部分的に直交する方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで調整されている。6は土師器の杯である。口縁部は1/3程度遺存している。底部から口縁部についてはやや浅く直線的に立ち上がり口縁部近くでほんの少し外反する。口径12.2cm、底径6.0cm、器高4.2cmである。外面口縁部はナデ、底部にかけてはヘラケズリが施されている。底面は回転ヘラケズリ後一方向からヘラケズリで調整されている。内面は全体をナデで調整されている。外面体部に墨書『福』が描かれている。7は土師器の杯である。口縁部ほぼ1/3程度遺存している。底部から口縁部については丸みを持ちながら立ち上がり口縁部近くでやや外反する。口径12.6cm、底径6.4cm、器高4.0cmである。外面はナデで、底部はヘラケズリで調整されている。底面は一方向へのヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。10は土師器の破片である。口縁部はほぼ1/4程度遺存している。底部から口縁部については丸みを持ちながら立ち上がり、口縁部近くでやや外反する。口径14.1cm、底径7.2cm、器高4.5cmである。外面はロクロナデ後底部の一部ミガキが入る。また底部から底面にかけてはヘラケズリで調整されている。内面は密にミガキで仕上げられている。また吸炭により黒色処理を行っている。11は土師器の破片である。口縁部を除きほぼ1/5程度遺存している。底部から緩やかに弧を描きながら立ち上がる。底径7.8cmで他は不明である。外面はロクロナデ後底部ヘラケズリで調整されている。また、所々にはミガキも見られる。内面は密にミガキで仕上げられている。また吸炭により黒色処理を行っている。12は土師器の口縁部から底部にかけての破片である。底面を除き1/5程度遺存している。底部から口縁部にかけては比較的緩やかに弧を描いて立ち上がる。口径12.2cmで他は不明である。外面はロクロナデ後底部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。13は土師器の破片である。ほぼ1/10程度遺存している。底部から口縁部にかけて比較的直線的に立ち上がる。口径13.0cmで、他は不明である。外面はロクロナデ後底部底面手持ちヘラケズリで調整されている。内面はナデで調整されている。

14は土師器の破片である。ほぼ1/10程度遺存している。比較的角度のなく緩やかに弧を描いて立ち上がる。口径13.6cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ後体部をヘラケズリ後ミガキで仕上げている。内面はミガキで仕上げられている。15は土師器の杯の底部底面の破片である。底径5.8cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで調整されている。底面は手持ちヘラケズリで仕上げられている。内面はナデ

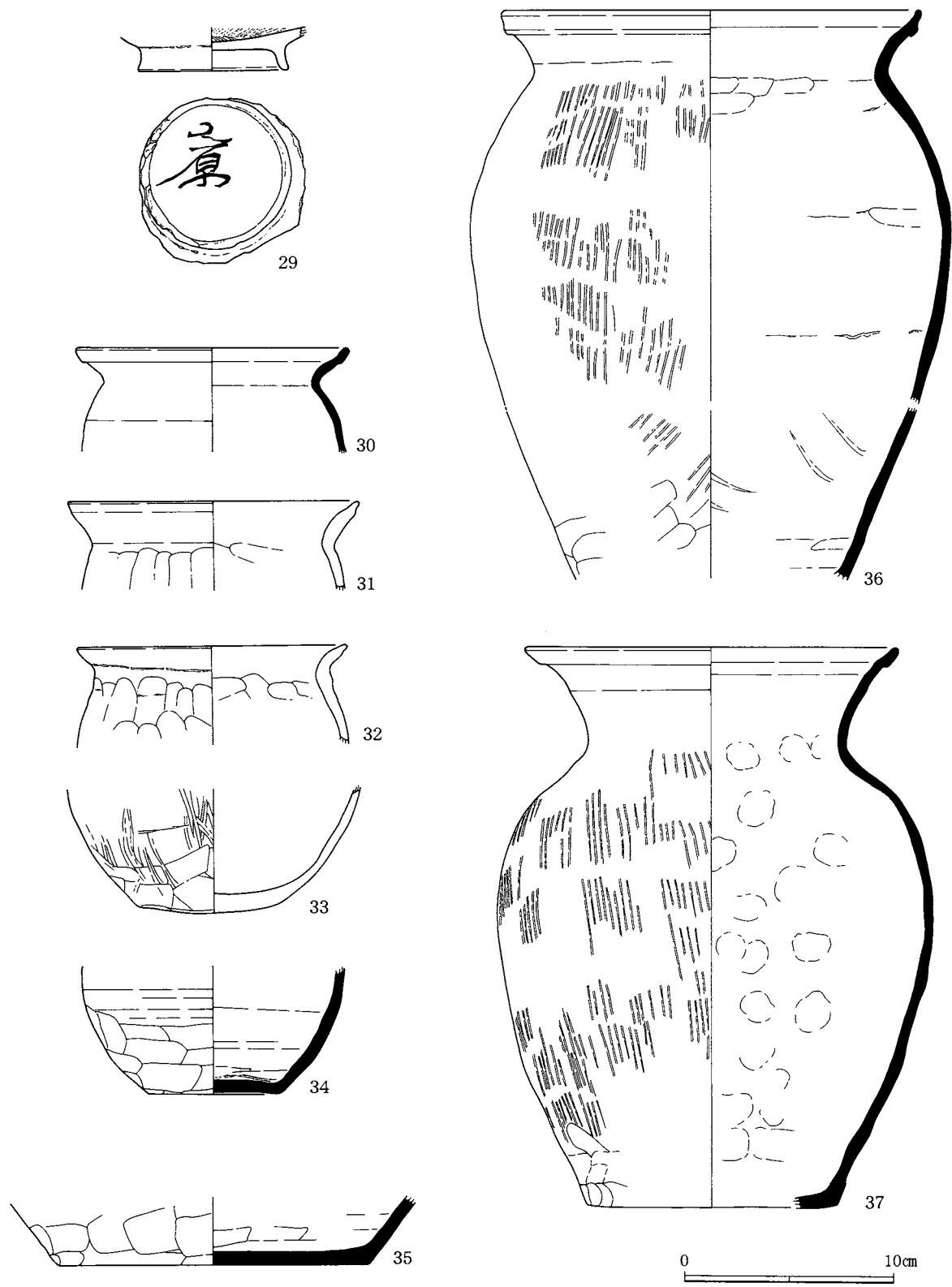
で一部ミガキが見られる。16は土師器の口縁部から底部にかけての破片である。底部で一度内曲し、口縁部にかけて緩やかに外反する。口径12.0cmで他は不明である。外面はロクロナデで、底部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。17は土師器の杯の破片である。口径12.2cmで他は不明である。外面はナデで底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。外面の体部に横方向に墨書『福』と思われる文字が書かれている。18は土師器の杯の口縁部の破片である。外面に墨書『福』が書かれている。内外面はナデで調整されている。19は土師器の体部破片である。外面に墨書『福』とおぼしき文字が書かれている。内外面ともナデで仕上げられている。20は土師器の杯の体部の破片である。外面に墨書『福』と思われる文字の一部分が見られる。内外面ともナデで仕上げられている。21は手捏ね風の杯である。指頭によるナデで調整されている。

8、9、22、26は須恵器の杯である。8は須恵器の杯の破片である。ほぼ1/10程度遺存している。底部から口縁部にかけてやや丸みを持ちながら立ち上がる。口径11.8cm、底径5.6cm、器高4.0cmである。外面はロクロナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。底面は切り離し後手持ちヘラケズリで調整されている。内面はナデで調整されている。9は須恵器の杯でほぼ1/3程度遺存している。底部から口縁部にかけて丸みを持ちながら比較的急激に立ち上がる。口径12.2cm、底径6.4cm、器高3.7cmである。外面はロクロナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。底面は回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで調整されている。

22は須恵器の破片である。ほぼ1/10程度遺存している。底部から口縁部にかけてやや外反気味に立ち上がる。口径12.0cmで他は不明である。外面はロクロナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。26は須恵器の体部から底部にかけての杯の破片である。口縁部分を除き1/5程度遺存している。底部からやや直線的に立ち上がる。外面はロクロナデ後底部ヘラケズリで調整されている。底面は回転糸切り後手持ちヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

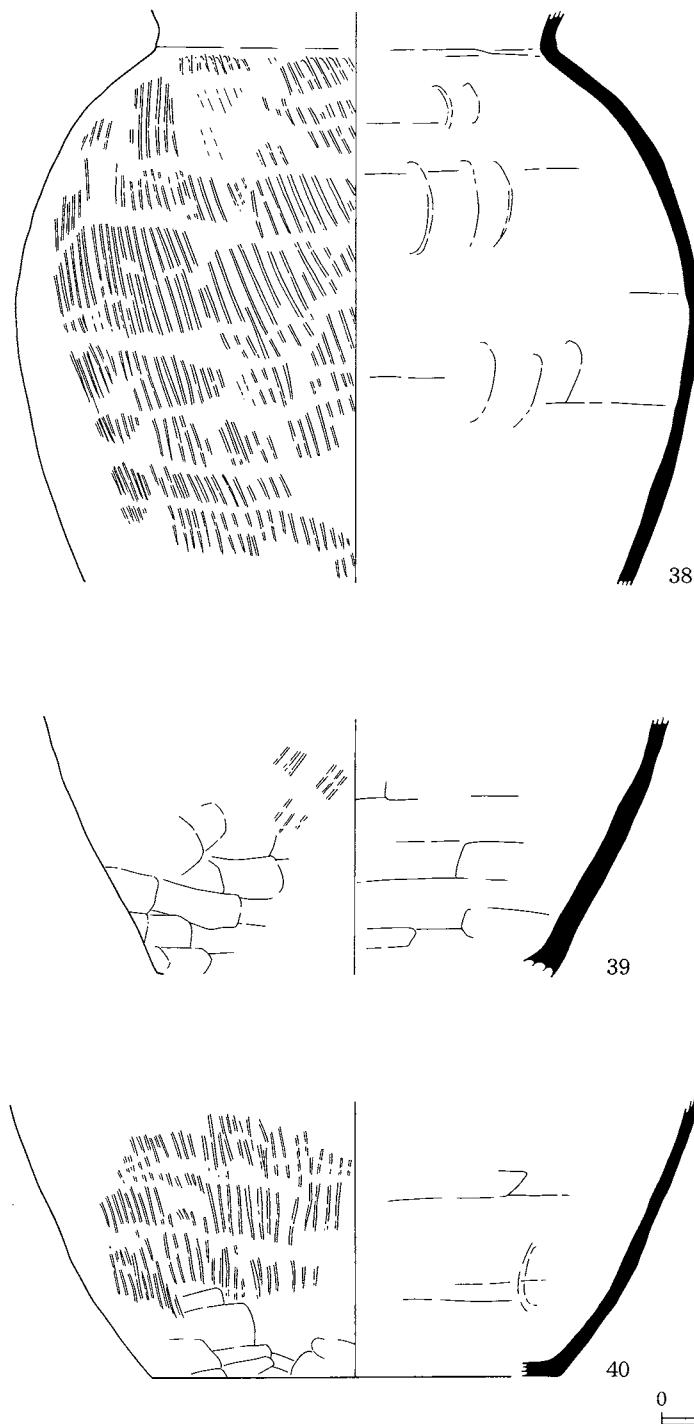
23~25、27~29は土師器高台付き皿である。23は高台付き皿の高台部分と本体部分の底部の破片である。脚部外径7.0cmで他は不明である。外面底部はロクロナデで仕上げられている。内面は密にミガキで仕上げられた後、吸炭による黒色処理を施している。24は高台付きの皿（杯の可能性もある）の高台部分と本体部分の底部の破片である。底面に墨書が書かれている。文字は不明である。脚部外径7.5cmで他は不明である。外面底部はロクロナデ、底面は回転ヘラケズリで調整されている。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。25は高台付き皿の高台部分と本体部分の底部の破片である。脚部外径8.0cmで他は不明である。底面に墨書が書かれている。文字は不明である。内面は吸炭による黒色処理を施している。27は高台付き皿の高台部分と本体部分の底部の破片である。脚部外径7.0cmで他は不明である。外面はナデで仕上げられている。内面は密にミガキで仕上げられている。28は高台付き皿の破片である。1/5程度遺存している。口径14.0cm、器高2.9cm、底径（脚部外径）7.5cmである。外面はロクロナデ、底部から底面にかけては回転ヘラケズリで調整されている。脚部についてはナデで調整されていく。内面はミガキで仕上げられている。29は高台付き皿の高台部分と本体部分の底部の破片である。脚部外径7.5cmで他は不明である。底面に『〇原』と2文字書かれているが、上の文字は不明である。外面底面は回転ヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。

31~33は土師器の甕である。31は甕の口縁部から胴部上半部にかけての破片である。ほぼ1/3程度遺存している。口径13.8cmで他は不明である。頸部のところをやや分厚く整形している。外面は口縁部ヨコナ



第118図 SI-029号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

デ、胴部以下ヘラケズリで調整後ナデで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、胴部以下ナデで調整されている。口唇部分に薄くススの付着が認められる。32は甕の口縁部から胴部上半部にかけての破片である。ほぼ1/5程度遺存している。口径12.8cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、胴部以下は縦方向のヘラケズリで調整されている。頸部には輪積み痕を残している。内面は口縁部ヨコナデ、胴部以下



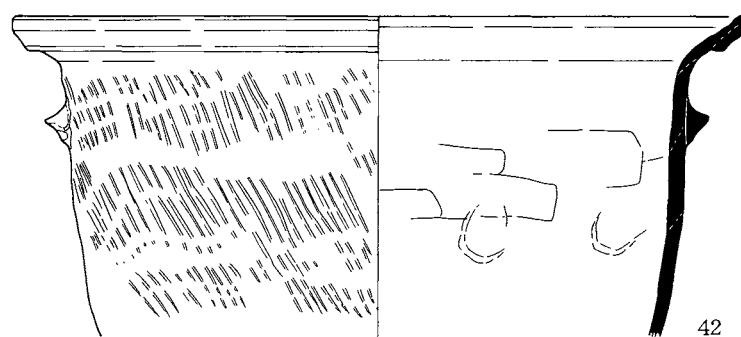
第119図 SI-029号 出土遺物実測図3 (Scale 1/3)

はナデによる調整が行われている。33は甕の底部破片である。底部から底面にかけてほぼ1/2程度遺存している。底径6.9cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで調整されている。一部はミガキで仕上げられている。底面はヘラケズリで調整されている。内面は火熱を受け全面が剥落して調整は不明である。

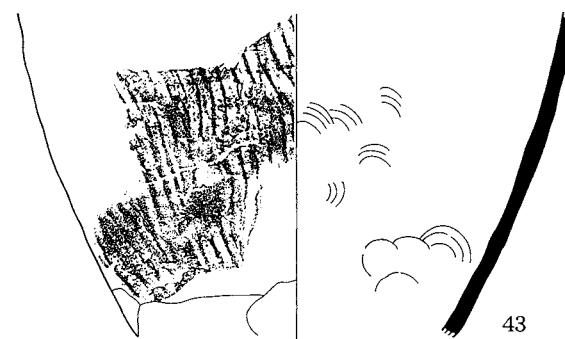
30、34～41は須恵器の甕である。30は甕の口縁部から胴部上半部にかけての破片である。ほぼ1/4程度遺存している。口径13.0cmで他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、胴部はナデで調整されている。内



41



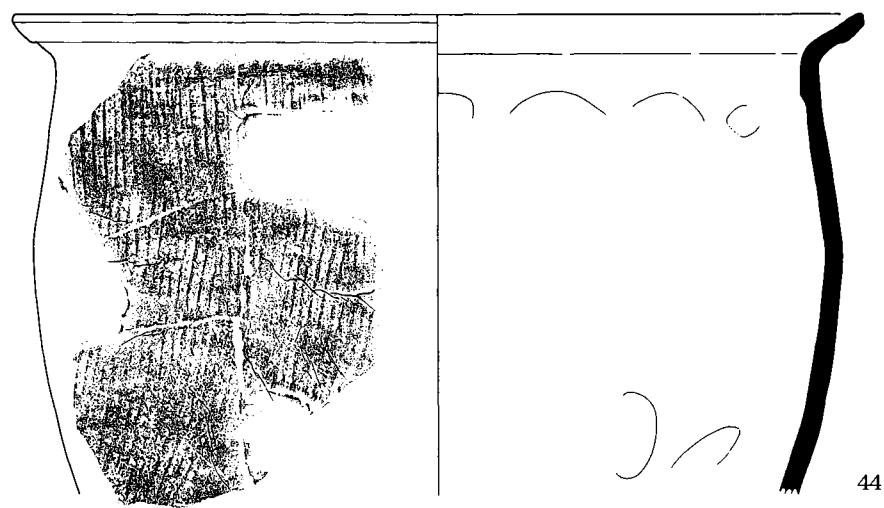
42



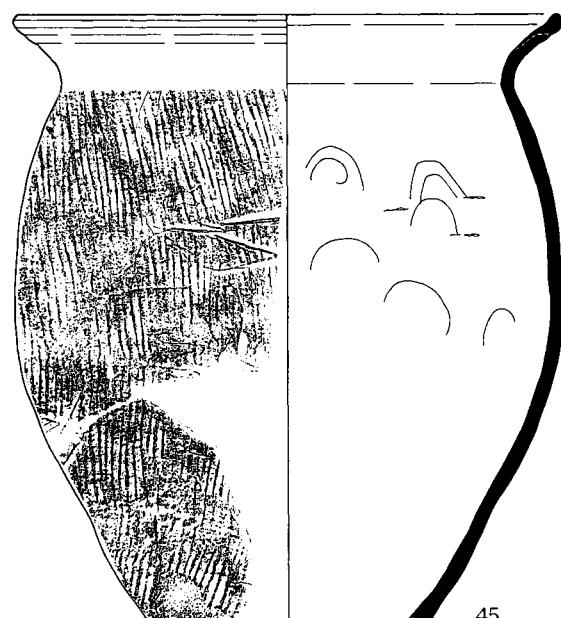
43

0 10cm

第120図 SI-029号 出土遺物実測図 4 (Scale 1/3)



44



45

0 10cm

第121図 SI-029号 出土遺物実測図 5 (Scale 1/3)

面はナデで調整されている。34は甕の底部から底面にかけての破片である。ほぼ1/2程度遺存している。底径は6.4cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリで調整されている。底面については一部ヘラケズリで大半は無調整である。内面は比較的粗いナデで仕上げられている。35は甕の底部から底面にかけての破片である。底径15.0cmで他は不明である。外面底部は横方向のヘラケズリで調整されている。底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。内面は全体的にススが付着している。外面の一部にはター

ル状の付着物が見られる。36は甕の口縁部から底部にかけての破片である。口径20.0cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、頸部から胴部下半部までタタキ目後ナデで仕上げられている。底部以下はヘラケズリで調整されている。内面は口縁部ヨコナデ、頸部以下はナデで仕上げられている。胴部には当て具痕が見られる。37は須恵器の甕である。底面を除きほぼ1/3程度遺存している。口径17.8cm、胴部径20.0cm、底径12.0cm、器高27.0cmである。外面は口縁部ヨコナデで、胴部から底部にかけてはタタキ目で調整されている。底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで調整されている。胴部には当て具痕が残る。38は甕の胴部破片である。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデで調整されている。胴部についてはタタキ目で調整されている。内面はナデ調整で当て具痕が残る。全体の大きさ等は不明である。またこの甕はSI-027号の住居出土の破片と接合する。39は甕の底部破片である。底部から胴部にかけて斜めに直線的に立ち上がる器形である。外面の胴部下半部はタタキ目で調整されている。底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。40は甕の底部破片である。外面底部はタタキ目で調整されている。底面に近い部分は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

41は甕で底面から底部の一部を除きほぼ遺存している。口径22.8cm、胴部径24.4cm、底径15.7cm、器高28.0cmである。外面口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてはタタキ目で調整されている。底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。また当て具痕が残る。43は甕の胴部下半部から底部にかけての破片でほぼ1/3程度遺存している。外面はタタキ目で調整されている。底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はタタキ目に伴う当て具痕が多く残る。44は甕で口縁部から胴部下半部までの破片である。ほぼ1/5程度遺存している。口径33.2cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、頸部以下はタタキ目で調整されている。内面口縁部ナデで調整されている。頸部以下はタタキ目に伴う当て具痕が見られる。45は甕で底部を除き2/3以上遺存している。口径21.4cmで他は不明である。外面は口縁部ナデで、胴部以下はタタキ目で調整されている。内面はナデで、胴部にはタタキ目に伴う当て具痕が見られる。

42は須恵器の甕である。口径28.4cmで他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、胴部にかけてはタタキ目で仕上げられている。内面はナデで仕上げられており、所々に工具痕が見られる。

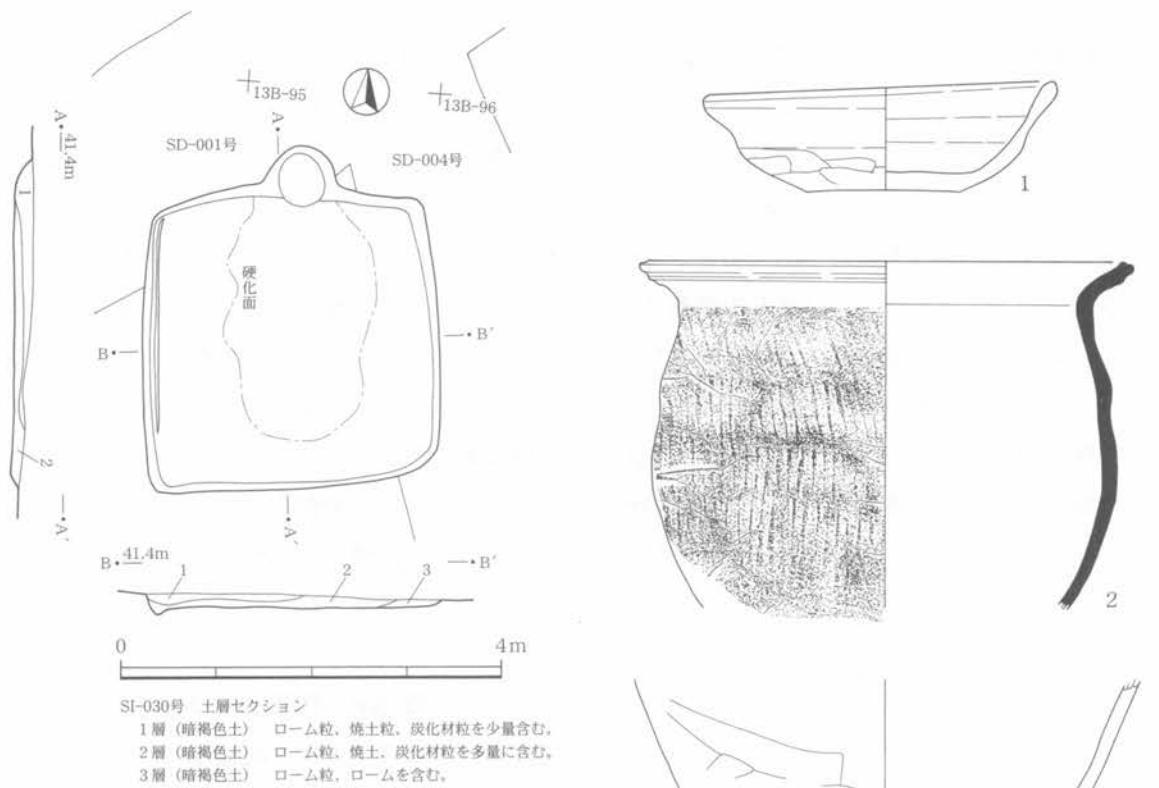
#### SI-030号（第121図、第123図1～10）

（遺構）調査区の南側の13B-95付近で検出された。平面形状は一辺2.85m～3.08m程度のほぼ正方形になると思われる。北壁2.85m、東壁2.90m、南壁3.08m、西壁3.02mである。SD-001号及び004号に覆土上層部分を切られているものの床面まで達していないため住居跡のプランは確認できた。主軸方位はN-4°-Wである。覆土はローム粒、焼土粒、炭化材粒を含む暗褐色土が主体で3層に分けられている。

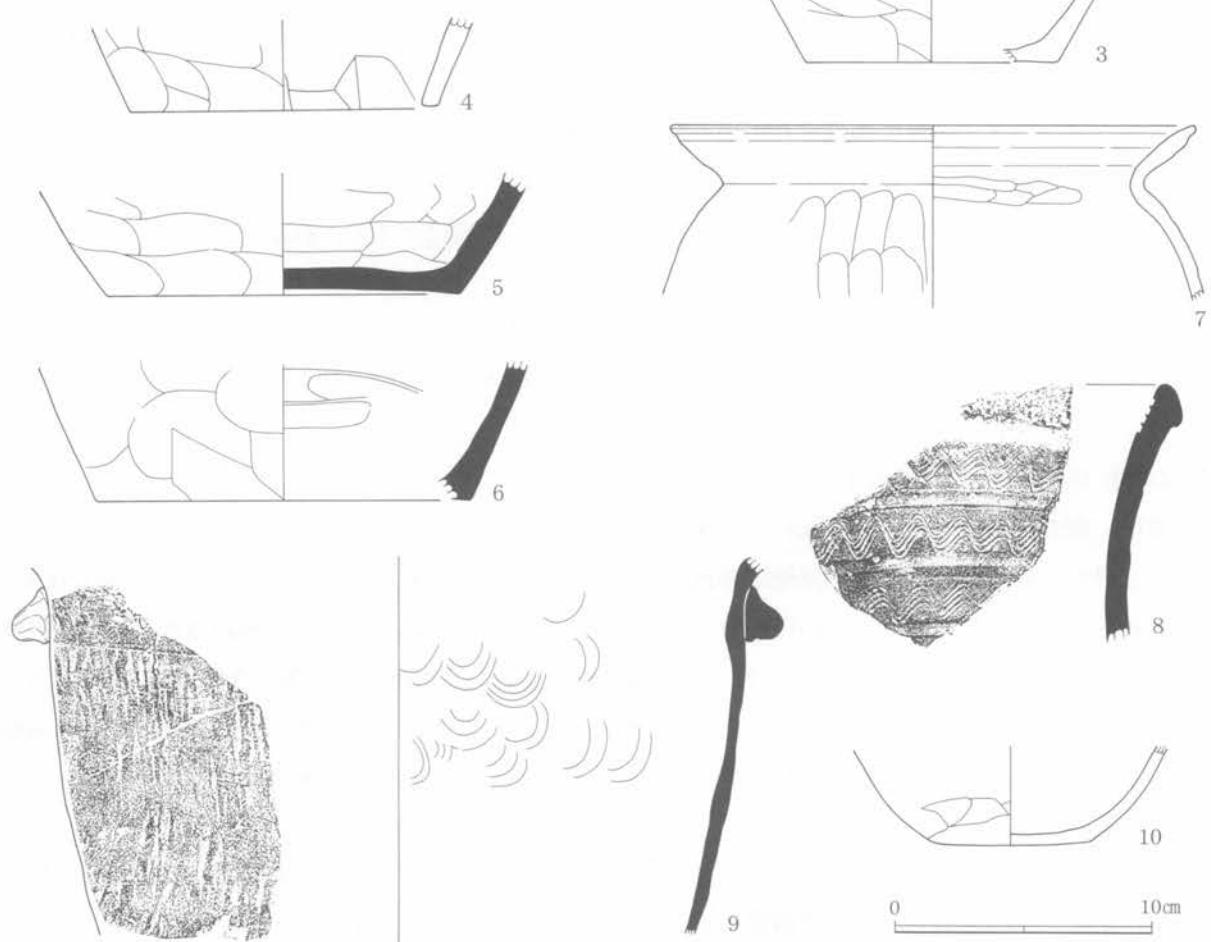
カマドは北壁中央部分に構築されていたと思われるが、残存状況は非常に悪く、堀方及び残骸のみ検出されていた。床面からは柱穴と思われるピットは検出されていない。床面の硬化部分はカマドから住居の中央部分で検出された。

（遺物）遺物については住居跡全体から大きな土器破片がややまとまって出土している。図示したのは土師器杯1点、土師器甕3点、須恵器甕4点、土師器甕1点、須恵器甕1点である。

1は土師器の杯である。口縁部の一部と底部の一部が欠損している。体部の中程がやや窪むような器形



第122図 SI-030号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



第123図 SI-030号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

で、全体にややゆがんでいる。口径13.2cm、底径5.9cm、器高4.0cmである。外面はロクロナデ後底部ヘラケズリで調整されている。底面は糸切り後ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。

3、7、10は土師器の甕である。3は甕の底部ではほぼ遺存している。ほぼ斜めに直線的に立ち上がる。底径9.0cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリで調整されている。底面はヘラケズリで調整されている。内面は剥落が著しく詳細は不明である。7は甕の口縁部の破片である。口径20.3cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、頸部から胴部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面は頸部はヘラケズリで、他はナデで仕上げられている。10は甕の底部である。底径6.2cmで他は不明である。外面はナデ後、底部から底面にかけてヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

2、5、6、8は須恵器の甕である。2は須恵器の甕である。口縁部から底部にかけての破片でおおよそ1/3程度遺存している。口径18.6cmで他は不明である。外面は口縁部ヨコナデ、頸部から底部にかけてはタタキ目で調整されている。内面はナデで仕上がられている。5は甕の底部底面の破片である。底径は13.8cmで他は不明である。外面底部は横方向のヘラケズリで調整されている。底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。6は甕の底部の破片である。底径14.8cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで調整されている。底面はヘラケズリで調整されている。内面はヘラ状の工具による擦痕が見られる。8は須恵器の甕の口縁部の破片である。外面には櫛目文による波状の文様が見られる。

4は土師器の甌である。甌の底部破片である。底径12.0cmで他は不明である。外面底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。

9は須恵器の甌の頸部から底部にかけての破片である。外面はタタキ目で調整されている。内面はタタキ目に伴う工具痕が残る。

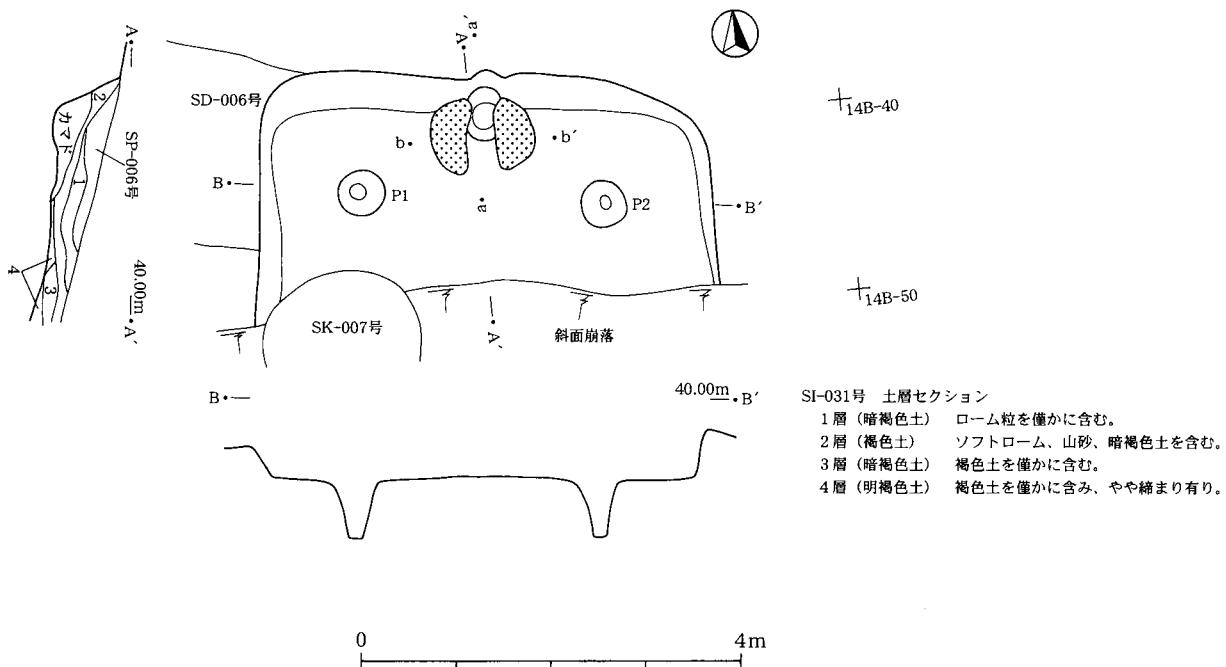
#### SI-031号（第124図～第125図、第126図1～13）

（遺構）調査区の最南端の14A-37付近で検出された。平面形状は一辺4.7m程度の正方形になると思われるが、カマドのある北壁から2.5m程確認された部分より南側はSK-007号及び斜面崩落により消失しているため不明である。主軸方位はN-6°-Eである。上層をSD-006号によって一部切られているものの暗褐色土を主体とする覆土で覆われている。

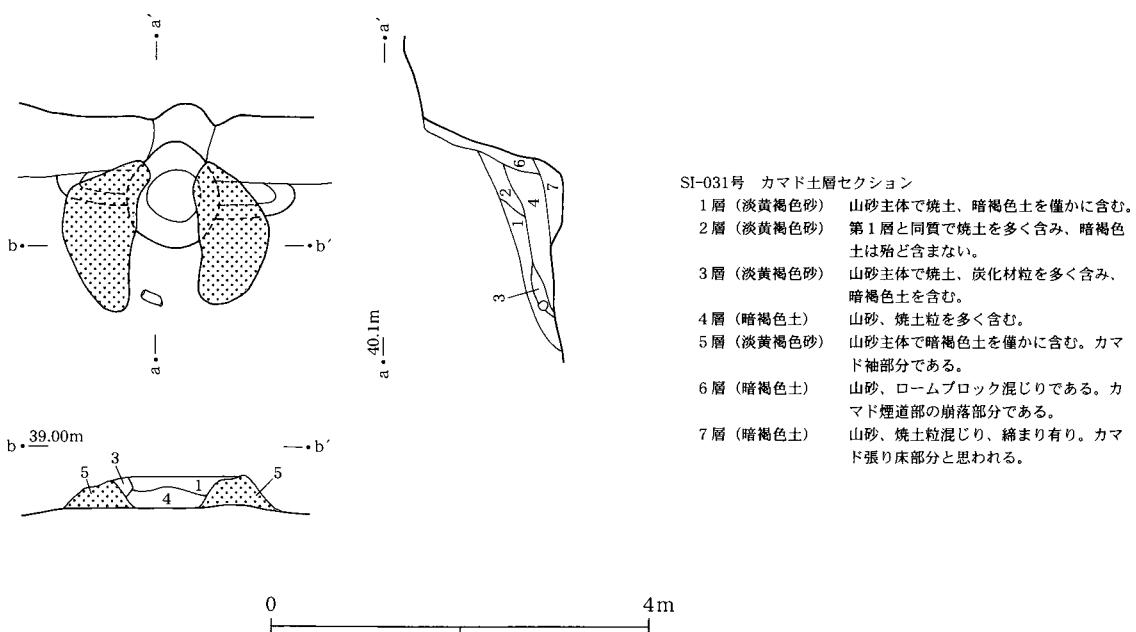
カマドは北壁中央部分に構築されている。遺存状況は非常に良く、両袖部分はしっかりと検出された。また中央部分には支脚も残されている。火床部分は明らかではない。床面からは主柱穴と思われるP1～P2のピットが検出されている。南側については消失しているため不明である。床面の硬化部分は検出されなかつた。

（遺物）遺物については住居跡全体から大きな土器破片がやまとまって出土している。図示したのは、土師器杯4点、土師器碗1点、土師器甕4点、須恵器台付き杯1点、土師器台付き皿2点、土師器高台付き杯1点である。

1～5は土師器杯である。1は杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径12.6cm、底径11.8cm、器高2.5cmである。外面口縁部はナデ、底部から底面にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。2は杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径12.8cm、底径7.4cmである。器高は不明である。外面はロクロナデ後底部はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕

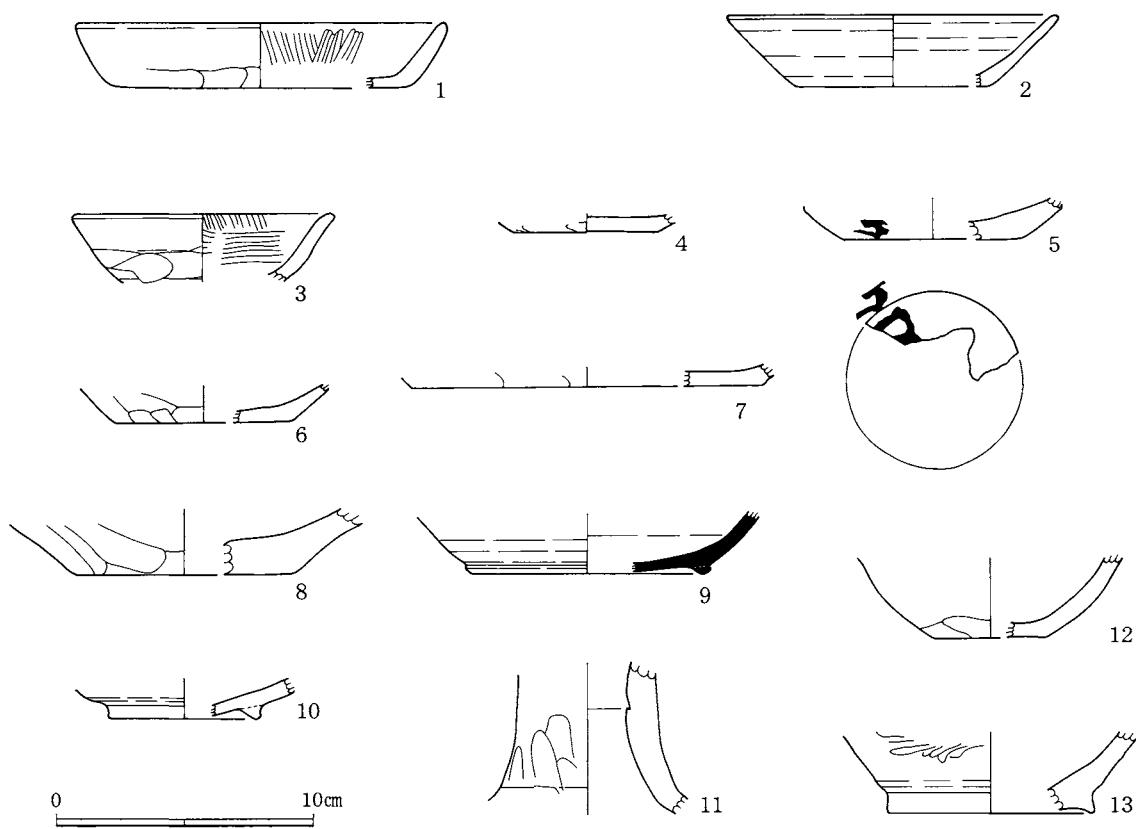


第124図 SI-031号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/40)



第125図 SI-031号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/20)

上げられている。内外面とも赤彩されている。3は杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径10.0cmで他は不明である。外面口縁部はロクロナデ、底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面は口縁部は縦方向、底部にかけては横方向のミガキで仕上げられている。4は杯の底部底面破片である。底径7.7cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、底面は回転ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。



第126図 SI-031号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

5は土師器の椀である。厚みのある器形で底部のみなので器種を椀としたが杯である可能性もある。底径6.9cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。外面底部と底面の一部に墨書きが見られる。文字は不明である。

6～8、12は土師器の甕である。6は甕の底部破片である。底径7.0cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで、底面もヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。7は甕の底部破片である。底径13.8cmで他は不明である。外面は底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。8は甕の底部破片である。底径8.4cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで、底面もヘラケズリで調整されている。内面は著しく剥落しており、詳細は不明である。12は甕の底部破片である。底径4.4cmで他は不明である。外面は底部、底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

9は須恵器の台付き杯である。底径10.0cmで他は不明である。外面底部はロクロナデ仕上げ、底面については回転ヘラケズリで調整後脚部を張り付け仕上げている。内面はロクロナデで調整されているが、破片を転用して硯としている。

10は土師器の台付き皿の破片である。底径5.8cmで他は不明である。外面底部はロクロナデ後脚部をナデで仕上げている。内面はナデで調整されている。13は台付きの皿の破片である。底径8.0cmで他は不明である。外面底部はミガキで調整されている。底面は糸切り後ナデで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。内面は黒色処理を施されている。

11は高台付き杯の高台部分の破片である。外面ヘラケズリで調整、内面はナデで仕上げられている。外面は赤彩されていたと思われる。

#### SI-032号（第127図～第128図、第129図～第130図 1～17）

（遺構）調査区のやや南側の10E-04付近で検出された。平面形状はほぼ正方形になる。規模は北西壁4.40m、北東壁4.62m、南東壁4.72m、南西壁4.68mである。主軸方位はN-22°-Wである。覆土は黒褐色土から暗褐色土を主体として6層に分かれる。床面はカマドのある北西壁から南西壁にかけて中央部分を中心に硬化している。

カマドは北西壁中央部分に構築されている。遺存状況は非常に良く、両袖部分及び火床部分ともに検出された。床面からは主柱穴と思われるP1～P4のピットが検出されている。また、南西壁際中央部分より梯子ピットと思われるピットP5が検出されている。壁周溝も住居跡を全周する。

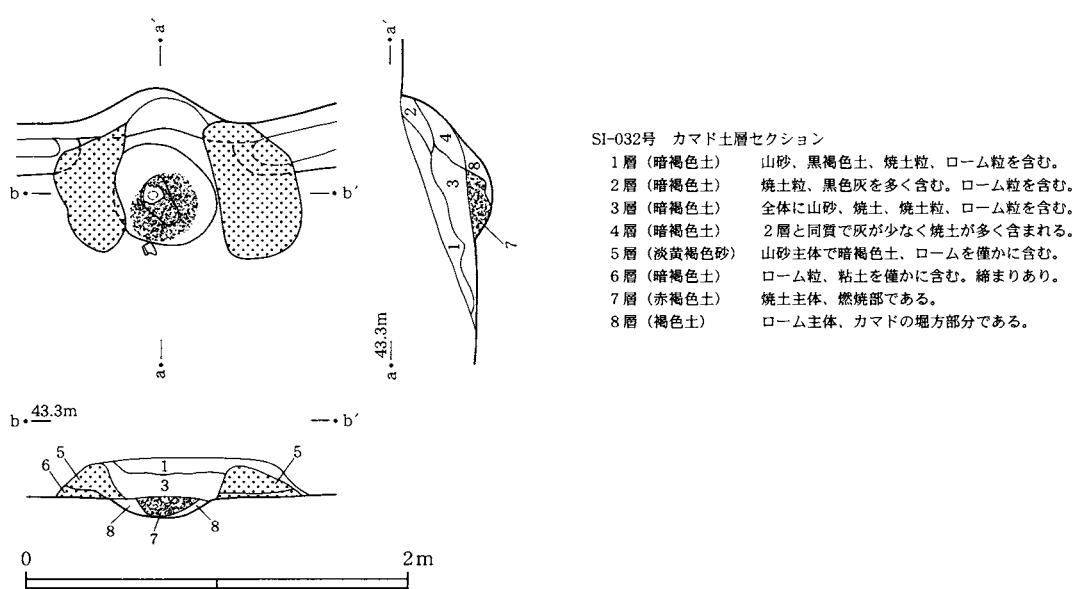
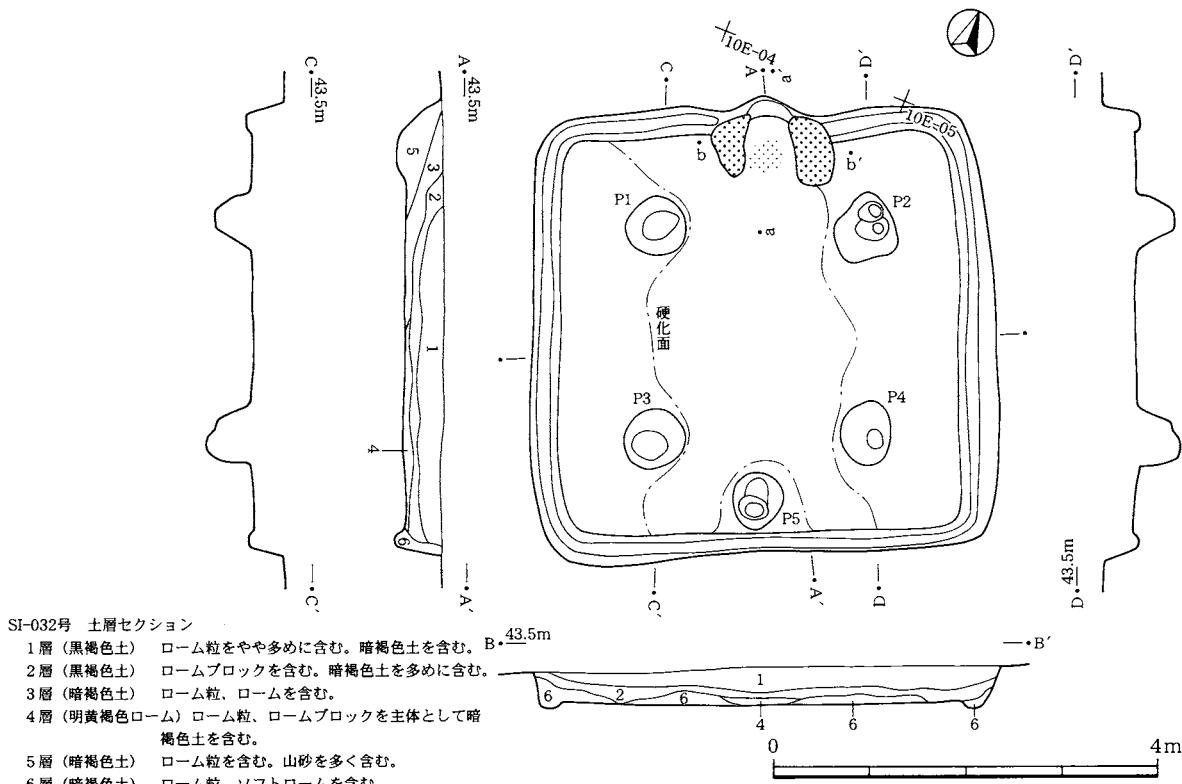
（遺物）遺物についてはカマドに近い覆土中より破片が十数点出土している。図示したのは、土師器杯3点、須恵器杯1点、土師器甕6点、土師器瓶3点、土師器鉢1点、高杯1点、須恵器蓋1点である。

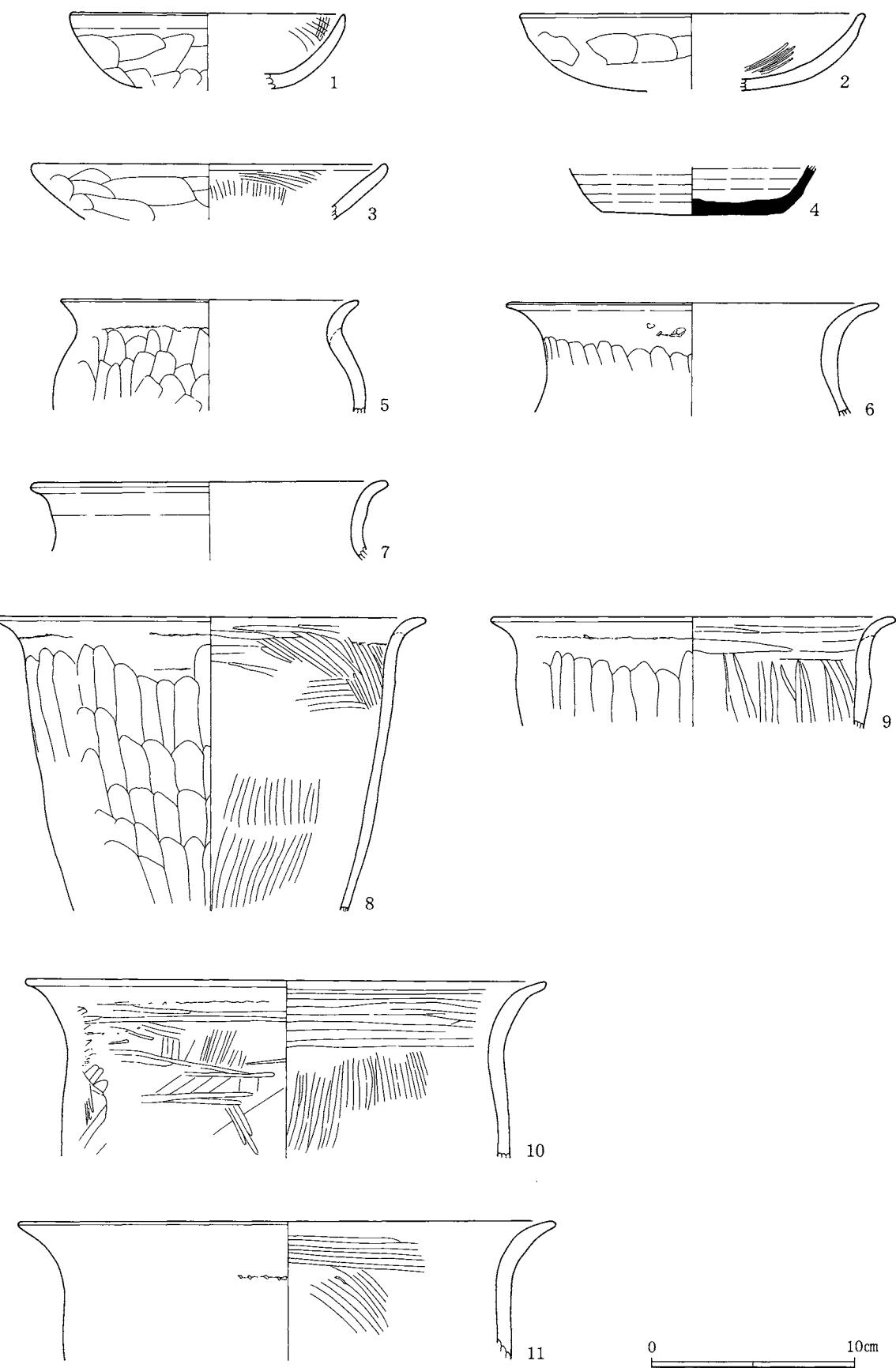
1～3は土師器の杯である。1は土師器の杯の口縁部から底部にかけて1/5程度遺存している破片である。口径13.4cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ後、底部にかけて横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。2は土師器の杯の口縁部から底部にかけて1/4程度遺存している破片である。口径16.9cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ後、底部にかけて横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。3は土師器の杯の口縁部の破片である。口径17.9cmで他は不明である。底部は丸底に近く浅い器形になると思われる。外面口縁部ナデ後、ヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。

4は須恵器の杯の底部底面の破片である。底面についてはおよそ1/3程度遺存している。底径9.0cmで他は不明である。外面底部ロクロナデ後底面ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。胎土にかなり大きめの雲母片が含まれている。

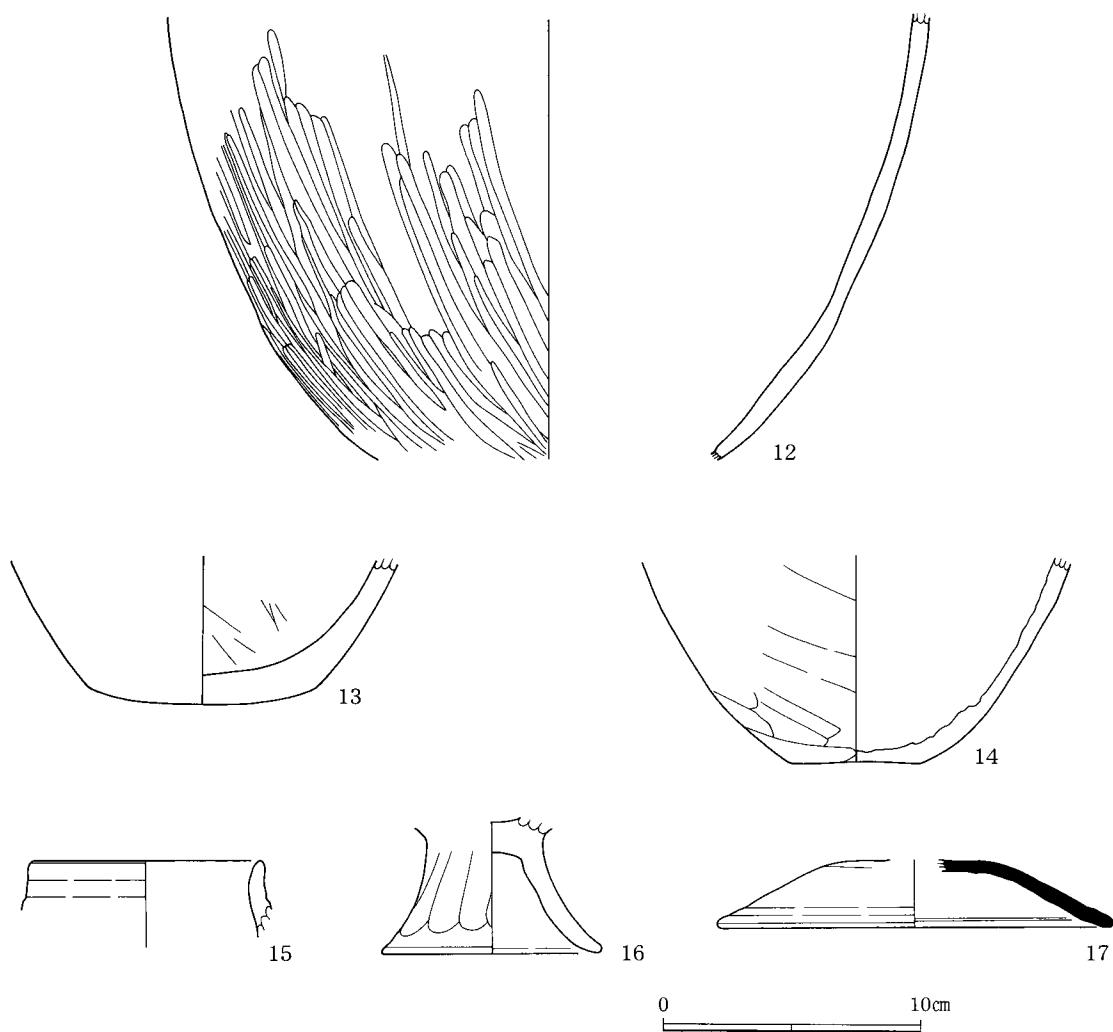
5～7、12～14は土師器の甕である。5は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径14.8cmで他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、頸部から胴部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。6は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径18.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、胴部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。7は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径17.6cmで他は不明である。外面口縁部から胴部上半部にかけてナデで仕上げられている。内面についても同様である。12は土師器の甕の胴部から底部にかけての大形破片である。外面胴部から底部にかけては縦方向のミガキで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。13は土師器の甕の底部底面である。底径8.8cmで他は不明である。底の部分は比較的肉厚で幅広のため鉢とも考えられる。外面は底面はヘラケズリ、底部にかけては剥落が著しく詳細は不明である。内面はヘラ状工具で幅広のミガキ痕が見られる。14は土師器の甕の底部底面の破片である。底径5.0cmで他は不明である。外面底部及び底面はヘラケズリで調整されている。内面は使用のためか剥落が著しく詳細は不明である。

8～11は土師器の瓶である。8は土師器の瓶の口縁部から胴部下半部にかけて1/3程度遺存している。口径21.2cmで他は不明である。外面口縁部直下に輪積み痕を残す。頸部から底部にかけては縦方向のヘラ





第129図 SI-032号 出土遺物実測図 1 (Scale 1/3)

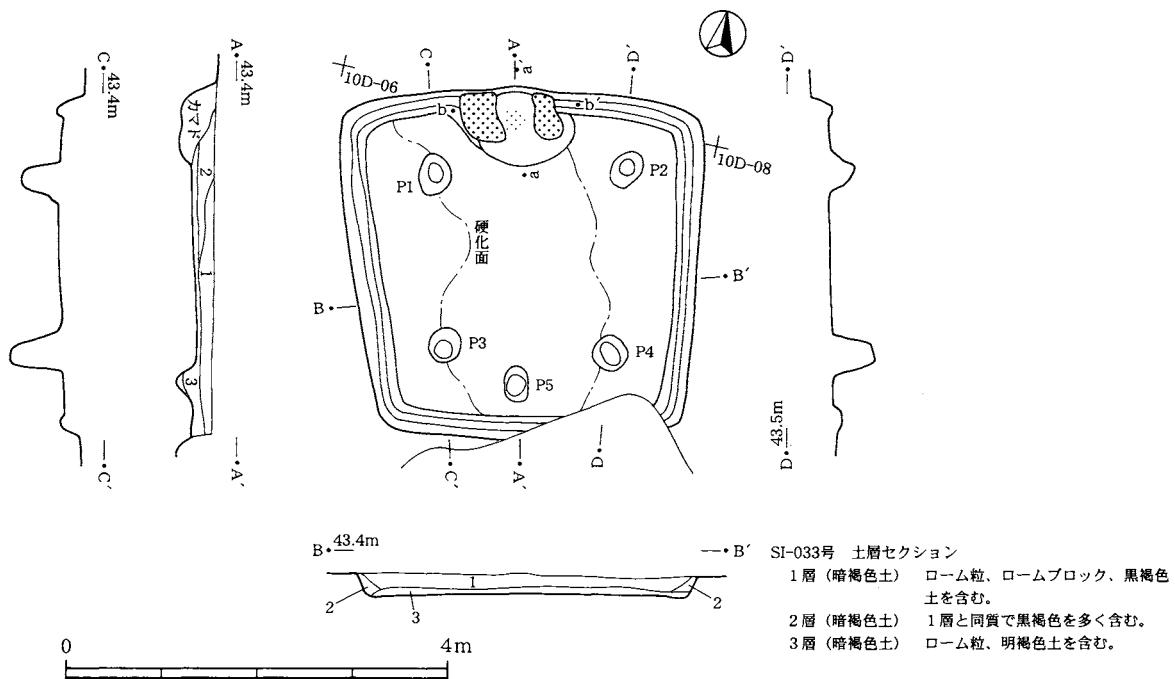


第130図 SI-032号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

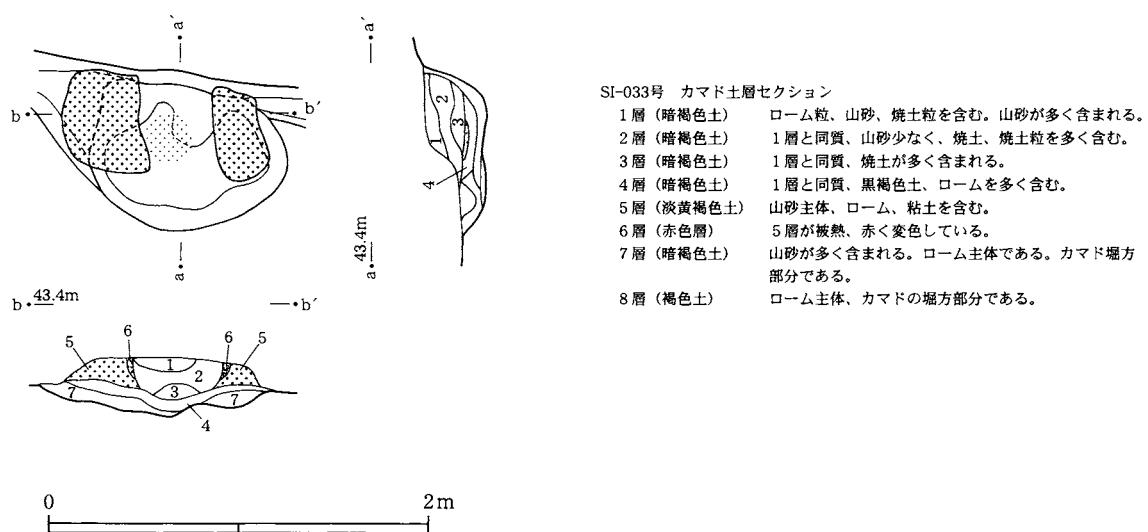
ケズリで調整されている。内面口縁部付近は横方向のミガキ、底部にかけては縦方向にやや粗い感じのミガキで仕上げられている。9は土師器の甑の口縁部から胴部にかけての破片である。口径20.0cmで他は不明である。外面口縁部直下に輪積み痕を残す。頸部から胴部にかけて縦方向のヘラケズリで調整されている。若干のミガキが見られる。内面口縁部は横方向のミガキ、胴部以下は縦方向のミガキで仕上げられている。10は土師器の甑の口縁部から胴部かけて1/5程度遺存している。口径25.8cmで他は不明である。外面はナデ後軽めのミガキで仕上げられている。内面口縁部付近は横方向のミガキ、胴部以下は縦方向の比較的強めのミガキで仕上げられている。11は土師器の甑の口縁部から胴部上半部にかけての破片である。口径25.8cmで他は不明である。外面口縁部直下に輪積み痕を残す。胴部以下はヘラケズリで調整されていると思われるが、器面が荒れているため詳細は不明である。内面口縁部は横方向の強いミガキ、胴部にかけては斜め縦方向にミガキが見られる。

15は土師器の小形の鉢と蓋思われる破片である。口径8.9cmで他は不明である。外面はヨコナデ、内面はナデで仕上げられている。

16は土師器の高杯の脚部である。脚部底径8.5cmで他は不明である。外面は縦方向のヘラケズリ、内面は横方向のヘラケズリで調整されている。



第131図 SI-033号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

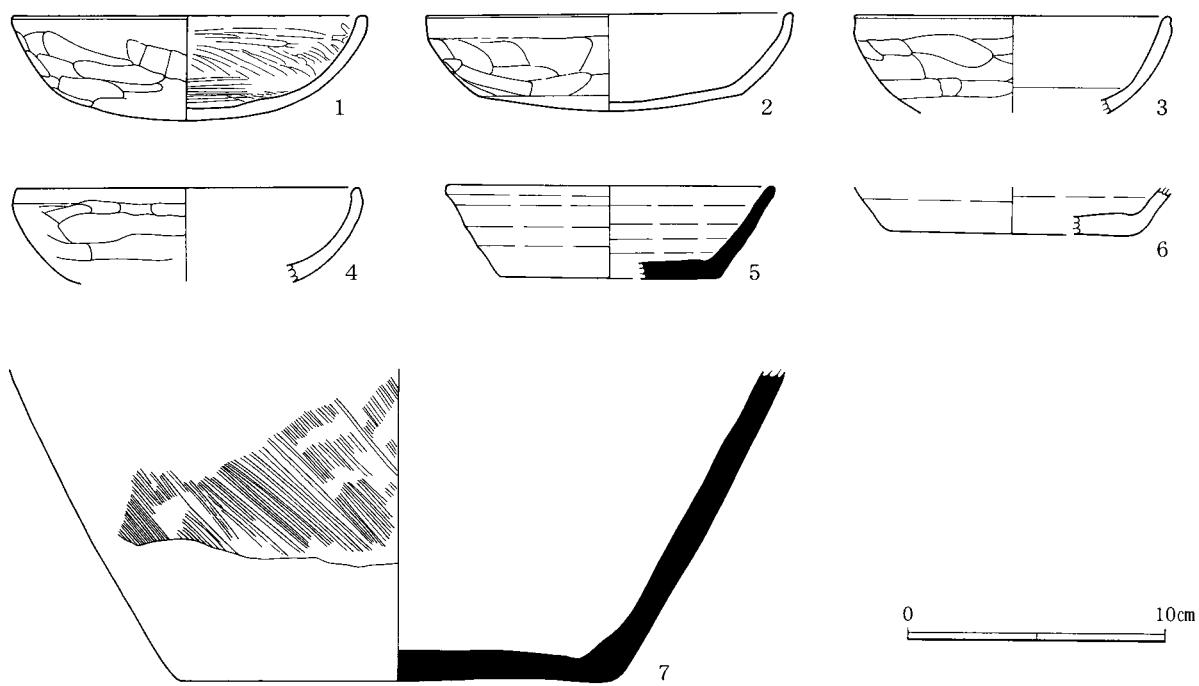


第132図 SI-033号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

17は須恵器の蓋でおおよそ1/4程度遺存している。底径15.2cm、器高2.7cmである。内外面ともナデで仕上げられている。

#### SI-033号 (第131図～第132図、第133図 1～7)

(遺構) 調査区のやや南側の10D-06付近で検出された。平面形状はやや北側の広がる逆台形に近い形



第133図 SI-033号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

になる。規模は北西壁3.82m、北東壁3.38m、南東壁3.28m、南西壁3.47mである。主軸方位はN-12°-Wである。南西壁側の一部がSI-034号によって切られている。切り合ひ関係からはSI-033号の方が古いものと思われる。覆土は一部攪乱が入るが、暗褐色土を主体として4層に分かれる。床面はカマドのある北西壁から南西壁にかけて中央部分を中心に硬化している。

カマドは北西壁中央部分に構築されている。遺存状況は非常に良く、両袖部分及び火床部分ともに検出された。床面からは主柱穴と思われるP1～P4のピットが検出されている。また、南西壁際中央部分より梯子ピットと思われるピットP5が検出されている。壁周溝は浅いが南西壁の一部を除きほぼ住居跡を全周する。

(遺物) 遺物については住居跡の中央に近い覆土下層中より数点出土している。図示したのは、土師器杯4点、須恵器杯2点、須恵器甕1点である。

1～4は土師器の杯である。1は土師器の杯でおおよそ2/3程度遺存している。口径13.6cm、器高4.3cmで底径は丸底のため不明である。外面は全面ヘラケズリ後、一部ミガキで仕上げられている。内面はミガキで仕上げられている。2は土師器の杯でおおよそ1/4程度遺存している。口径14.2cm、底径10.4cm、器高3.8cmでやや丸底に近い形である。外面は口縁部ナデ後、体部から底部にかけては横方向のヘラケズリで調整されている。底面はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデ後軽めのミガキで仕上げられている。3は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径12.0cmで底部にかけては丸底になると思われる。外面は口縁部一部ナデ、体部から底部にかけては横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデ後軽めのミガキで仕上げられている。外面に一部赤彩の痕跡が見られる。4は土師器の杯の1/10程度の破片である。口径13.4cmで丸底の形態で器高は不明である。外面は口縁部ナデ後、体部から底部にかけては横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデ後、一部ミガキで仕上げられている。

5、6は須恵器の杯である。5は須恵器の杯の口縁部から底面にかけて1/5程度遺存している。口径12.6cm、底径8.6cm、器高3.7cmである。外面はロクロ仕上げ、底面については回転ヘラケズリと思われる。内面はロクロナデ仕上げである。胎土の雲母片が見られる。6は須恵器の杯の底部破片である。底径9.4cmで他は不明である。調整等は5と同様で胎土については同様に雲母片が見られる。

7は須恵器の甕で底部から底面にかけて遺存している。底径は16.6cmで他は不明である。外面底部はタタキ目で調整されている。底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。

#### SI-034号（第134図～第135図、第136図～第137図1～22）

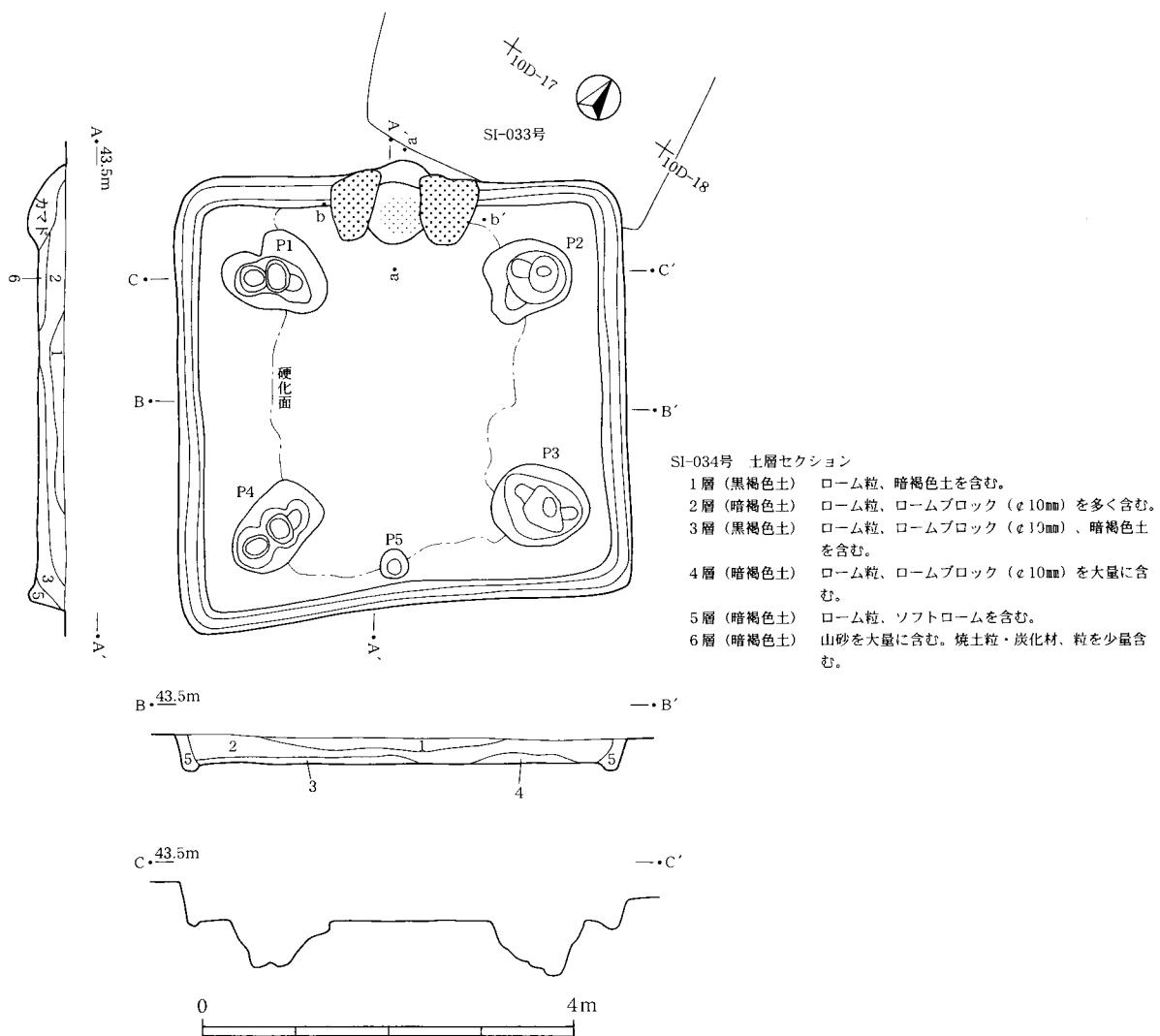
(遺構) 調査区のやや南側の10D-26付近で検出された。平面形状はやや北側の広がる逆台形に近い形になる。規模は北西壁3.82m、北東壁3.38m、南東壁3.28m、南西壁3.47mである。主軸方位はN-12°-Wである。南西壁側の一部がSI-034号によって切られている。切り合い関係からはSI-033号の方が古いものと思われる。覆土は一部攪乱が入るが、暗褐色土を主体として4層に分かれる。床面はカマドのある北西壁から南西壁にかけて中央部分を中心に硬化している。

カマドは北西壁中央部分に構築されている。遺存状況は非常に良く、両袖部分及び火床部分ともに検出された。床面からは主柱穴と思われるP1～P4のピットが検出されている。柱穴の形態から建て替えの可能性が考えられる。また、南西壁際中央部分より梯子ピットと思われるピットP5が検出されている。壁周溝は浅いが南西壁の一部を除きほぼ住居跡を全周する。

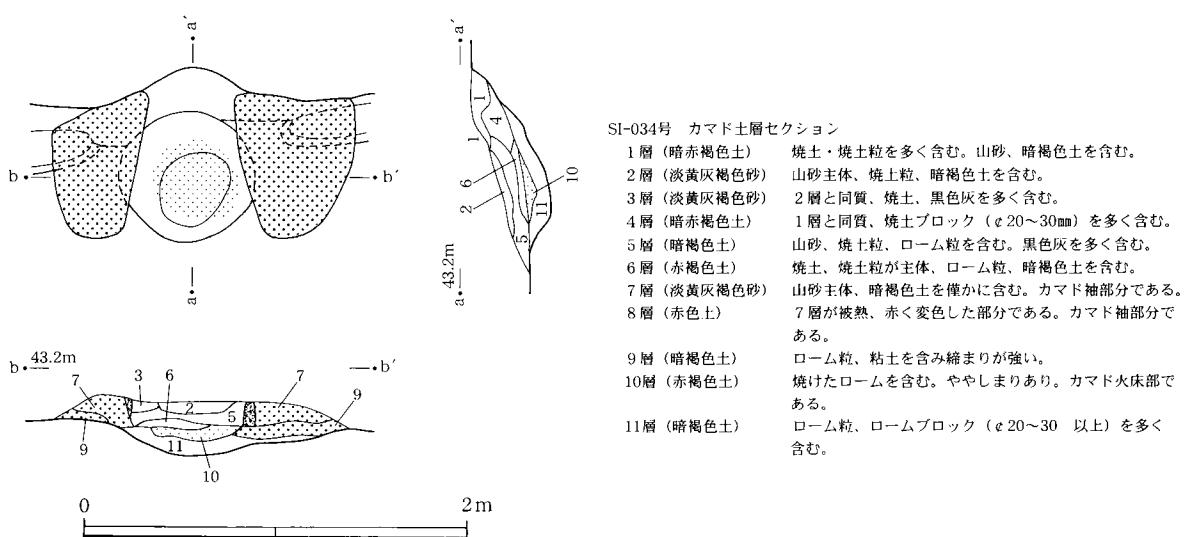
(遺物) 遺物については住居跡のカマド付近及び中央に近い覆土下層中より多数出土している。図示したのは、土師器杯5点、須恵器杯2点、土師器甕10点、須恵器甕1点、土師器瓶3点、土師器手捏ね土器1点である。

1～5は土師器杯である。1は土師器の杯でおおよそ1/4程度遺存している。口径13.6cm、底径7.6cm、器高3.4cmである。外面はヘラケズリによる調整、内面はナデ後強いミガキで仕上げられている。底部はやや丸みを帯び、口縁部についても内曲する器形である。2は土師器の杯で1/5程度遺存している。口径14.6cm、底径8.8cm、器高3.3cmである。外面口縁部ナデ後、底部から底面にかけてヘラケズリで調整されている。内面はナデもしくは軽いミガキで仕上げられている。3は土師器の杯でおおよそ1/6程度遺存している。口径14.8cm、器高3.8cm、底径は丸底のため不明である。底部が分厚く口縁部が内曲する器形である。外面口縁部ヨコナデ、体部から底部にかけてはミガキ、底面はヘラケズリで調整されている。内面は縦横方向のミガキで仕上げられている。4は土師器の杯で口縁部から底部にかけての破片である。底面にかけて緩やかに折れ曲がる器形と思われるが、欠失しているため不明である。口径17.4cmで他は不明である。外面はナデ後底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。内外面とも赤彩されている。5は土師器の杯でほぼ1/5程度遺存している。口径18.6cm、底径丸底、器高7.0cmである。大きさの割に器高が高く、ボル状を呈する。外面はヘラケズリ、内面はミガキで仕上げられている。外面は吸炭か何かで黒色化が著しい。

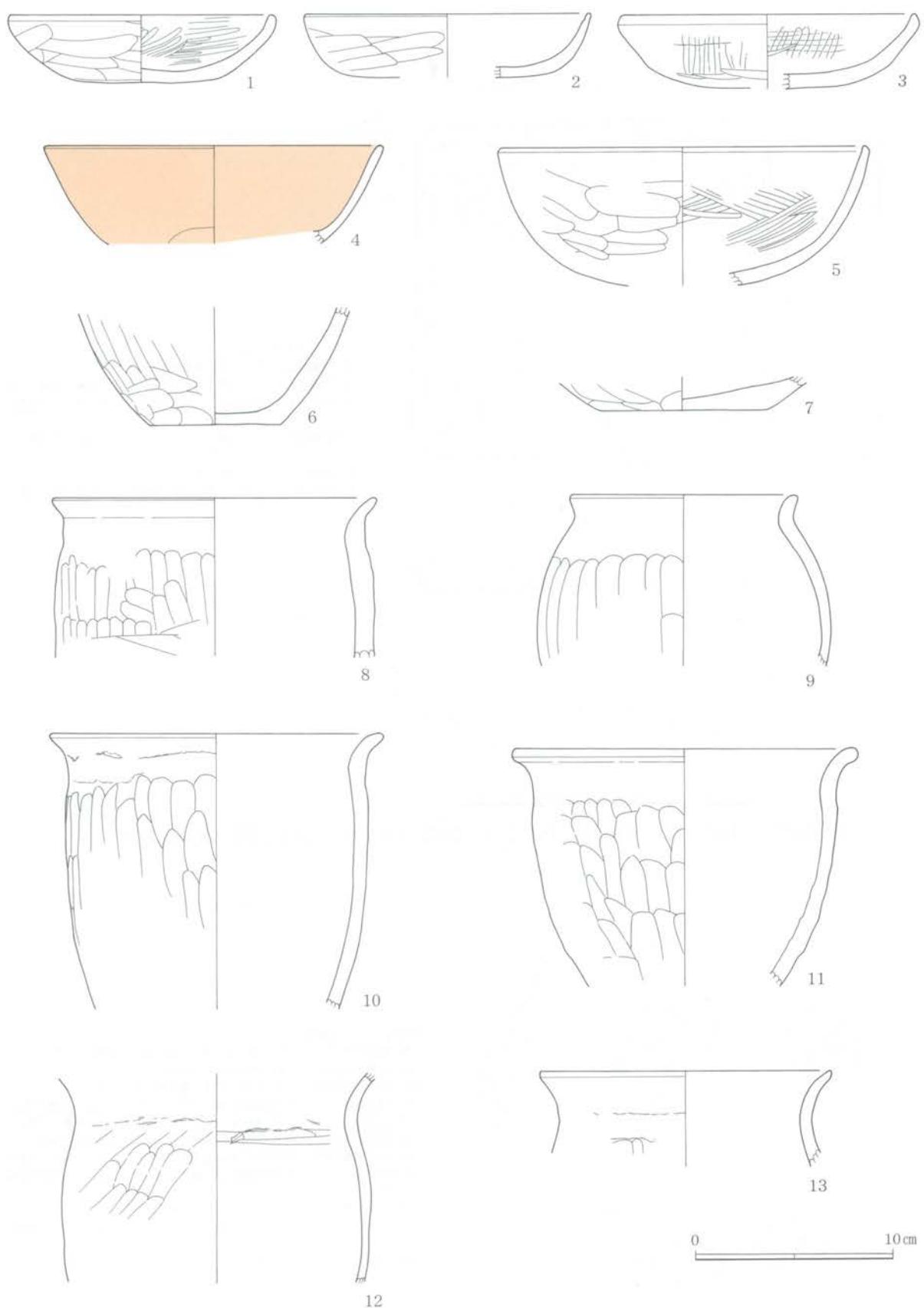
19、20は須恵器の杯である。19は須恵器の杯の底面のほぼ1/3程度の破片である。底径9.4cmで他は不明である。外面はロクロ後ヘラケズリで仕上げられている。内面はロクロナデ仕上げと思われる。20は須恵器の杯の底部底面である。底面はほぼ残存しており、底面の一部を残している。底径9.4cmで他は不明である。外面底部はロクロ後ヘラケズリで仕上げられている。内面はロクロナデ仕上げと思われる。



第134図 SI-034号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第135図 SI-034号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



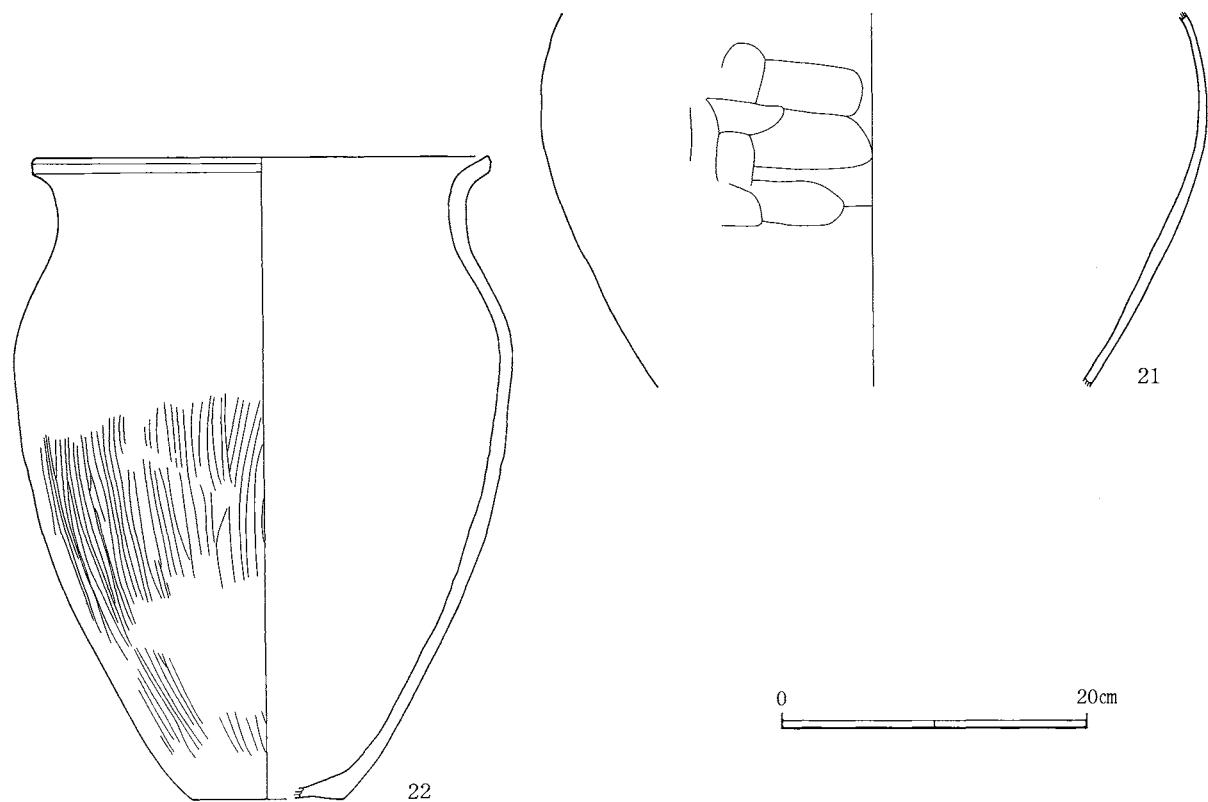
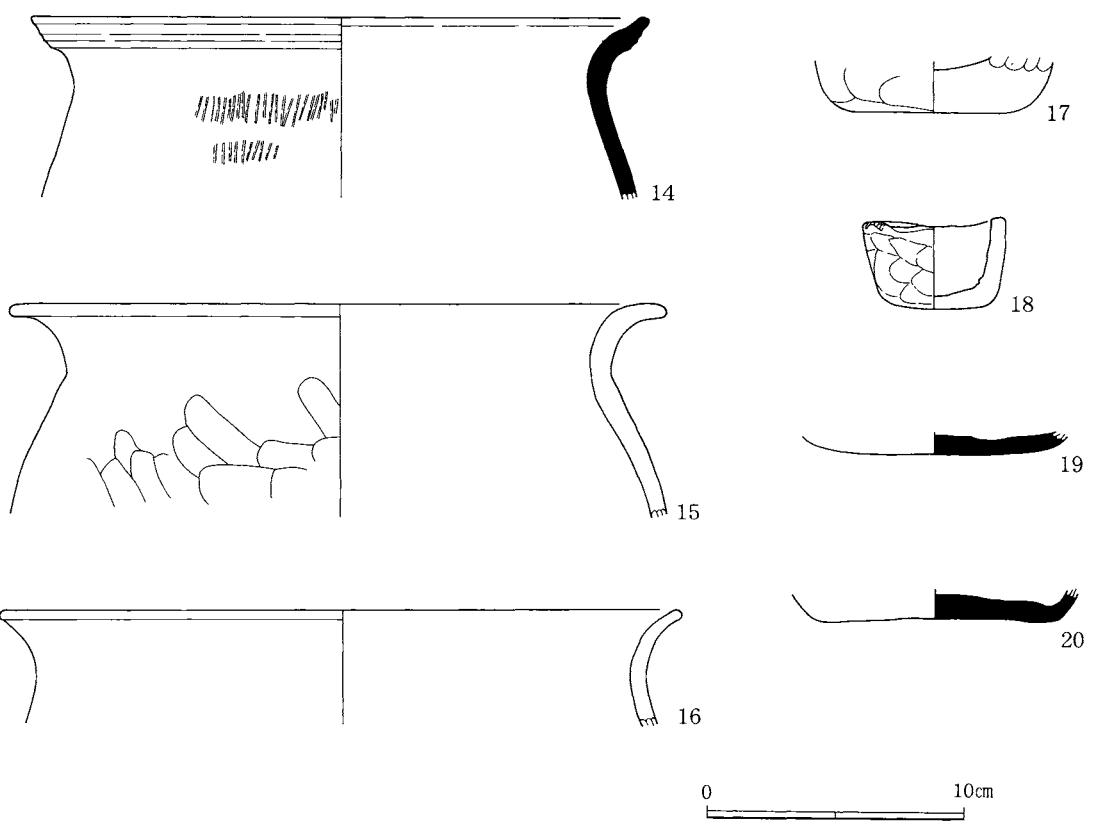
第136図 SI-034号 出土遺物実測図 1 (Scale 1/3)

6、7、9、12、13、15～17、21、22は土師器の甕である。6は土師器の甕の底部破片である。底径6.5cmで他は不明である。外面底部は縦方向のヘラケズリ、底面に近い部分で横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。7は土師器の甕の底面部分の破片である。底径8.4cmで他は不明である。外面底部底面はヘラケズリ、内面はナデで仕上げられている。9は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。当該部位の1/2程度遺存している。口径11.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、胴部にかけては縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられているが、一部當て具状の跡が見られる。12は土師器の甕の頸部から胴部下半部にかけての破片である。外面口縁部から頸部にかけてナデ、頸部には輪積み痕を残す。胴部は斜め方向のヘラケズリで調整されている。内面は全体にナデで仕上げられているが、頸部のみミガキで仕上げられている。13は土師器の小形の甕の口縁部の破片である。口径14.8cmで他は不明である。外面口縁部から頸部にかけてはナデで一部輪積み痕を残す。胴部以下はヘラケズリで調整されている。内面はナデで調整されている。15は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径25.6cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、胴部以下は斜め方向から横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。16は土師器の甕の口縁部の破片である。口径26.5cmで他は不明である。内外面ともナデで仕上げられている。頸部に輪積み痕を残す。17は土師器の甕の底面の破片である。底径7.2cmで他は不明である。底径の割に肉厚な感じがする土器である。外面底面、底部はヘラケズリで調整、内面はナデで仕上げられている。21は土師器の甕の胴部の大形破片である。外面胴部は横方向のヘラケズリ、底部にかけてはナデで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。22は土師器の甕で口縁部から底部にかけて遺存している。口径23.9cm、底径8.0cm、器高33.8cmである。外面口縁部から頸部にかけてはナデ、胴部から底部にかけてはミガキで仕上げられている。内面はナデで仕上げられていると思われるが、使用のため剥落が著しく調整等は不明である。

14は須恵器の甕の口縁部破片である。口径24.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデ仕上げ、胴部にかけてはミガキで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

8、10、11は土師器の甕である。8は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。当該部位の1/4程度遺存している。口径16.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、胴部にかけては縦方向を主体としたヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられていると思われるが使用のためか剥落が著しい。10は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。当該部位の1/2程度遺存している。口径17.0cmで他は不明である。外面口縁部はヨコナデで、一部輪積み痕を残す。頸部から胴部下半部にかけては縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。11は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。当該部位の1/5程度遺存している。口径17.4cmで他は不明である。外面口縁部から頸部にかけてはナデ、胴部以下は縦方向のヘラケズリで仕上げられている。内面は二次焼成のため剥落が著しく調整等は不明である。

18は手捏ね土器である。杯風の仕上がりの土器で口径5.5cm、底径4.0cm、器高3.2cmで完形である。外面は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで粗く仕上げられている。



第137図 SI-034号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3, 14~20) (Scale 1/4, 21~22)

## SI-035号（第138図、第139図1～12）

（遺構）調査区のやや南側の9C-37付近で検出された。平面形状はほぼ正方形に近い形になる。規模は北西壁5.86m、北東壁5.44m、南東壁5.92m、南西壁5.50mである。主軸方位はN-35°-Wである。北西壁側の一部は調査区外にかかるため調査が行われず不明である。覆土はセクション図を取っていないため不明である。

カマドは北西壁中央部分に構築されていたと思われる。カマドの袖等は残っていないため詳細は不明であるが、火床部の掘り込みと思われる落ち込みは検出されている。床面からは主柱穴と思われるP1～P4のピットが検出されている。また、南西壁際中央部分より梯子ピットと思われるピットP5が検出されている。他のピットの存在はこの住居が建て替えを行った結果と思われる。また壁周溝は浅いが南西壁の検出されていないコーナーの一部を除きほぼ住居跡を全周する。

（遺物）遺物については住居跡の中央に近い覆土下層中より数点出土している。図示したものは、土師器鉢1点、土師器甕3点、土師器杯5点、須恵器杯1点、須恵器蓋2点である。

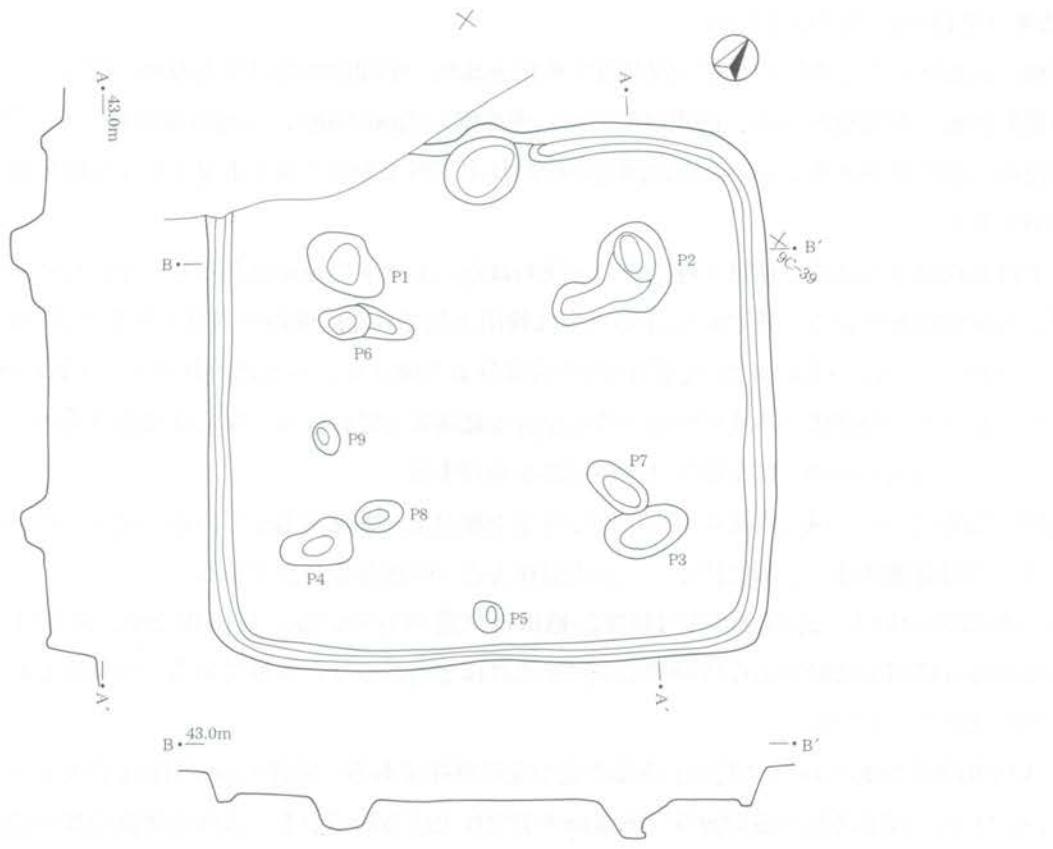
1は土師器鉢である。口縁部が1/2程度、他はほぼ遺存している。口径19.2cm、底径11.4cm、器高15.3cmである。底面が比較的広く口縁部にかけてそれほど広がらない器形である。内外面ともにほぼ全域ミガキで仕上がられている。

2～4は土師器の甕である。2は土師器の甕の底部破片である。底径9.8cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、底面は無調整である。内面はナデで仕上げられている。3は土師器の甕の底部破片である。底径10.0cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、底面はヘラケズリである。内面はミガキで仕上げられている。4は土師器の甕の底部破片である。底径6.4cmで他は不明である。外面底部底面はヘラケズリ、内面はミガキで仕上げられている。

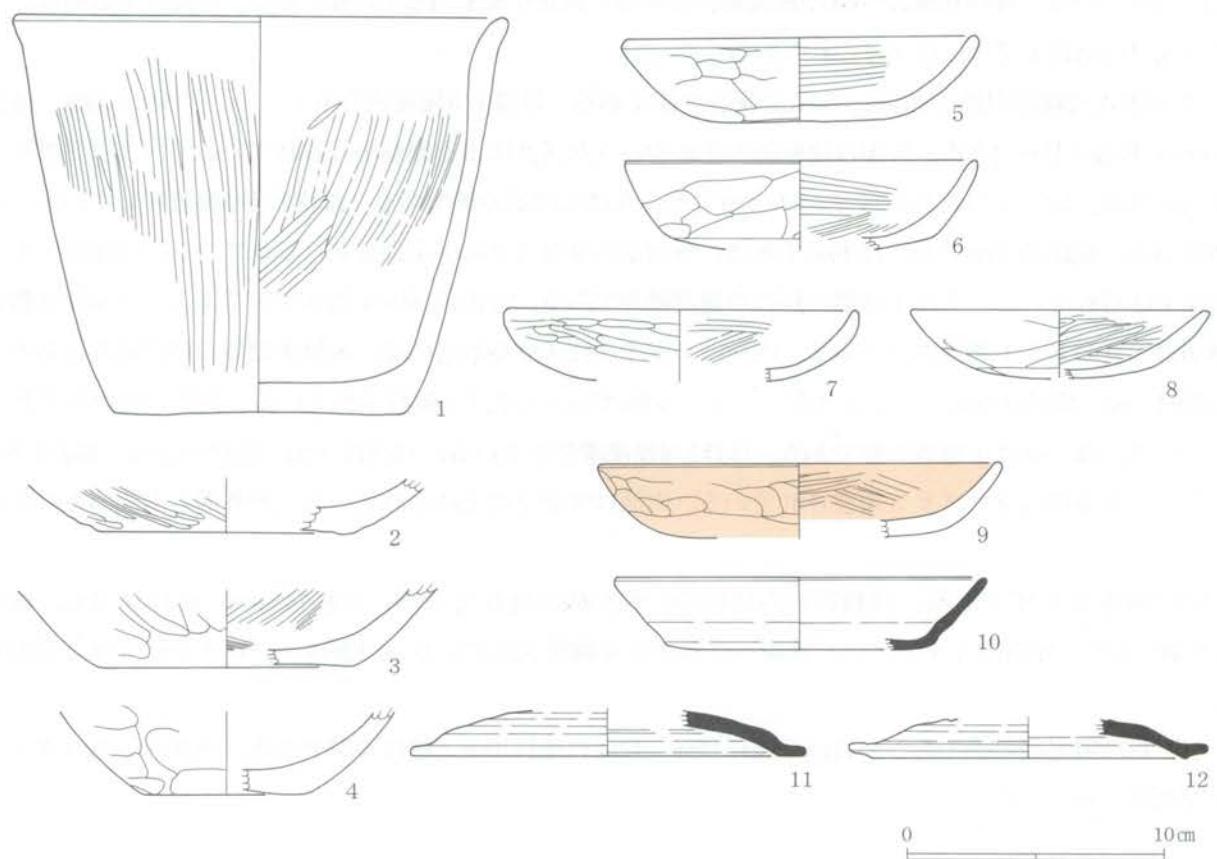
5～9は土師器の杯である。5は土師器の杯である。ほぼ1/3程度遺存している。口径13.6cm、底径6.6cm、器高3.2cmである。外面は比較的大きめのヘラケズリによる調整が行われている。内面はミガキで仕上げられている。口唇部が緩やかに内曲する。6は土師器の杯である。ほぼ1/4程度遺存している。口径13.8cm、底径10.0cmで器高は不明である。外面はヘラケズリによる調整が行われている。内面はミガキで仕上げられている。7は土師器の杯の口縁部破片である。口径13.6cmで他は不明である。外面は比較的細かいヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。8は土師器の杯の破片である。口径11.6cm、器高2.6cm、底径は丸底である。外面はヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。9は土師器の杯である。ほぼ1/4程度遺存している。口径15.6cm、底径10.0cm、器高3.5cmである。外面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。内外面とも赤彩されている。

10は須恵器の杯である。口縁部から底面の一部が残る破片である。口径14.4cm、底径10.4cm、器高3.2cmである。外面はロクロナデ、底面ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ仕上げと思われる。

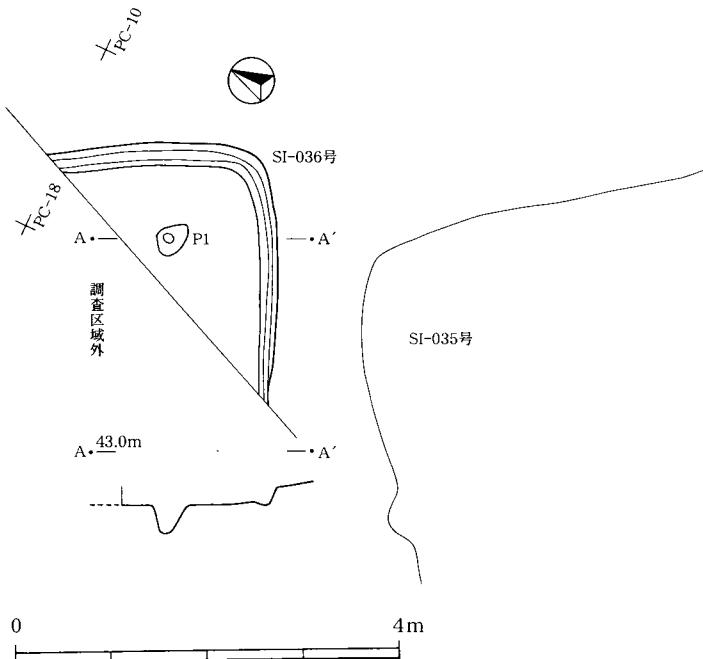
11、12は須恵器の蓋である。11は口径15.4cm、12は口径14.0cmで他は不明である。内外面ともロクロナデで調整されている。



第138図 SI-035号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第139図 SI-035号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)



第140図 SI-036号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

#### SI-036号 (第140図)

(遺構) 調査区のやや南側の9C-18付近で検出された。その大部分が調査区外にかかるため詳細は不明である。また、覆土の状況もトレッチャ等による攪乱が著しいため良好とはいえない。SI-035号と隣合う関係ではあるが、切り合い関係はないので前後関係は解らない。柱穴とおぼしきピットが1個検出されているがどのコーナーのものか不明であるためカマドの位置、住居も規模等も不明である。

(遺物) 遺物は皆無である。

#### SI-038号 (第141図～第142図、第143図1～3)

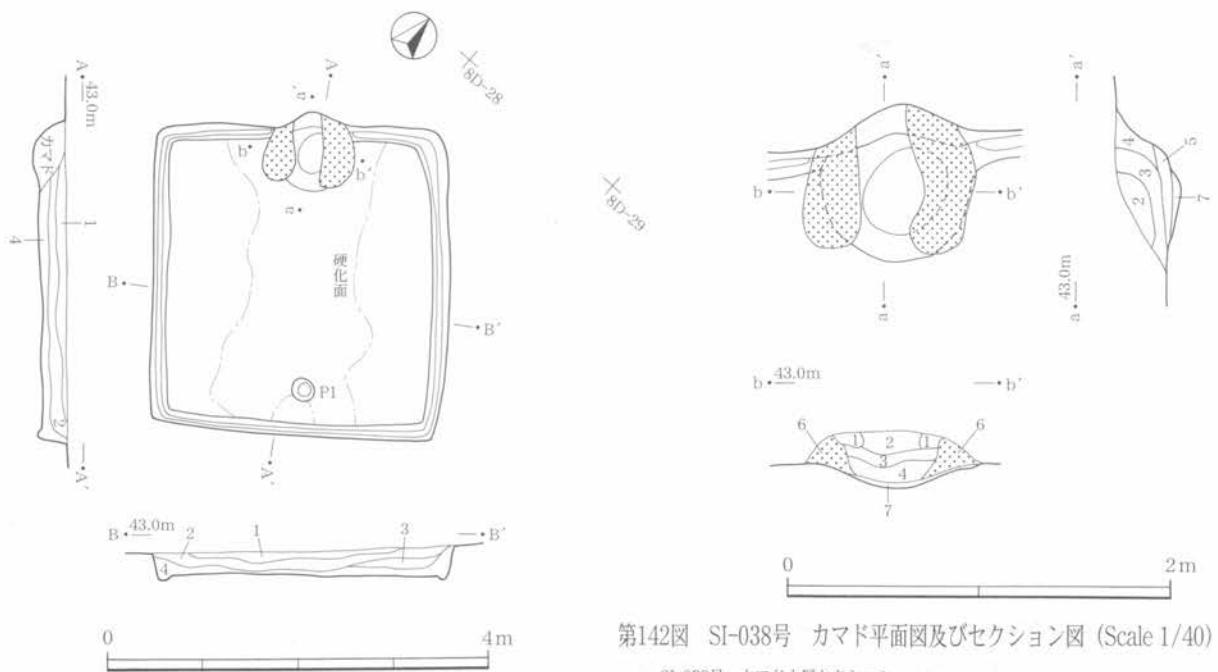
(遺構) 調査区のやや南側の8D-18付近で検出された。平面形状はほぼ正方形に近い形になると思われる。北西壁3.10m、北東壁3.42m、南東壁3.00m、南西壁3.22mである。やや東側にふくらむ形になるかと思われる。主軸方位はN-41°-Wである。覆土は暗褐色土を主体とする。比較的覆土の残りはよい。

カマドは北西壁中央部分に構築されていたと思われる。カマドは袖部分、火床部の残りもよく、掘り方レベルでの検出状況も良好である。床面はカマドから北西壁際にかけての中央部分を中心に硬化面が検出されている。また、梯子穴と思われるP1ピットのみ床面から検出されている。また壁周溝はほぼ全周する。

(遺物) 遺物については住居跡の北東壁際より1の甕1点、北西コーナー付近床面直上より2の甕1点が出土している。図示したものは、土師器甕2点、土師器瓶1点である。

1は土師器の甕である。底部はないものの口縁部～胴部にかけてはほぼ遺存している。外面口縁部直下は輪積み痕を残す。口縁部はナデ後、胴部以下へラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

2は土師器の甕である。口縁部はないものの胴部～底部にかけては1/3程度を残す大形の破片である。底径11.0cmで他は不明である。外面胴部以下は縦方向の比較的細かなラケズリで調整されている。内面



第141図 SI-038号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

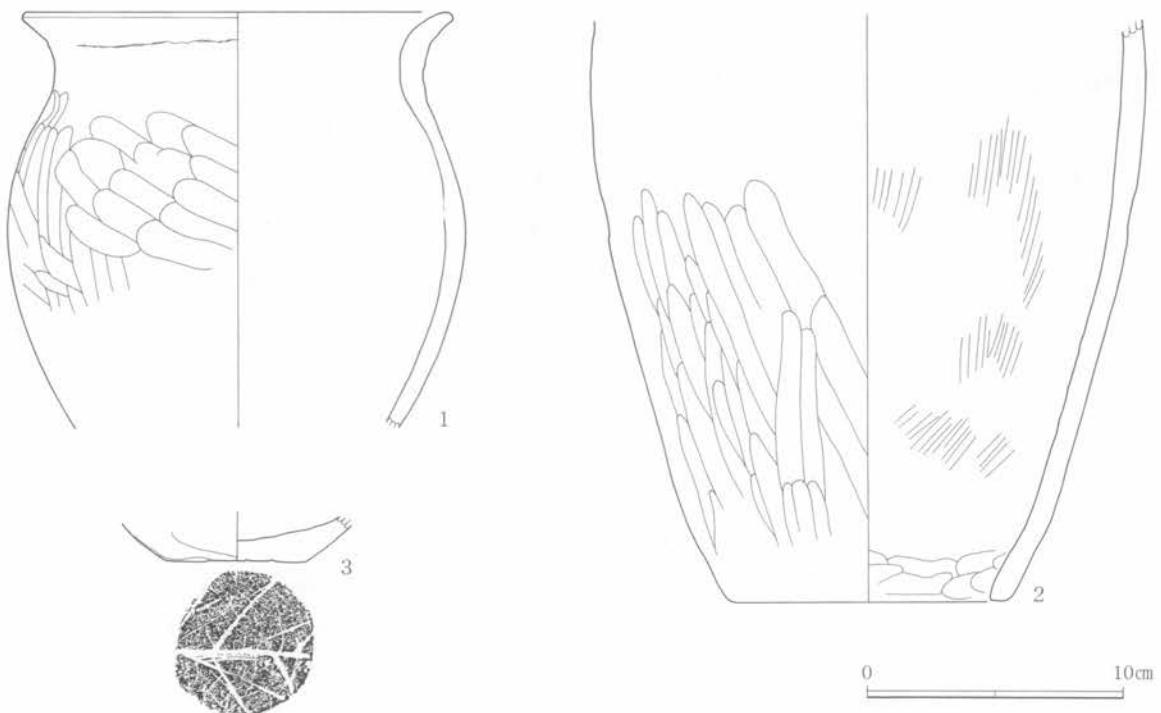
SI-038号 土層セクション

- 1層 (暗褐色土) ローム粒、ロームブロック ( $\varnothing 10\sim20\text{mm}$ ) を含む。  
山砂を僅かに含む (カマド周辺は多く含む)。
- 2層 (暗褐色土) ローム粒、黒褐色土を含む。
- 3層 (暗褐色土) ローム粒、ソフトロームを含む。
- 4層 (暗褐色土) ローム粒、ロームブロック ( $\varnothing 10\sim20\text{mm}$ ) を多く含む。

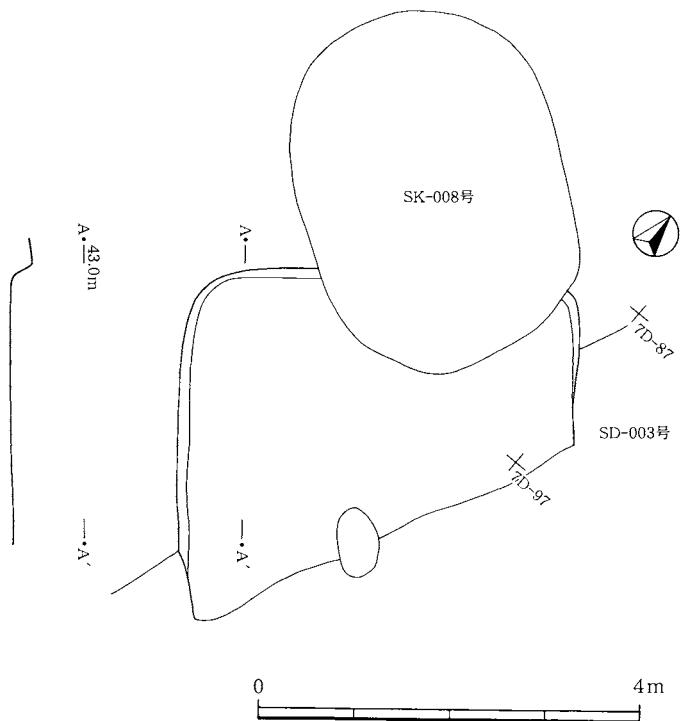
第142図 SI-038号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

SI-038号 カマド土層セクション

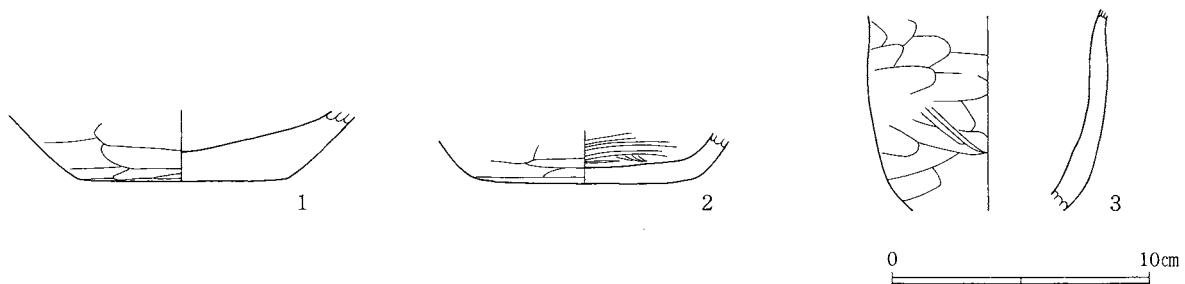
- 1層 (淡黄褐色砂) 山砂主体、焼土を含む。カマド天井崩落部分。
- 2層 (暗褐色土) 山砂、焼土、ローム粒を僅かに含む。
- 3層 (暗褐色土) 第2層と同質、炭化材・粒を含む。
- 4層 (暗褐色土) 山砂、ロームを含む。焼土、焼土粒を多く含む。
- 5層 (暗褐色土) 山砂を多く、ローム粒、焼土粒を含む。
- 6層 (淡黄褐色砂) 山砂主体、粘土、暗褐色土を含む。焼土ブロックを含む。
- 7層 (土) カマド袖部分である。



第143図 SI-038号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)



第144図 SI-039号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第145図 SI-039号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

はナデ後丁寧なミガキで仕上げられている。

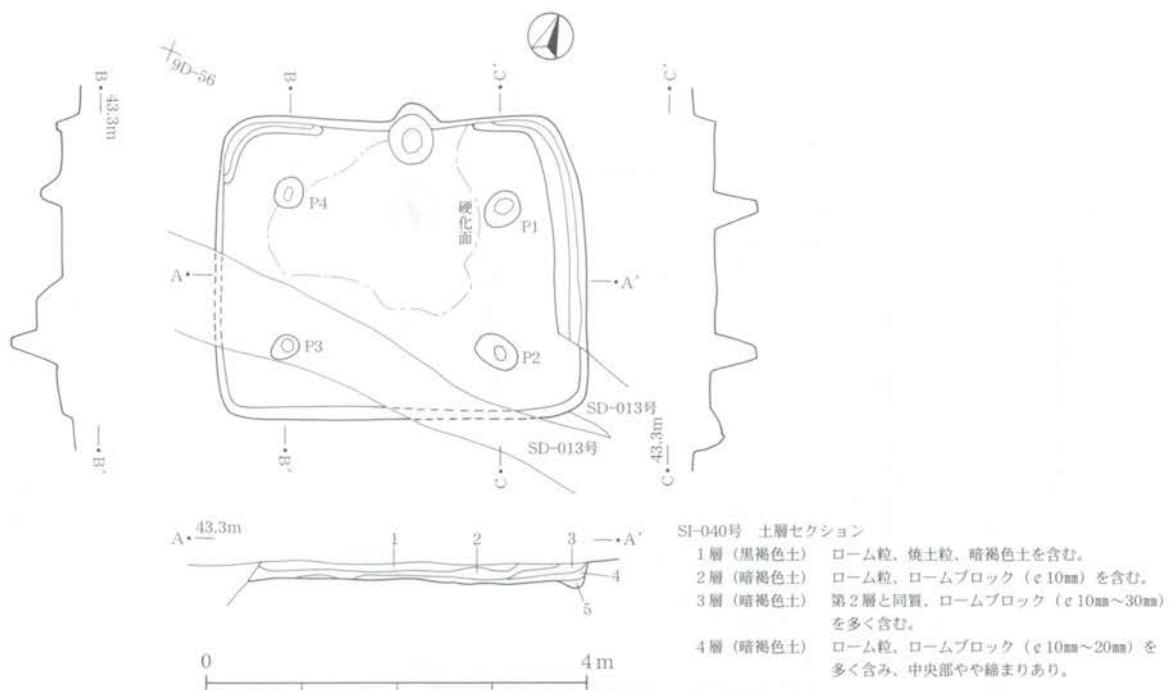
3は土師器の甕の底部破片である。底径5.4cmで他は不明である。外面の底面には木葉痕が残る。底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

#### SI-039号 (第144図、第145図 1～3)

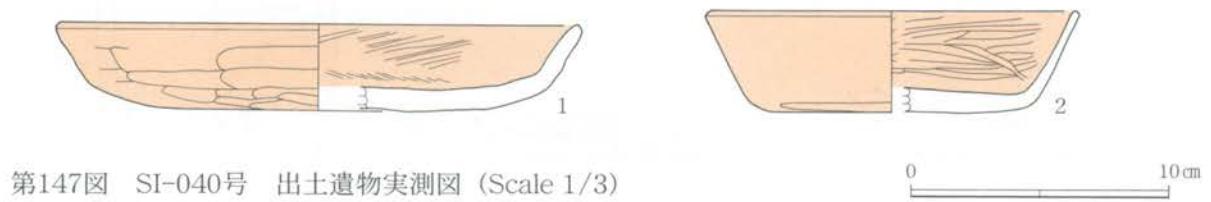
(遺構) 調査区のやや南よりの中央部分の7D-95付近で検出された。平面形状は南東側をSD-003号溝により、北西側をSK-008号土坑により切られているため詳細は不明であるが東西方向から一辺を推測するとほぼ4.2m程の方形になると思われる。主軸方位はN-40°-Wである。覆土はセクション図が残っていないので不明である。

カマドは北西壁中央部分に構築されていたと思われるが、土坑等により破壊されており、全く残存していない。床面はトレンチャー等によりかなり破壊されており、遺存状況はよくない。また、ピット等の施設も検出されていない。

(遺物) 遺物については住居跡の覆土中より数点出土している。図示したものは、土師器甕2点、土師器碗1点である。



第146図 SI-040号 平面図、セレクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第147図 SI-040号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

1は土師器の甕の底部破片である。底径8.1cmで他は不明である。外面底部底面はヘラケズリ、内面はナデで仕上げられている。

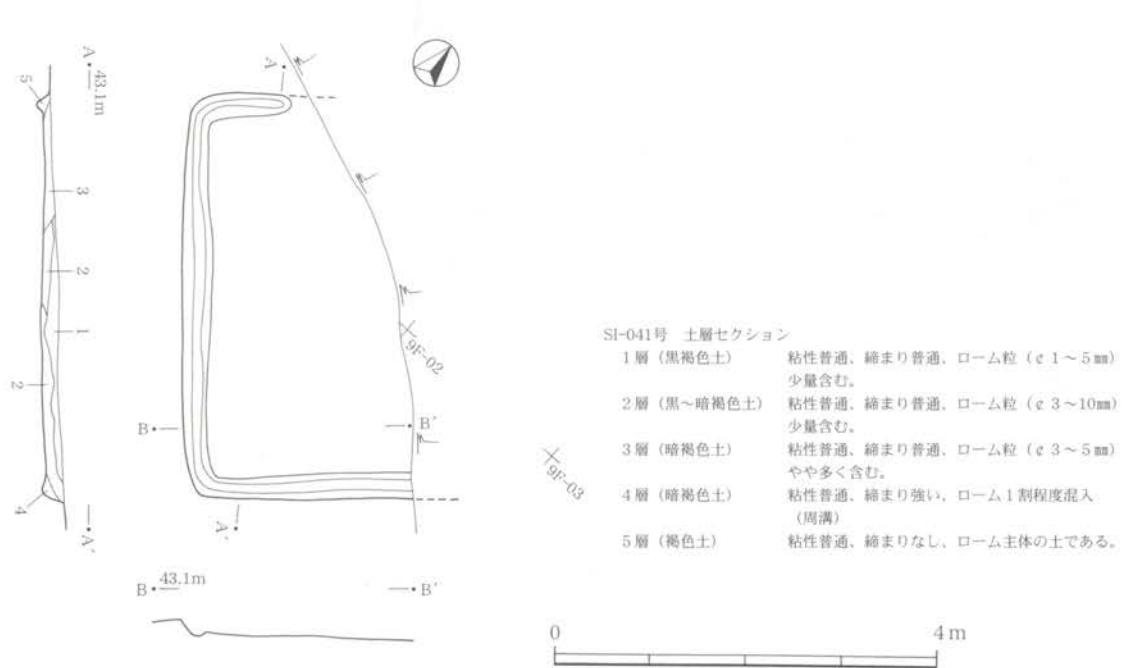
2は土師器の鉢の底部破片である。底部の形状から杯である可能性もある。底径8.8cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、内面はミガキで仕上げられている。

3は土師器の椀と思われる。胴部～底部にかけての破片であるため大きさ等は不明である。外面胴部～底部にかけては横方向の比較的大雜把なヘラケズリで調整されている。内面はナデで軽く仕上げられている。

#### SI-040号 (第146図、第147図 1～2)

(遺構) 調査区のやや南側の9D-56付近で検出された。平面形状はやや横長の長方形に近い形になると思われる。北西壁3.15m、北東壁3.88m、南東壁3.77m、南西壁3.16mである。主軸方位はN-22°-Wである。覆土は黒～暗褐色土を主体とする。比較的覆土の残りはよい。

カマドは北西壁中央部分に構築されていたと思われるが、袖及び火床部の残りは悪い。掘り方のみ検出された。床面はカマド周辺を中心に住居中央部分にかけて硬化面が検出された。住居床面は南側部分がSD-013号溝により壊されているため荒れていたが、P1～P4までの柱穴と思われるピットが検出されている。



第148図 SI-041号 平面図、セレクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



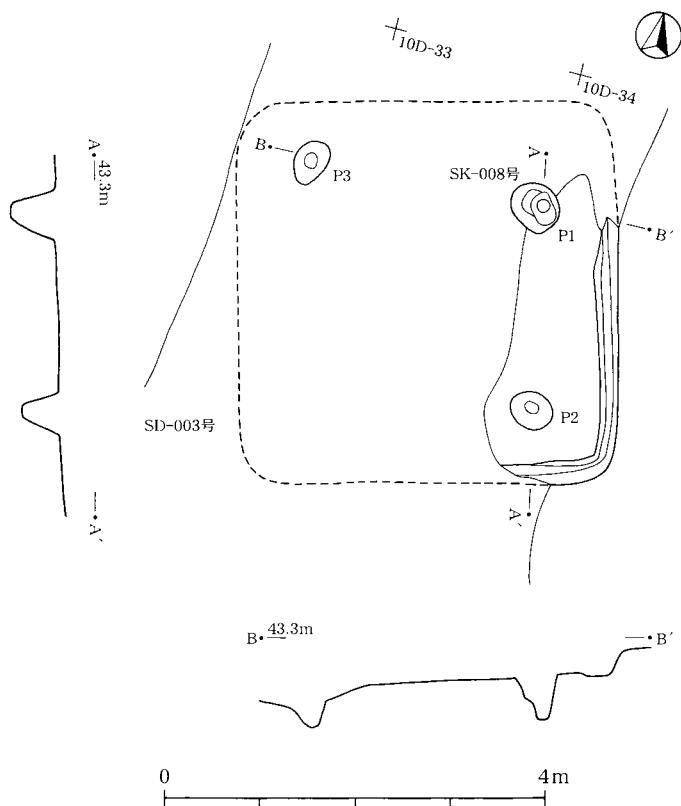
第149図 SI-041号 出土遺物実測図 (Scale 1/40)

(遺物) 遺物については住居跡の覆土中より少量の土器片が出土している。図示したものは、土師器杯2点である。何れも赤彩された土師器杯である。

1は土師器の杯である。ほぼ1/4程度遺存している。口径20.4cm、底径12.0cm、器高3.3cmでやや細長い皿に近い形状である。外面体部より底部にかけて手持ちヘラケズリで調整されている。底面についても同様と思われる。内面は細かなミガキで仕上げられている。内外面とも赤彩が施されている。2は土師器の杯である。ほぼ1/3程度遺存している。口径14.4cm、底径10.2cm、器高3.8cmである。外面口縁部より底部にかけてはロクロナデ仕上げ、内面はミガキで仕上げられている。1と同様内外面とも赤彩が施されている。

#### SI-041号 (第148図、第149図1)

(遺構) 調査区のやや南側の8F-90付近で検出された。平面形状は北東から南東部分が近世以降の台地整形により削平されていたため不明であるが、ほぼ一辺4.2m程度の方形に近い形になると思われる。南北4.2mで他は不明である。主軸方位はおそらくN-42°-Wである。(北西壁にカマドがあったと仮定した場合) 覆土は黒~暗褐色土を主体とする。北西部を除き、比較的覆土の残りはよい。



第150図 SI-042号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

カマドは北西壁中央部分に構築されていたと思われるが、削平されているため残存していない。床面は北西から南西部分のみ検出されているが、硬化面及び柱穴等は硬化面が検出されなかった。壁周溝は残存部分でほぼ検出された。

(遺物) 遺物については住居跡の覆土中より少量の土器片が出土している。図示したものは、土師器高杯脚部破片1点である。外面脚部ヘラケズリ、内面体部ミガキ後黒色処理、脚部ナデ仕上げである。脚部外面は赤彩処理の可能性がある。

#### SI-042号 (第150図)

(遺構) 調査区の南側の10D-33付近で検出された。平面形状はSD-003号溝により床面以下にまでほとんど削られており、南東壁際を2/3程度残すのみである。柱穴が3個確認されているため、規模を推定すると4m程の方形に近い形であろうと思われる。ただしカマド等の位置が特定できないため、主軸等は不明である。壁周溝は南東壁残存部分でほぼ検出された。

(遺物) 遺物等の検出は皆無であった。

## SI-043号（第151図～第152図、第153図1～4）

(遺構) 調査区の中央付近の7E-58付近で検出された。平面形状はカマドが構築された北西壁側約2m程を残し、近世以降の住居の削平を受けたため消失している。北西壁が4.35mあるところから、一辺が同規模の方形の住居跡になるものと思われる。主軸方位はN-17°-Wである。覆土はセクション図が残されていないため不明である。

カマドは北西壁中央部分に構築されている。確認面からの掘り込みが比較的浅いためカマドの袖部分の基底部に近い部分で検出されたと思われるが、その割に火床部分や掘り方もしっかり残されていた。床面は北西から北東部分のみ検出されているが、P1～P3の柱穴及び壁周溝が見つかっている。硬化面については検出されなかった。

(遺物) 遺物については住居跡のカマドの右袖付近より杯1、2などが見つかっている。また、覆土中より少量の土器片が出土している。図示したのは、土師器杯3点、土師器甕1点である。

1～3は土師器の杯である。1は土師器の杯でほぼ完形である。口径14.5cm、底径10.0cm、器高3.9cmである。外面口縁部～底面にかけてヘラケズリで調整されている。内面は比較的丁寧なミガキで仕上げられている。口縁部の一部は吸炭による黒色化が見られる。内外面とも赤彩されていたと思われる。2は1と同様に土師器の杯である。ほぼ1/3程度遺存している。口径14.2cm、底径10.0cm、器高2.9cmで1よりやや深い形状をしている。内外面ともほぼ1と同様な調整が行われている。内外面とも赤彩されていたと思われる。3は土師器の杯である。およそ1/4程度遺存している。口径15.1cm、器高4.0cmである。底径は丸底で不明である。外面は一部ミガキが見られるもののナデで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。

4は土師器の甕の底部破片である。底径9.2cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、内面は剥落のため詳細は不明である。

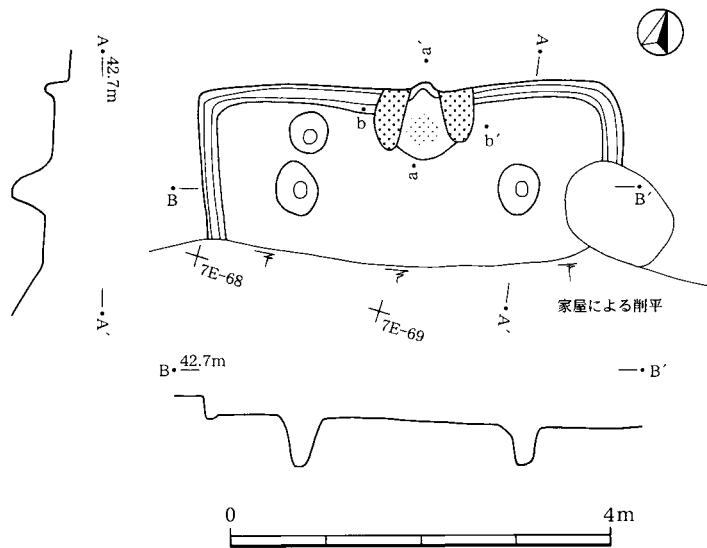
## SI-044号（第154図～第155図、第156図1～9）

(遺構) 調査区の中央付近の6E-26付近で検出された。平面形状はほぼ3.7～4.1m程度の台形に近い方形になる。規模は北西壁3.90m、北東壁3.68m、南東壁4.08m、南西壁3.54mである。主軸方位はN-51°-Wである。覆土は黒褐色土と暗褐色土とで4層に分かれる。確認面から50cm程掘り込まれており、残りはよい。

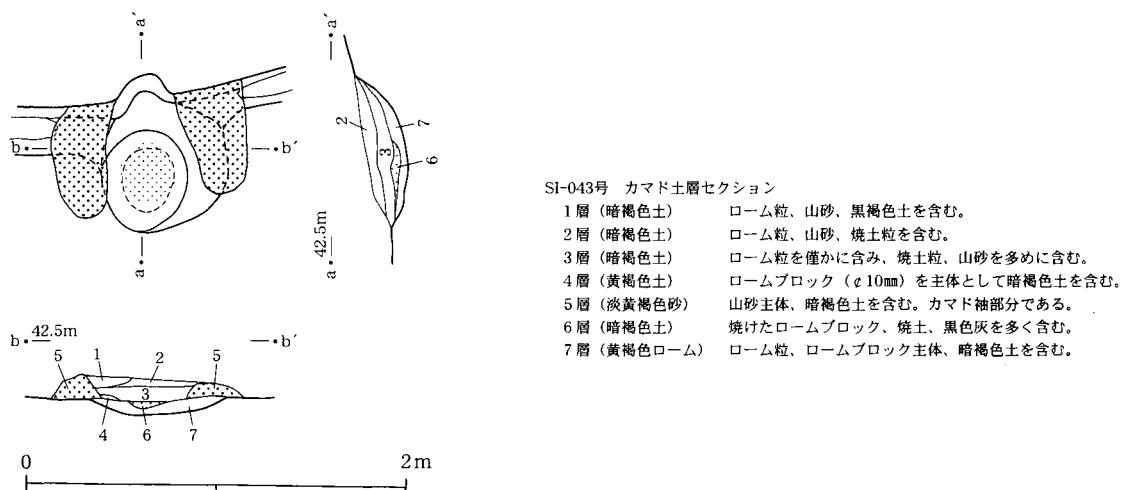
カマドは北西壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分及び火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかり残されていた。カマド覆土中央部分から比較的大きめの須恵器の甕の破片が検出されている。臥せ甕したものかもしれない。床面からはP1～P4の柱穴及び壁周溝が見つかっている。硬化面については中央部分で検出されているが、竹根に攪乱されている部分が見られ、実際にはもう少し広い範囲ではなかつたかと思われる。

(遺物) 遺物については住居跡のカマド内及び覆土中より少量の土器片が出土している。図示したのは、土師器甕4点、土師器杯4点、須恵器甕1点である。

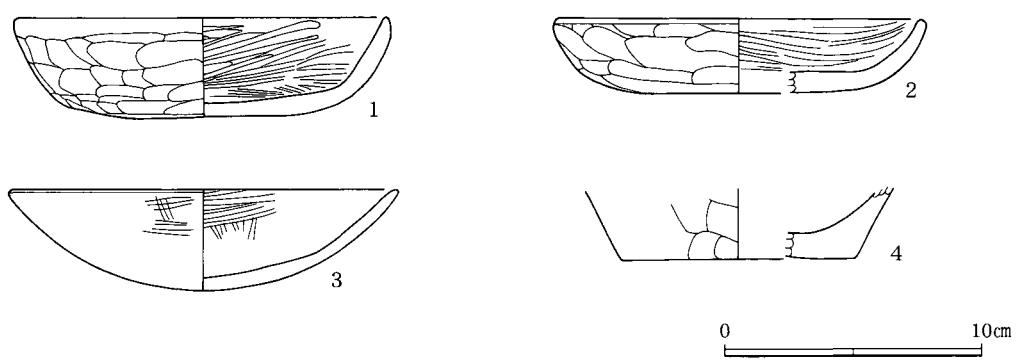
1～4は土師器甕である。1は甕の口縁部の破片である。口径26.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、頸部から胴部上半部にかけては縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。2は甕の口縁部の破片である。口径23.2cmで他は不明である。外面口縁部から頸部にかけてはナ



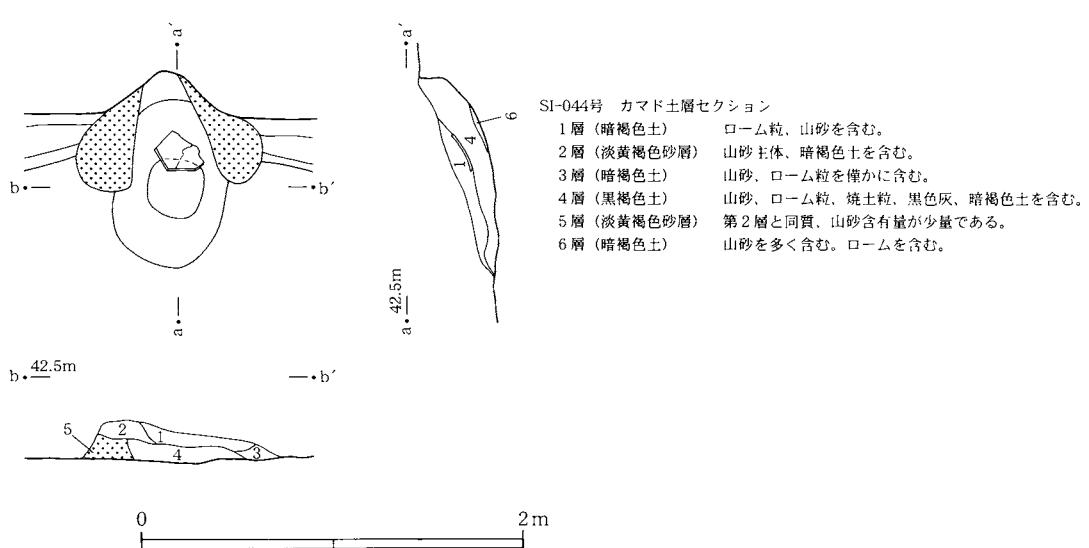
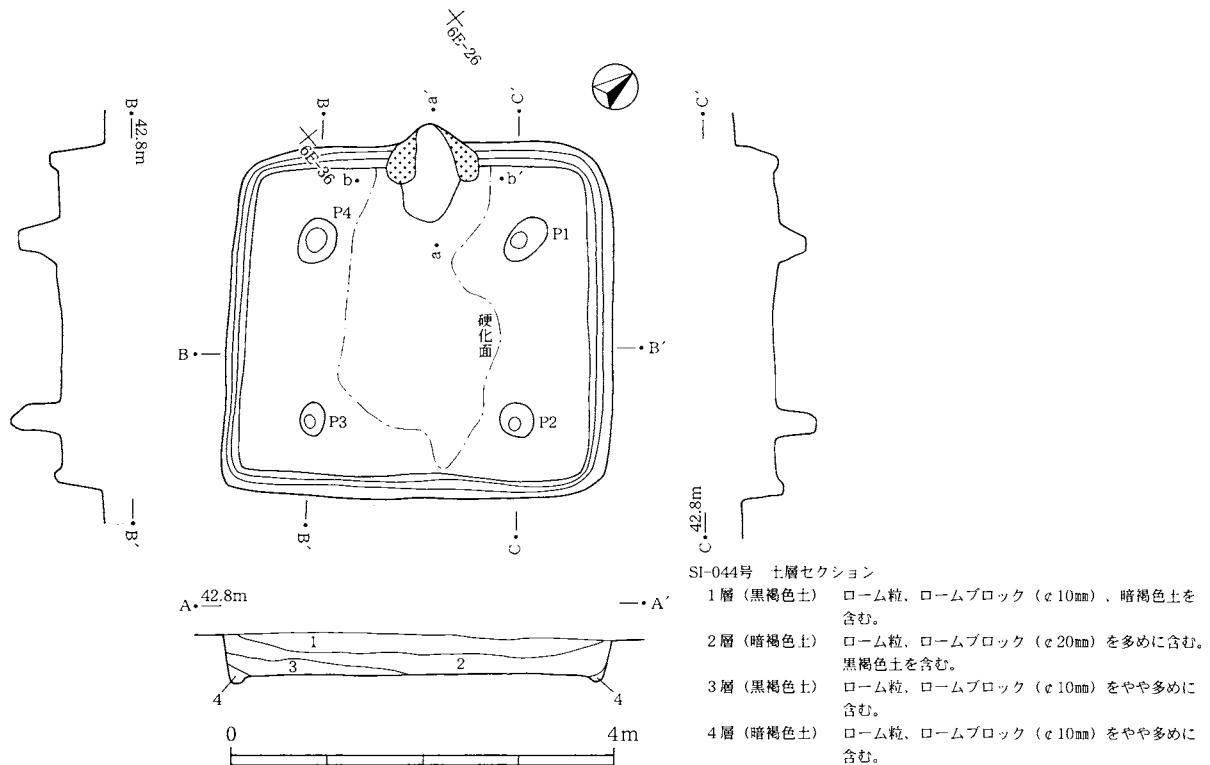
第151図 SI-043号 平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第152図 SI-043号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

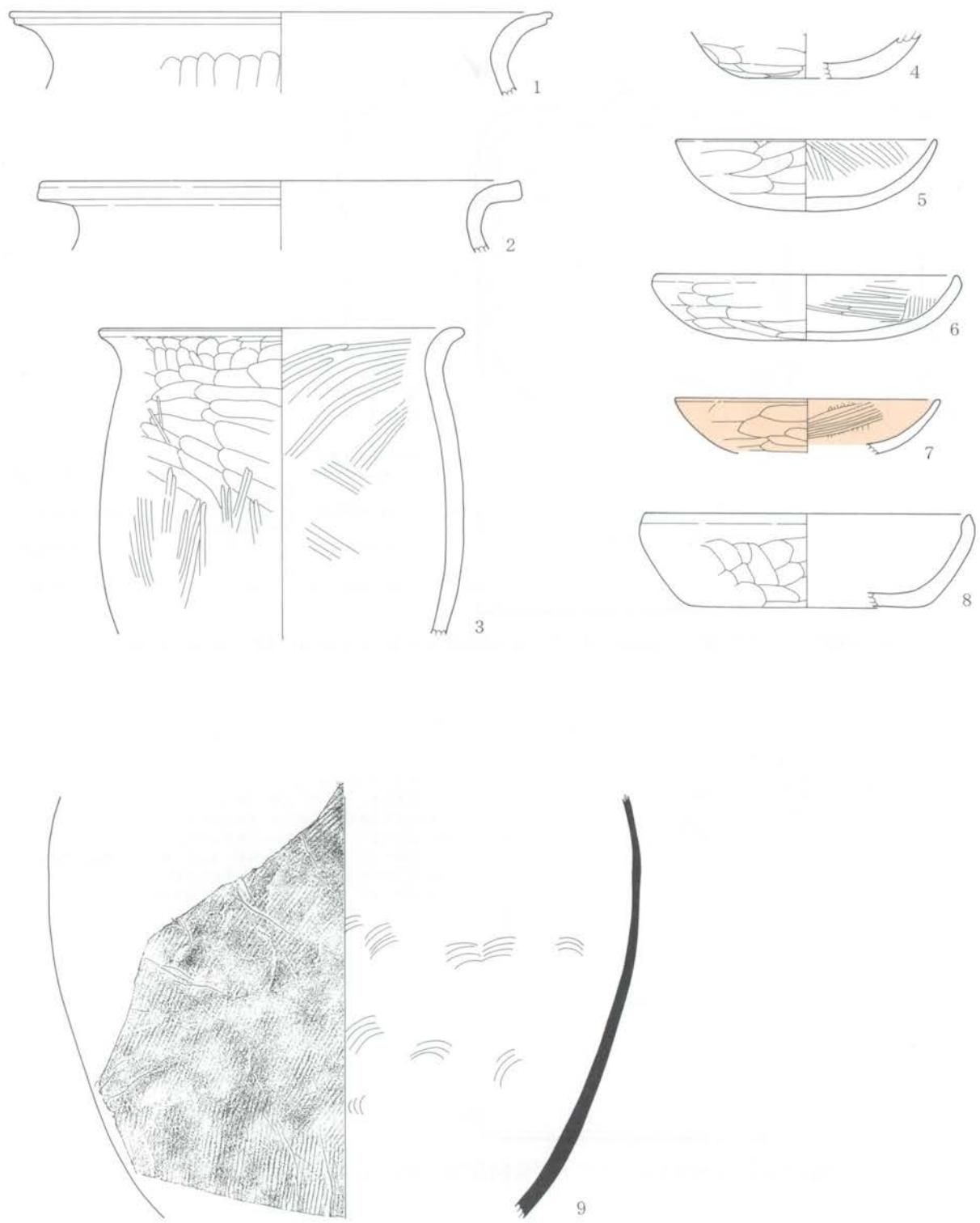


第153図 SI-043号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)



デで調整、内面もナデで仕上げられている。3は甕の口縁部から胴部下半部にかけての大形の破片である。口径17.8cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、頸部から胴部にかけては横方向のヘラケズリで調整、胴部下半部から底部にかけてはミガキで仕上げられている。内面は比較的丁寧なミガキで仕上げられている。4は甕の底部破片である。底径6.2cmで他は不明である。外面底部底面はヘラケズリで調整、内面はナデで仕上げられている。

5～8は土師器の杯である。5は土師器の杯でほぼ1/5程度遺存している。口径12.6cm、底径は丸底で



第156図 SI-044号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

不明、器高3.5cmである。外面は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。6は土師器の杯でほぼ1/4程度遺存している。口径14.6cm、底径は丸底で不明、器高3.2cmである。外面は口縁部ナデ後底部底面横方向のヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。7は土師器の杯でほぼ1/5程度遺存している。口径12.8cmで他は不明である。外面は横方向のヘラケズリで調整されている。内面は縦方向のミガキ後、横方向のミガキで仕上げられている。内外面とも赤彩されている。8は土師器の杯で1/5程度遺存している。口径15.7cm、底径11.6cm、器高4.5cmである。外面口縁部ヨコナデ、体部から底部にかけては横方向のヘラケズリを主体に調整されている。内面はナデで仕上げられている。

9は須恵器の甕の胴部の大形破片である。カマドの中央部の覆土中より出土しており、位置的に臥せ甕されたものかもしれない。外面はタタキ目、内面は当て具痕を残す。

#### SI-045号（第157図～第158図、第159図1～5）

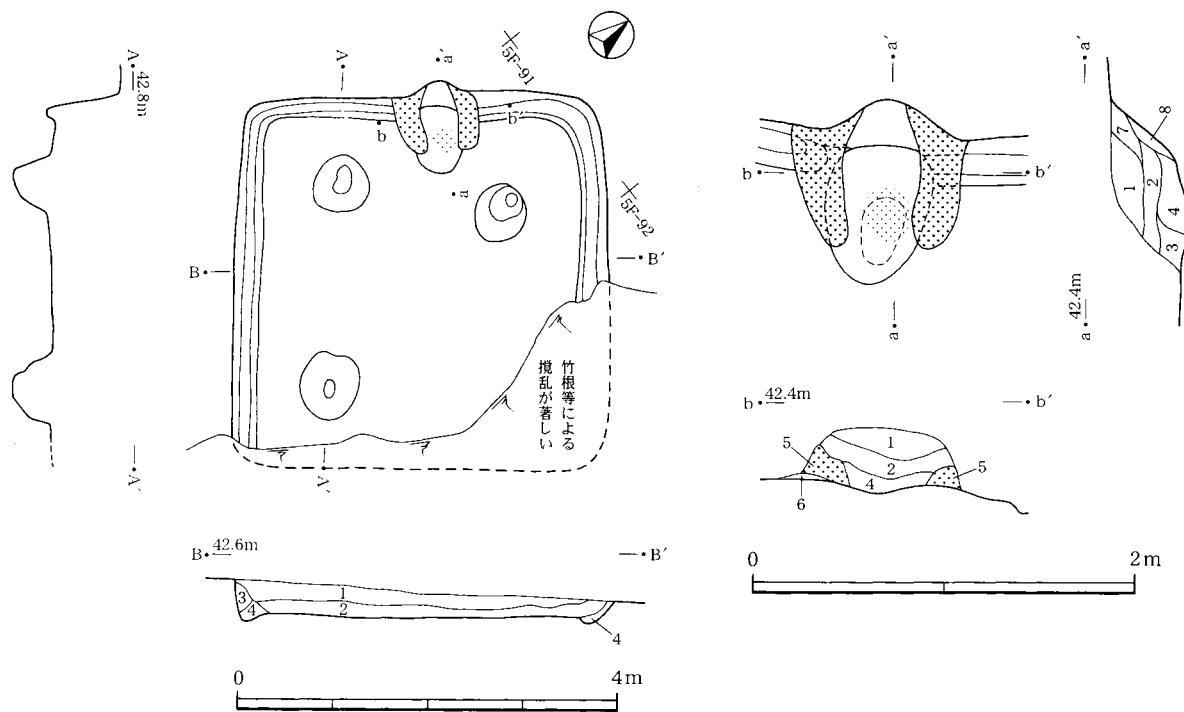
（遺構）調査区の中央やや北側付近の5E-91付近で検出された。平面形状はほぼ4.0m前後の正方形に近い形になると思われるが、南東壁側が竹根等の攪乱により壁、床とも消失している。規模は北西壁3.82m、北東壁3.98m（推定）、南東壁4.02m（推定）、南西壁3.88m（推定）である。主軸方位はN-52°-Wである。覆土は黒褐色土と暗褐色土とで4層に分かれる。確認面から60～80cm程掘り込まれており、南東壁を除き比較的残りはよい。

カマドは北西壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分及び火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかりと残されていた。床面からはPI～P3の柱穴及び壁周溝が見つかっている。硬化面については床面全体が竹根等によりやや攪乱を受けているようだ。

（遺物）遺物については住居跡のカマド付近の覆土中より少量の土器片が出土している。図示したのは、土師器杯2点、土師器甕3点である。

1、2は土師器の杯である。1は土師器の杯でほぼ1/4程度遺存している。口径13.0cm、底径7.0cm、器高3.9cmである。外面は横方向のヘラケズリで調整されている。内面は斜め方向のミガキ後横方向のミガキで仕上げられている。2は土師器の杯で1/5程度遺存している。口径15.8cm、底径9.8cm、器高3.2cmである。外面はナデ後ヘラケズリで調整、一部はミガキで仕上げられている。内面はミガキで仕上げられている。

3～5は土師器の甕である。3は土師器の甕の底部破片である。底径10.7cmで他は不明である。外面底部ヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。4は土師器の甕の口縁部から胴部上半部分のほぼ1/3程度遺存している。口径13.0cmで他は不明である。外面口縁部ナデ後、胴部にかけてヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。5は土師器の甕の底部破片である。底径6.0cmで他は不明である。外面底部、底面はヘラケズリで調整されている。内面は剥落のため不明である。



SI-045号 土層セクション

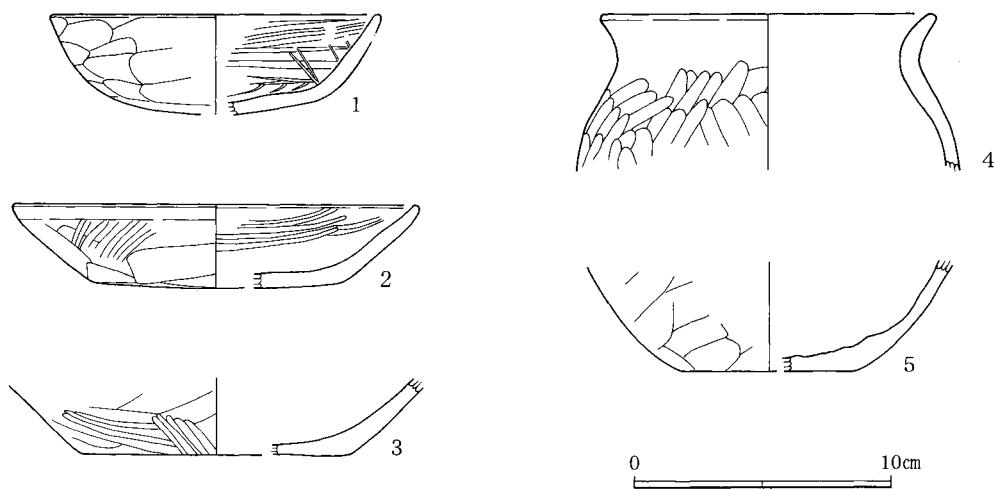
- 1層（黒褐色土） ローム粒、暗褐色土を含む。
- 2層（暗褐色土） ローム粒、黒褐色土を含む。
- 3層（暗褐色土） ロームを大量に含む。
- 4層（暗褐色土） ローム粒、ロームブロック（ $\varnothing 1\text{ mm}$ ）を含む。

SI-045号 カマド土層セクション

- 1層（暗褐色土） 山砂ブロックを多量に含む。焼土少量、天井崩落したもの。
- 2層（黒～暗褐色土） 焼土粒やや多量、山砂少量含む。焼土ブロック少量含む。
- 3層（黒～暗褐色土） 山砂少量、焼土粒少量含む。ローム粒を僅かに含む。
- 4層（黑暗褐色土） 烧土粒やや多量、ローム粒少量含む。締まりありやや固い。
- 5層（暗褐色土） 山砂主体、締まりあり固い。カマド袖部分である。
- 6層（暗黄褐色土） ローム多量に含む。カマド袖部分である。
- 7層（黒褐色土） 烧土粒、炭化物少量含む。山砂少量含む。締まりあり固い。
- 8層（黒褐色土） 山砂少量、ローム少量含む。締まり欠く。

第157図 SI-045号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

第158図 SI-045号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



第159図 SI-045号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

## SI-046号（第160図～第161図、第162図～第163図 1～26）

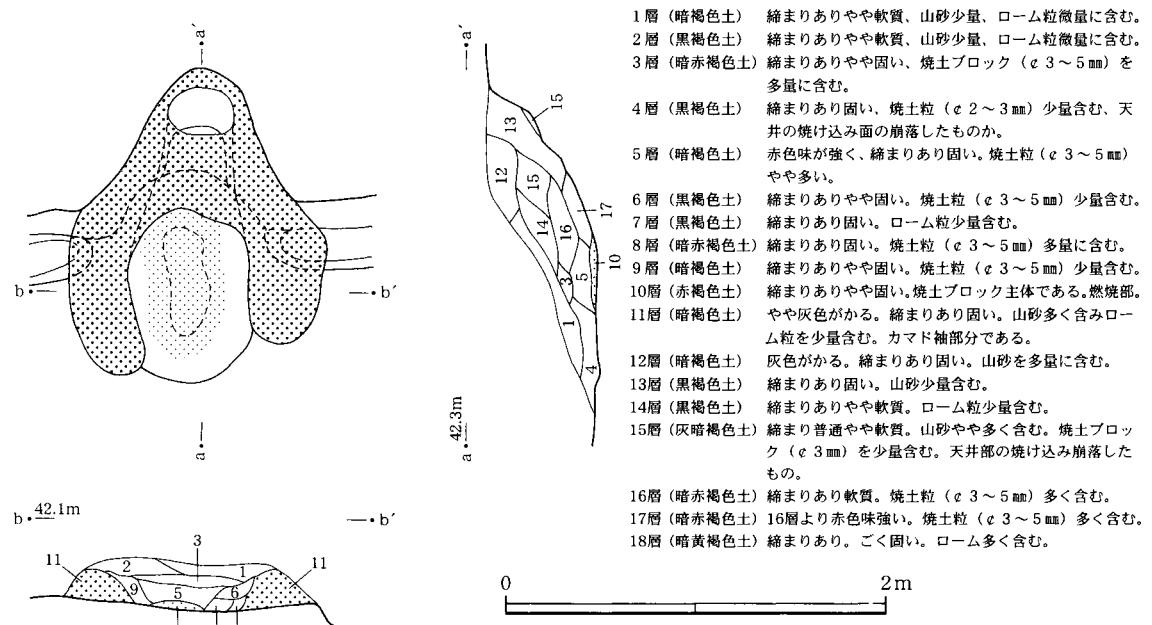
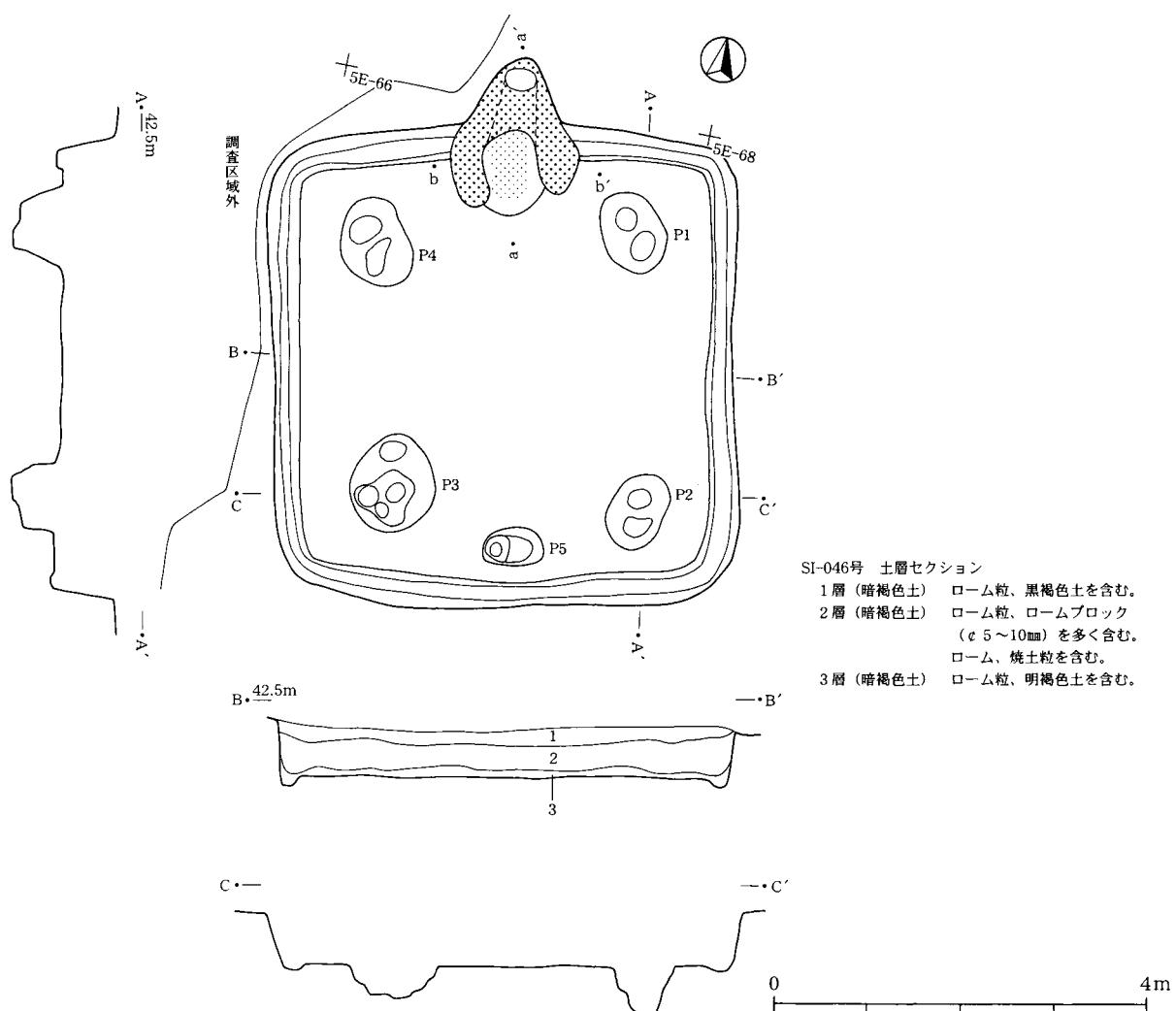
（遺構）調査区の北側よりの5E-66付近で検出された。平面形状はほぼ5.0m前後の正方形に近い形になる。規模は北西壁5.06m、北東壁4.96m、南東壁5.04m、南西壁5.02mである。主軸方位はN-11°-Wである。覆土は暗褐色土で3層に分かれる。確認面から50cm程掘り込まれており比較的残りはよい。

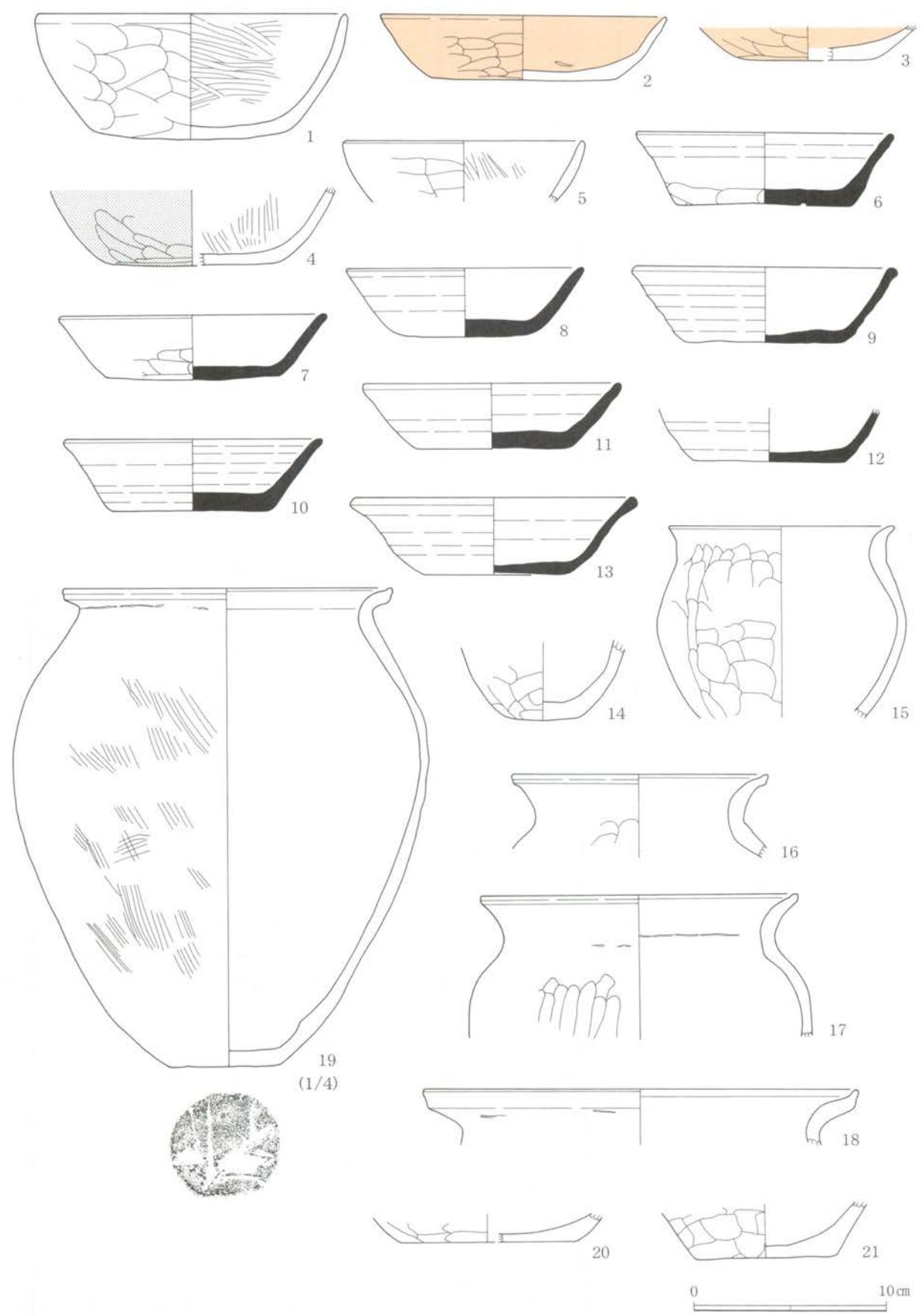
カマドは北西壁中央部分に構築されている。カマドの煙道部側の天井部分及び袖部分、火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかり残されていた。床面からはP1～P4の柱穴及び梯子ピットと思われるP5、壁周溝が見つかっている。柱穴等の形態から住居の建て替えが行われたものと思われる。特に硬化面については検出されなかった。

（遺物）遺物については住居跡のカマド右側やや南付近と南東壁際付近の覆土下層より多数土器片が出土している。図示したのは、土師器杯5点、須恵器杯8点、土師器甕11点、土師器瓶1点、支脚1点である。

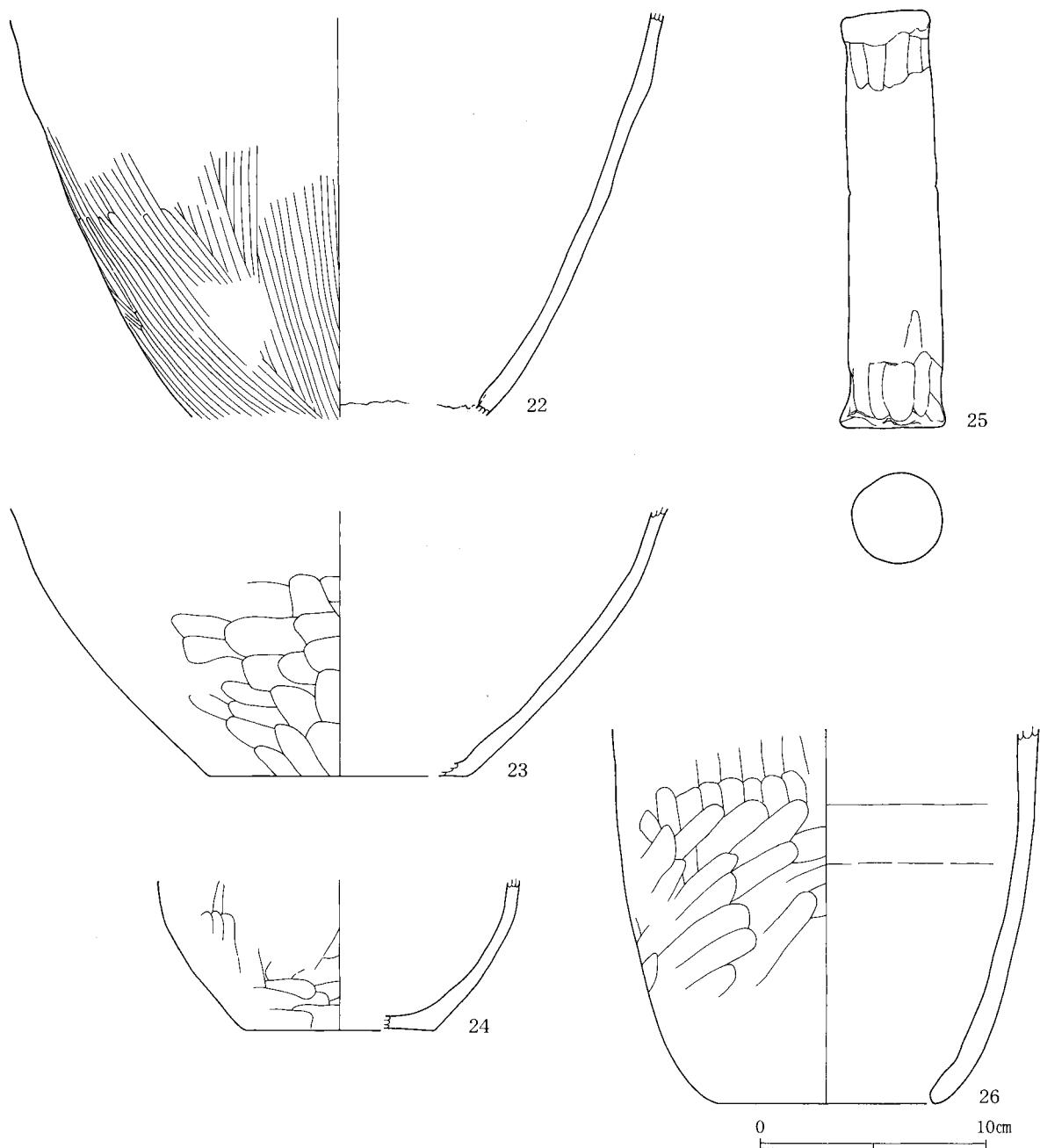
1～5は土師器の杯である。1は土師器の杯でほぼ1/4程度遺存している。全体に器高が高く丸みの強い形態である。口径16.0cm、底径10.1cm、器高6.6cmである。外面口縁部から底部にかけては横方向のヘラケズリで調整、底面は周辺より中心に向かってのヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。2は土師器の杯で1/3程度遺存している。口径15.0cm、底径9.7cm、器高3.4cmである。外面口縁部ナデ後、底部にかけて横方向のヘラケズリ、底面については手持ちヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。また内外面とも赤彩されている。3は土師器の底部破片である。底径7.4cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ後、赤彩、内面はナデ後、赤彩されている。4は土師器の杯の底部底面破片である。底径9.2cmで他は不明である。外面底部から底面にかけてヘラケズリで調整、内面はミガキで仕上げられている。外面は吸炭による黒色処理が行われていると思われる。5は土師器の杯の口縁部の破片である。口径12.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。

6～13は須恵器の杯である。6は須恵器の杯でほぼ1/2程度遺存している。口径13.2cm、底径9.0cm、器高3.9cmである。外面口縁部から底部にかけてはロクロナデ後、ナデ仕上げ、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後、ナデ仕上げされている。全体に赤焼けした須恵器である。7は須恵器の杯でほぼ1/4程度遺存している。口径13.8cm、底径9.0cm、器高3.4cmである。外面口縁部はロクロナデ、底部はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ仕上げと思われる。8は須恵器の杯でほぼ1/3程度遺存している。口径12.4cm、底径6.8cm、器高3.6cmである。全体にやや摩滅化の進んだ土器である。内外面ともにロクロナデで調整されていると思われる。9は須恵器の杯でほぼ1/3程度遺存している。口径13.5cm、底径8.0cm、器高4.0cmである。外面はロクロナデ、底面は糸切り後、回転ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後、縦方向のナデで仕上げられている。10は須恵器の杯でほぼ2/3程度遺存している。口径13.3cm、底径7.8cm、器高3.7cmである。外面ロクロナデ後ナデ、底面は糸切り後ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ仕上げである。11は須恵器の杯でほぼ1/3程度遺存している。口径13.4cm、底径7.8cm、器高3.4cmである。外面ロクロナデ、底面ヘラケズリで調整、内面はロクロナデ仕上げと思われる。内外面とも摩滅化が著しい。12は須恵器の杯で底部の一部と底面を残す破片である。底径7.8cmで他は不明である。外面底部はロクロナデ、底面ヘラケズリで仕上げられている。内面はロクロ





第162図 SI-046号 出土遺物実測図1 (Scale 1/3)



第163図 SI-046号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

ナデ仕上げである。13は須恵器の杯でほぼ1/5程度遺存している。口径14.6cm、底径7.4cm、器高4.1cmである。外面はロクロナデ、底面はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ仕上げである。

14~24は土師器の甕である。14は土師器の甕の底部破片である。底径4.0cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、内面はナデで仕上げられている。15は土師器の甕で口縁部から底部にかけて1/2程度遺存している。口径11.8cmで他は不明である。外面口縁部ナデ、頸部から底部下半部分までは横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。胴部の中程が張り出す器形と思われる。16は土師器の甕の口縁部の破片である。口径11.2cmで他は不明である。外面口縁部ナデ、頸部以下は縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。17は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径16.6cmで他は不明である。外面口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ後ナデ、胴部以下縦方

向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。頸部内外面に輪積み痕を残している。18は土師器の甕の口縁部破片である。口径22.8cmで他は不明である。外面口縁部ナデで調整されている。輪積み痕を残している。内面も一部ヘラケズリが見られるもののナデで仕上げている。19は土師器の甕である。口径23.0cm、底径7.7cm、器高33.6cmである。胴部の最大径が中心よりやや口縁部よりにくる器形である。外面頸部に一部輪積み痕を残す。全体にナデで仕上げられているものの胴部から底部にかけて所々ミガキで仕上げられている。底面は木葉痕を残している。内面は全体にナデ仕上げである。20は土師器の甕の底部破片である。底径9.4cmで他は不明である。外面底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで、一部ミガキで仕上げられている。21は土師器の甕の底部の破片である。底面から3cmくらいまで遺存している。底径7.4cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、底面についてもヘラケズリで調整されている。内面はナデと思われるが剥落が著しく詳細は不明である。23は土師器の甕の底部である。おおよそ当該部位の1/2程度遺存している。底径11.8cmで他は不明である。外面底部はナデ後横方向のヘラケズリを主体に仕上げられている。内面は剥落が著しいため詳細は不明である。24は土師器の甕の底部破片である。底径8.6cmで他は不明である。外面底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

25は支脚である。直径4.0cm、高さ18.5cmの円柱形である。上下両端側をヘラケズリで仕上げている。全体はナデで調整してある。

26は土師器の甕である。胴部から底部にかけて1/3程度遺存している。底径9.6cmで他は不明である。外面斜め横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで粗く仕上げられている。

#### SI-047号（第164図、第166図、第165図1～4）

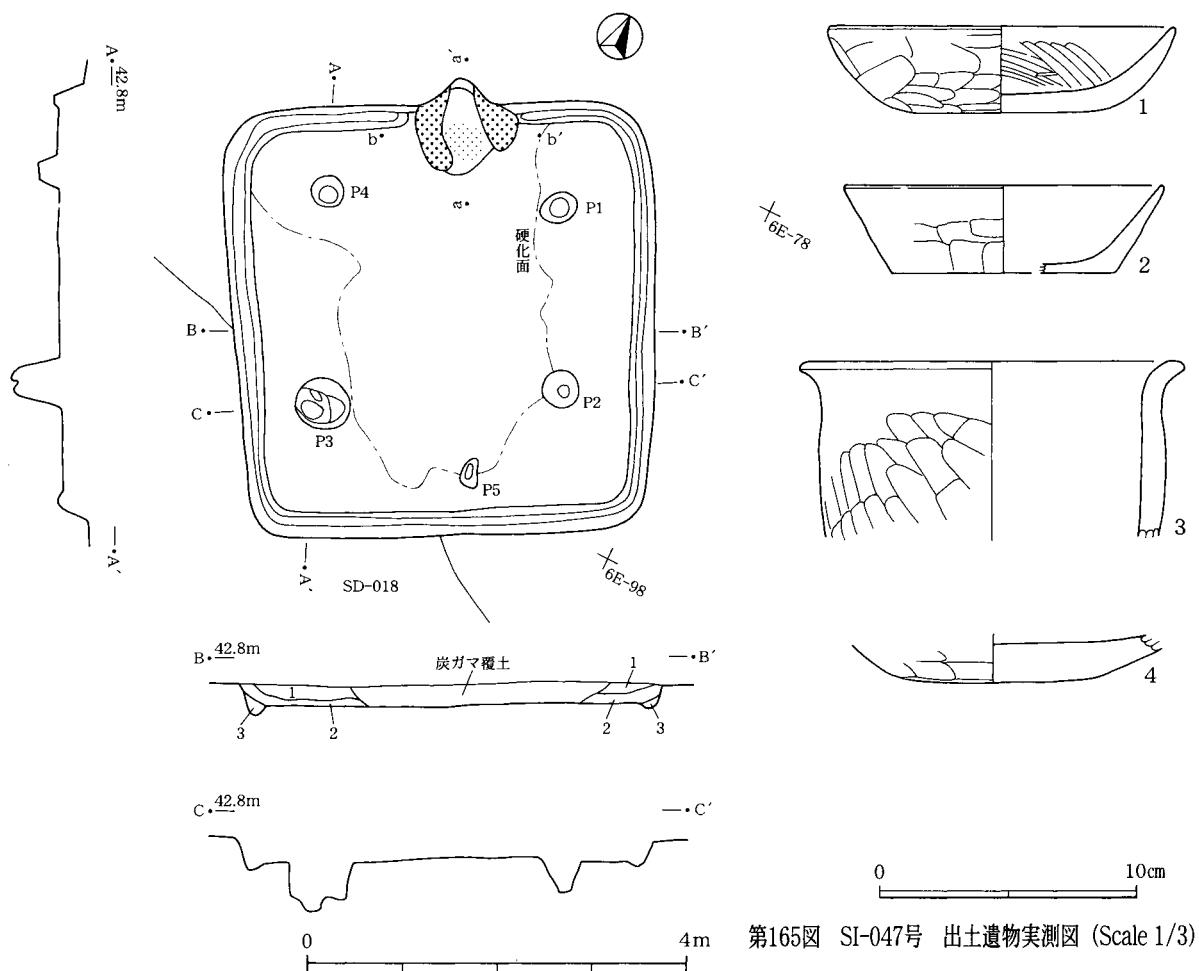
（遺構）調査区の北側よりの6E-75付近で検出された。平面形状はやや北西壁側の広がる逆台形気味ではあるが、ほぼ4.5m前後の正方形に近い形になる。規模は北西壁4.52m、北東壁4.46m、南東壁4.25m、南西壁4.48mである。主軸方位はN-25°-Wである。覆土は基本的に暗褐色土で3層に分かれる。ただ住居の中央部分には炭窯がありほぼ床面近くまで削平されている。

カマドは北西壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分、火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかりと残されていた。床面からはPI～P4の柱穴及び梯子ピットと思われるP5、壁周溝が見つかっている。床面の硬化面についてはカマド側から南方向の住居の中央部分を中心に検出された。

（遺物）遺物については住居跡のカマド右側の柱穴付近からやや多く土器片が出土している。またSD-018号と接しているため中近世の陶器が若干混入している。図示したのは、土師器杯2点、土師器甕2点である。

1、2は土師器の杯である。1は土師器の杯でほぼ4/5程度遺存している。比較的底部から口縁部にかけて丸みを持ち内曲していく器形である。口径13.4cm、底径8.0cm、器高3.4cmである。外面はヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。2は土師器の杯の破片である。口径12.4cm、底径8.8cm、器高3.4cmである。外面は口縁部ナデ、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

3、4は土師器の甕である。3は土師器の甕で口縁部から胴部にかけての破片である。口径15.0cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、頸部から胴部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで



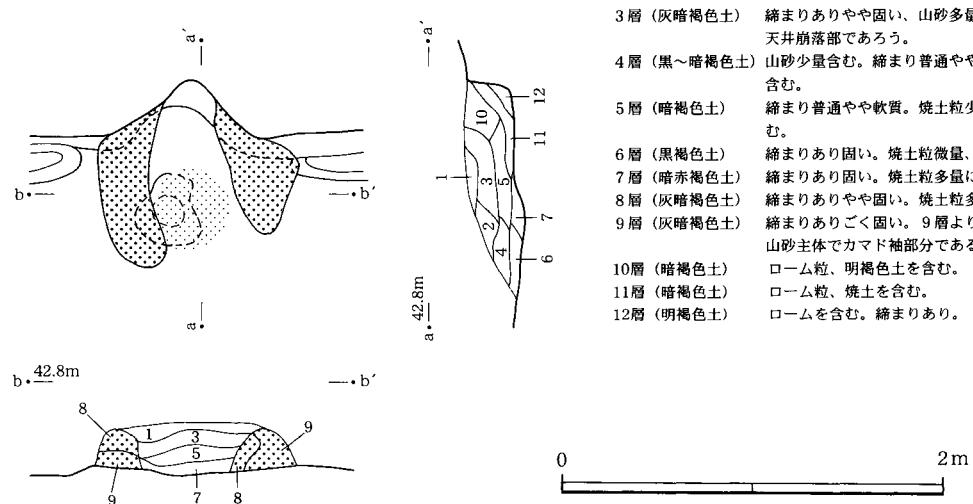
第164図 SI-047号 平面図、セクション図、エレベーション図 (Scale 1/80)

SI-047号 土層セクション

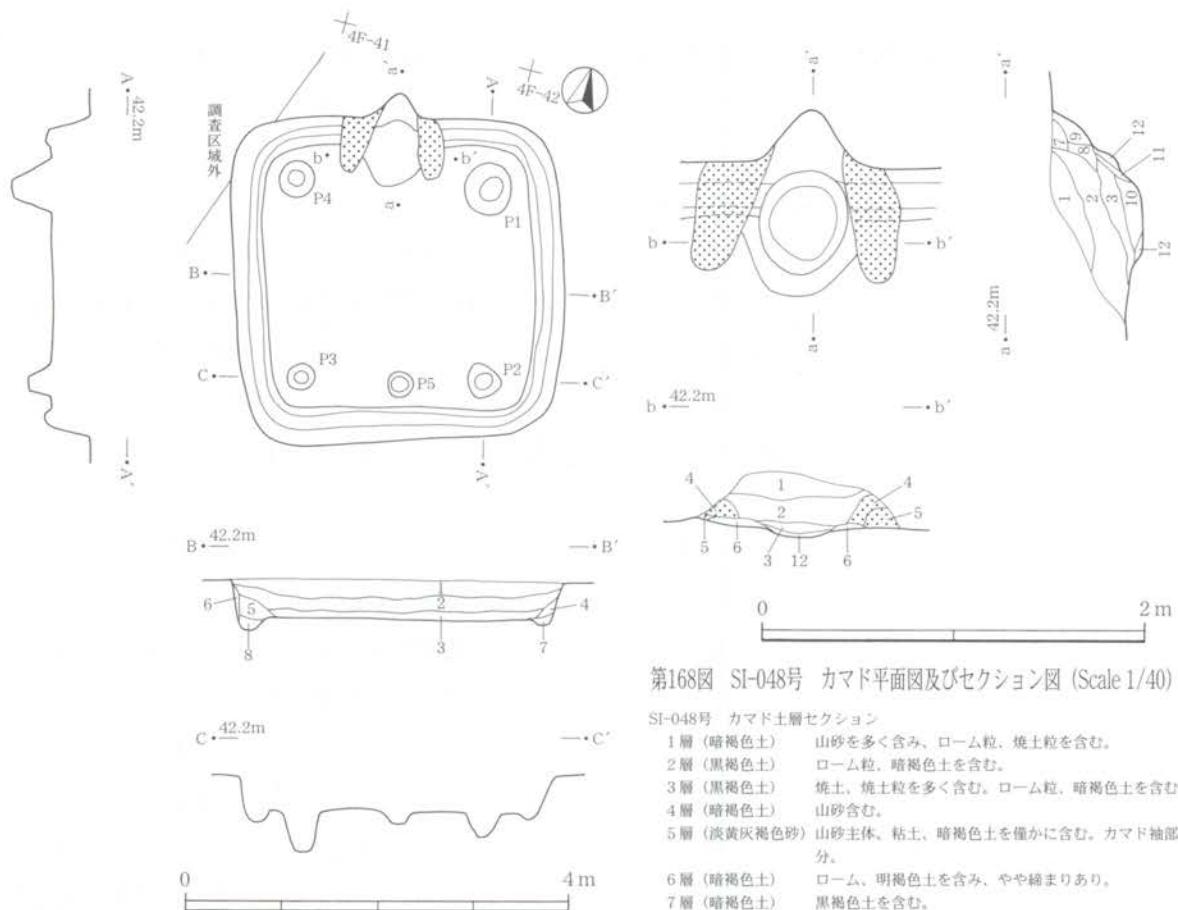
- 1層（暗褐色土）  $\varnothing$  5mmのローム粒少量含む。
- 2層（暗褐色土） 1層よりやや暗色化、山砂少量含む。 $\varnothing$  5~10mmのローム粒をやや多く含む。
- 3層（暗褐色土） 3層より暗色化、 $\varnothing$  5~10mmのローム粒少量含む。周溝部分である。

SI-047号 カマド土層セクション

- 1層（黒~暗褐色土） 緒まりありやや軟質、山砂少量含む。
- 2層（黒~暗褐色土） 緒まり普通やや軟質、山砂少量、焼土少量含む。
- 3層（灰暗褐色土） 緒まりありやや固い、山砂多量、焼土粒微量に含む。天井崩落部であろう。
- 4層（黒~暗褐色土） 山砂少量含む。緒まり普通やや軟質、焼土粒微量に含む。
- 5層（暗褐色土） 緒まり普通やや軟質。焼土粒少量含む。山砂少量含む。
- 6層（黒褐色土） 緒まりあり固い。焼土粒微量、ローム粒少量含む。
- 7層（暗赤褐色土） 緒まりあり固い。焼土粒多量に含む。
- 8層（灰暗褐色土） 緒まりありやや固い。焼土粒多量に含む。
- 9層（灰暗褐色土） 緒まりありごく固い。9層よりやや暗色である。山砂主体でカマド袖部分である。
- 10層（暗褐色土） ローム粒、明褐色土を含む。
- 11層（暗褐色土） ローム粒、焼土を含む。
- 12層（明褐色土） ロームを含む。緒まりあり。



第166図 SI-047号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



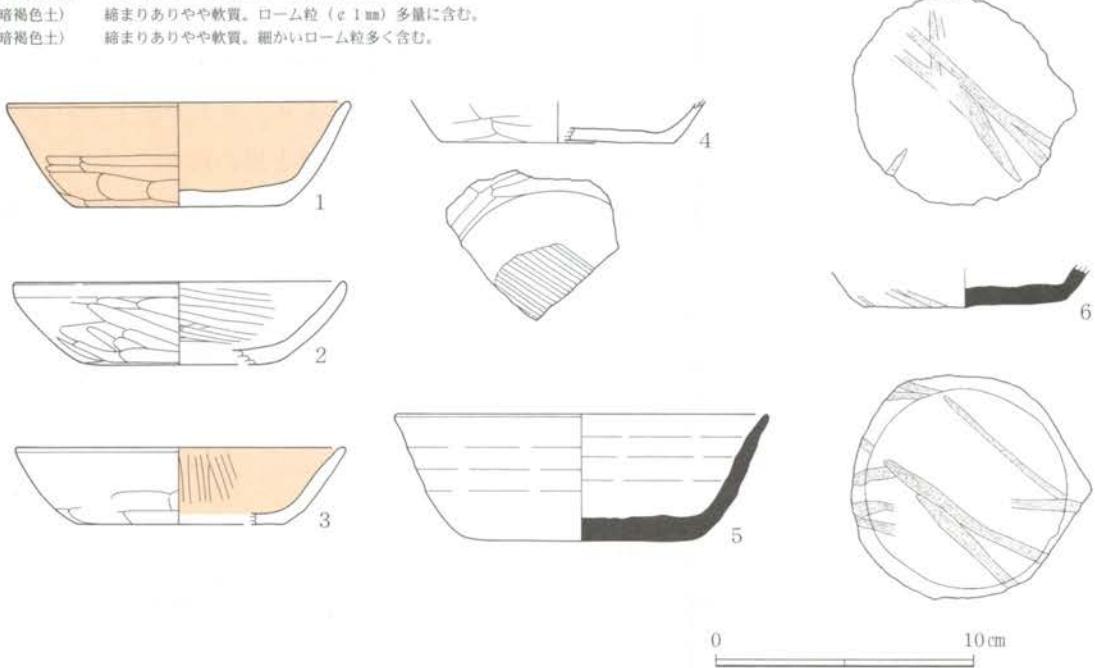
第167図 SI-048号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

SI-048号 土層セクション

- 1層(黒褐色土) 繊まりありやや固い。ローム粒( $\varnothing 1 \sim 5$  mm) 少量含む。
- 2層(黒～暗褐色土) 繊まりありやや軟質。ローム粒( $\varnothing 1 \sim 3$  mm) やや多量に含む。
- 3層(暗褐色土) 繊まりありやや軟質。ローム粒( $\varnothing 1$  mm) 少量。山砂をやや多く含む。
- 4層(暗褐色土) 繊まりありやや固い。ロームを多少混入。壁際に堆積。
- 5層(黒褐色土) 繊まりありやや軟質。ローム粒( $\varnothing 2 \sim 3$  mm) 少量含む。
- 6層(暗黄褐色砂) 繊まりありやや軟質。ロームを15%以上含む。
- 7層(暗褐色土) 繊まりありやや軟質。ローム粒( $\varnothing 1$  mm) 多量に含む。
- 8層(暗褐色土) 繊まりありやや軟質。細かいローム粒多く含む。

第168図 SI-048号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

- SI-048号 カマド土層セクション
- 1層(暗褐色土) 山砂を多く含み、ローム粒、焼土粒を含む。
  - 2層(黒褐色土) ローム粒、暗褐色土を含む。
  - 3層(黒褐色土) 烧土、焼土粒を多く含む。ローム粒、暗褐色土を含む。
  - 4層(暗褐色土) 山砂含む。
  - 5層(淡黄灰褐色砂) 山砂主体。粘土、暗褐色土を僅かに含む。カマド袖部分。
  - 6層(暗褐色土) ローム、明褐色土を含み、やや締まりあり。
  - 7層(暗褐色土) 黒褐色土を含む。
  - 8層(暗褐色土) 烧土、焼土粒を多く含む。
  - 9層(暗褐色土) 黒褐色土を含む。
  - 10層(明褐色土) ローム粒、焼土、焼土粒、暗褐色土を含む。
  - 11層(明褐色土) ローム粒、焼土粒、暗褐色土を含む。
  - 12層(明褐色土) 烧土粒を僅かに含む。ローム粒を含みやしまりあり。



第169図 SI-048号 出土遺物実測図 1 (Scale 1/3)

仕上げられている。4は土師器の甕の底面の破片である。底径8.0cmで他は不明である。外面底部から底面にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

#### SI-048号（第167図～第168図、第169図～第170図1～9）

（遺構）調査区の北側よりの4F-41付近で検出された。平面形状はほぼ3.4m前後の正方形に近い形になる。規模は北西壁3.42m、北東壁3.34m、南東壁3.32m、南西壁3.45mである。主軸方位はN-17°-Wである。覆土は基本的に暗褐色土で3層に分かれる。他に壁際の崩落土層が数枚見られる。

カマドは北西壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分、火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかり残されていた。床面からはP1～P4の柱穴及び梯子ピットと思われるP5、壁周溝が見つかっている。床面は特に硬化している部分は認められなかった。

（遺物）遺物については住居跡のカマド右袖付近を中心に比較的多くの土器片が出土している。図示したのは、土師器杯4点、須恵器杯2点、土師器甕1点、土師器瓶2点である。

1～4は土師器の杯である。1は土師器の杯でほぼ1/3程度遺存している。口径13.4cm、底径8.1cm、器高4.1cmである。外面口縁部ロクロナデ、底部横方向のヘラケズリ、底面直行する二方向のヘラケズリが見られる。内面はロクロナデ後縦方向の軽いナデが見られる。内外面とも赤彩が施されている。2は土師器の杯でほぼ1/5程度遺存している。口径13.0cm、底径7.8cm、器高3.2cmである。外面口唇部ナデ、口縁部から底部にかけてヘラケズリ、底面ヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。3は土師器の杯で1/10程度遺存している。口径12.8cm、底径8.1cm、器高3.0cmである。外面口縁部ロクロナデ、底部、底面ヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。内面は赤彩されていると思われる。4は土師器の杯で底部の一部と底面の1/4程度遺存している破片である。底径9.2cmで他は不明である。外面底部ヘラケズリ、底面は周辺をヘラケズリ、中央部分をミガキで仕上げている。高さの調整を行うために行われた可能性がある。内面はナデで仕上げられている。

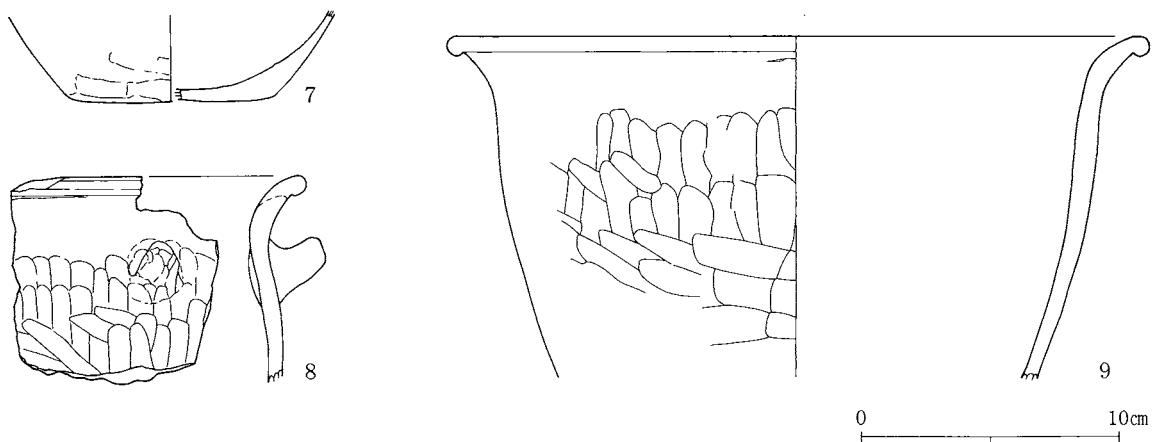
5～6は須恵器の杯である。5は須恵器の杯でほぼ1/3程度遺存している。口径14.5cm、底径5.0cm、器高9.3cmである。内外面ともにロクロナデ仕上げである。外面の底部は回転ヘラケズリと思われる。6は須恵器の杯の底面破片である。底径7.8cmで他は不明である。内外面ともロクロナデ仕上げであるが、内外面ともに一部黒変した帯状の部分が認められた。おそらく火ダスキーの跡と思われる。

7土師器の甕の底部破片である。底径8.1cmで他は不明である。外面底部、底面ヘラケズリで調整されているが、使用のためか剥落が著しい。内面はほぼ剥落して調整等は不明である。

8～9は土師器の瓶である。8は土師器の瓶の口縁部から胴部にかけての破片である。胴部にかけては縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。9は口縁部から胴部下半部にかけて遺存している土師器の瓶である。口径26.8cmで他は不明である。外面口縁部ナデ、胴部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

#### SI-049号（第171図～第172図、第173図1～10）

（遺構）調査区の最も南側の13A-99付近で検出された。平面形状は住居南側をSD-001号で切られ、床面、壁とも残存しないため正確なことはいえないが、北壁側から推測するとほぼ3m前後の正方形に近い形になると思われる。規模は北壁3.20mで東壁1.86m及び西壁2.50mまで確認された。主軸方位はN-



第170図 SI-048号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

0°—Wである。覆土は基本的に暗褐色土で4層に分かれる。

カマドは北壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分、火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかり残されていた。床面からは柱穴及び梯子ピットと思われるピットは検出されなかった。壁周溝はカマド袖部分に近い場所以外は見つかっており、おそらく南壁際にも巡っていたものと思われる。床面は特に硬化している部分は認められなかった。

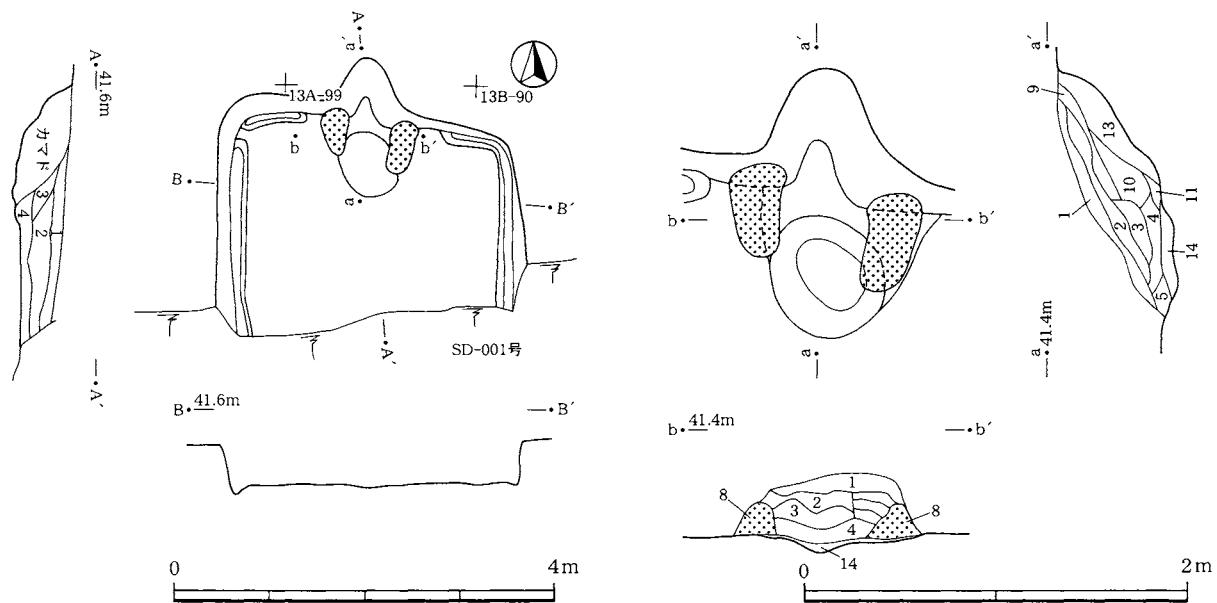
(遺物) 遺物については住居跡のカマド左袖及び南側付近を中心に比較的多くの土器片が出土している。図示したのは、土師器皿1点、須恵器杯1点、土師器甕4点、須恵器甕2点、須恵器瓶2点である。

1は土師器の皿でほぼ1/5程度遺存している。口径13.2cm、底径5.4cm、器高1.5cmである。外面ロクロナデ、底面は回転ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。

2は須恵器の杯でほぼ1/4程度遺存している。口径12.8cm、底径6.6cm、器高3.8cmである。外面はロクロナデ後、ナデ仕上げ、底面は回転ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後、ナデで仕上げられている。

3～6は土師器の甕である。3は土師器の甕の口縁部から胴部上半部にかけての破片である。当該部位の1/4程度遺存している。口径14.2cmで他は不明である。外面口縁部から頸部にかけてはナデ、胴部以下は縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。4は土師器の甕の口縁部から胴部上半部にかけての破片である。当該部位の1/4程度遺存している。口径13.0cmで他は不明である。外面口縁部から頸部にかけてはナデ、胴部以下は縦方向が主体のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。5は土師器の甕の口縁部から胴部上半部にかけての破片である。当該部位の1/3程度遺存している。口径11.3cmで他は不明である。外面口縁部から頸部にかけてはナデ、胴部以下は縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。全体に2次焼成を受けていたため非常に残りが悪い。6は土師器の甕の底部破片である。底径6.2cmで他は不明である。外面底部、底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

7、10は須恵器の甕である。7は須恵器の甕の底部破片で当該部位の1/4程度遺存している。2次焼成が著しく特に内面は剥落している。外面底部、底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデと思われ



第171図 SI-049号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

第172図 SI-049号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

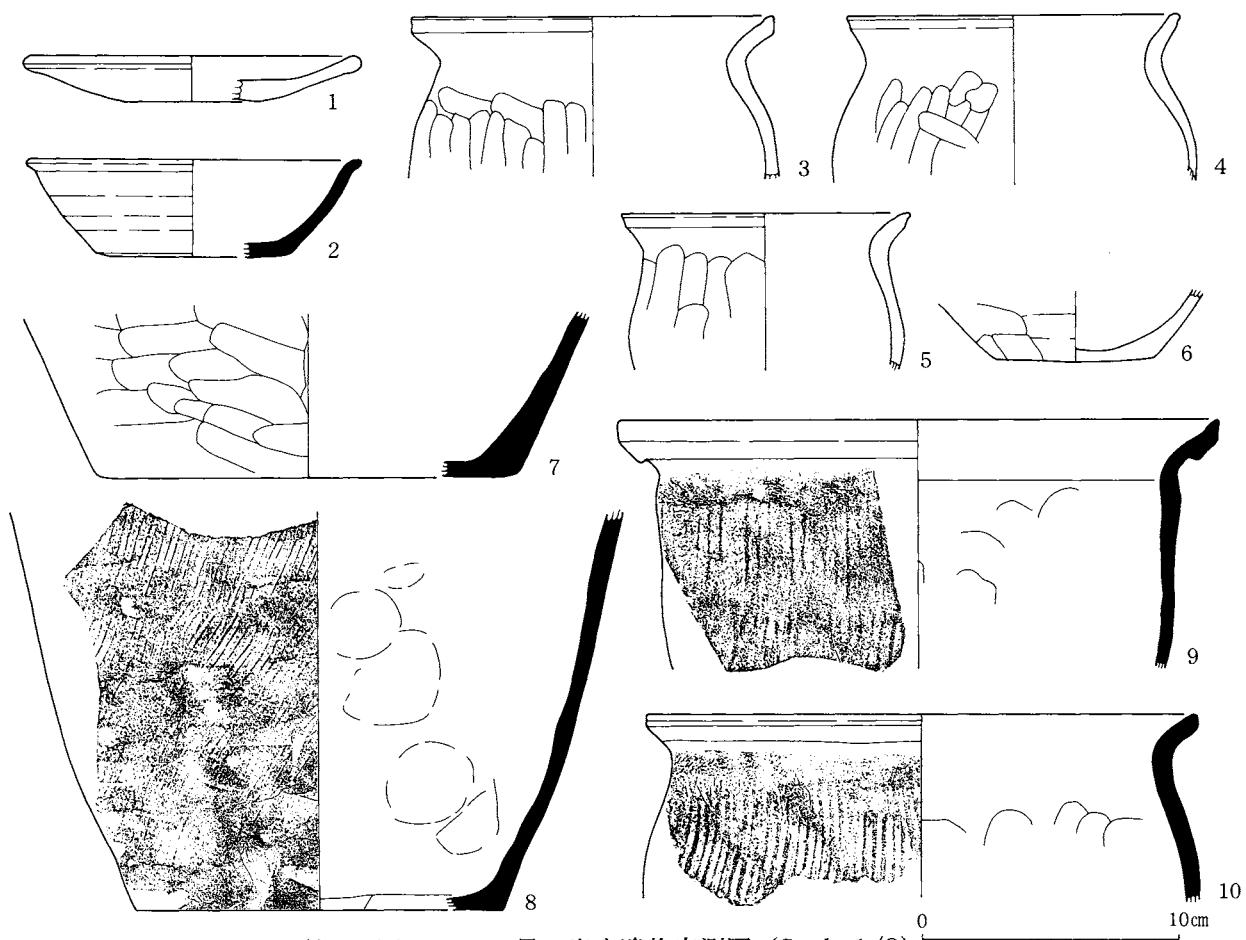
SI-049号 土層セクション

1層 (黒褐色土) ローム粒 ( $\varnothing 1 \sim 2$  mm) 燃土粒微量含む。  
暗褐色の球状の土を多く混入する。  
2層 (暗褐色土) 1層よりやや暗色化。ローム粒・ブロック  
( $\varnothing 5 \sim 15$  mm) やや多量に含む。  
3層 (暗褐色土) 2層よりやや明るい。ローム粒 ( $\varnothing 5$  mm)  
やや多く含む。  
4層 (暗褐色土) 2層よりやや明るい。ローム粒  
( $\varnothing 5 \sim 10$  mm) 少量含む。

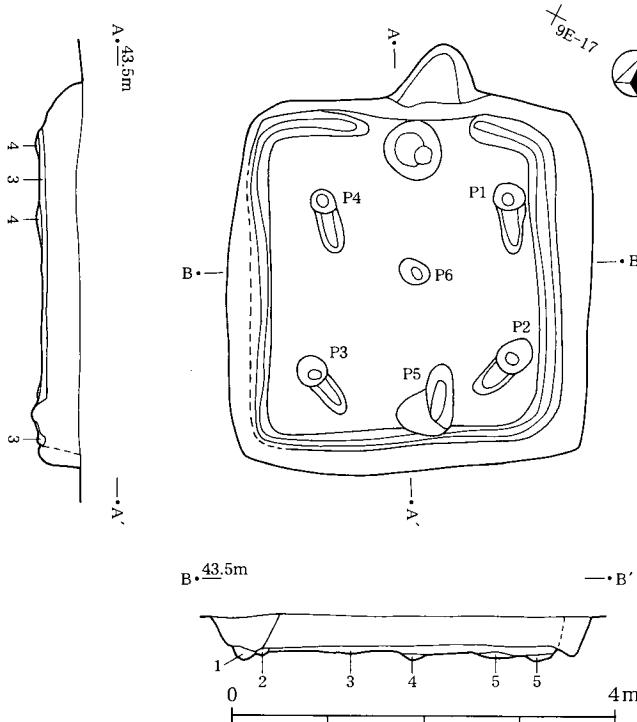
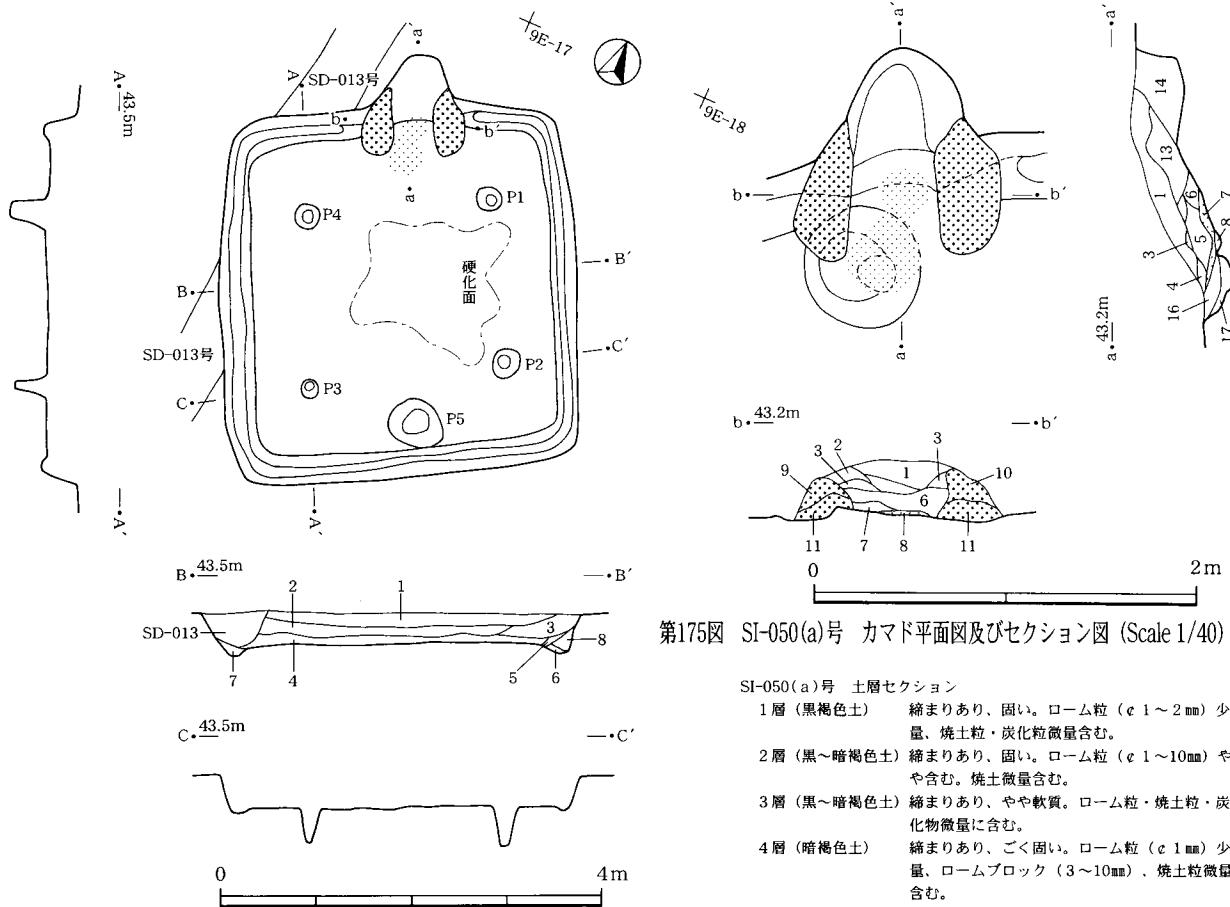
SI-049号 カマド土層セクション

1層 (淡黄褐色砂) 山砂主体、暗褐色土を僅かに含む。  
2層 (暗褐色土) ローム粒、明褐色土、山砂をやや多めに含む。  
3層 (淡黄褐色砂) 山砂主体、カマド構築材の崩落部、暗褐色土を  
含む。  
4層 (暗褐色土) 山砂、燃土を多く含む。  
5層 (暗褐色土) 山砂、燃土を含む。黒色灰を多く含む。  
6層 (赤褐色砂) カマド天井焼け面、山砂、灰、暗褐色土を含む。  
7層 (暗褐色土) 山砂、燃土、黒色灰を多く含む。

8層 (淡黄褐色砂) 山砂主体、暗褐色土を僅かに含む。カマド袖部。  
9層 (暗褐色土) 山砂、燃土、熱で黒く変色した構築材の破片を  
含む。  
10層 (赤褐色土) 赤く変色した山砂主体。山砂、燃土主体である。  
11層 (暗褐色土) 山砂、ローム粒、黒色灰を含む。  
12層 (黄褐色ローム) ソフトローム主体。暗褐色土を含む。  
13層 (暗褐色土) ローム粒、ソフトローム、燃土を含む。  
14層 (暗褐色土) ローム粒、ロームブロックを含む。掘り方。



第173図 SI-049号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)



第175図 SI-050(a)号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

SI-050(a)号 土層セクション

- 1層 (黒褐色土) 繰まりあり、固い。ローム粒 ( $\varnothing 1 \sim 2\text{ mm}$ ) 少量、焼土粒・炭化粒微量含む。
- 2層 (黒～暗褐色土) 繰まりあり、固い。ローム粒 ( $\varnothing 1 \sim 10\text{ mm}$ ) やや含む。焼土微量含む。
- 3層 (黒～暗褐色土) 繰まりあり、やや軟質。ローム粒・焼土粒・炭化物微量含む。
- 4層 (暗褐色土) 繰まりあり、ごく固い。ローム粒 ( $\varnothing 1\text{ mm}$ ) 少量、ロームブロック ( $3 \sim 10\text{ mm}$ )、焼土粒微量含む。
- 5層 (暗褐色土) 繰まりあり、ローム粒多量に含む。
- 6層 (暗黄褐色土) 繰まりあり、固い。ローム粒多量に含む。
- 7層 (暗褐色土) 繰まりあり、固い。ローム粒 ( $\varnothing 1 \sim 5\text{ mm}$ ) やや多く含む。
- 8層 (暗褐色土) 繰まりあり、やや固い。ローム粒 ( $\varnothing 1\text{ mm}$ ) 少量含む。

SI-050(b)号 土層セクション

- 1層 (暗褐色土) 繰まりあり、やや固い。ローム粒 ( $\varnothing 1 \sim 2\text{ mm}$ ) やや多量に含む。
- 2層 (黒褐色土) 繰まりあり、やや固い。ローム粒少量含む。
- 3層 (暗褐色土) 繰まりあり、固い。ローム粒・ロームブロック ( $10 \sim 20\text{ mm}$ ) を含む。繰まり極めて強。
- 4層 (暗褐色土) ローム粒・黒褐色土を含む。山砂・焼土粒を微量に含む。繰まり強。
- 5層 (明褐色土) ローム粒・ロームを多く含む。繰まり強。

SI-050(a)号 カマド土層セクション

- 1層 (黒～暗褐色土) 山砂少量、焼土粒微量に含む。
- 2層 (暗褐色土) 山砂多量に含む。
- 3層 (暗赤褐色土) 繰まりあり、固い。焼土ダロック多量に含む。天井崩落部
- 4層 (黒～暗褐色土) 烧土粒少量、ローム粒少量含む。
- 5層 (暗赤褐色土) 烧土粒多く含む。繰まりあり、固い。
- 6層 (暗褐色土) 5層に似るが、やや焼土粒少ない。
- 7層 (赤褐色土) 固く繰まる。焼けたロームブロック主体。燃焼部。
- 8層 (暗褐色土) 山砂少量含む。
- 9層 (黒～暗褐色土) ごく固い、灰色かかる、山砂多い、袖部分である。
- 10層 (灰暗褐色土) ごく固い、山砂主体、袖部分である。
- 11層 (暗黃褐色土) ごく固い、ロームを多く含む、袖部分である。
- 12層 (黒～暗褐色土) 山砂少量、炭化物少量含む。
- 13層 (黒褐色土) 烧土粒・炭化物少量含む。
- 14層 (暗褐色土) ローム粒を少量含む。
- 15層 (褐色土) ローム主体である。
- 16層 (黒褐色土) 繰まりあり、固い、ロームブロックやや多く、焼土粒少量 (古いカマド?) 含む。掘り方部分。
- 17層 (褐色土) ロームブロック主体、掘り方部分。

るが詳細は不明である。10は須恵器の甕の口縁部から胴部上半部分の破片である。口径21.6cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、胴部にかけてはタタキ目で調整されている。内面はナデで当て具痕を残している。

8、9は須恵器の甕である。8は須恵器の甕で胴部下半部から底部にかけて1/5程度遺存している。底径14.4cmで他は不明である。やや丸みを持ちながら立ち上がる器形である。外面胴部以下はタタキ目で調整されている。内面はナデで、当て具痕を強く残す。9は須恵器の甕の口縁部から胴部までの破片である。口径23.4cmで他は不明である。口縁部は折り返しでナデ仕上げ、胴部にかけてはタタキ目で調整されている。内面はナデで、当て具痕が少し残されている。

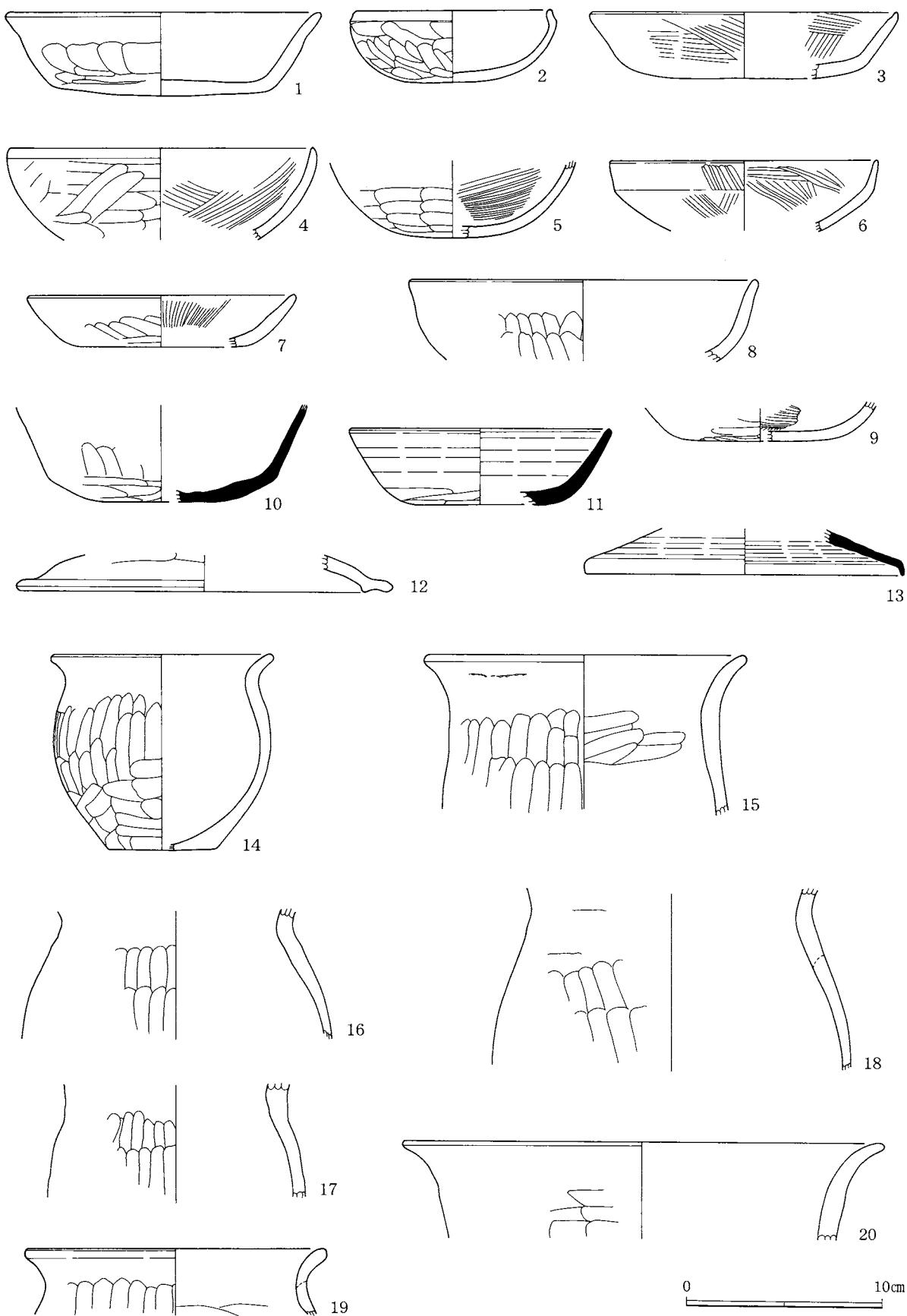
#### SI-050 (a) 号 (第174図～第175図、第177図1～20)

(遺構) 調査区の中央付近の9E-16付近で検出された。平面形状は南北方向3.9m、東西方向3.6m前後とやや長方形に近い形になると思われる。規模は北西壁3.62m、北東壁3.84m、南東壁3.72m、南西壁3.88mである。主軸方位はN-24°-Wである。覆土は基本的に黒～暗褐色土で4層、壁際の崩落土で4枚に分かれる。SI-050 (b) 号を拡張して構築されて住居である。

カマドは北西壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分、火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかりと残されていた。床面からはP1～P4までの柱穴及びP5の梯子ピットと思われるピットまで検出された。壁周溝はカマド構築部分以外は全周にわたって見つかっている。床面は中央部分に硬化している部分が認められた。

(遺物) 遺物については住居跡のカマド周辺及び北東壁付近を中心に比較的多くの土器片が出土している。図示したのは、土師器杯9点、須恵器杯2点、土師器蓋1点、須恵器蓋1点、土師器甕7点である。

1～9は土師器の杯である。1は土師器の杯でほぼ完形である。口径15.9cm、底径10.3cm、器高4.3cmである。外面口縁部はナデ、底部から底面にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで、一部ミガキで仕上げられているが、やや被熱で器面の荒れている部分も見られる。外面底面は使用のため吸炭で黒色化している部分が認められる。2は土師器の杯である。ほぼ3/4程度遺存している。口径10.1cm、底径丸底、器高3.7cmである。口縁部は内曲し、底部にかけて丸くなる器形である。外面口縁部はナデ、底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデ、一部ミガキも見られる。3は土師器の杯で、口縁部から底部にかけての破片である。口径15.5cm、底径11.0cm、器高3.4cmである。外面口縁部から底部にかけてミガキ、底面はヘラケズリで調整されている。内面は縦方向のミガキ後、横方向のミガキで仕上げられている。4は土師器の杯で、ほぼ1/5程度遺存している。底面は丸底であると思われるが、残存していない。口径15.6cmで他は不明である。外面口縁部から底部にかけては横方向のヘラケズリを主体としている。内面は直行する斜め方向のミガキで仕上げられている。5は土師器の杯の底部破片である。丸底ということと、胎土の中に大粒のスコリアが含まれていることから4と同個体である可能性がある。外面底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面は斜め方向の細かなミガキで仕上げられている。6は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径13.8cmで他は不明である。外面口縁部から底部にかけてはミガキで仕上げられている。内面も細かなミガキで仕上げられている。7は土師器の杯の口縁部から底部の破片である。口径13.9cmで他は不明である。外面はヘラケズリ、内面はミガキで仕上げられている。8は土師器の口縁部から底部にかけての破片である。口径17.8cmで他は不明である。外面口縁部



第177図 SI-050号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

はナデ、底部は縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。9は土師器の底部底面の破片である。底径8.3cmで他は不明である。外面底部底面ヘラケズリ、内面はミガキで仕上げられている。

10、11は須恵器の杯である。10は体部から底面にかけての破片である。底面はやや丸味を帯びているため底径は不明である。外面体部から底部にかけてはロクロ後ナデ、底面についてはヘラケズリで調整されている。内面はロクロ後ナデ仕上げである。11は須恵器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径13.4cm、底径6.7cm、器高3.9cmである。外面口縁部はロクロナデ、底部底面ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。

12は土師器の蓋の破片である。口径19.4cmで他は不明である。外面はナデ後ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

13は須恵器の蓋の破片である。口径16.4cmで他は不明である。外面はロクロナデ、内面はロクロナデ仕上げである。なお外面には自然釉が見られる。

14～20は土師器の甕である。14は土師器の甕でほぼ1/2程度遺存している。口径11.1cm、底径5.6cm、器高10.0cmである。外面口縁部はナデ、頸部から胴部にかけては縦方向のヘラケズリ、底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。15は土師器の甕の口縁部から胴部上半部にかけての破片である。口径16.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデで、頸部の一部に輪積み痕を残す。胴部は縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデ後頸部のあたりをヘラケズリで調整している。16は土師器の甕の頸部から胴部上半部にかけての破片である。外面胴部以下は縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。17は土師器の甕の頸部から胴部上半部の破片である。16よりやや胴部の張りのない器形と思われる。外面頸部ナデ後胴部以下ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。18は土師器の甕の頸部から胴部上半部の破片である。外面頸部ナデ、胴部以下はヘラケズリで調整されている。なお、頸部には輪積み痕を残す。内面はナデで仕上げられている。19は土師器の杯の口縁部の破片である。口径15.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデ後頸部にかけてヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。20は土師器の甕の口縁部から胴部上半部にかけての破片である。口径24.8cmで他は不明である。外面口縁部はナデ後頸部ヘラケズリ、内面はナデで仕上げられている。

#### SI-050 (b) 号 (第176図)

(遺構) 調査区の中央付近の9E-16付近のSI-050 (a) 号の貼り床下より検出された。平面形状は南北方向3.4m、東西方向3.2m前後とやや長方形に近い形になると思われる。規模は北西壁3.20m、北東壁3.45m、南東壁3.35m、南西壁3.65mである。主軸方位はN-24°-Wである。覆土は貼り床直下の黄褐色土しか残っておらず、基本的には不明である。

カマドは北西壁中央部分に構築されていたと思われるが、カマドの直下貼り床部分で掘り方部分が検出されただけで他は不明である。床面からはP1～P4までの柱穴及びP5の梯子ピットと思われるピットまで検出された。壁周溝はカマド構築部分以外は全周にわたって見つかっている。

(遺物) 遺物については覆土がほとんど残っていないので不明である。SI-050 (a) 号の住居の中から出土した遺物の中に混入している可能性が高い。

## SI-051号（第178図～第179図、第180図1～7）

（遺構）調査区のやや南よりの10D-25付近で検出された。平面形状は南北方向3.8m、東西方向3.9m前後とほぼ正方形に近い形になると思われる。規模は北西壁3.92m、北東壁3.73m、南東壁3.72m、南西壁3.86mである。主軸方位はN-30°-Wである。覆土は基本的に黒～暗褐色土で4層、壁際の崩落土で3枚に分かれる。

カマドは北西壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分、火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかりと残されていた。床面からはP1～P4までの柱穴及びP5の梯子ピットと思われるピットまで検出された。壁周溝はカマド付近以外は全周にわたって見つかっている。床面は柱穴ピットの内側を中心に中央部分に硬化している部分が認められた。

（遺物）遺物については住居跡の覆土下層より多少の土器片が出土している。図示したのは、土師器杯4点、須恵器杯1点、土師器甕1点、支脚1点である。

1～4は土師器の杯である。1は土師器の杯でほぼ1/2程度遺存している。丸底でやや丸みを持ちながら立ち上がる器形である。口径12.6cm、底径丸底、器高4.0cmである。外面口縁部はナデ、底部から底面にかけてヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。2は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径13.5cmで他は不明である。外面はナデ後ミガキ、内面は丁寧なミガキで仕上げられている。黒色研磨土器と思われる。3は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径16.2cmで他は不明である。外面はナデ後、斜め方向ミガキで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。外面の一部は吸炭による黒色化が見られる。4は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。丸底になると思われる器形である。口径12.2cmで他は不明である。外面は多方位のヘラケズリで調整されている。内面は斜め方向のミガキで仕上げられている。

5は須恵器の杯の破片である。口径13.2cmで他は不明である。外面はロクロナデ後ナデで仕上げられている。内面も同様である。

6は土師器の甕の底部破片である。底径6.4cmである。外面底部はヘラケズリ調整、底面には木葉痕を残す。内面はミガキで仕上げられている。

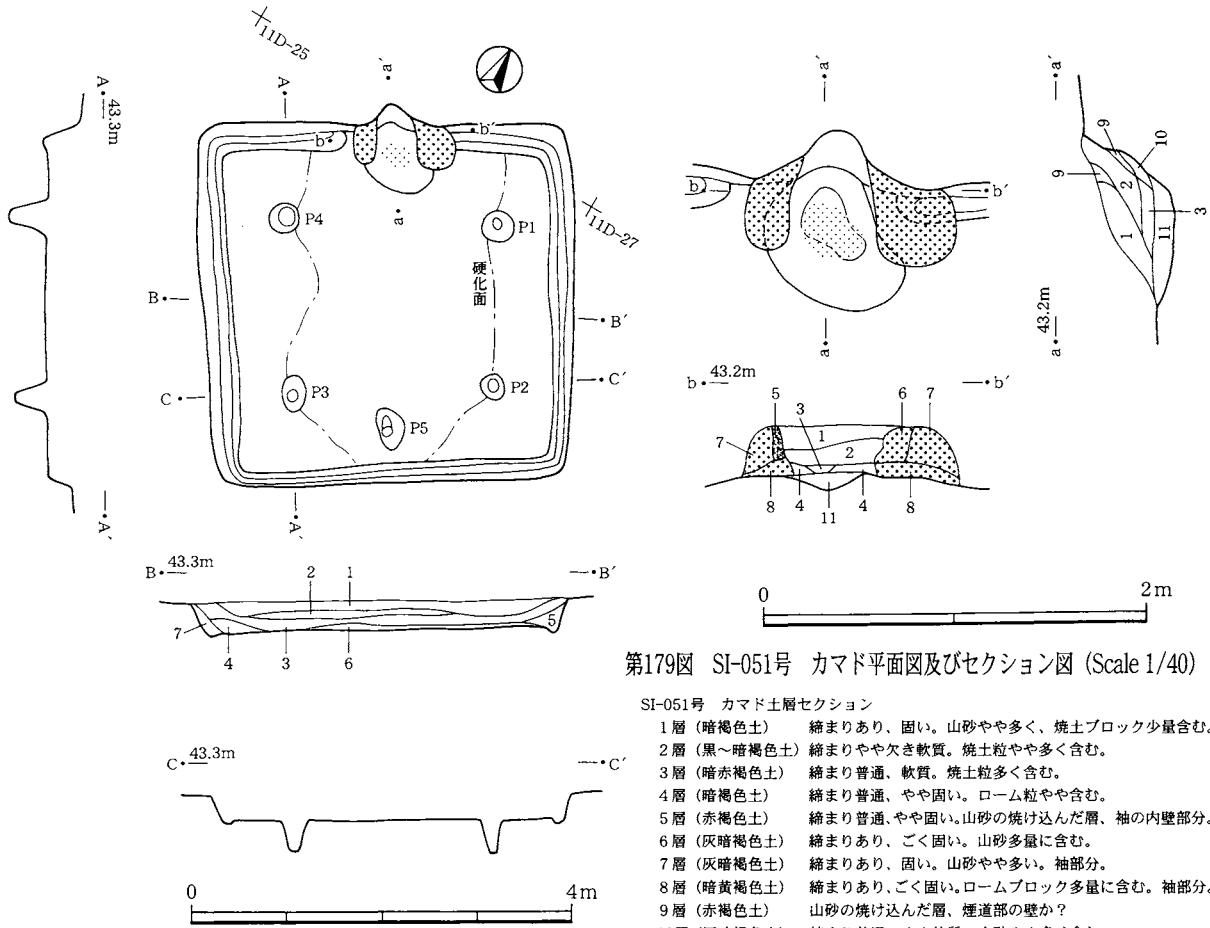
7は支脚の頭部破片である。外面は比較的丁寧にナデで仕上げられている。

## SI-052号（第181図～第182図、第183図～第184図1～9）

（遺構）調査区の南よりの11D-55付近で検出された。SD-003号により南北方向に壁の一部を壊されていたものの平面形状は南北方向3.0m、東西方向3.2m前後とほぼ正方形に近い形になると思われる。規模は北東壁3.05m、南東壁3.22m、南西壁3.02m、南東壁3.18mである。主軸方位はN-25°-Eである。覆土は基本的に黒～暗褐色土で細かく分かれている。

カマドは北東壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分、火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかりと残されていた。床面からはP1～P4までの柱穴及びP5の梯子ピットと思われるピットまで検出された。壁周溝はカマド付近以外は全周にわたって見つかっている。床面は柱穴ピットの内側を中心に中央部分に硬化している部分が認められた。

（遺物）遺物については住居跡のカマド内及びカマドの南側より甕や杯などが比較的多く出土している。図示したのは、土師器杯3点、須恵器杯1点、土師器甕3点、須恵器甕1点、土師器瓶1点である。



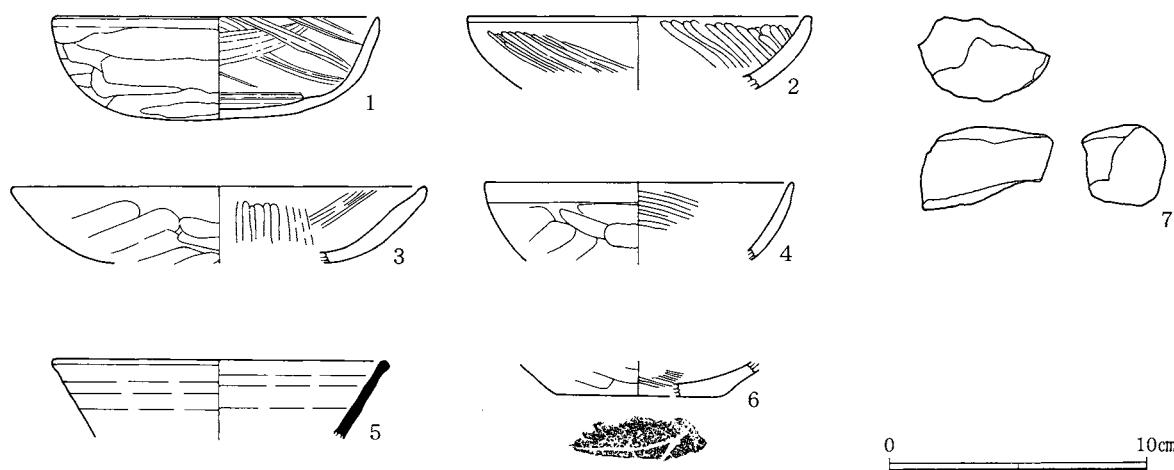
第179図 SI-051号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

SI-051号 カマド土層セクション  
 1層 (暗褐色土) 繊まりあり、固い。山砂やや多く、焼土ブロック少量含む。  
 2層 (黒～暗褐色土) 繊まりやや欠き軟質。焼土粒やや多く含む。  
 3層 (暗赤褐色土) 繊まり普通、軟質。焼土粒多く含む。  
 4層 (暗褐色土) 繊まり普通、やや固い。ローム粒やや含む。  
 5層 (赤褐色土) 繊まり普通、やや固い。山砂の焼け込んだ層、袖の内壁部分。  
 6層 (灰暗褐色土) 繊まりあり、ごく固い。山砂多量に含む。  
 7層 (灰暗褐色土) 繊まりあり、固い。山砂やや多い。袖部分。  
 8層 (暗黄褐色土) 繊まりあり、ごく固い。ロームブロック多量に含む。袖部分。  
 9層 (赤褐色土) 山砂の焼け込んだ層、煙道部の壁か？  
 10層 (灰暗褐色土) 繊まり普通、やや軟質。山砂やや多く含む。  
 11層 (暗黄褐色土) ごく固い、ロームを多く含む、掘り方部分である。

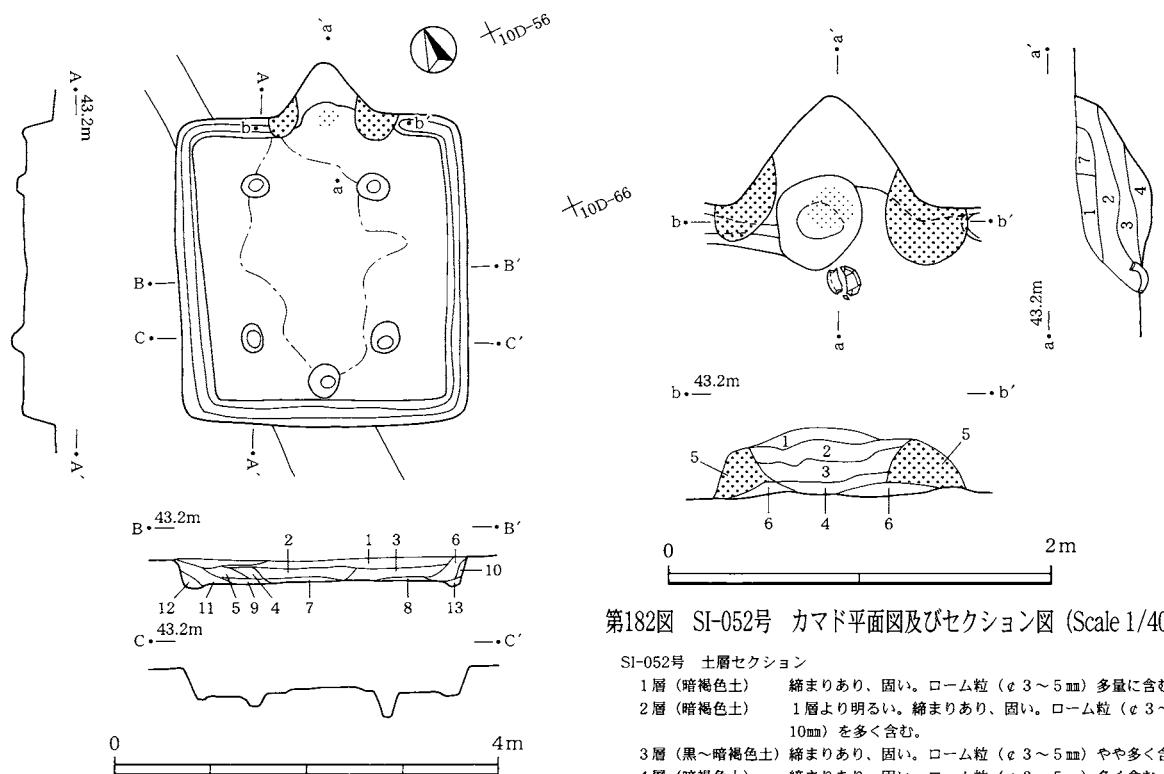
第178図 SI-051号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

SI-051号 土層セクション

- 1層 (暗褐色土) ローム粒、ロームブロック ( $\varrho 10\sim20mm$ )、明褐色土を含む。
- 2層 (明褐色土) ローム粒、ロームブロック ( $\varrho 10mm$ ) 含む。
- 3層 (黒褐色土) ローム粒、ロームブロック ( $\varrho 10mm$ )、暗褐色土を含む。
- 4層 (暗褐色土) ローム粒、ローム、黒褐色土を含む。
- 5層 (明褐色土) ローム粒、ローム、黒褐色土を含む。
- 6層 (暗褐色土) ロームを含み、やや繊まり強。
- 7層 (明褐色土) ロームを含み、やや繊まりあり。



第180図 SI-051号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)



第181図 SI-052号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

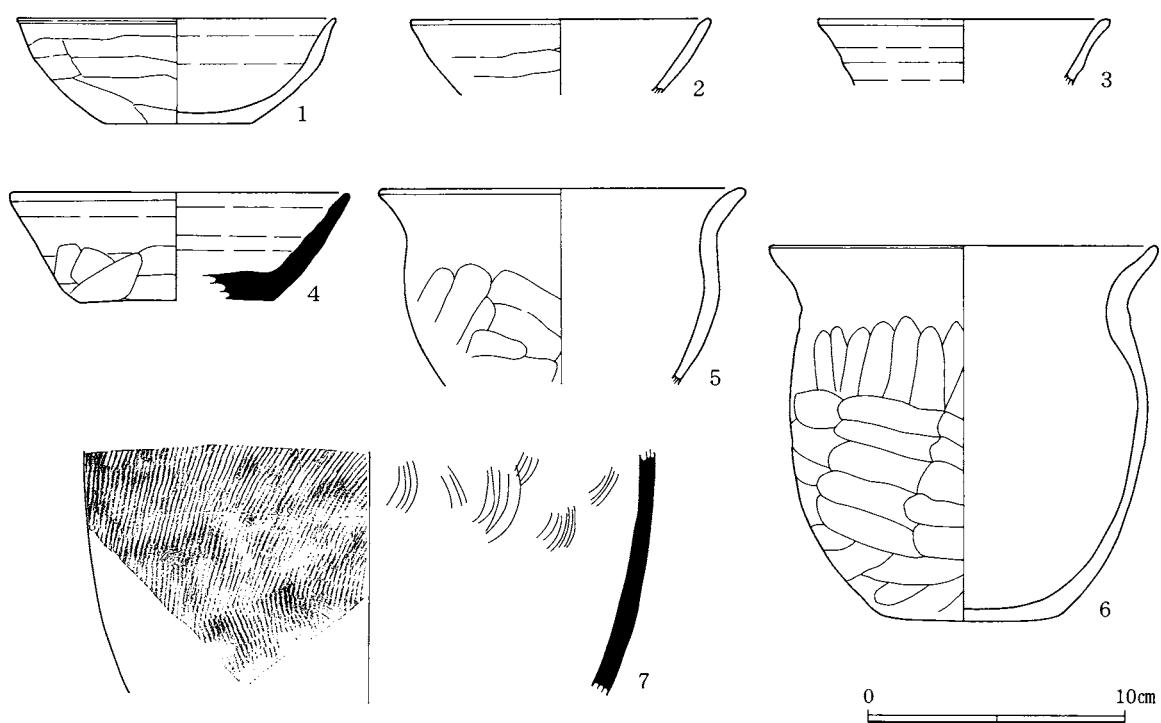
SI-052号 カマド土層セクション

1層 (暗黄褐色土) 山砂やや多く、焼土微量含む。  
 2層 (暗褐色土) ローム粒多く、焼土微量、山砂微量含む。  
 3層 (暗赤褐色土) 焼土多く、山砂も多々含む。  
 4層 (暗褐色土) 烧土粒少量、山砂なし。やや黒み強い。  
 5層 (灰暗褐色土) 締まりあり、ごく固い。山砂多量に含む。袖部分。  
 6層 (暗黄褐色土) ごく固い、ロームを多く含む、掘り方部分である。

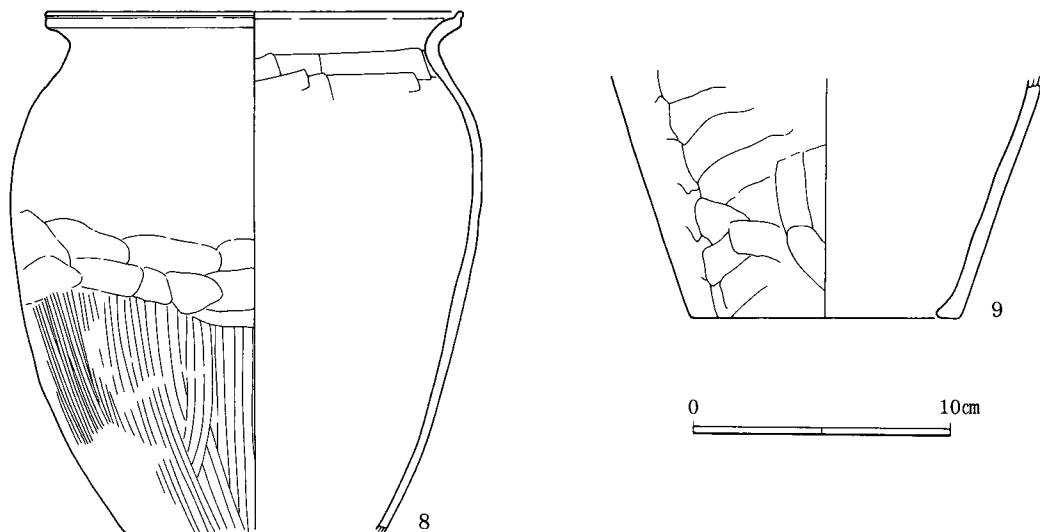
第182図 SI-052号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

SI-052号 土層セクション

1層 (暗褐色土) 締まりあり、固い。ローム粒 ( $\phi 3 \sim 5$  mm) 多量に含む。  
 2層 (暗褐色土) 1層より明るい。締まりあり、固い。ローム粒 ( $\phi 3 \sim 10$  mm) を多く含む。  
 3層 (黒～暗褐色土) 締まりあり、固い。ローム粒 ( $\phi 3 \sim 5$  mm) やや多く含む。  
 4層 (暗褐色土) 締まりあり、固い。ローム粒 ( $\phi 3 \sim 5$  mm) 多く含む。  
 5層 (暗褐色土) 締まりあり、固い。ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3$  mm) やや多く含む。  
 6層 (暗褐色土) 締まりあり、やや軟質。炭化物少量含む。  
 7層 (暗褐色土) 締まりあり、固い。ローム粒 ( $\phi 1 \sim 3$  mm) 少量含む。  
 8層 (暗黄褐色土) 締まりあり、ごく固い。ロームを多量に含む。貼り床であろう。  
 9層 (暗褐色土) 締まりあり、固い。ロームブロック ( $\phi 3$  mm) 少量含む。  
 10層 (褐色土) 締まりあり、やや軟質。ローム主体の土（壁の崩落土）。  
 11層 (暗褐色土) 締まりあり、固い。ローム粒 ( $\phi 3 \sim 5$  mm) 多量に含む。  
 12層 (暗黄褐色土) 締まり普通、やや固い。ローム粒 ( $\phi 3 \sim 5$  mm) 多量に含む。  
 13層 (暗黄褐色土) 締まりあり、やや固い。ロームブロック ( $\phi 3$  mm) 少量含む。



第183図 SI-052号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)



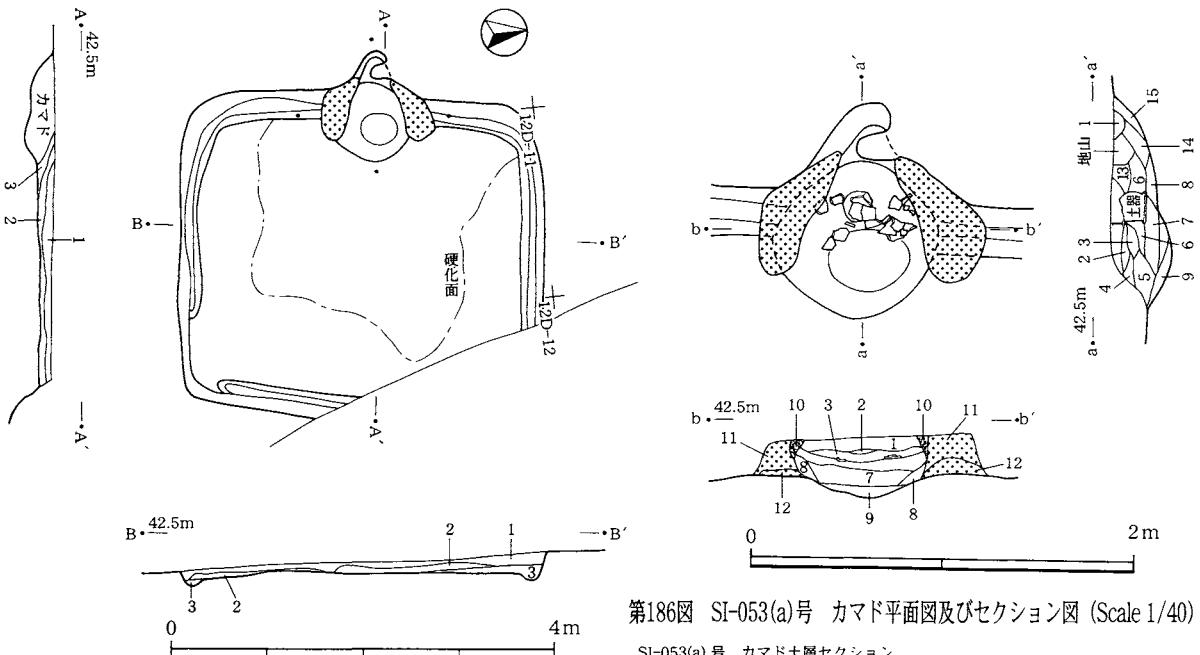
第184図 SI-052号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

1～3は土師器の杯である。1は土師器の杯でほぼ1/2程度遺存している。口径12.4cm、底径5.7cm、器高4.2cmである。外面口縁部はナデ、底部はナデ後ヘラケズリ、底面は一方向のヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後ナデ仕上げである。2は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径11.8cmで他は不明である。外面口縁部ナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。3は土師器の杯で口縁部から底部にかけての破片である。口径11.4cmで他は不明である。外面はロクロナデ、内面はロクロナデ後ナデで仕上げられている。

4は須恵器の杯である。底面と底部の一部を除き、ほぼ完形である。底部から斜めに直線的に立ち上がる器形である。口径12.2cm、底径7.6cm、器高4.7cmである。外面はロクロナデ後、底部、底面ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ仕上げである。内外面とも口縁部に一部吸炭による黒色化が見られる。

5、6、8は土師器の甕である。5は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径14.2cmで他は不明である。口縁部の最大径のある器形である。外面口縁部はナデ、胴部は多方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデ仕上げと思われる。内外面とも2次焼成のためか剥落もみられ、全体にもろい。6は土師器の甕で口縁部の一部を除きほぼ完形である。口径14.9cm、底径7.1cm、器高14.7cmである。外面口縁部から頸部まではナデ、胴部から底部にかけては縦方向のヘラケズリ後横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。8は土師器の甕で底部を除き、遺存している。口径21.8cmで他は不明である。外面口縁部から胴部にかけてはナデ、胴部は横方向のヘラケズリで調整されている。胴部から底部にかけては縦方向の細かなミガキで仕上げられている。内面は頸部を横方向のヘラケズリで調整、頸部以下はナデで仕上げている。

7は須恵器の甕である。胴部以下底部にかけての大形の破片である。外面はタタキ目仕上げ、内面はナ



第185図 SI-053(a)号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

SI-053(a)号 土層セクション

- 1層（暗褐色土） ローム粒、ロームブロック ( $\varnothing 10\text{mm}$ )、明褐色土を含む。
- 2層（黒褐色土） ローム粒、焼土粒、炭化材料、明褐色土を含む。
- 3層（暗褐色土） ローム粒、焼土粒、明褐色土を含む。

第186図 SI-053(a)号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

SI-053(a)号 カマド土層セクション

- 1層（黒～暗褐色土） 締まりあり固い。焼土粒やや多い。
- 2層（暗褐色土） 締まりありやや固い。山砂を多く含む。焼土粒、炭化物微量に含む。
- 3層（赤褐色土） 締まり普通やや固い。焼土ブロック主体、暗褐色土混入。
- 4層（黒～暗褐色土） 烧土粒微量、締まりありやや固い。
- 5層（黒～暗褐色土） 締まりありやや固い。焼土粒少量含む。
- 6層（黒褐色土） 締まり普通やや軟質。山砂、炭化物少量含む。
- 7層（暗赤褐色土） 締まりやや欠き軟質。焼土粒やや多く含む。
- 8層（黒～暗褐色土） 烧土粒少量含む。
- 9層（暗褐色土） やや締まり欠きローム粒多く含む。
- 10層（赤褐色土） 締まりやや欠きやや軟質、焼土粒やや多く含む。
- 11層（暗褐色土） やや灰色がかる。山砂多く含み、締まりありごく固い。袖部分。
- 12層（暗黃褐色土） 締まりありごく固い。ロームを多く含む。袖部分。
- 13層（暗褐色土） 締まりあり固い。山砂少量、焼土粒微量に含む。
- 14層（黒褐色土） 締まりあり固い。ローム粒少量、炭化物やや多く含む。
- 15層（暗黃褐色土） 締まりありやや固い。山砂やや多く、ローム粒少量含む。

で一部に当て具痕を残している。

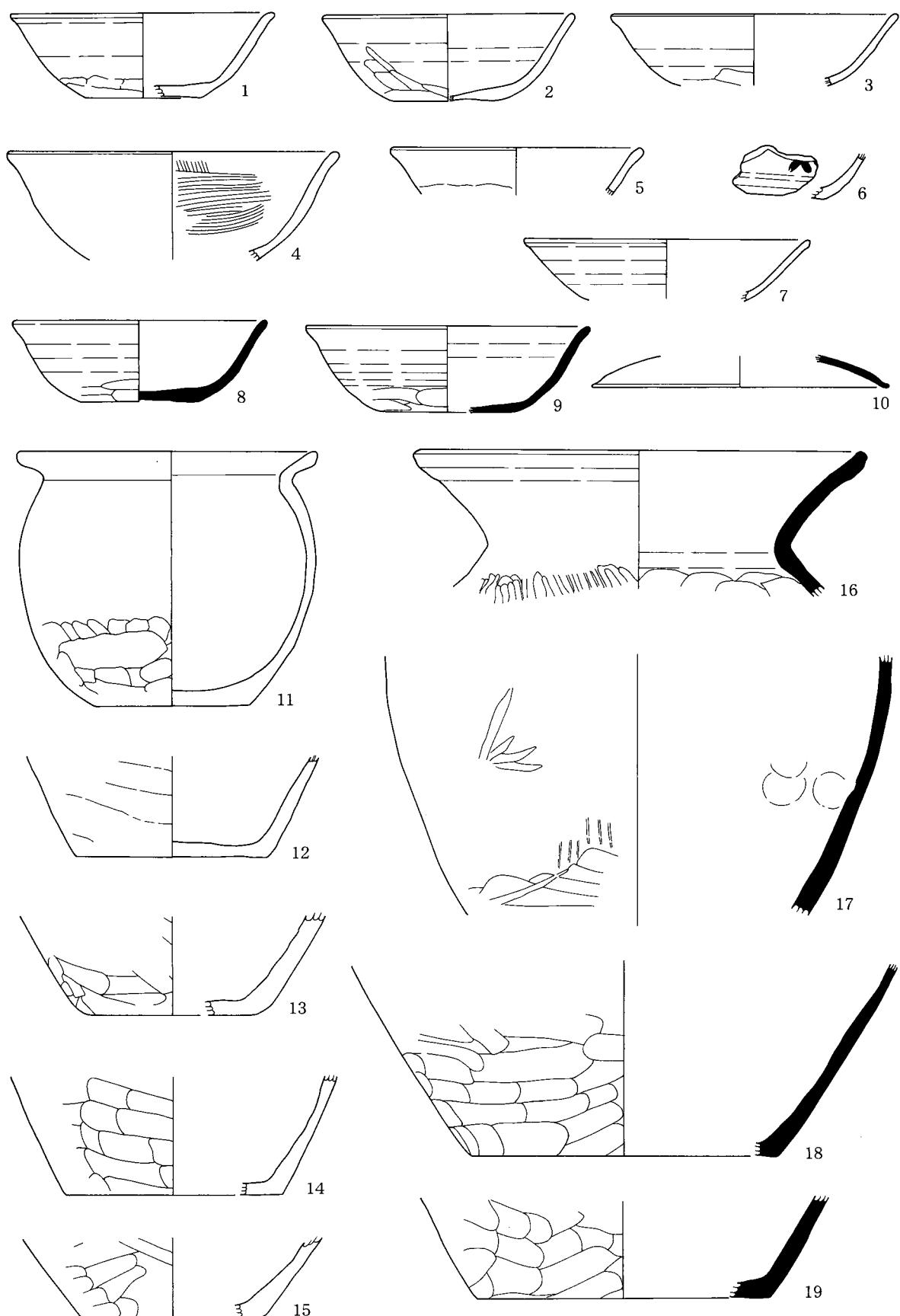
9は土師器の甌である。底部の破片である。底径10.4cmで他は不明である。外面は横方向のヘラケズリを主体にして仕上げている。内面はナデで仕上げられている。

**SI-053 (a) 号 (第185図～第186図、第187図～第188図 1～21)**

(遺構) 調査区の南よりの12D-11付近で検出された。SD-012号により北東側の壁の一部を壊されていたものの平面形状は一辺3.3～3.7m前後のほぼ正方形に近い形になると思われる。規模は西壁3.70m、南壁3.32mで北壁、東壁は不明である。主軸方位はN-84°-Wである。覆土は基本的に暗褐色土で3枚に分かれている。SI-053 (a)号は (b) を拡張する形で構築されている。

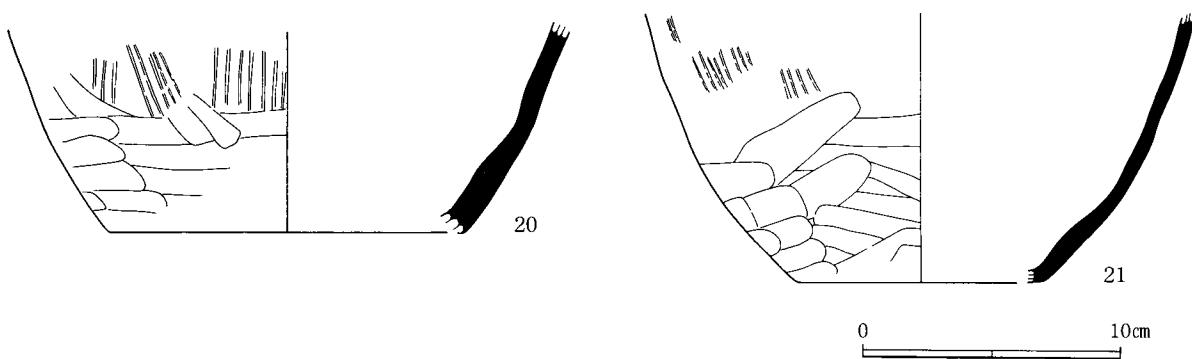
カマドは西壁中央部分に構築されている。カマドの袖部分、火床部分は比較的残りはよく、掘り方もしっかり残されていた。壁周溝についてはカマド付近以外SD-012号で壊されている部分以外全周にわたって見つかっている。硬化面はカマドから東側に向かって広がっている。

(遺物) 遺物については住居跡のカマド内から倒立した状態で甌が出土したのをはじめ、カマドを中心にも多くの土器片が出土している。図示したのは、土師器杯7点、須恵器杯2点、須恵器蓋1点、土師器甌5点、須恵器甌6点である。



第187図 SI-053号 出土遺物実測図1 (Scale 1/3)

0 10cm



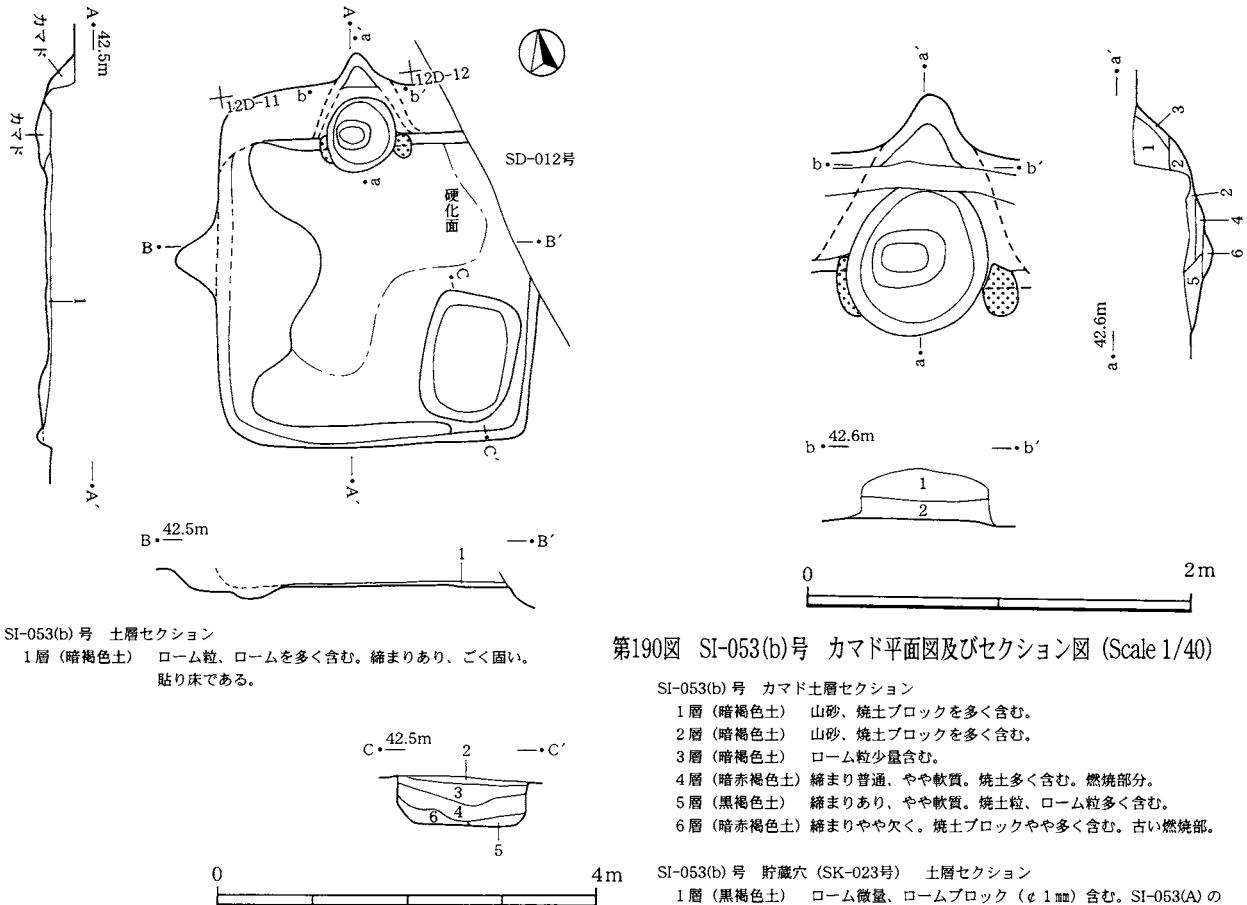
第188図 SI-053号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

1～7は土師器の杯である。1は土師器の杯で底部の一部を除きほぼ1/2程度遺存している。口径13.5cm、底径5.9cm、器高4.4cmである。外面はロクロナデ後、底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後ナデで仕上げられている。2は土師器の杯でほぼ1/3程度遺存している。口径12.6cm、底径5.8cm、器高4.5cmである。外面はロクロナデ後ナデ、底部ヘラケズリ、底面は糸切り後ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後ナデで仕上げられている。3は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径14.6cmで他は不明である。外面はロクロナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後ナデで仕上げられている。4は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径16.8cmで他は不明である。外面口縁部から底部にかけてはナデ、内面はミガキで仕上げられている。5は土師器の杯の口縁部破片である。口径12.7cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。6は土師器の杯の底部破片で墨書土器である。底部の小破片なので書かれている文字は不明である。7は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径14.6cmで他は不明である。外面口縁部はロクロナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

8、9は須恵器の杯である。8は須恵器の杯で底面以外は1/5程度遺存している。口径12.9cm、底径6.0cm、器高4.2cmである。外面口縁部はロクロナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。底面は回転糸切り後、ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後ナデ仕上げである。9は須恵器の杯でほぼ1/4程度遺存している。口径14.6cm、底径7.2cm、器高4.4cmである。外面口縁部ロクロナデ後、底部ヘラケズリで調整されている。底面はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。

10は須恵器の蓋の破片である。口径15.2cmで他は不明である。内外面とも自然釉のかかった須恵器である。

11～15は土師器の甕である。11は土師器の甕で口縁部から胴部にかけて1/3程度欠損している。口径15.7cm、底径8.0cm、器高13.1cmである。外面口縁部から胴部下半部にかけてナデで調整されている。底部から底面にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。12は土師器の甕の底部底面破片である。底径9.8cmで他は不明である。外面底部底面はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられていると思われるが、剥落が著しいので詳細は不明である。13は土師器の甕の底部底面破片である。底径8.4cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。14は土師器の甕の底部破片である。底径11.1cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリで、内面はナデで仕上げられていると思われるが、剥落が著しく詳細は不明である。15は土師器の甕の底部破片である。底径9.6cmで他は不明である。外面底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面



第189図 SI-053(b)号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80) (上)  
SK-023号 (SI-053(b)号内貯蔵穴セクション図) (Scale 1/80) (下)

第190図 SI-053(b)号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

SI-053(b)号 カマド土層セクション  
1層(暗褐色土) 山砂、焼土ブロックを多く含む。SI-053(A)の貼り床。  
2層(暗黄褐色土) ロームやや多く、ロームブロック ( $\varnothing 3\text{mm}$ ) 少量含む。  
3層(黄褐色土) ローム多く、ロームブロック  $\varnothing 2\text{mm}$  少量含む。  
4層(暗褐色土) ローム少量、ロームブロック微量に含む。  
5層(暗褐色土) ロームやや多く含む。ロームブロック  $\varnothing 5\text{mm}$  微量に含む。  
6層(明褐色土) ローム主体、ロームブロック ( $\varnothing 3\text{mm}$ ) 多く含む。

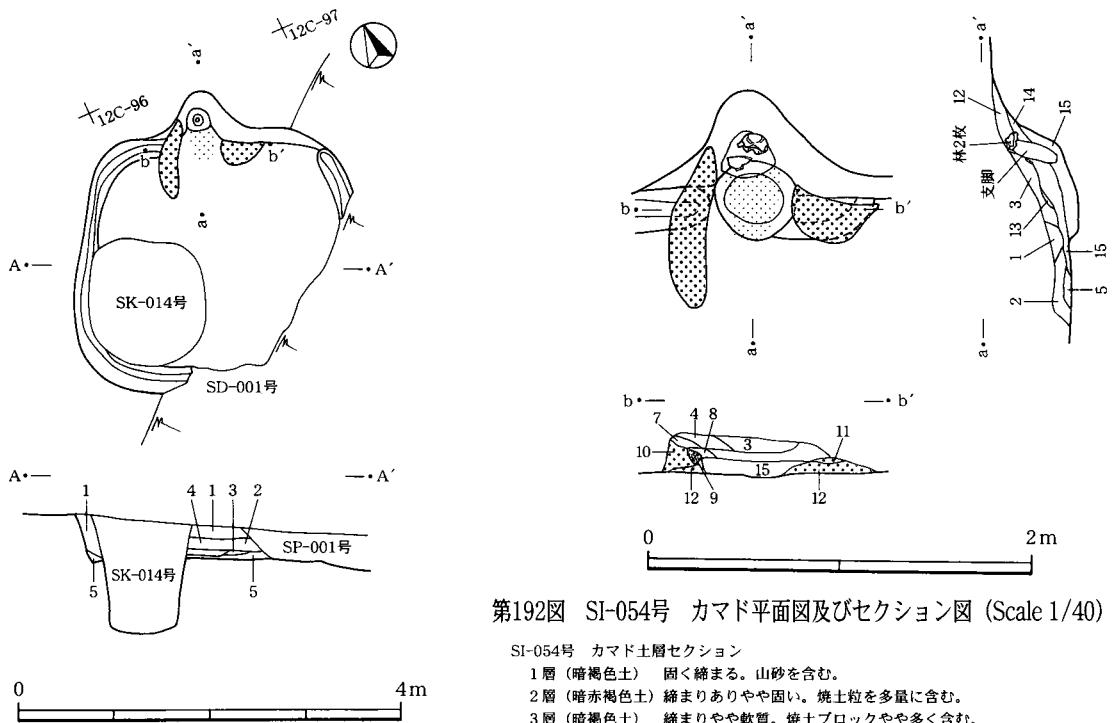
はナデで仕上げられていると思われるが、剥落が著しく詳細は不明である。

16～21は須恵器の甕である。16は須恵器の甕の口縁部から頸部にかけての破片で当該部位のほぼ1/2程度遺存している。口径22.8cmで他は不明である。外面口縁部から頸部にかけてはナデ、頸部以下はタタキ目で調整されている。内面は口縁部はナデ、頸部以下は当て具痕を残す。17は須恵器の甕の胴部破片である。外面胴部はタタキ目、底部にかけてはヘラケズリで調整されている。内面はナデで、当て具痕を残す。

18は須恵器の甕の底部破片である。底径15.8cmで他は不明である。外面底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデ、当て具痕も若干見られるものの器面が荒れていて詳細は不明である。19は須恵器の甕の底部破片である。底径15.0cmで他は不明である。外面底部は横方向のヘラケズリ、内面はナデで仕上げられている。20は須恵器の甕の底部の破片である。底径14.0cmで他は不明である。外面底部はタタキ目後横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。21は須恵器の甕の底部破片である。底径9.4cmで他は不明である。外面底部タタキ目後ヘラケズリで調整されている。内面は剥落のため調整等は不明である。

#### SI-053 (b) 号 (第189図～第191図)

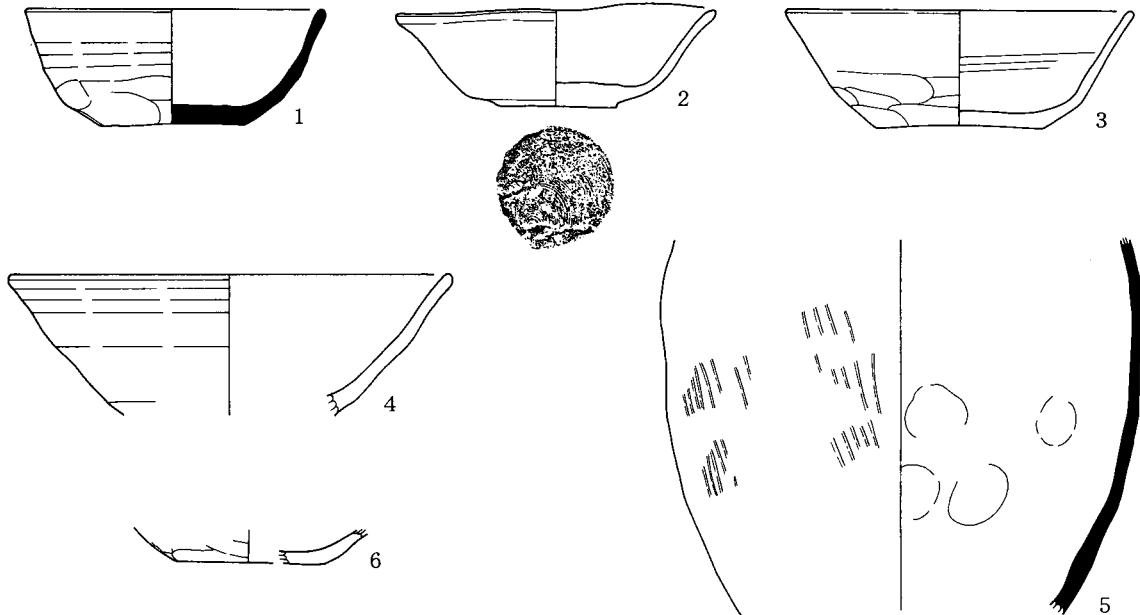
(遺構) 調査区の南よりの12D-11付近で検出された。SD-012号により北東側の壁の一部を壊されて



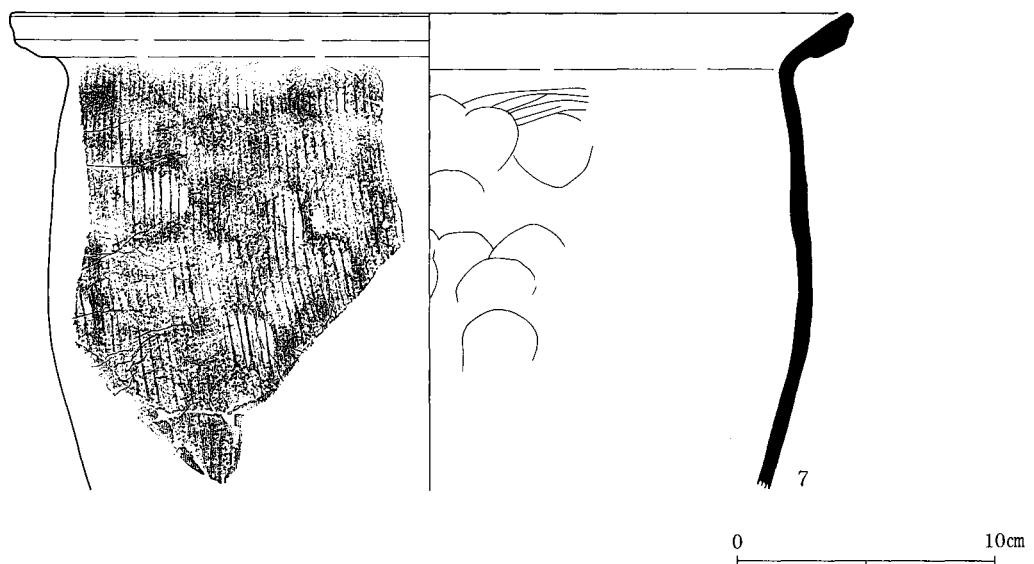
第191図 SI-054号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

SI-054号 土層セクション

- 1層 (暗褐色土) ローム粒、ロームブロック ( $\varnothing 10\text{mm}$ )、明褐色土を含む。
- 2層 (暗褐色土) ローム粒、焼土粒、炭化材粒、明褐色土を含む。
- 3層 (暗褐色土) ローム粒、焼土粒、明褐色土を含む。
- 4層 (暗褐色土) ローム粒、焼土粒、明褐色土を含む。
- 1層 (暗褐色土) 固く締まる。山砂を含む。
- 2層 (暗赤褐色土) 締まりありやや固い。焼土粒を多量に含む。
- 3層 (暗褐色土) 締まりやや軟質。焼土ブロックやや多く含む。
- 4層 (暗褐色土) ローム粒少量、締まりありやや固い。
- 5層 (黒色土) 締まりあり固い。ローム、焼土粒少量含む。
- 6層 (暗赤褐色土) 締まりやや欠き軟質。焼土粒多く含む。
- 7層 (暗褐色土) 締まりあり固い。
- 8層 (暗赤褐色土) 締まりやや欠き、固い。焼土ブロック多く含む。袖内壁の崩れ。
- 9層 (暗黄褐色土) 締まりあり固い。ロームブロック多く含む。袖部分。
- 10層 (暗褐色土) 締まりやや固い。ローム粒少量含む。袖部分。
- 11層 (暗褐色土) 締まりあり固い。山砂少量、焼土粒微量含む。袖部分。
- 12層 (暗褐色土) 焼土粒、焼土ブロックやや多く含む。
- 13層 (赤褐色土) 烧土である。
- 14層 (赤褐色土) 締まり普通。やや固い。焼土ブロック多く含む。
- 15層 (暗褐色土) 締まりあり、固い。ローム粒少量含む。支脚を埋めるため掘り込んだ覆土。



第193図 SI-054号 出土遺物実測図 1 (Scale 1/3)



第194図 SI-054号 出土遺物実測図 2 (Scale 1/3)

いたものの平面形状は一辺3.3m前後のほぼ正方形に近い形になると思われる。(A)号は北側の壁を一部拡張して構築されている。また床面についても5cm前後の暗褐色土で固められた貼り床状の覆土下から検出された。カマドは西側中央付近に構築されていた痕跡が残されている。住居の南側のSK-023号は当住居との切り合い関係は微妙で貯蔵穴として伴う可能性も高い。床面の硬化面はカマドから住居の中央部分にかけて検出されている。

(遺物) 遺物については明らかにこちらの住居から検出されたと明示されているものがないため不明である。

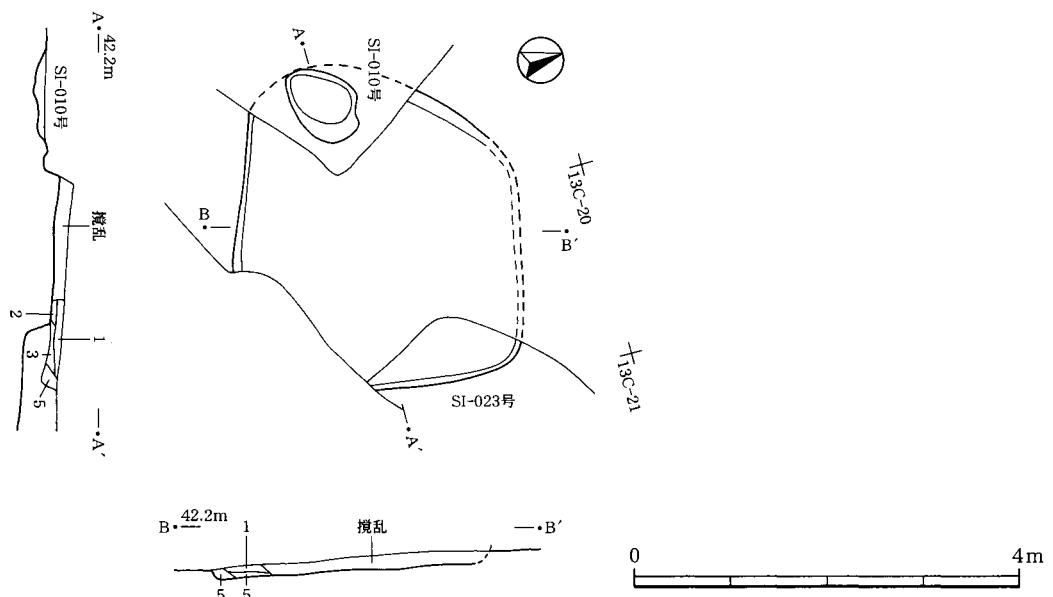
#### SI-054号 (第191図～第192図、第193図～第194図 1～7)

(遺構) 調査区の南よりの12C-96付近で検出された。SD-012号溝により南東側の壁の一部を壊されていたものの平面形状は一辺2.7m前後のほぼ正方形に近い形になると思われる。また、SK-014号土壌により西南壁際の床面のかなりの部分が掘り抜かれている。主軸方位はN-24°-Eである。覆土は暗褐色土により4枚に分かれている。床面は比較的しまっている。カマドは北東壁中央部分に構築されており、右袖の一部を除き火床部を含めて残りは良い。柱穴等の検出は認められなかった。

(遺物) カマド内を中心に杯等が検出された。図示したのは、須恵器杯1点、土師器杯3点、土師器甕1点、須恵器甕2点である。

1は須恵器の杯である。口縁部を除き4/5以上残存している。口径11.3cm、底径5.6cm、器高4.5cmである。外面口縁部から底部にかけてはロクロナデ、底部ヘラケズリで調整されている。底面は手持ちヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後ナデで仕上げられている。

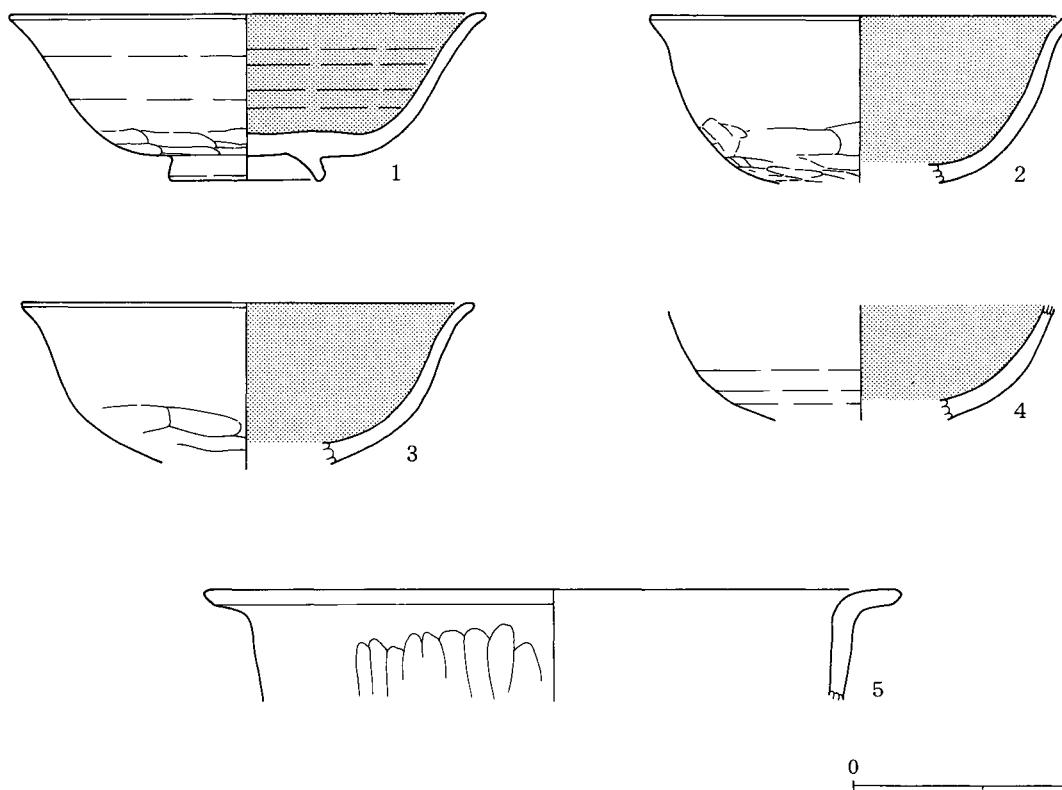
2～4は土師器の杯である。2は土師器の杯で1/2以上残存している。口径12.6cm、底径4.7cm、器高3.8cmである。外面口縁部から底部にかけてロクロナデで調整されている。底面は回転ヘラケズリ後、回転糸切りで調整されている。内面はロクロナデ後ナデで仕上げられている。3は土師器の杯で口縁部が殆ど残存していないが、その他は3/4以上残す。口径13.4cm、底径6.4cm、器高4.6cmである。外面口縁部か



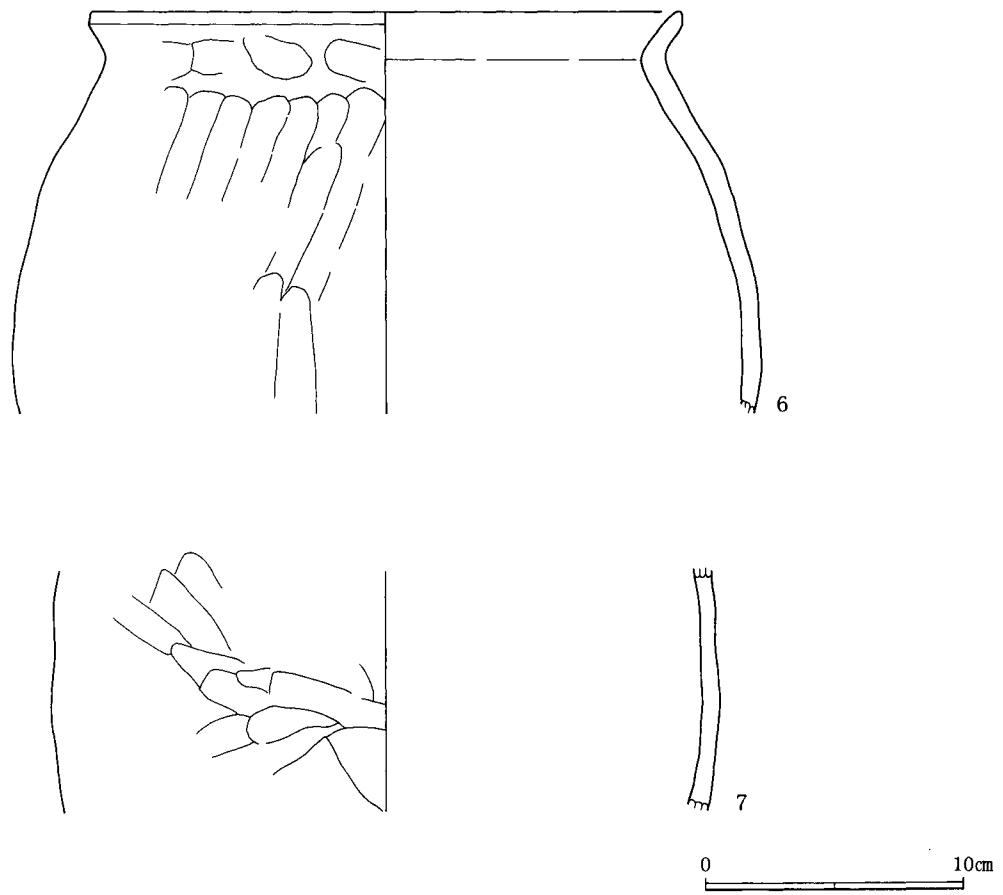
第195図 SI-055号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

SI-055号 土層セクション

- 1層（黒～暗褐色土） 繊まりあり固い。ローム粒少量、焼土粒微量に含む。
- 2層（暗褐色土） 繊まりありやや固い。ローム粒やや多く含む。
- 3層（暗褐色土） 2層より暗色で繊まりあり固い。ローム粒少量含む。
- 4層（暗黄褐色土） 繊まり普通でやや軟質。ローム粒を多量に含む。
- 5層（黒褐色土） 繊まりありやや軟質。暗褐色土ブロック少量含む。
- 6層（褐色土） ローム主体である。



第196図 SI-055号 出土遺物実測図 1 (Scale 1/3)



第197図 SI-055号 出土遺物実測図2 (Scale 1/3)

ら底部にかけてロクロナデ後ナデで調整、底部はナデ後ヘラケズリで調整されている。底面は一方向へのヘラケズリで調整されている。内面は一部ミガキで仕上げられているが、全体は剥落が著しく調整等は不明である。4は土師器の杯で口縁部から底部にかけての破片である。口縁部から底部のほぼ2/3程度遺存している。口径17.4cmで他は不明である。外面口縁部から底部にかけてはロクロナデ後ナデで調整、底部はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後ナデで仕上げられている。

5は土師器の甕の底部破片で、底面と底部の一部を残す破片である。底径5.8cmで他は不明である。外面底部から底面にかけてはヘラケズリで調整、内面はナデで仕上げられている。

6、7は須恵器の甕である。6は須恵器の甕の胴部の破片である。最大胴部径は18.8cmで他は不明である。外面胴部から底部にかけてはタタキ目で調整、内面はナデで、当て具痕を残す。7は須恵器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。推定口径32.6cmで他は不明である。外面は口縁部ナデ、頸部から胴部にかけてはタタキ目で調整されている。内面は頸部にミガキに近いナデで仕上げた跡が見られる。胴部には当て具痕を残す。

#### SI-055号 (第195図、第196図1～7)

(遺構) 調査区の南よりの13B-29付近で検出された。西壁側の一部をSI-010号住居により壊されている。また、東壁の床面下よりSI-023号住居を検出している。南壁はSD-001号溝により切られている。平面形状は一边3.1m前後であるが、やや不整形な方形になると思われる。主軸方位はカマド等がなく確

定的ではないがN-75°-Wであろう。調査時の切り合い関係から判断されるところによるとSI-023号住居が一番古く、SI-055号住居、SI-010号住居の順に新しくなるようである。覆土は中央部分が攪乱で一部不明であるが確認面より黒～暗褐色土により数枚に分かれている。床面はあまり締まりはないようである。カマドはないものかあるいは北壁中央部分に構築されていた可能性もある。柱穴等の検出は認められなかった。

(遺物) 住居の南壁付近を中心に数点の土器片等が検出された。図示したのは、土師器碗3点、土師器杯1点、土師器甕3点である。

1は土師器の台付碗である。ほぼ1/2程度遺存している。口径18.6cm、底径5.8cm、器高6.5cmである。外面口縁部から底部かけてはロクロナデ、底部はヘラケズリで調整されている。台部分はヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後、吸炭による黒色処理が行われている。2は土師器の碗である。口縁部から底部にかけての破片である。底面にかかる部分がないため1と同じ台付の碗である可能性もある。推定口径16.2cmで他は不明である。外面口縁部から底部にかけてロクロナデ後底部ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデ後1と同様に吸炭による黒色処理が行われている。3は土師器の碗である。口縁部から底部にかけての破片である。底面にかかる部分がないため1と同じ台付の碗である可能性もある。推定口径17.6cmで他は不明である。外面口縁部から底部にかけてロクロナデ後底部ヘラケズリで調整されている。口縁部は内面と同様に吸炭による黒色化が見られる。内面はロクロナデ後吸炭による黒色処理が行われている。

4は土師器の杯である。体部から底部にかけての破片である。外面はロクロナデで調整されている。内面はロクロナデ後吸炭による黒色処理が行われている。

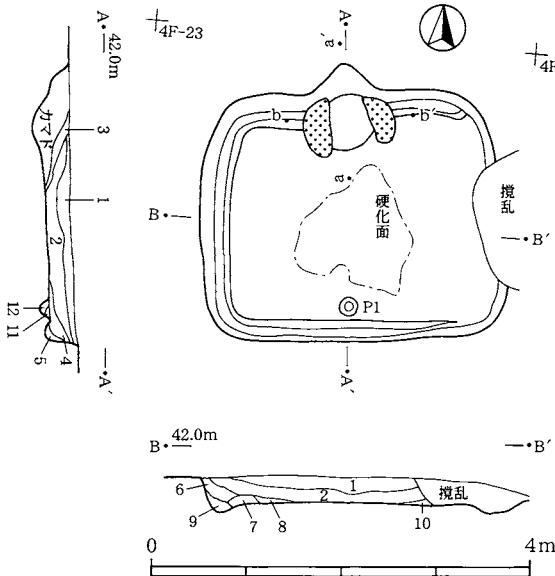
5～7は土師器の甕である。5は土師器の甕の口縁部の破片である。口縁部から頸部にかけて細長く立ち上がる器形になると思われる。口径26.8cmで他は不明である。外面口縁部から頸部にかけてナデ、頸部以下ヘラケズリの調整が見られる。内面はナデで仕上げられている。6は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての大形破片である。口径23.1cmで他は不明である。外面口縁部は指の圧痕を残す比較的粗いナデ、胴部にかけては縦方向を主体としたヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。7は土師器の甕の胴部破片である。外面胴部は斜め方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられているが、所々に黒いこびり付きのようなものが見られる。

#### SI-056号 (第198図～第199図、第200図1～5)

(遺構) 調査区の北側の4B-23付近で検出された。東側は攪乱で壁が壊されている。平面形状は一辺2.6～2.9mでやや長方形気味の方形になると思われる。北壁2.95m、東壁2.50m、南壁3.15m、西壁2.55mである。主軸方位はN-5°-Wである。覆土は黒～暗褐色土により数枚に分かれている。床面は中央部分で硬化面が確認されている。カマドは北壁中央部分に構築されている。柱穴は検出されなかったが、南壁中央部分の壁際で梯子ピットと思われるピット1が検出されている。

(遺物) 住居の覆土下層より数点の土器片等が検出された。図示したのは、土師器杯2点、土師器甕3点である。

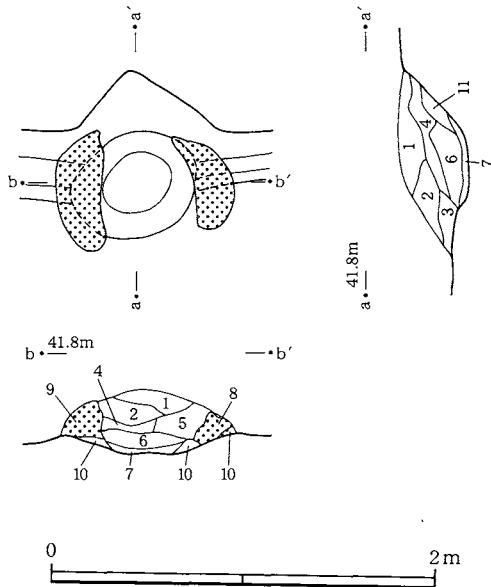
1、2は土師器の杯である。1は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。底部からやや丸みを持ちながら口縁部に立ち上がる器形である。口径11.2cm、底径5.0cm、器高2.8cmである。外面口縁部



第198図 SI-056号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

SI-056号 土層セクション

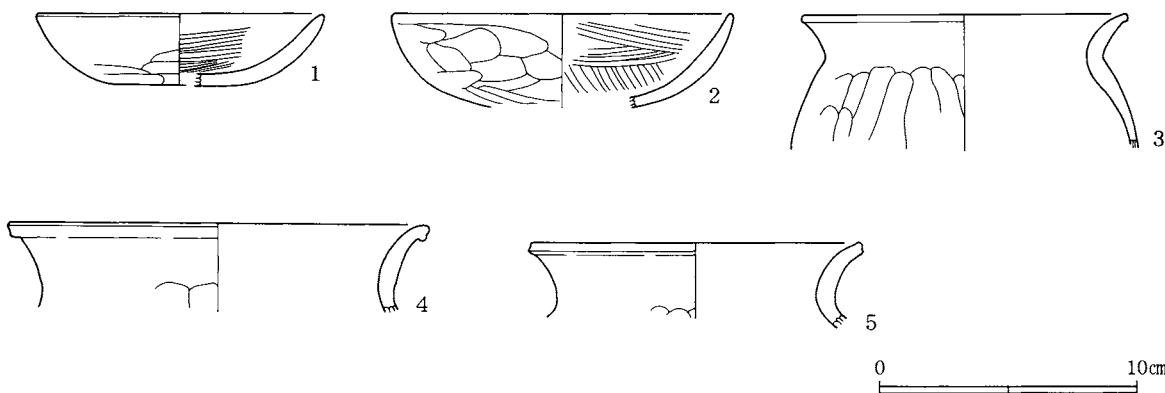
- 1層 (黒～暗褐色土) 締まりあり固い。φ 3～5 mmローム粒少量、焼土粒微量に含む。
- 2層 (暗褐色土) 締まりありやや固い。φ 3～5 mmローム粒や多量、焼土粒微量含む。
- 3層 (暗褐色土) ややもろい。締まりありやや軟質。山砂を少量含む。φ 1 mmローム少量、焼土粒、炭化粒微量に含む。
- 4層 (暗褐色土) 2層より暗色。締まりありやや軟質。φ 3～5 mmローム粒少量含む。
- 5層 (暗褐色土) 明るい土。締まりありやや軟質。φ 5～7 mmローム混入する。
- 6層 (黒褐色土) 締まりありやや固い。ローム粒やや固い。φ 3～5 mmローム粒少量含む。
- 7層 (暗褐色土) 締まりありやや軟質。細かいローム粒を多量に含む。
- 8層 (黒褐色土) 締まり固い。ローム粒微量に含む。
- 9層 (暗黄褐色土) 締まりありやや軟質。ロームを10%以上含む。
- 10層 (暗黄褐色土) ロームを多く含む。
- 11層 (暗褐色土) やや締まり欠く。ローム粒多く含む。梯子ピット
- 12層 (暗黄褐色土) やや締まり欠く。ロームを多く含む。梯子ピット



第199図 SI-056号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

SI-056号 カマド土層セクション

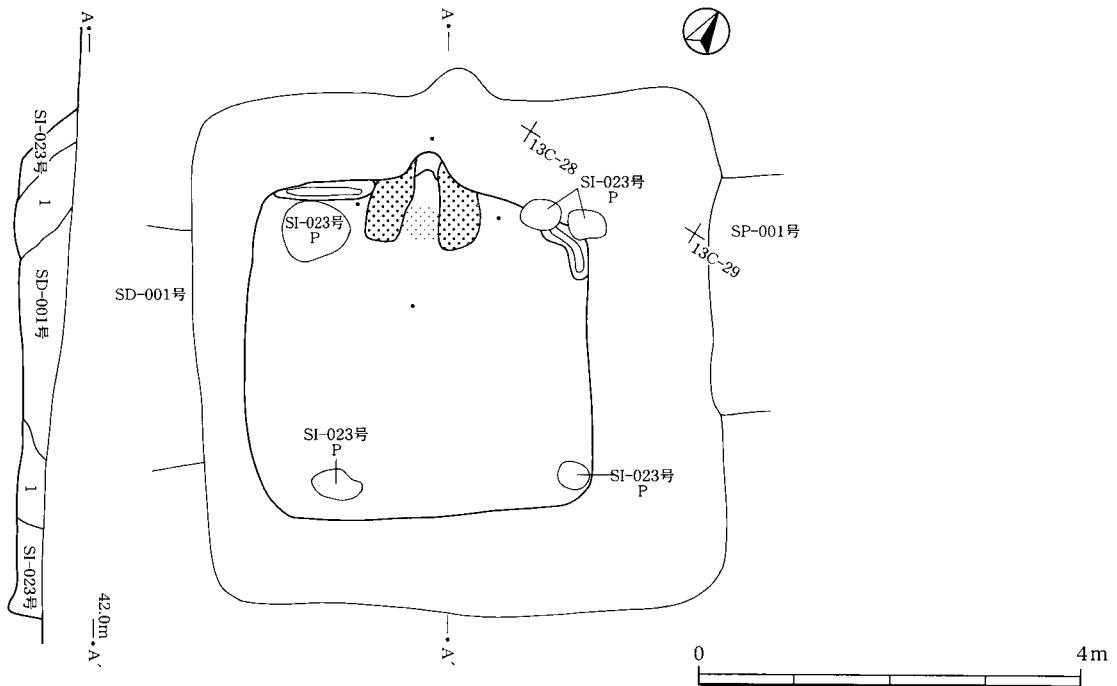
- 1層 (暗褐色土) 暗い、締まりありやや軟質。山砂をやや多く含む。
- 2層 (灰暗褐色土) 締まりありやや固い。山砂を多量に含む焼土粒、炭化物を微量に含む。天井の崩落部。
- 3層 (黒褐色土) 締まりありやや固い。焼土粒、ローム粒少量含む。
- 4層 (暗褐色土) 赤みがかる。締まりあり固い。山砂少量、焼土粒やや多く含む。
- 5層 (暗褐色土) 締まりあり固い。焼土ブロックやや多く、ローム少量含む。
- 6層 (暗赤褐色土) 締まりあり固い。暗褐色土に焼土ブロックを多く含む。
- 7層 (暗黄褐色土) 締まりあり固い。ローム主体、焼土粒微量に含む。掘り方。
- 8層 (灰褐色土) 山砂を50%含む。袖部分。
- 9層 (暗褐色土) 灰色がかる。山砂を多量に含む。焼土ブロックを微量に含む。袖部分。
- 10層 (褐色土) ローム主体。袖部分。
- 11層 (暗褐色土) ソフトロームを含み、締まりなし。



第196図 SI-055号 出土遺物実測図 1 (Scale 1/3)

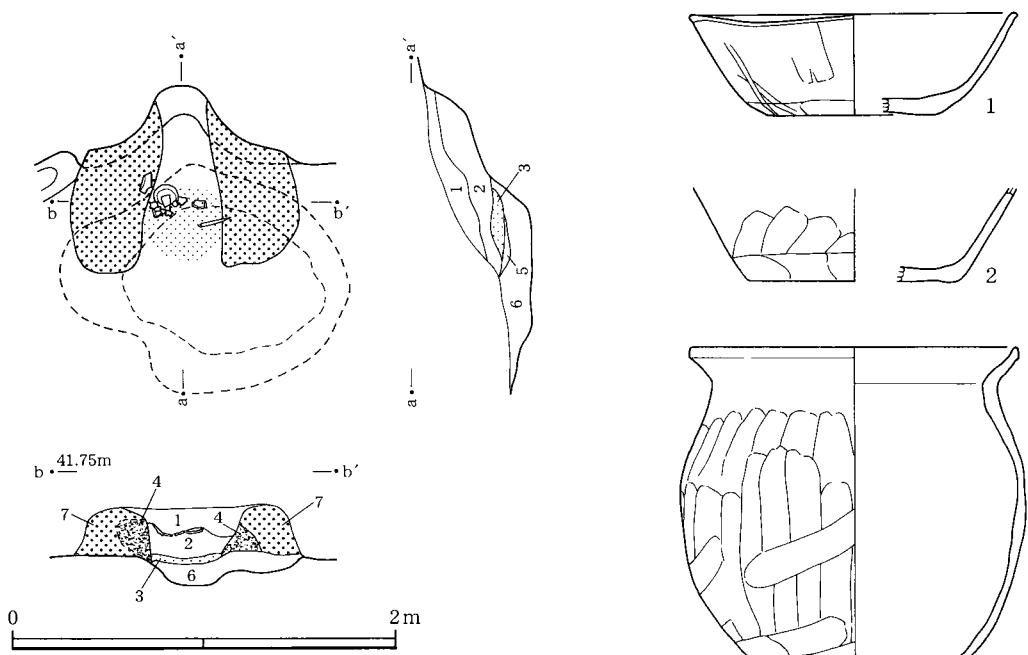
はナデ、底部から底面にかけてはヘラケズリで調整されている。内面は比較的丁寧なミガキで仕上げられている。2は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。口径13.3cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、底部はヘラケズリで調整されている。内面はミガキで仕上げられている。

3～5は土師器の甕である。3は土師器の甕の口縁部から胴部上半部の破片である。口径12.6cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、胴部にかけては縦方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕



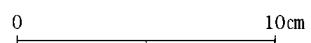
SI-058号 土層セクション  
1層（暗褐色土） 繊まりありやや固い。焼土粒少量、山砂少量混ざる。

第201図 SI-058号 平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



SI-058号 カマド土層セクション  
1層（暗褐色土） 山砂多量、焼土粒微量に含む。  
2層（暗褐色土） 黒色土多量、山砂微量に含む。  
3層（暗赤褐色土） 焼土多量、焼土小ブロック微量含む。  
4層（赤褐色土） カマド壁の焼成部分である。  
5層（黒褐色土） 焼土粒、炭化物少量含む。  
6層（暗褐色土） ローム粒、ブロックやや含む。焼土粒微量に含む。掘り方、  
7層（灰暗褐色土） 山砂主体、焼土粒微量に含む。

第202図 SI-058号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第203図 SI-058号 出土遺物実測図 (Scale 1/3)

上げられている。4は土師器の甕の口縁部から頸部にかけての破片である。口径16.4cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、頸部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。5は土師器の甕の口縁部から頸部の破片である。口径12.9cmで他は不明である。外面口縁部はナデ、頸部はヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。

#### SI-058号（第201図～第202図、第203図1～3）

（遺構）調査区の南側の13C-21付近で検出された。SI-023号住居の中央部分を壊す形で構築されている。また覆土上層と壁の一部がSD-001号溝により壊されている。平面形状は一辺3.5m程度の正方形に近い形になると思われる。北西壁3.54m、北東壁3.20m、南東壁3.52m、南西壁3.48mである。主軸方位はN-31°-Wである。覆土は下層部分の暗褐色土が1枚残されている。床面はハードローム直上まで掘り込んでいるため全体に硬めである。カマドは北西壁中央部分に構築されている。袖部分と火床部はしっかり残されている。柱穴は検出されなかった。

（遺物）住居のカマド中央部分より甕や杯が置かれた形で出土している。図示したのは、土師器杯1点、土師器甕2点である。

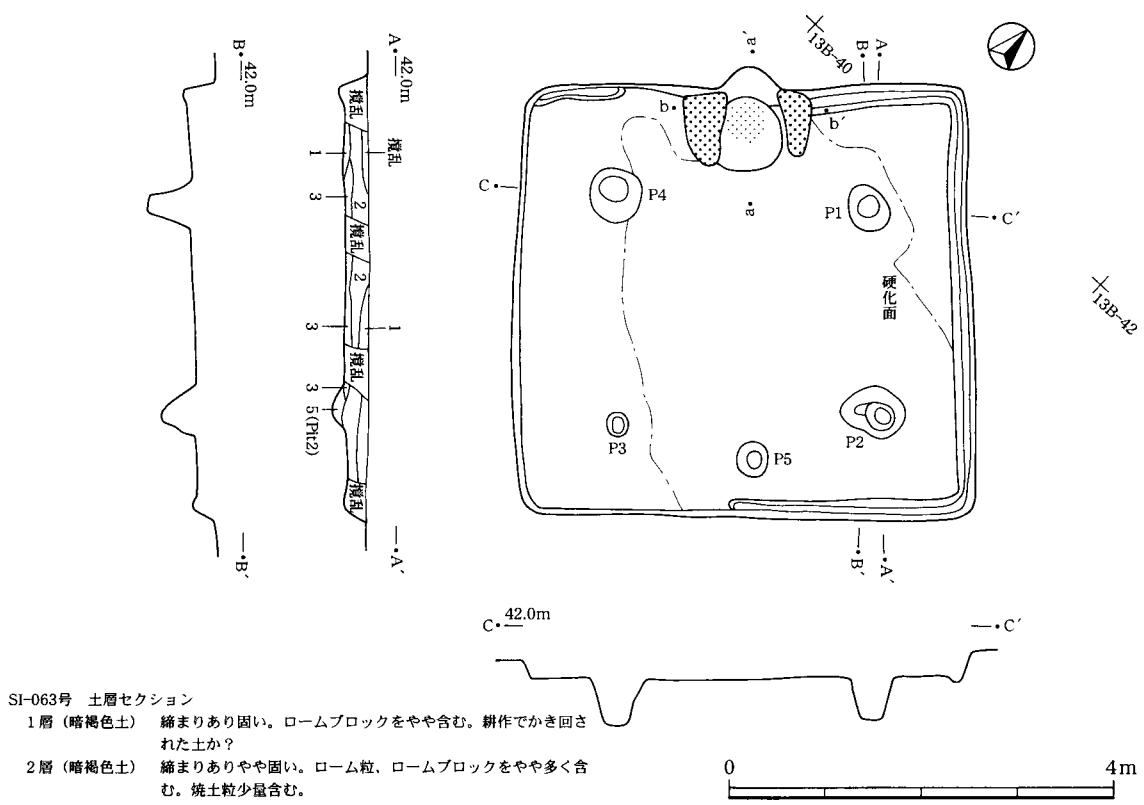
1は土師器の杯でほぼ1/2程度残存する。口径12.8cm、底径6.6cm、器高4.0cmである。外面口縁部ロクロナデ、底部ヘラケズリで調整されている。内面はロクロナデで仕上げられている。外面の一部に火櫛が見られる。内面は二次焼成のため煉瓦状に器面が荒れている。

2、3は土師器の甕である。2は土師器の甕の底部破片である。底部の1/2程度遺存している。底径8.2cmで他は不明である。外面底部はヘラケズリ、内面はナデで仕上げられている。3は土師器の甕で3/4程度遺存している。口径12.8cm、底径5.6cm、器高13.3cmである。外面口縁部ナデ、胴部から底部にかけては縦方向のヘラケズリを主体とした調整、底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面はナデで仕上げられている。器厚は非常に薄く丁寧に仕上げられている。底面はヘラケズリで仕上げられているが、ヘラを押し当てた跡が残されている。

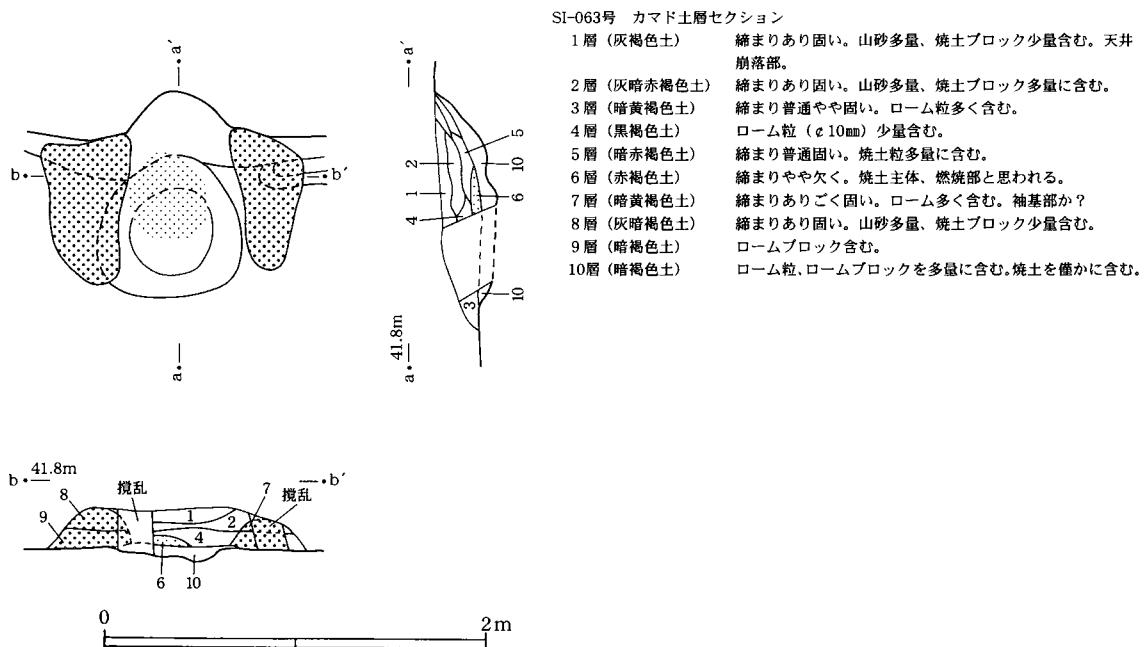
#### SI-063号（第204図～第205図）

（遺構）調査区の南側の13B-40付近で検出された。全体に攪乱が著しく、上面での確認ができず、下層の確認調査の断面より判明した。攪乱は床面まで及び覆土の残りも必ずしも良好とはいえない。平面形状は一辺4.6～4.8m程度の正方形に近い形になると思われる。北西壁4.65m、北東壁4.60m、南東壁4.85m、南西壁4.55mである。主軸方位はN-43°-Wである。覆土は暗褐色土で3層に分かれるが、攪乱が著しい。床面からはP1～P4までの柱穴及び梯子ピットと思われるP5が検出されている。何れも床面より50cm程度の深さと思われるが、P3については特に周辺の床面部分の攪乱が特にひどく攪乱部分をはぎ取った後かろうじて検出された。床面の硬化部分についても残された部分から推定された。カマドは北西壁中央部分に構築されている。袖部分と火床部ともに部分的に残されている。

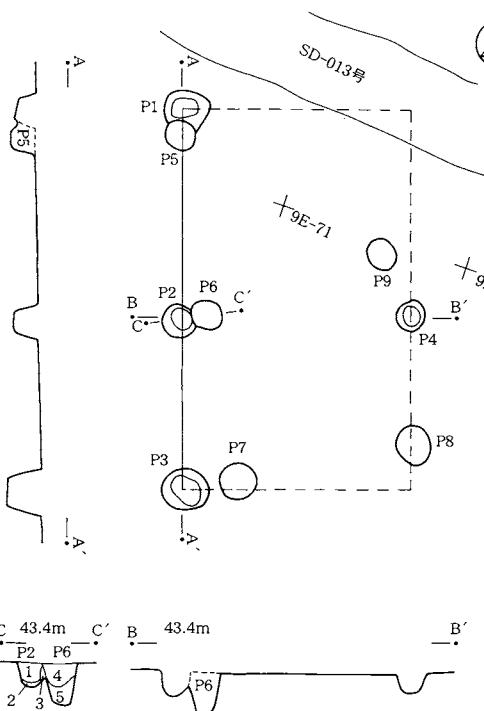
（遺物）土器の破片が数点見られたが、図示可能なものは皆無であった。



第204図 SI-063号 平面図、セクション図、エレベーション図 (Scale 1/80)



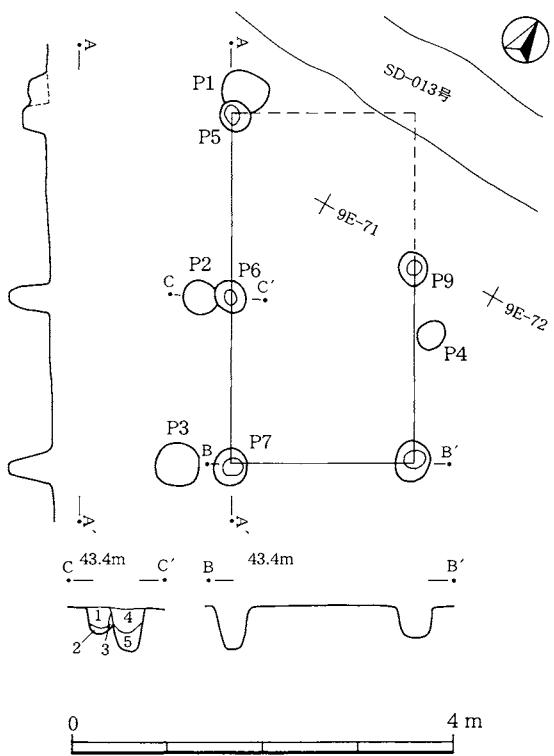
第205図 SI-063号 カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



SI-062(a)(b)号 土層セクション

- 1層（黒～暗褐色土） 繊まりあり固い。ローム粒少量含む。
- 2層（暗褐色土） やや繊まり欠く。やや軟質。ローム粒多く含む。
- 3層（黒～暗褐色土） 繊まりあり固い。ローム粒少量含む。
- 4層（暗褐色土） 繊まりあり固い。ローム粒少量含む。
- 5層（暗赤褐色土） 繊まりあり固い。ローム粒多く含む。

第206図 SI-062(a)号 平面図及びセクション図  
(Scale 1/80)



第207図 SI-062(b)号 平面図及びセクション図  
(Scale 1/80)

### (3) 遺構（掘立柱建物跡）

#### SI-062 (a) 号（第206図）

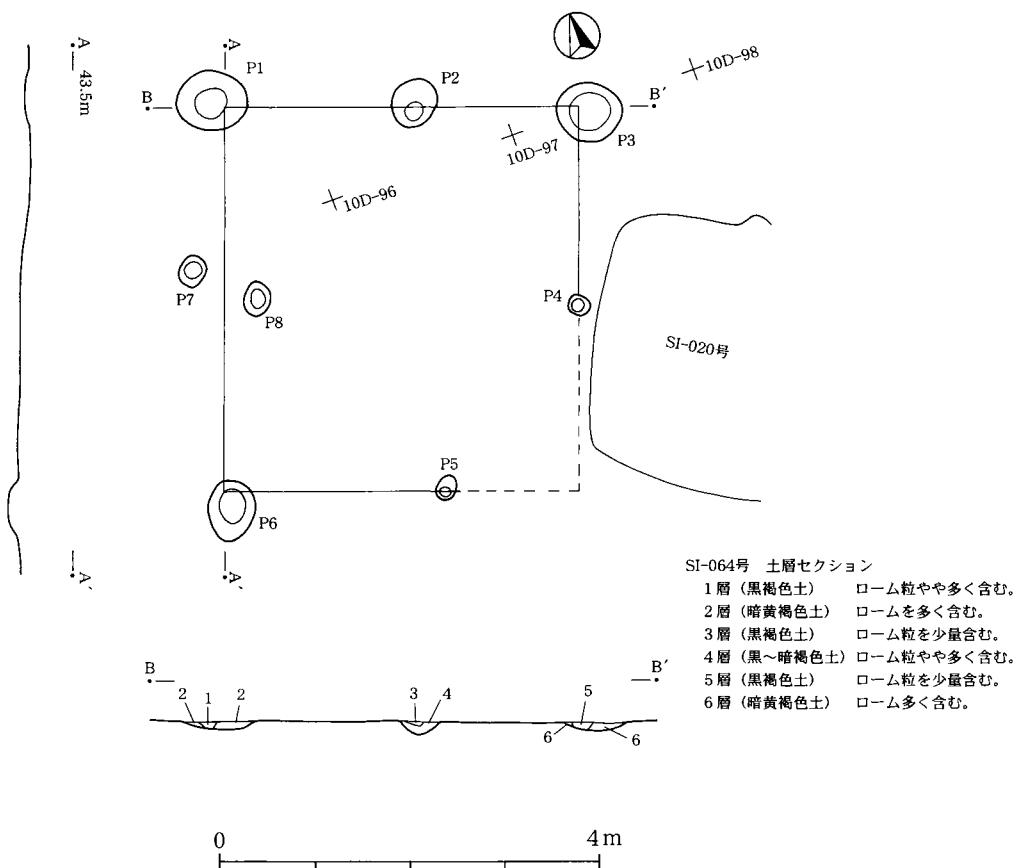
（遺構）調査区の中程の9E-60付近で検出された。SI-064 (b)号と切り合い関係にあり、こちらが古い時期にあたる。北西側の柱跡をSD-013号により壊されている。規模は梁行1間(2.4m)×桁行2間(4m)である。長軸方位はN-19°-Wである。柱穴の掘方は底面が楕円形もしくは隅丸方形である。南東隅の柱穴は攪乱が激しいため確認できなかったと思われる。柱穴より土師器破片が少量検出されている。

（遺物）土器の破片が数点見られたが、図示可能なものは皆無であった。

#### SI-062 (b) 号（第207図）

（遺構）調査区の中程の9E-60付近で検出された。SI-064 (a)号と切り合い関係にあり、こちらが新しい時期にあたる。北西側の柱跡をSD-013号により壊されている。規模は梁行1間(1.9m)×桁行2間(3.6m)である。長軸方位はN-29°-Wである。柱穴の掘方は底面が楕円形もしくは円形に近い形である。柱穴より土師器破片が少量検出されている。

（遺物）土器の破片が数点見られたが、図示可能なものは皆無であった。



第208図 SI-064号 住居跡平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

#### SI-064号 (第208図)

(遺構) 調査区の南側の10D-85付近で検出された。SI-020号住居に隣接する。トレッチャーアーにより残存が悪く、下層確認調査中に確認された。そのため浅い掘り込みで検出されたにすぎない。北側の3個のピットについては柱痕も見られ、しっかりしているが、他のピットはあまりはつきりしない。規模は梁行2間(4.0m)×桁行2間(3.7m)と思われる。長軸方位はN-20°-Eである。柱穴の掘方は底面が円形に近い形である。

(遺物) 確認面が深いため遺物は見られなかった。

第4表 SI-001号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第30図1	1、6、21	杯	口径15.6 底径 6.3 器高 4.4	95%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	良	内面: ナデ後ヘラミガキ 外面: ヘラケズリ後ヘラミガキ
第30図2	5	甕	口径 6.8 底径 6.8 器高	底部30%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: 剥落 外面: ヘラケズリ
第30図3	14	甕	口径 7.6 底径 7.6 器高	底部30%	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色～黒褐色	やや不良	内面: ヘラナデ 外面: 剥落
第30図4	10、11	椀	口径10.05 底径 5.6 器高 5.6	60%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 軽いナデ、輪積み痕あり
第30図5	15、19	甕	口径 10.85 底径 10.85 器高	底部30%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	良	内面: ケズリ後縦方向のヘラミガキ 外面: ヘラケズリ
第30図6	9、11、12、18	高杯	口径15.6 底径 6.3 器高	90%以上	粒子がやや細かい	器表: 淡赤褐色 器肉: 淡褐色	やや良	脚部: ヘラケズリ後ヘラミガキ 内外面: ヨコナデ後ミガキ
第30図7	21	杯	口径16.75 底径 6.75 器高	口縁部35%	粒子がやや細かい	器表: 淡赤褐色 器肉: 淡赤褐色	やや良	外面: ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面: 斜め方向のヘラミガキ

第5表 SI-002号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第48図1	1	甕	口径 9.45 底径 6.45 器高	口縁部20%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	良	内面: ナデ 外面: ヨコナデ、胴部縦方向のヘラケズリ
第48図2	5	甕	口径 16.6 底径 16.6 器高	底部35%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内外面とも剥落が激しい
第48図3	21	甕	口径16.45 底径 6.45 器高	口縁部25%	粒子がやや細かい	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヨコナデ 部以下ヘラケズリ
第48図4	2、3、4、6、9、10、11、12、13、14、15、17、18、20、23、24	甕	口径16.75 底径 6.75 器高	口縁部～胴部35%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内外面とも剥落が激しい 口縁部分と胴部上半部分に赤彩された部分が残る

第6表 SI-003号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第49図1	25	杯	口径12.8 底径 6.3 器高 3.9	35%	粒子がやや細かい	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡茶褐色	良	内面: ロクロヨコナデ 外面: ヘラケズリ後ヘラミガキ
第49図2	16、23	杯	口径11.3 底径 6.45 器高 4.3	50%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	良	外面: ロクロヨコナデ、底面回転糸切り後ヘラケズリ 墨書『大』
第49図3	3、28、31	杯	口径12.9 底径 6.6 器高 3.6	50%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	外面: ロクロヨコナデ、底面回転糸切り後ヘラケズリ
第49図4	25	杯	口径12.65 底径 6.65 器高	口縁部25%	粒子が非常に細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	良	内外面: ロクロヨコナデ
第49図5	2、3、4、5、6、7、9、10、16、18～23、25、27	甕	口径30.4 底径 6.45 器高	口縁部～胴部35%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色～暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、部～胴部斜めヘラケズリ
第49図6	4、16、25、31	甕	口径11.6 底径 6.6 器高	口縁部～胴部35%	粒子がやや粗い	器表: 赤褐色 器肉: 赤褐色	やや良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、部～胴部斜めヘラケズリ
第49図7	25	甕	口径 5.7 底径 5.7 器高	底部25%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡赤褐色	やや不良	内面: 剥落で不明 外面: ヘラケズリ
第49図8	25	甕	口径16.0 底径 6.0 器高	口縁部～部40%	粒子がやや粗い	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや良	内面: ヨコナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、部以下ヘラケズリ
第49図9	4、11	甕	口径 7.8 底径 7.8 器高	底部35%	粒子がやや粗い	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: 剥落で不明 外面: ヘラケズリ
第49図10	4	甕	口径 7.0 底径 7.0 器高	底部25%	粒子がやや粗い	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: 剥落で不明 外面: ヘラケズリ
第49図11	1、2、12、14、15、28	須恵器 甕	口径15.6 底径 5.6 器高	底部16%	粒子がやや粗い	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	不良	内面: 剥落で不明 外面: 横方向のヘラケズリ、一部ミガキ
第49図12	4	杯	口径 5.65 底径 5.65 器高	底面50%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 暗褐色	やや良	外面: 底部回転糸切り後ヘラケズリ

第7表 SI-004号出土土器観察表1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第55図1	3、97、143、144、324、332	杯	口径13.4 底径 5.4 器高 4.3	25%	粒子がやや粗い	器表：淡灰褐色 器肉：黒色	良	内面：ナデ後ミガキ黒色処理 外面：ロクロナデ底部底面ヘラケズリ
第55図2	215	杯	口径13.2 底径 5.3 器高 4.4	66%	粒子がやや粗い	器表：淡暗褐色 器肉：淡暗褐色	やや良	内面：ロクナナデ 外面：ロクロナデ底部底面ヘラケズリ
第55図3	4、65、72	杯	口径13.85 底径 5.9 器高 4.7	34%	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：黒色	やや良	内面：ナデ後若干のミガキ 海面：ロクロナデ後底部ヘラケズリ
第55図4	3、170、230、238	杯	口径12.9 底径 5.7 器高 4.2	66%	粒子が粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ底部ヘラケズリ底面回転糸切り後ヘラケズリ
第55図5	77、139、277、305、312、325	須恵器皿	口径13.45 底径 4.8 残器高 2.7	90%	粒子が粗い	器表：灰褐色 器肉：灰褐色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ 高台部分欠損
第55図6	4、314	小皿	口径8.1 底径 5.45 器高 1.8	50%	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ
第55図7	413	須恵器杯	口径11.5 底径 5.4 器高 3.95	100%	粒子が粗い	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	やや良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第55図8	3、290	須恵器杯	口径11.6 底径 5.9 器高 3.9	66%	粒子が粗い	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	やや良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第55図9	473	杯	口径12.2 底径 5.6 器高 4.1	80%	粒子がやや細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ 不明墨書き有り
第55図10	13、102、285、366、379、465	杯	口径13.05 底径 7.05 器高 4.35	80%	粒子がやや細かい	器表：淡暗褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第55図11	4、368、442、465	須恵器杯	口径12.85 底径 6.6 器高 4.2	50%	粒子がやや細かい	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第55図12	289	皿	口径13.25 底径 8.6 器高 3.0	100%	粒子がやや細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後高台部取り付け
第55図13	3、464、465	須恵器皿	口径9.85 底径 6.4 器高 2.2	33%	粒子がやや細かい	器表：淡灰褐色 器肉：淡灰褐色	不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第55図14	4、187、464、465、487	杯	口径13.9 底径 6.2 器高 5.2	20%	粒子が細かい	器表：淡灰褐色 器肉：淡暗褐色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第55図15	383	須恵器杯	口径 8.0 底径 5.6 器高 3.1	50%	粒子がやや粗い	器表：淡灰褐色 器肉：淡暗褐色～淡赤褐色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第55図16	341、464	須恵器皿？		高台のみ 35%	粒子がやや細かい	器表：淡暗褐色 器肉：淡赤褐色	不良	内面：ミガキ 外面：ロクロナデ
第56図17	1、3、58、108、269、295、416	杯	口径12.85 底径 5.8 器高 4.1	60%	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ後底面ミガキ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第56図18	293	甕	口径13.2	16%	粒子はやや細かい	器表：淡赤褐色 器肉：淡赤褐色	やや良	内面：ナデ、ヨコナデ 外面：丁寧なナデ
第56図19	165	甕	口径16.0	20%	粒子はやや細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ、ヨコテデ 外面：ナデ後ヘラケズリ
第56図20	198	甕	口径16.4 胴部径16.0	25%	粒子はやや細かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面ヨコナデ、胴部縦方向のヘラケズリ
第56図21	165	甕	口径15.4	16%	粒子はやや細かい	器表：淡褐色 器肉：淡暗褐色	やや良	内面：ナデ 外面ヨコナデ、胴部縦方向のヘラケズリ
第56図22	172	甕	口径16.1	16%	粒子はやや粗い	器表：暗赤褐色 器肉：淡淡褐色	不良	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後ケズリ
第56図23	413	甕	口径19.75	12%	粒子はやや粗い	器表：灰褐色 器肉：灰褐色	不良	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、部ケズリ
第56図24	435、485	甕	口径18.2	18%	粒子はやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ、剥落 外面：口縁部ヨコナデ、胴部磨耗
第56図25	401、458	甕	口径14.1	20%	粒子はやや細かい	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後ケズリ
第56図26	4、103、204、205、206、208、209、247	甕	口径17.8	25%	粒子はやや細かい	器表：淡暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部縦方向のヘラケズリ
第56図27	475	甕	口径14.8	16%	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部縦方向のヘラケズリ

第8表 S I -004号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第57図28	1、46、421、461、463、464	甕	口径17.4	40%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡赤褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第57図29	385	甕	底径 5.7	底部底面 50%	粒子がやや粗い	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第57図30	15、16、35、46、47、48、49、69、73、283、298、459	甕	底径 9.2	底部底面 90%	粒子がやや粗い	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 胴部ケズリ後ナデ、底部底面ヘラケズリ
第57図31	362	須恵器 甕	口径21.6	口縁部18%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口唇部ヨコナデ、口縁部ナデ
第57図32	420、464、465	須恵器 甕	口径31.0	口縁部18%	粒子がやや細かい	器表: 灰褐色 器肉: 淡灰褐色	不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目
第57図33	1、434	須恵器 甕	口径21.4	口縁部18%	粒子がやや粗い	器表: 灰褐色 器肉: 明褐色	不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目
第57図34	66	須恵器 甕	口径16.35	口縁部12%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目
第57図35	349、464	須恵器 甕	不明	不明	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 明褐色	やや不良	内面ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目
第57図36	4、127	須恵器 甕	底径14.4	底面50%+ 底部破片	粒子やや細かい	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡茶褐色	やや不良	内面: ヨコナデ 外面: 横方向ヘラケズリ
第57図37	4681	須恵器 甕	底径 8.6	底面66%+ $\alpha$	粒子がやや粗い	器表: 赤褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第57図38	352	須恵器 甕	底径 9.4	底部20%	粒子がやや粗い	器表: 黒褐色 器肉: 淡茶褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 横方向のヘラケズリ
第57図39	28	須恵器 甕	底径15.75	底部10%弱	粒子やや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	不良	内面: ナデ 外面: 横方向のヘラケズリ
第57図40	43	須恵器 甕	底径 9.45	底部25%+ 底面25%	粒子がやや粗い	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡茶褐色	やや不良	内面: あまめのナデ 外面: 横方向のヘラケズリ
第57図41	485	須恵器 甕	底径14.4	底部10%以下	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 灰褐色	不良	内面: 非常にあまいナデ 外面: 横方向のヘラケズリ
第58図42	429	須恵器 甕	底径12.4	底面66%	粒子がやや細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	良	内面: 一部自然 外面: ヨコナデ
第58図43	432	須恵器 甕	底径17.05	底面66%+ 底部	粒子がやや粗い	器表: 濃灰色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: 横方向ヘラケズリ
第58図44	4	須恵器 甕	底径12.25	底面25%+ $\alpha$	粒子がやや細かい	器表: 濃茶褐色 器肉: 濃茶褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第58図45	1、4	須恵器 甕	口径26.5	口縁部10%以下	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヨコナデ
第58図46	134、257、380	須恵器 甕	不明	部~肩部 分25%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: タタキ目
第58図47	188、228	須恵器 甕	底径 8.4	底部25%	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	不良	内面: ナデ 外面: 斜め上からのヘラケズリ
第58図48	91	須恵器 甕	底径 8.4	底面80%	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第58図49	433	須恵器 甕	底径12.8	底面10%以下	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第58図50	400、407	須恵器 甕	底径 7.3	底面 100%+ $\alpha$	粒子がやや粗い	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第58図51	384	須恵器 甕	底径12.3	底面34%+ $\alpha$	粒子がやや細かい	器表: 淡灰色 器肉: 淡灰色	やや良	内面: ナデ 外面: ヨコナデ
第58図52	4、63、120	杯	底径 5.65	底面34%	粒子が細かい	器表: 淡黄白色 器肉: 淡黄白色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第58図53	354、465	杯	口径12.5 底径 5.8 器高 3.8	20%	粒子がやや細かい	器表: 淡灰色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、ヘラケズリ

第9表 SI-004号出土土器観察表3

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第58図54	3、485	杯	口径11.5	口縁部25%	粒子がやや細かい	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ
第58図55	142、319、320、419	杯	口径12.0 底径 6.9 器高 4.2	34%	粒子がやや細かい	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第58図56	1、37、465	杯	口径14.9 底径 7.8 器高 4.4	50%	粒子がやや細かい	器表: 黒色～暗褐色 器肉: 淡暗褐色	やや良	内面: ミガキ後黒色処理 外面: ナデ後ヘラケズリ
第58図57	4、146	杯	口径11.2 底径 6.0 器高 4.1	25%	粒子がやや粗い	器表: 淡灰色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第58図58	4	杯	口径12.7 底径 7.0 器高 4.1	20%	粒子がやや細かい	器表: 暗灰色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第58図59	202、203	杯	口径11.8	底面除き 50%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ
第58図60	343	杯	底径 8.0	底面50%+ $\alpha$	粒子が細かい	器表: 淡黄褐色 器肉: 淡黄褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第58図61	485	杯	口径 7.3 底径 4.8 器高 1.9	25%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ
第58図62	414	杯	口径13.8	口縁部～底部34%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ
第58図63	140	杯	口径 8.7 底径 5.8 器高 2.8	25%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第58図64	27	杯	口径13.8 底径 8.6 器高 4.6	20%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後底部ヘラケズリ
第58図65	267	皿	口径14.2	20%	粒子が細かい	器表: 淡灰色～黒色 器肉: 淡灰色	やや良	内面: ナデ後黒色処理 外面: ナデ
第58図66	1、3、55、86、156、194、216、313、321、424、425、428、464	甕	口径22.2	口縁部～胴部34%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 焦げ茶色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコテデ胴部タタキ目
第58図67	239、260、297、317、477、478、485	甕	不明	胴部20%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 焦げ茶色	やや不良	内面: ナデ 外面: 胴部タタキ目、底部ヘラケズリ
第59図68	478、479	甕	底径13.45	底部18%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 焦げ茶色	やや不良	内面: ナデ 外面: 胴部タタキ目、底部ヘラケズリ
第59図69	471、479、485	甕	不明		粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: 当て具痕 外面: タタキ目、胴部下半部分ヘラケズリ
第59図70	464	杯	口径12.4 底径 7.0 器高 3.8	18%	粒子がやや細かい	器表: 灰褐色 器肉: 褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後底部ヘラケズリ
第59図71	4	杯	底径 6.8	底面34%+ $\alpha$	粒子がやや粗い	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡暗褐色	やや不良	内面: ナデ後黒色処理 外面: ナデ後底部ヘラケズリ
第59図72	358	杯	底径 6.4	底面25%+ $\alpha$	粒子がやや粗い	器表: 灰褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第59図73	351	杯	底径 5.6	底面25%+ $\alpha$	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第59図74	3、157	杯	底径 5.6	底面50%+ $\alpha$	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第59図75	1、4、464	杯	口径11.2 底径 6.2 器高 4.2	25%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	底面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第59図76	478	杯	底径 5.8	底面67%+ $\alpha$	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ後底部ヘラケズリ
第59図77	464	杯	底径 6.6	底面25%+ $\alpha$	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後底部ヘラケズリ
第59図78	361	杯	底径 5.6	底面67%+ $\alpha$	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ロクロナデ 外面: ナデ後底部底面ヘラケズリ

第10表 SI-004号出土土器観察表4

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第59図79	356	杯	底径 6.4	底面34% + $\alpha$	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ後底部底面へラケズリ
第59図80	4	杯	底径 6.4	底面25% + $\alpha$	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ロクロナデ 外面: ナデ後底部底面へラケズリ
第59図81	4、484	須恵器 甕	口径14.8 底径 9.85 器高16.4	ほぼ完形	粒子がやや粗い	器表: 灰褐色 器肉: 赤褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部縦方向へラケズリ、底部斜め横方向へラケズリ
第59図82		杯		10%以下	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、外面に墨書『口』部不明
第59図83		杯		10%以下	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ、外面に墨書『?』部不明
第59図84		杯		10%以下	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、外面に墨書『口』
第59図85		杯		10%以下	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、外面に墨書『千』
第59図86		杯		10%以下	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、外面に墨書『万』薄く残る

第11表 SI-005号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第61図1	4、5	杯	口径14.55 底径 8.5 器高 3.5	34%	粒子がやや粗い	器表: 茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、底部底面へラケズリ
第61図2	10	杯	底径 7.0	底面50% + 底部	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第61図3	4	甕	底径11.8	底面25% + 底部	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 底部へラケズリ、底面無調整
第61図4	4	杯	底径 8.1	底面34% + $\alpha$	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 底面回転糸切り、底部へラケズリ
第61図5	4、7	甕	底径13.8	底部34%	粒子が粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 脊部下半タタキ目、底部へラケズリ、底面無調整

第12表 SI-007号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第65図1	11、22、36、 37、39、40、 42、43、46、 48、49	須恵器 甕	底径 8.4	底部50%	粒子がやや粗い	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後底部へラケズリ、底面無調整
第65図2	24、29、46、 47	須恵器 甕	口径24.0	口縁部35%	粒子がやや粗い	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ヨコナデ
第65図3	1、3、4、6、 12、13	須恵器 甕	口径21.0	口縁部~胴部25%	粒子がやや粗い	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: 当て具痕 外面: タタキ目
第65図4	4	杯	口径13.0	口縁部~胴部10%	粒子が細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ヨコナデ 外面: ロクロヨコナデ
第65図5	1	杯	底径 5.4	底部25%	粒子が細かい	器表: 淡黄褐色 器肉: 淡黄褐色	やや不良	底面: ヨコナデ 外面: 底部へラケズリ、底面手持ちヘラケズリ
第65図6	2~5、7、8	須恵器 甕	口径18.0	口縁部25%	粒子がやや粗い	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ヨコナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部以下タタキ目後ナデ
第65図7	1、2、4、7、 18~20	須恵器 甕	口径21.2	20%	粒子がやや粗い	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡褐色	やや良	底面: 口縁部ヨコナデ、部工具痕 胴部ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目後ナデ
第65図8	41、42、46	杯	口径18.1 底径 7.4 器高 6.3	口縁部34% 底面ほぼ完形	粒子はやや粗い	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ナデ後底部底面へラケズリ
第65図9	7、10	杯	口径13.2 底径 6.0 器高 4.4	90%	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後底部へラケズリ、底面糸切り後へラケズリ
第65図10	5	杯	口径13.2 底径 5.6 器高 4.8	50%	粒子がやや粗い	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後底部へラケズリ、底面回転ヘラ後へラケズリ

第13表 SI-008号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第67図1	SI-004 75、236、263、 280、281、418、 474 SI-008 1、6、8	須恵器 甕	底径 9.6	底部34%	粒子がやや粗 い	器表：灰色 器肉：灰色	良	内面：ナデ、指頭圧痕有り、継ぎ足し部 分が認められる 外面：タタキ目後ナデ、底部ヘラケズリ 後ナデ
第67図2	1、3、11、18	須恵器 甕	底径15.0	底部34%	粒子がやや細 かい	器表：褐色 器肉：褐色	やや不良	底面：ナデ、指頭圧痕有り 外面：タタキ目後ナデ、底部ヘラケズリ 後ナデ
第67図3	1	須恵器 甕	口径30.8	口縁部10%	粒子がやや粗 い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：口縁部ヨコナデ、部ナデ 外面： 口縁部ヨコナデ、部タタキ目後ナデ
第67図4	1、15、26	須恵器 甕	底径18.6	底径20%	粒子がやや粗 い	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	やや良	内面：ナデ 外面：胸部下半タタキ目後ナデ、底部ヘ ラケズリ

第14表 SI-009号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第69図1	3	杯	底径 6.1	底面50%+ $\alpha$	粒子がやや粗 い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：底部底面ヘラケズリ 墨書『千』
第69図2	2、22	杯	口径14.0 底径 6.6 器高 3.8	50%	粒子が細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ヨコナデ、底部回転糸切り 内外 面タール付着
第69図3	2、8、10、45	須恵器 杯	口径14.1 底径 5.8 器高 4.3	50%	粒子がやや粗 い	器表：灰色 器肉：灰褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第69図4	36	杯	口径13.0 底径 6.4 器高 4.7	34%	粒子がやや粗 い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第69図5	3、9	須恵器 (高付き) 甕	底径12.55	34%	粒子が細かい	器表：灰色 器肉：灰色	良	内面：ナデ 外面：ヨコナデ、底部回転ヘラケズリ 台部分無調整
第69図6	4、43、55	甕	口径11.5 底径 6.0 器高12.2	34%	粒子がやや細 かい	器表：淡暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヨコナデ、底部ヘラケズリ、底面 回転糸切り
第69図7	4、16	甕	口径14.8	口縁部10%	粒子がやや粗 い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ヨコナデ、部以下ヘラケズリ
第69図8	39、40	須恵器 甕	底径14.8	底部20%	粒子が粗い	器表：褐色 器肉：赤褐色	不良	内面：ナデ 外面：底部ヘラケズリ、底面無調整
第69図9	3、5~8、45、 56	須恵器 甕	口径24.7	口縁部~胴 部40%	粒子がやや細 かい	器表：灰色 器肉：淡灰色	やや良	内面：口縁部ナデ、胸部當て具痕 外面：口縁部ヨコナデ、胸部タタキ目
第70図10	1~4、31~35、 46	須恵器 甕	口径24.0	口 縁 部 50%+ $\alpha$	粒子がやや粗 い	器表：暗褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ、胸部當て具痕 外面：口縁部ヨコナデ、胸部タタキ目
第70図11	3、4、41、56、 57、59	須恵器 甕	底径14.0	底部25%	粒子が粗い	器表：赤褐色 器肉：赤褐色	不良	内面：ナデ、當て具痕 外面：胸部タタキ目後ナデ、底部ヘラケ ズリ
第70図12	3	杯	口径12.0 底径 6.2 器高 3.8	95%	粒子が細かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ナデ後底部回転ヘラケズリ、底面 ヘラケズリ
第70図13	1、4、11	杯	口径14.2 底径 6.2 器高 4.6	50%	粒子がやや粗 い	器表：淡赤褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ後底部ヘラケズリ、底面ヘラ ケズリ
第70図14	54	杯	口径12.7 底径 7.2 器高 4.4	90%	粒子がやや細 かい	器表：淡黄褐色 器肉：淡黄褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ後底部ヘラケズリ、底面糸切 り後ヘラケズリ
第70図15	3	杯	口径13.0 底径 7.0 器高 4.0	67%	粒子がやや細 かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ、墨書『千』 外面：ナデ後底部ヘラケズリ、底部回転 糸切り後ヘラケズリ、墨書『千』
第70図16	4、55、56	須恵器 甕	不明	胴部20%	粒子がやや粗 い	器表：灰色 器表：灰色	やや良	内面：ナデ 外面：胸部一部タタキ目
第70図17	4	須恵器 甕	底径 8.0	底部20%	粒子がやや粗 い	器表：灰色 器肉：灰色	やや良	内面：ナデ 外面：底部タタキ目後ヘラケズリ

第15表 SI-010号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第72図1	16、41	須恵器 杯	口径12.8 底径 6.4 器高 3.9	34%	粒子がやや粗 い 長石多量 に含む	器表：灰褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、底面回転ヘラ切り後 手持ちヘラケズリ
第72図2	29	須恵器 杯	底径 6.8	底面60%	粒子がやや粗 い 長石を含 む	器表：灰褐色 器肉：赤褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリ 後ミガキ 線刻『中』
第72図3	93、94	杯	口径13.2 底径 6.4 器高 4.3	67%	粒子がやや粗 い 長石を含 む	器表：暗褐色 淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、底部一部ミガキ 底面糸切 り後無調整
第72図4	85、91	杯	口径14.5 底径 7.4 器高 4.7	67%	粒子がやや粗 い 長石多量 に含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：ナデ 底部ヘラケズリ 底面回転 ヘラケズリ
第72図5	38、65	須恵器 甕	口径19.8	口縁部20%	粒子がやや粗 い長石を多量 に含む	器表：灰褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ
第72図6	61、90	須恵器 甕	口径22.6	口縁部25%	粒子がやや粗 い長石をやや 含む	器表：灰褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ
第72図7	4、91	須恵器 甕	口径20.3	口縁部34%	粒子がやや細 かい長石を含 む	器表：黒褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ
第72図8	6、10	須恵器 甕	底径 4.9	底部34%	粒子がやや粗 い長石、石英 を含む	器表：灰褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリ
第72図9	3、35、50、55、 91、92	須恵器 甕	口径26.0 底径13.0 器高17.55	50%	粒子がやや細 かい	器表：灰褐色 器肉：赤褐色	やや不良	内面：口縁部ナデ、胴部工具痕、底部ナ デ、底面剥落 外面：口縁部ナデ、胴部タタキ目、底部 ヘラケズリ、底面無調整
第73図10	7、26、47	須恵器 甕	胴部径37.4	胴部10%以 下	粒子が細かい	器表：灰色 器肉：灰色	良	内面：工具痕 外面：タタキ目
第73図11	22、55、90、 91	須恵器 甕	口径31.0	口縁部18%	粒子が細かい	器表：褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ、輪積み痕 外面：口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目
第73図12	51、90	須恵器 杯	底径 5.2	底面50% + 底部	粒子がやや粗 い	器表：灰褐色 器肉：灰褐色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、底部底面ヘラケズリ
第73図13	43、45	杯	口径11.4 底径 6.4 器高 3.6	25%	粒子が細かい	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ナデ、底部ヘラケズリ、底面ヘラ ケズリ
第73図14	46、90	杯	口径14.0	口縁部34%	粒子が細かい	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや良	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、底部回転ヘラケズリ
第73図15	91	須恵器 杯	口径12.4 底径 6.4 器高 3.8	口縁部25% 底部底面 50%	粒子がやや粗 い長石を多量 に含む	器表：灰色 器肉：褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ロクロナデ、底部底面ヘラケズリ
第73図16	30	杯	口径 6.2	底部底面 34%	粒子が細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ
第73図17	91	須恵器 杯	底径 7.0	底部底面 20%	粒子がやや粗 い長石を多量 に含む	器表：灰色 器肉：灰色	やや良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ
第73図18	81、82	杯	口径12.2	口縁部25%	粒子が細かい	器表：灰白色 器肉：灰白色	やや良	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、底部回転ヘラケズリ
第〇図19	87、91	杯	口径11.6 底径 6.5 器高 3.9	20%	粒子が細かい	器表：褐色 器肉：淡褐色	やや不良	底面：ナデ 外面：ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第73図20	91	杯		底面破片	粒子が細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：回転糸切り痕 底面内面に墨書『吉』
第73図21	90	杯		胸部破片	粒子が細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 後ミガキ、黒色処理 外面： ナデ 外面に墨書『万口?』

第16表 SI-011号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第75図1	3	杯	口径13.6 底径 9.0 器高 3.8	25%	粒子が細かい スコリアが多い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ一部剥落 外面: ヨコナデ後底部底面へラケズリ
第75図2	34	杯	口径14.4 底径 10.0 器高 3.9	34%	粒子がやや細かい 長石が多い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ後ミガキ 外面: ナデ後ミガキ、ヘラケズリ後ミガキ
第75図3	7、10	甕	口径11.4	口縁部～胴部上半部 50%	粒子がやや粗い 長石を含む	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡褐色	やや良	底面: ナデ 外面口縁部ヨコナデ、胴部へラケズリ
第75図4	3	杯	口径12.8 底径 5.6 器高 4.0	20%	粒子がやや細かい 長石が多い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、底部底面へラケズリ
第75図5	8	杯	口径16.0	口縁部～底部20%	粒子がやや細かい 長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ後ミガキ
第75図6	3	杯	口径13.6 底径 7.6 器高 4.0	20%	粒子がやや粗い 石英、長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	良	内面: 口縁部ヨコナデ、底部底面ナデ後 ミガキ 外面: 口縁部ナデ後底部へラケズリ
第75図7	2、14、27、35	甕	口径13.5	口縁部20%	粒子がやや細かい 長石を含む	器表: 茶褐色 器表: 淡褐色	やや良	内面: 口縁部ヨコナデ 外面: 口縁部ヨコナデ
第75図8	4	甕	口径27.4	口縁部25%	粒子がやや細かい 長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: 口唇部ヨコナデ、ヘラケズリ 外面: ヨコナデ、ミガキ
第75図9	4、19、29、30	甕	底径 9.3	底部34%	粒子がやや粗い 長石を含む	器表: 茶褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第75図10	4、23	甕	底径 9.5	底面ほぼ遺存、底部 20%	粒子がやや粗い 長石を含む	器表: 茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: 剥落のため不明 外面: ヘラケズリ

第17表 SI-012号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第77図1	8	杯	底径 5.8	口縁部欠損 全体の25%	粒子がやや粗い 長石を多量に含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ、黒色処理 外面: 胴部ヨコナデ、底部へラケズリ、 底面糸切り痕
第77図2	2、3	甕	底径 9.5	底部20% 底面67%	粒子やや粗い スコリア、長石を多量に含む	器表: 淡茶褐色 器肉: 黒褐色	やや不良	内面: 当て具痕 外面: 底部上半部ナデ、下端部へラケズリ、 底面へラケズリ
第77図3	2、10	杯	底径 6.0	底面67%	粒子がやや粗い 長石、石英を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	底面: ナデ 外面: 底部へラケズリ、底面糸切り後へ ラケズリ
第77図4	12	須恵器 甕	口径20.0	口縁部～胴部34%	粒子が細かい 長石を多量に含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡灰褐色	不良	内面: ナデ、付着物有り 外面: ナデ、付着物有り
第77図5	6	須恵器 甕	口径24.6	口縁部17%	粒子が細かい 長石を含む	器表: 灰色 器肉: 淡灰色	良	内面: ナデ 外面: ナデ

第18表 SI-013号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第79図1	8	杯	口径13.5 底径 8.2 器高 3.8	口縁部のみ 34%	粒子がやや細かい 長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ、赤彩 外面: ナデ、底部回転へラケズリ、底面 糸切り後周辺へラケズリ、一部赤彩
第79図2	15	杯	底径 8.0	底面25% + $\alpha$	粒子が粗い 長石を多量に含む	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 底部へラケズリ、底面へラケズリ
第79図3	11	甕	口径13.8	口縁部25%	粒子がやや細かい 長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 赤褐色	やや良	内面: 口縁部ヨコナデ、胴部以下ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部へラケズリ 後ミガキ
第79図4	12	甕	口径13.8	口縁部25%	粒子がやや細かい 長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 赤褐色	やや良	内面: 口縁部ヨコナデ、胴部以下ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部へラケズリ 後ミガキ

第19表 SI-014号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第81図1	1、6	杯	口径12.4 底径 6.0 器高 3.8	口縁部34%	粒子がやや細かい 長石、スコリアを含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、底部底面へラケズリ

第20表 SI-015号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第33図1	43	甕	底径 6.0	底面+α	粒子がやや粗い長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：底部、底面ヘラケズリ 外面：ヨコナデ
第33図2	37	椀	口径 9.1 底径 4.4 器高 4.2	34%	粒子がやや粗い長石、石英を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ
第33図3	3、9、30	甕	口径15.8	口縁部～胴部上半15%	粒子がやや粗い長石を多量に含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ヨコナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第34図4	1、2、32	甕	口径11.7	口縁部～胴部上半34%	粒子がやや粗い長石を多量に含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ヨコナデ、ナデ、輪積み痕 外面：ヨコナデ、ヘラケズリ
第34図5	28、38	甕	口径19.7	口縁部～胴部上半34%	粒子がやや粗い長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第34図6	1	杯	口径10.8 底径 6.4 器高 4.0	34%	粒子が細かい石英、長石を含む	器表：淡暗褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリ、底面回転糸切り後周辺ヘラケズリ
第34図7	44	杯	口径13.3 底径丸 器高 3.3	80%	粒子が細かい長石を含む	器表：淡暗褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ後ミガキ 外面：ヨコナデ、手持ちヘラケズリ後ナデ
第34図8	1、4	杯	口径9.6	口縁部50%	粒子が粗い長石を多量に含む	器表：赤褐色 器肉：赤褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ後胴部ヘラケズリ
第34図9	33、46	杯	口径14.0	34%	粒子がやや粗いスコリア、長石を含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	不良	内面：ナデ後ミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第34図10	1	杯	口径13.8	20%	粒子がやや細かい長石を含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ後ミガキ 黒色処理? 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第34図11	1、2、4、18	杯	底径丸	底 部 底 面 25%	粒子が細かい	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ後ミガキ、赤彩 外面：ヨコナデ、ヘラケズリ後ミガキ、赤彩
第34図12	1、2、3、28	杯	底径丸	底面50%+ α	粒子がやや粗い長石を含む	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第34図13	3、4、10	杯	口径13.1	10%	粒子が細かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ヘラケズリ後ミガキ 外面：ナデ後ミガキ
第34図14	27、28	杯	口径13.0	25%	粒子がやや粗い長石を含む	器表：暗褐色 器肉：茶褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ

第21表 SI-016号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第83図1	4	甕	底径 8.6	底面25%以下	粒子が粗い長石を含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	不良	内面：器面が荒れて不明瞭 外面：ナデ後底部底面ヘラケズリ
第83図2	9	杯	口径11.6 底径 7.0 器高 3.8	67%	粒子がやや粗い長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ、器面が荒れて不明瞭 外面：ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第83図3	4、9	杯	口径11.6 底径 7.4 器高 4.0	口縁部～底部50%	粒子がやや粗いスコリアを含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ロクロナデ、底部底面ヘラケズリ
第83図4	4	甕	底径 8.0	底部25%	粒子がやや粗い長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：底部ヘラケズリ、底面無調整
第83図5	1、17	甕	底径 8.2	底部34%	粒子が粗い大粒の長石を含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：剥落 外面：ヘラケズリ
第83図6	2、4、12	甕	口径12.4	口縁部34%	粒子がやや細かい	器表：褐色 器肉：褐色	やや良	内面：ナデ 外面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ
第83図7	4	甕	口径18.9	口縁部20%	粒子が細かいスコリアを少量含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ナデ
第83図8	10	甕	底径 9.5	底部18%	粒子がやや粗い長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ

第22表 SI-017号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第85図1	38、40	甕	底径 8.7	底部下半部 34%	粒子がやや粗い長石を含む	器表:褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:ナデ 外面:底部ヘラケズリ、底面無調整
第85図2	19、42	杯	口径13.6 底径 6.7 器高 4.4	口縁部25%	粒子がやや粗い長石を多量に含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:ミガキ 外面:口縁部ナデ、底部底面ヘラケズリ
第85図3	1、4、13、15	杯	口径12.4 底径 6.2 器高 3.8	口縁部50%	粒子がやや粗い長石を多量に含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:ナデ 外面:口縁部ナデ、底部底面ヘラケズリ
第85図4	11、12、17	杯	口径13.3 底径 6.3 器高 3.9	口縁部50%	粒子がやや粗い長石、スコリアを含む	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	普通	内面:ナデ 外面:口縁部ナデ、底部底面ヘラケズリ
第85図5	27、73	杯	口径13.2 底径 6.6 器高 4.2	口縁部20%	粒子が粗い長石、スコリアを多量に含む	器表:淡淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:口縁部ナデ、底部ヘラケズリ、底面糸切り後ヘラケズリ
第85図6	43	杯	口径11.4 底径 4.6 器高 4.8	口縁部20%	粒子やや細かい長石、スコリアを多量に含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:ナデ 外面:口縁部ナデ、底部底面ヘラケズリ
第85図7	35	杯	底径 6.8	底面+底部 $\alpha$	粒子が粗い長石、石英を多量に含む	器表:灰褐色 器肉:灰褐色	不良	底面:ナデ 外面:底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリ
第85図8	67	甕	口径15.4	口 縁 部 25% + $\alpha$	粒子がやや粗い長石を含む	器表:灰褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ
第85図9	10	皿	口径13.6 底径 6.0 器高 2.5	口縁部10% 全体の34%	粒子がやや粗い長石、スコリアを多量に含む	器表:褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:口縁部ナデ、底部底面ヘラケズリ
第85図10	24	杯	底径 5.4	底面ほぼ遺存+底部	粒子が粗い長石を含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ナデ、底面ヘラ状の工具の後、手ね風
第85図11	26	甕	口径23.0	口縁部25%	粒子が粗い石英を含む	器表:淡灰褐色 器肉:淡灰褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ナデ
第85図12	22、37~39、 48、57、60、 62	甕	底径10.5	胴 部 以 下 34%	粒子が粗い石英、長石を多量に含む	器表:淡赤褐色 器肉:淡褐色	不良	内面:ナデ、剥落が著しい 外面:ヘラケズリ、剥落

第23表 SI-018号出土土器観察表 1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第87図1	21	甕	口径14.8 底径 7.6 器高16.8	50%	粒子が粗い長石を多量に含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ
第87図2	17、29、75	甕	口径21.45	口 縁 部 50% + $\alpha$	粒子がやや粗い石英、長石を含む	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	普通	内面:ナデ 外面:口縁部ヨコなで、胴部ヘラケズリ
第87図3	19	甕	口径22.3	口 縁 部 10% + $\alpha$	粒子がやや粗い石英、長石を含む	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	普通	内面:ナデ 外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第87図4	38、39	甕	底径 9.15	底部34%	粒子がやや粗い	器表:褐色 器肉:褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ヘラケズリ
第87図5	1	甕	底径 7.1	底部20%	粒子が粗い長石を含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ヘラケズリ、指紋痕有り
第87図6	7、8	杯	口径12.15 底径 5.9 器高 3.6	60%	粒子がやや粗い長石を多量に含む	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ、底面糸切り後ヘラケズリ
第87図7	2、24	杯	口径12.14 底径 6.7 器高 3.65	25%	粒子がやや細かいスコリアを含む	器表:淡赤褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ロクロナデ「」 外面:ロクロナデ、底面ヘラケズリ
第87図8	1	杯	口径10.8 底径 7.85 器高 3.6	10%	粒子がやや細かい	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	普通	内面:ナデ 外面:ナデ、底部底面ヘラケズリ
第87図9	2	甕	口径26.2	口縁部10%	粒子が粗い長石を多量に含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや長	底面:ナデ、部のみヘラケズリ 外面:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ
第87図10	3、13	甕	口径20.9	胴部上半部 25%	粒子がやや細かい長石を含む	器表:茶褐色 器肉:茶褐色	やや良	内面:ナデ 外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第87図11	1、3	杯	底径 10.2	口縁部を除 < 20%	粒子が細かい	器表:赤褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:ロクロナデ 赤彩 外面:ロクロナデ、底面ヘラケズリ、赤彩
第87図12	2、3	甕	底径 9.45	底面20% + 底部 $\alpha$	粒子がやや粗い長石を含む	器表:褐色 器肉:褐色	やや良	内面:ナデ 外面:ヘラケズリ

第24表 SI-018号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第88図13	5	甕	底径14.6	底部15%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡灰褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第88図14	3	甕	底径 9.65	底部20%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第88図15	1、3	杯	口径12.7	34%	粒子がやや細かいスコリアが多量に含まれる	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	普通	内面: ナデ後一部ミガキ 外面: ヘラケズリ
第88図16	2	須恵器 杯	底径 9.1	底面25%+ 底部α	粒子がやや細かい	器表: 淡灰色 器表: 淡灰色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ後底部ヘラケズリ
第88図17	2	須恵器 甕	不明	不明	粒子が粗い長石を多量に含む	器表: 灰色 器肉: 灰色	良	内面: 軽いナデ 外面: 底部ヘラケズリ

第25表 SI-019号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第90図1	20	杯	口径12.4	口縁部25%	粒子がやや粗い長石を多量に含む	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、胴部~底部ヘラケズリ
第90図2	13	杯	口径14.6	口縁部20%	粒子がやや細かい長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ後一部ミガキ 外面: 口縁部ナデ、胴部~底部ヘラケズリ
第90図3	不明	甕	底径11.2	底部25%	粒子がやや粗い長石を多量に含む	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや良	内面: ナデ 外面: 底部ヘラケズリ後ナデ、底面ヘラケズリ
第90図4	2	杯	口径12.8 底径 8.2 器高 4.5	25%	粒子がやや粗い長石、石英を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部~底部ナデ、底面ヘラケズリ
第90図5	7	杯	口径13.2	口縁部20%	粒子がやや細かい長石を多量に含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラケズリ
第90図6	9	杯	口径15.0 底径10.0 器高 5.3	25%	粒子がやや細かいスコリアを含む	器表: 灰褐色 器肉: 灰褐色	やや不良	内面: ナデ、赤彩 外面: ナデ、底部底面ヘラケズリ、赤彩
第90図7	5	須恵器 甕	口径20.4	口縁部10%以下	粒子が細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	良	内面: ナデ 外面: ナデ
第90図8	12	須恵器 高台付き 杯	底径 6.8	口縁部以外 遺存	粒子が細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	良	内面: ナデ 外面: ナデ
第90図9	10	杯	口径12.5 底径丸底 器高 3.6	67%	粒子がやや細かいスコリア、石英含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	普通	内面: 口縁部ナデ後ミガキ 外面: ヘラケズリ
第91図10	29	瓦			粒子が細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	表面: ナデ後ヘラケズリ 裏面: ナデ

第26表 SI-020号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第93図1	7、10、11	杯	口径13.6 底径 7.6 器高 3.9	口縁部25%	粒子がやや粗い長石を多量に含む	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、底部ナデ後ヘラケズリ、底面糸切り後縁辺ヘラケズリ
第93図2	4	杯	口径11.2 底径 7.2 器高 4.0	口縁部13% 底面34%	粒子がやや細かい長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、底面回転糸切り後ヘラケズリ
第93図3	4	甕	口径18.4	口縁部10%	粒子がやや細かい長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口唇部ヨコナデ、 部以下ヘラケズリ
第93図4	1、5、6、9、 12~15	甕	口径22.4	口縁部25%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ、胴部以下剥落が著しい

第27表 SI-021号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第96図1	6、40	甕	口径19.0	口縁部18%	粒子が細かい	器表: 暗褐色 器肉: 褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、一部胴部ヘラケズリ後あり
第96図2	35	須恵器 杯	口径12.8 底径8.0 器高4.1	20%	粒子が粗い長石を多量に含む	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ナデ 外面: ロクロ後ナデ、底面ヘラケズリ
第96図3	1、32、33	須恵器 杯	口径14.1 底径8.0 器高3.6	80%	粒子が粗い長石を多量に含む	器表: 灰色 器表: 灰色	やや良	内面: ナデ 外面: ロクロナデ、底面回転ヘラケズリ

第28表 SI-021号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第96図4	17	須恵器 杯	口径12.4	底面を除き 20%遺存	粒子が粗い雲 母を多量に含 む	器表:灰色 器肉:灰色	やや良	内面:ナデ 外面:ロクロナデ
第96図5	5、29、34、38	須恵器 杯	口径13.2 底径10.0	口縁部~底 部50%	粒子が細かい	器表:灰褐色 器肉:灰褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ロクロナデ

第29表 SI-022号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第99図1	2、5~9	杯	口径12.2 底径 6.8 器高 4.4	ほぼ完形	粒子が細かい	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:ナデ後ミガキ 外面:ナデ後底部ヘラケズリ、底面多方 位のヘラケズリ
第99図2		杯		破片				墨書き?』

第30表 SI-023号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第37図1	59	杯	口径10.5 底径丸 器高 3.9	80%	粒子が細かい	器表:淡黄色 器肉:淡灰色	やや不良	内面:口縁部ヨコテデ後底部底面ミガキ 外面:口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラ ケズリ
第37図2	2、41、42	杯	口径11.95 器高 4.7	50%	粒子が細かい	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ミガキ 外面:口縁部ヨコナデ、胴部~底部ミガ キやや摩滅気味
第37図3	63	杯	口径13.2 器高 3.7	20%	粒子が粗い	器表:暗褐色 器肉:赤褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラ ケズリ
第37図4	48	杯	口径10.1	25%	粒子が細かい	器表:暗褐色 器表:淡褐色	やや不良	内面:ミガキ 外面:口縁部ナデ、底部ヘラケズリ
第37図5	2	杯			粒子が細かい 長石を含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:ナデ後ミガキ 外面:ナデ
第37図6	2	杯			粒子がやや粗 い長石を多量 に含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ナデ、一部ヘラケズリ
第37図7	4	須恵器 杯	底径 8.2	底面25% + $\alpha$	粒子がやや粗 い長石を多量 に含む	器表:灰色 器肉:灰色	やや良	内面:ナデ 外面:ロクロナデ、底面回転ヘラケズリ
第37図8	7	杯	底径 7.6		粒子が細かい 長石を含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ナデ、底面ヘラケズリ
第37図9	21	甕	底径 8.0	底面100 + $\alpha$	粒子がやや粗 い長石を含む	器表:褐色 器肉:褐色	やや良	内面:ナデ 外面:ナデ
第37図10	43	甕	底径10.8	底面20% + $\alpha$	粒子がやや粗 い長石を含む	器表:褐色 器肉:褐色	やや不良	内面:やや粗いナデ 外面:ヘラケズリ
第38図11	27、35~39	鉢	口径17.4 底径 8.2 器高 8.7	底面以外 90%	粒子がやや細 かい	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:明瞭なミガキ 外面:口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラ ケズリ後ナデ、ミガキ
第38図12	28	高杯	口径18.8 底径10.4 器高12.7	口縁部67% 他は遺存	粒子がやや細 かい	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:口縁部ヨコナデ、密にミガキ、底 部粗くミガキ 外面:口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケ ズリ後ミガキ
第38図13	57、58、60、 61	甕	口径20.0	口縁部~底 部20%以下	粒子がやや粗 い長石を含む	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:口縁部ヨコナデ、胴部指頭痕 外面:口縁部ヨコナデ、部以下ヘラケ ズリ後ナデ所々ミガキ
第38図14	31~33、50、 52、63	甕	底径 9.8	底部67%	粒子がやや粗 い長石を含む	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	不良	内面:ヘラナデ、底面にかけて剥落 外 面:ヘラケズリ後ナデ、一部ミガキ
第38図15	49	台付杯	高台底径5.0	高台部分 + 底面	粒子が細かい	器表:淡褐色 器肉:淡黄色	やや良	内面:ミガキ、黒色処理 外面:回転ヘラケズリ 高台部分:ヨコ ナデ
第38図16	20	杯	底径 6.0	口縁部以外 遺存	粒子がやや粗 い	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ヘラナデ 外面:指頭痕、ナデ、底面木葉痕
第38図17	2、8~10、12、 14、24	甕	底径10.6	口縁部欠損	粒子がやや粗 い	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	不良	内面:ナデ後ミガキ 外面:ヘラケズリ後ナデ所々ミガキ

第31表 SI-024号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第101図1	1、5、6、9	杯	口径11.2 底径 5.6 器高 3.7	口縁部50%	粒子が細かい	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡灰褐色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: 口縁部ロクロナデ、底部底面ヘラケズリ
第101図2	1、3	杯	口径11.2 底径 7.1 器高 3.8	34%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、底部底面ヘラケズリ

第32表 SI-025号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第104図1	1、3、7	杯	口径12.8 底径丸底 器高 3.4	67%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ、剥落が著しい 外面: ヘラケズリ
第104図2	1	皿	口径11.6 底径 5.0 器高 2.0	34%	粒子がやや細かい長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 黄白色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ、回転ヘラケズリ
第104図3	1	杯	底径 8.6	20%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ 墨書き文字不明

第33表 SI-026号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第107図1	2、7	杯	口径13.4 底径 7.5 器高 3.9	20%	粒子が細かい	器表: 赤褐色 器肉: 淡黄色	やや不良	内面: ヘラミガキ、赤彩 外面: ロクロナデ、底面ヘラケズリ、赤彩
第107図2	2、39	須恵器 杯	底径 8.0	口唇部を除き50%遺存	粒子がやや粗い雲母を含む	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ナデ 外面: ロクロナデ、底面ヘラケズリ
第107図3	2	杯	底径 7.2	底面+底部の一部	粒子が細かい	器表: 赤褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ後ミガキ、赤彩 外面: 回転ヘラケズリ
第107図4	40	杯	口径13.6	20%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 黒褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ、一部ミガキ
第107図5	5	杯	口径10.4 底径 6.8 器高 2.95	20%	粒子がやや細かいスコリアを含む	器表: 淡褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第107図6	1、13	甕	底径 9.6	底部20%以下	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 灰白色	やや不良	内面: 粗いナデ 外面: ヘラケズリ
第108図7	3、36、42	甕	口径20.6	底部を除き67%遺存	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 赤褐色	やや不良	内面: 粗いナデ、輪積み痕 外面: 口縁部ヨコナデ、部~脇部縦方向ヘラケズリ、以下横方向ヘラケズリ、ナデ仕上げ
第108図8	16、19、30、33	甕	口径21.1	口縁部34%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、脇部ヘラケズリ
第108図9	1、12	甕	口径17.4	口縁部20%以下	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 褐色 器肉: 褐色	やや良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、脇部ヘラケズリ
第108図10	1、2	甕	口径17.4	口縁部10%以下	粒子比較的粗い長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、部ナデ
第108図11	14	甕	底径10.2	底面25%+底部	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 褐色 器肉: 暗褐色	やや良	内面: 粗くヘラケズリ 外面: ヘラケズリ
第108図12	35	甕	底径 9.6	底面50%+底部	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡灰褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第108図13	1、2	甕	底径 9.1	底面25%+底部	粒子が非常に粗い長石を多量に含む	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡灰褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラミガキ、ヘラケズリ
第108図14	37	甕	底径 7.2	底面+a	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡灰褐色	やや不良	内面: ヘラナデ 外面: ヘラケズリ
第108図15	11、21	甕	口径21.8		粒子がやや粗い長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、脇部ヘラケズリ
第108図16	2	甕	口径21.4		粒子がやや粗い長石を含む	器表: 褐色 器肉: 褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ

第34表 SI-027号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第110図1	4	杯	口径10.6 底径 5.8 器高 4.25	ほぼ完形	粒子がやや粗い長石を多量に含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ、底部ミガキ 外面: ナデ、底部以下ヘラケズリ
第110図2	12	杯	口径12.7 器高 5.0	口縁部を除きほぼ完形	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ後粗いミガキ 外面: 口縁部ナデ、底部ヘラケズリ、被熱のため器表面荒れ
第110図3	8、14	杯	口径13.5 底径 8.0 器高 3.7	25%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	底面: ナデ後丁寧なミガキ 外面: ヘラケズリ、一部輪積み痕有り

第35表 SI-028号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第113図1	5、8	杯	口径15.1 底径 9.1 器高 3.5	口縁部67%以外は遺存	粒子が細かい	器表: 赤褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ後一部ミガキ 外面: 口縁部ナデ、底部ヘラケズリ、底面一方向ヘラケズリ、内外面赤彩
第113図2	24	杯	口径19.0 底径丸底	口縁部～底部18%	粒子がやや細かい	器表: 赤褐色 器肉: 赤褐色	やや良	内面: ミガキ、赤彩 外面: 口縁部ナデ、底部ヘラケズリ
第114図3	1、3	杯	口径14.8 底径丸底	口縁部～底部34%	粒子が細かい 長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ミガキ 外面: ナデ、ヘラケズリ
第114図4	3、25	杯	口径12.2 底径丸底	口縁部～底部18%	粒子が細かい 長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第114図5	1、3	杯	口径10.2	口縁部～底部25%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ 手: ね風
第114図6	4	須恵器 杯	口径13.2 底径 6.2 器高 3.7	10%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 灰色 器肉: 灰褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ロクロナデ、底部ヘラケズリ
第114図7	23	椀	口径10.4 底径 6.7 器高 6.2	25%	粒子が粗い長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部テヂ、底部底面ヘラケズリ

第36表 SI-029号出土土器観察表 1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第117図1	484、504、505	杯	口径14.1 底径 7.6 器高 4.9	口縁部50%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 淡黄色 器肉: 淡黄色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ、底部 ナデ後ヘラケズリ、底面糸切り後2方向ヘラケズリ
第117図2	1、21、130、 503	杯	口径12.9 底径 6.2 器高 4.3	口縁部80%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、底部 ヘラケズリ、底面縦横2方向ヘラケズリ
第117図3	1、2、472、 491	杯	口径13.9 底径 6.6 器高 4.8	口縁部50%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡黄色	やや良	内面: 丁寧なミガキ 外面: ロクロナデ、底部 ヘラケズリ、底面一方向からヘラケズリ 墨書『福』
第117図4	295、297、302、 303、305、313	杯	口径13.4 底径 7.6 器高 4.5	口縁部50%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡黄色	やや良	内面: ミガキ 外面: ナデ、底部 ヘラケズリ、底面縦横ヘラケズリ
第117図5	2、284、436	杯	口径12.6 底径 6.5 器高 3.8	口縁部25%	粒子がやや細かい長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、底部 ヘラケズリ、底面一方向からのヘラケズリ
第117図6	471	杯	口径12.2 底径 6.0 器高 4.2	口縁部34%	粒子が細かい	器表: 淡黄褐色 器肉: 淡黄褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、底部 ヘラケズリ、底面回転ヘラケズリ後ヘラケズリ、墨書『福』
第117図7	487	杯	口径12.6 底径 6.4 器高 4.0	口縁部34%	粒子がやや粗いスコリアを含む	器表: 淡灰褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ、底部 ヘラケズリ、底面一方向へのヘラケズリ
第117図8	390、539	須恵器 杯	口径11.8 底径 5.6 器高 4.0	10%	粒子がやや細かい長石を含む	器表: 灰褐色 器肉: 褐色	不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底部 ヘラケズリ、底面手持ちヘラケズリ
第117図9	4、102、123、 388、539	須恵器 杯	口径12.2 底径 6.4 器高 3.7	34%	粒子がやや粗い長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底部 手持ちヘラケズリ、底面回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリ
第117図10	420	杯	口径14.1 底径 7.2 器高 4.5	口縁部25%	粒子がやや細かい長石を含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: 丁寧なミガキ 外面: ロクロナデ、ヘラケズリ、ミガキ 内面: 黒色処理
第117図11	479	杯	底径 7.8	口縁部を除き20%	粒子がやや粗いスコリアを含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡黃色	やや良	内面: 丁寧なミガキ 外面: ロクロナデ、ヘラケズリ、ミガキ 内面: 黒色処理
第117図12	1、276	杯	口径12.2	底面を除き20%遺存	粒子がやや細かいスコリアを含む	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡灰白色	やや不良	内面: ナデ 外面: ロクロナデ、底部 ヘラケズリ
第117図13	412	杯	口径13.0	10%	粒子が細かい	器表: 淡黃褐色 器肉: 淡黃褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ロクロナデ、底部 ヘラケズリ

第37表 S I -029号出土土器観察表2

擲出番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第117図14	89	杯	口径13.6	10%	粒子がやや細かい長石を含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 後ミガキ
第117図15	32、41	杯	底径 5.8	底面67%+ $\alpha$	粒子がやや粗い長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡黄色	やや不良	内面：ナデ、一部ミガキ 外面：底部底面ヘラケズリ
第117図16	2	杯	口径12.4	底面を除き10%以下遺存	粒子がやや粗い長石を含む	器表：灰色 器肉：赤褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ロクロナデ、底部ヘラケズリ
第117図17	98	杯	口径12.2		粒子が細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ナデ、底部ヘラケズリ
第117図18	1	杯			粒子がやや粗い長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、墨書『福』
第117図19	1	杯			粒子がやや粗い長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ
第117図20	1	杯			粒子がやや細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ
第117図21	1	杯			粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：指頭痕、ナデ
第117図22	465	須恵器 杯	口径12.0	底面を除き10%	粒子がやや粗い長石を含む	器表：灰褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部ヘラケズリ
第117図23	158	高台付き 皿	脚径 7.5	高台部分ほぼ遺存	粒子がやや細かい	器表：淡黄色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：吸炭による黒色処理、ミガキ 外面：ロクロナデ
第117図24	1、104	高台付き 皿	脚外径7.5	高台部分 25%	粒子がやや細かい	器表：淡黄色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：丁寧なミガキ 外面：ロクロナデ、脚部ナデ 外面底面不明墨書
第117図25	72	高台付き 皿	脚外径8.0	高台部分ほぼ遺存	粒子がやや細かい	器表：淡黄色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：吸炭による黒色処理 外面：ナデ、底面回転ヘラケズリ 外面底面不明墨書
第117図26	1、146	須恵器 杯	底部 6.0	底面67%+ 底部	粒子がやや粗い長石を含む	器表：灰褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：底面ヘラケズリ、底面回転糸切り 後手持ちヘラケズリ
第117図27	35	高台付き 皿	脚外径7.0	高台部分ほぼ遺存	粒子がやや細かい	器表：淡黄色 器肉：淡褐色	やや良	内面：密なミガキ 外面：底面ナデ、脚部ナデ
第117図28	1、2、496	高台付き 皿	口径14.0 底径 7.5 器高 2.9	20%	粒子が細かい	器表：淡黄色 器肉：淡褐色	やや良	内面：密にミガキ 外面：底部～底面回転ヘラケズリ
第118図29	409	高台付き 皿	脚外径7.5	高台部分ほぼ遺存	粒子がやや細かい	器表：淡黄色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：底面回転ヘラケズリ
第118図30	1、117、118	須恵器 甕	口径13.0	口縁部～胴部上半部 25%	粒子がやや粗い長石を含む	器表：灰褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ
第118図31	336、369	甕	口径13.8	口縁部～胴部上半部 34%	粒子がやや粗い長石を含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	不良	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ
第118図32	449	甕	口径12.8	口縁部～胴部上半部 20%	粒子がやや粗い長石を含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第118図33	1、4、402、 440	甕	底径 6.9	底部～底面50%	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	不良	内面：火熱のため剥落 外面：ヘラケズリ
第118図34	1、160、201	須恵器 甕	底径 6.4	底部～底面50%	粒子がやや細かい	器表：灰褐色 器肉：淡灰褐色	やや不良	内面：やや粗いナデ 外面：ヘラケズリ、底面無調整一部ヘラケズリ
第118図35	131	須恵器 甕	口径15.0	底面50%+ $\alpha$	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：赤褐色	不良	内面：ナデ、胴部ナデ 外面：横方向のヘラケズリ、底面無調整
第118図36	2、6、29、 103、109、231、 307、335、387	須恵器 甕	口径20.0	口縁部～底部 10%	粒子がやや粗い	器表：褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ、当て具痕 外面：ヨコナデ、頸部から胴部タタキ目、 底部ヘラケズリ
第118図37	2、4、317、 324、325、327～ 329、356～360、 380、381、446、 523	須恵器 甕	口径17.8 胴部径20.0 底径12.0 器高27.0	底面を除き67%遺存	粒子がやや細かい	器表：灰褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ、当て具痕 外面：ヨコナデ、胴部タタキ目、底部ヘラケズリ
第119図38	1、502、S I - 027-1	須恵器 甕			粒子がやや細かい	器表：灰褐色 器肉：赤褐色	やや不良	内面：ナデ、当て具痕 外面：ヨコナデ、胴部タタキ目

第38表 SI-029号出土土器観察表3

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第119図39	31、149、162、179、290、348、424	須恵器 甕	底径15.9		粒子がやや粗い長石を含む	器表:褐色 器肉:褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:タタキ目、ヘラケズリ
第119図40	1、127、134136	須恵器 甕	底部16.0		粒子がやや粗い	器表:褐色 器肉:褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:タタキ目、ヘラケズリ
第120図41	2、4、11	須恵器 甕	口径22.8 胴部径24.4 底径15.7 器高28.0	底面を除き ほぼ遺存	粒子がやや細かい	器表:灰褐色 器肉:褐色	やや良	内面:ナデ、当て具痕 外面:口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目、 底部ヘラケズリ
第120図42	70、71、92、473、498、499	須恵器 甕	口径28.4	口縁部~胴 部34%	粒子がやや細 かい	器表:褐色 器肉:褐色	やや不良	内面:ナデ、当て具痕 外面:口縁部ヨコナデ、胴部タタキ目
第120図43	48、110、145、298、447	須恵器 甕		胴 部 下 半 部~底部	粒子がやや粗 い	器表:褐色 器肉:褐色	やや不良	内面:当て具痕 外面:タタキ目、底部横方向ヘラケズリ
第121図44	1、75、82、106、159、238	須恵器 甕	口径33.2	口縁部~胴 部下半20%	粒子がやや粗 い	器表:褐色 器肉:褐色	やや不良	内面:当て具痕 外面:タタキ目
第121図45	261、314、315、335、361、512、514、522、524、525、533、539	須恵器 甕	口径21.4	底面を除き 67%遺存	粒子がやや粗 い	器表:褐色 器肉:褐色	やや不良	内面:当て具痕、ナデ 外面:ナデ、タタキ目

第39表 SI-030号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第123図1	1、4、6、28	杯	口径13.2 底径 5.9 器高 4.0	50%	粒子がやや細 かい	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ後底部ヘラケズリ、底 面回転糸切り後ヘラケズリ
第123図2	27	須恵器 甕	口径18.6	口縁部から 底部34%	粒子がやや細 かい	器表:灰色 器肉:灰色	やや良	内面:ナデ 外面:ヨコナデ、タタキ目
第123図3	2、4、25、26	甕	底径 9.0	底部ほぼ遺 存	粒子がやや粗 い	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:剥落のため不明 外面:横方向のヘラケズリ
第123図4	1	甕	底径12.0		粒子がやや粗 い	器表:淡淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ヘラケズリ後ミガキ 外面:横方向のヘラケズリ
第123図5	7	須恵器 甕	底径13.8	底面50%+ 底部	粒子がやや粗 い	器表:灰色 器肉:灰色	やや不良	内面:ナデ 外面:横方向のヘラケズリ
第123図6	2	須恵器 甕	底径14.8		粒子がやや粗 い	器表:灰色 器肉:灰色	やや不良	内面:ヘラ状による工具の擦痕 外面:底部底面ヘラケズリ
第123図7	1、4、5、13	甕	口径20.3		粒子がやや粗 い	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:ナデ、頸部ヘラケズリ 外面:胴部ヘラケズリ
第123図8	8	須恵器 甕			粒子がやや粗 い	器表:灰色 器肉:灰色	やや良	内面:ナデ 外面:波状の文様
第123図9	4、15~17、20	須恵器 甕			粒子がやや細 かい	器表:赤褐色 器肉:赤褐色	やや不良	内面:タタキ目に伴う工具痕 外面:タタキ目
第123図10	2、3	甕	底径 6.2	底部、底面 50%	粒子がやや細 かい	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ナデ後底部底面ヘラケズリ

第40表 SI-031号出土土器観察表1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第126図1	1	杯	口径12.6 底径11.8 器高 2.5	10%以下	粒子がやや細 かい	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:ミガキ 外面:ナデ、底部底面ヘラケズリ
第126図2	2	杯	口径12.8 底径 7.4 器高不明	10%以下	粒子がやや細 かい	器表:褐色 器肉:褐色	やや良	内面:ロクロナデ、赤彩 外面:ロクロナデ、赤彩
第126図3	2	杯	口径10.0	10%以下	粒子がやや細 かい	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや良	内面:口縁部縦方向ミガキ、底部横方向 ミガキ 外面:ロクロナデ、底部ヘラケズリ
第126図4	4	杯	底径 7.7		粒子がやや粗 い	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:底部ヘラケズリ、底面糸切り後ヘ ラケズリ
第126図5	1	椀?	底径 6.9		粒子がやや粗 い	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリ、 不明墨書あり
第126図6	2	甕	底径 7.0	底面34%+ $\alpha$	粒子がやや細 かい 長石を 含む	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:底部底面ヘラケズリ

第41表 SI-031号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第126図7	2	甕	底径13.8		粒子がやや粗い長石を含む	器表: 暗褐色 器肉: 褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 底部底面ヘラケズリ
第126図8	1	甕	底径 8.4		粒子が粗い長石含む	器表: 褐色 器肉: 褐色	やや不良	内面: 剥落 外面: 底部、底面ヘラケズリ
第126図9	1	須恵器台付き杯	底径 4.4		粒子がやや細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや不良	内面: ロクロナデ、硯転用 外面: 底部ロクロナデ、底面回転ヘラケズリ
第126図10	2	台付き皿	底径 5.8		粒子がやや粗い	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ロクロナデ後脚部ナデ
第126図11	1	高台付き杯			粒子が粗い	器表: 淡褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ、赤彩
第126図12	1	甕	底径 4.4		粒子がやや細かい	器表: 褐色 器肉: 褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 底部、底面ヘラケズリ
第126図13	13	台付き皿	底径 8.0		粒子がやや細かい	器表: 淡黄褐色 器肉: 淡白色	やや不良	内面: ミガキ 外面: 底部ミガキ、底部糸切り後ナデ

第42表 SI-032号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第129図1	2、18	杯	口径13.4	20%遺存	粒子が細かいスコリアを含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ後ミガキ 外面: 口縁部ヨコナデ、底部ヨコ方向のヘラケズリ
第129図2	13	杯	口径16.9	25%遺存	粒子が細かいスコリアを多く含む	器表: 黒褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: ナデ後ミガキ 外面: 口縁部ヨコナデ後底部横方向ヘラケズリ
第129図3	3、32	杯	口径17.9	口縁部20%遺存	粒子がやや細かい長石を含む	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第129図4	9	須恵器杯	底径 9.0	底面34%遺存	粒子がやや細かい雲母片を多く含む	器表: 淡灰色 器肉: 淡灰色	不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ後底面ヘラケズリ
第129図5	12	甕	口径14.8		粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、胴部以下ヘラケズリ
第129図6	4、5	甕	口径18.4		粒子がやや粗い	器表: 黒褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、頸部から胴部ヘラケズリ
第129図7	2	甕	口径17.6		粒子がやや粗い	器表: 黒褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ
第129図8	16、29	甕	口径21.2	底部を除き34%遺存	粒子がやや細かい	器表: 淡茶褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: やや粗いミガキ 外面: 輪積み痕、縦方向ヘラケズリ
第129図9	14	甕	口径20.0		粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	不良	内面: ミガキ 外面: ナデ、胴部縦方向のヘラケズリ後一部ミガキ
第129図10	37、38	甕	口径25.8	口縁部から胴部20%	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	不良	内面: ミガキ 外面: ナデ後軽めのミガキ
第129図11	37、38	甕	口径25.8		粒子がやや粗いスコリアを含む	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: 輪積み痕、ナデ
第130図12	1、2、7、9、10	甕		胴部～底部	粒子がやや粗い長石を多く含む	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ後ミガキ
第130図13	1、3	甕	底径 8.8	底 部 底 面 40%	粒子がやや粗い	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: 剥落により不明
第130図14	26、34	甕	底径 5.0	底 部 底 面 25%	粒子がやや粗い	器表: 淡茶褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: 剥落により不明 外面: ヘラケズリ
第130図15	2、18	鉢	口径 8.9		粒子がやや細かい	器表: 茶褐色 器肉: 淡茶褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ
第130図16	22	高杯	脚部底径 8.5	脚部残存	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡茶褐色	やや不良	内面: ヘラケズリ 外面: ヘラケズリ
第130図17	17	須恵器蓋	底径 15.2 器高 2.7	25%遺存	粒子がやや粗い	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ナデ、ヘラケズリ 外面: ナデ

第43表 S I -033号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第133図1	7	杯	口径13.6 底径丸底 器高 4.3	67%遺存	粒子が細かい スコリアを含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第133図2	1、3、4	杯	口径14.2 底径10.4 器高 3.8	34%遺存	粒子が細かい スコリアを含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ後ヘラケズリ
第133図3	5	杯	口径12.0	10%遺存	粒子がやや細 かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ナデ後ヘラケズリ一部赤彩か？
第133図4	1	杯	口径13.4	10%以下残 存	粒子がやや粗 い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ、一部ミガキ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第133図5	4、7	須恵器 杯	口径12.6 底径 8.6 器高 3.7	20%遺存	粒子がやや粗 い長石含む	器表：灰色 器肉：灰色	やや良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロ、底面回転ヘラケズリ
第133図6	3	須恵器 杯	底径 9.4		粒子が粗い長 石を含む	器表：暗灰色 器肉：灰色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロ
第133図7	9	須恵器 甕	底径16.6	底部底面大 形破片	粒子がやや粗 い長石を含む	器表：灰色 器肉：灰色	やや良	内面：ナデ 外面：タタキ目、底面無調整

第44表 S I -034号出土土器観察表 1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第136図1	1、33	杯	口径13.8 底径 7.6 器高 3.8	25%遺存	粒子が細かい	器表：淡茶褐色 器肉：淡茶褐色	やや良	内面：ナデ後強いミガキ 外面：ヘラケズリ
第136図2	12、36	杯	口径14.6 底径 8.8 器高 3.3	20%遺存	粒子がやや細 かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ一部軽いミガキ 外面：口縁部ヨコナデ後底部ヘラケズリ
第136図3	9	杯	口径14.8 底径丸底 器高 3.8	17%遺存	粒子が細かい	器表：淡褐色 器肉：淡黄褐色	やや良	内面：縦横ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、体部ミガキ、底 面ヘラケズリ
第136図4	51	杯	口径17.4		粒子が細かい	器表：赤褐色 器肉：淡黄褐色	不良	内面：ナデ 外面：ナデ、底面ヘラケズリ
第136図5	2、4	杯	口径18.6 底径丸底 器高 7.0	20%遺存	粒子がやや細 かい長石を含 む	器表：黒褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ
第136図6	1	甕	底径 6.5		粒子がやや粗 い	器表：暗褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：底部縦方向ヘラケズリ、底面付近 横方向ヘラケズリ
第136図7	11	甕	底径 8.4		粒子が粗い	器表：褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ
第136図8	27	甕	口径16.4	口縁部～胴 部25%	粒子がやや細 かいスコリア を含む	器表：褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第136図9	6	甕	底径 11.4	口縁部～胴 部50%	粒子がやや細 かいスコリア を含む	器表：淡褐色 器肉：淡黄褐色	やや不良	内面：ナデ、当て具状の痕あり 外面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ
第136図10	23、29	甕	口径17.0	口縁部～胴 部50%	粒子がやや細 かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部縦方向ヘラ ケズリ
第136図11	42	甕	口径17.4	口縁部～胴 部20%	粒子がやや粗 い	器表：淡赤褐色 器肉：淡赤褐色	やや不良	内面：剥落が著しい 外面：口縁部ヨコナデ、胴部縦方向ヘラ ケズリ
第136図12	25	甕			粒子がやや粗 い	器表：暗褐色 器肉：赤褐色	やや不良	内面：頸部ミガキ以外ナデ 外面：ナデ、胴部斜めヘラケズリ
第136図13	4	甕	口径14.8		粒子がやや粗 い	器表：褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ
第137図14	4	須恵器 甕	口径24.4		粒子がやや粗 い長石 石英 含む	器表：褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ナデ、胴部タタキ目
第137図15	2、19	甕	口径25.6		粒子がやや粗 い 大粒の石 英を含む	器表：淡褐色 器肉：淡黄色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ
第137図16	4	甕	口径26.5		粒子がやや粗 い	器表：赤褐色 器肉：赤褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ
第137図17	50	甕	底径 7.2	底面のみ遺 存	粒子がやや粗 い	器表：褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ
第137図18	52	手捏ね 土器	口径 5.5 底径 4.0 器高 3.2	完形	粒子が粗いス コリア含む	器表：赤褐色 器肉：赤褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ

第45表 SI-034号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第137図19	1、4	須恵器 杯	底径 9.4	底面34%以上残存	粒子がやや細かい	器表: 淡黄褐色 器肉: 灰褐色	不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロ後ヘラケズリ
第137図20	16、26	須恵器 杯	底径 8.2	底面+底部 $\alpha$	粒子がやや粗い 壺母含む	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロ後ヘラケズリ
第137図21	13	甕		胴部大形破片	粒子がやや粗い	器表: 褐色 器肉: 褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 胴部ヘラケズリ、底部ナデ
第137図22	1、5、7、8、10、11、17、18、34	甕	口径23.9 底径 8.0 器高33.8	50%遺存	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ、胴部以下ミガキ 外面: ナデ、剥落が著しい

第46表 SI-035号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第139図1	1、3、4	鉢	口径19.2 底径11.4 器高15.3	50%以上遺存	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ミガキ
第139図2	1	甕	底径 9.8	底部破片	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 黒褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 底面ヘラケズリ、底面無調整
第139図3	1	甕	底径10.0	底部破片	粒子がやや細かい	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第139図4	1	甕	底径6.4	底部破片	粒子がやや細かい	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第139図5	1、2	杯	口径13.6 底径 7.0 器高 3.2	34%遺存	粒子がやや細かい	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡暗褐色	不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第139図6	1	杯	口径13.8	25%遺存	粒子がやや細かい	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第139図7	1	杯	口径13.6	破片	粒子が細かい	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡茶褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第139図8	1	杯	口径11.6	破片	粒子が細かい	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第139図9	1	杯	口径15.6 底径10.0 器高 3.5	25%遺存	粒子がやや細かい	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや良	内面: ミガキ 外面: ナデ
第139図10	1	須恵器 杯	口径14.4 底径10.4 器高 3.2	10%以下遺存	粒子がやや細かい	器表: 茶～暗褐色 器肉: 淡暗褐色	やや不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、ヘラケズリ
第139図11	1	須恵器 杯	口径15.4		粒子がやや細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ
第139図12	1	須恵器 蓋	口径14.0		粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ

第47表 SI-037号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第41図1	1～3他17点	甕	口径15.2 底径 6.8 器高25.8	口縁部の一部を除きほぼ完形	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第41図2	23、24、26、33、34	高杯	胴部径14.4	胴部のみ残損	粒子がやや細かい あや	器表: 赤褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ、ヘラケズリ
第41図3	6、12、13、42	高杯		胴部の一部残存	粒子がやや細かい	器表: 茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第41図4	39	杯	口径13.6 底径丸底 器高 3.9	口縁部を除きほぼ完形	粒子がやや細かい 長石を含む	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡茶褐色	やや良	内面: ナデ後ミガキ 外面: ヘラケズリ
第41図5	40	甕	底径 8.0	底部破片	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: 剥落 外面: ナデ
第41図6	1	甕	底径 8.2	底部破片	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡茶褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ

第48表 SI-038号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第143図1	2	甕	口径16.6	底部底面欠損	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部輪積み痕、ナデ、胴部ヘラケズリ
第143図2	5、6	甕	底径11.0	口縁部欠損 脇部以下34%	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ後ミガキ 外面: ヘラケズリ
第143図3	3	甕	底径 5.4	底部底面のみ残存	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 底部ヘラケズリ、底面木葉痕

第49表 SI-039号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第145図1	2	甕	底径 8.1	底部底面破片	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第145図2	1	鉢	底径 8.8	底部底面破片	粒子がやや細かい	器表: 褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第145図3	1	椀		脇部～底部破片	粒子がやや粗い	器表: 赤～暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ

第50表 SI-040号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第147図1	1	杯	口径20.4 底径10.0 器高 3.3	25%	粒子が細かい	器表: 赤褐色 器肉: 淡黄褐色	やや良	内面: ミガキ 外面: 手持ちヘラケズリ、赤彩
第147図2	1	杯	口径14.4 底径10.2 器高 3.8	34%	粒子が細かい	器表: 赤褐色 器肉: 淡黄褐色	やや良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ、内外面赤彩

第51表 SI-041号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第149図1	2	高杯		脚部破片	粒子がやや細かい	器表: 淡赤褐色 器肉: 黒色、暗褐色	やや良	内面: ミガキ後黒色処理 外面: ヘラケズリ、内外面赤彩

第52表 SI-043号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第153図1	4	杯	口径14.5 底径10.4 器高 3.8	口縁部一部欠損ほぼ完形	粒子が細かい	器表: 赤褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ミガキ、赤彩 外面: ヘラケズリ、赤彩、一部吸炭による黒色化
第153図2	4	杯	口径14.2 底径10.0 器高 2.9	34%遺存	粒子が細かい	器表: 淡赤褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ミガキ、赤彩 外面: ヘラケズリ、赤彩
第153図3	2	杯	口径15.1 底径丸底 器高 4.0	25%遺存	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡暗褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ナデ、一部ミガキ
第153図4	1	甕	底径 9.2	底部破片	粒子がやや粗い	器表: 黒褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: 剥落著しく不明 外面: 底部ヘラケズリ

第53表 SI-044号出土土器観察表1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第156図1	4	甕	口径26.4	口縁部破片	粒子がやや細かい	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ
第156図2	4	甕	口径23.2	口縁部破片	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ
第156図3	6、7	甕	口径17.8	口縁部～底部破片	粒子がやや粗い スコリア含む	器表: 褐色 器肉: 褐色	やや良	内面: ミガキ 外面: ナデ、ヘラケズリ後底部ミガキ
第156図4	1	甕	底径 6.2	底部破片	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第156図5	1	杯	口径12.6 底面丸底 器高 3.5	25%遺存	粒子がやや細かい	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第156図6	5	杯	口径14.6 底面丸底 器高 3.2	20%遺存	粒子が細かい 石英細粒含む	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡茶褐色	やや良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第156図7	1、4	杯	口径12.8	口縁部破片	粒子がやや細かい	器表: 赤褐色 器肉: 褐色	やや良	内面: ミガキ、赤彩 外面: ヘラケズリ、赤彩

第54表 SI-044号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第156図8	1	杯	口径15.7	口縁部破片	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第156図9	4、10	須恵器 甕		胴部破片	粒子がやや細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: 当て具痕、ナデ 外面: タタキ目

第55表 SI-045号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第159図1	11	杯	口径13.0 底径 7.0 器高 3.9	25%遺存	粒子がやや粗い 石英細粒 含む	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第159図2	2、19	杯	口径15.8 底径 9.8 器高 3.2	20%遺存	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第159図3	3、6	甕	底径10.7	底部破片	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第159図4	4、6	甕	口径13.0	口縁部～胴部34%	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ後胴部ヘラケズリ
第159図5	8、14	甕	底径 6.0	底部破片	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: 剥落のため不明 外面: ヘラケズリ

第56表 SI-046号出土土器観察表1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第162図1	1、4、30、 SI-48-1	杯	口径16.0 底径10.1 器高 6.6	25%	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第162図2	12	杯	口径15.0 底径 9.7 器高 3.4	34%	粒子がやや粗い	器表: 赤褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ、赤彩 外面: ヘラケズリ、赤彩
第162図3	1	杯	底径 7.4	底面25%	粒子がやや細かい	器表: 赤褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第162図4	1	杯	底径 9.2		粒子がやや細かい	器表: 黒色～茶褐色 器肉: 淡茶褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第162図5	1	杯	口径12.4		粒子が細かい	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡茶褐色	やや良	内面: ミガキ 外面: ナデ、ヘラケズリ
第162図6	48、49、54、 66、67	須恵器 杯	口径13.2 底径 9.0 器高 3.9	50%	粒子がやや粗い	器表: 赤褐色 器肉: 赤褐色	やや不良	内面: ロクロナデ後ナデ 外面: ロクロナデ、底部ヘラケズリ
第162図7	1、26	須恵器 杯	口径13.8 底径 9.0 器高 3.4	34%	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底部ヘラケズリ
第162図8	3	須恵器 杯	口径12.4 底径 6.8 器高 3.6	34%	粒子がやや細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ
第162図9	26	須恵器 杯	口径13.5 底径 8.0 器高 4.0	34%	粒子がやや細かい	器表: 暗灰色 器肉: 暗灰色	やや不良	内面: ロクロナデ後縦方向ナデ 外面: ロクロナデ、底面ヘラケズリ
第162図10	1、17、26	須恵器 杯	口径13.3 底径 7.8 器高 3.7	67%	粒子が細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ後ナデ、底面糸切り後 ヘラケズリ
第162図11	70	須恵器 杯	口径13.4 底径 7.8 器高 3.4	34%	粒子がやや細かい	器表: 灰白色 器肉: 灰白色	やや不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底面ヘラケズリ
第162図12	1	須恵器 杯	底径 7.8	底面+底部 一部	粒子がやや細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底面ヘラケズリ
第162図13	1	須恵器 杯	口径14.6 底径 7.4 器高 4.1	20%	粒子がやや細かい 長石細粒 粒含む	器表: 灰白色 器肉: 灰白色	やや不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ
第162図14	14	甕	底径 4.0	底部のみ	粒子がやや粗い 長石含む	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ヘラケズリ
第162図15	1、44、45、 67、71	甕	口径11.8	口縁部～底 部50%遺存	粒子がやや粗い スコリア を含む	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、頸部以下ヘラケズリ
第162図16	1	甕	口径11.2	口縁部破片	粒子がやや細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、頸部以下縦方向ヘラ ケズリ

第57表 SI-046号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第162図17	1	甕	口径16.6	口縁部～胴部破片	粒子がやや細かい	器表：灰褐色 器肉：灰褐色	やや良	内面：ナデ 外面：口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ後ナデ、胴部ヘラケズリ
第162図18	1	甕	口径22.8	口縁部破片	粒子が粗い 石英粒多く含む	器表：灰褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ、一部ヘラケズリ 外面：ナデ、輪積み痕残す
第162図19	32～34、39、 42、43、46～ 49、50、51、 53、56、58、 59、60～65	甕	口径23.0 底径 7.7 器高33.6 最大胴部径 28.2	完形	粒子がやや粗い	器表：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、所々ミガキ、一部輪積み痕
第162図20	1、55、S I - 48-1	甕	底径 9.4	底面+一部 底部	粒子がやや細かい	器表：茶褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ、一部ミガキ 外面：ヘラケズリ
第162図21	1、7、29、 31	甕	底径 7.4	底部+一部 底部	粒子がやや粗い 長石を含む	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや不良	内面：ナデ、剥落 外面：ヘラケズリ
第163図22	1、19、20、 28	甕		底部大形破 片	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：淡淡褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：ナデ
第163図23	1、9	甕	底径11.8	底部50%遺 存	粒子がやや粗い	器表：暗茶褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：剥落のため不明 外面：横方向のヘラケズリ
第163図24	1	甕	底径 8.6	底部底面破 片	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ
第163図25	2、18	支脚	径 4.0 高さ18.5	完形	粒子がやや細 かい	器表：褐色 器肉：褐色	やや良	ナデ、ヘラケズリ
第163図26	1、13	甑	底径 9.6	胴部～底部 34%遺存	粒子がやや粗 い	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ

第58表 SI-047号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第165図1	6	杯	口径13.4 底径 8.0 器高 3.4	80%遺存	粒子がやや細 かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ
第165図2	1	杯	口径12.4 底径 8.8 器高 3.4	10%以下	粒子がやや細 かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第165図3	12	甕	口径15.0	口縁部～胴 部破片	粒子がやや細 かい	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第165図4	10、14	甕	底径 8.0	底面 + α	粒子がやや粗 い	器表：明褐色 器肉：明褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ

第59表 SI-048号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第169図1	2、3	杯	口径13.4 底径 8.1 器高 4.1	34%	粒子が細かい	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ロクロナデ、赤彩 外面：ロクロナデ、底部底面ヘラケズリ
第169図2	9	杯	口径13.0 底径 7.8 器高 3.2	20%	粒子がやや細 かい	器表：暗褐色 器肉：淡茶褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：ナデ、ヘラケズリ、底面ヘラケズリ
第169図3	3	杯	口径12.8 底径 8.1 器高 3.0	10%以下	粒子がやや細 かい	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：ロクロナデ、ヘラケズリ
第169図4	3	杯	底径9.2	底部一部+ 底面25%遺 存	粒子がやや細 かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ、底面中央ミガキ
第169図5	2、11	須恵器 杯	口径14.5 底径 9.3 器高 5.0	34%遺存	粒子がやや細 かい	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ
第169図6	12	須恵器 杯	底径 7.8	底面遺存	粒子がやや細 かい	器表：灰色 器肉：灰色	やや良	内面：ロクロナデ、火ダスキ 外面：ロクロナデ、火ダスキ
第169図7	24、25	甕	底径 8.1		粒子がやや粗 い	器表：淡赤褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：剥落が著しい 外面：ヘラケズリ、剥落
第169図8	1、13	甑		口縁部破片	粒子がやや粗 い	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第169図9	1、6	甑	口径26.8	口縁部～胴 部25%遺存	粒子がやや粗 い	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ

第60表 SI-049号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第173図1	1、19	皿	口径13.2 底径 5.4 器高 1.5	20%	粒子が細かい	器表: 淡暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底面回転ヘラケズリ
第173図2	9	須恵器 杯	口径12.8 底径 6.6 器高 3.8	25%	粒子がやや細かい	器表: 黒灰色 器肉: 褐色	やや不良	内面: ロクロナデ後ナデ 外面: ロクロナデ後ナデ、底面回転ヘラケズリ
第173図3	36、38	甕	口径14.2	口縁部～胴部上半部 25%遺存	粒子がやや粗い 長石細粒を含む	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、胴部縦方向ヘラケズリ
第173図4	1、12、13	甕	口径13.0	口縁部～胴部上半部 25%遺存	粒子がやや粗い	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 口縁部ナデ、胴部縦方向主体のヘラケズリ
第173図5	3、5	甕	口径11.3	口縁部～胴部上半部 34%遺存	粒子がやや粗い	器表: 赤褐色 器肉: 赤褐色	やや不良	内面: ナデ、剥落 外面: 口縁部ナデ、胴部以下縦方向ヘラケズリ
第173図6	1、33、36	甕	底径 6.2	底部、底面 破片	粒子がやや粗い	器表: 暗褐色 器肉: 褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: 底部、底面ヘラケズリ
第173図7	14、22	須恵器 甕	底径16.4	底部25%遺存	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	不良	内面: 2次焼成で剥落 外面: 底部、底面ヘラケズリ
第173図8	7、8、32	須恵器 瓶	底径14.4	底部20%遺存	粒子がやや粗い	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	不良	内面: ナデ、当て具痕 外面: ナデ、タタキ目
第173図9	37	須恵器 瓶	口径23.4	口縁部破片	粒子がやや細かい	器表: 淡茶褐色 器肉: 淡茶褐色	やや不良	内面: ナデ、当て具痕 外面: ナデ、タタキ目
第173図10	6、30	須恵器 甕	口径21.6	口縁部～胴部上半部 20%遺存	粒子がやや粗い	器表: 灰褐色 器肉: 褐色	やや不良	内面: ナデ、当て具痕 外面: 口縁部ナデ、胴部タタキ目

第61表 SI-050号出土土器観察表1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第177図1	3、15	杯	口径15.9 底径10.8 器高 4.3	ほぼ完形	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ、一部ミガキ、被熱 外面: 口縁部ナデ、底部ヘラケズリ、一部吸炭黒色化
第177図2	7	杯	口径10.1 底径丸底 器高 3.7	75%遺存	粒子が細かい	器表: 灰褐色 器肉: 灰褐色	やや良	内面: ナデ、一部ミガキ 外面: 口縁部ナデ、底部ヘラケズリ
第177図3	1	杯	口径15.5 底径11.0 器高 3.4	10%遺存	粒子がやや細かい	器表: 茶褐色 器肉: 茶褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ミガキ
第177図4	1、29	杯	口径15.6	20%遺存	粒子がやや細かい、スコリアを含む	器表: 暗褐色 器肉: 灰褐色	やや不良	内面: ヘラケズリ 外面: ミガキ
第177図5	2、44	杯		底部破片	粒子がやや細かい、スコリアを含む	器表: 暗褐色 器肉: 灰褐色	やや不良	内面: ヘラケズリ 外面: ミガキ
第177図6	2	杯	口径13.8	口縁部破片	粒子がやや細かい	器表: 茶褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ミガキ
第177図7	1	杯	口径13.9	口縁部破片	粒子が細かい	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第177図8	2	杯	口径17.8	口縁部破片	粒子がやや細かい	器表: 暗褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ、底部ヘラケズリ
第177図9	2	杯	底径 8.3	底部破片	粒子が細かい	器表: 褐色 器肉: 褐色	やや不良	内面: ミガキ 外面: ヘラケズリ
第177図10	4、59	須恵器 杯	丸底	体部～底面 破片	粒子がやや粗い	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底面ヘラケズリ
第177図11	47	須恵器 杯	口径13.4 底径 6.7 器高 3.9	10%程度遺存	粒子がやや粗い	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底部底面ヘラケズリ
第177図12	1	蓋	口径19.4	破片	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや良	内面: ナデ 外面: ナデ後ヘラケズリ
第177図13	3、42	須恵器 杯	口径16.4	破片	粒子がやや細かい	器表: 灰色 器肉: 灰色	やや良	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ
第177図14	27、54	甕	口径11.1 底径 5.6 器高10.0	50%遺存	粒子がやや細かい	器表: 褐色 器肉: 暗褐色	やや不良	内面: ナデ 外面: ナデ、ヘラケズリ
第177図15	2	甕	口径16.4	口縁部～胴部上半部 破片	粒子がやや粗い	器表: 淡褐色 器肉: 淡褐色	やや不良	内面: ナデ、ヘラケズリ 外面: ナデ、ヘラケズリ

第62表 SI-050号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第177図16	36	甕		頸部～胴部上半部破片	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第177図17	52	甕		頸部～胴部上半部破片	粒子がやや粗い 石英砂含む	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ナデ後ヘラケズリ
第177図18	52	甕		頸部～胴部上半部	粒子が粗い 石英砂含む	器表：淡茶褐色 器肉：淡茶褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第177図19	2、46	甕	口径15.4	口縁部破片	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡灰褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ後ヘラケズリ
第177図20	2、21	甕	口径24.8	口縁部破片	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ後ヘラケズリ

第63表 SI-051号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第180図1	16	杯	口径12.6 底径丸底 器高 4.0	50%遺存	粒子がやや細かい	器表：茶褐色 器肉：淡茶褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第180図2	2、3	杯	口径13.8	口縁部～底部破片	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ミガキ、黒色研磨 外面：ナデ後ミガキ、黒色研磨
第180図3	9	杯	口径16.2	口縁部～底部破片	粒子がやや細かい	器表：黒褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ、吸炭で黒色化
第180図4	1	杯	口径12.2	口縁部～底部破片	粒子がやや細かい	器表：淡暗褐色 器肉：淡暗褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：多方位のヘラケズリ
第180図5	3	須恵器 杯	口径13.2	口縁部～底部破片	粒子がやや粗い 長石を含む	器表：灰色 器肉：灰色	やや良	内面：ロクロナデ後ナデ 外面：ロクロナデ後ナデ
第180図6	3	甕	底径 6.4	底部破片	粒子がやや細かい 長石を含む	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：底部ヘラケズリ、底面木葉痕
第180図7	1	支脚		頭部破片	粒子が粗い	器表：淡褐色 器肉：暗褐色	やや不良	

第64表 SI-052号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第183図1	16、17	杯	口径12.4 底径 5.7 器高 4.2	50%遺存	粒子が細かい スコリア含む	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや良	内面：ロクロナデ後ナデ 外面：ロクロナデ、底部ナデ後ヘラケズリ
第183図2	2	杯	口径11.8	口縁部～底部破片	粒子がやや細かい 長石含む	器表：暗褐色 器肉：淡茶褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ
第183図3	17	杯	口径11.4	口縁部～底部破片	粒子がやや細かい 長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ロクロナデ後ナデ 外面：ロクロナデ
第183図4	9、17	須恵器 杯	口径12.2 底径 7.6 器高 4.7	底面の一部を除きほぼ完形	粒子がやや細かい	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	やや不良	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第183図5	1、14	甕	口径14.2	口縁部～胴部	粒子がやや粗い	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、胴部ヘラケズリ
第183図6	2、8、14、17	甕	口径14.9 底径 7.1 器高 14.7	口縁部を除きほぼ完形	粒子がやや細かい 長石を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、胴部縦方向ヘラケズリ、底部横方向ヘラケズリ
第183図7	15	須恵器 甕		胴部～底部の破片	粒子が細かい	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	やや良	内面：当て具痕、ナデ 外面：タタキ目仕上げ
第183図8	7	甕	口径21.8	底部を除きほぼ完形	粒子が粗い 石英を含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：一部ヘラケズリ、ナデ 外面：ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ミガキ
第185図9	10、17	甕	底径10.4	底部破片	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：横方向のヘラケズリ

第65表 SI-053号出土土器観察表1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第187図1	4	杯	口径13.5 底径 5.9 器高 4.4	50%遺存	粒子がやや細かい スコリアを含む	器表:茶褐色 器肉:茶褐色	やや良	内面:ロクロナデ後ナデ 外面:ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ
第187図2	37	杯	口径12.6 底径 5.8 器高 4.5	34%遺存	粒子がやや細かい	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:ロクロナデ後ナデ 外面:ロクロナデ後底部底面ヘラケズリ、 底面糸切り後ヘラケズリ
第187図3	2	杯	口径14.6		粒子がやや粗い	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ロクロナデ後ナデ 外面:ロクロナデ後底部ヘラケズリ
第187図4	36	杯	口径16.8	口縁部~底 部破片	粒子がやや細かい	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ミガキ
第187図5	4	杯	口径12.7	口縁部破片	粒子がやや細かい	器表:明褐色 器肉:明褐色	やや良	内面:ナデ 外面:ナデ、底部ヘラケズリ
第187図6	2	杯		底部破片	粒子がやや細かい	器表:明褐色 器肉:明褐色	やや良	内面:ナデ 外面:ヘラケズリ、不明墨書
第187図7	1、54	杯	口径14.6	口縁部破片	粒子がやや粗い 長石粒含む	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ロクロナデ後底部ヘラケズリ
第187図8	30、36	須恵器 杯	口径12.9 底径 6.0 器高 4.2	底面+α片	粒子がやや細かい	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	不良	内面:ロクロナデ後、ナデ 外面:ロクロナデ後底部ヘラケズリ、底 面回転糸切り後ヘラケズリ
第187図9	38	須恵器 杯	口径14.6 底径 7.2 器高 4.4	25%遺存	粒子がやや細かい	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ、底部底面ヘラケズリ
第187図10	3、4	須恵器 杯	口径15.2	口縁部破片	粒子が細かい、 長石粒含む	器表:灰緑色 器肉:灰色	良	内面:ロクロナデ、自然 外面:ロクロナデ、自然
第187図11	32、34、54	甕	口径15.7 底径8.0 器高 13.1	口縁部~胴 部一部破損	粒子がやや細かい	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:口縁部~胴部ナデ、底部底面ヘラ ケズリ
第187図12	21、22	甕	底径 9.8	底部底面破 片	粒子がやや粗い	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ、剥落が著しい 外面:ヘラケズリ、剥落
第187図13	3、56、64	甕	底径 8.4	底部底面破 片	粒子がやや粗い	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ヘラケズリ
第187図14	44	甕	底径11.1	底部破片	粒子がやや粗い 長石粒含む	器表:明褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:ナデ、剥落 外面:ヘラケズリ
第187図15	46	甕	底径 9.8	底部破片	粒子がやや粗い	器表:明褐色 器肉:明褐色	やや不良	内面:ナデ、剥落が著しい 外面:横方向ヘラケズリ
第187図16	27、31、33、 35、45、48、 54	須恵器 甕	口径22.8	口縁部~頸 部ほぼ50%	粒子がやや粗い	器表:灰褐色 器肉:褐色	やや不良	内面:ナデ、当て具痕 外面:口縁部ナデ、一部タタキ目
第187図17	50、52	須恵器 甕		胸部破片	粒子がやや粗い	器表:灰褐色 器肉:淡褐色	不良	内面:ナデ、当て具痕 外面:タタキ目、底部ヘラケズリ
第187図18	29、39、40、 43、54	須恵器 甕	底径15.8	底部破片	粒子がやや粗い	器表:暗褐色 器肉:暗褐色	やや不良	内面:当て具痕、器面が荒れている 外面:底部ヘラケズリ
第187図19	10	須恵器 甕	底径15.0	底部破片	粒子がやや粗い	器表:灰褐色 器肉:灰褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:横方向のヘラケズリ
第188図20	25	須恵器 甕	底径14.0	底部破片	粒子がやや粗い スコリアを含む	器表:灰褐色 器肉:明褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:タタキ目後ヘラケズリ
第188図21	7、8	須恵器 甕	底径 9.4	底部破片	粒子がやや細かい	器表:暗褐色 器肉:褐色	不良	内面:剥落著しいため不明 外面:タタキ目後ヘラケズリ

第66表 SI-054号出土土器観察表1

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼 成	調 整
第193図1	8	須恵器 杯	口径11.8 底径 5.6 器高 4.5	80%遺存	粒子がやや細かい	器表:灰褐色 器肉:灰褐色	やや不良	内面:ナデ 外面:ロクロナデ後底部ヘラケズリ、底 面手持ちヘラケズリ
第193図2	3	杯	口径12.6 底径 4.7 器高 3.8	50%遺存	粒子がやや細かい	器表:暗褐色 器肉:淡褐色	やや不良	内面:ロクロナデ後ナデ 外面:ロクロナデ後底面回転糸切り仕上 げ
第193図3	7	杯	口径13.4 底径 6.4 器高 3.8	75%遺存	粒子がやや細かい	器表:淡褐色 器肉:淡褐色	不良	内面:一部ミガキ、剥落 外面:ロクロナデ後ナデ、ヘラケズリ、 底面一方向ヘラケズリ

第67表 SI-054号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第193図4	4、11	杯	口径17.4	口縁部～底部67%遺存	粒子が細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ロクロナデ後ナデ 外面：ロクロナデ後ナデ、底部ヘラケズリ
第193図5	1	甕	底径 5.8	底面+底部の一部	粒子がやや細かい	器表：淡褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ
第193図6	1、6、11	須恵器 甕	最大胴部径 18.8	胴部破片	粒子がやや細かい	器表：暗褐色 器肉：灰色	やや良	内面：当て具痕 外面：タタキ目
第194図7	5、10、11	須恵器 甕	口径32.8	口縁部～胴部破片	粒子がやや細かい	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	やや不良	内面：当て具痕 外面：タタキ目

第68表 SI-055号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第196図1	12、17、18	台付き碗	口径18.6 底径 5.8 器高 6.5	50%遺存	粒子がやや細かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：ロクロナデ、黒色処理 外面：ロクロナデ、底部底面ヘラケズリ
第196図2	1、2、7	碗	口径16.2	20%以下遺存	粒子がやや細かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：ロクロナデ、黒色処理 外面：ロクロナデ、底部ヘラケズリ
第196図3	1、16	碗	口径17.6	10%遺存	粒子がやや細かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：ロクロナデ、黒色処理 外面：ロクロナデ、底部ヘラケズリ
第196図4	11	杯			粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ロクロナデ、黒色処理 外面：ロクロナデ
第196図5	1、5、8	甕	口径26.8	口縁部～一部破片	粒子がやや細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、頸部以下ヘラケズリ
第196図6	1、4、6、9、13、14	甕	口径23.1	口縁部～胴部破片	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、胴部縦方向ヘラケズリ
第196図7	1～3、5、6、13	甕		胴部破片	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ

第69表 SI-056号出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第200図1	3	杯	口径11.2 底径 5.0 器高 2.8	口縁部～底部破片	粒子がやや細かい	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第200図2	3	杯	口径13.3	口縁部～底部破片	粒子がやや細かい	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第200図3	5	甕	口径12.6	口縁部～胴部上半部破片	粒子がやや細かい	器表：黒褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第200図4	3	甕	口径16.4	口縁部～頸部破片	粒子がやや細かい	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第200図5	3	甕	口径12.9	口縁部～頸部破片	粒子がやや細かい	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ

第70表 SI-057号出土土器観察表1

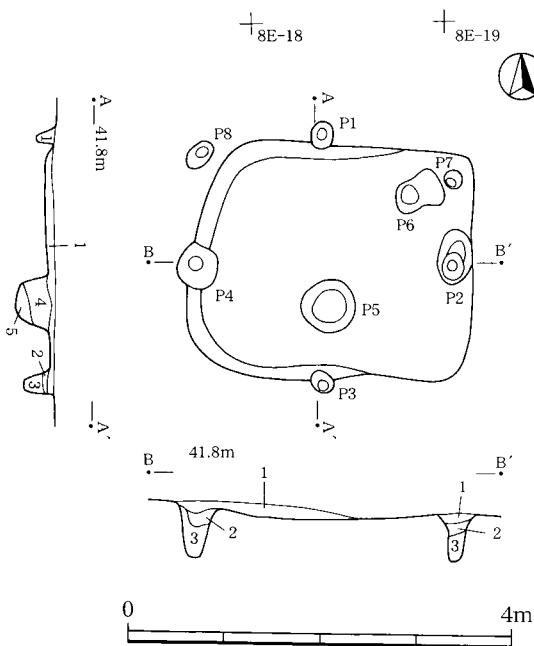
挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第44図1	9	杯	口径11.6 底径丸底 器高 4.2	完形	粒子が細かい	器表：暗～淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：口縁部ナデ、底部横方向ヘラケズリ
第44図2	41	杯	口径12.5 底径丸底 器高 3.8	完形	粒子が細かい	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：口縁部ナデ、底部横方向ヘラケズリ
第44図3	14	杯	口径15.7 底径丸底 器高 5.5	完形	粒子がやや細かい	器表：淡茶褐色 器肉：茶褐色	やや良	内面：ヘラケズリ後ナデ 外面：ナデ、斜め方向ヘラケズリ
第44図4	45	杯	口径13.8	口縁部～底部破片	粒子が粗い	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：口縁部ナデ、底部ヘラケズリ
第44図5	15	杯	口径12.6	口縁部～底部破片	粒子が細かい	器表：淡茶褐色 器肉：淡茶褐色	やや良	内面：ナデ、軽いミガキ 外面：口縁部ナデ、底部ヘラケズリ
第44図6	28	杯	口径13.6 底径丸底 器高 3.8	口縁部の一部欠損	粒子がやや細かい	器表：淡暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ

第71表 SI-057号出土土器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第45図7	40	甕 製塙土器	口径13.2 底径 6.3 器高11.6	完形	粒子がやや粗い	器表：淡赤褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ後ミガキ、二次焼成のため剥落 外面：ナデ、ヘラケズリ
第45図8	4、20	甕	口径17.6 底径 6.8 器高23.4	底面を除き ほぼ完形	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：淡赤褐色	やや不良	内面：ナデ、二次焼成のため剥落 外面：ナデ、胴部縦方向ヘラケズリ、底部横方向ヘラケズリ
第45図9	30、32	甕	口径16.8 底径 8.4 器高17.2	底面を除き ほぼ完形	粒子が粗い	器表：淡暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、胴部縦方向ヘラケズリ、底部横方向ヘラケズリ
第45図10	39	甕	口径17.6 底径 6.3 器高22.7	67%遺存	粒子がやや粗い	器表：暗褐色 器肉：褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、胴部縦方向ヘラケズリ、底部横方向ヘラケズリ
第45図11	23、26、27	甕	口径17.6 底径 6.8 器高23.4	ほぼ完形	粒子がやや粗い	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや不良	内面：口縁部横方向ミガキ、胴部以下縦方向ミガキ 外面：ナデ、縦方向ヘラケズリ
第45図12	4、20、21、 26、37	甕	口径22.0	口縁部～胴部50%	粒子がやや細かい	器表：暗褐色 器肉：茶褐色	やや良	内面：ヨコナデ、一部ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第46図13	4、20、22、 23、25、35、 36、38	甕	口径20.1 底径 8.5 器高18.6	底部一部欠損	粒子がやや細かい	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや不良	内面：口縁部横方向ミガキ、胴部以下縦方向ミガキ 外面：ナデ、縦方向ヘラケズリ
第46図14	43	鉢 製塙土器	口径11.0 底径丸底 器高 6.2	ほぼ完形	粒子がやや粗い	器表：灰褐色 器肉：灰褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第46図15	16	鉢か高台付杯	口径10.6	体部破片	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ナデ、輪積み痕
第46図16	1～3、8、 10	鉢	口径18.3 底径 6.4 器高13.1	口縁部の一部欠損	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ナデ、横方向ヘラケズリ
第46図17	1	鉢	底径丸底	体部破片	粒子が粗い	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや不良	内面：剥落 外面：ヘラケズリ、輪積み痕
第46図18	6、7	鉢	口径13.4	口縁部～底部67%	粒子が細かい	器表：暗～淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ミガキ 外面：ナデ、ヘラケズリ、一部赤彩痕跡あり
第46図19	3	高杯		脚部破片	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：体部ミガキ、脚部ナデ 外面：ヘラケズリ
第46図20	18	須恵器甕		胴部破片	粒子が粗い	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	良	内面：ナデ當て具痕 外面：タタキ目
第46図21	1、13、32	須恵器甕		胴部破片	粒子がやや粗い	器表：灰色 器肉：灰色	やや良	内面：顯著な當て具痕 外面：タタキ目

第72表 SI-058号出土土器観察表

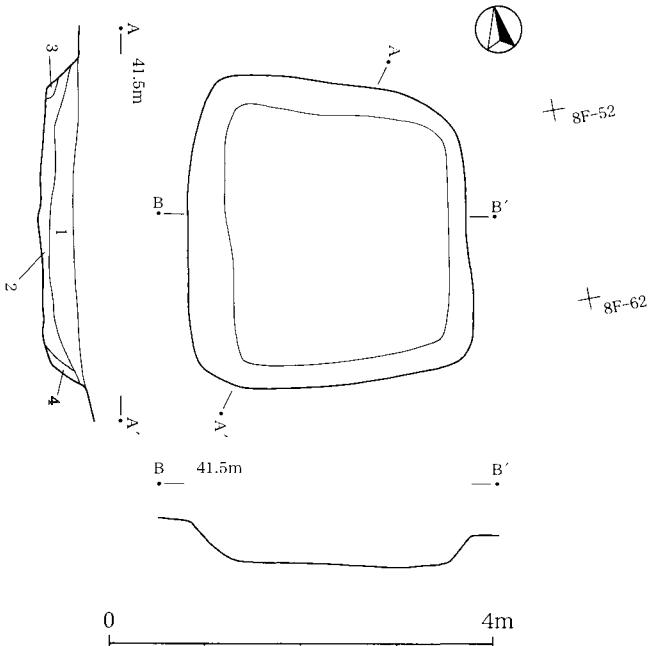
挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎 土	色 調	焼成	調 整
第203図1	1、6	杯	口径12.8 底径 6.6 器高 4.0	50%遺存	粒子がやや粗い	器表：淡茶褐色 器肉：淡茶褐色	やや不良	内面：ロクロナデ、二次焼成で荒れてい る 外面：ロクロナデ、底部ヘラケズリ
第203図2	1	甕	底径 8.2	底部50%遺存	粒子がやや粗い	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ
第203図3	1、3、4	甕	底径12.8 底径 5.6 器高13.3	75%遺存	粒子がやや細かい	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	やや良	内面：ナデ 外面：ナデ、胴部縦方向ヘラケズリ、底部横方向ヘラケズリ



第209図 SI-059号 平面図及びセクション図  
(Scale1/80)

SI-059号 土層セクション

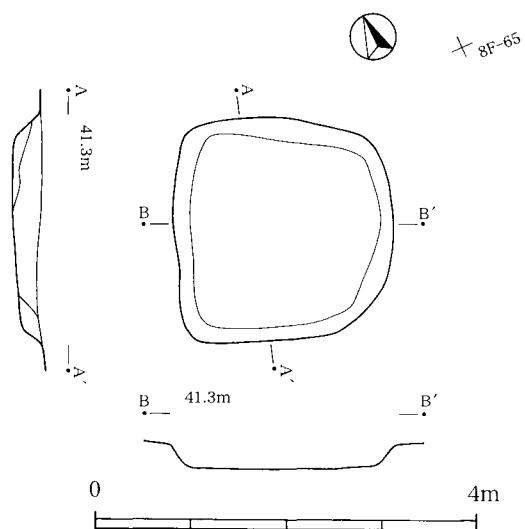
- 1層（黒褐色土） ローム粒、ロームブロックを多量に含む。
- 2層（暗褐色土） ロームブロックを多量に含む。ピット内の土。
- 3層（暗褐色土） ローム粒少量、締まりなくぼそぼそである。ピット内の土。
- 4層（黒褐色土） ローム粒多く含む。ピット内の土。
- 5層（暗黄褐色土） ローム多量に含む。ピット内の土。



第210図 SI-060号 平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale1/80)



第211図 SI-060号 出土遺物実測図 (Scale1/3)



第212図 SI-061号 平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale1/80)

## 5. 中近世

### （1）概要（第21図）

調査区は南北に細長くのびているが、発掘区の北側を中心にSX-001号の掘立柱建物群、SX-002号の台地整形区画、SX-003号のピット群などを中心に中世の堅穴状遺構5軒、火葬墓2基、井戸状遺構4

基、土壙23基、地下式壙3基、掘立柱建物跡2棟、台地整形区画1カ所、中近世以降の炭窯4基、溝17条などが検出された。なお、土壙の中には土壙墓及び粘土採掘坑とおぼしき性格の明らかなものが多い。

### (2) 遺構（竪穴状遺構）

#### SI-059号（第209図）

（遺構） SX-002号の台地整形区画内の8E-18付近で検出された。東西3.0m、南北2.5mのやや長方形を呈する。床面はハードロームまで掘り込んでいたため全面硬化している。竪穴を取り巻くように柱穴と思われるピットが検出されている。プランの特徴から中世の方形竪穴状遺構と思われる。

（遺物） 遺物等の検出は認められなかった。

#### SI-060号（第210図、第211図1）

（遺構） SX-002号の台地整形区画内の8F-52付近で検出された。短辺2.8m、長辺3.2m程でやや台形気味の不整な方形を呈する。確認面から床面までの深さは20cm余りである。床面はハードロームまで掘り込んでいたため全面硬化している。プランの特徴から中世の方形竪穴状遺構と思われる。

（遺物） 1は土師器の高杯の本体の底部の部分である。内外面ともヘラケズリで調整されている。斜面部に向かう部分であるため覆土中に混入した遺物と思われる。他に遺物等の検出は認められなかった。

#### SI-061号（第212図）

（遺構） SX-002号の台地整形区画内の8F-63付近で検出された。一辺2.3m程のやや不整な方形を呈する。確認面から床面までの深さは20cm余りである。床面はハードロームまで掘り込んでいたため全面硬化している。プランの特徴から中世の方形竪穴状遺構と思われる。

（遺物） 遺物等の検出は認められなかった。

### (3) 遺構（台地整形区画）

#### SX-001号（第213図～第214図）

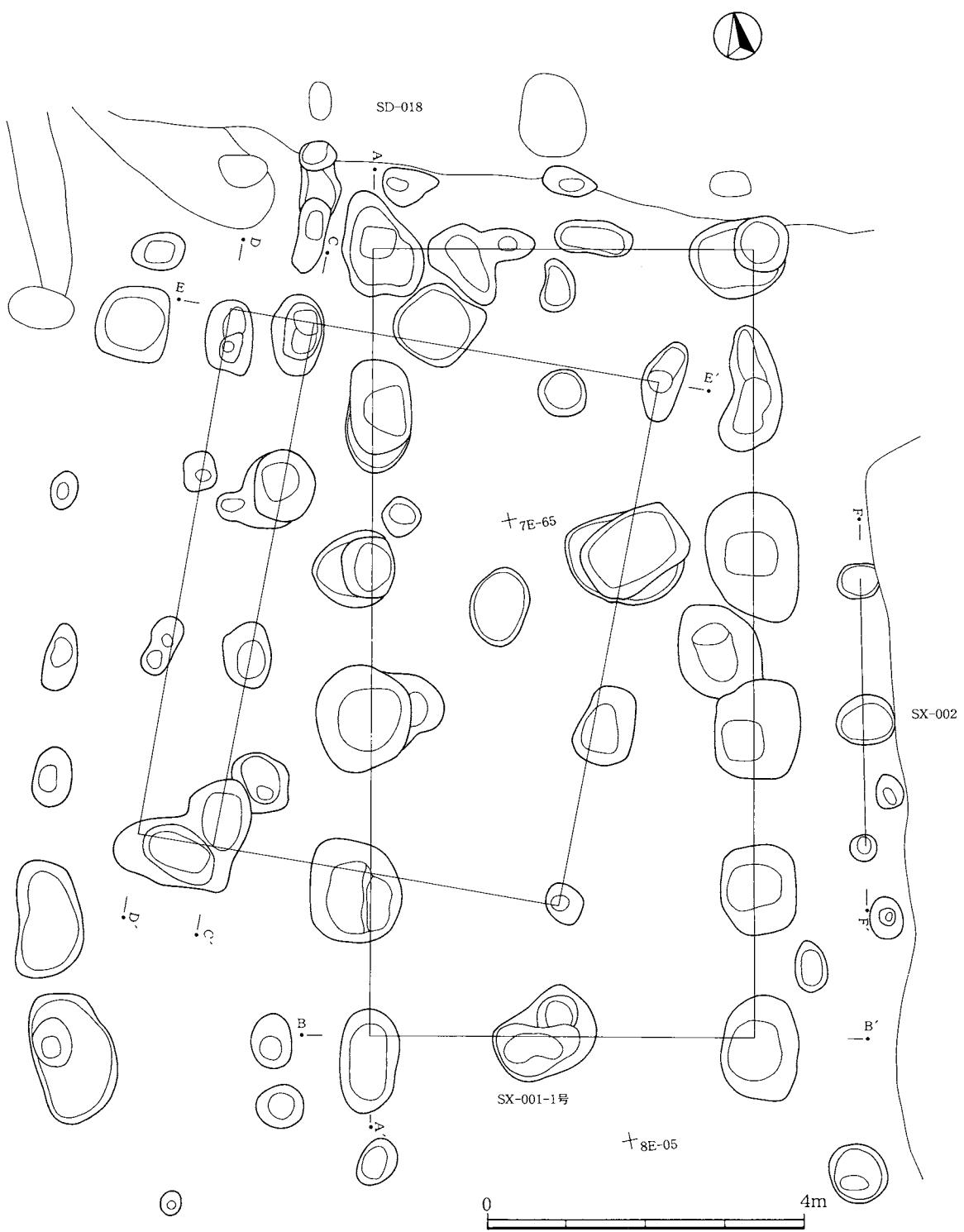
（遺構） この台地整形区画は大小2棟の掘立柱建物跡及びそれらを取り巻くように検出されている多数のピット群からなる。位置的には7Eを中心としSX-003号の台地整形区画の西側に位置するが、共存関係及び先後関係については不明である。時期的には柱穴のピットの覆土中より、中世末の陶磁器片が少量出土しており、中世末以降の時期にあたるものと考えられる。

#### SX-001号-1（第213図～第214図）－掘立柱建物跡

（遺構） 東側の大規模な建物跡で、規格は2間×5間で規模は4.9m×10mである。柱穴は方形及び橢円形で大きさは0.8m～1.2mである。長軸方向はN-12°-Eである。

#### SX-001号-2（第213図～第214図）－掘立柱建物跡

（遺構） 1に対してやや重複する形で中程から西側によって建てられている。規格は2間×3間で規模は4.4m×6.8mである。西側に拡張もしくは庇構造を持つ建物である可能性が高い。長軸方向はN-

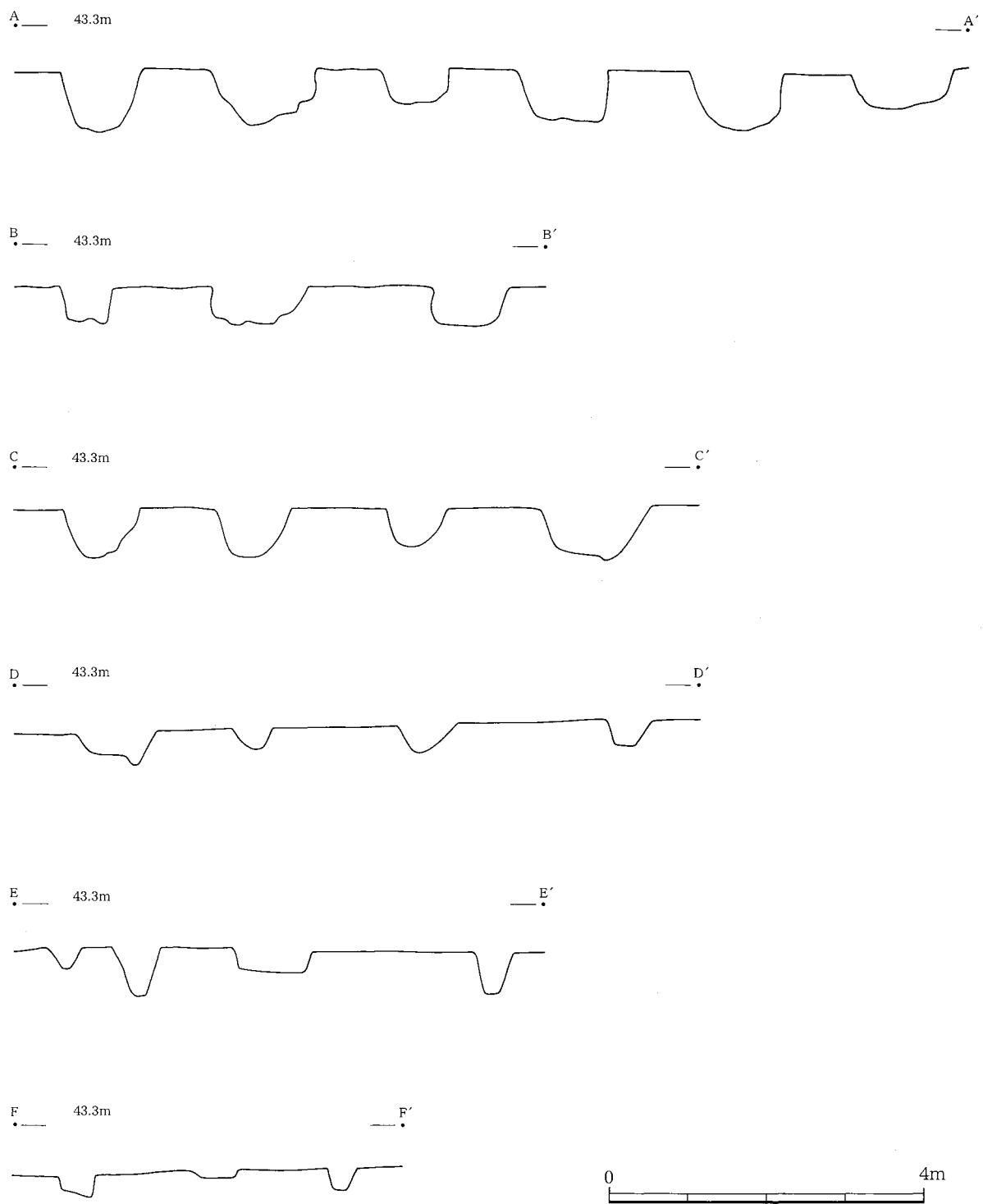


第213図 SX-001号（1号建物跡、2号建物跡、ピット群）平面図（Scale 1/80）

20° - E である。前後関係については不明である。

#### SX-001号—ピット群（第213図～第214図）

（遺構） 1の建物跡の周りに縦横方向にピット群が並ぶが、柵列跡である可能性は高い。



第214図 SX-001号（1号建物跡、2号建物跡、ピット郡）エレベーション図 (Scale 1/80)

#### SX-002号（第215図～第219図）

(遺構) この台地整形区画は8Fを中心東側は斜面にむかっており、他の3方向を取り囲むようにピットを伴う溝状の区画により囲まれた範囲で堅穴状遺構5軒（そのうちSI-059～061号の3軒は調査時に堅穴状遺構として確認され、SIで遺構Noを付してあるので堅穴状遺構の項目で説明、P-5、11）、土

壙墓5基（P-1、2、6、8、12）、火葬墓2基（P-3、4）、土壙4基（P-7、10、13）、井戸状遺構1基（SE-3）で構成されている。ここでは調査時にピットとして調査されたもので、遺構No.を付属番号として振ったものを以下に説明していく。

台地状整形区画内の遺構群である区画溝及び竪穴状遺構及び火葬墓、井戸、小ピット群などは中世末にかけて構築されていたものと思われる。さらに近世初頭以降に土壙墓が区画溝に沿った形で構築されて残された可能性が高い。なお、番号を振っていない北東よりの小ピット群は径0.2m、確認面から深さが0.3m程度のものが多く建物としては並ばないものの一連のものとして捉えられる可能性はある。また、区画溝内に残されている土壙のような落ち込みも番号を付したもの以外は覆土の状況など細かな情報が乏しいため近世初頭以降に設けられた土壙墓である可能性もあるが、具体的にここで指摘することはできない。

#### SX-002号-P1（第216図）－土壙墓

（遺構）SX-002号の台地整形区画内の北東隅に近い7F-73付近で検出された。平面は長軸1.1m、短軸0.9m程の楕円形に近い形である。確認面から床面までの深さは0.2m程である。床面はややボール状を呈する。覆土上層から古寛永の六文銭が検出されている。時期的には中世末～近世初頭までさかのぼると思われる。遺構の性格は土壙墓であろう。

（遺物）遺物は古寛永等の出土が認められた。（金属器の欄でまとめて説明）

#### SX-002号-P2（第217図）－土壙墓

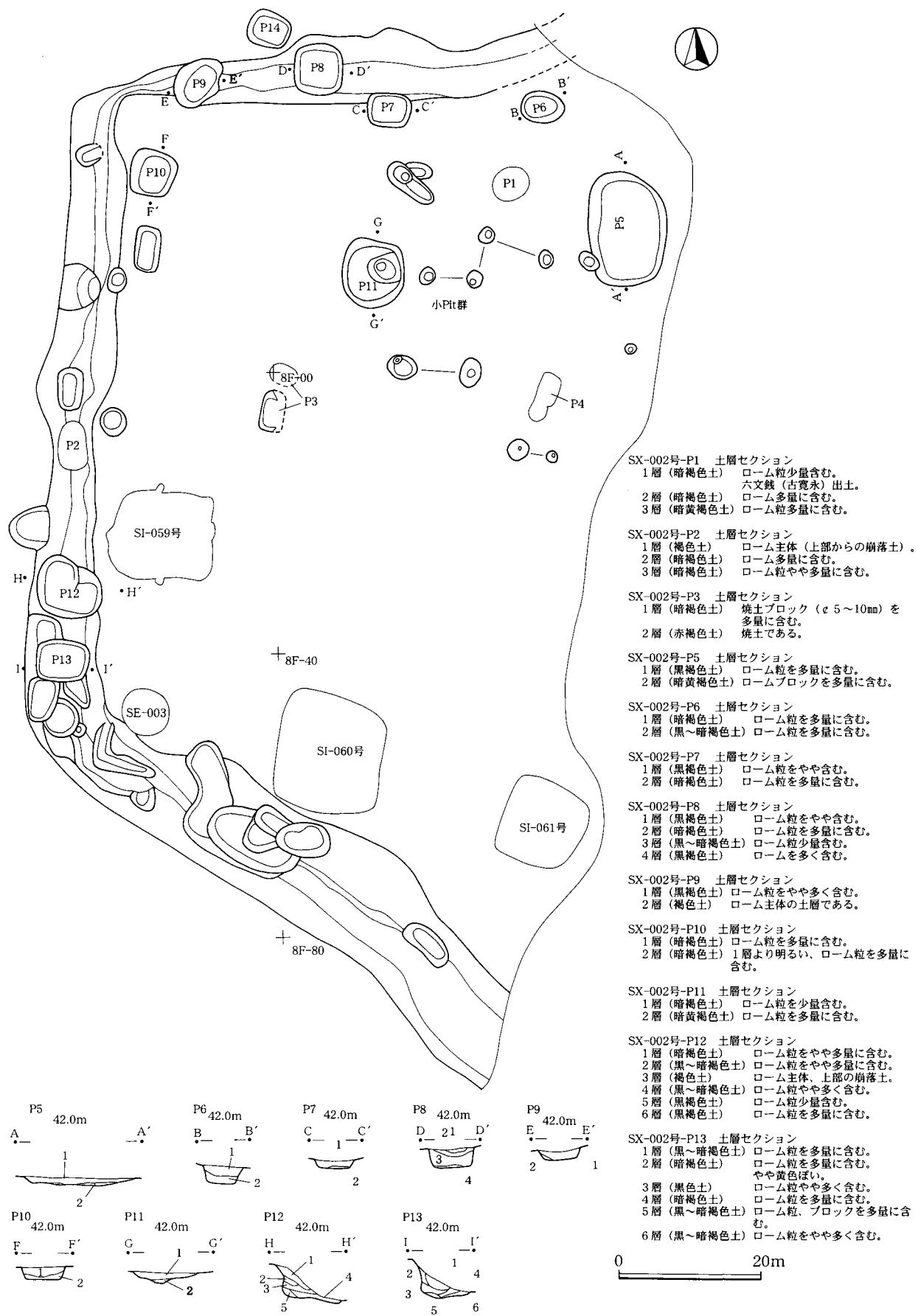
（遺構）SX-002号の台地整形区画内の西側溝の中央部分に近い8E-07付近で検出された。平面は長軸1.3m、短軸0.9m程の隅丸方形に近い楕円形である。確認面からの深さは西側で1.1m程度になる。遺物は床面があると思われる東側まで分布している。陶磁器の破片とおそらく鉄釘と思われる鉄製品が分布している。西壁は区画溝の外縁部に位置する。セクション等からは整形区画との先後関係は不明であるが、おそらくは整形区画より後に作られたものと思われる。時期的には古くても近世初頭までさかのぼることはないと思われる。遺構の性格は土壙墓であろう。

（遺物）遺物は近世（18世紀頃）の陶磁器と鉄釘（おそらく棺桶の留め金か何かに使用されたものか）が出土した。

#### SX-002号-P3（第218図）－火葬墓

（遺構）SX-002号の台地整形区画内のほぼ中程の8F-00付近で検出された。当初は床面が焼けていたため炉穴のようなものと考えたが、東よりのP4と同様な火葬墓と考えた方がよさそうである。平面は北側の円形の焼けた部分と南側の長方形の部分に分かれる。円形部分は径0.50m程度、方形部分は長辺0.85m、短辺0.68m程のやや不整な隅丸方形になる。確認面からの深さは最大で0.2m程度になる。時期的には覆土等から判断すると台地整形区画と同様に中世末までさかのぼると思われる。遺構の性格は火葬墓であろう。

（遺物）遺物は検出されなかった。



第215図 SX-002号(台地整形区画)内出土遺構全景図及びセクション図 (Scale 1/160)

#### **SX-002号-P4 (第219図) 一火葬墓**

(遺構) SX-002号の台地整形区画内の東側の中央部分の8F-04付近で検出された。P3とは逆に平面は北側に方形部分、南側に焼けた円形部分がある。円形部分は径0.65m程度、方形部分は長辺1.2m、短辺0.8m程の隅丸方形になる。確認面からの深さは0.2m程度になる。時期的には覆土中からカワラケ破片等が出土しており、台地整形区画と同様に中世末までさかのぼると思われる。遺構の性格は火葬墓であろう。

(遺物) 遺物は覆土中よりカワラケが検出されたが、細かな破片のため図示はできなかった。

#### **SX-002号-P5 (第215図) 一竪穴状遺構**

(遺構) SX-002号の台地整形区画内の北東側のP1よりさらに斜面部の中央部分の8E-85付近で検出された。やや不整形な長方形を呈する。長辺3.2m、短辺2.2m程度である。確認面までの深さは0.3m程度であるが、床面は全体にボコボコな状況である。覆土中より内耳土器の破片が検出されており、近世初頭まではさかのぼると思われる。遺構の性格は竪穴状遺構であろう。

(遺物) 遺物は覆土中より内耳土器が検出されたが、細かな破片のため図示はできなかった。

#### **SX-002号-P6 (第215図) 一土壙墓**

(遺構) SX-002号の台地整形区画内の北東隅に近い溝の内側に近い7F-64付近で検出された。平面は長軸1.2m、短軸0.9mの楕円形である。確認面からの深さは0.6m程度になる。覆土はローム粒が多く混ざった暗褐色土で調査時の所見ではP2と似た雰囲気がある土壙とのことなので、おそらくは整形区画より後に作られたものと思われる。時期的には古くても近世初頭までさかのぼることはないと思われる。遺構の性格は土壙墓であろう。

(遺物) 遺物は検出されなかった。

#### **SX-002号-P7 (第215図) 一土壙**

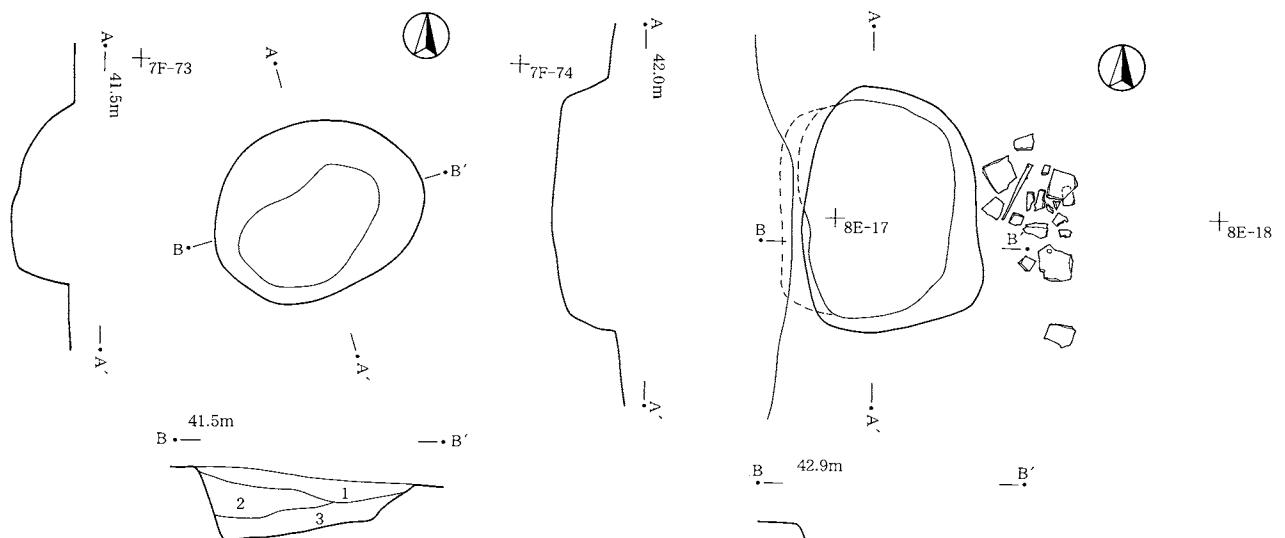
(遺構) SX-002号の台地整形区画内の北側区画溝の内側付近に近い7F-62付近で検出された。平面は長辺1.2m、短軸0.9mの隅丸方形である。確認面からの深さは0.22m程度になる。覆土は黒～暗褐色土でローム粒が多く混ざった2枚の土層からなる。覆土中から遺物はないものの覆土等から時期的には台地整形区画とほぼ同時期、中世末までさかのぼるものであろうか。遺構の性格は不明である。

(遺物) 遺物は検出されなかった。

#### **SX-002号-P8 (第215図) 一土壙墓**

(遺構) SX-002号の台地整形区画内の北側区画溝内の7F-50付近で検出された。平面は一辺1.42mのほぼ正方形でP2と同様にやや区画に向かって北側床面部分がオーバーハングしている。確認面からの深さは0.46mでほぼフラットである。覆土中から陶磁器の破片が出土しており、時期的には古くても近世初頭までさかのぼることはないとと思われる。遺構の性格は土壙墓であろう。

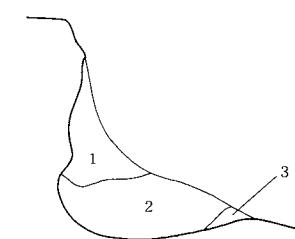
(遺物) 遺物は陶磁器の破片が検出されている。



第216図 SX-002号-P1平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale1/40)

SX-002号-P1 土層セクション

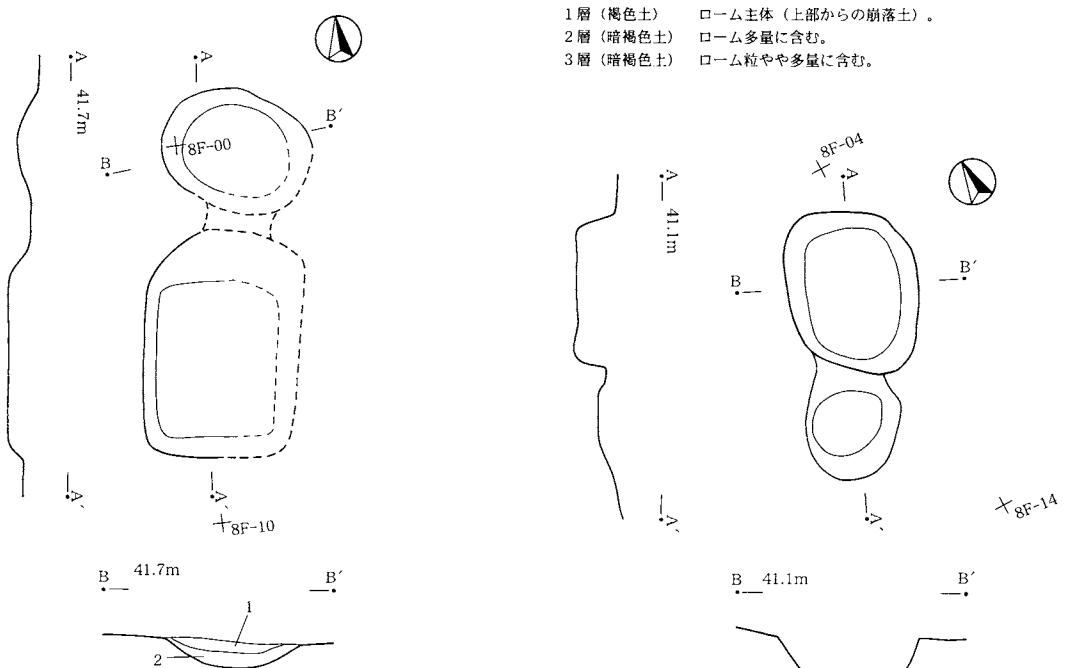
- 1層（暗褐色土） ローム粒少量含む。六文銭（古寛永）出土。
- 2層（暗褐色土） ローム多量に含む。
- 3層（暗黄褐色土） ローム粒多量に含む。



第217図 SX-002号-P2平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale1/40)

SX-002号-P2 土層セクション

- 1層（褐色土） ローム主体（上部からの崩落土）。
- 2層（暗褐色土） ローム多量に含む。
- 3層（暗褐色土） ローム粒やや多量に含む。



第218図 SX-002号-P3平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale1/40)

SX-002号-P3 土層セクション

- 1層（暗褐色土） 焼土ブロック（φ 5～10mm）を多量に含む。
- 2層（赤褐色土） 烧土である。

第219図 SX-002号-P4平面図、エレベーション図  
(Scale1/40)



#### **SX-002号-P9 (第215図) - 土壙**

(遺構) SX-002号の台地整形区画内の北側区画溝内の7E-59付近で検出された。平面は長軸1.65m、短軸1.12mの橢円形に近い形を呈する。確認面からの深さは0.30mでほぼフラットである。覆土はローム粒を多く含む黒褐色土で遺物は検出されなかった。覆土中から遺物はないものの覆土等から時期的には台地整形区画とほぼ同時期、中世末までさかのぼるものであろうか。遺構の性格は不明である。

(遺物) 遺物は検出されなかった。

#### **SX-002号-P10 (第215図) - 土壙**

(遺構) SX-002号の台地整形区画内の北西側区画にある溝のやや内側に位置する7E-78付近で検出された。一辺が1.2mのやや隅丸な方形を呈する。確認面までの深さは0.38m程度である。床面はほぼフラットでしっかりしている。覆土は暗褐色土を主体としてしっかりしている。時期は覆土等から判断すると台地整形区画と同様に中世末までさかのぼる可能性はある。遺構の性格は不明であるが、規模等から墓壙であろうか。

(遺物) 遺物は見られない。

#### **SX-002号-P11 (第215図) - 壁穴状遺構**

(遺構) SX-002号の台地整形区画内の北側よりに位置する7F-81付近で検出された。径1.8~1.9m程度の隅丸方形ぎみの円形を呈する。確認面までの深さは浅い床面部分は0.20m、中程の柱穴状のピット部分で0.95m程度である。覆土を見る限り柱穴ピットを埋めて壁穴状遺構を構築したようにも思えるが、詳細は不明である。時期は覆土等から判断すると台地整形区画と同様に中世末までさかのぼる可能性はある。遺構の性格は不明であるが、壁穴状遺構の小さなものであろうか。

(遺物) 遺物は見られない。

#### **SX-002号-P12 (第215図) - 土壙墓**

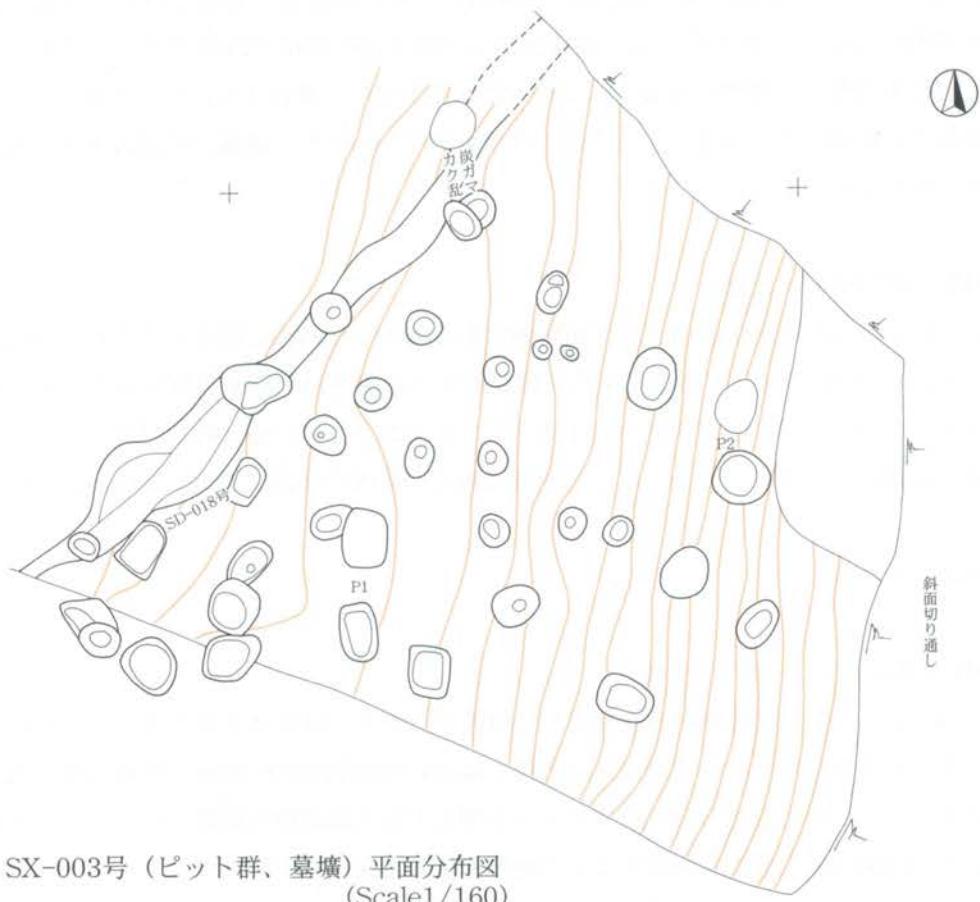
(遺構) SX-002号の台地整形区画内の西側の区画溝内に位置する8E-37付近で検出された。規模は底面の形が不整な形をしているが最大2.30m程の大きさが認められる。西側の溝の外縁部と接する部分では0.9mある。形態などからP8などと同様に土壙墓である可能性は高い。詳細は不明である。時期は覆土等から判断すると台地整形区画より後世の近世初頭以後になる可能性がある。遺構の性格はおそらく土壙墓であろう。

(遺物) 遺物は見られない。

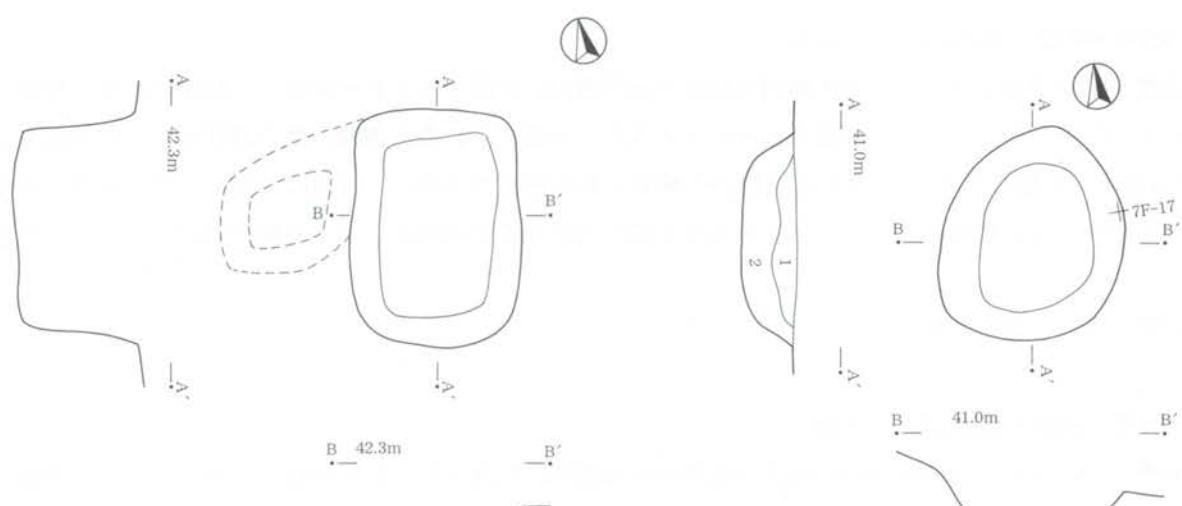
#### **SX-002号-P13 (第215図) - 土壙**

(遺構) SX-002号の台地整形区画内の北側の区画溝外に位置する7F-50付近で検出された。平面は一辺0.9~1.2mのやや丸みのある方形を呈する。確認面からの深さは0.20m程で比較的フラットである。覆土等が不明のため詳細は不明である。時期についても区画溝の外側にあり、床面の深さも異なるため、台地整形区画との前後関係は不明である。遺構の性格は土壙墓や建物の柱穴である可能性もあるが不明である。

(遺物) 遺物は見られない。



7F-03 0 20m



第222図 SX-003号-P2平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale 1/40)

第221図 SX-003号-P1平面図及びエレベーション図  
(Scale 1/40)

0 2m

SX-003号-P2 土層セクション  
1層（暗褐色土） ローム粒をやや多量に含む。  
2層（暗褐色土） ロームを多量に含む。

### SX-003号（第220図～第222図）

（遺構） SX-003号はSX-002号の台地整形区画の北側にSD-018号（道路跡）をはさんで7F区の斜面に存在する多数のピット群を主体としている。斜面部の上の方の幾つかは方形のプランで覆土中から六文銭がでているものもある。これらについては土壙墓であり、時期的にSX-003号より後の近世初頭に営まれたものと思われる。斜面部の下方を中心に見つかっている不規則な配置のピットは径0.7m、深さ0.3m前後の規模のものが多い。柵列と考えても並びが不規則で性格等は判断できない。

（遺物） P1、P2の土壙の床面から六文銭が出土している。また区画内より近世初頭の時期の陶磁器片が少量出土している。

### SX-003号-P1（第221図）－土壙墓

（遺構） P1は斜面の上部で西側部分に近い7F-03付近で検出されている。長辺1.3m、短辺0.9mの隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは0.6mで床面は比較的フラットな状態である。主軸方位はN-18°-Eである。遺構の性格は近世初頭の土壙墓である。

（遺物） 床面より六文銭が出土している。

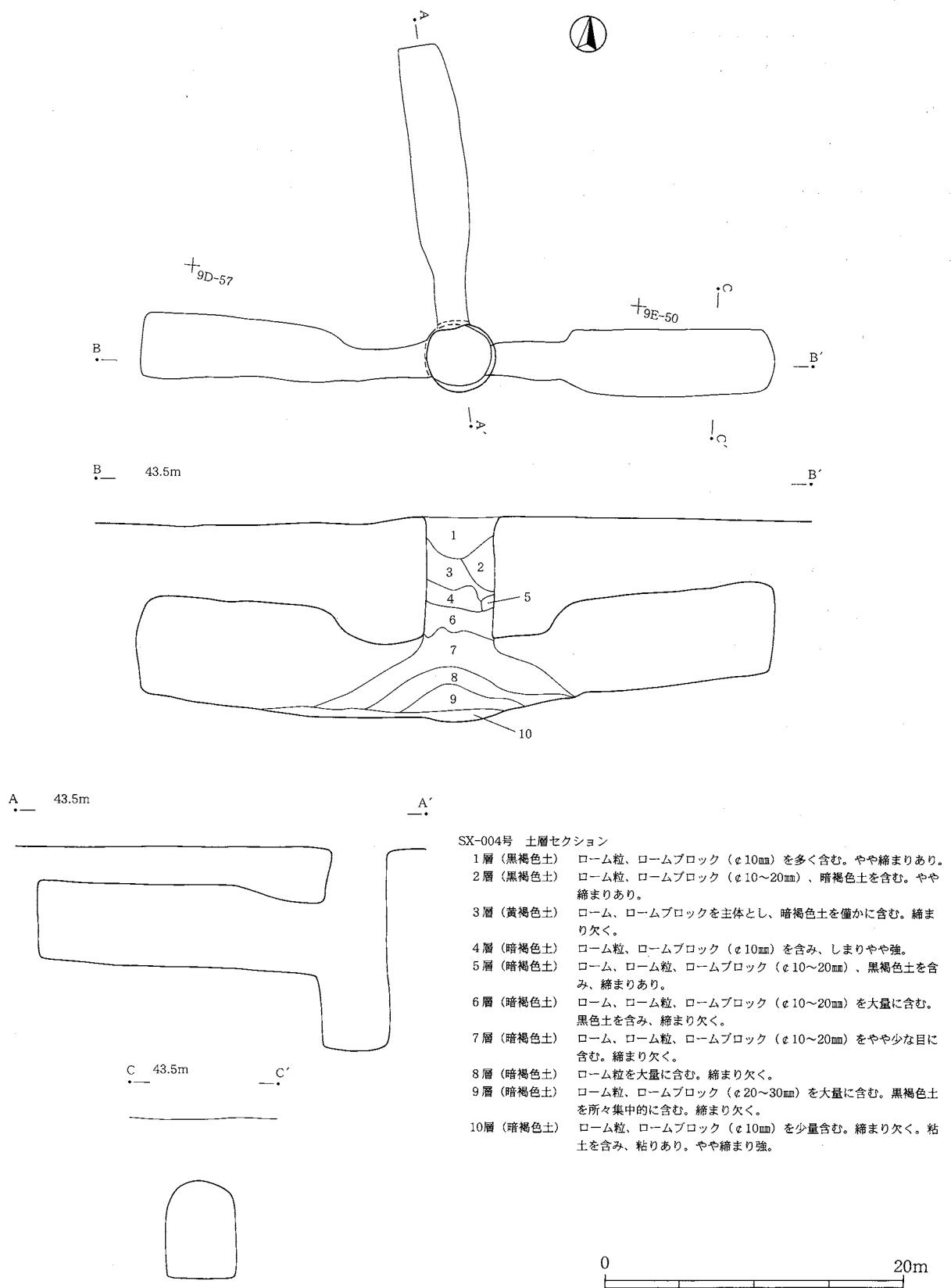
### SX-003号-P2（第222図）－土壙墓

（遺構） P2は斜面の東側斜面下部に近い7F-06付近で検出されている。長軸1.1m、短軸0.9mのややいびつな橢円形を呈する。確認面からの深さは0.3mで床面は壁際が緩やかに立ち上がる。遺構の性格は近世初頭の土壙墓である。

（遺物） 壁に近い部分の床面より六文銭が出土している。

### SX-004号（第223図）－地下式壙

（遺構） SX-004号は9D-57付近で検出された。中央部分の竪坑から3方向に横穴にのびる構造となっている。主軸方位はN-4°-Wである。南北方向は4.7mで、東西は8.5mある。竪穴部分の径は0.9mの円形で最大の深さは2.7mある。横穴部分は長さ4.5～4.7m程度で奥壁に向かって緩やかに立ち上がる構造で、断面の床面はフラットで天井部がドーム状を呈する。下層確認調査時に見つかったこともあり、当初はイモ穴かとも考えたが、構造が極めて丁寧な作りであるため、地下式壙である可能性も視野に入れて調査を行った。全体に天井部の残りは非常によい。中世末～近世にかけての地下式壙である可能性が高い。



第223図 SX-004号 平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

#### (4) 遺構（溝状遺構、道路状遺構、区画溝等）

##### **SD-001号（第224図）**

（遺構） SD-001号は発掘区の南側の北東より11E-09から南西より14A-06まで検出されている。検出長90m、幅2.80m、深さは0.7~0.8mで南側ではやや深く、北側ではやや浅くなる傾向がある。近世初頭以降の溝状遺構である。切り合い関係などから判断すると南側の溝状遺構の中でもっとも新しい時期に作られてものと考えられる。

##### **SD-002号（第224図）**

（遺構） SD-002号は11E-62から11D-94まで検出されている。北東側部分でSD-001号と合流するようであるが、調査区外に入るためその先は不明である。また、南西方向へは001号よりやや北よりであるが、11D-94より先は消失しているようである。検出長22m、幅1.6~1.8m、深さは0.1~0.2mで浅い。切り合い関係からSD-001号よりやや古い時期に作られていることがわかる。

##### **SD-003号（第225図）**

（遺構） SD-003号は7E-30から11D-00まで検出されている。調査区をほぼ南北方向に向かって検出されている。溝そのものは大小2条の溝からなることがわかる。深い部分ではある程度埋まった時点で道として使った硬化部分も検出されている。硬化面そのものが複数確認されている箇所もあり、長期間道として機能していたことが判る。覆土上層に宝永火山灰の含む層が見られる。検出長100m、幅1.2~1.8m、深さは0.3m程度で比較的深い。近世初頭以降の溝状遺構である。

##### **SD-004号（第224図）**

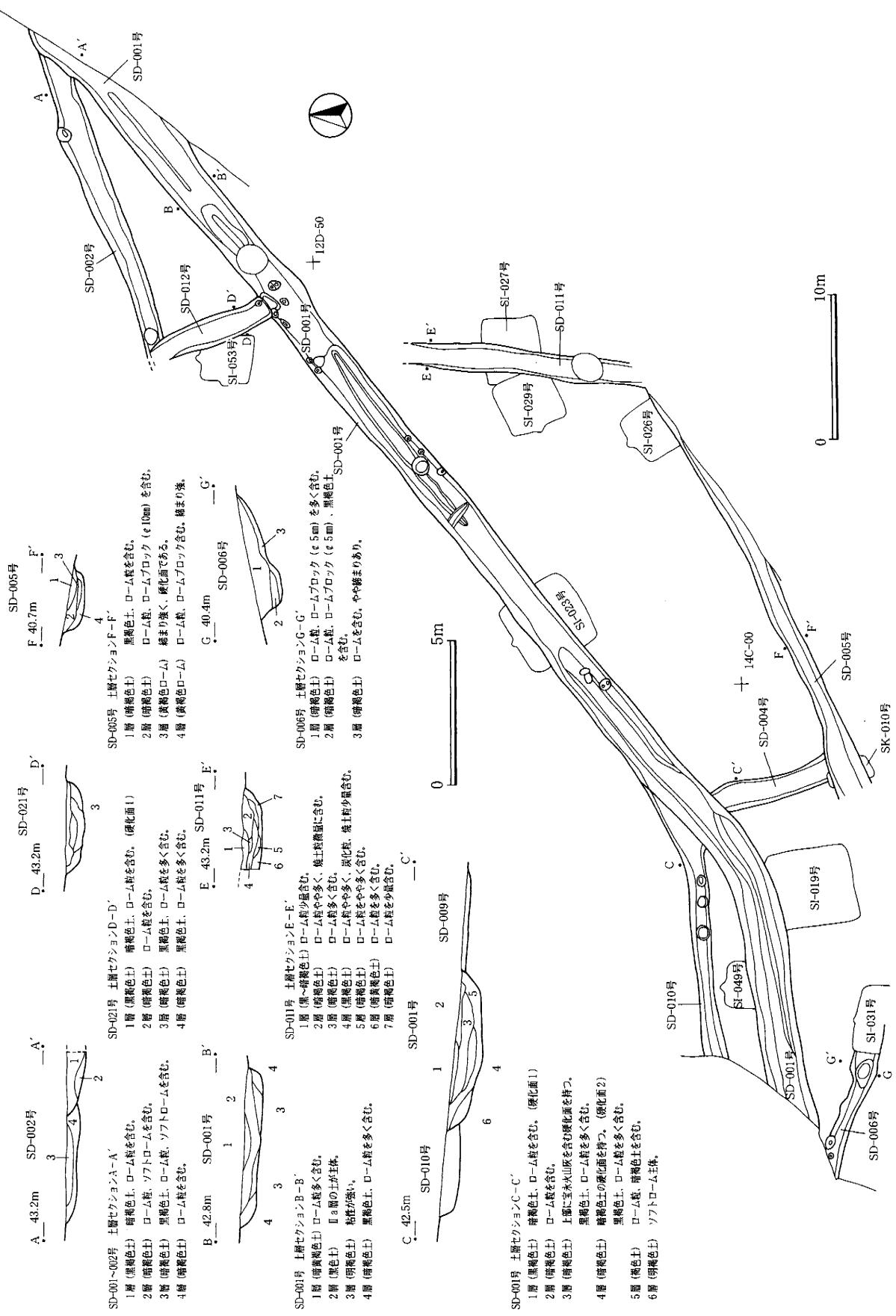
（遺構） SD-004号は13B-95から14B-27まで検出されている。調査区をほぼ南北方向に向かって検出されている。北側部分はSD-001号溝、南側部分をSD-005号溝によって切られているので両方の溝より若干古いものと思われる。検出長8m、幅1.8m、深さは0.1m程度で浅い。硬化面も検出されていないので道として使われたようではなさそうである。近世初頭以降の溝状遺構である。

##### **SD-005号（第224図）**

（遺構） SD-005号は13D-70から14B-37まで検出されている。調査区をほぼ南西方向から北東に向かって検出されている。南西部分ではSK-010号土壙、SD-004号溝と切り合っている。調査時の所見でSK-010号土壙より新しい時期に作られていることが判る。溝が作られてからある程度埋まった段階で硬化面が検出されているので、当初溝として作られたものが後に道として機能したことが伺われる。検出長30m、幅1.2m、深さは0.4m程度でやや細く深い。近世初頭以降の道としても使われた溝状遺構である。

##### **SD-006号（第224図）**

（遺構） SD-006号は14A-22から14A-46まで検出されている。調査区の最南西部分に位置する。北西方向から南東方向へ検出されている。北西部分ではSD-001号溝、南東部分ではSI-031号住居と切り合っている。SD-001号溝との先後関係については不明である。柵列と思われるピットが並列して見られ



第224図 SD-001、002、0004、005、006、010、011平面図 (Scale 1/80) セクション図 (Scale 1/80)

るところからそうした機能を考えた方がよいかもしれない。検出長7.5m、幅1.8m、深さは0.2m程度でやや浅い。近世初頭以降の柵列を伴う溝状遺構である。

#### SD-007号

(遺構) SD-007号は調査の結果、新しい時代（近現代）の溝と確認されたため欠番とした。

#### SD-008号（第228図）

(遺構) SD-008号は7D-08から7D-27まで検出されている。調査区の中央部分の北側でSX-001号建物跡等の西側に位置する。西側部分は調査区外にのびており、詳細は不明である。検出長1.5m、幅2.0m、深さは0.25m程度でやや浅い。近世初頭以降の溝状遺構である。

#### SD-009号（第230図）

(遺構) SD-009号は8E-69から10E-77まで検出されている。調査区の中央部分の東側に位置し、SX-002号台地整形区画の南側で接する。やや東に傾きながら南北方向に検出されている。検出長60m、幅2.0m、深さは0.2m程度でやや浅い。溝の最下部の層で硬化面が検出されているので当初は道であった可能性が高い。近世初頭以降の溝状遺構である。

#### SD-010号（第224図）

(遺構) SD-010号は13A-87から13B-66まで検出されている。調査区の最南部の西側に位置し、東よりでSD-001号溝と接する。新旧関係については不明であるが、前後して作られていた可能性は高い。一部に柵列状のピットが見られるが、伴うものかどうかは不明である。ほぼ東西方向に検出されている。検出長20m、幅1.3m、深さは0.1m程度で浅い。西側は調査区外にのびていく可能性がある。覆土中層部分で硬化面が認められるので、途中で道として機能した可能性は高い。近世初頭以降の溝状遺構である。

#### SD-011号（第224図）

(遺構) SD-011号は13C-21から13C-50まで検出されている。調査区の南側の東よりに位置する。ほぼ南北方向に検出されている。検出長8m、幅1.7m、深さは0.35m程度でやや深い。他の溝と接する部分がないため、詳細は不明であるが、覆土等から判断すると近世初頭以降の溝状遺構と思われる。

#### SD-012号（第224図）

(遺構) SD-012号は11D-91から12D-32まで検出されている。調査区の南側の中程に位置する。やや西に傾いて南北方向に検出されている。検出長8m、幅1.5~1.8m、深さは0.35m程度でやや深い。北側でSD-002号溝、南側でSD-001号溝と切り合う。前後して作られたと思われるが、先後関係は不明である。近世初頭以降の溝状遺構と思われる。

#### **SD-013号 (第227図)**

(遺構) SD-013号は9 D-58から8 E-85まで検出されている。調査区の中央部分に位置する。9 D-58から9 E-65付近までほぼ東西方向に検出、その付近から8 E-85までは南北方向に直行するよう検出されている。また溝そのものも2条になり先端部分で接するような形になる。検出長50m、幅0.8~1.2m、深さは0.25m程度でやや浅い。機能的には地境的な溝のようなものかもしれない。セクション等がないため詳細は不明である。近世初頭以降の溝状遺構と思われる。

#### **SD-014号 (第229図)**

(遺構) SD-014号は2 G-90から3 G-25まで検出されている。調査区の北側部分に位置する。ほぼ北西から南東方向に45°傾いた方向で検出されている。溝の底部は中央部分の広い範囲で硬化面が検出されている。また両側には溝が走る。中央部分は明らかに道路として使用された可能性がある。3 Gより西側では高くなっているため消失したのかかもしれない。検出長12m、幅2.2m、深さは0.30m程度で比較的浅い。近世初頭以降の道路状遺構と思われる。SE-002号井戸状遺構よりは新しい。

#### **SD-015号 (第229図)**

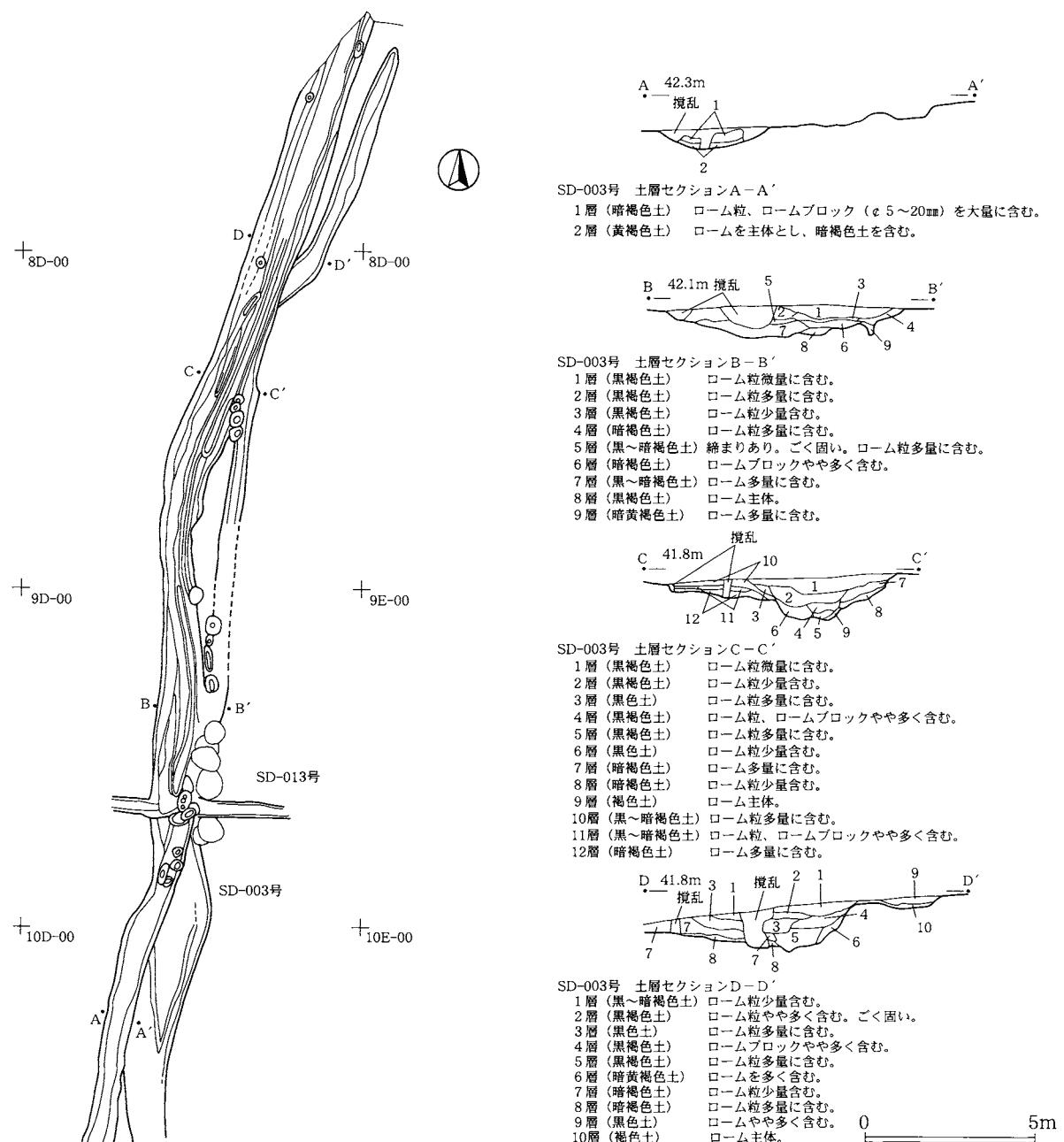
(遺構) SD-015号は2 G-41から2 G-44まで検出されている。調査区の最北部分に位置する。ほぼ東西方向に検出されている。溝の底面に幾つか小ピットが認められるが、伴うものかどうかは不明である。検出長9m、幅0.8m、深さは0.15m程度で浅い。硬化面等は認められない。近世初頭以降の溝状遺構と思われる。

#### **SD-016号 (第231図)**

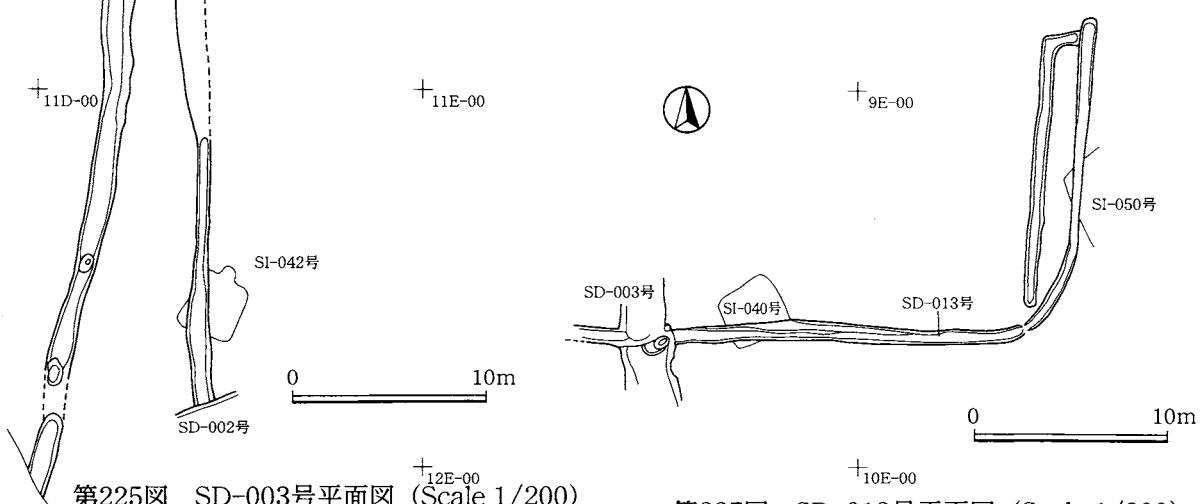
(遺構) SD-016号は7 E-02から7 E-49まで検出されている。A~Cまで3条の平行する溝から構成される。SX-009号台地整形区画の北西側に位置する。A及びBについては関係は不明であるが、台地整形区画の手前で止まる。Cについては台地整形区画まで掘り進んでいるが関係は不明である。3条とも北西方向から南西方向に検出されている。Aの検出長は14m、幅1.7m、深さは0.30~0.50mで比較的深く壁際から急激に立ち上がる。台地整形区画と関連のある区画のための溝である可能性がある。Bの検出長は14m、幅1.2~1.4m、深さ0.4mで比較的深く、壁際から急激に立ち上がる。Cの検出長は16m、幅1.2m、深さ0.15~0.25mで比較的浅い。中世末にかかる可能性の高い溝状遺構と思われる。

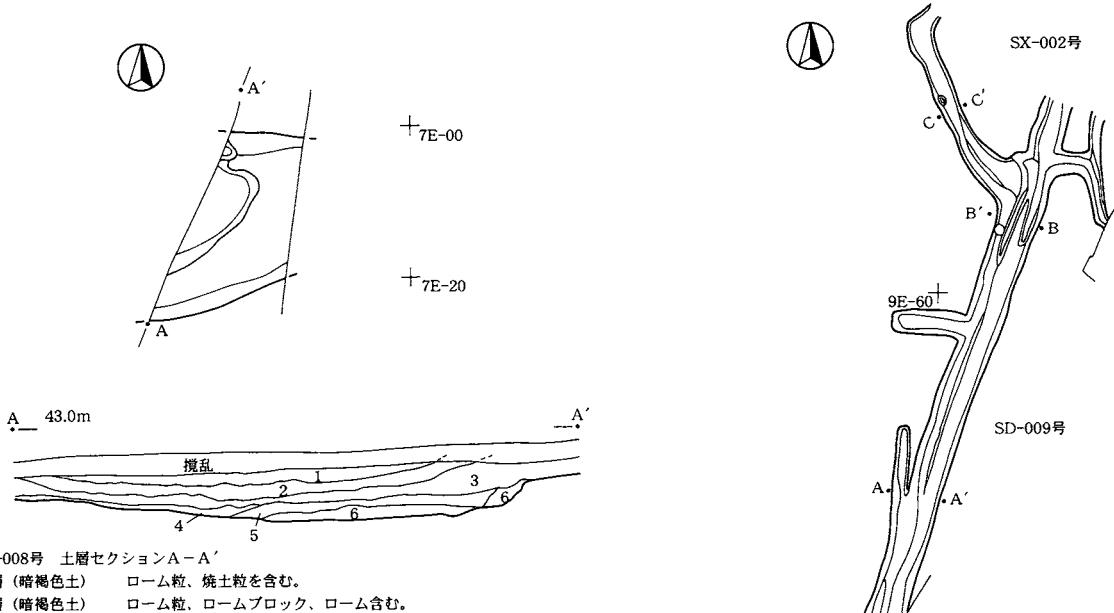
#### **SD-017号 (第229図)**

(遺構) SD-017号は3 F-65から3 F-59まで検出されている。SK-015号土壙を調査している時に検出された溝で浅く、片側のみ検出されている。ほぼ東西方向に検出されている。検出長10m、幅1.0m、深さは0.1m程度で非常に浅い。あるいはSK-015号土壙に伴う施設である可能性もある。近世初頭以降の溝状遺構と思われる。

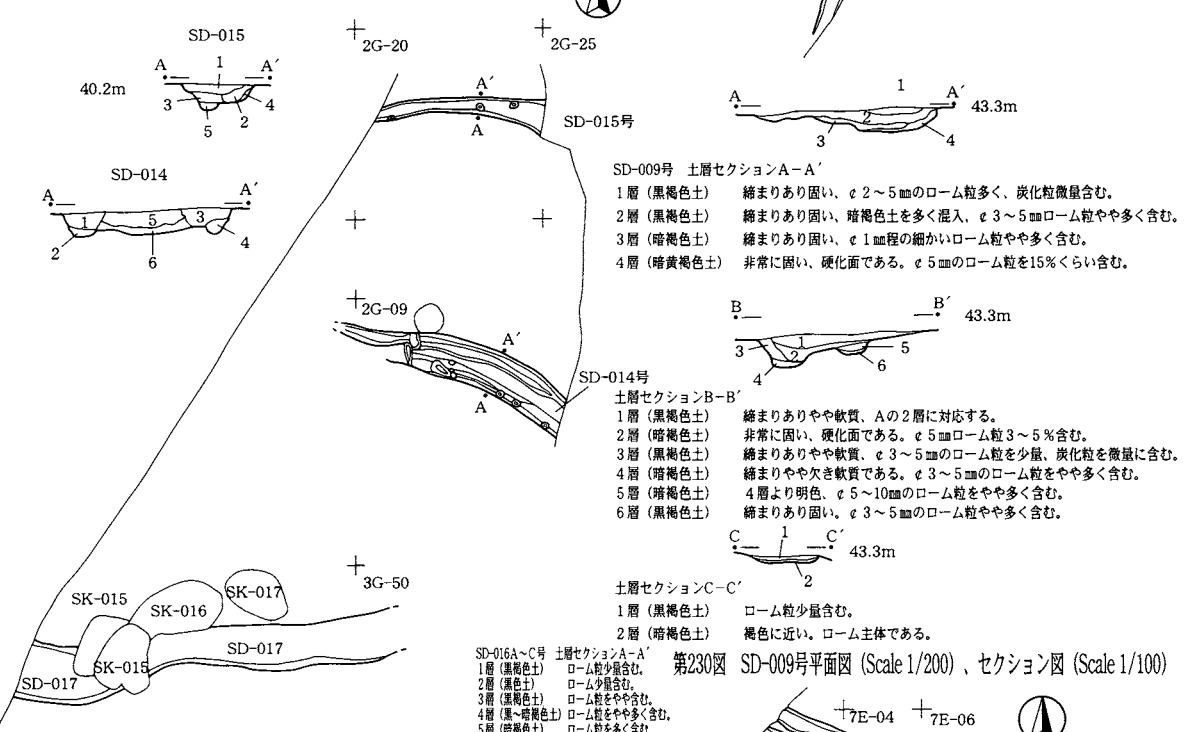


第226図 SD-003号セクション図 (Scale 1/100)





第228図 SD-008号平面図 (Scale 1/100)、セクション図 (Scale 1/50)

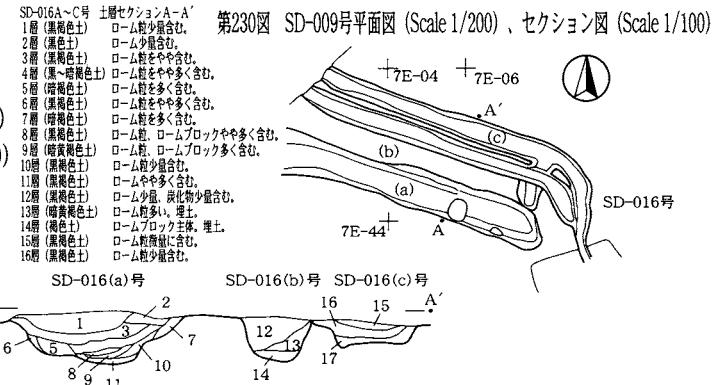


第229図 SD-014, 015, 017号平面図 (Scale 1/200)  
SD-014, 015号セクション図 (Scale 1/200)

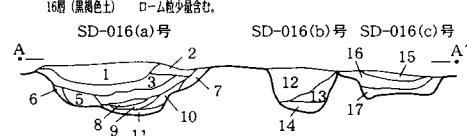
SD-014号 土層セクションA-A'  
1層 (暗褐色土) ローム粒少量含む。  
2層 (暗黄褐色土) ロームやや多く含む。  
3層 (黒褐色土) ローム粒やや多く含む。  
4層 (暗褐色土) ローム粒、ロームブロック少量含む。  
5層 (黒褐色土) ローム粒少量含む。  
6層 (黒褐色土) ローム粒微量に含む。

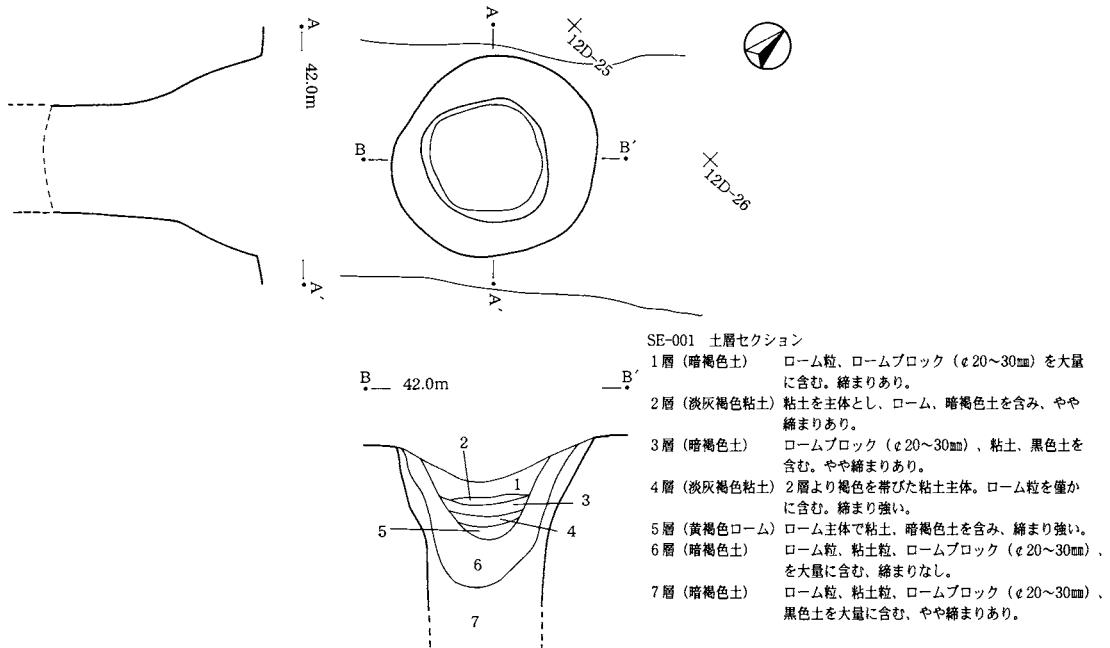
SD-015号 土層セクションA-A'  
1層 (黒褐色土) ローム粒少量含む。  
2層 (暗褐色土) ローム粒微量に含む。  
3層 (暗褐色土) ローム粒やや多く含む。  
4層 (暗褐色土) ローム粒やや多く含む。

SD-009号平面図 (Scale 1/200)、セクション図 (Scale 1/100)

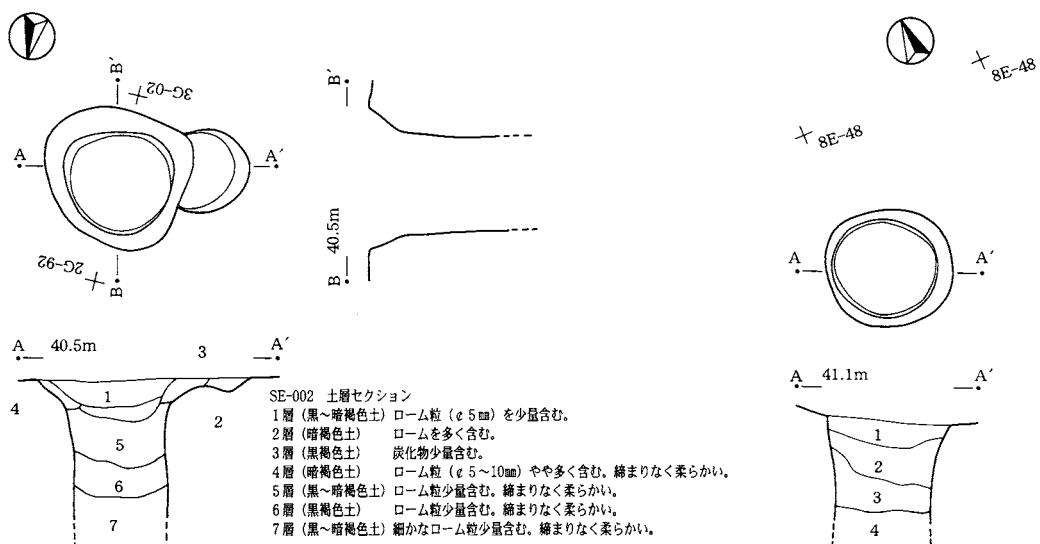


第230図 SD-009号平面図 (Scale 1/200)、セクション図 (Scale 1/100)





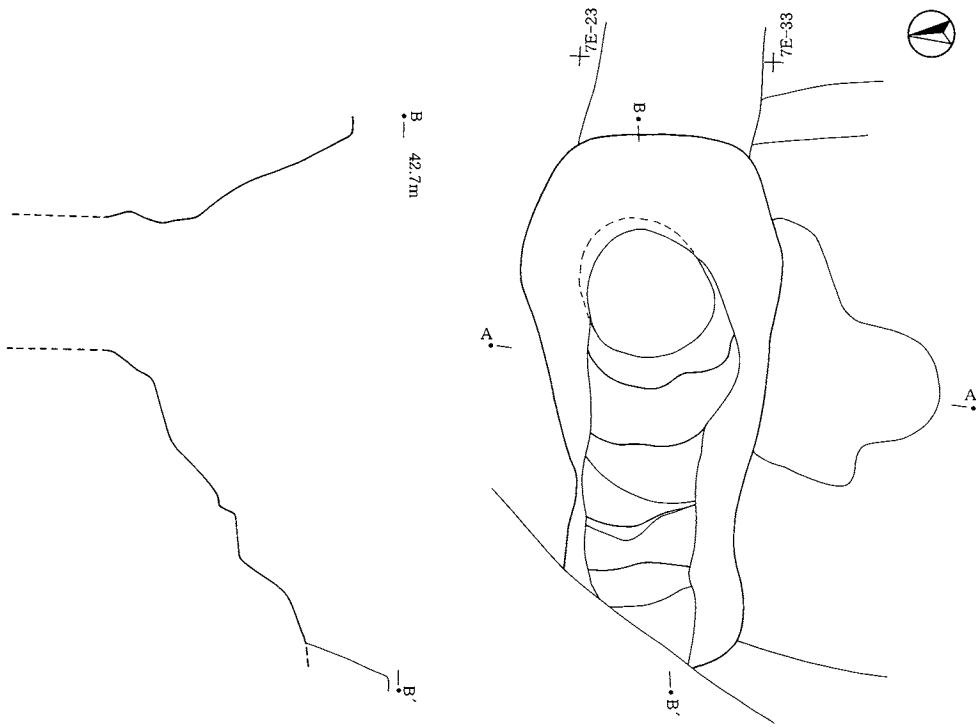
第232図 SE-001号平面図、セクション図 (Scale1/80)



第233図 SE-002号平面図、セクション図、エレベーション図 (Scale 1/80)

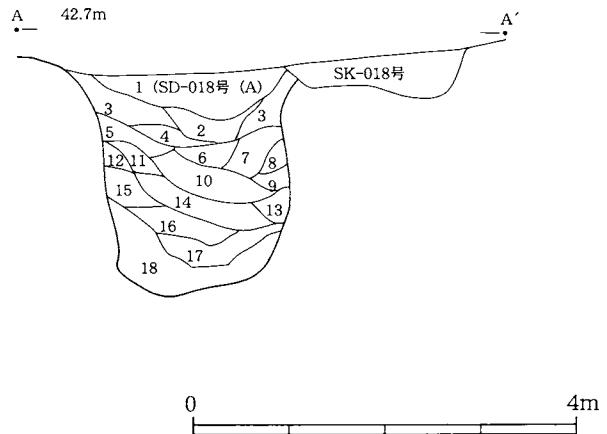
第234図 SE-003平面図、セクション図 (Scale1/80)





SK-019 土層セクション-井戸状構

- 1層（黒褐色土） ローム粒やや含む（SD-018号溝覆土）。
- 2層（黒褐色土） ローム粒をやや多く含む。
- 3層（暗褐色土） ローム粒少量含む。
- 4層（暗褐色土） ローム粒多く含む。締まりなくぼそぼそ。
- 5層（暗褐色土） ローム粒少量含む。締まりなくぼそぼそ。
- 6層（黒褐色土） ローム粒多量含む。締まりなくぼそぼそ。
- 7層（暗黄褐色土） ローム粒多量含む。粘土少量含む。締まりなくぼそぼそ。
- 8層（暗褐色土） ローム粒多量含む。締まりなくぼそぼそ。
- 9層（黒褐色土） ローム粒多量含む。締まりなくぼそぼそ。
- 10層（暗黄褐色土） ローム粒極多量、粘土、砂をやや含む。
- 11層（暗褐色土） ローム粒少量含む。締まりなくぼそぼそ。
- 12層（暗褐色土） ローム粒、ロームブロック多量に含む。締まりなくぼそぼそ。
- 13層（暗黄褐色土） ローム粒多量含む。締まりなくぼそぼそ。
- 14層（暗褐色土） ローム粒、ロームブロック多量に含む。貝層を含む。締まりなくぼそぼそ。
- 15層（暗褐色土） ローム粒をやや多く含む。締まりなくぼそぼそ。
- 16層（暗褐色土） ローム粒多量に含む。締まりなくぼそぼそ。
- 17層（黒褐色土） ローム粒多量に含む。締まりなくぼそぼそ。
- 18層（褐色土） ローム主体。締まりなくぼそぼそ。



第235図 SK-019平面図、セクション図、エレベーション図 (Scale1/80)

#### SD-018号 (第21図)

(遺構) SD-018号は近世以降の新しい時期の道路跡と思われるため土壌等と切り合っている部分を中心いて範囲調査をおこなった。全体図に範囲のみ掲載した。硬化面があるため道と思われる。6 F - 93から7 F - 21まで検出されている。検出長17m、幅2.8m、深さは0.3m程度である。近世以降の道路状遺構と思われる。

#### (5) 遺構 (井戸状遺構)

#### SE-001号 (第232図)

(遺構) SE-001号は発掘区の南側の12D-25付近で検出されている。SD-001号（溝状遺構）によつて一部壊されている。開口部では径2.15mのほぼ円形、深さ1mの地点で径1.2m程のやや不整な円形を

呈する。土層から判断してある程度自然堆積した後、溝を作る際に埋め戻したように思われる。時期的には中世末までさかのぼる可能性のある井戸状遺構である。

#### SE-002号（第233図）

（遺構） SE-002号は発掘区の北側の2G-91付近で検出されている。西側に径0.8m程度の円形の付属施設を持つ。開口部では径1.6mのほぼ円形、深さ1mの地点で径1.1m程の円形を呈する。土層については締まりのない柔らかい土が主体で埋め戻しの可能性が高い。調査時の所見から近世初頭までさかのぼる可能性のある井戸状遺構と思われる。

#### SE-003号（第234図）

（遺構） SE-003号は発掘区のほぼ中程8G-48付近のSX-002号（台地整形区画）内から検出されている。開口部では径1.3mのほぼ円形、深さ1mの地点で径1.1m程の円形を呈する。土層については締まりのない柔らかい粘りの強い土が主体である。台地整形区画と同時に機能していた可能性が高く、中世末～近世初頭までさかのぼる可能性のある井戸状遺構と思われる。

#### SK-019号（第235図）

（遺構） SK-019号は発掘区のほぼ中程よりやや北側の7E-22付近より検出されている。開口部では長軸5.4m、短軸2.8mのやや楕円形に近い不規則な形で、深さ2.4mの地点で径1.2m程の円形を呈する。深さ2.4mまでの部分は階段状に下がっていくような付属の施設と思われる。土層については締まりのない土が主体で自然堆積である。SK-018号によって切られている。井戸状遺構と思われる。時期的には中世末までさかのぼるものと思われる。

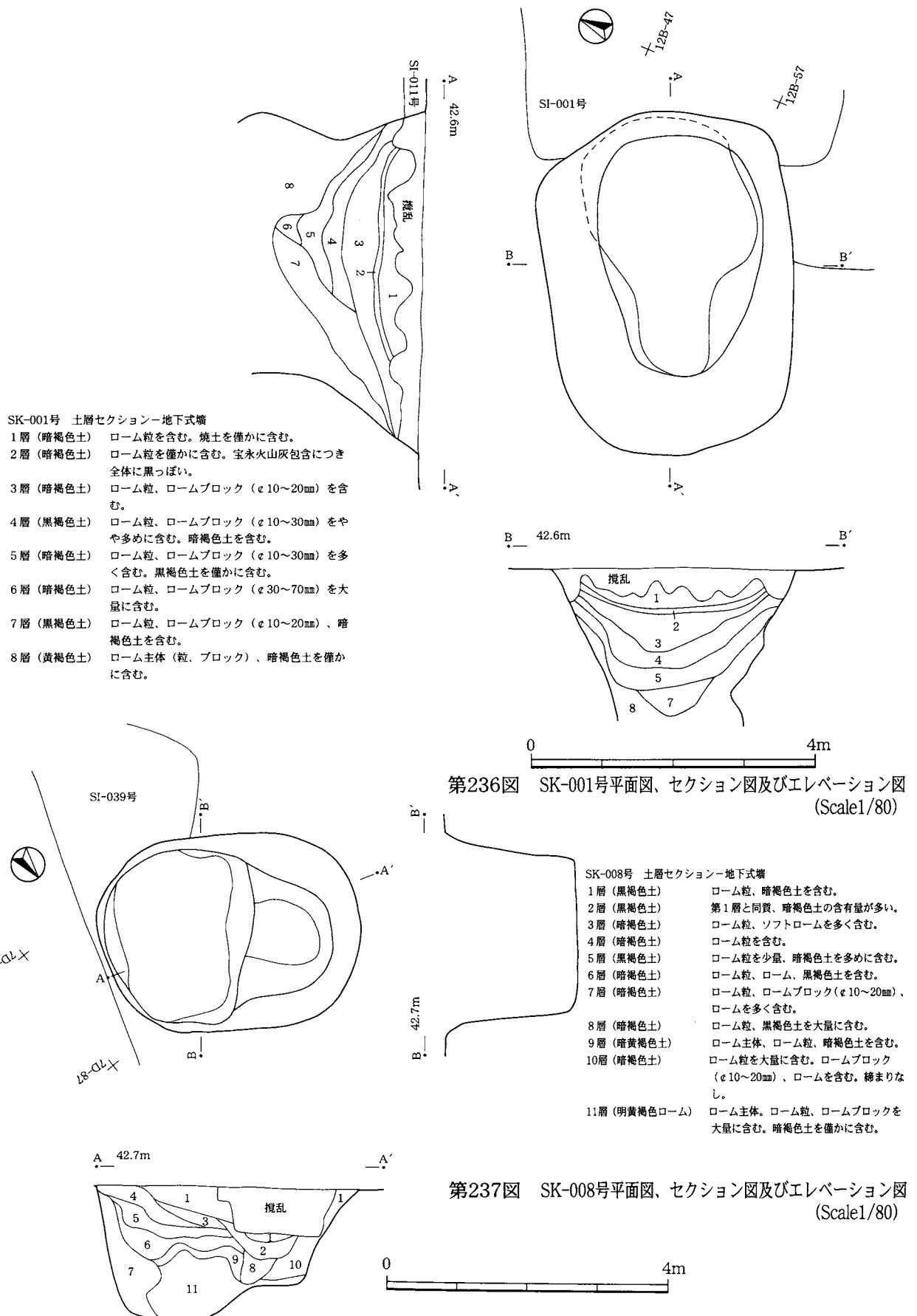
#### （6）遺構（地下式壙）

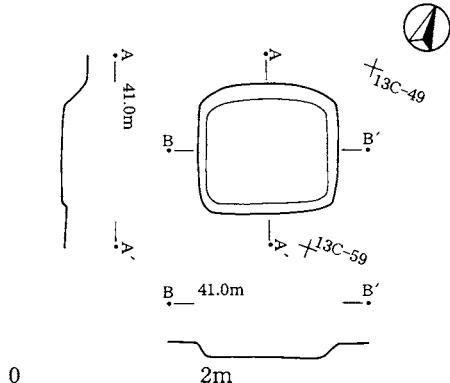
##### SK-001号（第236図）

（遺構） SK-001号は発掘区の南側の12D-46付近で検出されている。SI-011号（住居跡）の西側壁を壊して作られている。開口部では長軸4.8m、短軸3.6mのほぼ楕円形、深さ2mの地点で長軸3.7m、短軸2.4mのやや不整な楕円形を呈する。さらに1.5m以上下がる様であったが、危険防止のためこの時点で調査を終了した。時期的には中世末までさかのぼる地下式壙になると思われる。

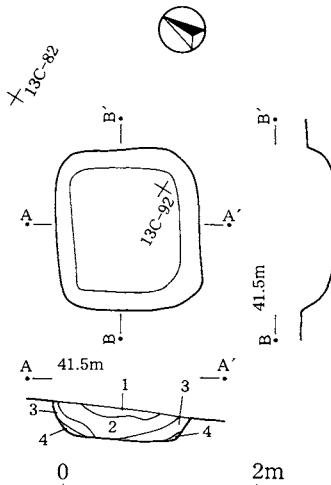
##### SK-008号（第237図）

（遺構） SK-008号は発掘区の中央付近の7D-86付近で検出されている。SI-039号（住居跡）の北西側壁を壊して作られている。開口部は北西方向を向く。長軸3.8m、短軸2.8mのほぼ楕円形で、深さ1.9mである。北西側は一段階段状に立ち上がる。本体部分は長辺2.3m、短辺2m程の方形に近い形を呈する。土層からは天井が崩落した様子が伺われる。時期的には中世末までさかのぼる地下式壙になると思われる。

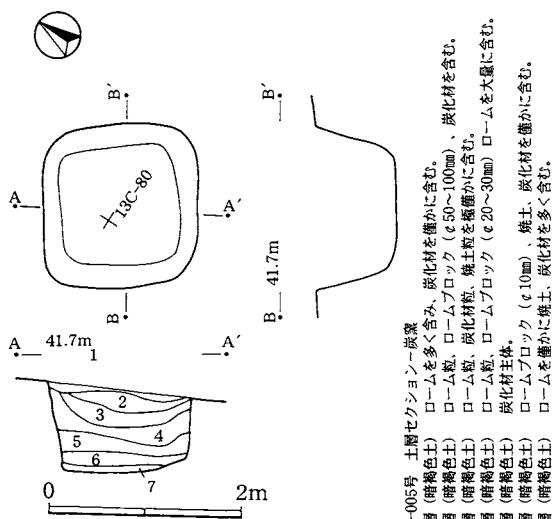




第238図 SK-003号平面図及びエレベーション図  
(Scale1/80)

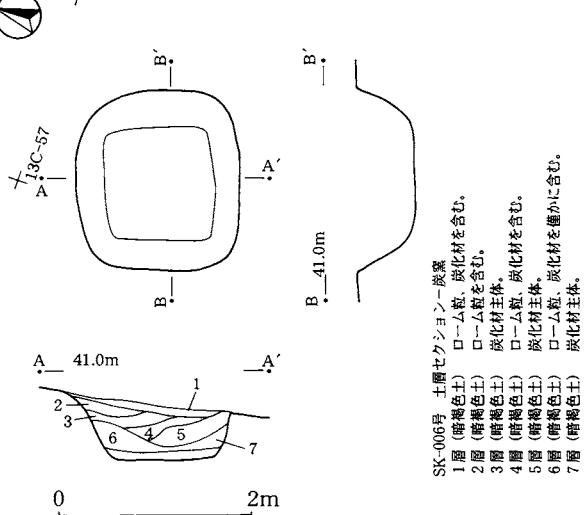


第239図 SK-004号平面図、セクション図及び  
エレベーション図 (Scale1/80)



第240図 SK-005号平面図、セクション図及び  
エレベーション図 (Scale1/80)

SK-004号 土層セクション一戻窯  
1層 (暗褐色土) ローム粒、ロームブロック (φ10~20mm)、炭化材を含む。  
2層 (暗褐色土) 第1層と同質、炭化材含水量多量である。  
3層 (暗褐色土) 炭化材主体。  
4層 (暗褐色土) 第3層と同質、埃土を僅かに含む。



第241図 SK-006号平面図、セクション図及び  
エレベーション図 (Scale1/80)

SK-006号 土層セクション一戻窯  
1層 (暗褐色土) ローム粒、炭化材を含む。  
2層 (暗褐色土) ローム粒を含む。  
3層 (暗褐色土) 炭化材主体。  
4層 (暗褐色土) ローム粒、炭化材を含む。  
5層 (暗褐色土) ローム粒、炭化材主体。  
6層 (暗褐色土) ローム粒、炭化材を含む。  
7層 (暗褐色土) 炭化材主体。

## (7) 遺構（炭窯）

### SK-003号（第238図）

（遺構）SK-003号は発掘区の南側の13C-48付近で検出されている。平面形は一辺1.4m程度の方形で、深さは0.2m以下で残りは悪い。ただし後述するようにSK-004～006号までと平面形が類似しているため同様の性格の土壤であると判断した。時期は近世の炭窯と思われる。

### SK-004号（第239図）

（遺構）SK-004号は発掘区の南側の13C-91付近で検出されている。平面形は一辺1.6～1.7m程度の方形で、深さは0.3mで炭化材主体の覆土が見られる。SK-004～006号までと平面形が類似しているため同様の性格の土壤であると判断した。時期は近世の炭窯と思われる。

### SK-005号（第240図）

（遺構）SK-005号は発掘区の南側の13C-80付近で検出されている。平面形は一辺1.6～1.7m程度の

方形で、深さは0.9mで4基の炭窯の中で一番残りが良い。覆土下層に炭化材主体の層が見られる。SK-004～006号までと平面形が類似しているため同様の性格の土壙であると判断した。時期は近世の炭窯と思われる。

#### **SK-006号（第241図）**

（遺構）SK-006号は発掘区の南側の13C-57付近で検出されている。平面形は一辺1.6～1.7m程度の方形で、深さは0.6mである。覆土下層に炭化材主体の層が見られる。SK-004～006号までと平面形が類似しているため同様の性格の土壙であると判断した。時期は近世の炭窯と思われる。

#### （8）遺構（土壙その他）

##### **SK-009号（第242図）－馬骨埋葬土壙**

（遺構）SK-009号は発掘区のやや南側の10E-86付近で検出されている。平面形は一辺1.3～1.4m程度の方形で、深さは0.45m程度である。北西コーナー付近に馬の頭骨の一部と歯の一部が検出されたが残りは非常に悪い。他の部位がないためどのような状況で埋葬されていたかは不明である。時期は近世初頭までさかのぼる可能性のある馬骨埋葬土壙である。

##### **SK-015(a)号（第243図）－再葬人骨を伴う土壙**

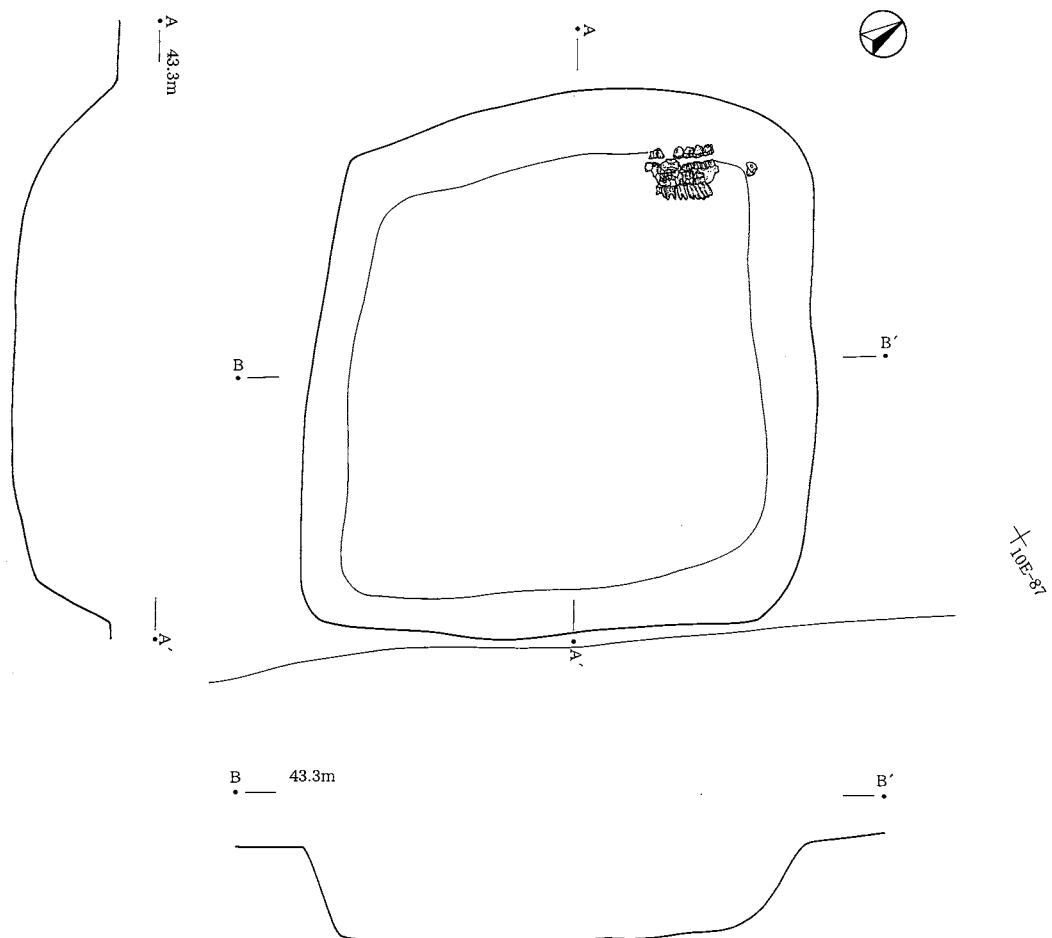
（遺構）SK-015(a)号は発掘区の北側の3F-66付近で検出されている。平面形は1.9～2.2m程度の不整形で、深さは0.25m程度である。中央部分に散骨されたような感じで細かな骨片が検出された。通常の埋葬墓のようではなく埋め戻ししたような状態で検出されたようにも思われる。他の土壙や溝などの中で一番新しい時期に作られた土壙である。時期は近世の再葬人骨の見られる土壙である。

##### **SK-015(b)号（第244図）－土壙**

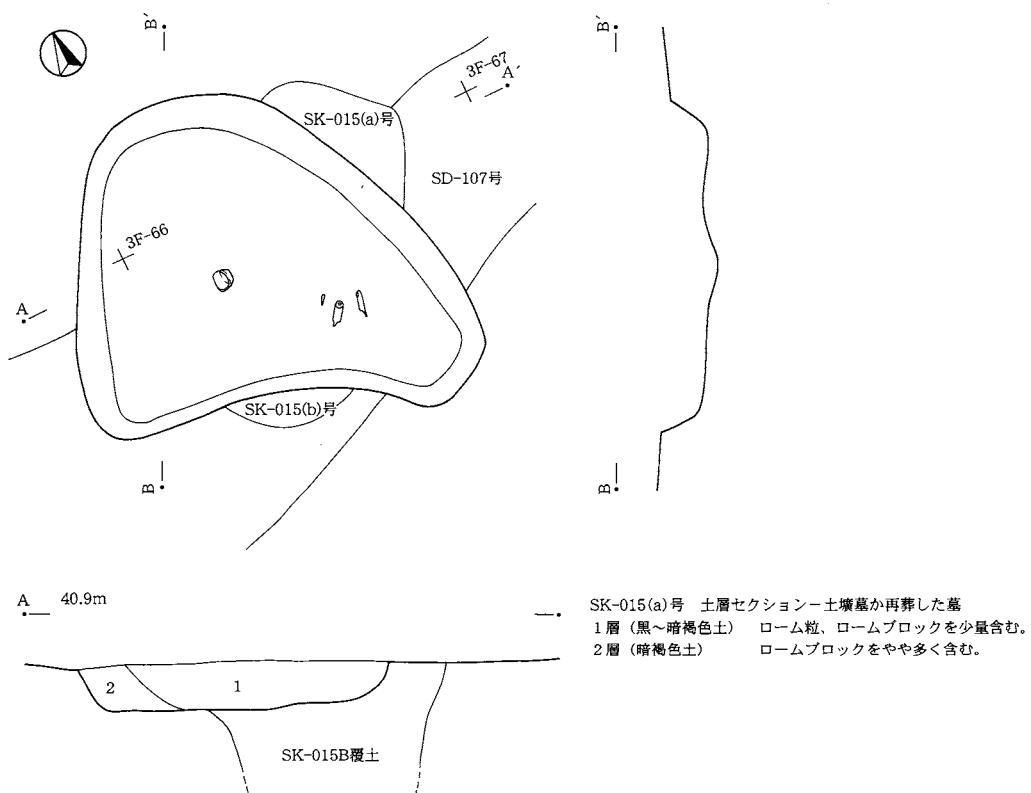
（遺構）SK-015(b)号は発掘区の北側の3F-66付近で検出されている。SK-015(a)号の下部より検出されている。また北東側のSK-016号土壙の一部を壊して作られている。平面形は長軸1.8m、短軸1m程度のやや隅丸方形気味の橢円形を呈する。深さは1.90m程度で、床面は余り平坦ではなく壁際に向かって立ち上がり気味である。覆土上層部分の土層に宝永の火山灰が混入している可能性があり、切り合い関係からも近世初頭まではさかのぼる可能性がある。遺物等は認められず、性格は不明な土壙である。形態的にも墓である可能性は少ない。

##### **SK-016号（第245図）－土壙**

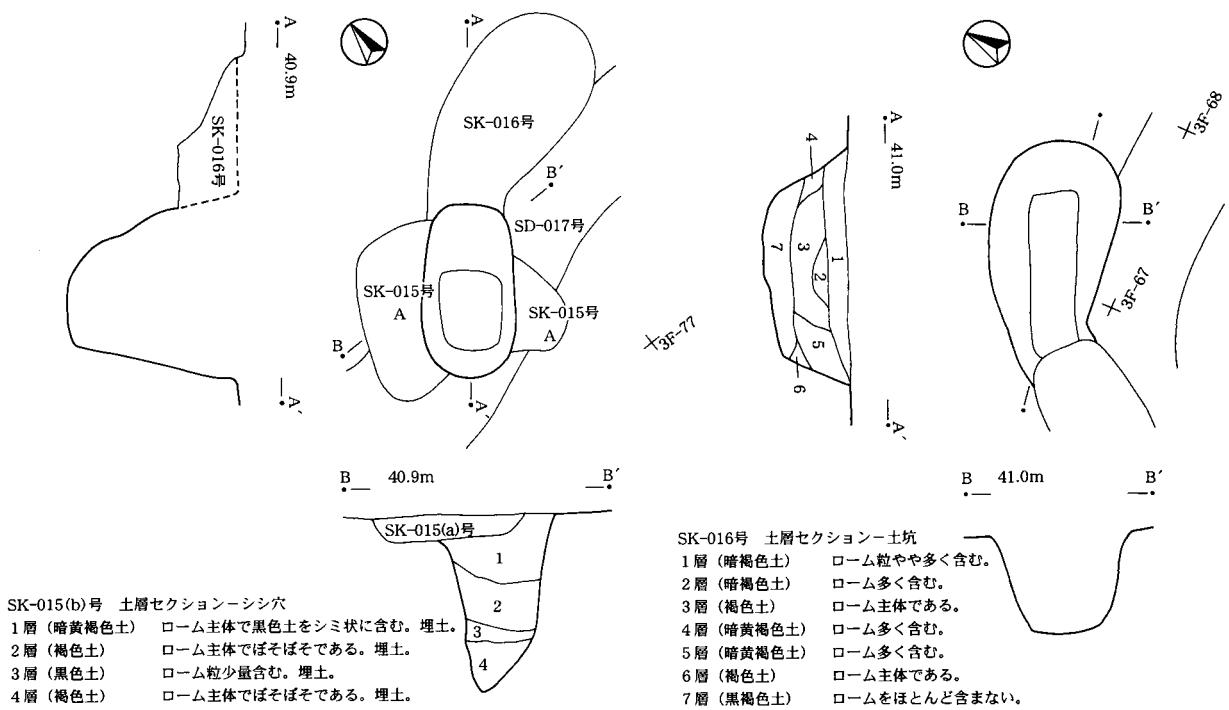
（遺構）SK-016号は発掘区の北側の3F-67付近で検出されている。SK-015(b)号土壙により西側の壁の一部が壊されている。開口部の平面形は推定長軸2.6m、短軸1.3m程度の橢円形、床面の平面形は長辺1.8m、短辺0.45mの長方形を呈する。深さは0.9m程度で、床面は比較的平坦である。時期的には、中世末ごろまでさかのぼる可能性がある。遺物等は認められないが、形態等から墓である可能性は考えられる。



第242図 SK-009号平面図、馬骨出土状況図及びエレベーション図 (Scale1/20)

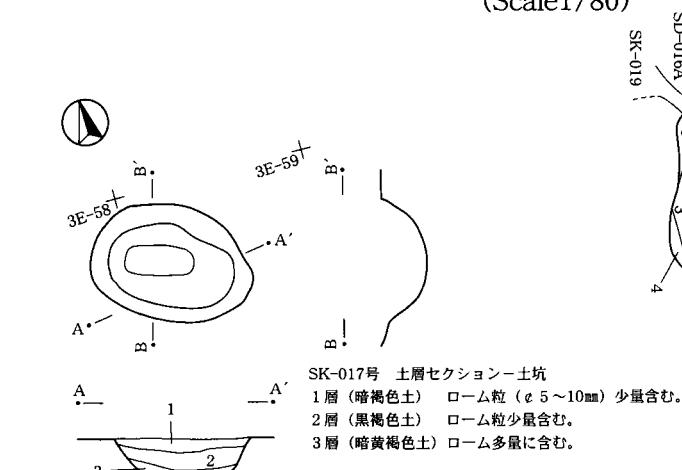


第243図 SK-015(a)号平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale1/20)

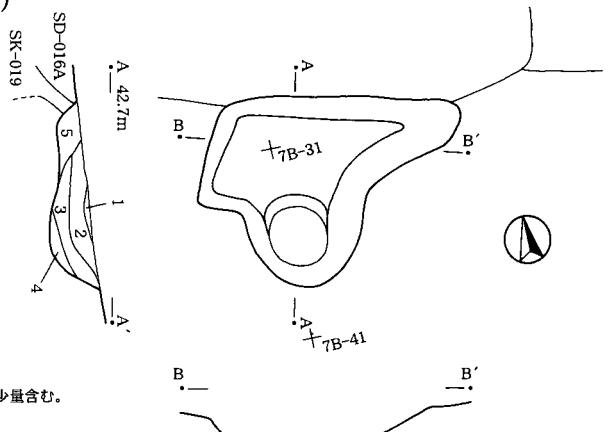
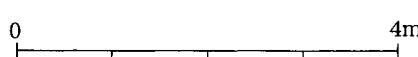


第244図 SK-015(b)号平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale 1/80)

第245図 SK-016号平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale 1/80)



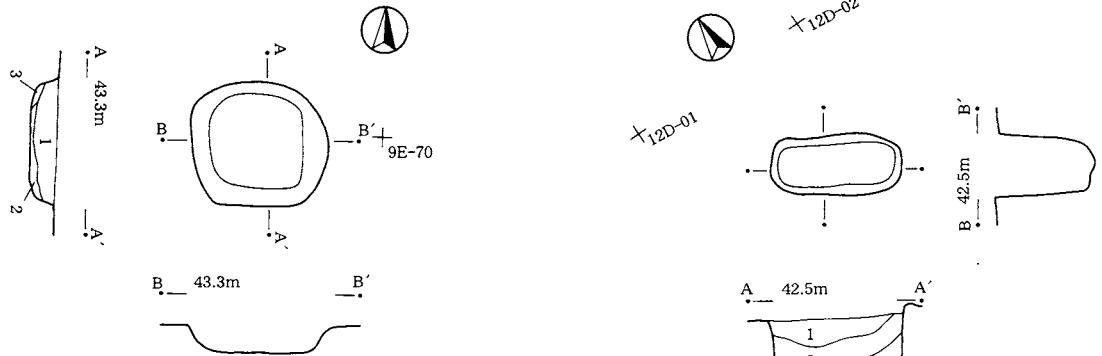
第246図 SK-017号平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale 1/80)



第247図 SK-018号平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale 1/80)

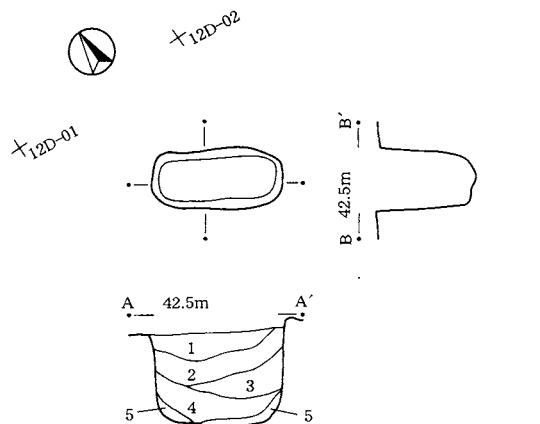
### SK-017号 (第246図) - 土壌

(遺構) SK-017号は発掘区の北側の3F-58付近で検出されている。開口部の平面形は長軸辺1.7m、短軸1.2mの楕円形を呈する。床面は中央部が深さは0.4m程度で、やや丸みを持ちながら壁が立ち上がる。埋土のような堆積状態なので墓の可能性は考えられる。時期的には、中世末ごろまでさかのぼる可能性がある。



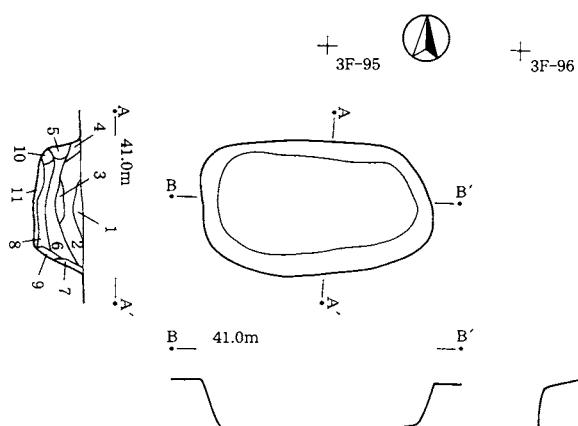
SK-022号 土層セクション-土坑  
1層(暗褐色土) ローム粒、ロームブロック( $\varnothing 10\sim20mm$ )を多めに含む。  
やや締まりあり。  
2層(暗褐色土) ローム粒を僅かに含む。締まりなし。  
3層(暗褐色土) ローム粒、ロームを含む。締まりなし。

第248図 SK-022号平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale1/80)



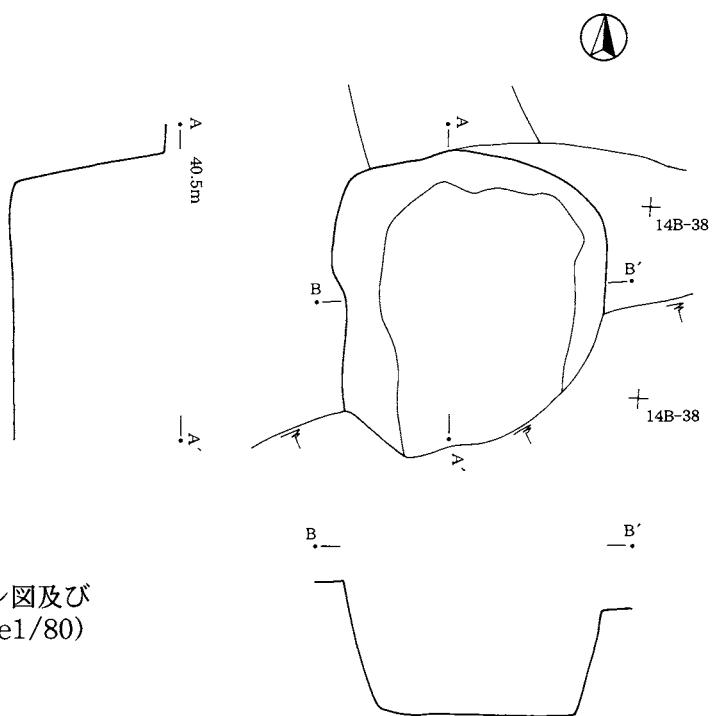
SK-024号 土層セクション-土坑  
1層(暗褐色土) 締まりあり固い、ロームをやや含む。やや黄色味強い。  
2層(暗褐色土) 締まりあり固い、1層よりやや暗色、ローム粒少量含む。  
3層(暗褐色土) 締まりあり固い、ロームブロックをやや含む。  
4層(黒～暗褐色土) 締まりあり固い、ロームを多く含む。  
5層(暗黄褐色土) 締まりあり固い、ロームを多く含む。  
-全体に均一な感じで埋土と思われる。

第249図 SK-024号平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale1/80)

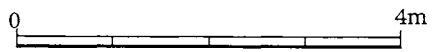


SK-013号 土層セクション-土坑  
1層(暗褐色土) ローム粒( $\varnothing 3\sim5mm$ )を多量に含む。  
2層(黒～暗褐色土) ローム粒( $\varnothing 2\sim3mm$ )を少量含む。  
3層(黒褐色土) 黒色土粒を多く混入する。  
4層(暗褐色土) ローム混入。  
5層(褐色土) ローム主体。  
6層(暗褐色土) ローム粒( $\varnothing 1\sim3mm$ )を少量含む。  
7層(褐色土) ローム主体。  
8層(暗褐色土) ローム粒( $\varnothing 1\sim3mm$ )を多量に含む。  
9層(暗褐色土) 締まり欠く。ローム粒を少量含む。  
10層(暗褐色土) 9層と類似。  
11層(暗褐色土) やや締まりあり。ローム粒( $\varnothing 1mm$ )を  
多量に含む。  
-覆土は全体に締まりを欠く。

第250図 SK-013号平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale1/80)



第251図 SK-010号平面図及びエレベーション図 (Scale1/80)



### **SK-018号（第247図）－土壙**

(遺構) SK-018号は発掘区の中央付近の7B-31付近で検出されている。開口部の平面形は2m～2.6mの規模の不整形である。床面までは中央部が深さは0.3m程度で、比較的平坦な感じである。宝永の火山灰が覆土上層に見られるところから時期的には、近世初頭ごろのものではあるが、土壙の性格は不明である。

### **SK-022号（第248図）－土壙**

(遺構) SK-022号は発掘区の中央やや南側の9D-79付近で検出されている。開口部の平面形は一辺1.2m、床面で1m規模の隅丸方形に近い形である。床面までは中央部が深さは0.25m程度で、比較的平坦な感じである。覆土はしっかりした感じであるが、遺物等がないため性格は不明である。あるいは柱穴のピットのような感じではあるが、近くに類似したものもないで不明である。時期は中世末と考えられている。

### **SK-024号（第249図）－土壙**

(遺構) SK-024号は発掘区の南側の12D-01付近で検出されている。開口部の平面形は長辺1.35m、短辺0.6m規模の隅丸長方形に近い形である。床面までは中央部が深さは1m程度で、やや凸凹な感じである。覆土は締まりがあり固い感じで埋土である。遺物等がないため性格は不明である。時期は中世末と考えられている。

### **SK-013号（第250図）－土壙**

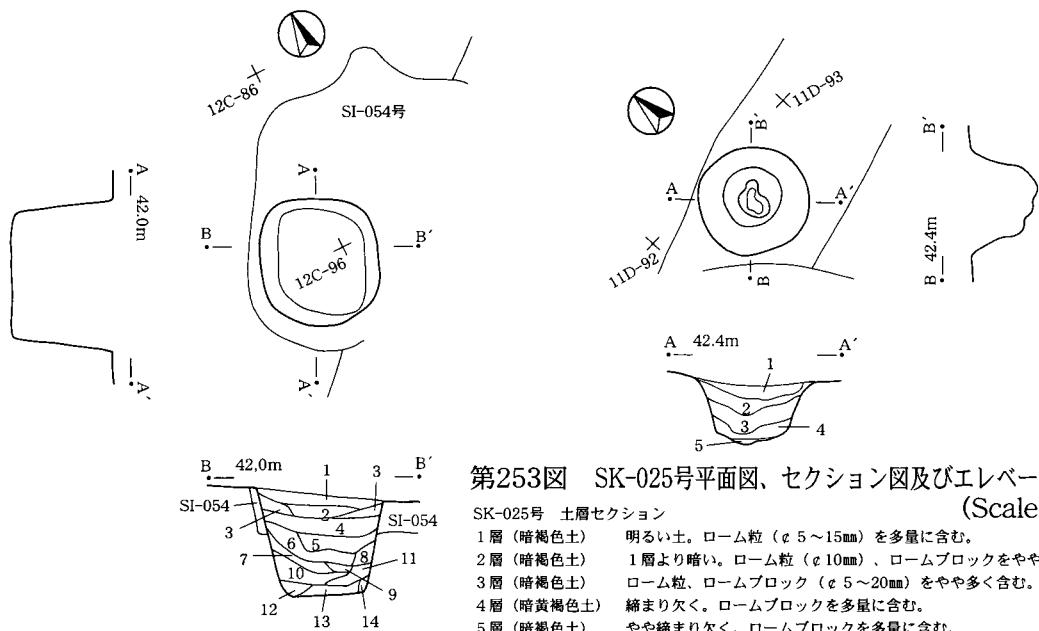
(遺構) SK-024号は発掘区の北側の3D-94付近で検出されている。開口部の平面形は長軸2.4m、短軸1.4m規模の隅丸長方形に近い橢円形である。床面までは中央部が深さは0.45m程度で、比較的平坦な感じである。覆土は上層近くに宝永の火山灰を含む土層が認められ、時期的には近世初頭までさかのぼる可能性がある。用途は形態等から墓とも思われるが、遺物等がないため性格は不明である。

### **SK-010号（第251図）－粘土採掘坑**

(遺構) SK-024号は発掘区の最南端の14B-38付近で検出されている。開口部の平面形は一辺3m程度の方形で南側は崖に向かって開口している。深さ1.2mで粘土層まで達しているところから粘土採掘坑と考えられている。時期は中世までさかのぼる可能性はあるものの遺物等がないため不明である。また性格についても井戸、地下式壙などの可能性も考えられる。

### **SK-014号（第252図）－土壙**

(遺構) SK-014号は発掘区の南側の12C-96付近のSI-054号住居跡の床面を切って作られており、時期的にはもっとも古く考えれば奈良平安時代までさかのぼる可能性も考えられる。遺物等の検出はなく、覆土も埋土のような状況で検出されていることから中世にかかる土壙墓とも考えられるが詳細は不明である。開口部の平面形は一辺1.2m程度の方形である。深さ1.1mで床面は比較的平らな状況で検出されている。



第252図 SK-014号平面図、セクション図及びエレベーション図  
(Scale1/80)

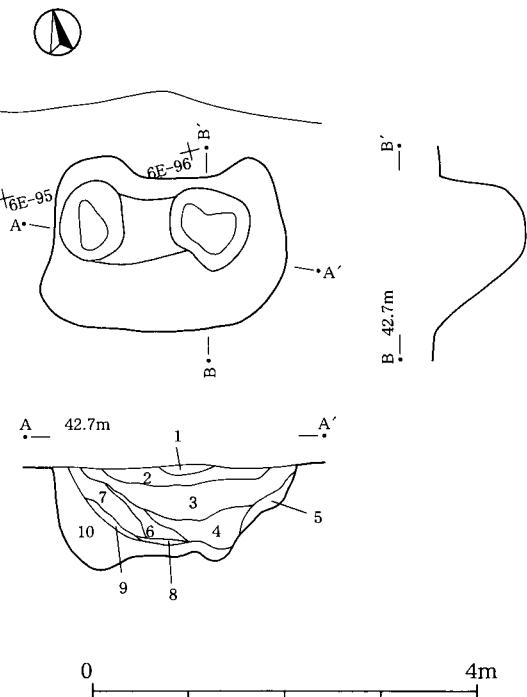
SK-014号 土層セクション

- 1層（黒～暗褐色土） ローム粒を少量含む。
- 2層（暗褐色土） ローム粒を多量に含む。やや明るい。
- 3層（暗褐色土） ローム粒を少量含む。やや明るい。
- 4層（暗褐色土） ローム粒を少量含む。ローム粒（ $\varnothing 1 \sim 1.5\text{mm}$ ）少量、ロームブロック少量含む。
- 5層（黒～暗褐色土） ローム粒をやや含む。
- 6層（黒～暗褐色土） ローム粒を微量に含む。
- 7層（黒褐色土） ローム粒をやや含む。
- 8層（黒褐色土） ローム粒を多く含む。縮まり欠く。
- 9層（黒褐色土） ローム粒少量含む。
- 10層（黒～暗褐色土） ローム粒やや含む。
- 11層（黒褐色土） ローム粒少量含む。縮まり欠く。
- 12層（黒～暗褐色土） ローム粒少量含む。
- 13層（暗褐色土） ロームブロックやや多く含む。
- 14層（黒～暗褐色土） ロームブロックやや含む。
- 15層（暗黄褐色土） ローム多く含む。

SK-026号 土層セクション

- 1層（暗赤褐色土） 焼土粒（ $\varnothing 2 \sim 3\text{mm}$ ）を多量含む。
- 2層（暗褐色土） 焼土粒、炭化物少量含む。
- 3層（黒～暗褐色土） ローム粒を少量、暗褐色土の土塊を含む。
- 4層（黒色土） ロームブロック少量含む。
- 5層（褐色土） ローム主体。
- 6層（暗褐色土） ローム粒微量に含む。
- 7層（暗褐色土） ローム粒やや多く含む。
- 8層（黒色土） ロームブロック少量含む。
- 9層（褐色土） ローム主体。
- 10層（暗黄褐色土） ロームを多量に含む。

－全体に均一で埋土と思われる。



### SK-025号（第253図）－土壤

（遺構）SK-025号は発掘区の南側の11D-93付近で検出されている。形態等から柱穴のような機能も考えたが、周囲に同じような土壤は見られないのでどちらともいえない。開口部の平面形は径1.2m程度の円形である。深さ0.6mで床面はやや柱穴状に中央部が落ち込む。時期は中近世以降と思われるが遺物等がないので不明である。

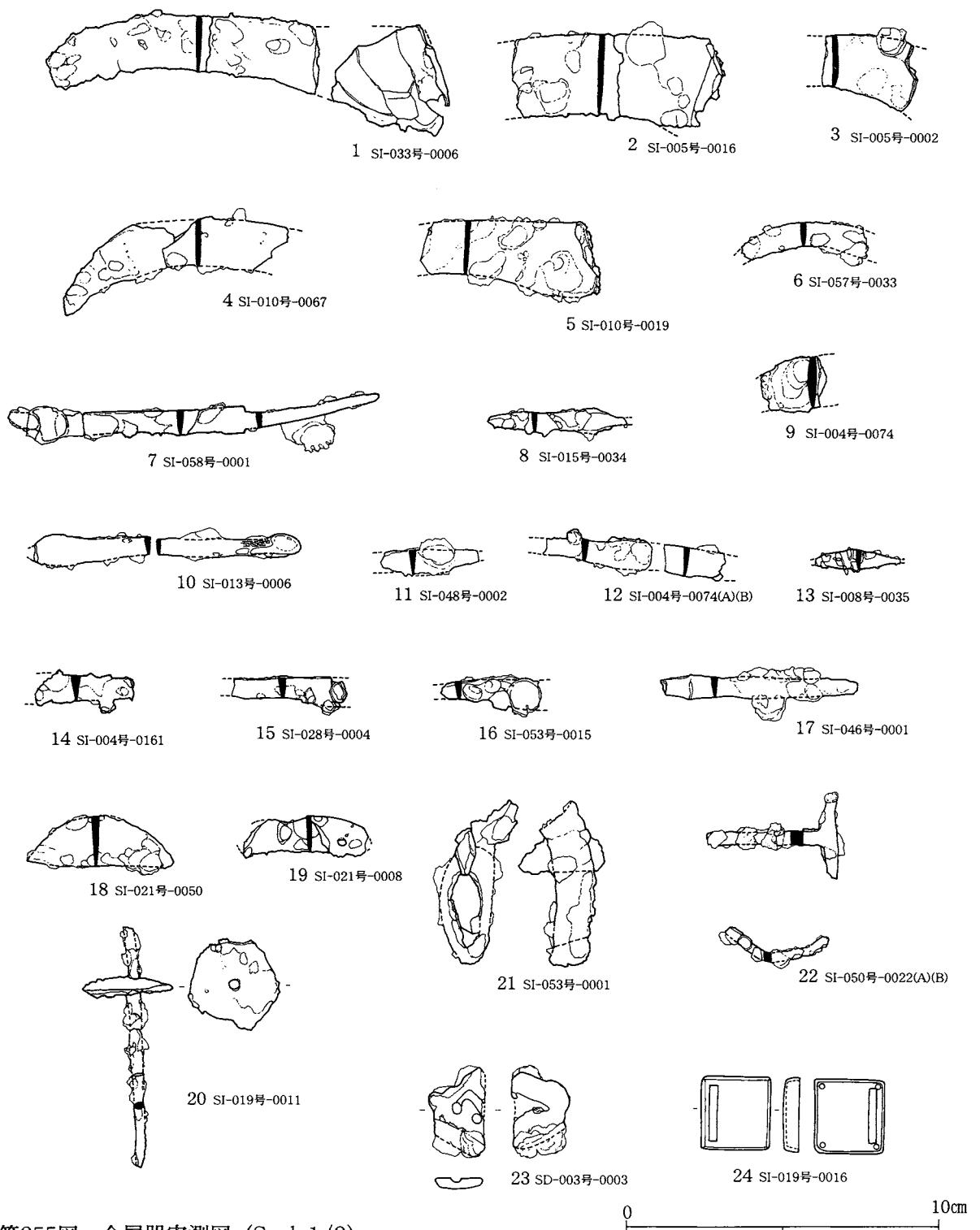
## SK-026号（第253図）－土壙

（遺構）SK-026号は発掘区の北側の6E-96付近で検出されている。長辺2.4m、短辺1.6mの不整な方形で東西2ヶ所に円形の落ち込みが見られる。深さは1.1m程である。覆土は全体に均一で埋土と考えられている。調査所見がないので詳細は不明であるが、土壙墓である可能性も考えられる。時期は中近世以降と思われるが遺物等がないので不明である。

## 6. 遺物（遺構出土土器を除く 古墳～中近世）

### （1）金属器（第225図1～24）

1は鉄製の鎌である。先端部の一部及び基部に近い部分が一部欠損している。全体に鋸化が進行しているものの比較的残りは良い。推定長13.0cm、幅2.0cm、厚0.2cmである。基部に装着するための折り返し部分が見られる。奈良・平安時代のSI-033号住居跡から出土している。2は鉄製の鎌である。先端部分は欠損している。1と比べると身の部分が幅のある形である。基部に装着するための折り返し部分が残る。全体に鋸化は進行している。残長7.0cm、幅2.7cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代のSI-005号住居跡から出土している。3は鉄製の鎌の先端に近い部分である。全体に鋸化は進行している。残長3.2cm、幅2.2cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代のSI-005号住居跡から出土している。2と同一個体の可能性も考えられる。4は鉄製の鎌の先端～胴部にかけての部分である。全体に鋸化は進行している。残長7.8cm、幅1.6cm、厚0.2cmである。先端部分が比較的細く鋭く曲がる形態のものである。奈良・平安時代のSI-010号住居跡から出土している。5は鉄製の鎌の基部に近い部分である。基部に装着するための折り返しの部分が一部残る。全体に鋸化は進行している。残長5.6cm、幅2.4cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代のSI-010号住居跡から出土している。4と同一個体である可能性も考えられる。6は鉄製の小形の鎌である。先端部～胴部にかけての部分である。全体に鋸化は進行している。残長4.1cm、幅1.0cm、厚0.2cmである。幅がないので鎌ではないかもしれない。古墳時代後期のSI-057号住居跡から出土している。7は鉄製の刀子である。一部先端部と基部で鋸ぶくれが著しいものの遺存状況は比較的良好である。全長12.2cm、幅0.9cm、厚0.3cmである。奈良・平安時代のSI-058号住居跡から出土している。8は鉄製の刀子と思われるものである。全体に鋸化が進行して遺存状況はあまり良くない。残長4.8cm、幅0.9cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代のSI-015号住居跡から出土している。9は鉄製の鎌の胴部の破片である。残長2.2cm、幅1.7cm、厚0.3cmである。奈良・平安時代のSI-004号住居跡から出土している。10は鉄製の刀子である。基部側が木部が巻き付いた状態で鋸ぶくれが進行しているため遺存状況は非常に悪い。また、先端部分が欠損している。残長8.7cm、幅1.0cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代のSI-013号住居跡から出土している。11は鉄製の刀子の基部の破片である。残長3.3cm、幅0.9cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代のSI-048号住居跡から出土している。12は鉄製の刀子の胴部である。鋸ぶくれが著しく遺存状況は良くない。残長6.2cm、幅1.0cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代のSI-004号住居跡から出土している。13は鉄製の小形の刀子と思われる。先端部分が欠損している。残長2.7cm、幅0.8cm、厚0.15cmである。奈良・平安時代のSI-008号住居跡から出土している。14は鉄製の刀子の柄に近い部分と思われる。比較的鋸ぶくれはひどくなく刀芯は残っている。残長3.2cm、幅0.8cm、厚0.25cmである。奈良・平安時代のSI-004号住居跡から出土している。15は鉄製の刀子の身の部分である。一部に著しい鋸ぶくれが認められるものの全体としては遺存状況は良い。残長3.6cm、幅0.7cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代の



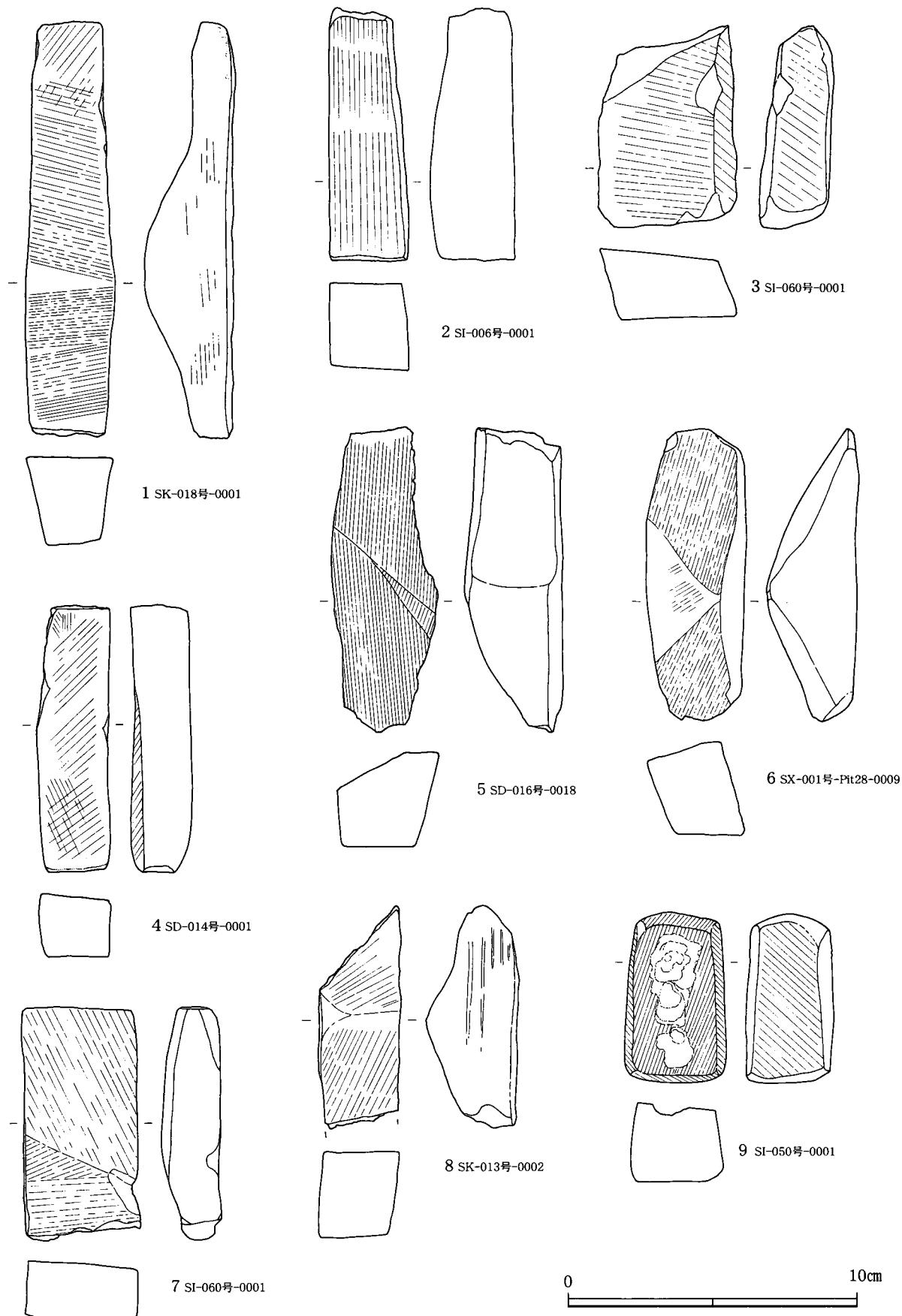
第255図 金属器実測図 (Scale1/2)

SI-028号住居跡から出土している。16は鉄製の刀子の身の部分である。全体に鏽ぶくれが著しく残存状況はあまり良くない。残長3.2cm、幅1.0cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代のSI-053号住居跡から出土している。17は鉄製の刀子である。先端部が欠損していると思われる。残長6.2cm、幅0.7cm、厚0.2cmである。奈良・平安時代のSI-046号住居跡から出土している。18は鉄製の火打ち金である。全長4.7cm、幅1.6cm、厚0.25cmである。一部鏽ぶくれが見られるものの全体として残存状況は良好である。奈良・平安

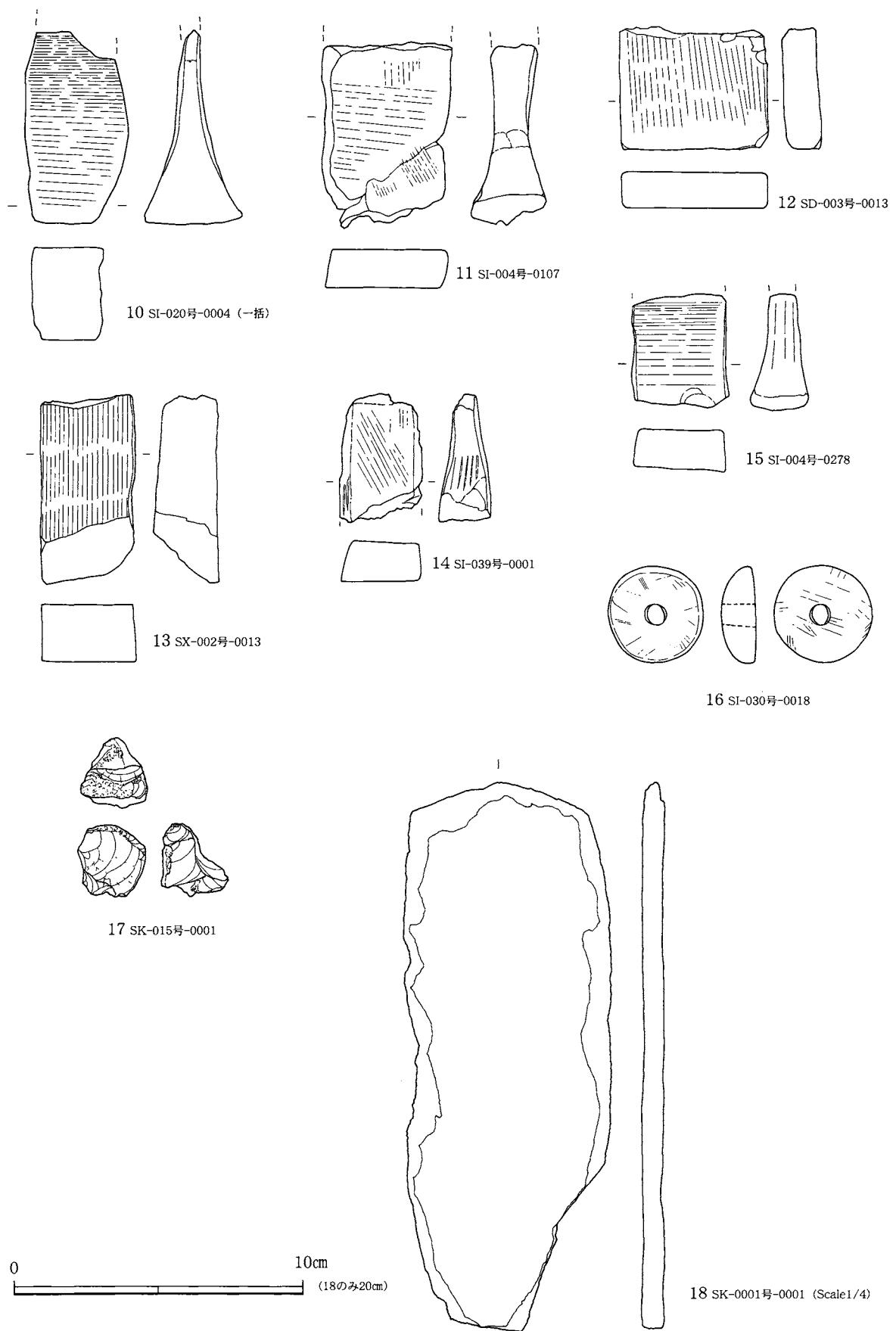
時代のSI-021号住居跡から出土している。19も鉄製の火打ち金である。両端が一部欠損している。紐を通すための穴が片側に認められるが、もう一方にもあったかも知れないが鏽ぶくれが著しく不明である。奈良・平安時代のSI-021号住居跡から出土している。20は鉄製の紡錘車である。円板部分の径は2.8cm、棒の部分の残長7.8cmである。全体に鏽ぶくれが進行していてあまり残存状況は良くない。奈良・平安時代のSI-019号住居跡から出土している。21~22は鉄製の馬具の一部と思われる金具の一部である。21はリング状になった部分に直交する方向の金具が貼り付く。鏽ぶくれが著しい。奈良・平安時代のSI-053号住居跡から出土している。22はT字状の金具と釘状の曲がった金具の2個体であるが、1つの資料として扱われていた。馬具の一部と考えているが、あるいは別のものの止め金具のようなものかもしれない。奈良・平安時代のSI-050号住居跡から出土している。23は青銅製の飾り金具の一部である。板状の金具を折り曲げて作られている。中世末～近世初頭のSD-003号溝から出土している。24は青銅製の帶金具の一部で巡方と呼ばれるものである。一边2.4cm、厚0.6cmである。やや白っぽく変化しているものの残存状況は良好である。奈良・平安時代のSI-019号住居跡から出土している。

## (2) 石器・石製品（第256図～第257図 1～18）

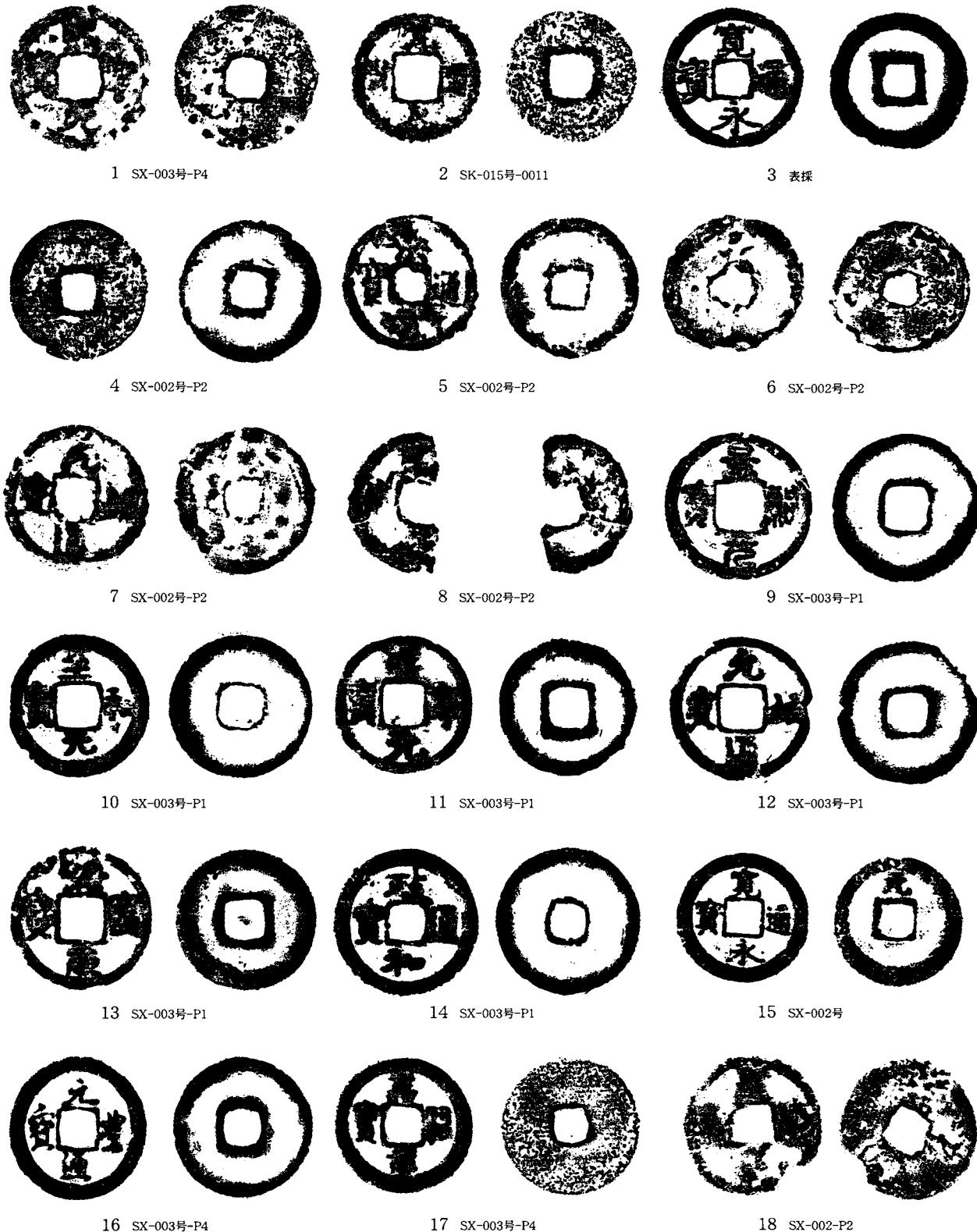
1は凝灰岩製の砥石である。作業面を横方向に使用している。全長14.3cm、幅3.2cm、厚3.1cmである。横に切断面を残す。中世～近世初頭のSK-018号土壙から出土している。2は凝灰岩製の砥石である。作業面を縦方向に使用している。全長8.7cm、幅2.8cm、厚3.0cmである。奈良・平安時代のSI-006号住居跡から出土している。3は凝灰岩製の砥石である。作業面を横方向に使用している。なお、右側面も斜め横方向に使用している。全長7.0cm、幅4.7cm、厚2.4cmである。奈良・平安時代のSI-060号住居跡から出土している。4は凝灰岩製の砥石である。左右斜め横方向に使用している。全長9.2cm、幅2.5cm、厚1.9cmである。中近世のSD-014号溝状遺構から出土している。5は凝灰岩製の砥石である。作業面を縦方向に三面使用している。全長10.4cm、幅3.6cm、厚3.3cmである。中近世のSD-016号溝状遺構から出土している。6は凝灰岩製の砥石である。作業面を上下に縦斜め方向、中程を横斜め方向に使用している。全長10.1cm、幅2.8cm、厚3.3cmである。中近世のSX-001号掘建柱建物跡の柱穴ピット中より出土している。7は凝灰岩製の砥石である。作業面を斜め縦方向、斜め横方向、横方向の三方向に使用している。全長8.2cm、幅4.0cm、厚2.0cmである。奈良・平安時代のSI-060号住居跡から出土している。8は凝灰岩製の砥石である。作業面を斜め横方向、斜め縦方向の二方向に使用している。全長7.8cm、幅2.8cm、厚3.0cmである。右側面に切断面を残す。中近世のSK-013号土壙から出土している。9は砂岩製の砥石である。作業面は全面に及ぶ。何れも縦斜め方向に使用している。全長5.8cm、幅3.4cm、厚2.6cmである。奈良・平安時代のSI-050号住居跡から出土している。10は凝灰岩製の砥石である。作業面を横方向に使用している。全長6.5cm、幅3.5cm、厚3.4cmである。奈良・平安時代のSI-020号住居跡から出土している。11は凝灰岩製の砥石である。作業面を横方向に使用しているが、若干縦方向、斜め縦方向にも使用している。全長6.1cm、幅4.1cm、厚み2.6cmである。奈良・平安時代のSI-004号住居跡から出土している。12は凝灰岩製の砥石である。作業面を縦方向に使用している。全長4.0cm、幅5.0cm、厚1.3cmである。中近世のSD-003号溝状遺構から出土している。13は凝灰岩製の砥石である。作業面を縦方向に使用している。全長6.3cm、幅3.3cm、厚2.0cmである。中近世のSX-002号台地整形区画から出土している。14は凝灰岩製の砥石である。作業面を斜め縦方向に使用している。全長4.2cm、幅2.7cm、厚1.4cmである。奈良・平安



第256図 石器・石製品実測図1 (Scale1/2)



第256図 石器・石製品実測図2 (Scale1/2、1/4)



0 5 cm

第258図 錢貨拓影図 (Scale 1/1)

時代のSI-039号住居跡から出土している。15は凝灰岩製の砥石である。作業面を横方向に使用している。全長3.7cm、幅3.2cm、厚1.3cmである。奈良・平安時代のSI-004号住居跡から出土している。16は滑石製の紡錘車である。全体に濃緑青色でやや緩い丸みのあるカーブを描き縁辺部にかけて急激に曲がる。表裏とも擦痕を残す。径3.2cm、厚1.2cmである。奈良・平安時代のSI-030号住居跡から出土している。17は瑪瑙製の火打ち石と思われるものである。頭と思われる部分に細かな打痕が多数見られる。全長2.4cm、幅2.3cm、厚2.3cmである。中近世のSK-015号土壙より出土している。18は粘板岩製の板碑である。表裏とも陰刻されたような形跡は認められなかった。中世のSK-001号地下式壙の覆土中層あたりで出土している。地下式壙に関わりあるものかと思われる。全長38.0cm、幅14.2cm、厚1.2cmである。

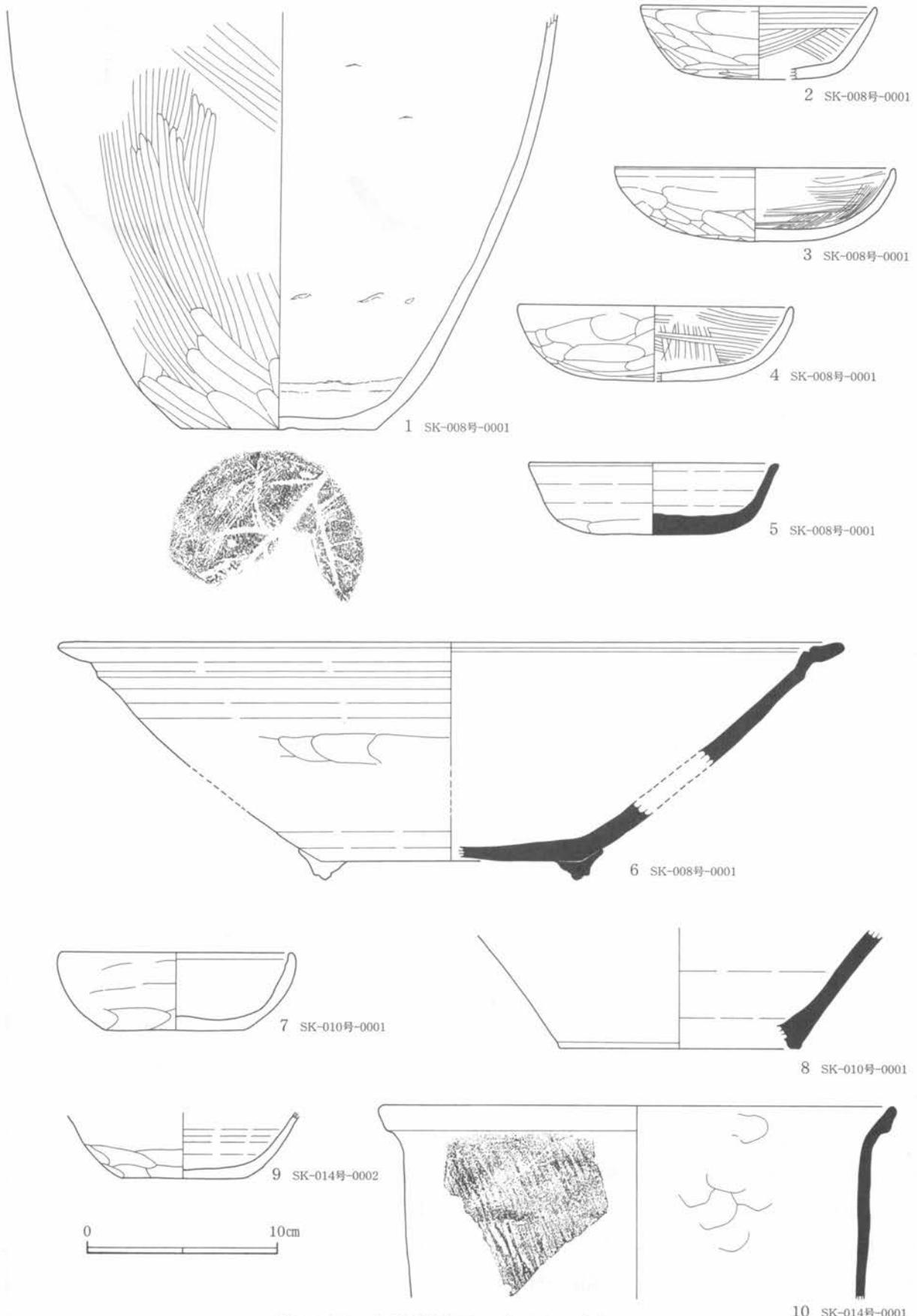
### (3) 錢貨 (第258図 1 ~ 18)

これらの錢貨は主に土壙墓と思われる遺構より出土したものが多い。これらは中世末から近世初頭にかけて作られたものと思われ、その内容からもそのことを裏付けているものと思われる。

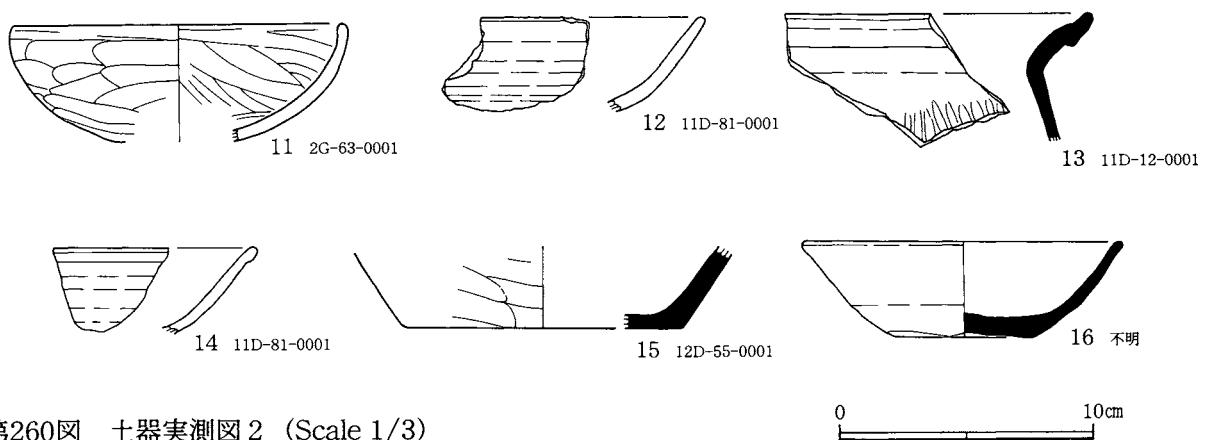
1は熙寧元寶である。径2.4cm、重量3.23g、初鑄年1068年の北宋錢である。中近世のSX-003号台地整形区画中のピット中より出土した。小ピットから検出されたものであるがいずれかの土壙墓に埋納されていたものであろう。2は寛永通寶である。径2.2cm、重量2.20gである。中近世のSK-015号土壙より出土した。3は古寛永と呼ばれる寛永通寶である。径2.3cm、重量3.25gである。表採資料である。4~8及び18はSX-002号台地整形区画のP2の土壙墓から出土している。六文錢と考えられる。4は不明である。おそらく輸入錢であろう。径2.4cm、重量3.62gである。5は洪武通寶である。径2.3cm、重量3.78g、初鑄年1368年の明錢である。6は不明である。おそらく輸入錢であろう。径2.35cm、重量3.62gである。7は元豊通寶である。径2.5cm、重量は一部2枚重なっているため不明である。初鑄年1078年の北宋錢である。8は7と重なって一部欠損しているが、おそらく熙寧元寶であろう。径2.4cm、重量は不明である。初鑄年1068年の北宋錢である。9~14はSX-003号のP1の土壙墓から出土している。六文錢と考えられる。9は景德元寶である。径2.5cm、重量3.12g、初鑄年1004年の北宋錢である。10は至和元寶である。径2.4cm、重量3.00g、初鑄年1054年の北宋錢である。11は熙寧元寶である。径2.35cm、重量2.39g、初鑄年1068年の北宋錢である。12は元豊通寶である。径2.4cm、重量2.85g、初鑄年1078年の北宋錢である。13は熙寧元寶である。径2.35cm、重量2.95g、初鑄年1068年の北宋錢である。14は政和通寶である。径2.45cm、重量3.60g、初鑄年1111年の北宋錢である。15は寛永通寶である。径2.2cm、重量1.80gである。SX-002号台地整形区画から出土している。16~17はSX-003号のP4の土壙から出土している。16は元豊通寶である。径2.4cm、重量2.99g、初鑄年1078年の北宋錢である。17は景德元寶であろうか。初鑄年1004年の北宋錢である。径2.3cm、重量2.59gである。18は至和元寶であろうか。径2.4cm、重量3.00g、初鑄年1054年の北宋錢である。18は至和元寶である。径2.4cm、重量3.00g、初鑄年1054年の北宋錢である。

### (4) 土器、陶磁器、土製品 (第259図~第260図 1 ~ 16、第261図 1 ~ 4)

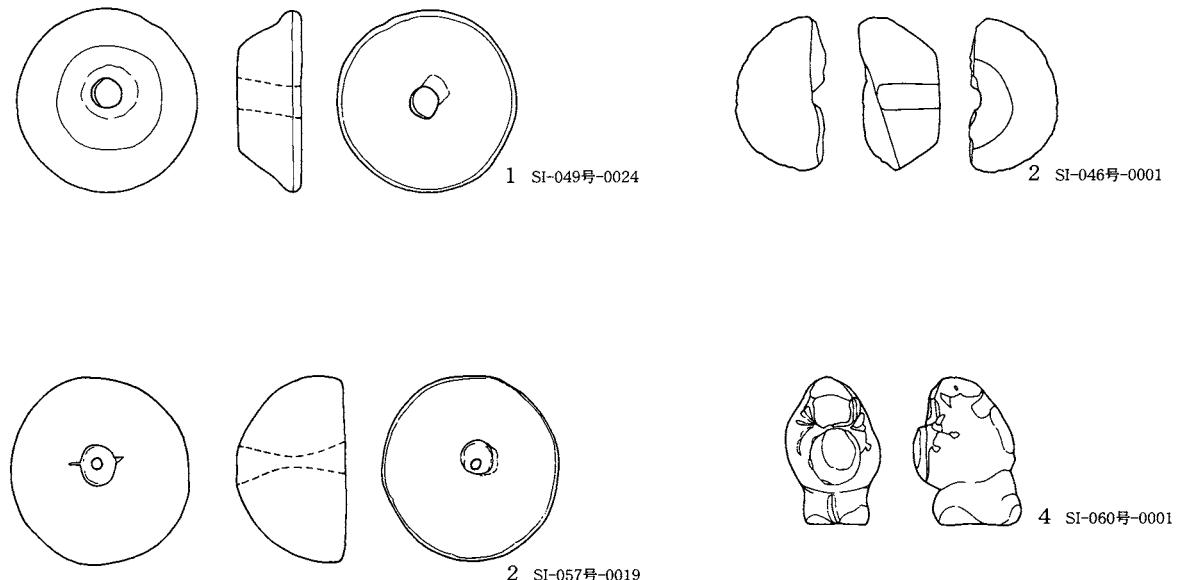
1はSK-008号の覆土中から出土した土師器の甕の胴部~底部にかけての大形破片である。底径10.5cmで他は不明である。外面は縦方向の丁寧なヘラケズリ後ミガキが一部見られる。内面は底部付近に輪積痕を一部残す。底面に木葉痕を残す。2はSK-008号の覆土中から出土した土師器の杯の口縁部~底面にか



第259図 土器実測図1 (Scale 1/3)

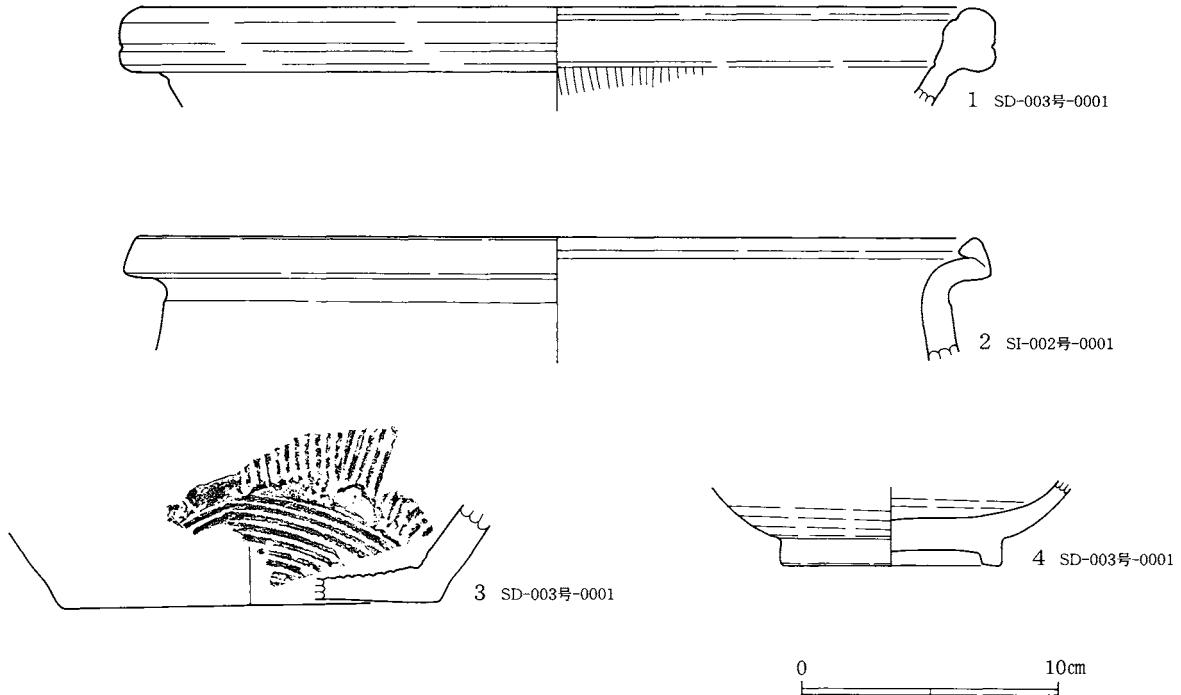


第260図 土器実測図 2 (Scale 1/3)



第261図 土製品実測図 (Scale 1/2)

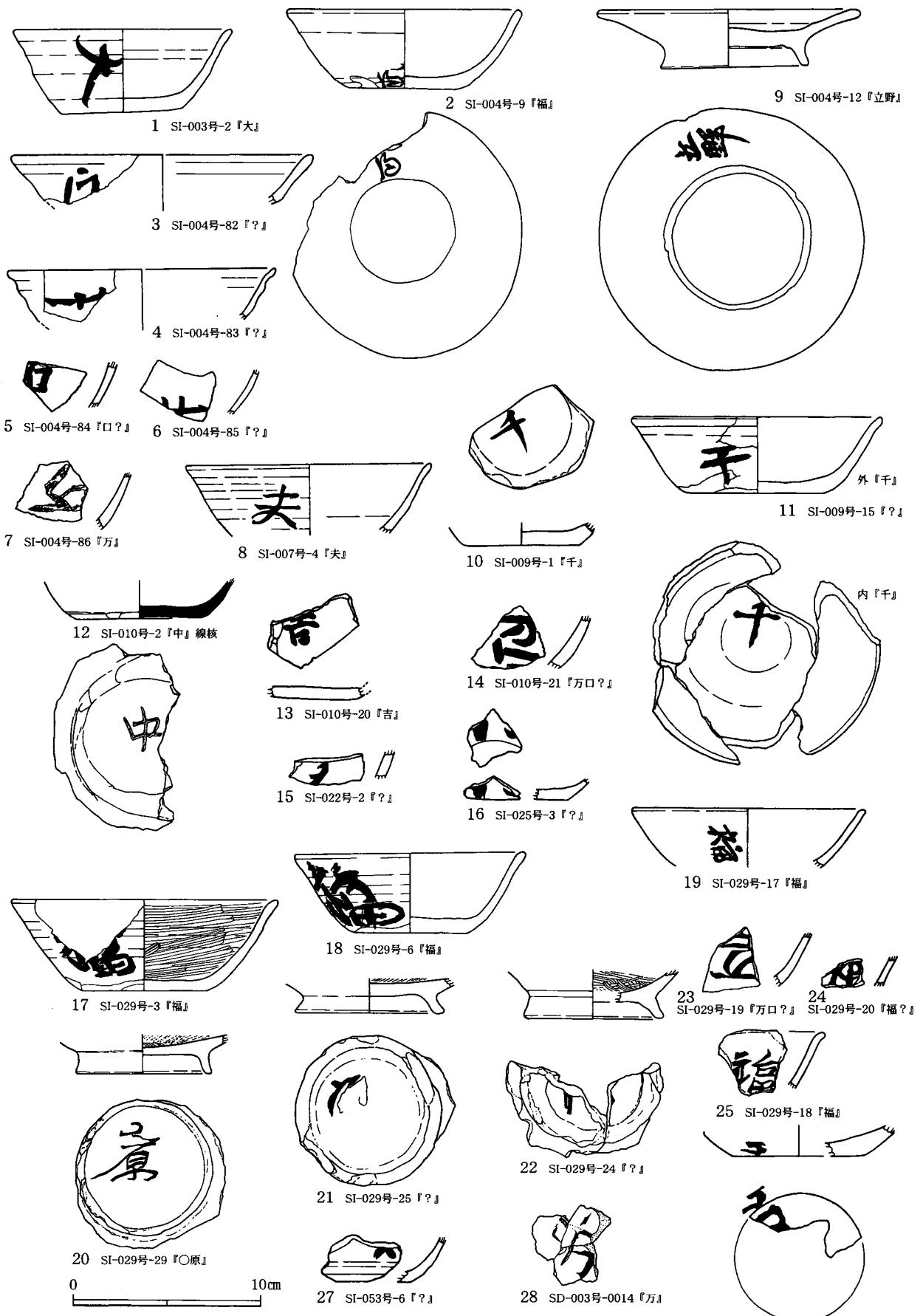
全ての破片である。口径12.2cm、底径8.2cm、器高3.8cmである。外面は横方向のヘラケズリで調整、内面は丁寧なミガキで仕上げられている。胎土は比較的細かく、焼成は良好である。3はSK-008号の覆土中から出土した土師器の杯ではほぼ半分程遺存している。口径14.8cm、底径7.5cm、器高3.8cmである。外面は横方向のヘラケズリで調整、内面は丁寧なミガキで仕上げられている。胎土は比較的細かく、焼成は良好である。4はSK-008号の覆土中から出土した土師器の杯ではほぼ半分程遺存している。口径14.4cm、底径8.0cm、器高3.8cmである。外面は横方向のヘラケズリで調整、内面は丁寧なミガキで仕上げられている。胎土は比較的細かく、焼成は良好である。5はSK-008号の覆土中から出土した須恵器の杯である。ほぼ半分遺存している。口径13.2cm、底径6.8cm、器高3.8cmである。外面底部をヘラケズリで調整、内面はロクロナデで仕上げられている。6はSK-008号の覆土中から出土した陶器の大皿の破片で中程の破片が少ないもののかなりの部分があり、復元実測が可能な個体であった。足があり、濃緑色の釉が口縁部から胴



第262図 中近世陶磁器実測図 (Scale 1/3)

部にかけてかかる。近世初頭のものと思われ、遺構に伴う可能性のある遺物である。7はSK-010号の覆土中から出土した土師器の杯である。ほぼ1/3程度遺存している。口径12.4cm、底径7.4cm、器高4.0cmである。外面底部は横方向のヘラケズリ、内面はナデで仕上げてある。胎土はやや粗いが、焼成は比較的良好である。8はSK-010号の覆土中から出土した須恵器の甕の底部破片である。底径12.8cmで他は不明である。9はSK-014号の覆土中から出土した土師器の杯の底部から底面にかけてほぼ1/4程度遺存している。底径6.8cmで他は不明である。外面底部は横方向のヘラケズリで調整されている。内面は軽めのミガキで仕上げられている。10はSK-014号の覆土から出土した須恵器の甕の口縁部～胴部にかけての大形破片である。外面はタタキ目調整、内面にはそれに伴う当て具痕が残されている。口径27.2cmで他は不明である。11は2G-63から出土した土師器の杯である。丸底の器形であろう。口径13.4cmで他は不明である。胎土はやや粗く、焼成はやや良くない。12は11D-81付近から出土した土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。内外面ともロクロナデで仕上げられている。13は11D-12付近から出土した須恵器の壺形土器の口縁部の一部である。胴部にタタキ目が一部見られる。焼成は良好である。14は11D-81付近から出土した土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。内外面ともロクロナデで仕上げられている。15は12D-65付近から出土した須恵器の底部破片である。推定底径11.0cmで他は不明である。外面底部は横方向のヘラケズリで調整されている。16は出土地点不明の須恵器の杯である。口縁部の一部を除きほぼ完形である。調整は内外面ともロクロナデで仕上げられている。底面は回転糸切りである。胎土はやや粗く、焼成は赤焼けで良くはない。口径12.4cm、底径5.4cm、器高3.8cmである。

第261図の1～4は土製品である。1はSI-049号住居跡の覆土中から出土した土製紡錘車である。口径4.7cm、器高1.6cmである。断面形はほぼ台形になる。重量は35.68gである。胎土は細かい。色調は明褐色～暗褐色で焼成は良好である。2はSI-046号住居跡の覆土中から出土した土製紡錘車である。半分に破損している。口径4.0cm、器高2.0cmである。断面形はやや丸みのある台形になる。胎土はやや粗く、色調は淡褐色で焼成はやや不良と思われる。3はSI-057号住居跡の覆土中から出土した土製紡錘車である。口径4.7cm、器高2.8cmである。重量は69.32gである。断面形はどちらかというとドーム形と言うべきであろう。外面はミガキで仕上げられている。胎土は比較的細かく、色調は暗褐色ではあるが、焼成は良好



第263図 墨書き土器（線刻土器含む）集成図（Scale 1/3）

26 SI-031号-5『?』

と思われる。4はSI-060号の小竪穴の覆土から出土している。土製の人形のようなものであろう。達磨の形態に似たものである。全長4.0cm、最大幅2.5cm、厚み2.6cmである。重量は17.98gである。中近世の遺構の時期に伴うものかもしれない。

第262図の1～4は中近世の土器の実測可能なものを掲載した。1は近世初頭の素焼きの擂り鉢の口縁部の破片である。SD-003号溝状遺構から出土した。色調は焦げ茶色で焼成は良好である。2は中世の常滑の甕の口縁部の破片である。SI-002号住居跡の覆土中に混入してあった。13世紀頃までさかのぼる可能性のある破片である。3は近世初頭の擂り鉢の底部の破片でSD-003号溝状遺構から出土しており、他にも同一個体の破片が多数出土している。4もSD-003号溝状遺構から出土した、陶器である。時期的にも近世初頭のものと思われる。

他にも溝や土壙墓などから16世紀以降の陶磁器の破片、18世紀の染め付け椀などの破片が多数出土している。

#### (5) 墨書き土器、線刻土器（第263図1～28）

向台遺跡の奈良・平安時代の住居跡を中心にして以下にあげる27点の墨書き土器及び線刻土器1点の文字の書かれた土器が出土した。中近世の溝から取り上げた土器を含めて改めて簡単に説明しておく。なお、土器の特徴その他については各遺構毎の説明を参照していただきたい。

1はSI-004号-2の墨書き土器で土師器の杯の外面に『大』と横方向に描かれている。2はSI-004号-9の墨書き土器で土師器の杯の口縁部～体部の上半分が欠けているものの他の文字から推測すると『福』になるのではないかと思われる。3はSI-004号-82の墨書き土器で土師器の杯の口縁部～体部の破片で不明の文字の一部が見られる。あるいは、『口』の一部にも見えるがいかがなものであろうか。4はSI-004号-83の墨書き土器で、土師器の杯の口縁部の破片の一部に不明な文字の一部が見られる。あるいは、『千』という文字の一部なのかもしれないが、詳細は不明である。5はSI-004号-84の墨書き土器で、土師器の杯の体部の外面の一部に『口』の文字が見られる。あるいは他の文字の一部であるかもしれない。

6はSI-004号-85の墨書き土器で、土師器の杯の体部の外面の一部に不明な文字の一部が見られる。あるいは4と同様に『千』という文字の一部である可能性もある。7はSI-004号-86の墨書き土器で、土師器の杯の体部の外面に『万』と思われる文字が残されている。他のものと比べると非常に残りが悪い。8はSI-007号-4の墨書き土器で、土師器の杯の外面の体部に『夫』という文字が描かれている。9はSI-004号-12の墨書き土器で土師器の皿の外面の体部に『立野』と描かれている。10はSI-009号-1の墨書き土器で、土師器の杯の底面の内面に『千』という文字が描かれている。11はSI-009号-15の墨書き土器で、土師器の杯の内底面及び外面体部の両方に『千』という文字が描かれている。12はSI-010号-2の線刻土器で、須恵器の杯の外底面の中央に『中』という文字が線刻されている。13はSI-010号-20の墨書き土器で、土師器の杯の底面の外面に『吉』という文字が描かれている。14はSI-010号-21の墨書き土器で、土師器の杯の体部破片の外面に『万口』とも読める文字が描かれている。ただし、口は他の文字の一部である可能性が高い。15はSI-022号-2で、土師器の杯の破片の外面に4とか6などと同じ様に不明な文字が描かれている。16はSI-025号-3で、土師器の杯の破片の底部付近に不明な文字の一部が描かれている。17はSI-029号-3で、土師器の杯でちょうど文字の描かれている部分の上半分が欠けているが、『福』と思われる文字が描かれている。18はSI-029号-6で、土師器の杯の体部の外面に『福』という

文字が描かれている。19はSI-029号-17で、土師器の杯の体部の外面に横方向に崩し気味に『福』という文字が描かれている。20はSI-029号-21で、土師器の台付き杯の台部の外面に『○原』と2文字描かれている。21はSI-029号-25で、20と同様な文字が描かれていた可能性もあるが、現状では判断しかねる。22はSI-029号-24で、土師器の台付き杯の台部の外面の一部に墨書が描かれているが、一部のため詳細は不明である。23はSI-029号-19で土師器の杯の破片に『万口』と描かれているが、下の文字の部分は一部しかないと思われ詳細は不明である。24はSI-029号-20で、土師器の杯の破片の外面に『福』とおぼしき文字が描かれている。ただ一部であるため断定はできない。25はSI-029号-18で、土師器の外面に『福』という文字が描かれている。26はSI-031号-5で、土師器の杯の外面の底部と底面の両方に不明の文字が描かれている。底面のほうの墨書は『口』の一部である可能性もある。27はSI-053号-6で、土師器の杯の体部の外面に不明な文字の一部が見られる。28はSD-003号の溝の覆土一括で出土した土師器の破片で全体が薄いのではっきり判読はできなかったものの『万』という文字が描かれているように思われる。

## 第3章　まとめ

### 第1節　旧石器時代

向台遺跡では、概要でも述べた様に立川ロームIV層～V層にかけての石器群が2ヶ所で検出されている。特に第2地点ではナイフ形石器をはじめ多数の石器を含みその内容は注目に値する。石器群の内容を細かく見るとナイフ形石器の石材である珪質凝灰岩の石核が数点見られるもののナイフ形石器より小形の石核のみ残されており、ナイフ形石器はこれらの石器地点と異なる場所で製作され持ち込まれた可能性が高い。この地点では、より小さな剥片が数多く残されていることからナイフ形石器以外の不定形な小剥片を作出していたのかもしれない。安山岩の石材についても大形の剥片は検出されているものの、石核などは見られないことからどちらかというと石器製作的な機能を主体的に持ち合わせた場所ではなく、使用・消費の場所であった可能性が高いのではないかと思われる。第2地点の北側部分に小規模な礫群を伴っていることもある程度そのことを証明しているのかもしれない。ただし、今回は向台遺跡の東側の一部分の調査であり、旧石器時代の遺跡の全貌を明らかにできたとは思われない。第1地点の攪乱が著しいことや調査区全体の上層の攪乱が著しいことなどもなお一層これらのことを見難にしていると言わざる得ない。

### 第2節　縄文時代

縄文時代は遺構、遺物とも稀薄な遺跡である。陥し穴と思われる土壙が5基検出されたのみである。当該時期の土器片や石器の内容の貧弱さから考えても、狩猟採集の場所として機能していた可能性が高い。ただし、台地中央部に当該時期の小規模な集落が展開していた可能性は否定できない。

### 第3節　古墳時代

古墳時代に比定される住居跡は全体で5軒と少なく時期は遺物からも古墳時代後期に限定されるため、むしろその後の奈良・平安時代にそのまま展開していった集落であるという感じではあるが、SI-057号住居跡より出土した土器の中で興味深い土器が見られたことを指摘しておきたい。7と14の土器でいずれの土器の内側も黒くぼろぼろな感じで所々白く縞状になる状況が観察されており、一見すると製塩土器の

ような印象を受ける。何故、内陸部の遺跡の住居跡から2点このような土器が見られるのかは不明であるが、海岸部との遺跡との交流も含め考える必要がある。

また、隣の沖ノ台I、II遺跡の古墳時代後期の製鉄遺跡の存在も同時期であるが故に無視できないが、スラグ等の遺物が、あるいは小鍛治等の遺構の存在もないため関係が語れないことも残念なことである。時期的な差があるものなのか、あるいは違う集団によって形成されたものなのか、あるいは占有場所を限定させて作られた結果なのかいずれかの可能性があるものと思われるが、いかがなものであろうか。

#### 第4節 奈良・平安時代

向台遺跡で検出された集落の規模からいうと遺跡全体へ展開していると思われるが、一時期の集落規模はそれほど大きくなきものと思われる。ただし遺跡は台地全般に広がっている可能性が非常に高いため、未発掘地区の台地中心部分でもっと濃密に展開していることも考えられる。

個別の事例を取り上げてみると、SI-004号住居跡から墨書き土器が多数出土していることから集落での中心的存在であることがわかる。また、この住居跡ではカマド内の遺物の出土状況からカマド祭祀を行っていた可能性も指摘される。SI-029号住居跡からは『福』と描かれた墨書きが多数出土していることが注目される。また、SI-009号住居跡からは『千』という墨書きが2点出土している。

#### 第5節 中近世

向台遺跡の中で明らかに中世末までさかのぼる遺構にはSX-002号台地整形区画内に所在する火葬墓、あるいは地下式壙など、あるいは土壙墓などの中六文銭が輸入銭で占められるものなどが幾つか見られる。SX-001号～003号までの中近世の遺構は遺物等が乏しいためはつきりしたことは言えないが、どちらかというと近世初頭まで連続した時間の経過の中で構成されていった遺構群ではなかろうかと思われる。より具体的にいうならば、これらの遺構群は掘立柱建物跡に見られるように屋敷とその周りに作業場の小堅穴や土壙群などで考えられる墓などの存在、周りで溝や井戸といった施設を伴う畠などの生産地までの道とも思われる溝状の遺構など近世初頭に至る生活の様子が伺えるような一連の遺構、遺物が検出されている。

参考文献 鳴田 浩司 他『空港南部工業団地埋蔵文化財調査報告書1－山武郡芝山町古宿・上谷遺跡－』千葉県文化財センター調査報告書320集

香取 正彦 他『主要地方道成田松尾線IX－芝山町大台西藤ヶ作遺跡・深田台遺跡・洞谷台遺跡・大掘切遺跡』千葉県文化財センター調査報告書372集

# 写 真 図 版



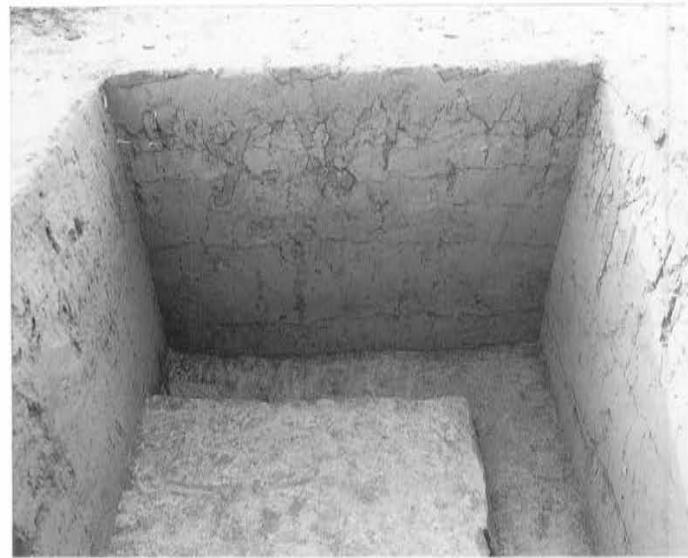
## 図版2



向台遺跡  
空中写真  
南から



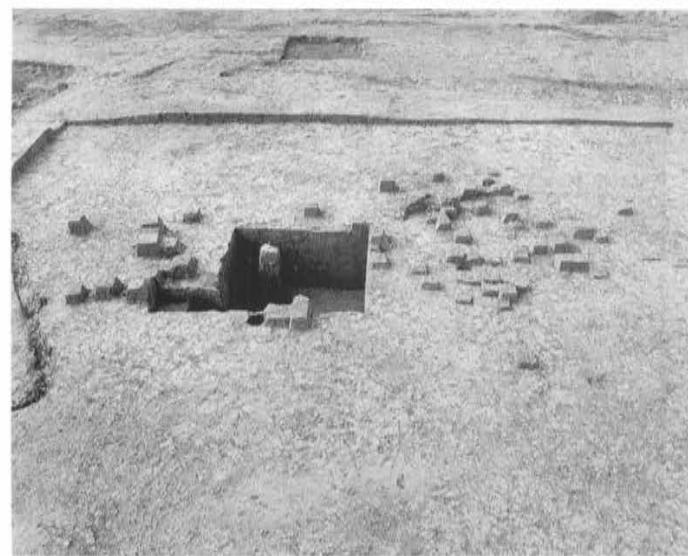
北から



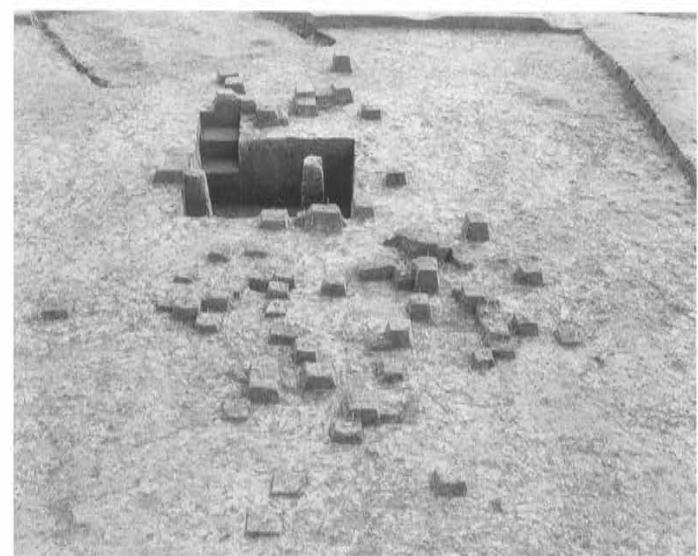
10E-94グリット土層



旧石器時代第1地点（西から）



旧石器時代第2地点（東から）



旧石器時代第2地点（北から）

図版4



SI-001号全景



SI-002号全景



SI-003号全景



SI-004号全景



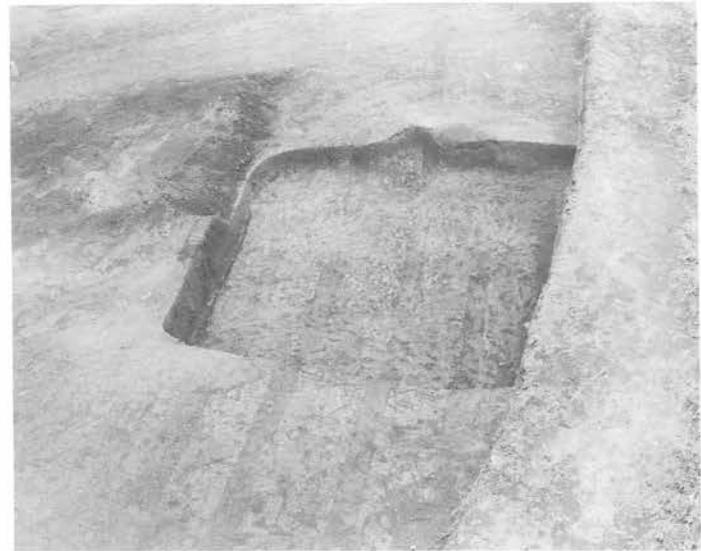
SI-007号全景



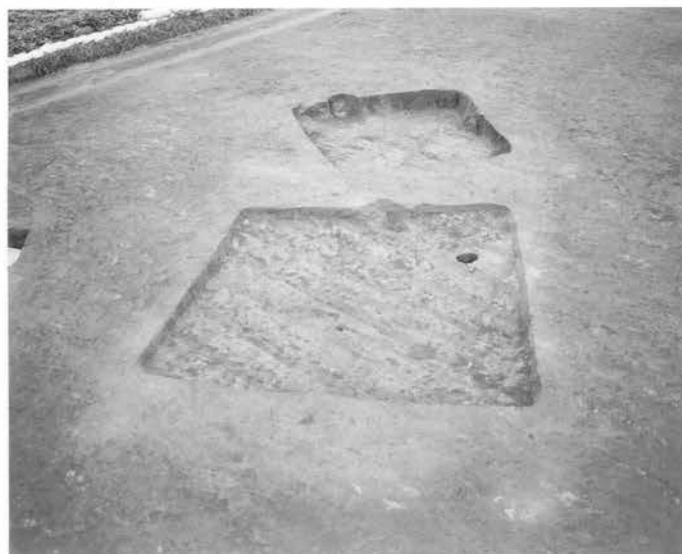
SI-007号カマド全景



SI -005号全景



SI -010号全景



SI -012号全景



SI -013号全景



SI -013号全景



SI -011号、SI -014号全景

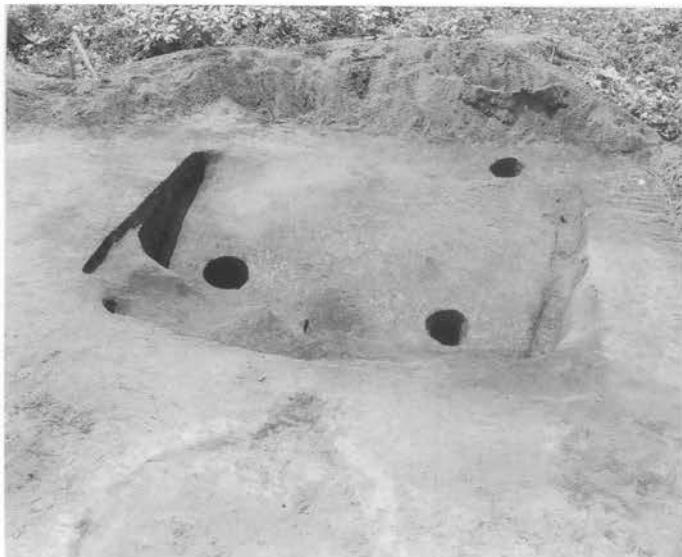
図版6



SI-015号全景



SI-015号カマド全景



SI-016号全景



SI-017号全景



SI-018号、SI-019号全景



SI-020号全景



SI-021号全景



SI-021号カマド全景



SI-022号全景



SI-022号カマド全景



SI-023号全景



SI-023号カマド全景



SI-023号、SI-058号全景



SI-023号遺物出土状況



SI-024号全景



SI-027号全景



SI-025号全景



SI-025号カマド全景



SI-026号全景



SI-026号カマド全景



SI-027号、SI-029号全景



SI-029号全景



SI-031号全景



SI-031号カマド全景

図版10



SI-030号全景



SI-033号カマド全景



SI-033号、SI-034号全景



SI-034号カマド全景



SI-032号全景



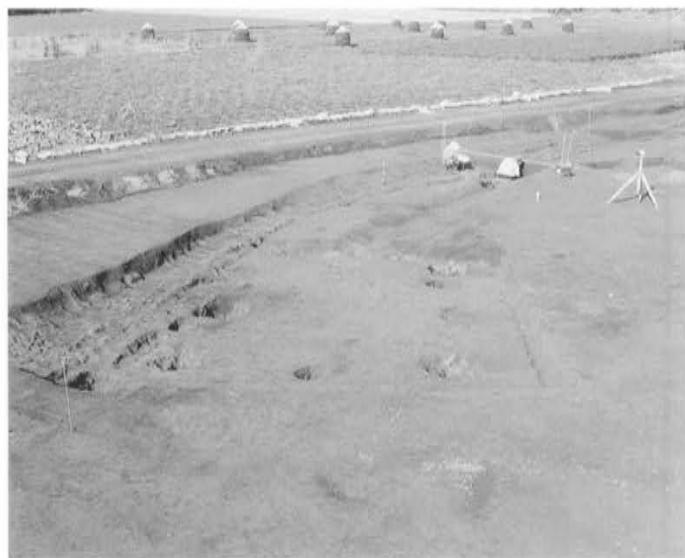
SI-032号カマド全景



SI-035号全景



SI-035号、SI-036号全景



SI-037号全景



SI-037号カマド全景



SI-038号全景



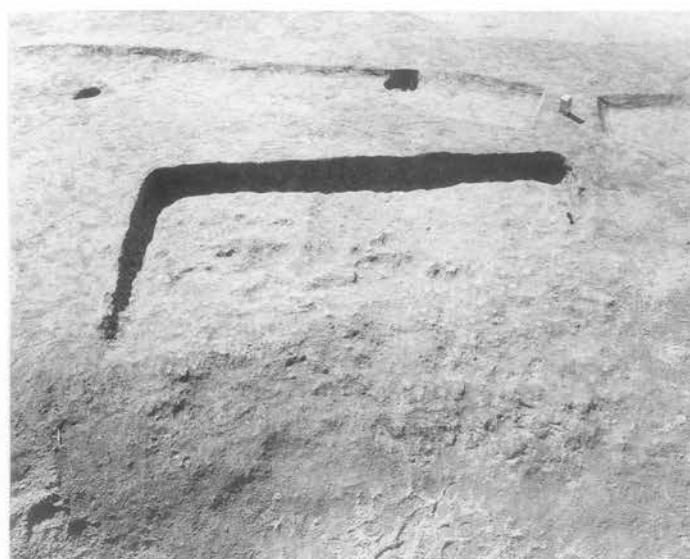
SI-038号カマド全景



SI-040号全景



SI-040号全掘



SI-041号全景



SI-042号カマド全景



SI-043号全景



SI-043号カマド全景



SI-044号全景



SI-044号カマド全景



SI-045号全景



SI-045号全景



SI-046号全景



SI-046号カマド全景



SI-049号全景



SI-049号カマド全景



SI-050号全景



SI-050号カマド全景



SI-050号(B)全景



SI-055号、SI-010号全景



SI-051号全景



SI-051号カマド全景



SI-053号カマド全景



SI-053号カマド内出土遺物



SI-053号全景



SI-054号カマド付近出土遺物



SI-056号全景



SI-057号遺物出土状況



SI-057号全景



SI-057号カマド全景



SI-058号カマド内出土遺物



SI-023号、SI-058号カマド全景



SI-062号全景



SI-064号全景



SI-063号全景



SI-063号カマド全景



SK-001号全景



SK-008号全景



SK-011号全景



SK-012号全景



SK-020号全景



SK-021号全景



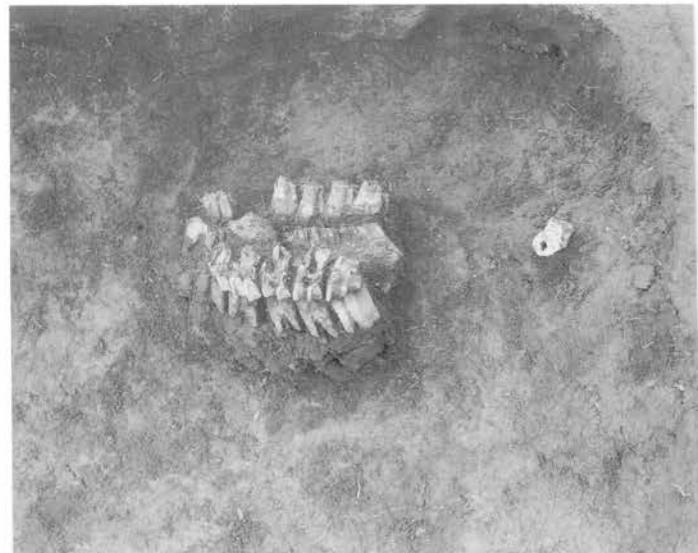
SK-024号全景



SK-025号全景



SK-009号全景



SK-009号馬骨出土状況



SI-053号、SK-014号全景



SK-019号全景



SK-022号遺物出土状況



SK-022号全景



SX-001号全景



SX-003号、SX-004号全景



SX-003号全景



SX-003号全景



SX-002号全景



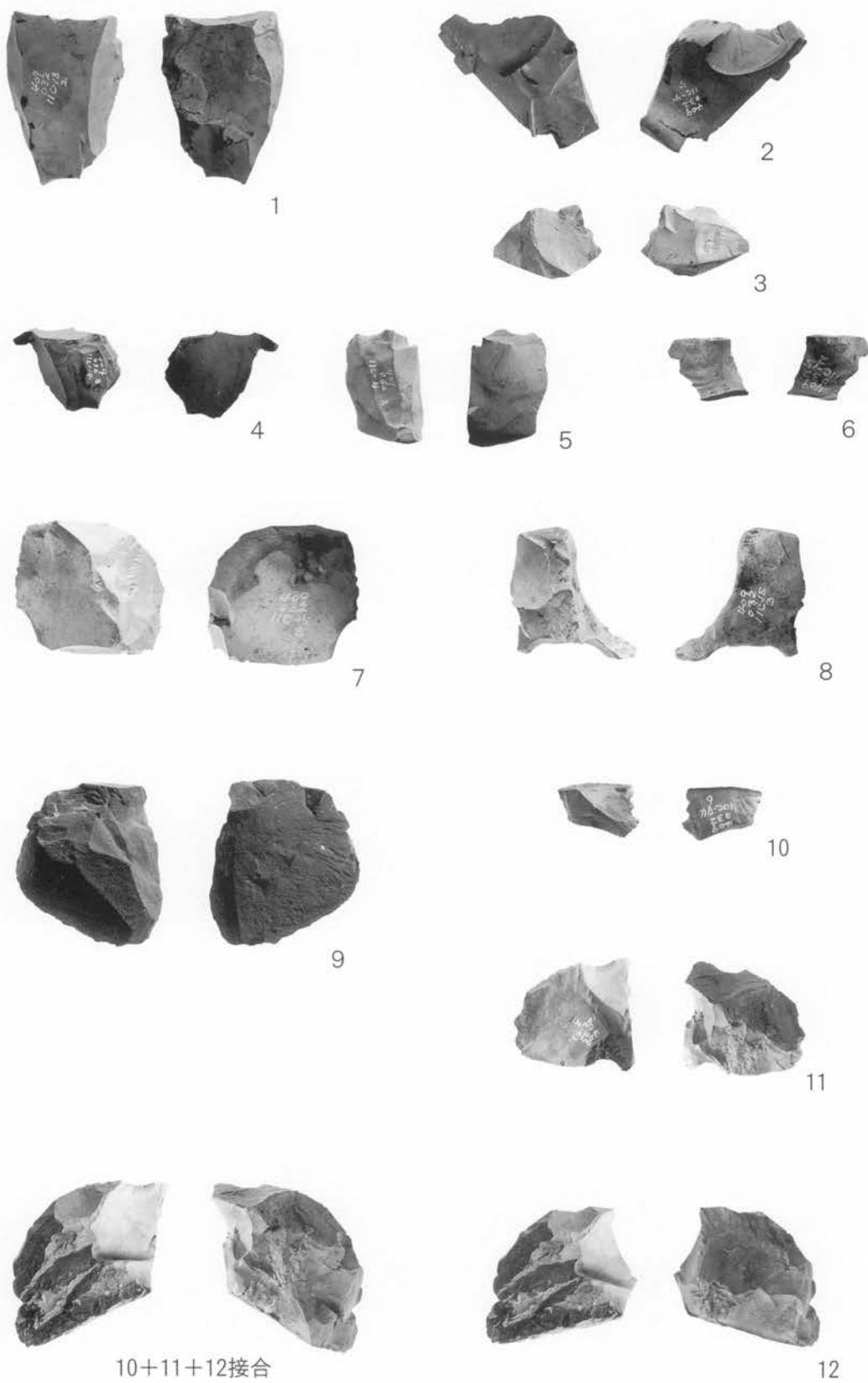
SX-004号全景



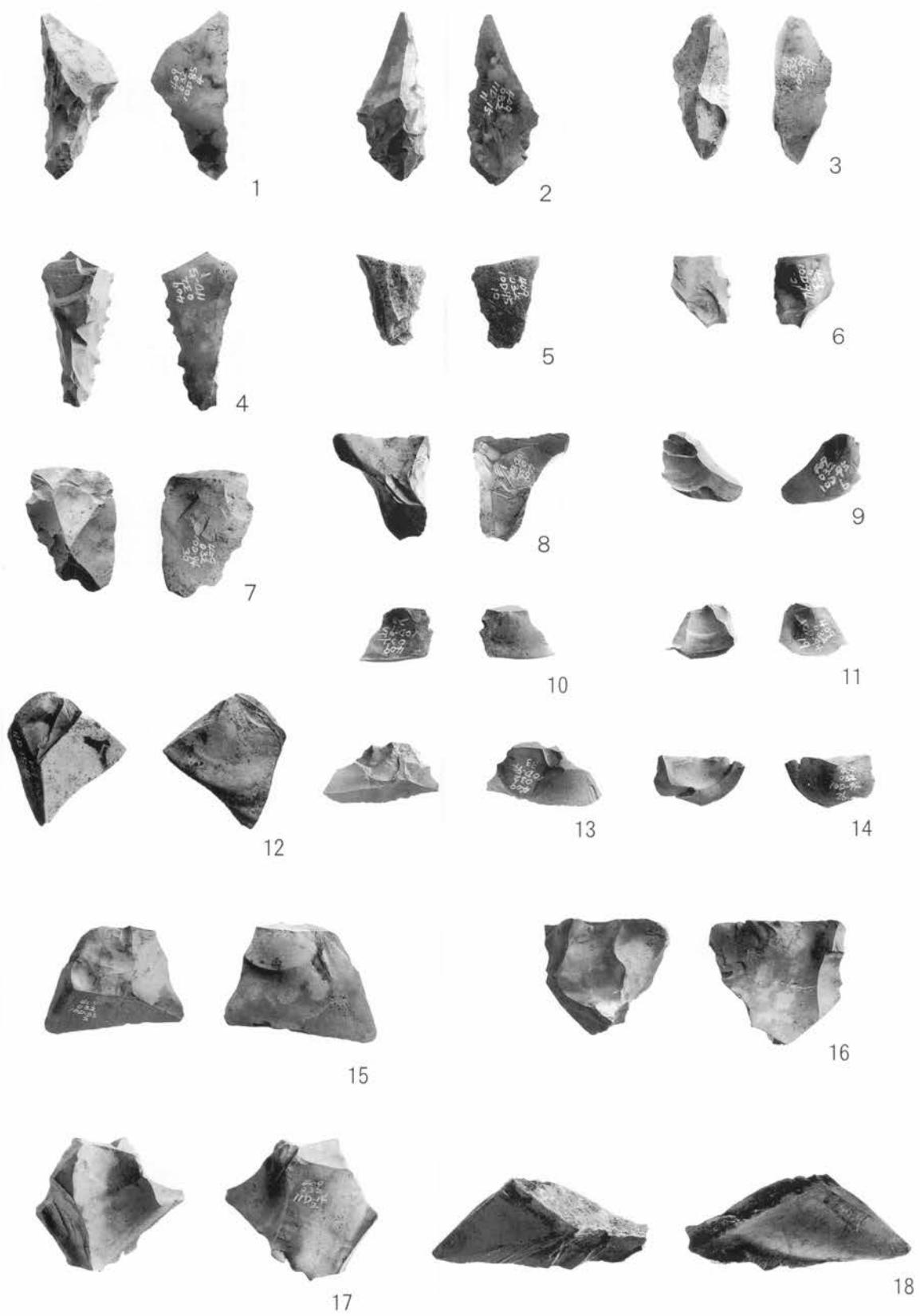
北側遺構出土状況



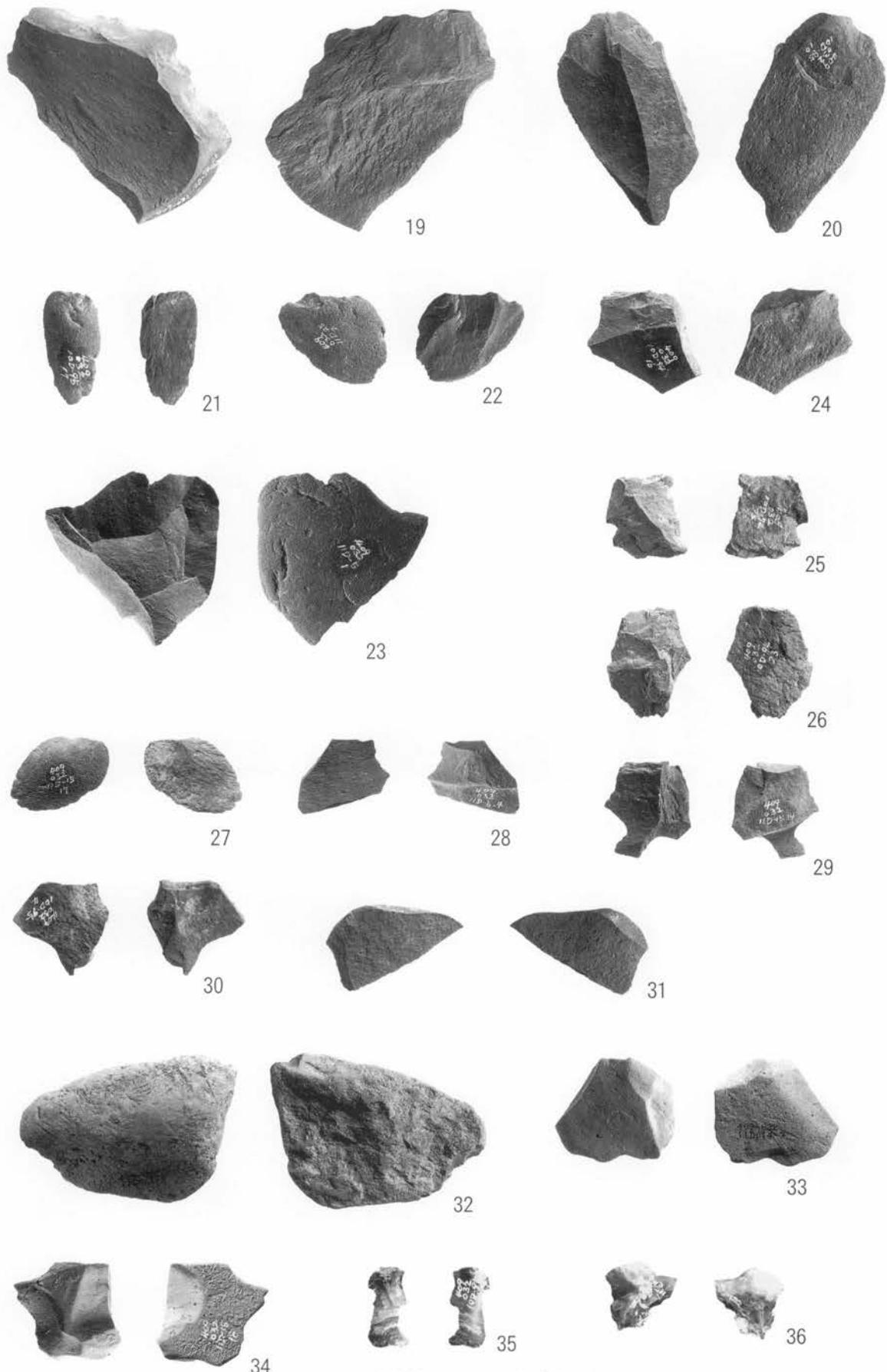
SX-001号全景



旧石器時代第1地点出土遺物



旧石器時代第2地点出土遺物(1)



旧石器時代第2地点出土遺物(2)



37



37+38接合



38

旧石器時代第2地点出土遺物(3)



1



2



5



3



4



6



旧石器時代確認グリット等出土遺物



2



3



1



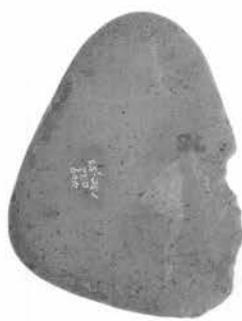
2



3



4



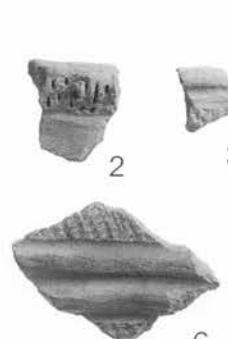
1



4



5



6



7



8



9



10



11



12



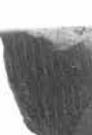
13



14



15



16



17



18



19

縄文時代石器

縄文時代土器



S I -001号 1



S I -001号 2



S I -001号 3



S I -001号 4



S I -001号 5



S I -001号 6



S I -001号 7

S I -001号出土遺物



SI-002号 1



SI-002号 2



SI-002号 3



SI-002号 4



SI-003号 1



SI-003号 2

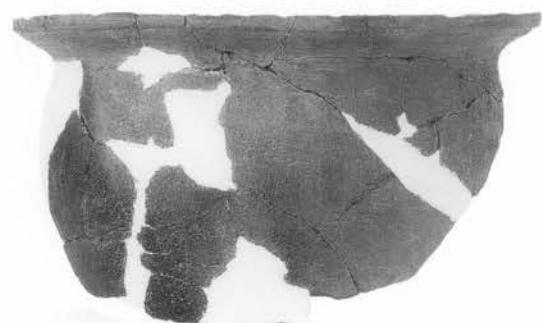


SI-003号 3



SI-003号 4

SI-002号、SI-003号出土遺物



SI-003号 5



SI-003号 6



SI-003号 7



SI-004号 1



SI-004号 2



SI-004号 3



SI-004号 4



SI-004号 5



SI-004号 6

SI-003号、SI-004号出土遺物



S I -004号 7



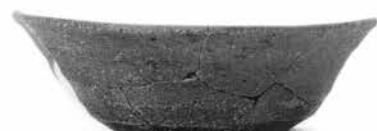
S I -004号 8



S I -004号 9



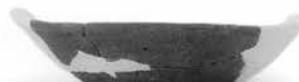
S I -004号 10



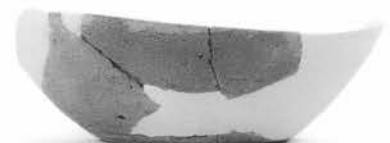
S I -004号 11



S I -004号 12



S I -004号 13



S I -004号 14



S I -004号 15



S I -004号 16

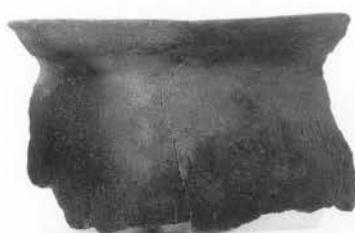
S I -004号出土遺物



S I -004号 17



S I -004号 18



S I -004号 19



S I -004号 20



S I -004号 22



S I -004号 23



S I -004号 24



S I -004号 25



S I -004号 26



S I -004号 27

S I -004号出土遺物



S I -004号 28



S I -004号 30



S I -004号 29



S I -004号 31



S I -004号 32



S I -004号 33



S I -004号 34



S I -004号 35



S I -004号 36



S I -004号 39

S I -004号出土遺物



S I -004号 40



S I -004号 41



S I -004号 42



S I -004号 43



S I -004号 46



S I -004号 47



S I -004号 49



S I -004号 50



S I -004号 51



S I -004号 53

S I -004号出土遺物



S I -004号 54



S I -004号 55



S I -004号 56



S I -004号 57



S I -004号 58



S I -004号 59



S I -004号 60



S I -004号 61



S I -004号 62



S I -004号 63

S I -004号出土遺物



S I -004号 64



S I -004号 66



S I -004号 67



S I -004号 68



S I -004号 69



S I -004号 70



S I -004号 72



S I -004号 71



S I -004号 73

S I -004号出土遺物



S I -004号 74



S I -004号 75



S I -004号 76



S I -004号 77



S I -004号 81



S I -005号 1



S I -005号 3



S I -005号 2



S I -005号 4

S I -005号 5

S I -004号、S I -005号出土遺物



SI-007号 1



SI-007号 2



SI-007号 5



SI-007号 3



SI-007号 6



SI-007号 8



SI-007号 7



SI-007号 9



SI-007号 10

SI-007号出土遺物



S I -008号 1



S I -008号 2



S I -008号 3



S I -008号 4



S I -009号 1



S I -009号 2



S I -009号 3



S I -009号 4



S I -009号 5

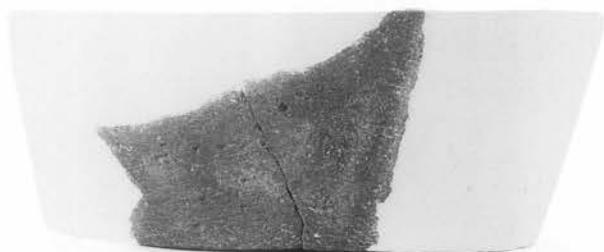


S I -009号 6

S I -008、S I -009号出土遺物



S I -009号 7



S I -009号 8



S I -009号 9



S I -009号 10



S I -009号 12



S I -009号 11



S I -009号 13



S I -009号 14



S I -009号 15

S I -009号出土遺物



S I -009号 16



S I -009号 17



S I -010号 1



S I -010号 2



S I -010号 3



S I -010号 4



S I -010号 5



S I -010号 6



S I -010号 7



S I -010号 8

S I -009号、S I -010号出土遺物



S I -010号 9



S I -010号 10



S I -010号 11

S I -010号 12



S I -010号 13



S I -010号 14



S I -010号 15



S I -010号 16



S I -010号 17



S I -010号 18



S I -010号 19

S I -010号出土遺物



S I -011号 1



S I -011号 2



S I -011号 3



S I -011号 4



S I -011号 5



S I -011号 6



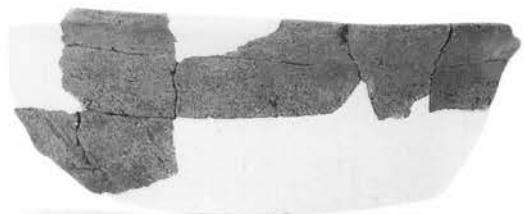
S I -011号 7



S I -011号 8



S I -011号 9



S I -011号 10

S I -011号出土遺物

図版42



SI-012号 1



SI-012号 2



SI-012号 3



SI-012号 4



SI-012号 5



SI-013号 1



SI-013号 2



SI-013号 3



SI-013号 4



SI-014号 1

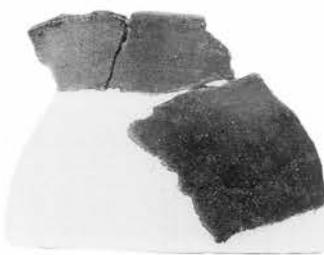
SI-012号、SI-013号、SI-014号出土遺物



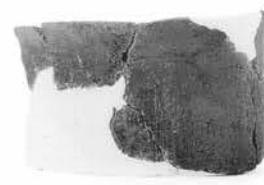
S I -015号 1



S I -015号 2



S I -015号 3



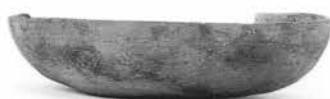
S I -015号 4



S I -015号 5



S I -015号 6



S I -015号 7



S I -015号 8



S I -015号 9



S I -015号 10

S I -015号出土遺物



SI-015号 11



SI-015号 12



SI-015号 13



SI-015号 14



SI-016号 1



SI-016号 2



SI-016号 3



SI-016号 4



SI-016号 5



SI-016号 6



SI-016号 7



SI-016号 8

SI-015号、SI-016号出土遺物



S I -017号 1



S I -017号 2



S I -017号 3



S I -017号 4



S I -017号 5



S I -017号 6



S I -017号 7



S I -017号 8



S I -017号 9



S I -017号 10

S I -017号出土遺物



S I -017号 11



S I -017号 12



S I -018号 1



S I -018号 2



S I -018号 3



S I -018号 4



S I -018号 5



S I -018号 6

S I -017号、S I -018号出土遺物



S I -018号 7



S I -018号 8



S I -018号 9



S I -018号 10



S I -018号 11



S I -018号 12



S I -018号 13



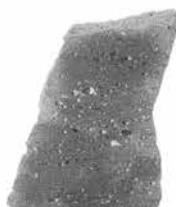
S I -018号 14



S I -018号 16



S I -018号 15



S I -018号 17

S I -018号出土遺物



SI-019号 1



SI-019号 2



SI-019号 3



SI-019号 4



SI-019号 5



SI-019号 6



SI-019号 7



SI-019号 10(表)



SI-019号 8



SI-019号 10(横)



SI-019号 9

SI-019号出土遺物



S I -020号 1



S I -020号 2



S I -020号 3



S I -020号 4



S I -021号 1



S I -021号 2



S I -021号 3



S I -021号 4



S I -021号 5



S I -022号 1

S I -020号～S I -022号出土遺物

図版50



S I -023号 1



S I -023号 2



S I -023号 3



S I -023号 4



S I -023号 5



S I -023号 6



S I -023号 7



S I -023号 8



S I -023号 9



S I -023号 10

S I -023号出土遺物



S I -023号 11



S I -023号 12



S I -023号 13



S I -023号 14



S I -023号 15



S I -023号 17(上半分)



S I -023号 16



S I -023号 17(下半分)



S I -024号 9



S I -024号 9

S I -023号、S I -024号出土遺物



SI-025号 1



SI-025号 2



SI-026号 1



SI-026号 2



SI-026号 3



SI-026号 4



SI-026号 5



SI-026号 7



SI-026号 6

SI-025号、SI-026号出土遺物



S I -026号 8



S I -026号 9



S I -026号 10



S I -026号 11



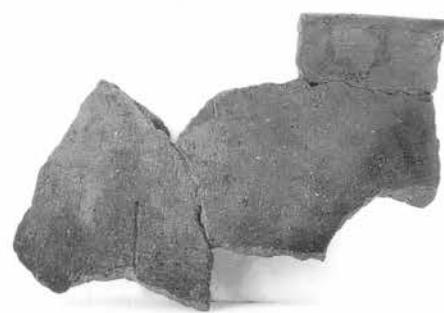
S I -026号 12



S I -026号 13



S I -026号 14



S I -026号 15



S I -026号 16

S I -026号出土遺物



S I -027号 1



S I -027号 2



S I -027号 3



S I -028号 1



S I -028号 2



S I -028号 3



S I -028号 4



S I -028号 5



S I -028号 6



S I -028号 7

S I -027号、S I -028号出土遺物



S I -029号 1



S I -029号 2



S I -029号 3



S I -029号 4



S I -029号 5



S I -029号 7



S I -029号 8



S I -029号 10



S I -029号 11



S I -029号 12

S I -029号出土遺物



S I -029号 13



S I -029号 14



S I -029号 15



S I -029号 23



S I -029号 25



S I -029号 26



S I -029号 27



S I -029号 28



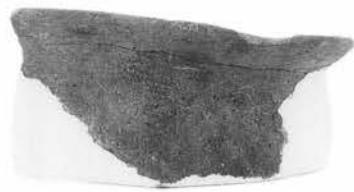
S I -029号 29



S I -029号 30



S I -029号 31



S I -029号 32



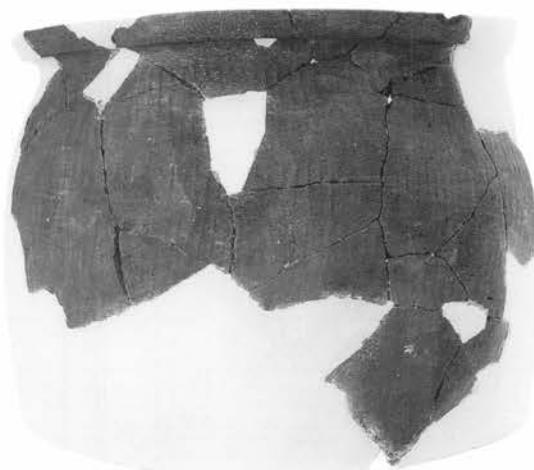
S I -029号 33



S I -029号 34



S I -029号 35



S I -029号 36



S I -029号 37



S I -029号 43

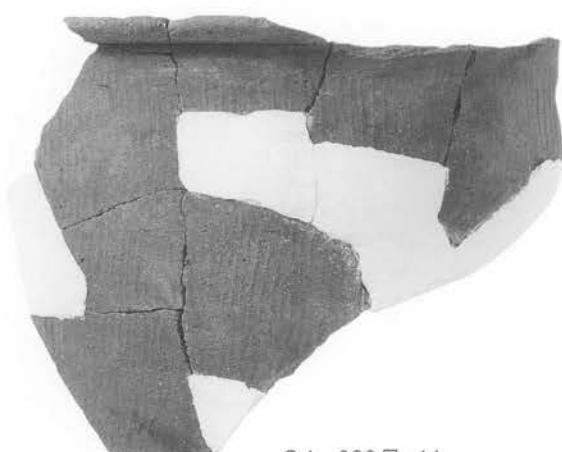
S I -029号出土遺物



S I -029号 41



S I -029号 45



S I -029号 44



S I -030号 4



S I -030号 2



S I -030号 3



S I -030号 1

S I -029号、S I -030号出土遺物



S I -030号 5



S I -030号 6



S I -030号 7



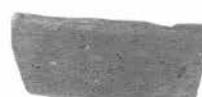
S I -030号 8



S I -030号 9



S I -030号 10



S I -031号 1



S I -031号 2



S I -031号 3

S I -030号、S I -031号出土遺物

図版60



SI-031号 4



SI-031号 5



SI-031号 6



SI-031号 7



SI-031号 8



SI-031号 9



SI-031号 10



SI-031号 11



SI-031号 12



SI-031号 13

SI-031号出土遺物



S I -032号 1



S I -032号 2



S I -032号 3



S I -032号 4



S I -032号 5



S I -032号 6



S I -032号 7



S I -032号 8



S I -032号 9

S I -032号出土遺物

図版62



SI -032号 10



SI -032号 11



SI -032号 12



SI -032号 13



SI -032号 14



SI -032号 15



SI -032号 16



SI -032号 17

SI -032号出土遺物



S I -033号 1



S I -033号 2



S I -033号 3



S I -033号 4



S I -033号 5



S I -033号 6



S I -033号 7



S I -034号 1



S I -034号 2



S I -034号 3

S I -033号、S I -034号出土遺物



S I -034号 4



S I -034号 5



S I -034号 6



S I -034号 7



S I -034号 8



S I -034号 9



S I -034号 10



S I -034号 11



S I -034号 12



S I -034号 13

S I -034号出土遗物



S I -033号 14



S I -033号 15



S I -033号 16



S I -033号 17



S I -033号 18



S I -033号 19



S I -033号 20



S I -034号 22



S I -034号 21

S I -034号出土遺物



S I -037号 1



S I -037号 2



S I -037号 3



S I -037号 4



S I -037号 5



S I -037号 6



S I -038号 1



S I -038号 2



S I -038号 3

S I -037号、S I -038号出土遺物



S I -035号 1



S I -035号 2



S I -035号 4



S I -035号 3



S I -035号 6



S I -035号 5



S I -035号 8



S I -035号 7



S I -035号 10



S I -035号 9



S I -035号 12



S I -035号 11

S I -035号出土遺物



SI -039号 1



SI -039号 2



SI -039号 3



SI -040号 1



SI -040号 2



SI -041号 1



SI -043号 1



SI -043号 2



SI -043号 3



SI -043号 4

SI -039号、SI -040号、SI -041号、SI -043号出土遺物



S I -044号 1



S I -044号 2



S I -044号 3



S I -044号 4



S I -044号 5



S I -044号 6



S I -044号 7



S I -044号 9



S I -044号 8

S I -044号出土遺物



SI-045号 1



SI-045号 2



SI-045号 3



SI-045号 4



SI-045号 5



SI-046号 1



SI-046号 2



SI-046号 3



SI-046号 4



SI-046号 5

SI-045号、SI-046号出土遺物



S I -046号 6



S I -046号 7



S I -046号 8



S I -046号 9



S I -046号 10



S I -046号 11



S I -046号 12



S I -046号 13



S I -046号 14



S I -046号 15

S I -046号出土遺物



S I -046号 16



S I -046号 17



S I -046号 19



S I -046号 20



S I -046号 21



S I -046号 22



S I -046号 23



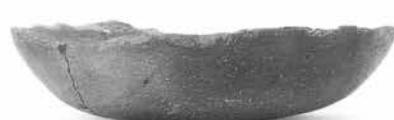
S I -046号 25



S I -046号 24

S I -046号 26

S I -046号出土遺物



SI-047号 1



SI-047号 2



SI-047号 3



SI-047号 4



SI-048号 1



SI-048号 2



SI-048号 3



SI-048号 4



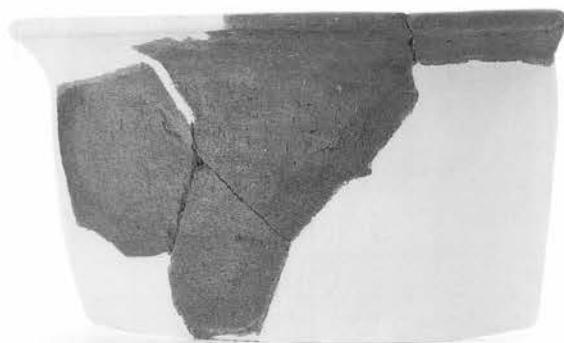
SI-048号 5



SI-048号 6



SI-048号 7



SI-048号 9



SI-048号 8

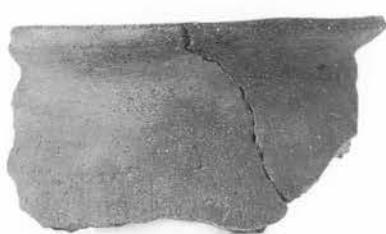
SI-047号、SI-048号出土遺物



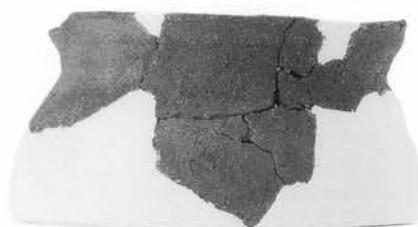
SI-049号 1



SI-049号 2



SI-049号 3



SI-049号 4



SI-049号 5



SI-049号 6



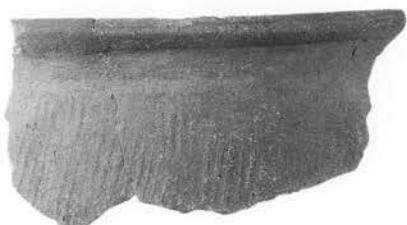
SI-049号 7



SI-049号 8



SI-049号 9



SI-049号 10

SI-049号出土遺物



SI-050号 1



SI-050号 2



SI-050号 3



SI-050号 4



SI-050号 5



SI-050号 6



SI-050号 7



SI-050号 8



SI-050号 9



SI-050号 10

SI-050号出土遺物



S I -050号 11



S I -050号 12



S I -050号 13



S I -050号 14



S I -050号 15



S I -050号 16



S I -050号 17



S I -050号 18



S I -050号 19



S I -050号 20

S I -050号出土遺物



SI-051号 1



SI-052号 1



SI-052号 2



SI-052号 3



SI-052号 4



SI-052号 5



SI-052号 6



SI-051号、SI-052号出土遺物  
SI-052号 8



SI-052号 7



SI-053(a)号 1



SI-053(a)号 2



SI-053(a)号 3



SI-053(a)号 4



SI-053(a)号 5



SI-053(a)号 7



SI-053(a)号 8



SI-053(a)号 9



SI-053(a)号 10



SI-053 (a) 号出土遺物 SI-053(a)号 11



SI-053(a)号 12



SI-053(a)号 13



SI-053(a)号 14



SI-053(a)号 15



SI-053(a)号 16



SI-053(a)号 17



SI-053(a)号 18



SI-053(a)号 19



SI-053(a)号 20



SI-053(a)号 21

SI-053 (a) 号出土遺物



SI-054号 1



SI-054号 2



SI-054号 3



SI-054号 5



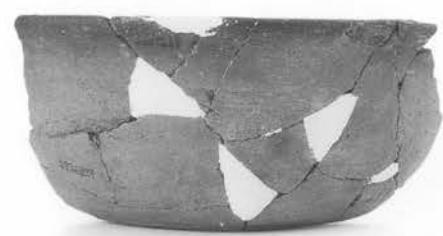
SI-054号 6



SI-054号 7



SI-055号 1



SI-055号 2



SI-055号 3

SI-054号、SI-055号出土遺物



S I -055号 4



S I -055号 5



S I -055号 6



S I -055号 7



S I -056号 1



S I -056号 2



S I -056号 3



S I -056号 4



S I -056号 5

S I -055号、S I -056号出土遺物



SI-057号 1



SI-057号 2



SI-057号 3



SI-057号 4



SI-057号 5



SI-057号 6



SI-057号 7



SI-057号 8

SI-057号出土遺物



SI-057号 9



SI-057号 10



SI-057号 11



SI-057号 12



SI-057号 14



SI-057号 13



SI-057号 15

SI-057号出土遺物



SI-057号 16



SI-057号 17



SI-057号 18



SI-057号 19



SI-057号 20



SI-057号 21



SI-058号 1



SI-058号 2



SI-058号 3

SI-057号、SI-058号出土遺物



1 SI -033号-0006



2 SI -005号-0016



3 SI -005号-0002



4 SI -010号-0067



5 SI -010号-0019



6 SI -057号-0033



7 SI -058号



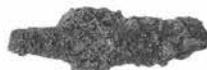
8 SI -015号-0034



9 SI -004号-0074



10 SI -013号-0006



11 SI -048号-0002



12 SI -004号-0074



13 SI -008号-0034



14 SI -004号-0161



15 SI -028号-0004



17 SI -045号-0001



16 SI -053号-0015



18 SI -021号-0050



19 SI -021号-0008



21 SI -033号-0006



22 SI -050号-0022(A)(B)



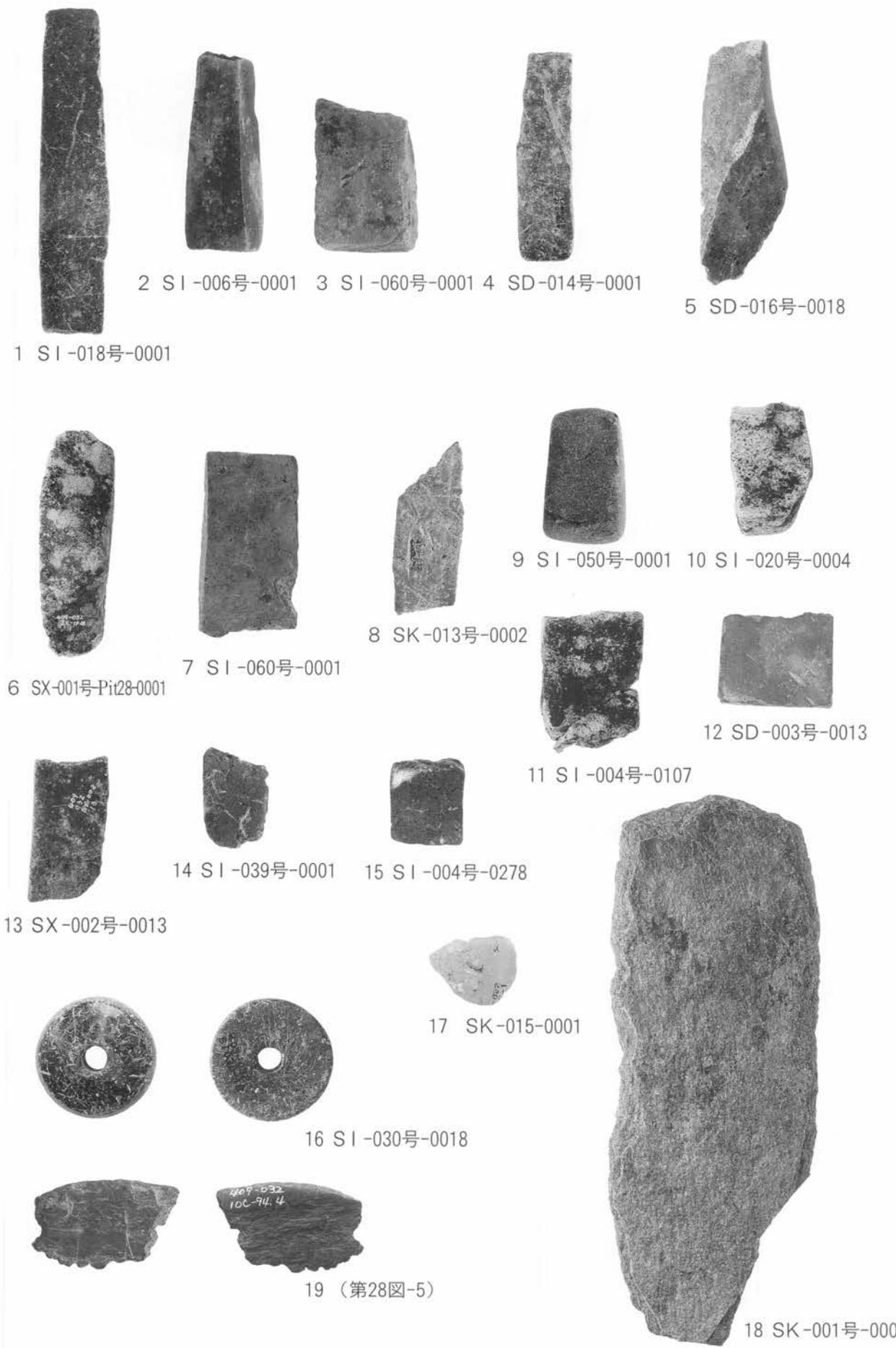
S I -019号-0016



20 SI -019号-0011

23 SD -003号-0003







1 SK-008号-0001



2 SK-008号-0001



8 SK-010号-0001



9 SK-014号-0001



3 SK-008号-0001



4 SK-008号-0001



5 SK-008号-0001

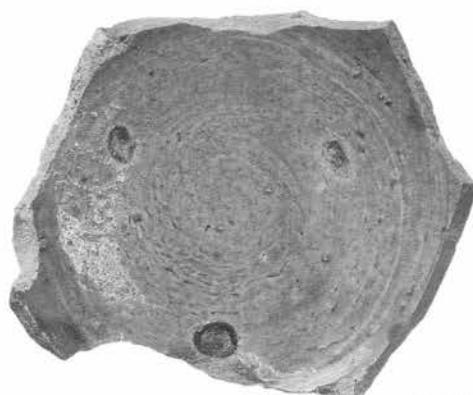


6 SK-008号-0001

土器（住居跡以外）



(第262図1)



(第262図4)



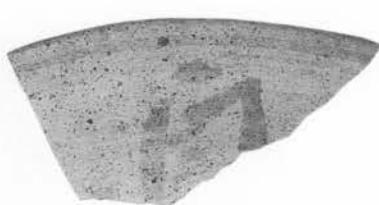
(第262図3)



1 SI-003号-2『大』



2 SI-004号-9『福』



3 SI-004号-82『?』



6 SI-004号-875『?』



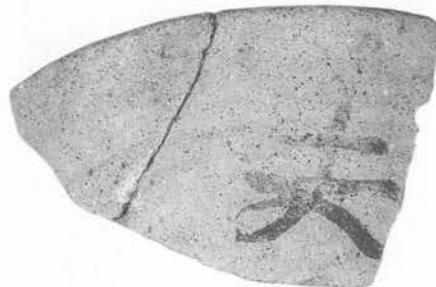
5 SI-004号-84『口』



7 SI-004号-86『万』

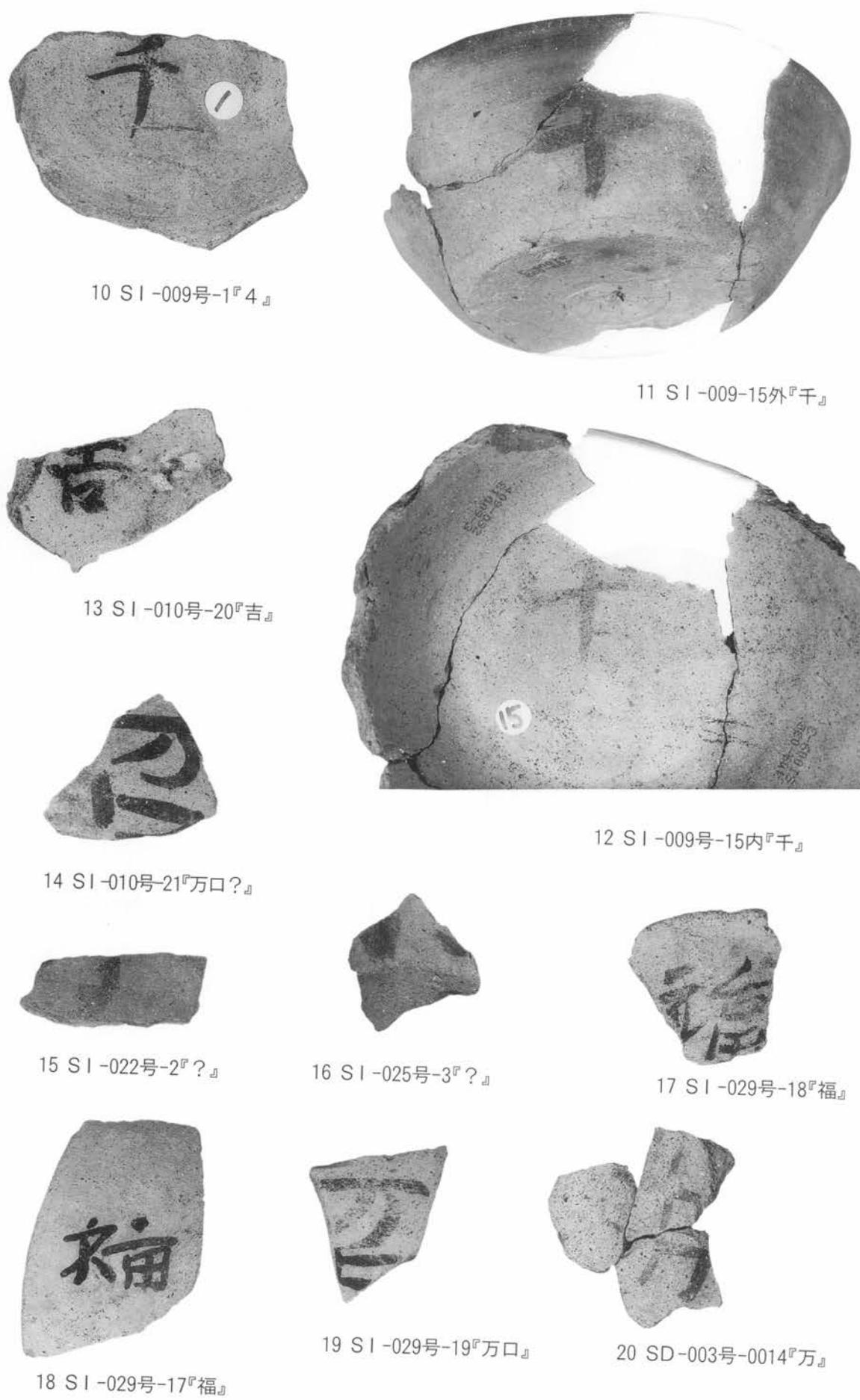


4 SI-004号-83『?』



8 SI-007-4『夫』

9 SI-004号-12『立野』





22 S I -029号-29『○原』



21 S I -029号-3『福』



23 S I -029号-25『?』

## 報告書抄録

ふりがな	しゅようちほうどうなりたまつおせん
書名	主要地方道成田松尾線XV
副書名	－芝山町・向台遺跡－
卷次	XV
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第427集
編著者名	西口徹
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL 043-422-8811
発行年月日	西暦2002年3月25日

所収遺跡名	所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東經			
向台	千葉県山武郡芝山町朝倉字向台113-1ほか	409	032	35度43分00秒	140度23分00秒	19960617～19961226	8,800	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
向台	包蔵地 包蔵地 集落 集落 集落	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	石器集中地点IV～V層2ヶ所 陥し穴 5基 住居跡 5軒 住居跡 54軒 掘立柱建物跡 2棟 掘立柱建物跡 2棟 台地整形区画1ヶ所、 堅穴状遺構5軒、火葬墓2基、井戸状遺構4基、地下式壙3基、炭窯4基、溝17条、土坑23基	ナイフ形石器、石核、トスクレイパー、縄文土器(中期) 土師器、須恵器、鉄器 土師器、須恵器、鉄器(馬具、紡錘車、鎌)、帶金具、墨書き 擂り鉢、陶磁器、飾り金具、土人形、輸入銭他銅錢	古墳時代後期～奈良・平安時代に至る集落に関する貴重な資料を提供している。

千葉県文化財センター調査報告第427集

主要地方道成田松尾線XV

－芝山町・向台遺跡－

---

平成14年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千 葉 県 土 木 部  
千葉市中央区市場町1番1号

財団法人 千葉県文化財センター  
四街道市鹿渡809-2

印 刷 三 陽 工 業 株 式 会 社  
千葉市中央区今井3-30-16  
大森エステートビル1F

---